寺田遺跡Ⅲ

大阪府埋蔵文化財調査報告二〇一二―二

大阪府教育委員会

大阪府埋蔵文化財調査報告2012－2

寺　田　遺　跡　Ⅲ

― 府営和泉寺田住宅第３期建て替えに伴う発掘調査 ―

大阪府教育委員会

寺　田　遺　跡　Ⅲ

― 府営和泉寺田住宅第３期建て替えに伴う発掘調査 ―

平成２５年３月

大阪府教育委員会

序　　文

本書は、平成 22 年度に実施した府営和泉寺田住宅第３期建て替え工事に伴う発掘調査の成果をまとめたものであり、シリーズの第３冊目に当ります。寺田遺跡は、平成 14 年度に発見された遺跡であり、平成 16 年度、平成 19・20 年度と調査を重ね、弥生時代から古墳時代にかけての大規模な集落跡が所在することが明らかにされてきました。

今回報告する調査は、古墳時代集落の中心から縁辺にかけての地域を対象としており、多量の遺物が出土したことに加え、その集落構造が概ね明らかとなりました。さらに下層の調査により、弥生時代後期以降の河川活動がこれらの景観を左右していることが判明したことも成果の一つです。これまで実施してきた３次の調査によって得られた知見には、鍛冶生産や周辺古墳との関連、渡来人の存在など、和泉地域の古墳時代あるいは大阪の古代史を考える上でも重要な要素が含まれております。

このような調査成果を府民の皆様へご紹介するために本書を刊行するとともに、都市化の進んだ大阪において、文化財の保護と住民生活との調和を図るべく努力してまいりますので、今後とも文化財保護行政に対するより一層のご理解・ご協力のほどお願い申し上げます。

最後に、発掘調査の実施から報告書の刊行にいたるまで、ご支援・ご協力いただきました関係各位や地元の方々に心から感謝いたします。

平成２５年３月

大阪府教育委員会事務局
文化財保護課長　荒井大作

例　言

１．本書は、大阪府教育委員会が大阪府住宅まちづくり部より依頼を受け、平成 22 年度に実施した、和泉市寺田町所在、寺田遺跡発掘調査（調査番号 10026）の報告書である。

２．発掘調査は、大阪府教育委員会事務局文化財保護課調査第二グループ課長補佐大野 薫の指揮の下、同副主査三好 玄が実施した。遺物整理は、平成 23 年度から平成 24 年度にかけて、調査管理グループ主査宮野淳一（平成 23 年度）、同藤永正明（平成 24 年度）、同三宅正浩、副主査藤田道子を担当として実施した。

３．本調査の写真測量は、大阪測量株式会社に委託した。撮影フィルムは、同社にて保管している。

４．本書に掲載した遺物写真の撮影は、有限会社阿南写真工房に委託した。

５．調査地で採取した各種資料について、下記の通り分析委託を実施し、その結果および考察を第６章に収録した。

・花粉・種実分析：パリノ・サーヴェイ株式会社

・鍛冶関連遺物（第１次調査出土）分析：株式会社九州テクノリサーチ

・滑石製品産地同定：有限会社遺物材料研究所

６．出土遺物および記録資料は、大阪府教育委員会で所蔵している。

７．本書の編集・執筆は三好が行った。

８．発掘調査、遺物整理および本書の作成に要した経費は、全額を大阪府住宅まちづくり部が負担した。

９．現地での発掘調査、遺物整理事業、および本書作成にあたっては、下記の機関および個人からび協力を得た。記して感謝いたします。（五十音順）

大阪歴史学会、和泉市教育委員会、韓式系土器研究会、古代学研究会、岸和田市教育委員会、一瀬和夫、大賀克彦、岡田 賢、北山峰生、中久保辰夫、東影 悠、廣瀬時習、真鍋成史、山岡邦章

10．本書は 300 部を作成し、１部あたりの単価は 2100 円である。

凡　　例

１．本書における調査地基本層序は、第〇層と表記する。それぞれの遺構埋土の地層名は、「第」をとって〇層と表記し、調査地層序と区別する。

一部の断面図は調査地基本層序番号および層相を表現した上段と遺構埋土地層番号を示した下段の２段組で表示した。

２．土色については、『新版　標準土色帖』（小山正忠・竹原秀雄 1999 年度版）に準拠した。

３．遺構名は、三桁の通し番号と遺構の種別名の組み合わせによって表記する。通し番号は、調査における検出の順に付したものであり、遺構の種類、時期ごとにまとまっていない。

４．本書における遺物番号はすべて１からの通し番号を付している。

５．本書で用いる座標値は、世界測地系に基づく。ただし、記述の都合上、文中の方位の表現は便宜的に第１および第２調査区の長軸を南北とみなしたものとする。

水準値は、T.P. 値（東京湾平均海面値）を用い、本文・挿図中では、TP ±〇ｍと表記する。

６．図示した土器実測図の断面は、基本的に須恵器を黒塗り、弥生土器・土師器を白抜きとし、古墳時代中期の須恵器・韓式系土器のうち焼成が軟質・瓦質風のものを浅い網掛けとする。

本　文　目　次

序文
例言
凡例

第１章　調査の経緯と経過……1
　第１節　調査地の位置……1
　第２節　調査にいたる経緯……3
　第３節　調査経過……4

第２章　基本層序……6

第３章　古代～中世……10
　第１節　遺構の分布……10
　第２節　古代～中世の遺構と遺物……10

第４章　古墳時代……13
　第１節　遺構の分布……13
　第２節　古墳時代の遺構および遺物……13
　　（１）竪穴建物　　（２）掘立柱建物
　　（３）溝　　（４）土坑
　　（５）落ち込み　　（６）流路
　　（７）包含層等出土遺物
　第３節　その他の遺物……74
　　（１）玉類　　（２）その他の石製品
　　（３）木製品

第５章　弥生時代中期～後期……82
　第１節　遺構の分布……82
　第２節　弥生時代後期の遺構と遺物……82
　第３節　弥生時代中期の遺構と遺物……94
　第４節　包含層等出土遺物……95

第６章　自然科学的分析 ……97
第１節　寺田遺跡発掘調査に伴う花粉・種実分析 ……97
（１）試料　（２）分析方法
（３）結果　（４）考察
（５）まとめ
第２節　寺田遺跡出土鍛冶関連遺物の金属学的調査 ……109
（１）調査概要　（２）いきさつ
（３）調査方法　（４）調査結果
（５）まとめ
第３節　寺田遺跡出土滑石・緑泥石片岩製玉類の産地分析 ……126
（１）はじめに　（２）非破壊での産地分析の方法と手段
（３）滑石・緑泥石片岩様製玉類の分析と分類　（４）結論

第７章　出土遺物の検討 ……162
第１節　弥生時代末～古墳時代前期の土器について ……162
第２節　古墳時代中期の土器について ……164
第３節　韓式系軟質土器およびその関連資料について ……166
第４節　玉類について ……168

第８章　総　括 ……172
第１節　地形環境と土地利用 ……172
第２節　寺田遺跡における集落の展開 ……175
（１）居住域の変遷
（２）手工業生産
（３）渡来人の存在
第３節　大津川流域における古墳時代の集落動態 ……178
第４節　寺田遺跡の歴史的性格 ……180

引用・参考文献 ……181
出土土器観察表 ……183

原色図版目次

1　古墳時代遺構面（一）
　上：第２調査区北半古墳時代遺構面（北側）
　下：第２調査区北半古墳時代遺構面（南側）
2　古墳時代遺構面（二）
　上：第２調査区南半古墳時代遺構面
　下：第３調査区古墳時代遺構面
3　弥生時代遺構面
　上：第２調査区北半弥生時代遺構面
　下：第３調査区弥生時代遺構面
4　古墳時代の遺構（一）
　上：第２調査区北半 538 掘立柱建物
　下：第３調査区 547 掘立柱建物
5　古墳時代の遺構（二）
　上：177 竪穴建物床面検出状況
　中：135 ピット断面
　下：181 井戸底面遺物出土状況
6　弥生時代の遺構（一）
　上：414 流路の堆積によって形成された微高地
　下：414 流路断面（第３調査区）
7　弥生時代の遺構（二）
　上:414 流路、534 流路および 533 流路断面（第２調査区断割り３）
　中：414 流路および 536 流路断面（第２調査区断割り５）
　下：414 流路断面（第２調査区断割り２）
8　出土遺物
　上：滑石製臼玉および未成品
　下左：滑石製管玉、双孔円盤、ガラス小玉および砥石
　下右：緑泥石片岩板材

図版目次

1　調査区断面（一）
　１段目：第１調査区北半北壁断面
　２段目：第１調査区北半西壁断面
　３段目：第１調査区北半西壁断面
　４段目：第１調査区南半西壁断面
　５段目：第１調査区南半東壁断面
2　調査区断面（二）
　１段目：第２調査区北半南壁断面
　２段目：第２調査区南半西壁断面
　３段目：第２調査区南半南壁断面
　４段目：第２調査区南半東壁断面
　５段目：第３調査区南壁断面
　６段目：第３調査区北壁断面
3　古墳時代の遺構　第一調査区（一）
　上：第１調査区北半
　下：第１調査区北半
4　古墳時代の遺構　第一調査区（二）
　上：第１調査区北半
　下：第１調査区南半
5　古墳時代の遺構　第二調査区（一）
　上：第２調査区北半
　下：第２調査区北半
6　古墳時代の遺構　第二調査区（二）・第三調査区
　上：第２調査区南半
　下：第３調査区
7　古墳時代の遺構　竪穴建物（一）
　上：177･147･145 竪穴建物床面検出状況
　下：177･147･145 竪穴建物底面検出状況
8　古墳時代の遺構　竪穴建物（二）
　上：145 竪穴建物東西断面
　中：145 竪穴建物遺物出土状況
　下：145 竪穴建物完掘状況
9　古墳時代の遺構　竪穴建物（三）
　上：177 竪穴建物床面検出状況
　中：177 竪穴建物断面
　下：177 竪穴建物炭検出状況
10　古墳時代の遺構　竪穴建物（四）
　上：177 竪穴建物床面土器出土状況
　中：177 竪穴建物床面除去状況
　下：177 竪穴建物完掘状況
11　古墳時代の遺構　竪穴建物（五）
　上： 047･418 竪穴建物全景
　中：047 竪穴建物検出状況
　下：047 竪穴建物周壁溝検出状況
12　古墳時代の遺構　竪穴建物（六）
　上： 418 竪穴建物全景

中：418 竪穴建物遺物出土状況
下左：123 ピット断面
下右：424 ピット断面
13　古墳時代の遺構　掘立柱建物（一）
１段目： 545･546 掘立柱建物全景
２段目左：003 ピット断面
２段目右：008 ピット断面
３段目左：012 ピット断面
３段目右：013 ピット断面
４段目左：005 ピット断面
４段目右：010 ピット断面
14　古墳時代の遺構　掘立柱建物（二）
１段目： 538 掘立柱建物全景
２段目左：131 ピット断面
２段目右：131 ピット礎板検出状況
３段目左：128 ピット断面
３段目右：128 ピット礎板検出状況
４段目左：132 ピット断面
４段目右：132 ピット礎板検出状況
15　古墳時代の遺構　掘立柱建物（三）
１段目左：230 ピット断面
１段目右：233 ピット断面
２段目左：232 ピット断面
２段目右：231 ピット断面
３段目左：234 ピット断面
３段目右：136 ピット断面
４段目：135 ピット断面
16　古墳時代の遺構　掘立柱建物（四）
１段目： 539 掘立柱建物全景
２段目左：117 ピット断面
２段目右：108 ピット断面
３段目左：110 ピット断面
３段目右：107 ピット断面
４段目左：105 ピット断面
４段目右：104 ピット断面
17　古墳時代の遺構　掘立柱建物（五）
上：542 掘立柱建物全景
中：171･172 土坑断面
下：543 掘立柱建物全景
18　古墳時代の遺構　掘立柱建物（六）
１段目： 548 掘立柱建物全景
２段目左：504 ピット断面
２段目左：501 ピット断面
３段目左：496 ピット断面
３段目右：499 ピット断面
４段目左：494 ピット断面
４段目右：493 ピット断面
19　古墳時代の遺構　掘立柱建物（七）
１段目： 547 掘立柱建物全景
２段目左：277 ピット断面
２段目右：276 ピット断面
３段目左：272 ピット断面
３段目右：278 ピット断面
４段目左：284 ピット断面
４段目右：273 ピット断面
20　古墳時代の遺構　掘立柱建物（八）
１段目左：279 ピット断面
１段目右：286 ピット断面
２段目左：425 ピット断面
２段目右：274 ピット断面
３段目左：281 ピット断面
３段目右：282 ピット断面
４段目左：275 ピット断面
４段目右：365 ピット断面
21　古墳時代の遺構　溝（一）
上：018 溝
下：018 溝
22　古墳時代の遺構　溝（二）
上：018 溝検出状況
中：018 溝遺物出土状況
下：018 溝遺物出土状況
23　古墳時代の遺構　溝（三）
上：018 溝断面
下：018 溝完掘状況
24　古墳時代の遺構　溝（四）
上：179･180･193 溝全景
中：179 溝断面
下左：180 溝断面（調査区東壁）
下右：193 溝断面（調査区東壁）
25　古墳時代の遺構　溝（五）
上左：149 溝断面（第２調査区北半）
上右：同（第２調査区南半）
中左：460 溝断面
中右：468 溝断面
下左：469 溝断面
下右：470 溝断面
26　古墳時代の遺構　溝（六）
上：482 溝全景
中：482 溝東西断面
下：482 溝南北断面
27　古墳時代の遺構　溝（七）
上：491 溝全景

中：491 溝断面
下：492 溝断面
28　古墳時代の遺構　井戸（一）
上：399 井戸断面
中：399 井戸完掘状況
下：410 井戸断面
29　古墳時代の遺構　井戸（二）
上：410 井戸遺物出土状況
中：同上
下：410 井戸完掘状況
30　古墳時代の遺構　井戸（三）
上：181 井戸断面
中：181 井戸遺物出土状況
下：181 井戸完掘状況
31　古墳時代の遺構　土坑（一）
上：295 土坑検出状況
中：295 土坑全景
下：295 土坑南北断面
32　古墳時代の遺構　土坑（二）
上：295 土坑東西断面
中：295 土坑遺物出土状況
下：295 土坑完掘状況
33　古墳時代の遺構　土坑（三）
上：054 土坑断面
中：054 土坑完掘状況
下：057 土坑断面
34　古墳時代の遺構　落ち込み（一）
上：146 落ち込み全景
中：146 落ち込み土器出土状況
下：146 落ち込み断面
35　古墳時代の遺構　落ち込み（二）
上：453 落ち込み断面
中：465 落ち込み断面
下：466 落ち込み断面
36　古墳時代の遺構　流路（一）
上：016 流路断面第１調査区北半調査区西壁
中：016 流路断面第１調査区北半中央南北断割り
下：016 流路断面第１調査区北半調査区南壁
37　古墳時代の遺構　流路（二）
上：016 流路断面第１調査区北半調査区東壁
中：016 流路断面第１調査区南半調査区西壁
下：016 流路断面第１調査区南半調査区東壁
38　古墳時代の遺構　流路（三）
上：016 流路遺物出土状況第１調査区南半
中：016 流路第２調査区北半
下：016 流路第２調査区北半
39　古墳時代の遺構　流路（四）
上：017 流路全景
中：017 流路断面１
下：017 流路断面２
40　弥生時代の遺構
上：第２面（弥生時代遺構面）全景
下：第２面（弥生時代遺構面）全景
41　弥生時代の遺構　流路（一）
上：414 流路第３調査区全景
下：414 流路第３調査区全景
42　弥生時代の遺構　流路（二）
上：523・414 流路第３調査区北壁断面
中：414 流路第３調査区北壁断面
下：523 流路第３調査区西壁断面
43　弥生時代の遺構　流路（三）
上：414 流路第２調査区北半断割２断面１
下：414 流路第２調査区北半断割２断面２
44　弥生時代の遺構　流路（四）
上：414 流路第２調査区北半断割２断面３
中：414 流路第２調査区北半断割２断面４
下：414 流路第２調査区北半断割２断面５
45　弥生時代の遺構　流路（五）
上：414 流路第２調査区北半断割６断面１
中：414 流路第２調査区北半断割６断面２
下：414 流路第２調査区北半断割６断面３
46　弥生時代の遺構　流路（六）
１段目：414 流路第２調査区北半断割３断面
２段目：529 流路第２調査区北半断割１断面
３段目：533 流路第２調査区北半断割２断面１
４段目：533 流路第２調査区北半断割２断面２
５段目：533 流路第２調査区北半断割２断面３
47　弥生時代の遺構　流路（七）
上：536 流路検出状況
中：536 流路第２調査区北半断割３断面
下：寺田遺跡から望む岸和田市摩湯山古墳
48　竪穴建物出土土器（一）
145 竪穴建物出土土器
177 竪穴建物出土土器
49　竪穴建物出土土器（二）・ピット・土坑出土土器
047 竪穴建物（045 ピット）出土土器
047 竪穴建物（037 ピット）出土土器
047 竪穴建物（440 ピット）出土土器
195 ピット出土土器
418 竪穴建物出土土器
295 土坑出土土器
50　掘立柱建物・井戸出土土器等

538 掘立柱建物（131 ピット）出土土器類
181 井戸出土土器
51　井戸出土土器
410 井戸出土土器
52　溝出土土器（一）
018 溝出土土器
53　溝出土土器（二）
179 溝出土土器
54　落ち込み出土土器（一）
146 落ち込み出土土器
55　落ち込み出土土器（二）・流路出土土器（一）
146 落ち込み出土土器
089 落ち込み出土土器
130 落ち込み出土土器
016 流路上層出土土器
56　流路出土土器（二）
016 流路上層出土土器
57　流路出土土器（三）
016 流路上層出土土器
58　流路出土土器（四）
016 流路下層出土土器
59　流路出土土器（五）
016 流路下層出土土器
60　流路出土土器（六）
414 流路出土土器
61　流路出土土器（七）
414 流路出土土器
529 流路出土土器
536 流路出土土器
62　流路出土土器（八）・包含層等出土土器（一）
533 流路出土土器
第３層下半出土土器
63　包含層等出土土器（二）
包含層出土土器
64　包含層等出土土器（三）
包含層出土土器
撹乱排水溝出土土器

挿　図　目　次

図 1　寺田遺跡の位置と周辺の遺跡 ……2
図 2　今回の調査区と既往の調査 ……4
図 3　寺田遺跡第３次調査基本層序模式図 ……7
図 4　古代～中世の遺構 ……10・11
図 5　古代～中世の遺構出土遺物 ……12
図 6　第１面（古墳時代）の遺構 ……15・16
図 7　145･147･148･177 竪穴建物平面（床面）図および断面図 ……17
図 8　145･147･148･177 竪穴建物平面（底面）図および断面図 ……18
図 9　竪穴建物出土遺物 ……19
図 10　047 竪穴建物平面図および断面図 ……20
図 11　418 竪穴建物平面図および断面図 ……21
図 12　掘立柱建物およびピット出土遺物 ……22
図 13　545･546 掘立柱建物平面図および断面図 ……23
図 14　538 掘立柱建物平面図および断面図 ……24
図 15　539 掘立柱建物平面図および断面図 ……25
図 16　542･543 掘立柱建物平面図および断面図 ……26
図 17　548 掘立柱建物平面図および断面図 ……27
図 18　547 掘立柱建物平面図および断面図 ……28
図 19　540･541 掘立柱建物平面図および断面図 ……29
図 20　552 ピット群平面図および断面図 ……30
図 21　018 溝平面図および断面図 ……31
図 22　018 溝出土遺物 ……32
図 23　149･179･180･193 溝平面図および断面図 ……34
図 24　179･180･193 溝地区別遺物出土量 ……35
図 25　179･180･193 溝出土遺物 ……36
図 26　179 溝出土遺物２ ……37
図 27　149 溝出土遺物 ……38
図 28　470･482･491･492 溝出土遺物 ……38
図 29　460･468･470･482･492 溝平面図および断面図 ……39
図 30　340 溝平面図および断面図 ……41
図 31　399 井戸出土遺物 ……41
図 32　399･414･181 井戸平面図および断面図 ……42
図 33　410 井戸出土遺物 ……43
図 34　181 井戸出土遺物 ……44
図 35　295 土坑平面図および断面図 ……45
図 36　054･057 土坑平面図および断面図 ……46
図 37　土坑出土遺物 ……46
図 38　146 落ち込み平面図、断面図および地区別遺物出土量 ……48
図 39　146 落ち込み出土遺物１ ……49
図 40　146 落ち込み出土遺物２ ……50
図 41　146 落ち込み出土遺物３ ……51
図 42　146 落ち込み出土遺物４ ……52

図 43　089 落ち込み平面図および断面図 ……53
図 44　その他の落ち込み出土遺物１ ……53
図 45　445･452･453･454･464･465･466･475 落ち込み平面図および断面図 ……54
図 46　その他の落ち込み出土遺物２ ……55
図 47　その他の落ち込み出土遺物３ ……55
図 48　第１調査区（016 流路）平面図 ……56
図 49　第１調査区東壁（016 流路）断面図 ……57
図 50　016 流路地区別遺物出土量 ……58
図 51　016 流路上層出土遺物１ ……59
図 52　016 流路上層出土遺物２ ……61
図 53　016 流路上層出土遺物３ ……62
図 54　016 流路上層出土遺物４ ……63
図 55　016 流路上層出土遺物５ ……64
図 56　016 流路下層出土遺物１ ……66
図 57　016 流路下層出土遺物２ ……67
図 58　016 流路下層出土遺物３ ……68
図 59　016 流路下層出土遺物４ ……69
図 60　017 流路平面図および断面図 ……70
図 61　第３層出土遺物 ……71
図 62　撹乱内出土遺物 ……72
図 63　包含層等出土遺物１ ……72
図 64　包含層等出土遺物２ ……73
図 65　包含層等出土遺物３ ……73
図 66　出土玉類１ ……75
図 67　出土玉類２ ……76
図 68　出土石製品 ……80
図 69　出土木製品 ……81
図 70　第２面（弥生時代中期～後期）の遺構 …83・84
図 71　第１～３調査区北壁および第２調査区西壁断面図 ……85・86
図 72　断割り２断面図 ……87
図 73　断割り１断面図 ……88
図 74　断割り４・５断面図 ……88
図 75　断割り３断面図 ……89
図 76　断割り６断面図 ……89
図 77　414 流路出土遺物１ ……91
図 78　414 流路出土遺物２ ……92
図 79　414 流路出土遺物３ ……93
図 80　その他の流路出土遺物 ……94
図 81　包含層等出土遺物１ ……95
図 82　包含層等出土遺物２ ……96
図 83　調査地点の位置 ……97
図 84　調査地点の層序および分析層準 ……99
図 85　花粉化石群集の層位分布 ……101
図 86　花粉分析 ……107
図 87　種実遺体 ……108
図 88　寺田遺跡鍛冶工程模式図 ……115
図 89　顕微鏡組織１ ……118
図 90　顕微鏡組織２ ……119
図 91　顕微鏡組織３ ……120
図 92　顕微鏡組織４ ……121
図 93　顕微鏡組織５ ……122
図 94　顕微鏡組織６ ……123
図 95　顕微鏡組織７ ……124
図 96　鋳造鉄斧（257）の顕微鏡組織 ……125
図 97　寺田遺跡出土玉類の蛍光Ｘ線ｽﾍﾟｸﾄﾙ 1……143
図 98　寺田遺跡出土玉類の蛍光Ｘ線ｽﾍﾟｸﾄﾙ 2……144
図 99　寺田遺跡出土玉類の蛍光Ｘ線ｽﾍﾟｸﾄﾙ 3……145
図 100 寺田遺跡出土玉類の蛍光Ｘ線ｽﾍﾟｸﾄﾙ 4……146
図 101 寺田遺跡出土玉類の蛍光Ｘ線ｽﾍﾟｸﾄﾙ 5……147
図 102 寺田遺跡出土玉類の蛍光Ｘ線ｽﾍﾟｸﾄﾙ 6……148
図 103 寺田遺跡出土玉類の蛍光Ｘ線ｽﾍﾟｸﾄﾙ 7……149
図 104 寺田遺跡出土玉類の蛍光Ｘ線ｽﾍﾟｸﾄﾙ 8……150
図 105 寺田遺跡出土玉類の蛍光Ｘ線ｽﾍﾟｸﾄﾙ 9……151
図 106 寺田遺跡出土玉類の蛍光Ｘ線ｽﾍﾟｸﾄﾙ 10……152
図 107 寺田遺跡出土玉類の蛍光Ｘ線ｽﾍﾟｸﾄﾙ 11……153
図 108 寺田遺跡出土玉類の蛍光Ｘ線ｽﾍﾟｸﾄﾙ 12……154
図 109 寺田遺跡出土玉類の蛍光Ｘ線ｽﾍﾟｸﾄﾙ 13……155
図 110 寺田遺跡出土玉類の蛍光Ｘ線ｽﾍﾟｸﾄﾙ 14……156
図 111 昼飯大塚古墳出土滑石、緑泥石片岩製玉類の代表的な ESR ｽﾍﾟｸﾄﾙ ……157
図 112 産地別滑石・片岩原石の代表的なＥＳＲｽﾍﾟｸﾄﾙ１ ……157
図 113 産地別滑石・片岩原石の代表的なＥＳＲｽﾍﾟｸﾄﾙ２ ……158
図 114 寺田遺跡出土玉類のＥＳＲｽﾍﾟｸﾄﾙ１ ……159
図 115 寺田遺跡出土玉類のＥＳＲｽﾍﾟｸﾄﾙ２ ……160
図 116 寺田遺跡出土玉類のＥＳＲｽﾍﾟｸﾄﾙ３ ……161
図 117 第３次調査出土韓式系土器および関連遺物 ……166
図 118 寺田遺跡第１次調査出土韓式系土器および関連遺物（既報告）……167
図 119 寺田遺跡第１次調査出土韓式系土器および関連遺物（新規報告）……167
図 120 寺田遺跡第１次調査竪穴建物 1511 出土馬歯 ‥168
図 121 出土遺構による比較 ……169
図 122 臼玉の径 ……169
図 123 径と色調 ……169
図 124 径と厚さ ……169
図 125 径と孔径 ……169
図 126 厚さと孔径 ……170

図 127 径と孔径（グループ別）……170
図 128 径と穿孔位置のずれ……171
図 129 寺田遺跡における遺構の変遷……176
図 130 大津川流域における居住域の動態……179

表　目　次

表 1　寺田遺跡第３次調査基本層序……6
表 2　寺田遺跡第３次調査検出掘立柱建物等一覧‥29
表 3　寺田遺跡出土玉類観察表……77 ～ 79
表 4　花粉分析結果……98
表 5　大型植物化石分析結果……102
表 6　供試材の履歴と調査項目……117
表 7　供試材の組成……117
表 8　出土遺物の調査結果のまとめ……117
表 9　寺田遺跡出土滑石・片岩製玉類の元素比と比重……132 ～ 134
表 10　各産地における滑石、片岩原石群及び遺物群の元素比の平均値と標準偏差値……135・136
表 11　寺田遺跡出土滑石・片岩製玉類の産地分析結果……137 ～ 139
表 12　寺田遺跡出土玉類 169 個の各群一致頻度‥139
表 13　昼飯大塚古墳出土滑石、緑泥石片岩様玉類の昼飯大塚１、２遺物群と昼飯大塚Ａ、Ｂ、Ｃ遺物群による分類結果……140・141
表 14　秋月遺跡出土玉類の産地分析結果……142
表 15　出土土器組成比較……164
表 16　出土玉類の分類……168
表 17　色調とその他の属性の相関性……170
表 18　グループと産地分析の結果……171
表 19　寺田遺跡出土土器観察表……183 ～ 209
表 20　寺田遺跡出土土器（古墳時代中期）集計表……210

第１章　調査の経緯と経過

第１節　調査地の位置

寺田遺跡は、南東から北西へ細長くのびる和泉市域の中央付近にあたる和泉市寺田町に所在する。主軸を北東から南西にむけた長辺約 250m、短辺約 100m の範囲に広がる周知の埋蔵文化財包蔵地である（図１）。

周辺の地形　和泉市域は南東から北西へ向かって標高が低くなる地勢にあり、それは和泉山脈、大阪層群からなる丘陵地、段丘、海岸付近の沖積地へといたる地形の変化を示すものである。これらの地域を流れるいくつかの河川が上流部では丘陵を浸食して谷を形成し、下流では沖積平野の堆積を進行させてきた。

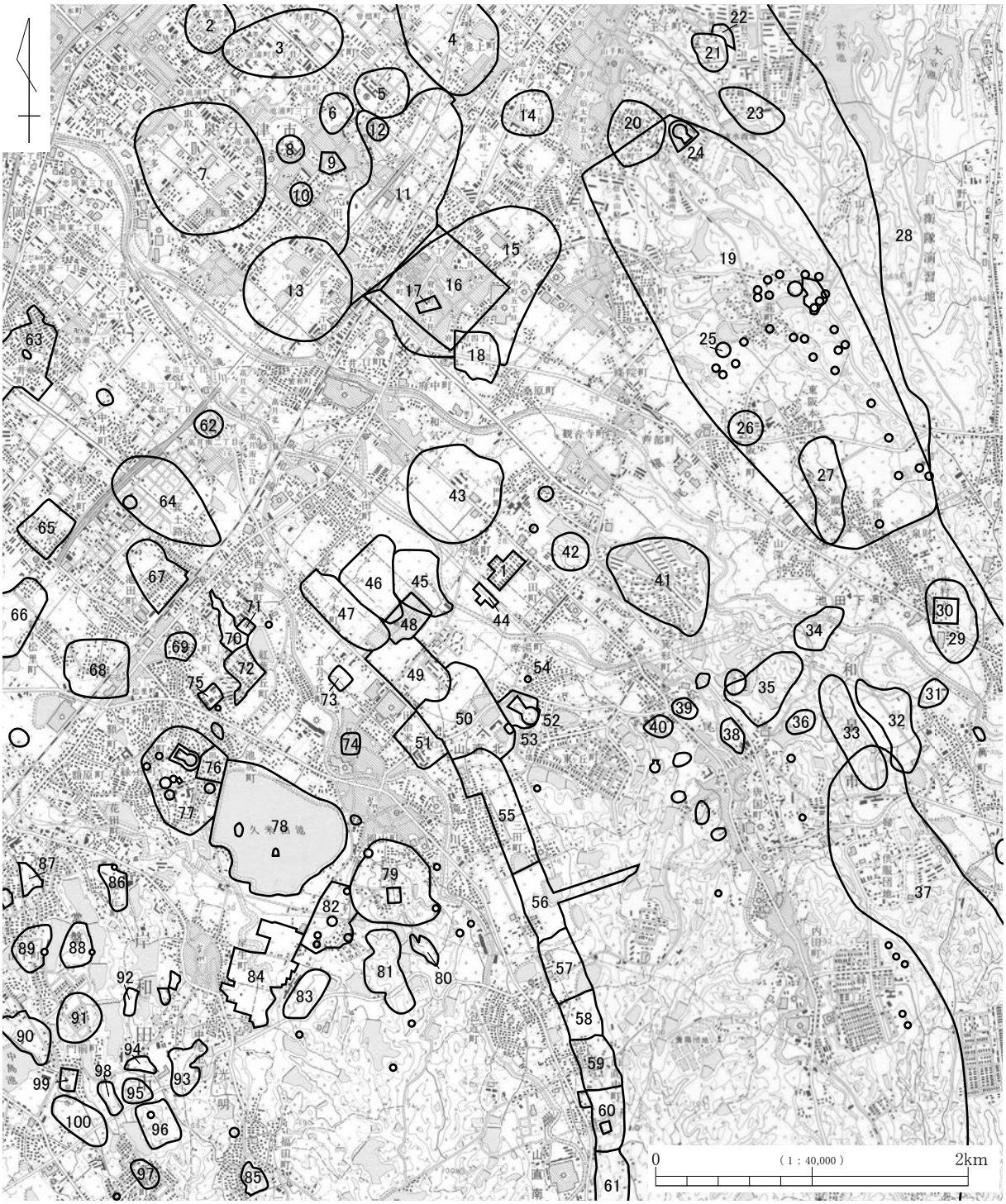
和泉市寺田町は松尾谷の入り口付近に位置する。この谷を形成したのは、下流で牛滝川、槇尾川と合流し、大津川と名前を変えて大阪湾にそそぐ、松尾川である。

遺跡の立地　寺田遺跡は、松尾川右岸の低位段丘上に位置し、標高は 27 ～ 28m を測る。現地表面は、東から西へとゆるやかに下降しており、南西側を流れる松尾川との間には明瞭な段丘崖が形成されている。この段丘面は、「池上面」と呼ばれ（古田 1990）、段丘礫層の上に比較的新しい時代の堆積層が認められることなどから、その性格は段丘化した扇状地であるとされる。寺田遺跡の南西側段丘崖下の摩湯北遺跡の調査においても、段丘崖下面には中世以降の遺構のみが検出されており、後述する今回の発掘調査成果を併せて考えてみても、松尾川の川床が低下し、この地域が離水したのは古代以降のことであると考えられる。したがって弥生時代から古墳時代にかけて周辺では、流路が氾濫・移動を繰り返し、それに伴って形成された自然堤防や後背低地を居住域や生産域として利用した人の営みもまた、微地形変化に適応するため移動をくりかえしたものと思われる。

遺跡周辺は、現在では住宅地化が進んでおり、寺田遺跡自体も府営住宅の敷地をその範囲とするものであるが、第２次大戦後にこれらの開発が始まるまでは点在する集落とその周辺の広い耕作地からなる景観が広がっていた。

周辺の遺跡　周辺の遺跡については、『寺田遺跡』Ⅱにおいて概観されているところであり、ここでは寺田遺跡にとくに関わりの深い事項についてふれておきたい。

弥生時代前期、大津川流域では海岸部近くに小規模な居住域が形成される。弥生時代中期に至ると集落数は増加し、その中には和泉市・泉大津市池上曽根遺跡のような大規模化したものが含まれており、寺田遺跡周辺でも北西側に位置する和泉市和気遺跡で集落および生産域が検出されている。弥生時代後期前葉には、池上曽根遺跡も縮小し、全体的に遺跡が希薄となる中、寺田遺跡の東側丘陵上の和泉市観音寺山遺跡においては大規模な居住域が形成される。



１寺田遺跡　２東雲遺跡　３池浦遺跡　４池上曽根遺跡　５七ノ坪遺跡　６穴師遺跡　７虫取遺跡　８穴師小学校校庭遺跡　９苅田城跡　10 穴田遺跡　11 豊中遺跡　12 大福寺跡　13 板原遺跡　14 伯太北遺跡　15 府中遺跡　16 和泉国府跡　17 国府城跡　18 和泉寺跡　19 信太千塚古墳群　20 伯太藩陣屋跡　21 聖神社遺跡　22 信太の森の鏡池　23 惣ヶ池遺跡 24 丸笠山古墳　25 信太千塚 62 号墳　26 坂本寺跡　27 願成遺跡　28 陶邑窯跡群　29 池田寺遺跡　30 池田寺跡　31 和泉丘陵 A105 地点遺跡　32 万町北遺跡　33　和泉向代古墳群　34 池田下遺跡　35 唐国池田山古墳群　36 ウトジ池古墳群　37 陶邑窯跡群　38 和泉丘陵 A81 地点遺跡　39 和泉丘陵 A1 地点遺跡　40 和泉丘陵 A8 地点遺跡　41 観音寺山遺跡　42 寺門古墳群　43 和気遺跡　44 摩湯北遺跡　45 軽部池遺跡　46 小田遺跡　47 軽部池西遺跡　48 軽部池　49 山ノ内遺跡　50 山直北遺跡　51 田治米宮内遺跡　52 摩湯山古墳　53 馬子塚古墳　54 イナリ古墳　55 三田遺跡　56 上フジ遺跡　57 二俣池北遺跡　58 水込遺跡　59 黒石遺跡　60 山直中遺跡　61 芝ノ垣外遺跡　62 高月寺跡　63 吉井遺跡　64 箕土路遺跡　65 荒木土塁跡　66 栄の池遺跡　67 下池田遺跡　68 小松里廃寺　69 八木城跡　70 金池西遺跡　71 大路城跡　72 大町遺跡　73 今木城跡　74 田治米廃寺　75 田鶴羽遺跡　76 久米田寺跡　77 久米田古墳群　78 久米田池　79 岡山遺跡　80 三田墓地　81 どぞく遺跡　82 重ノ原古墳群　83 赤山古墳群　84 尾生遺跡　85 福田城跡　86 狐塚遺跡　87 上松三昧遺跡　88 上松遺跡　89 合池遺跡　90 板屋遺跡　91 上松中尾遺跡　92 唐池遺跡　93 琴山遺跡　94 尾崎遺跡　95 児子池東遺跡　96 荒子遺跡　97 三本松下遺跡　98 仏谷尾遺跡　99 泉光寺　100 壺山遺跡

図１　寺田遺跡の位置と周辺の遺跡

後期後葉以降には、流域の下流を中心に再び小規模な居住域の散在が認められるようになる。和気遺跡においても庄内式期から古墳時代前期にかけての小規模な居住域が複数調査されており、前期末～中期初頭には寺田遺跡第１次調査において小規模ながら鍛冶を伴う居住域が検出されている。これとほぼ時期を同じくして、松尾川の対岸南側約１㎞には、墳長約 200m の前方後円墳である岸和田市摩湯山古墳が築造されている。

古墳時代中期に至ると和泉市府中遺跡、岸和田市田治米宮内遺跡など大規模な集落が出現しており、寺田遺跡もこれらと同様に古墳時代中期に最盛期を迎える大規模集落と評価できる。またこれらの遺跡のいずれにおいても韓式系土器の出土が知られる点に注目しておきたい。その一方で周辺の古墳は、前期のそれに対して規模が著しく小さくなるとともに、規模と墳形の相関関係は百舌鳥古墳群内部の序列に位置づけても矛盾ないものとなっており、本地域の古墳築造に対しても政権の影響が及んでいたことが窺われる。

古墳時代後期には、大津川の上流に位置する陶邑窯跡群谷山池支群の操業が開始される。また集落としても岸和田市三田遺跡、同市上フジ遺跡、和泉市万町北遺跡などあらたな大規模居住域がそれまで顕著な遺跡の少なかった谷奥に出現する。また群集墳がさかんに築造されることも重要で、その中でも集落に伴う比較的小規模なもの（和泉市和泉向代古墳群、岸和田市三田遺跡など）と信太山丘陵に営まれた大規模なもの（和泉市信太千塚古墳群）との違いがある点に注意しておきたい。

古代には、寺田遺跡の北約２㎞に和泉国府が営まれ、和泉国の政治的中心としての役割を果たすこととなる。さらに寺田遺跡の丘陵をはさんだ北側を流れる槇尾川流域には安楽寺、池田寺、坂本寺、和泉寺といった多数の古代寺院が集中することが知られ、和泉市池田寺遺跡では豪族の居宅および灌漑水路が検出されている。このような水路に加えて詳細は不明ながら久米田池や軽部池などのようなため池を含む灌漑施設が整備されたことによって和泉郡の広い範囲に条里地割の施行が可能となったと考えられ、７世紀にはこれに伴う集落再編が顕著となる。

第２節　調査にいたる経緯

和泉市寺田町に所在する府営和泉寺田住宅建て替え計画に先立ち、埋蔵文化財の遺存状況を確認するため、大阪府教育委員会が平成 14 年９月９日から９月 11 日に工事対象区域において試掘調査を行った。住宅敷地内は、周知の埋蔵文化財包蔵地外に当たっていたが、調査の結果、５箇所の試掘箇所のうち４箇所において古墳時代から中世の遺物包含層および溝などを検出した。この試掘調査結果に基づき、和泉市教育委員会と協議の上、本住宅敷地内について、埋蔵文化財包蔵地寺田遺跡としてあらたに周知を図ることとした。その後、第１期から第３期にわたる建て替え事業に伴い、順次発掘調査が実施されることとなった。

第１次調査　第１期住棟建設予定地および道路拡張部分など、敷地の北東部分を中心とした範囲について、平成 16 年８月９日から平成 17 年３月 25 日にかけて発掘調査を実施し、古墳時代

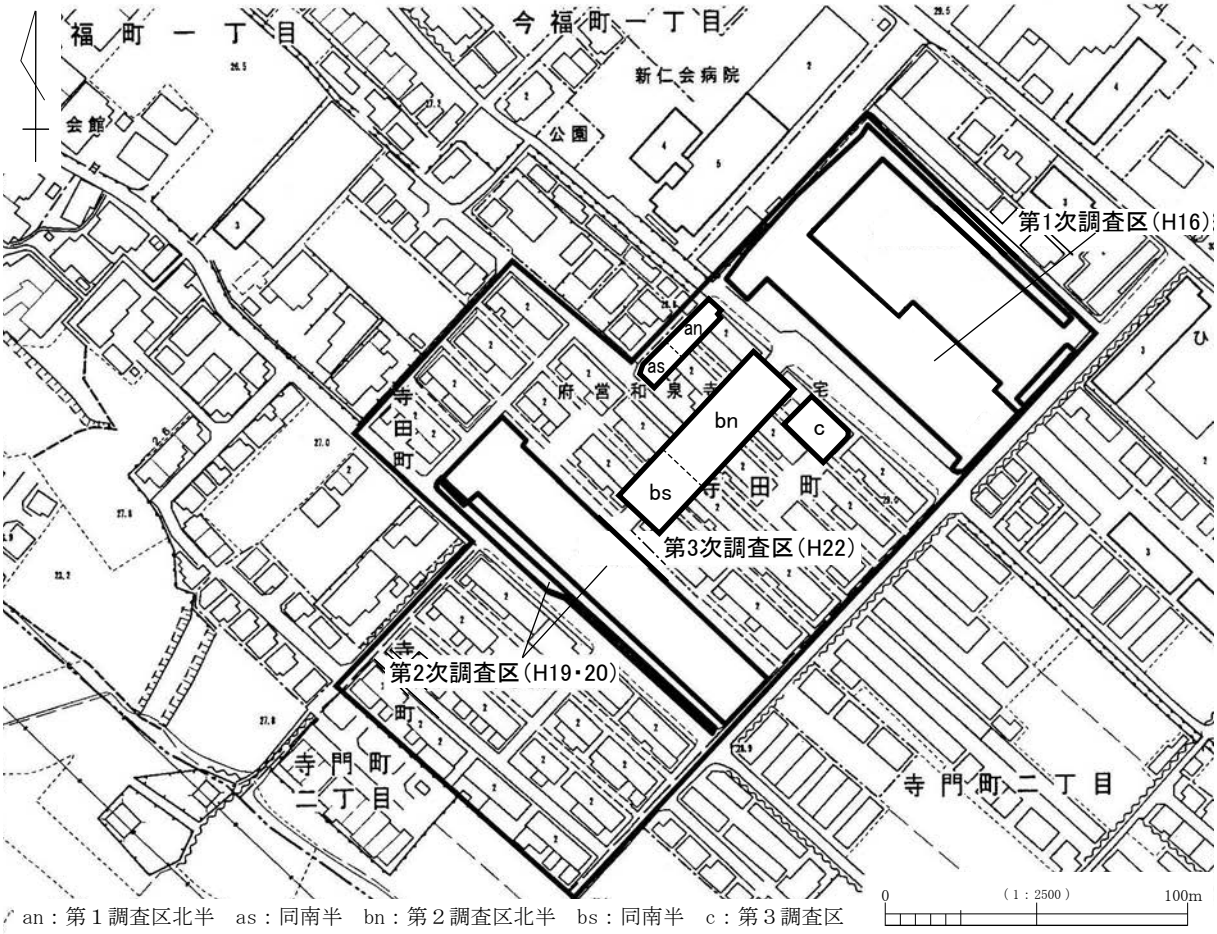
および中世の遺構・遺物を検出した。特に古墳時代では、多数の建物跡が検出されたほか、流路より鉄滓・羽口などを含む多量の遺物が出土した（杉本ほか 2007）。本書では、これを第１次調査とよぶ。

第２次調査　第２期住棟建設予定地である敷地南西部分を中心とした範囲について、平成 19 年７月１日から平成 20 年２月５日にかけて発掘調査を実施した。さらに第２期住棟建設に伴う道路拡張予定部分について、平成 20 年９月１日から平成 20 年 10 月 10 日にかけて発掘調査を実施した。両調査の結果、弥生時代中期から古墳前期にかけての集落遺構を検出した（土屋編 2010）。特に弥生時代中期の遺構として良好な遺存状態の竪穴建物を複数検出した。本書では、これらをあわせて第２次調査とよぶ。

第３次調査　平成 22 年度には、第３期住棟建設予定地である敷地中央部分、その北西側の道路拡張予定部分および府営住宅集会所建設予定地について発掘調査を実施した。本書では、これを第３次調査と呼び、以下でその成果を報告する。

第３節　調査経過

調査は、平成 22 年８月 24 日から平成 23 年２月 26 日にかけて実施した。調査区は、以下の３



an：第１調査区北半　as：同南半　bn：第２調査区北半　bs：同南半　c：第３調査区

図２　今回の調査区と既往の調査

つに分けられ、調査面積は合計 1607 ㎡である（図２）。

第１調査区：道路拡張予定地　224 ㎡

第２調査区：第３期住棟建設予定地　1169 ㎡

第３調査区：府営住宅集会所建設予定地　214 ㎡

第１調査区および第２調査区については、掘削作業に伴う発掘調査廃土の置き場確保のため、対象範囲をそれぞれ北側（以下では北半とよぶ）、南側（以下では南半とよぶ）に二分して調査を実施した。

周辺の調査成果から、古墳時代の遺物包含層が現地表下約１ｍに存在することが予想されたため、重機によって住宅建設に伴う造成土および旧耕土の大部分を掘り下げた。続いて、残る旧耕土の下半を人力によって除去し、平面的に精査を行ったところ、当初の予想通り古墳時代の遺構が密集した状態で検出された。これらの遺構について掘削および記録作成を行うこととしたが、その過程において古墳時代遺構の基盤層自体が弥生時代に河川の堆積によって形成されたものであることが判明した。このため、古墳時代遺構面の調査終了後に部分的に下層遺構面まで掘削を進め、堆積過程の様相把握および遺物の検出を行った。

なお、すべての調査区の古墳時代遺構面について、トラッククレーンによる空中写真測量・図化（20 分の１・100 分の１）を測量委託により行った。第２・３調査区においては、下層遺構についても同様の測量・図化を委託により行ったほか、その他の遺構面および、遺構の微細図や土層断面図などについては、人手により実測作業を実施した。

第１調査区は、８月 24 日に北半の掘削を開始し、９月 21 日にトラッククレーンによる空中写真撮影を実施、10 月７日に埋戻しを終了した。第１調査区南半については、10 月 12 日に掘削を開始し、10 月 26 日トラッククレーンによる空中撮影を実施、10 月 27 日に埋戻しを終了した。

第２調査区は、10 月 29 日に北半の掘削を開始し、12 月 24 日にトラッククレーンによる空中写真撮影を実施した。第２調査区南半については、翌年１月 13 日に掘削を開始し、１月 29 日にトラッククレーンによる空中写真撮影を実施した。その後、さらに下層の遺構面の調査を行い、２月 16 日改めてトラッククレーンによる空中写真撮影を実施し、２月 26 日に埋戻しを終了した。

第３調査区は、11 月 22 日に掘削を開始し、12 月 24 日にトラッククレーンによる空中写真撮影を実施、さらに下層の遺構面の調査を行ったのち、翌年２月 26 日に埋戻しを終了した。

調査の成果については、周辺住民を対象とした現地公開を 12 月 25 日に実施し、約 230 名の見学者が訪れた。

平成 23 年４月１日から報告書作成に着手し、平成 24 年 12 月 28 日まで作業を行った。

第２章　基本層序

各調査区の地層をその想定される成因等に基づき、以下の通り第１～10層に区分した。成因は同様でも層相が大きく異なる場合などについては、必要に応じてさらに枝番号によって細分した（表１）。以下、各調査区の断面模式図（詳細は第３章以下に記述）を用いてこれらの層序について説明を行う（図３）。

第１層　住宅建設に伴う造成土を主とする現代の盛土層で、層厚は0.7～0.8mである。全ての調査区において検出された。

第２層　黒褐色（2.5Ｙ3/1）砂質シルトからなる近現代の作土層で、層厚は0.2～0.3mである。第３層との境界付近は、５cm程度の厚さで灰オリーブ色を呈する部分もある。また同様に灰オリーブ色を呈する畦状の高まりが認められる部分もある。全ての調査区において検出された。

表１　寺田遺跡第３次調査基本層序

層序番号	主な層相	層　厚（cm）	上面の標高（TP.m）	自然現象ほか	主な遺構	主な遺物	時　代
1	盛土	70～80	28.0～28.2				現代
2	黒褐色　砂質シルト（作土、有機質に富む）	20～30	27.5～27.7				近代～現代
3	黄褐色　極細粒砂～シルト（作土）	50～60	27.3～27.4			土師器・須恵器・瓦器	古代～近世
4-1	黒褐色～灰褐色　砂質シルト～極細粒砂	20～60	26.9	暗色帯	上面に545・546建物 016流路埋土（上層）	土師器・須恵器・滑石製玉類	古墳時代中期～後期
4-2	灰オリーブ～灰色細粒砂～礫　（河成）	50～120以上	26.5～26.9		016流路埋土（下層）	土師器	庄内式期～古墳時代前期
5	灰オリーブ色シルト質極細粒砂	20～50	26.8～27.0	わずかに暗色化	最上面に古墳時代前期～後期の遺構。016流路の氾濫によって形成	土師器	庄内式期～
6	灰オリーブ色～灰色細粒砂～中粒砂	100以上	27.1		523流路埋土	弥生土器・土師器	弥生時代後期
7-1	灰白～黄灰色シルト～細粒砂	10～70以上	26.4～26.8	一部に暗色帯	529流路埋土	弥生土器・土師器	弥生時代後期～
7-2	灰～暗灰黄色中粒砂～礫	40～100以上	26.4～26.8		414流路埋土（礫層）	弥生土器・土師器	
7-3	灰オリーブ～暗灰黄色　シルト～粗粒砂	10～70以上	26.4	一部に暗色帯	414流路埋土（南側砂層）	弥生土器・土師器	
7-4	灰白～灰黄色細粒砂～礫	10～80	26.2～26.8		533流路新埋土	弥生土器・土師器	
7-5	灰オリーブ～灰白色シルト～細粒砂	10～40以上	26.0～26.15		533流路古埋土（北側砂層）	弥生土器・土師器	
7-6	灰白～にぶい黄色細粒砂～礫	100以上	26.0～26.6		533流路古埋土（礫層）	弥生土器・土師器	
8-1	灰色～黄灰色細粒砂～シルト	40～80	27.0		523・529・414流路等の氾濫によって形成	弥生土器・土師器	
8-2	暗灰黄色～灰色シルト	40以上	26.4		523・529・414流路等の氾濫によって形成	弥生土器・土師器	
8-3	灰黄色　粘土	10～20	26.4		523・529・414流路等の氾濫によって形成	弥生土器・土師器	
8-4	灰白色　粘土	10～20	26.2		523・529・414流路等の氾濫によって形成	弥生土器・土師器	
9	灰色シルト～細粒砂	40以上	26.0～26.3		536流路埋土		弥生時代中期以前？
10	オリーブ灰色粘土	30以上	26.0～26.1		上面に536流路		弥生時代中期以前？

第３層　黄褐色（2.5Y5/3）極細粒砂～シルトからなる耕作土である。層厚は0.5～0.6mで古代～近世の遺物を含む。全ての調査区において検出された。

第２次調査における自然科学分析によって、人為的に撹拌された堆積物と判断された層位に対応する層を含む可能性が高い。本層を除去した面（第４・５層上面）で、古墳時代前期～中期の遺構が多く検出されたため、これを第１面とした。

第４－１層　黒褐色～灰褐色砂質シルト～極細粒砂からなり、土壌化が著しい。層厚は0.2～

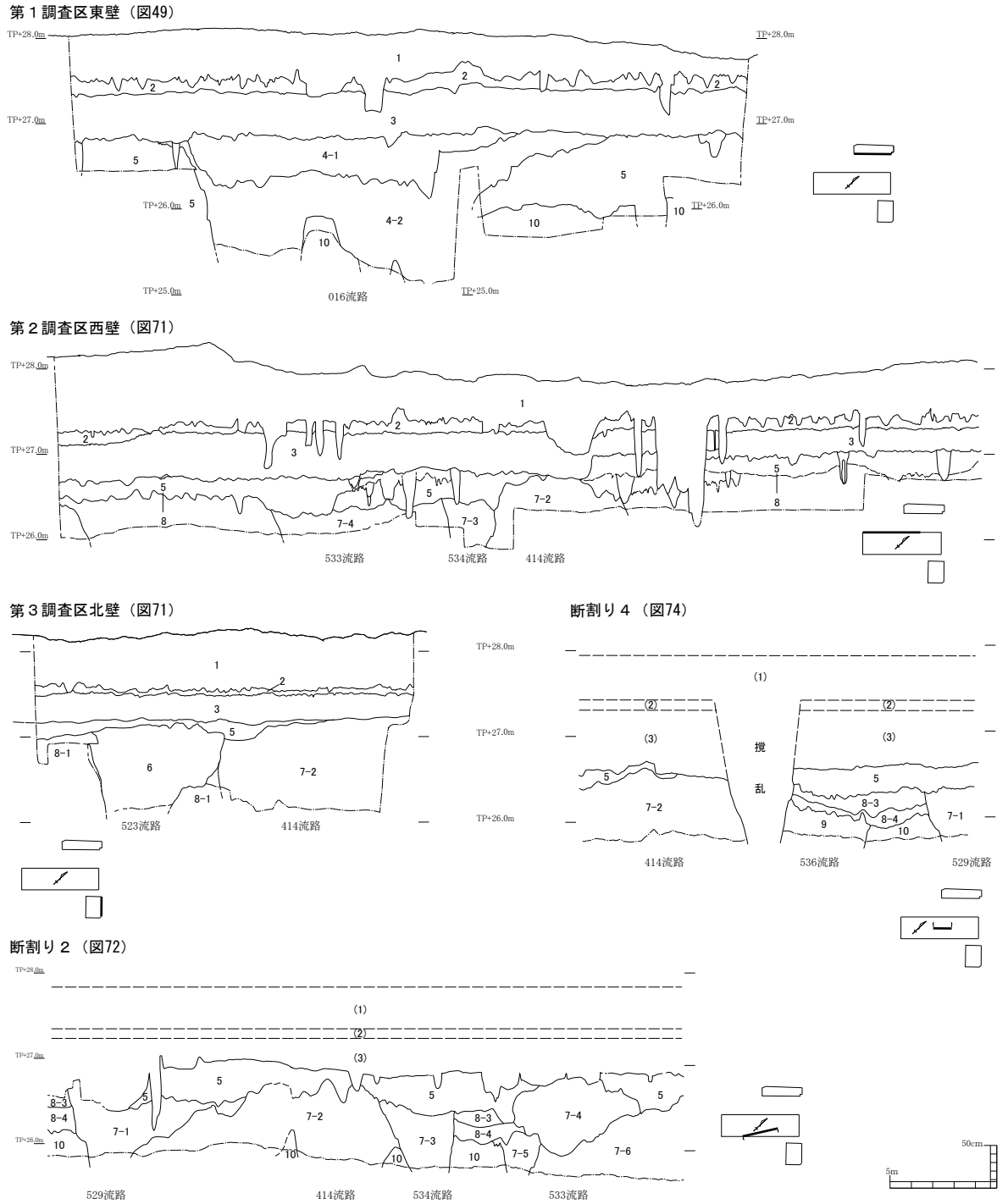


図３　寺田遺跡第３次調査基本層序模式図

0.6m で土師器・須恵器・滑石製玉類などの遺物を多く含む。016 流路上層埋土にあたり、放棄流路化した窪地に形成された堆積物と考えられる。第１調査区北半を中心に分布する。上面で掘立柱建物を検出した。

第４－２層　灰オリーブ～灰色細粒砂からなる。多くの単位が切り合う様子が認められ、各単位の内部では斜交ラミナが発達する。層厚は、0.5 ～ 1.2m 以上を測り、調査における掘削は底面に及んでいない。部分的に弥生土器・土師器・有機質を多く含む。016 流路下層とした流路充填堆積物にあたり、かなりの流速によって掘削と堆積が進行したことが窺われる。第１調査区北半～南半を中心に分布する。

第５層　灰オリーブ色シルト質極細粒砂～砂質シルトからなる。層厚 0.2 ～ 0.5m を測り、土師器をわずかに含む。016 流路を中心とする庄内式期以降の流路からの溢流堆積物と考えられる。下層から上層までいくつかの層に細分が可能であり、流路の浸食・氾濫・堆積に伴って堆積面が段階的に上昇していった可能性がある。第１～３調査区にかけて広く分布し、上面は比較的水平であることから、後世の耕作によって削平を受けた可能性が高い。本層を除去した面（第６～８層上面）で、弥生時代の遺構が検出されたため、これを第２面とする。なお本層は、第２次調査における基本層序第 11・12 層に対応する可能性が高いものと思われる。

第６層　灰オリーブ色～灰色細粒砂～中粒砂からなり、ラミナの発達が顕著である。層厚 1.0m 以上を測り、調査における掘削は底面に及んでいない。523 流路の流路充填堆積物にあたり、かなりの流速によって掘削と堆積が進行したことが窺われる。第１・２調査区の各調査区北端付近に分布する。

第７－１層　灰白～黄灰色シルト～細粒砂からなり、一部に有機質を薄くはさむ。層厚 0.1 ～ 0.7m を測る。529 流路の流路充填堆積物にあたり、緩やかな水の流れによって堆積が進行したことが窺われる。第２調査区中央の下層調査部分を中心に確認できた。

第７－２層　灰オリーブ～暗灰黄色シルト～粗粒砂からなる。多量の礫を含み、ラミナの発達が顕著である。層厚 0.4 ～ 1.0m 以上を測り、弥生後期から庄内式期の遺物を含む。調査における掘削は底面に及んでいない。414 流路の流路充填堆積物の主体を構成する礫層であり、かなりの流速によって掘削と堆積が進行したことが窺われる。第３調査区の大半および第２調査区中央の下層調査部分を中心に確認できた。

第７－３層　灰オリーブ～暗灰黄色シルト～粗粒砂からなり、一部に有機質を薄くはさむ。層厚 0.1 ～ 0.7m 程度を測る。534 流路の流路充填堆積物にあたり、緩やかな水の流れによって堆積が進行したことが窺われる。第２調査区中央の下層調査部分を中心に確認できた。

第７－４層　灰白～灰黄色細粒砂～礫からなり、層厚 0.1 ～ 0.8m を測る。多量の礫を含み、ラミナの発達が顕著である。533 流路の上層部分にあたり、かなりの流速によって掘削と堆積が進行したことが窺われる。第２調査区中央の下層調査部分を中心に確認できた。

第７－５層　灰オリーブ～灰白色シルト～細粒砂からなり、層厚 0.1 ～ 0.4m 以上を測る。調

査における掘削は底面に及んでいない。533 流路下層の北側の砂～粘土層部分にあたり、緩やかな水の流れによって堆積が進行したことが窺われる。第２調査区中央の下層調査部分を中心に確認できた。

第７－６層　灰白～にぶい黄色細粒砂～礫からなり、層厚 1.0m 以上を測る。多量の礫を含み、ラミナの発達が顕著である。調査における掘削は底面に及んでいない。533 流路下層の流路充填堆積物の主体を構成する礫層であり、かなりの流速によって掘削と堆積が進行したことが窺われる。第２調査区中央の下層調査部分を中心に確認できた。

第８－１層　灰色～黄灰色細粒砂～シルトからなる。層厚 0.4 ～ 0.8m を測り、弥生後期から庄内式期の遺物を含む。523・529・414 流路等からの溢流堆積物と考えられる。下層から上層までいくつかの層に細分が可能であり、流路の浸食・氾濫・堆積に伴って堆積面が上昇した可能性がある。414 流路の浸食面との関係で上半を第８－１層とした。なお本層は、第２次調査における基本層序第 14 層に対応する可能性が高いものと思われる。

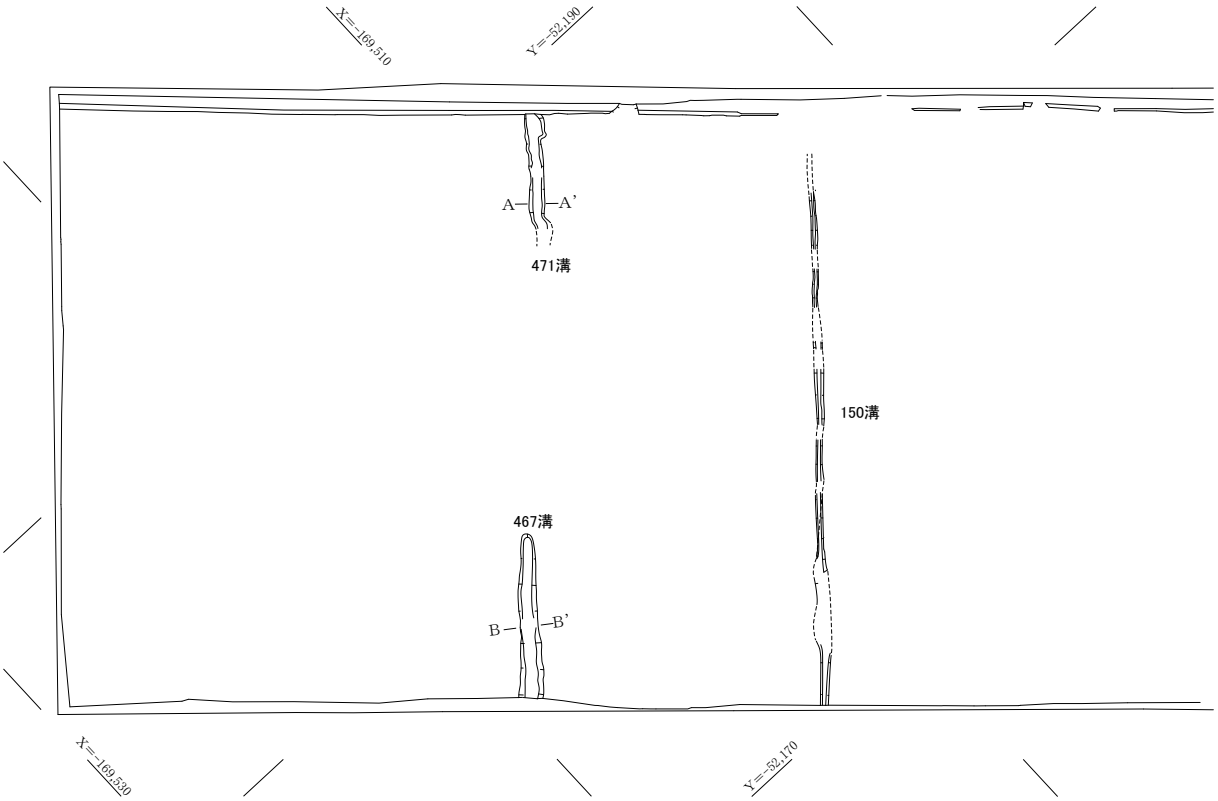
第８－２層　暗灰黄色～灰色シルトからなり、層厚 0.4m 以上を測る（図 73)。523・529・414 流路等からの溢流堆積物と考えられる。調査における掘削は底面に及んでいない。下層から上層までいくつかの層に細分が可能であり、流路の浸食・氾濫・堆積に伴って堆積面が上昇した可能性がある。414 流路の浸食面との関係で下半を第８－２層とした。

第８－３層　灰黄色粘土からなり、0.1 ～ 0.2m を測る。523・529・414 流路等からの溢流堆積物と考えられる。

第８－４層　灰白色粘土からなり、0.1 ～ 0.2m を測る。523・529・414 流路等からの溢流堆積物と考えられる。

第９層　灰色シルト～細粒砂からなる。層厚は、0.4m 以上を測り、調査における掘削は底面に及んでいない。弥生土器をわずかに含む。536 流路の流路充填堆積物にあたり、ある程度の流速によって掘削と堆積が進行したことが窺われる。

第 10 層　オリーブ灰色粘土からなり、0.3m 以上を測る。調査における掘削は底面に及んでいない。溢流堆積物と考えられるが、溢流をおこした流路自体は不明である。



第３章　古代～中世

第１節　遺構の分布

遺構検出第１面（基本層序第３層下面）の遺構精査の結果、後述する通り、多数の遺構が検出されたが、その中で非常に特徴的な埋土をもち、現在の街区に近い方向を向く溝が複数含まれている（図４）。第１面で検出した遺構のほとんどは古墳時代の遺構と考えられるが、これらの溝はいずれも切り合い関係において最上位に当たり、埋土から出土した遺物には、古墳時代から古代以降の土器が含まれている。第１・２次調査の調査成果もあわせて参照すれば、これらの溝は古代から中世にかけての耕作に伴うものと考えられる。

第２節　古代～中世の遺構と遺物

090 溝　第２調査区北半において検出した東西方向にのびる溝である（図４）。幅は 0.3m 程度、深さ 0.1m 程度が遺存する。調査区東端より西へ約 4.8m のびるが、遺構検出面が低いためか、それより先は検出されていない。埋土は灰白色極細粒砂で須恵器蓋および杯身が出土した（図５）。１は、平らな天井部頂部に小さな圏足状のつまみが付くもので、８世紀代のものと思われる。２は、古墳時代中期のもので下層遺構面の遺物が耕作に伴い巻き上げられたものと考えられる。

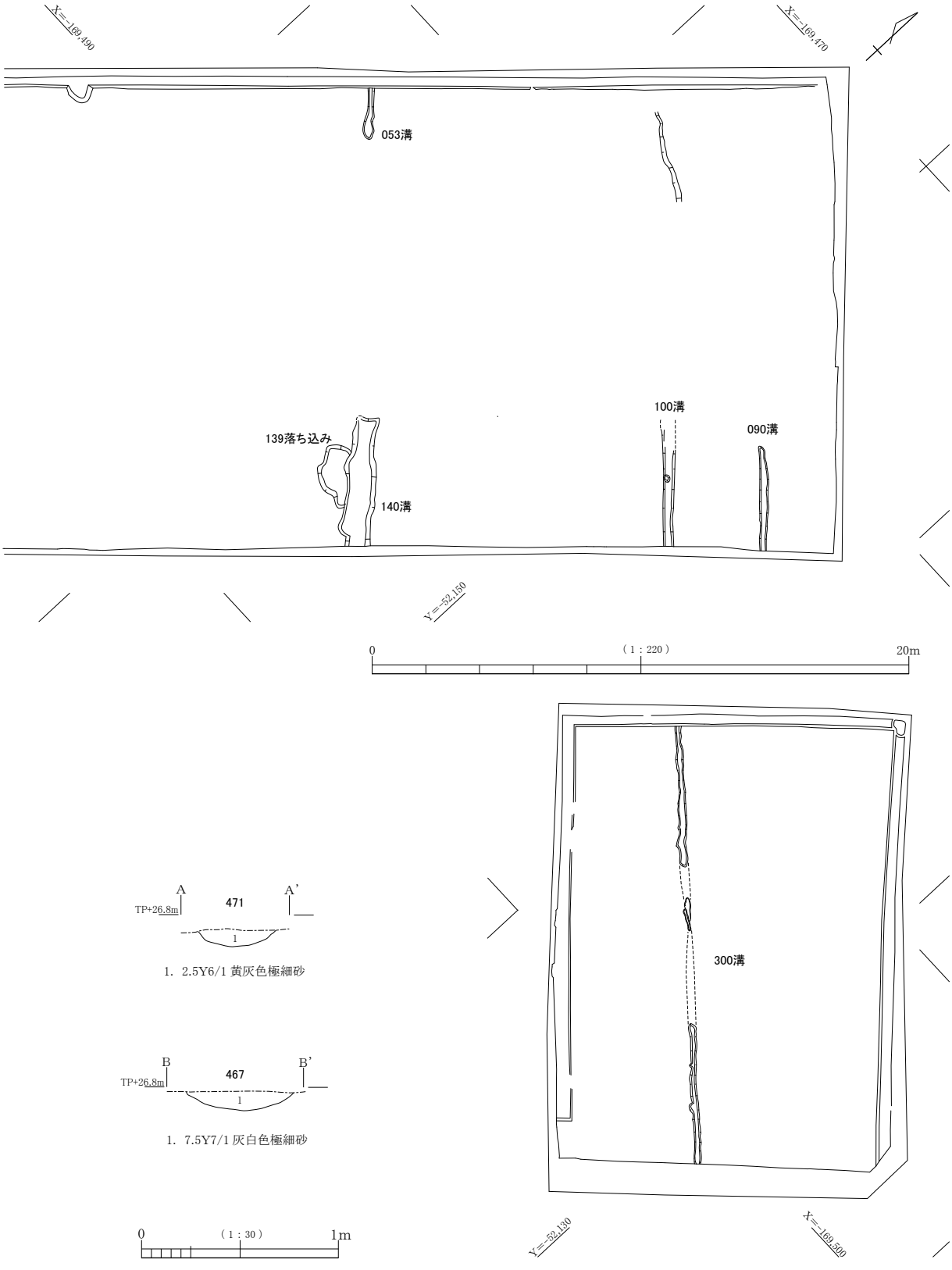


図４　古代～中世の遺構

100・300 溝　100 溝は、第２調査区北半において検出した遺構で東西方向にのびる。幅は 0.5 ～ 0.6m を測り、東側は調査区外へ至る。調査区東端より西へ約 5.3m のびたところで、府営住宅建設に伴う撹乱に当たる。さらに西側では遺構検出面が低いためか、続きは検出されていない。

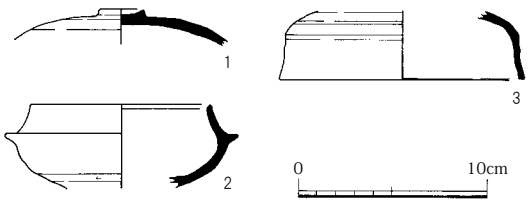


図５　古代～中世の遺構出土遺物
１・２：090 溝　３：300 溝

300 溝は、第３調査区において検出した遺構であるが、位置関係および埋土から 100 溝につながるものと考えられる。調査区中位で一部検出されなかった部分があるが、その延長は約 20.1m を測る。埋土はともに灰白色極細粒砂で 300 溝から須恵器杯蓋３が出土した。古墳時代中期のもので下層遺構面の遺物が耕作に伴って巻き上げられたものと考えられる。

053・140 溝　053 溝は、第２調査区北半において検出した遺構で東西方向にのびる。調査区西端より東へ約 2.3m のびるが、調査区中位では遺構検出面が低いためか続きは検出されていない。調査区東側でこれに対応すると考えられる遺構が 140 溝である。140 溝は、幅 1.0 ～ 1.4m を測り深さ 0.1m 程度が遺存する。埋土は灰白色極細粒砂で遺物は出土していない。調査区端より西へ約 6.4m のびたところで、底が浅く立ち上がる。南側には、139 落ち込みとした遺構が伴っており、両者は一体の施設であったと思われる。053 溝と 140 溝は、位置関係および埋土から一体の溝と考えられるが、140 溝の幅は広く、139 落ち込みが伴うことなどもあり、053 溝の部分とは異なった機能をもつ可能性がある。埋土は灰白色極細粒砂で図化可能な遺物は出土していない。

150 溝　第２調査区北半において検出した東西方向にのびる溝である。幅は 0.3m 程度を測り、深さ 0.1m 程度が遺存する。後世の撹乱を受けながらも調査区東端より西へ約 15m 程度のびる。埋土は灰白色極細粒砂で図化可能な遺物は出土していない。

467・471 溝　467 溝は、第２調査区南半において検出した遺構で東西方向にのびる。幅は 0.5 ～ 0.75m 程度を測り、深さ 0.1m 程度が遺存する。調査区西端より東へ約 4.1m のびたところで、府営住宅建設に伴う撹乱に当たる。さらに東側では遺構検出面が低いためか続きは検出されていない。調査区東側でこれに対応すると考えられる遺構が 471 溝である。471 溝は、幅 0.5 ～ 0.8m を測り、深さ 0.1m 程度が遺存する。調査区東端から西へ 5.9m のびる。ともに埋土は灰白色極細粒砂で図化可能な遺物は出土していない。

第４章　古墳時代

第１節　遺構の分布

基本層序第３層を除去すると第５層の広がりとそれを掘り込む遺構の輪郭が確認された。このためこれを遺構検出第１面として精査を行ったところ、多くの遺構が検出された(図６)。遺構は、竪穴建物、掘立柱建物、溝、土坑、落ち込み、流路からなり、全体として古墳時代の集落を構成していたと考えられる。調査区ごとにみると、第１調査区は、016 流路の流れが中央を東西に横断しており、これが完全に埋没した後に掘立柱建物２棟が営まれた。第２調査区では、調査区北西隅において 016 流路の続きを検出し、その南側に建物跡が群をなしている状況が確認された。建物群は、調査区北端から南へ約 10 ～ 50m の範囲に展開しており、それより南側を区切るかのように東西の溝が複数条存在する。溝の南側には、落ち込み状のくぼみは存在するものの、建物の痕跡等は認められなくなることから、これらの溝は居住域の南端に位置するものと考えられる。

また居住域の内部も一様ではなく、調査区北端から約 30 ～ 35m 前後の場所に東西方向の溝が３条存在し、この北側には比較的大型の竪穴建物と掘立柱建物、土坑（井戸）などが位置し、南側には、小型の竪穴建物および掘立柱建物が設けられている。第３調査区には、第２調査区北半の様相が続いており、大型の掘立柱建物が検出された。

なお、第３層の下面は直接古墳時代遺構の基盤層に接しており、いわゆる包含層は存在しなかった。また基盤層はほとんど土壌化が進んでいない部分が大半であり、古墳時代の旧地表面は、後世の耕作に伴う削平によってかなりの部分が失われているとみられる。調査当初、第１調査区において、黒褐色のシルト等からなる第４層の広がりを包含層と誤認したが、後にそれが放棄流路化した旧流路の窪みに堆積したものであることが判明した。このため、第１調査区において包含層出土として取り上げた遺物の大半は、016 流路上層に伴うものであったと考えられる。

以下では、各遺構とその出土遺物について、遺構の種別ごとに説明していくこととする。

第２節　古墳時代の遺構および遺物

（１）竪穴建物

第２調査区北半東南部（X=-169,500 ～ -169,510　Y=-52,170 ～ -52,175 あたり）において、４棟の竪穴建物を検出し、同北部（X=-169,480 ～ -169,490　Y=-52,155 ～ -52,160 あたり）では、２棟の竪穴建物を検出した。東南部の建物群は相互に重複しており、177 竪穴建物が 147 竪穴建物を切り、145 竪穴建物が 147 竪穴建物、148 竪穴建物を切っている（図６）。

145 竪穴建物　第２調査区北半において検出した比較的小型の竪穴建物である（図７、図版７・８）。東西主軸の長方形プランをもち、東西 3.2m、南北 2.3m を測る。方位は北から西へ 57° 程

度振るものと思われる。壁際溝は確認できず、特に南側では、基盤層を掘り込んだ掘り方がゆるやかに傾斜して底に連続する様子が観察できた。竪穴部底面の掘り込みは、検出面から 0.05 ～ 0.13m 程度を測り、若干の凹凸をなしている（図８）。この面の上で炭の広がりおよび土器を検出したことから、貼り床はほとんど施されなかったものと思われる。また北側壁寄りには竪穴建物に先行すると思われる柱穴が認められる。

床面西南部には炉跡かと思われる東西 1.0m、南北 1.2m 程度の掘り込みが認められ、その上位で炭の広がりと土器を検出した。また東半部中央でも径 0.45m 程度を測る楕円形の炭の広がりが認められた。ただし、床面の赤変などの痕跡は認められなかった。

土器は、須恵器杯蓋、杯身、高杯、土師器甕からなる（図９－４～ 15)。杯蓋は、口径 12.6 ～ 13.0cm、器高 4.0 ～ 4.4cm 程度で天井部はやや丸みをもち、天井部と口縁部の境界の稜はやや甘い。口縁端部は、水平な平坦な面をなすもの（４)、水平な凹面をなすもの（７)、内傾する凹面をもつもの（５・６・８）がある。杯身（９～ 11）は、口径 10.7 ～ 10.9cm、器高 4.3 ～ 5.1cm 程度で底部がやや深く、丸みをもつ。たちあがりはやや高く内傾して端部が水平な面をもつもの（９）と短く内傾して端部が内傾する凹面をもつもの（10）とがある。また、竪穴内部の埋土の洗浄を行った結果、滑石製臼玉製品１点が検出された（図 67-773)。

竪穴内部に建物の屋根を支えるような柱穴は見つからなかった。竪穴部の外にもこれと関連するような柱穴は認められないことから、本建物は壁の構造材で屋根を支える壁立式であった可能性が考えられる。

147 竪穴建物　145 竪穴建物に切られる比較的小型の竪穴建物である（図７、図版７)。東西主軸の長方形プランをもち、残存する規模として東西 3.1m、南北 2.6m を測る。壁際溝は確認できなかった。竪穴部底面の掘り込みは、検出面から 0.1m 程度を測るが（図８)、遺存状況が悪く、貼り床の有無は明らかでない。竪穴内外に屋根を支えるような柱穴は見つからなかったことから、本建物も壁の構造材で屋根を支える壁立式であった可能性が考えられる。

竪穴内部から須恵器杯蓋が出土した（図９-16・17)。口径 13 ～ 14cm 程度を測り、ともに口縁端部は内傾する凹面をもつ。また、竪穴埋土の洗浄を行った結果、滑石製臼玉製品１点が検出された（図 67-774)。

148 竪穴建物　145 竪穴建物に切られる比較的小型の竪穴建物である（図７、図版７)。東西主軸の長方形プランをもち、残存する規模として東西約 2.1m、南北約 1.8m を測る。壁際溝は確認できなかった。竪穴部底面の掘り込みは、検出面から 0.1m 程度を測るが（図８)、遺存状況が悪く、貼り床の有無は明らかでない。竪穴内外に屋根を支えるような柱穴は見つからなかったことから、本建物も壁の構造材で屋根を支える壁立式であった可能性が考えられる。

竪穴内部から須恵器高杯脚端部かと思われる小片（図９-18）が出土した。

177 竪穴建物　145 竪穴建物の北西において検出した比較的小型の竪穴建物である（図７、図版７・９・10)。東西主軸の長方形プランをもち、東西 4.6m、南北 3.5m を測る。方位は北から

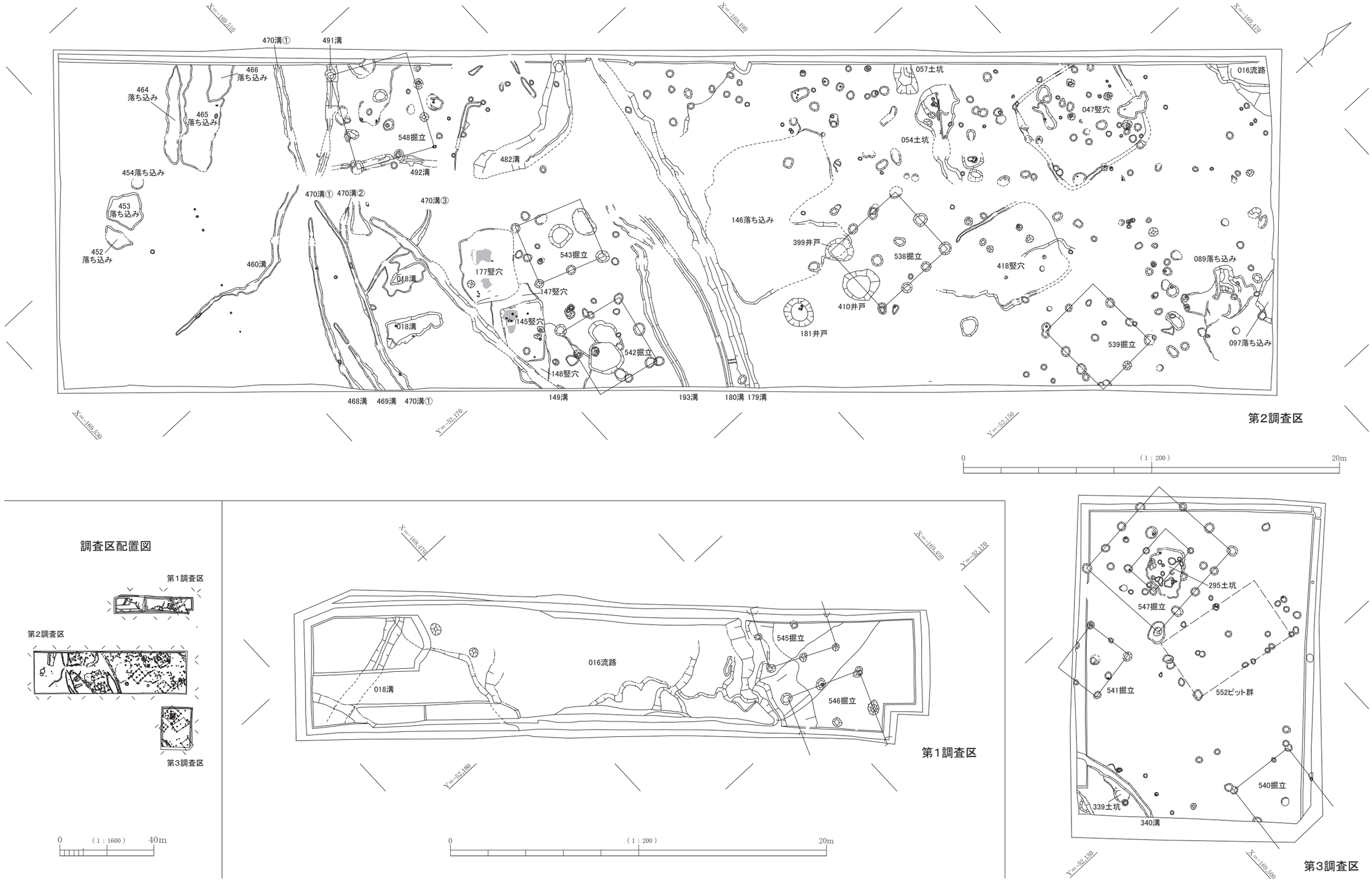
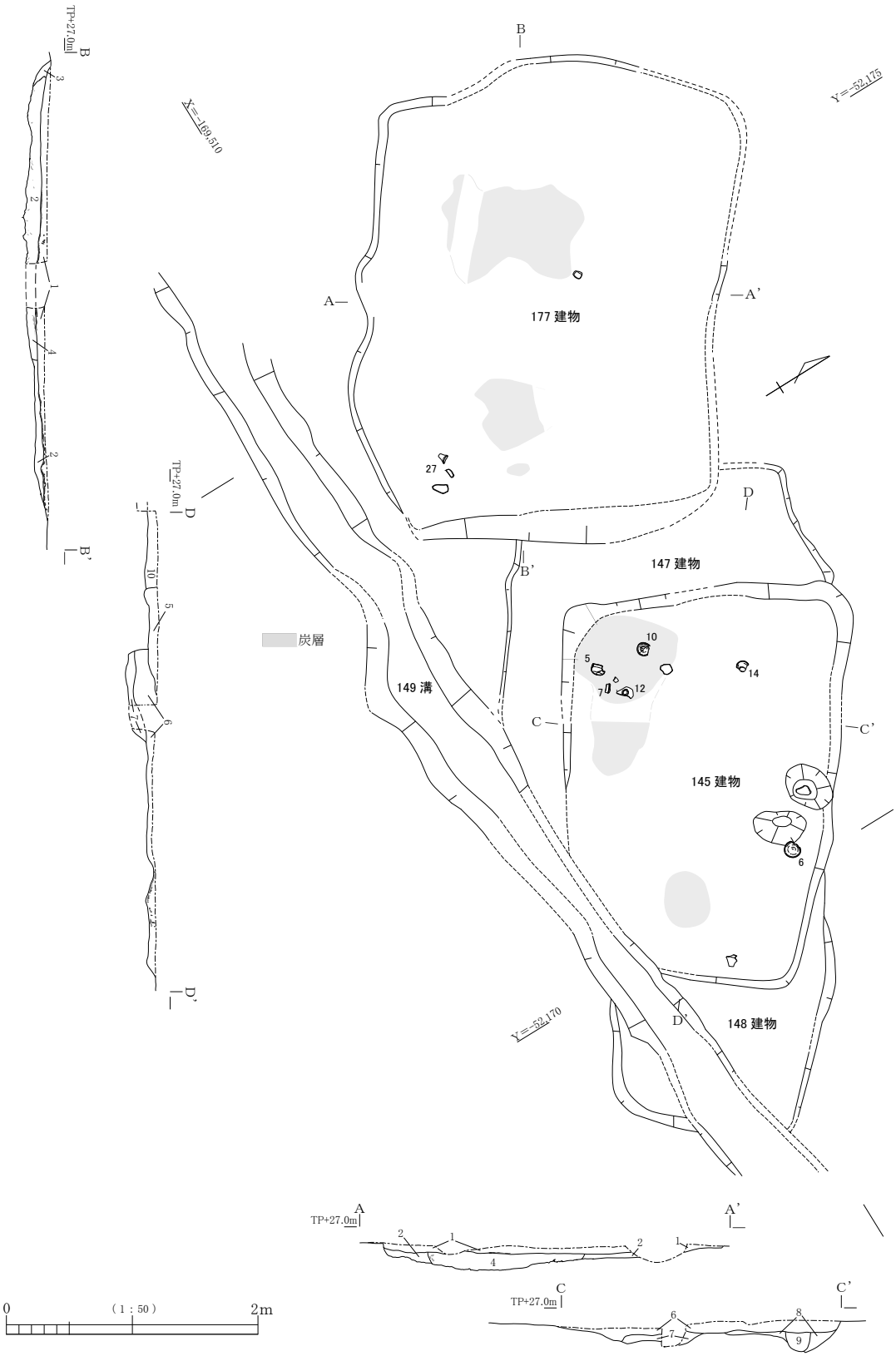


図６　第１面（古墳時代）の遺構



177 建物

1．7.5YR5/1 褐灰色シルト質極細砂（土器・炭を多く含む）【貼り床もしくは埋土】　2．7.5YR5/1 褐灰色シルト質極細砂（わずかに偽礫炭を含む）【貼り床】
3．7.5YR5/1 褐灰色シルト質極細砂（酸化強い）【貼り床】　4．10YR5/1 褐灰色シルト（わずかに偽礫炭を含む）【貼り床】

145 建物

5．10YR4/1 褐灰色粘質極細砂（土器・炭を多く含む）　6．2.5Y4/2 暗灰黄色細砂　7．5Y4/1 灰色粘質細砂【炉埋土？】　8．2.5Y4/2 暗灰黄色粘質極細砂
9．2.5Y5/2 暗灰黄色シルト

148 建物

10．2.5Y5/2 暗灰黄色細砂

図７　145・147・148・177 竪穴建物平面（床面）図および断面図

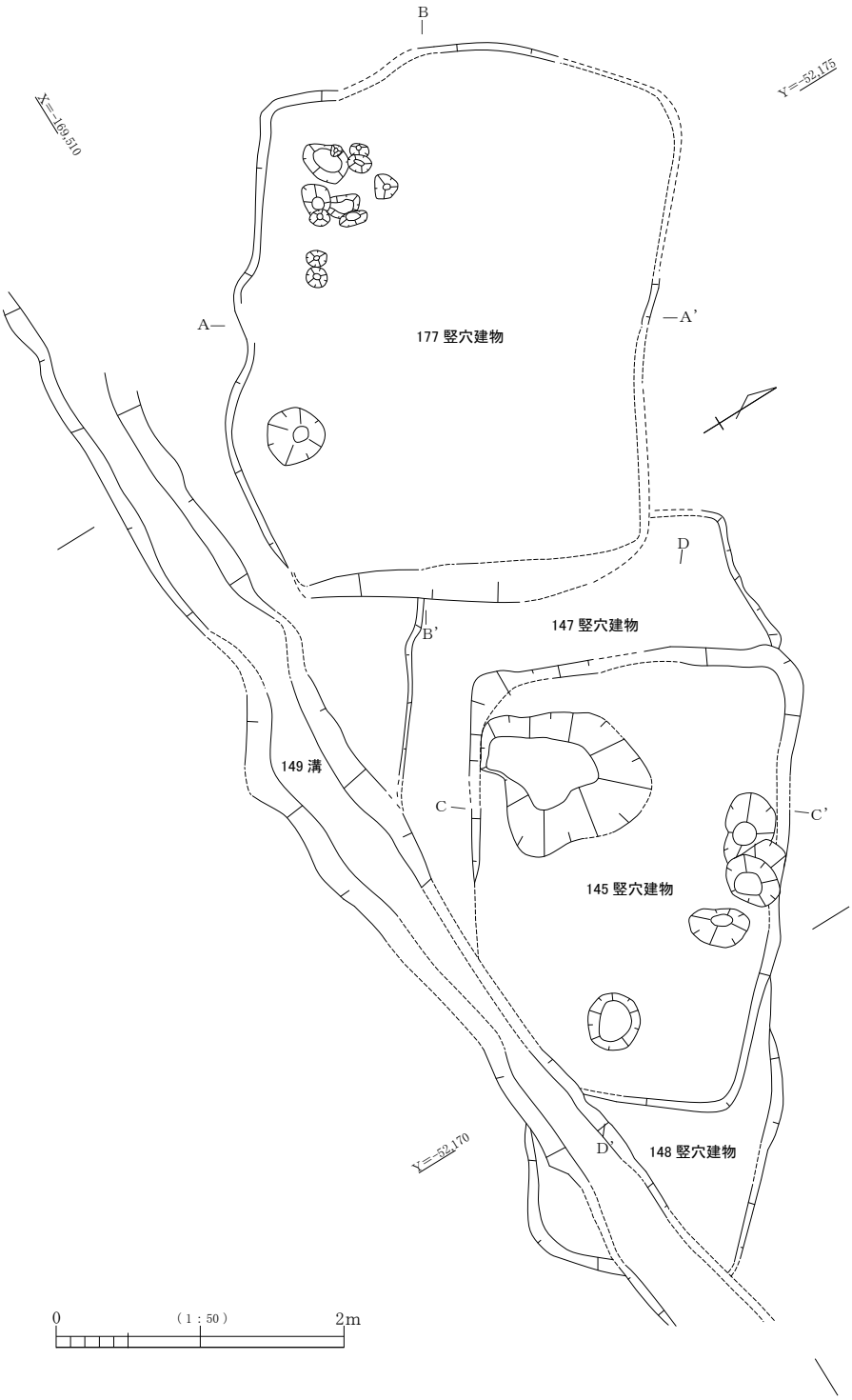


図８　145・147・148・177 竪穴建物平面（底面）図および断面図

西へ 54° 程度振るものと思われる。壁際溝は確認できず、特に東側では、基盤層を掘り込んだ掘り方が浅く傾斜して床面に達する様子が観察できた。竪穴部底面の掘り込みは、検出面から 0.19m 程度を測り、凹凸をなしている（図８）。その上に偽礫や炭を含む２～４層を施し、貼り床としているようである。

この面において、東西１カ所ずつ炭の広がりが認められた。西側の炭の広がりは、南北 1.1m、東西 0.7m 程度を測り、その東北隅近くで土器を検出した。東側の炭の広がりは、南北 0.47m、東西 0.55m 程度を測り、その東南近くにおいて土器を検出した。炭層の厚さは、ともに 0.01m 程度であり、若干の凹凸はあるが、明瞭な掘り込みに伴うものではない。また、床面に赤変等の痕跡は認められない。

竪穴内部に建物の屋根を支えるような柱穴は見つからなかった。竪穴部の外にもこれと関連するような柱穴は認められないことから、本建物は壁の構造材で屋根を支える壁立式であった可能性が考えられる。生活面の上には、土器や炭を多く含むシルト質極細粒砂（１層）が堆積し、検出面となるが、色調や粒度などは下位の貼り床と考えた層に酷似しており、炭や土器の包含量程度しか差がない。このため、本層位についても生活面の更新に伴って施された貼り床の可能性を

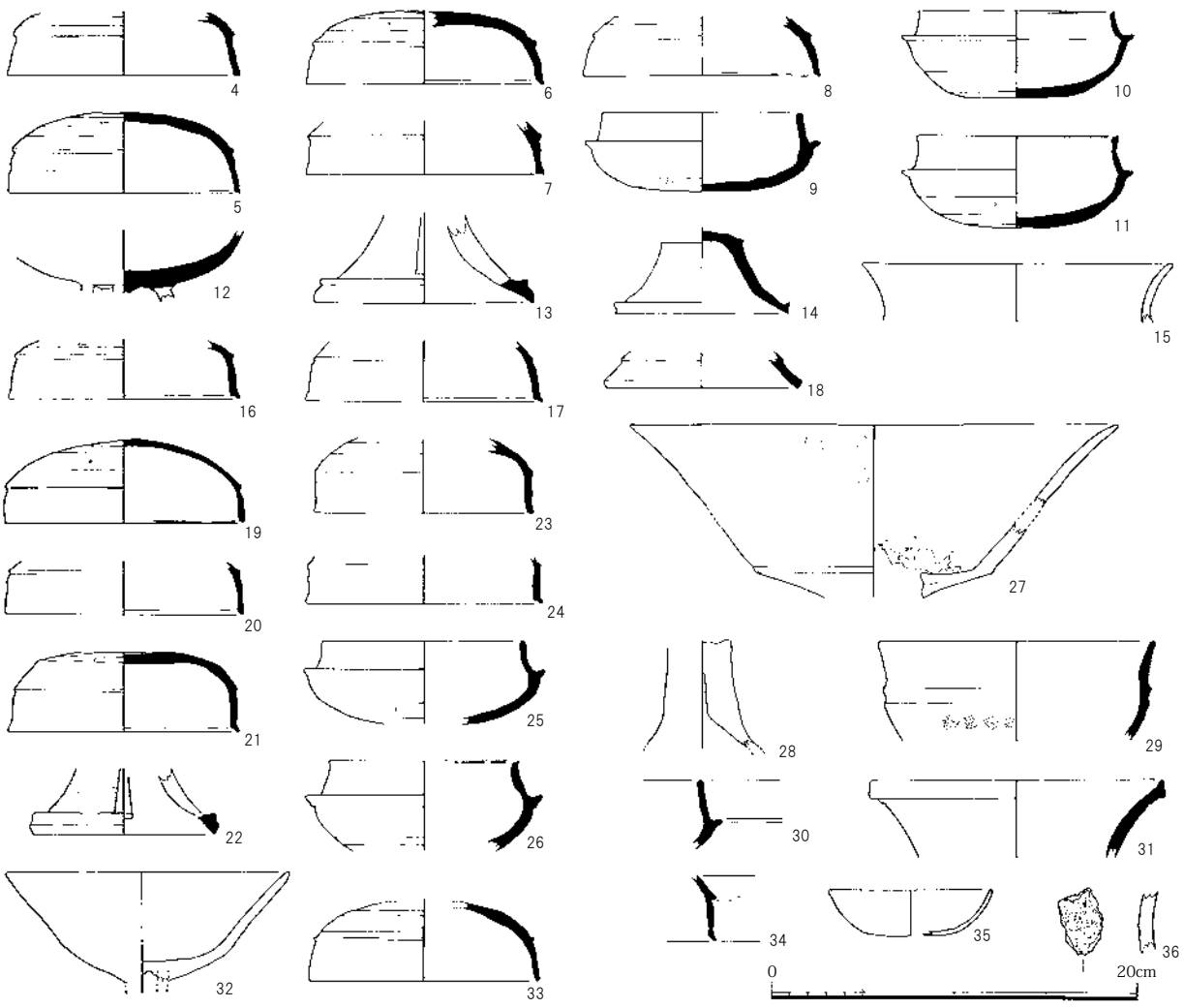


図９　竪穴建物出土遺物

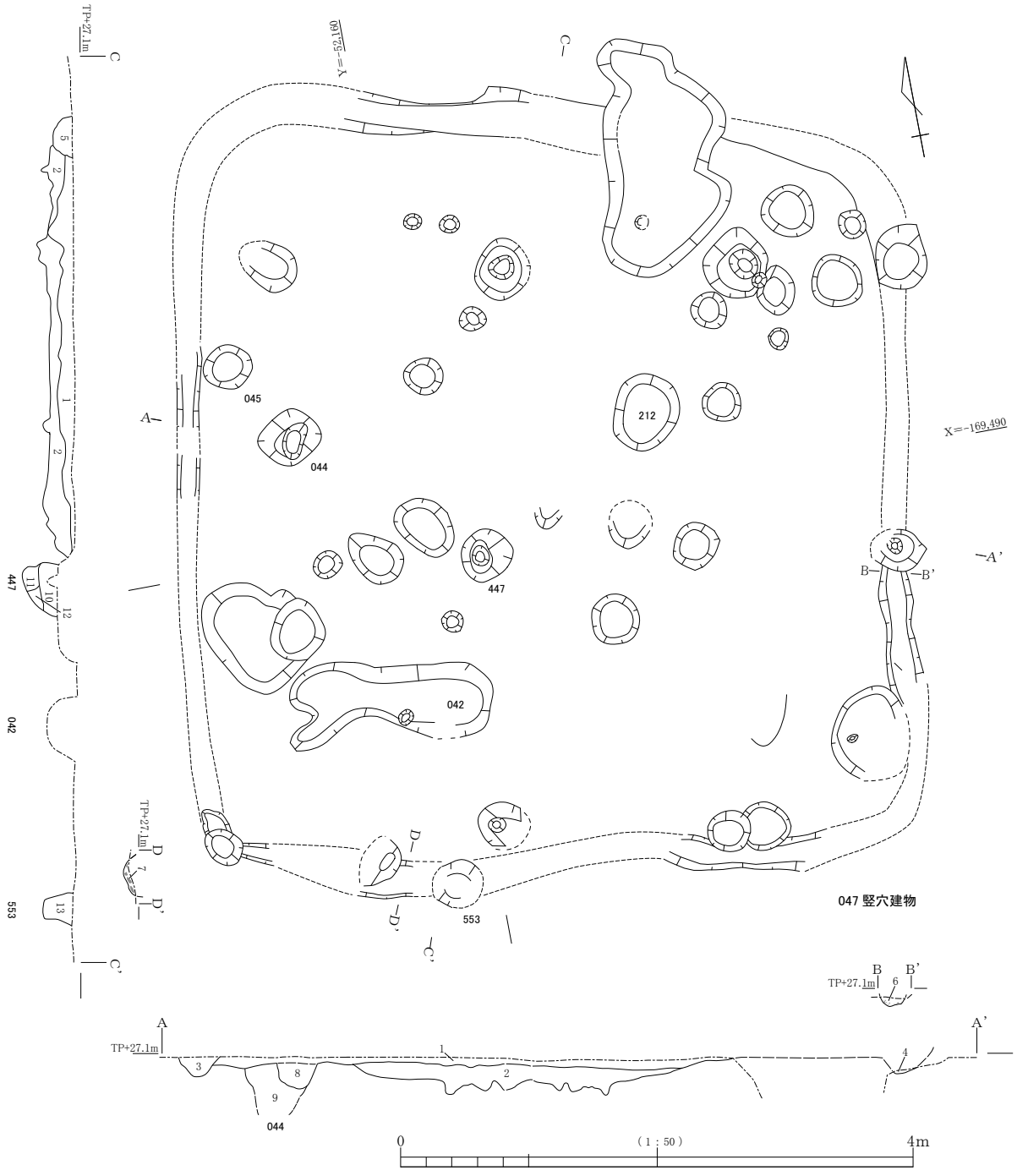
４～15：145 竪穴建物　16・17：147 竪穴建物　18：148 竪穴建物　19～31：177 竪穴建物　32：418 竪穴建物　33～36：047 竪穴建物

考えておきたい。この場合、更新後の第２次生活面については、上面の削平によって失われていることになる。

遺物としては須恵器杯蓋、杯身、高杯、壺、土師器高杯が出土した（図９-19～31）。杯蓋（19～24）は、口径 11.9～13.0cm、器高 4.3～4.6cm 程度で天井部はやや丸みをもち、天井部と口縁部の境界の稜はやや甘い。口縁端部は、ほぼ水平な平坦面をなすもの（23）と内傾する凹面をもつもの（19～21・24）とがある。杯身（25・26・30）は、口径 11cm、器高 4.5cm 前後で底部がやや深く、丸みをもつもの（26）と浅いもの（25）がある。たちあがりはやや高く内傾し、25 の端部は水平な面をもつのに対し、26 のそれはわずかに内傾する凹面をもつ。22 は、高杯脚部片で底径 10.0cm と小さいことから、有蓋高杯と考えられる。透かしは、４方向に穿たれたものと思われる。脚端部には突線を巡らせ段をなす。29 は、口径 15.0cm とやや大型で椀になる可能性もあるが、いちおう無蓋高杯杯部としておく。中央に２条の突帯がめぐり、その下位に波状文が施される。口縁端部は、丸く収める。31 は、壺口縁部かと思われるもので口径 16.0cm を測る。

土師器高杯として、杯部片 27 と脚部片 28 が出土している。27 は口径 26.8cm、残存高 9.4cm

を測り、杯部は水平に伸びた後、稜をもって外上方に立ち上がる。内面に漆の付着した痕跡が認められる。28 は、残存高 5.9cm を測り、脚柱部上半は中実でかなり厚い。裾部は緩やかに外方へ広がるようである。27 と 28 は同一個体の可能性も考えられる。

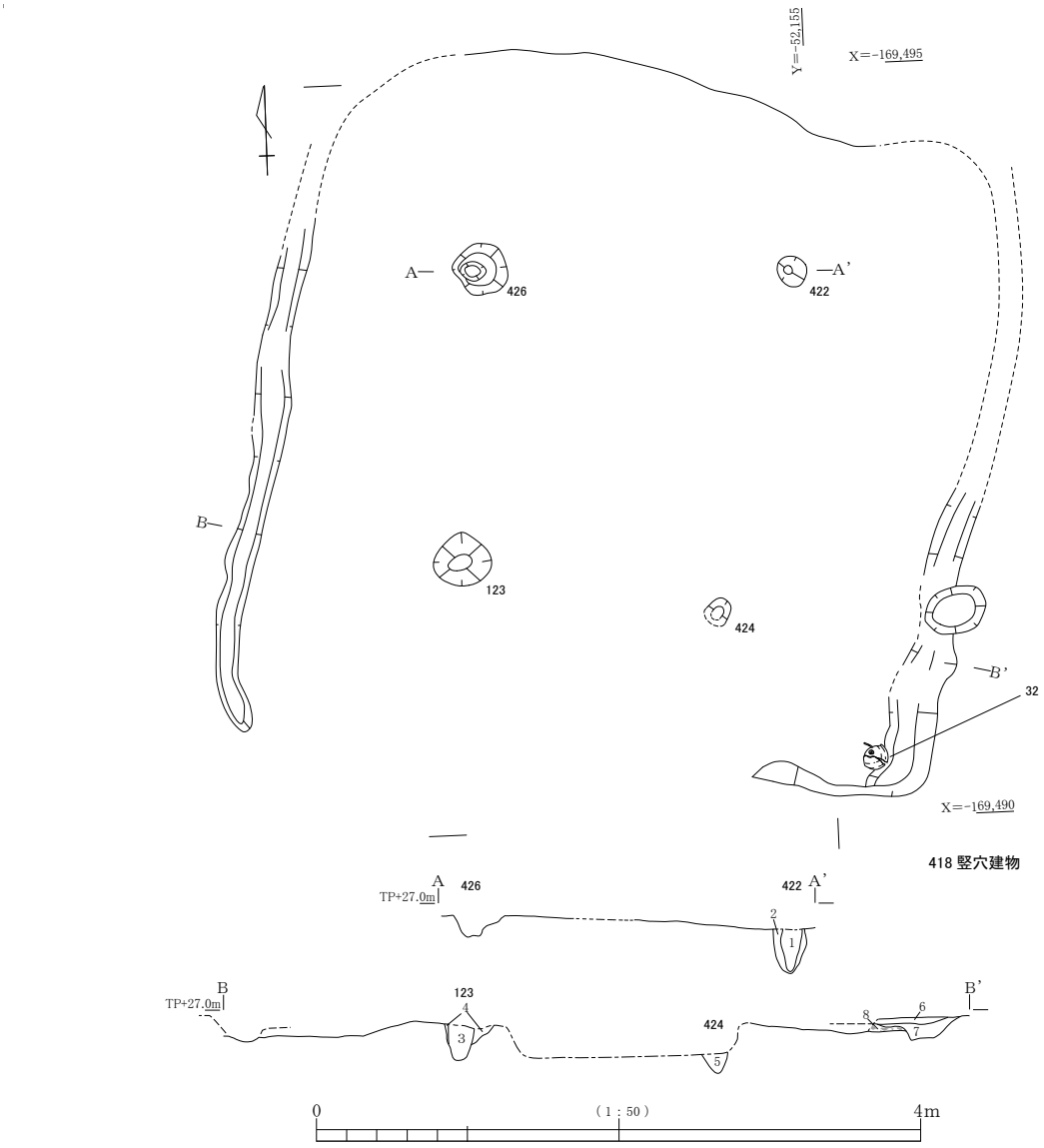


047 建物
1. 10YR5/2 灰黄褐色極細砂（炭・土師器・偽礫をわずかに含む）【貼り床】　2. 10TR5/4 にぶい黄褐色極細砂（炭・土師器をわずかに含む）【貼り床？】
3. 2.5Y6/1 黄灰色極細砂【周壁溝埋土】　4. 2.5Y6/1 黄灰色極細砂【周壁溝埋土】　5. 2.5Y6/1 黄灰色極細砂（わずかに土師器を含む）
6. 5Y5/1 灰色極細砂（偽礫を含む）【周壁溝埋土】　7. 5Y5/2 灰オリーブ極細砂（偽礫を含む）【周壁溝埋土】
044 ピット
8. 10YR5/1 褐灰色極細砂（炭をやや多く含む）　9. 10YR5/2 灰黄褐色極細砂（わずかに土師器を含む）
447 ピット
10. 2.5Y5/4 黄褐極細砂　11. 2.5Y5/1 シルト質極細砂　12. 2.5Y6/1 黄灰極細砂
553 ピット
13. 2.5Y6/1 黄灰色極細砂

図 10　047 竪穴建物平面図および断面図

２次的な貼り床と考えられる１層の埋土の洗浄を行った結果、滑石製臼玉製品３点およびガラス小玉１点が検出された（図 67-775 ～ 778）。

047 竪穴建物　第２調査区北半北西部で検出した方形プランをもつ竪穴建物である（図 10、図版 11）。非常に遺存状況が悪いが規模として東西約 5.6m、南北約 6.3m を測る。方位は北から西へ 83° 程度振るものと思われる。壁際溝は幅 0.3 ～ 0.35m 程度、検出面からの深さ 0.15m 程度を測る。竪穴部底面の掘り込みは、検出面から 0.15 ～ 0.28m 程度を測り、凹凸をなしている。その上に炭・土師器や偽礫や炭を含む１・２層を施し、貼り床としているようである。断面観察によれば壁際溝は貼り床層を切って設けられており、その埋土には偽礫を含む部分もあることから、外部からの流入土とは考えにくい。



1. 2.5Y5/2 暗灰黄極細砂　2. 5Y6/2 灰オリーブ細砂　3. 2.5Y5/1 黄灰極細砂　4. 10YR4/1 褐灰極細砂（偽礫を少量含む）
5. 5Y6/1 灰極細砂　6. 5Y6/2 灰オリーブ極細砂　7. 2.5Y5/2 暗灰黄極細砂【周壁溝埋土】
8. 2.5Y5/1 黄灰極細砂（偽礫を多く含む）【貼り床】

図 11　418 竪穴建物平面図および断面図

竪穴内部には、多数の柱穴や土坑上の掘り込みが認められたが、主柱穴は明確にできなかった。建物埋土もしくは整地土と考えられる土層から外面にタタキの痕跡をとどめる土師器片（図９-36）が出土している。小片で判断は難しいが韓式系土器の可能性がある。

045 ピットは、047 竪穴建物を切って設けられた柱穴であるが、その内部から須恵器杯蓋（33）が出土した。33 は、口径 12.6cm、器高 4.4cm を測り、天井部は浅く、天井部と口縁部の境界の稜はやや鋭い。口縁端部は、水平な平坦面をなす。以上の特徴により、この個体はⅠ型式２段階（中村 1978）に属するものと考えられることから、047 竪穴建物もⅠ型式２段階以前に位置づけられる。製塩土器（35）も同じく 047 建物を切って設けられた 212 ピットから出土したものである。積山洋の製塩土器分類Ｈにあたるものと思われ、口径 9.0cm を測る（積山 2004）。

418 竪穴建物　047 竪穴建物の東南側に位置する方形プランの竪穴建物である（図 11、図版 12）。東西 4.7m、南北 4.8m を測る。方位は北から西へ 84° 程度振るものと思われる。壁際溝は北辺、東西辺で検出し、幅 0.15 ～ 0.32m を測る。南辺は撹乱が著しいが、残存する部位では溝状を呈さずに肩が立ち上がっていた。竪穴部底面の掘り込みは、検出面から 0.1m 程度を測る。その上に偽礫や炭を含む８層を施し、貼り床としているようである。断面観察によれば壁際溝は貼り床層を切って設けられている。

426・422・123・424 ピットは竪穴内で検出した柱穴である。いずれも柱痕を確認し、径は、0.13 ～ 0.17cm である。これら４基によりややいびつであるが、一辺２m 内外の方形が復元でき、そのプランは 418 竪穴建物の平面形と方向を同じくする。このことから、これらの柱穴によって屋根を支える構造であったと考えられる。炉跡などの痕跡は確認されていない。

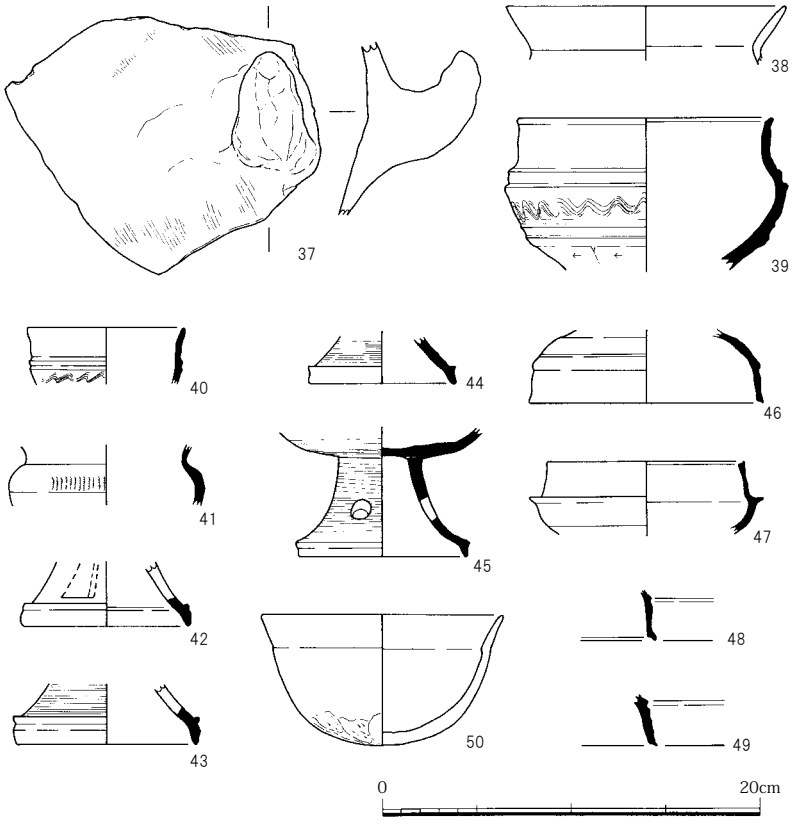


図 12　掘立柱建物およびピット出土遺物
37・38：538 掘立柱建物　39：417 ピット　40 ～ 43：547 掘立柱建物　44:541 掘立柱建物　45:548 掘立柱建物　46:185 ピット　47・48：258 ピット　49：189 ピット　50：082 ピット

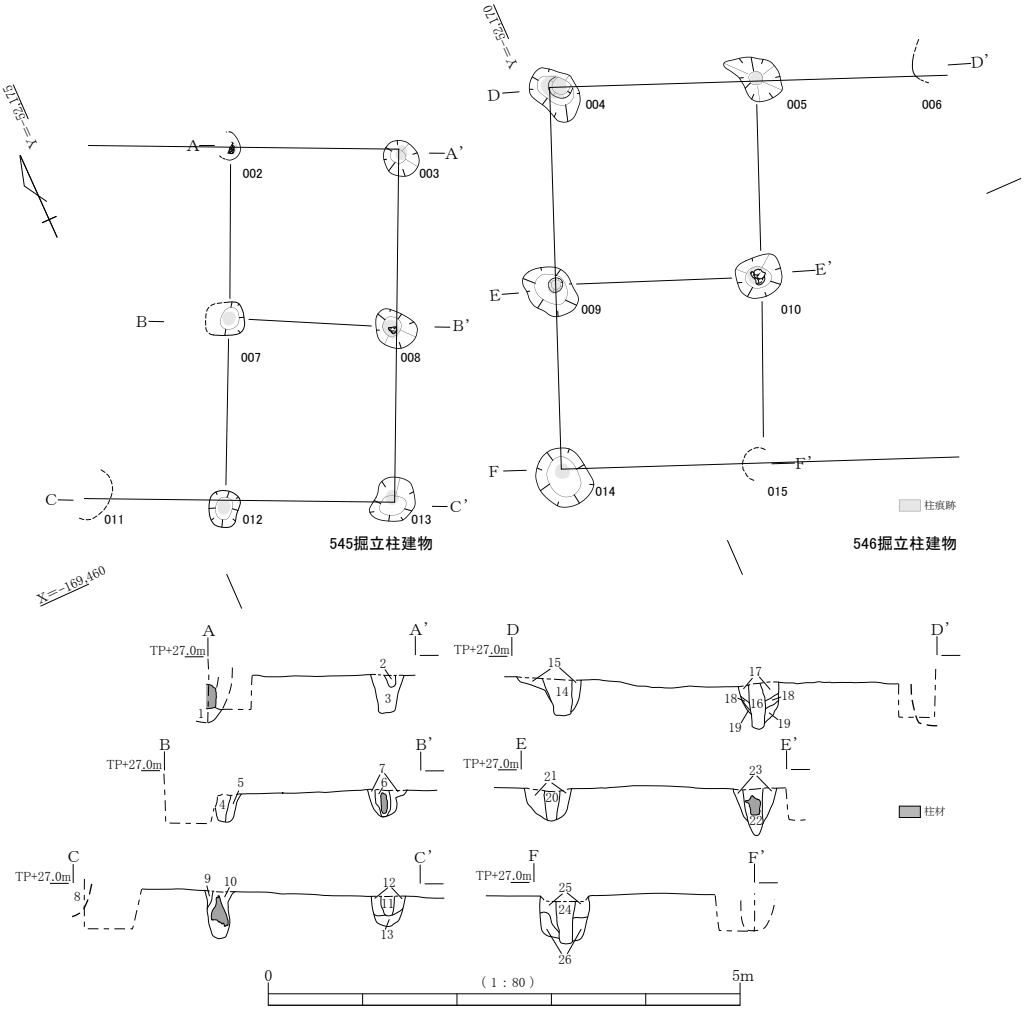
竪穴内東南隅では８層上面において土師器高杯（図９-32）が杯部を伏せた状態で出土した。32 は、口径 15.4cm、杯部高 6.2cm を測り、杯部から口縁部へとゆるやかに移行し、屈曲部には明瞭な屈曲点を持たない。杯部底

面裏側には、刺突痕が認められるなど精製器種Ⅱ群[注1)]の特徴をもつものである。

（２）掘立柱建物

掘立柱建物は、第１調査区北半で２棟、第２調査区北半で４棟、同南半で１棟、第３調査区で３棟を検出した。

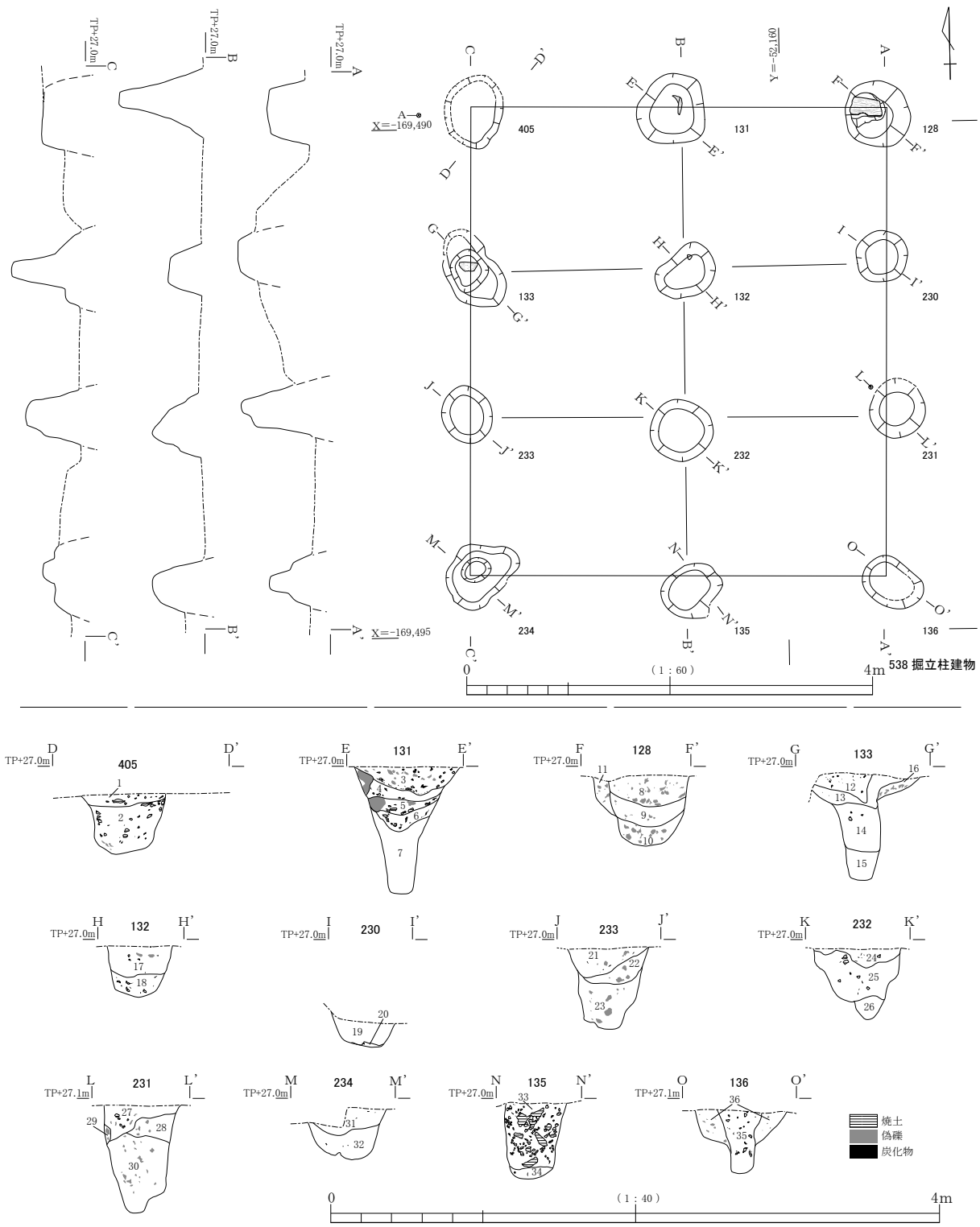
545 掘立柱建物　第１調査区北半で検出した建物である（図 13、図版 13)。北西辺の２本の柱穴が調査区外であるが、梁行２間（3.3m)、桁行２間（3.5m）を測り、方位は北から東へ 24° 振るものと思われる。側柱の交点にそれらと同程度の規模の束柱を持つ。各柱穴で柱痕跡が認められ、一部柱材が遺存するものがあった（本章第３節参照)。



545 建物
1. 5Y3/1 オリーブ灰～ 2/1 黒色砂質シルト　2. 10YR4/2 灰黄褐色砂質シルト　3. 10YR4/4 褐色極細砂（鉄分多く含む）
4. 2.5Y5/2 暗灰黄～ 5/3 黄褐色粘土　5. 2.5Y5/3 黄褐色砂質シルト（鉄分若干含む）　6. 10YR5/2 灰黄色褐粘土
7. 10YR4/2 灰黄褐～ 4/4 褐色砂質シルト　8. 2.5Y4/1 黄灰色砂質シルト（鉄分を多く含む）　9 2.5Y4/2 暗灰黄色シルト
10. 2.5Y5/2 ～ 4/2 暗灰黄色粘土　11. 2.5Y4/1 黄灰色粘土（炭化物を多く含む）　12. 2.5Y5/2 暗灰黄色粘土（炭化物を多く含む）
13. 10YR4/6 褐色粘質シルト

546 建物
14. 10YR4/3 にぶい黄褐色砂質シルト（炭化物若干混じる）　15. 10YR4/4 褐色極細砂　16. 10YR4/4 褐色粘土
17. 10YR5/4 にぶい黄褐～ 5/1 褐灰色シルト　18. 2.5Y4/1 黄灰色粘土　19. 2.5Y5/1 黄灰色粘土　20. 10TR5/3 にぶい黄褐色砂質シルト
21. 10YR4/4 褐色極細砂（鉄分若干含む）　22. 2.5Y4/1 黄灰色砂質シルト　23. 2.5Y4/3 オリーブ褐色粘土　24. 2.5Y4/1 黄灰色極細砂
25. 10YR5/1 褐灰色砂質シルト（鉄分若干含む）　26. N5/ 灰色砂質シルト

図 13　545・546 掘立柱建物平面図および断面図



1．2.5Y5/1 黄灰色シルト質極細砂（炭・焼土をやや多く含む）　2．10YR4/1 灰色シルト（炭・偽礫を含む）　3．5Y4/1 灰褐色細砂（炭・偽礫を多く含む）　4．5Y4/1 灰色極細砂（炭・焼土を少量含む）　5．2.5Y4/1 黄灰色シルト（炭・焼土・偽礫を多く含む）　6．5Y5/1 灰色シルト（炭・焼土を含む）　7．2.5GY5/1 オリーブ灰シルト　8．5Y5/1 灰色粘質極細砂（偽礫を多く含む）　9．5Y4/1 灰色粘質極細砂（炭・偽礫をわずかに含む）　10．5Y5/1 灰色シルト（地山ブロックを多く含む）　11．5Y 5/1 灰色粘質極細砂（地山ブロックを多く含む）　12．5Y5/1 灰色シルト質極細砂（炭・焼土を多く含む）　13．5Y5/2 灰オリーブ色シルト質極細砂（炭・焼土を少量含む）　14．N6/ 灰色シルト（炭・焼土を少量含む）　15．10GY6/1 褐灰色シルト　16．5Y5/2 灰オリーブ色シルト質極細砂（偽礫を多く含む）　17．2.5Y5/1 黄灰色粘質極細砂（炭・偽礫を含む）　18．2.5Y4/1 黄灰色粘質極細砂（偽礫を多く含む）　19．5Y3/1 オリーブ黒色シルト質極細砂　20．10Y5/1 灰色細砂　21．5Y4/2 灰色オリーブ極細砂（炭・偽礫を含む）　22．5Y3/2 オリーブ黒色シルト質極細砂（偽礫を多く含む）　23．5Y4/1 灰色シルト（偽礫を多く含む）　24．10YR5/1 褐灰色シルト質極細砂（炭・焼土を多く含む）　25．2.5Y5/2 暗灰色シルト質極細砂（炭・焼土を多く含む）　26．5Y6/1 灰色極細砂　27．2.5Y5/1 黄灰色シルト質極細砂（炭・焼土・偽礫をやや多く含む）　28．2.5Y4/1 黄灰色シルト質極細砂（炭・焼土・偽礫をやや多く含む）　29．2.5Y6/1 黄灰色極細砂（偽礫を多く含む）　30．2.5Y4/1 黄灰色極細砂（炭・焼土・偽礫を少量含む）　31．2.5Y5/1 黄灰色シルト質極細砂（炭をやや多く含む）　32．2.5Y6/1 黄灰色シルト質極細砂（炭を少量含む）　33．10YR4/2 灰黄褐色シルト質極細砂（焼土を多く含む）　34．7.5Y6/1 灰色シルト質極細砂（炭・焼土をわずかに含む）　35．10YR5/1 褐灰色シルト質極細砂（炭・焼土を多く含む）　36．2.5Y 5/2 暗灰黄色極細砂（偽礫をやや多く含む）

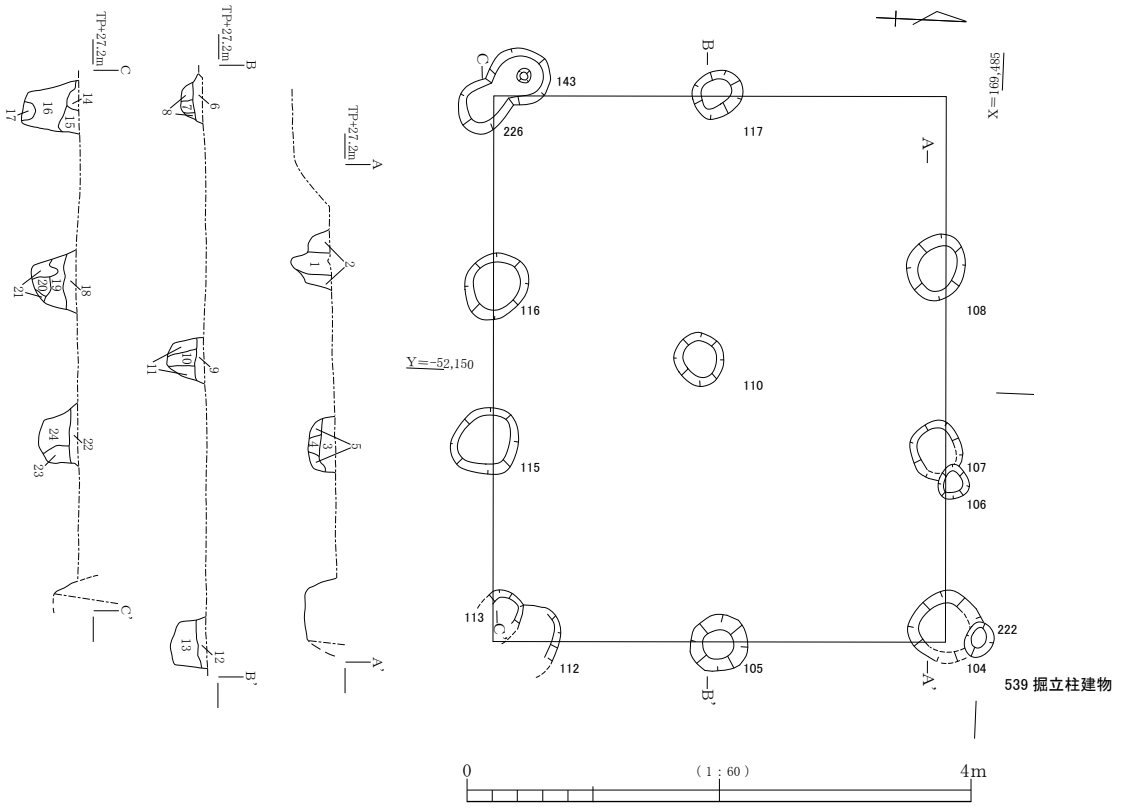
図 14　538 掘立柱建物平面図および断面図

546 掘立柱建物　545 建物の東側に位置する建物である（図 13、図版 13)。東辺の２本の柱穴が調査区外に位置するが、梁行２間（3.9m 程度)、桁行２間（4.0m）を測り、方位は北から東へ 21°振るものと思われる。側柱の交点にそれらと同程度の規模の束柱を持つ。各柱穴で柱痕跡が認められ、一部柱材が遺存するものがあった。

538 掘立柱建物　第２調査区北半で検出した梁行２間（4.1m)、桁行３間（4.7m）の建物で、方位は北へ 0°である（図 14、図版 14)。柱掘方は 0.5 ～ 1.25m と深く、131・128・133 ピットでは、底面において礎板が検出された。側柱の交点には、それらと同規模の柱穴が認められることから、総柱の高床式倉庫の可能性が高い。

断面観察からは、いずれの柱穴も柱痕跡をとどめておらず、柱は抜き取られたものと考えられる。また、抜き取り跡には、多量の焼土・炭とともにシルト質極細粒砂が堆積していた（図版 15)。焼土内部には、植物枝茎の痕跡が認められ、火を強く受けた部分から弱い部分までが一塊の中でグラデーションをなしている（原色図版５)。火を受けた近隣の建物の土壁片などを抜き取り跡のくぼみへ廃棄したものかと思われる。

この建物を構成する 131 ピットから、土師器鍋（図 12-37）が出土している。法量は不明であるが、やや扁平化した把手を持ち、外面にはハケメ調整をとどめる。鍋としては、土師器化が進んでいるため須恵器編年でいえば、Ⅰ－３～４型式に属するものと思われる。135 ピットからも



1. 2.5Y5/2 暗灰黄色シルト　2. 10YR5/2 灰黄褐色極細砂　3. 2.5Y5/2 暗灰黄色極細砂　4. 2.5Y5/1 黄灰色粘質極細砂　5. 2.5Y5/1 黄灰色極細砂（偽礫を含む）
6. 2.5Y5/1 黄灰色極細砂　7. 2.5Y4/2 暗灰黄色粘質極細砂 8. 2.5Y5/2 暗灰黄色極細砂　9. 10YR5/1 褐灰色極細砂　10. 10YR5/1 褐灰色粘質極細砂
11. 10YR4/1 褐灰色極細砂　12. 10YR4/1 褐灰色極細砂　13. 10YR4/1 褐灰色粘質極細砂（炭・土師器を少量含む）　14. 5Y5/2 灰オリーブ色極細砂
15. 2.5Y5/1 黄灰色極細砂　16. 2.5Y4/1 黄灰色粘質極細砂　17. 10YR5/1 褐灰色粘土　18. 10YR4/2 灰黄褐色極細砂　19. 10YR5/1 褐灰色極細砂
20. 2.5Y5/1 黄灰色シルト　21. 10YR4/1 褐灰色極細砂　22. 2.5Y5/2 暗灰黄色極細砂　23. 2.5Y5/1 黄灰色粘質極細砂　24. 2.5Y4/2 暗灰黄色極細砂

図 15　539 掘立柱建物平面図および断面図

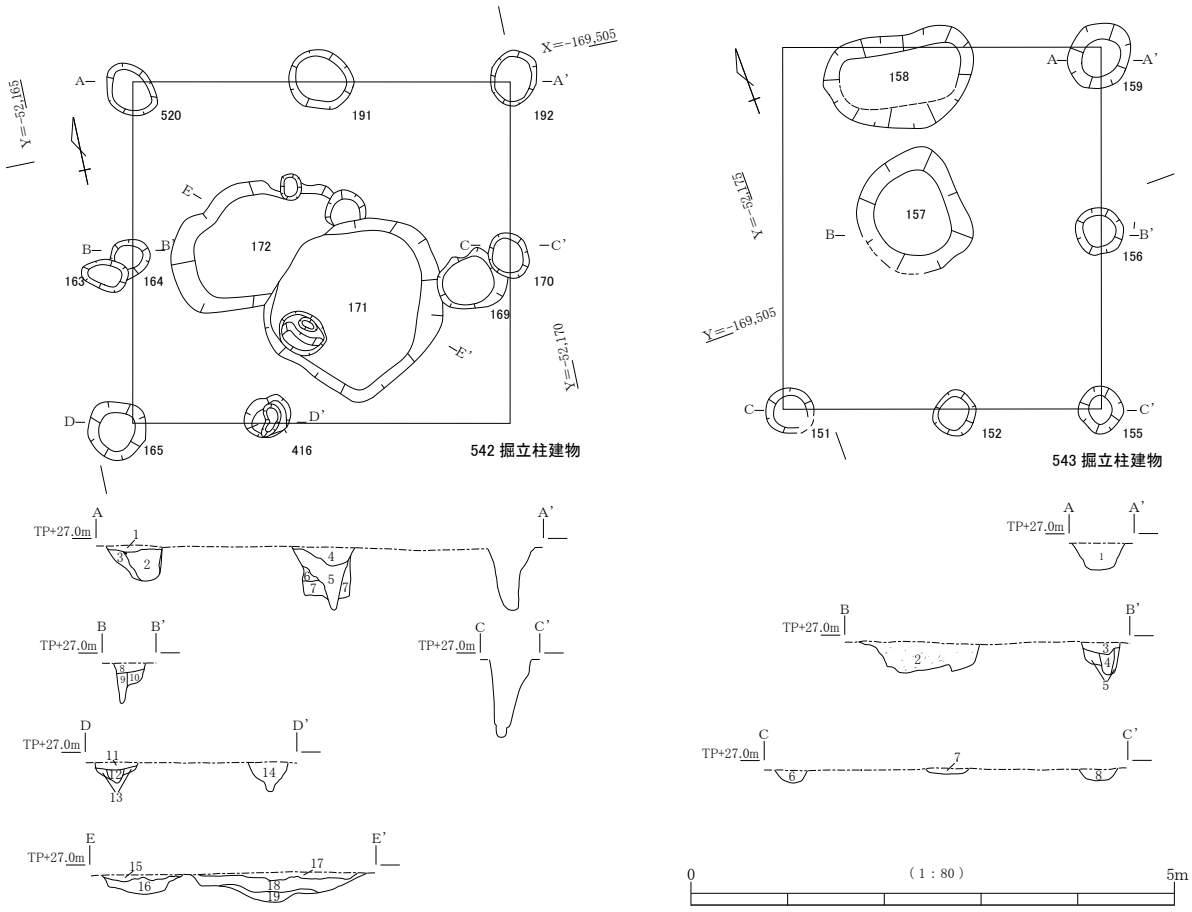
土師器甕口縁部片（38）が出土している。くの字状を呈し、口径は 14.6cm を測る。

539 掘立柱建物　第２調査区北半で検出した梁行２間（3.6m）、桁行３間（4.3m）の建物で、方位は北から東へ２°振る（図 15、図版 16）。基本的には側柱建物と思われるが中央に１基のピットが検出された。

542 掘立柱建物　第２調査区北半で検出した梁行２間（3.5m）、桁行２間（3.9m）の建物で、方位は北から東へ 11°振る（図 16、図版 17）。東南隅の柱穴は、調査区外に当たる。東辺の柱穴の深さは、検出面から 0.8m 程度と非常に深いが、柱材は抜き取られたものと思われる。

建物内で 171・172 土坑を検出した。いずれも不整形なプランをとり、炭や偽礫を含む埋土をもつものである。建物との直接的な前後関係は分からないが、542 建物に伴う施設の可能性も考えておくべきであろうか。

543 掘立柱建物　第２調査区北半で検出した梁行２間（3.3m）、桁行２間（3.7m）の建物で、方位は北から東へ 19°振る（図 16、図版 17）。西北辺の柱穴は撹乱によって失われている。また、



1. 10YR6/2 灰黄褐色極細砂　2. 10YR4/2 灰黄褐極細砂　3. 10YR5/3 にぶい黄褐色極細砂　4. 10YR4/3 にぶい黄褐色極細砂（炭・土師器を含む）　5. 10YR 4/1 褐灰色シルト（炭・土師器を含む）　6. 10YR5/2 灰黄褐色細砂　7. 10YR4/1 褐灰色シルト（炭を少量含む）　8. 10YR4/4 褐色極細砂（偽礫を含む）　9. 10YR 4/2 灰黄褐色シルト　10. 10YR4/3 にぶい黄褐色極細砂　11. 10YR5/2 灰黄褐色極細砂　12. 10YR4/1 褐灰色粘質極細砂　13. 10YR4/2 灰黄褐色極細砂 14. 10YR5/1 褐灰色極細砂（須恵器を含む）15. 10YR5/1 褐灰色極細砂（炭を少量含む）　16. 10YR4/1 褐灰色極細砂（炭を少量含む）17. 10YR5/1 褐灰色極細砂（炭を少量含む）　18. 10YR4/1 褐灰色極細砂（炭を少量、偽礫をわずかに含む）19. 10YR5/1 褐灰色極細砂（炭を少量、偽礫をやや多く含む）

1. 10YR4/2 灰黄褐色極細砂
2. 10YR4/2 灰黄褐色極細砂（炭・偽礫を多く、土師器を少量含む）
3. 10YR4/2 灰黄褐色極細砂（炭を少量含む）
4. 10YR3/2 黒褐色シルト
5. 10YR5/2 灰黄褐色極細砂（炭をやや多く含む）
6. 10YR3/2 黒褐色極細砂（炭を少量含む）
7. 10YR5/2 灰黄褐色極細砂
8. 10YR4/1 褐灰色極細砂

図 16　542・543 掘立柱建物平面図および断面図

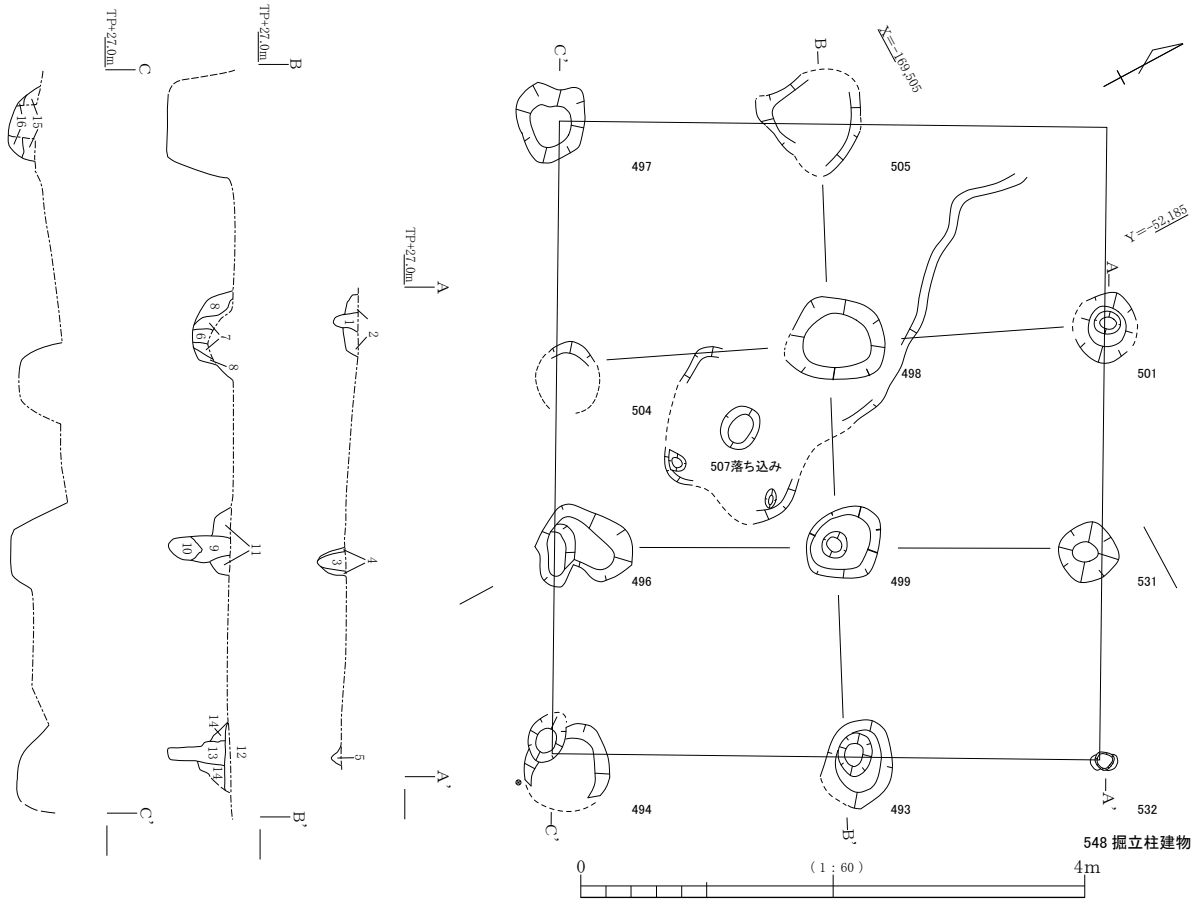
542 建物と同様に建物内において、炭や偽礫によって埋まった土坑２基を検出した。これらについても、543 建物との関係を検討すべきと思われるが、北側の 158 土坑については、建物北辺の柱穴が位置するはずの場所にあたっており、これに後出するものと思われる。

548 掘立柱建物　第２調査区南半で検出した梁行２間（4.2m）、桁行３間（5.2m）の建物で、方位は北から東へ 26° 振る（図 17、図版 18）。側柱の交点には、それらと同規模の柱穴が認められることから、総柱の高床式倉庫の可能性が高い。

いずれの柱穴でも褐灰色粘土に置き換わった柱痕跡が明瞭に認められた。掘り方は、検出面からの深さ 0.5m 程度と 538 建物に比べると浅いが、これは 538 建物が下層（第２面）流路側縁の微低地上にあたるのに対し、548 建物は、同じ流路が形成した礫からなる微高地上に位置するという、基盤層の差に起因するものと考えられる。

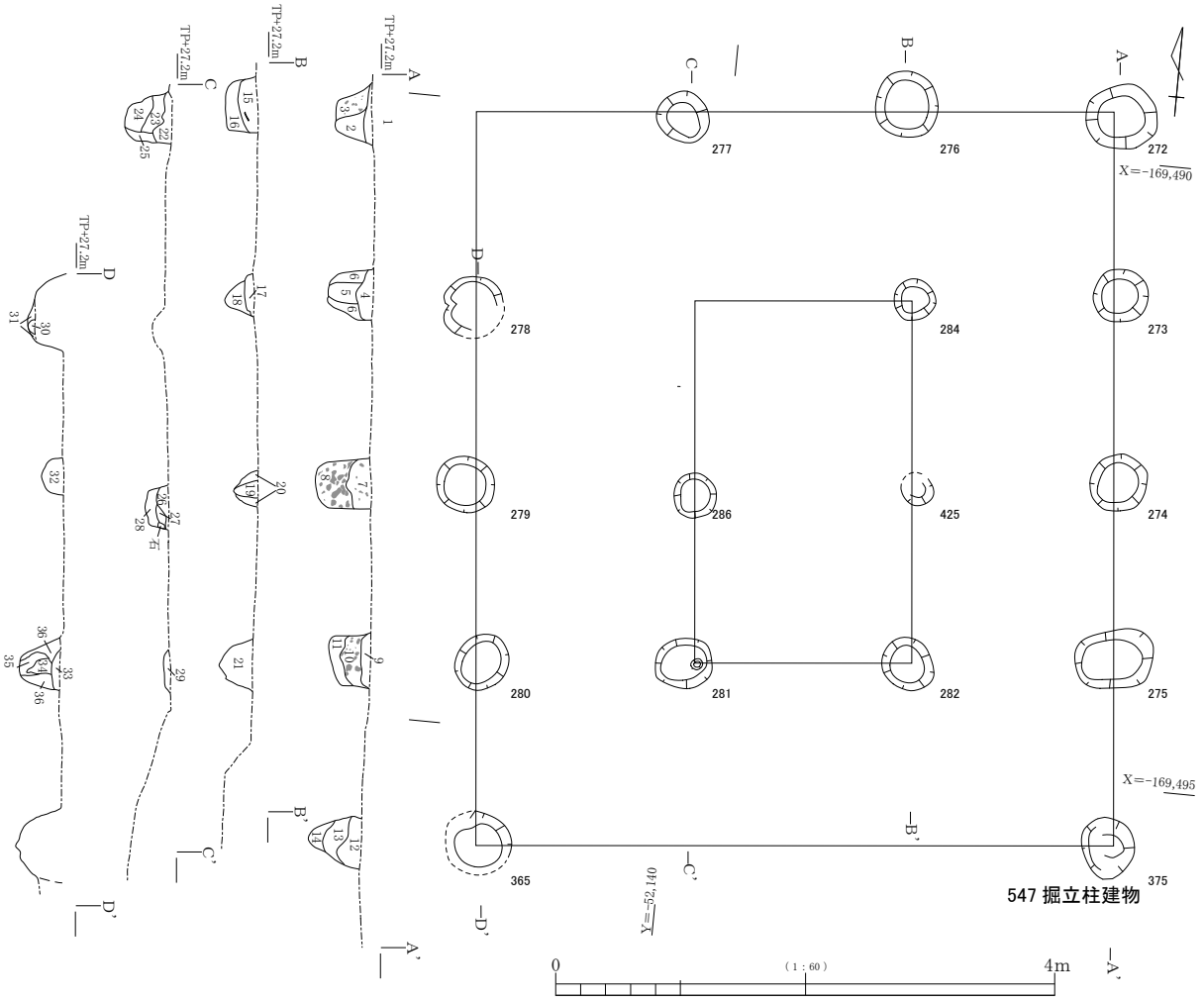
建物内で 507 落ち込みを検出した。不整形なプランをもち、埋土に土器をやや多く含むものであり、548 建物の床下利用に伴う施設の痕跡という可能性も考慮しておきたい。

この建物を構成する 498 ピットの上層からは、須恵器高杯脚部片（図 12-45）が出土している。底径 8.8cm、脚部高 6.9cm を測り、円形透かし孔が穿たれている。これにより本建物はⅠ－３～



1. 10YR5/1 褐灰色粘土　2. 2.5Y6/1黄灰シルト質極細砂　3. 10YR5/1 褐灰色粘土　4. 10YR7/1 灰白色シルト質極細砂　5. 10YR6/1 褐灰色粘土
6. 2.5Y6/1 黄灰色粘土　7. 2.5Y5/1 黄灰色シルト質極細砂　8. 2.5Y6/2灰黄色極細砂　9. 10YR6/1 褐灰色粘土　10. 2.5Y5/1 黄灰色粘土
11. 10YR5/2 灰黄褐色極細砂　12. 10YR6/1 褐灰色極細砂　13. 10YR5/1 褐灰色粘土（わずかに土師器を含む）
14. 10YR6/1 褐灰色シルト質極細砂　15. 5Y7/1 灰白色シルト質極細砂　16. 2.5Y6/1 黄灰粘土（偽礫を少量含む）

図 17　548 掘立柱建物平面図および断面図



1. 7.5Y6/1 灰色シルト質極細砂（酸化が強い）　2. 7.5Y6/1 灰色シルト質極細砂　3. 7.5Y5/1 シルト質極細砂（偽礫を少量含む）
4. 2.5GY7/1 明オリーブ灰色シルト質極細砂　5. 5Y5/1 灰色シルト質極細砂　6. 5Y6/1 灰色シルト質極細砂　7. N6/ 灰色極細砂（偽礫をやや多く含む）
8. 5Y5/2 灰オリーブシルト質極細砂（偽礫をきわめて多く含む）　9. 10YR6/1 褐灰色極細砂　10. 10YR5/1 褐灰色シルト質極細砂（偽礫を多く含む）
11. 10YR5/1 褐灰シルト質極細砂（炭を少量含む）　12. 2.5Y6/1 黄灰色シルト質極細砂　13. 10YR6/1 褐灰色極細砂　14. 5Y5/1 灰色シルト質極細砂
15. 2.5Y5/2 暗灰黄色極細砂（土師器を少量含む）　16. 5Y5/1 灰色極細砂（須恵器・土師器を少量含む）　17. 2.5Y5/2 暗灰黄色極細砂
18. 2.5Y5/1 黄灰色シルト質極細砂（炭・土師器を少量含む）　19. 2.5Y4/1 黄灰色極細砂（わずかに炭を含む）
20. 2.5Y5/1 黄灰色極細砂（炭・土師器をごくわずかに含む）　21. 2.5Y5/2 暗灰黄色極細砂（炭・土師器を少量含む）　22. 2.5Y6/2 灰黄色極細砂
23. 2.5Y6/1 黄灰 7 極細砂　24.10YR4/1 褐灰シルト質極細砂　25. 10YR5/1 褐灰シルト質極細砂　26. 2.5Y6/2 灰黄色極細砂（土師器を少量含む）
27. 10YR6/2 灰黄褐色細砂　28. 7.5Y4/1 黄灰色極細砂　29. 5Y6/1 灰色極細砂　30. 7.5Y6/1 黄灰色シルト質極細砂　31. 2.5Y5/1 黄灰色シルト質極細砂
32. 10TR5/2 灰褐色シルト質極細砂　33. 10YR5/1 褐灰色極細砂（わずかに土師器を含む）　34. 10YR4/2 灰黄褐色シルト質極細砂
35. 2.5Y4/1 黄灰色シルト質極細砂　36. 10YR5/2 灰黄褐色シルト質細砂

図 18　547 掘立柱建物平面図および断面図

４型式には廃絶したものと考えられる。

547 掘立柱建物　第３調査区で検出した梁行３間（5.2m）、桁行４間（5.8m）の建物で、方位は北から西へ５°振る（図 17、図版 19・20）。側柱内側の交点にも柱穴が並ぶが、これらの掘り方はいずれも検出面から 0.15 ～ 0.2m と浅く、床束として立てられたものと考えられる。このことから本建物は、揚床あるいは高床の住居などの利用が考えられる。柱穴には、柱痕跡が認められるものと抜き取り痕に偽礫を含む埋土が充填されたものとがある。

この建物を構成する 272 ピット、276 ピット、365 ピットから椀（図 12-40）、甕（41）、高杯脚部片（42・43）が出土した。272 ピット出土の 41 は、甕の肩部から頸部にあたるもので、頸部径 8.6cm を測る。体部最大径に対して頸部径が大きいことから、Ⅰ型式４段階以降に降る可能性が高い。断面観察より 272 ピットの柱は抜き取られたものと考えられることから、547 建物は、

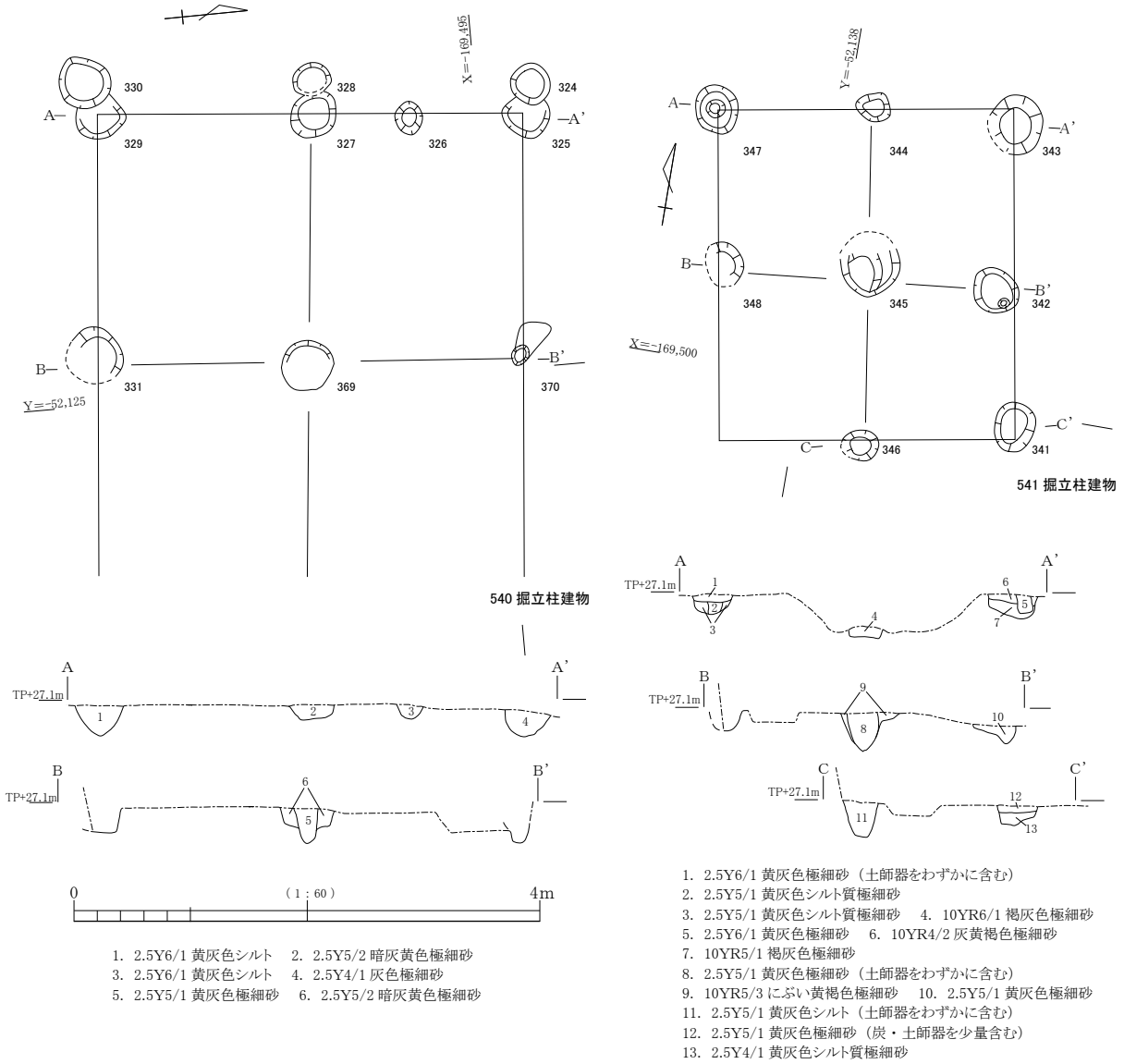


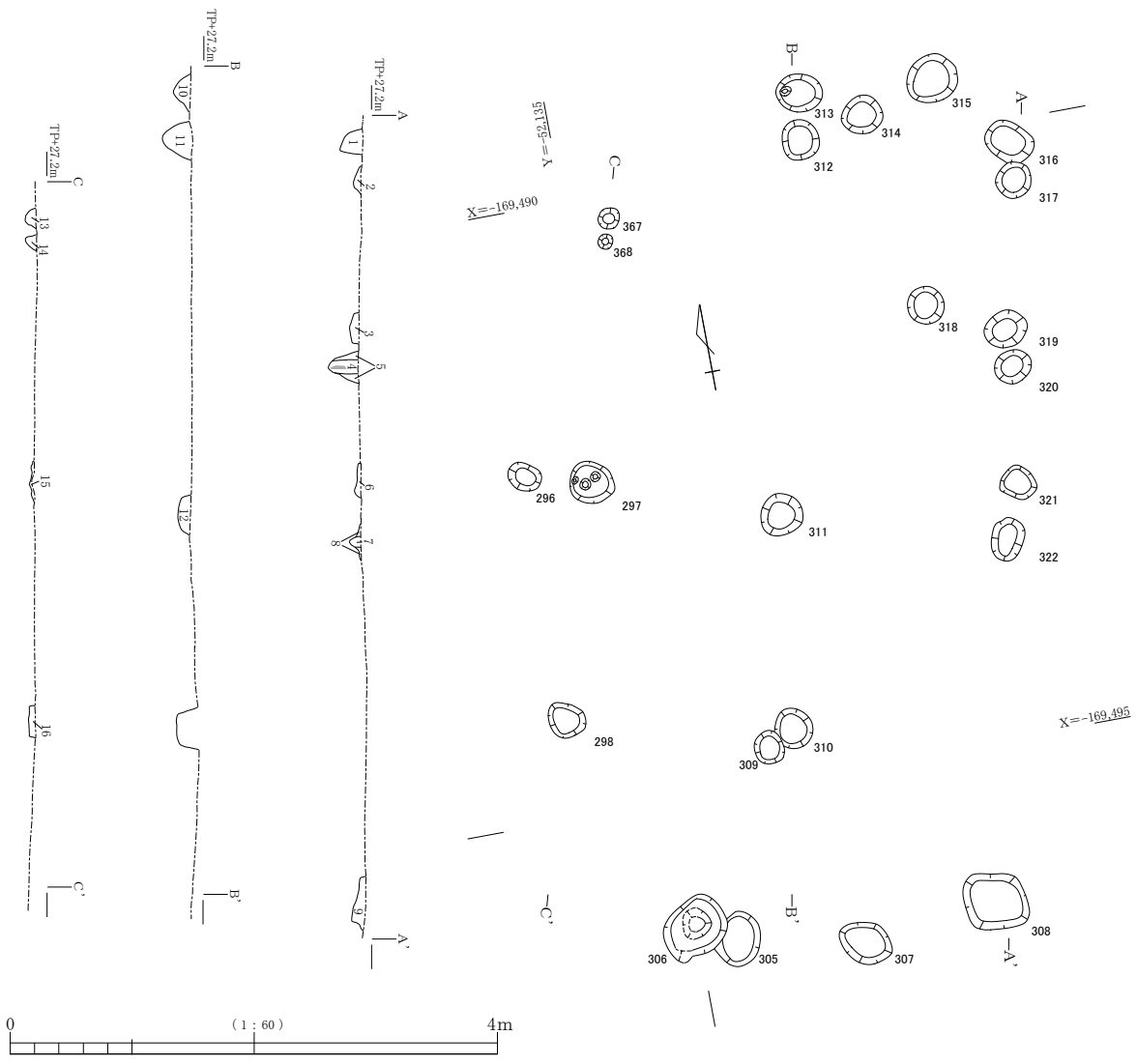
図 19　540・541 掘立柱建物平面図および断面図

この段階以前に機能したものと思われる。

540 掘立柱建物　第３調査区東辺で検出した建物である（図 19）。東辺は調査区外にあたるが、梁行２間（3.6m）、桁行２間以上（2.1m 以上）で、方位は北から東へ４°振るものと思われる。側柱の交点にそれらと同程度の規模の束柱を持つ。

表２　寺田遺跡第３次調査検出掘立柱建物等一覧

遺構名	形式	桁（間）	梁行（間）	桁行長（m）	梁行長（m）	面積（m2）
545 建物	総柱	2	2	3.5	3.3	11.6
546 建物	総柱	2	2	4	3.9	15.6
538 建物	総柱	3	2	4.7	4.1	19.3
539 建物	側柱	3	2	4.3	3.6	15.5
542 建物	側柱	2	2	3.9	3.5	13.7
543 建物	側柱	2	2	3.7	3.3	12.2
548 建物	総柱	3	2	5.2	4.2	21.8
547 建物	側柱	4	3	5.8	5.2	30.16
540 建物	総柱	2	2		3.6	
541 建物	総柱	2	2	2.8	2.5	7
552 ピット群	平地式？			6?	3.5?	21?



1. 5Y5/1 灰色極細砂　2. 5Y6/1 灰色極細砂　3. 5Y6/1 灰色極細砂　4. 7.5Y5/1 灰色シルト質極細砂　5. 2.5Y6/2 灰黄色極細砂　6. 5Y5/1 黄灰色極細砂
7. 2.5Y5/1 黄灰色細砂　8. 2.5Y6/1 黄灰色極細砂　9. 2.5Y6/1 黄灰色極細砂（土師器をわずかに含む）　10. 2.5Y6/3 にぶい黄色極細砂
11. 2.5Y5/1 黄灰色シルト質極細砂　12. 2.5Y6/1 黄灰色極細砂　13. 2.5Y5/2 暗灰黄色極細砂　14. 2.5Y5/2 暗灰黄色極細砂　15. 2.5Y5/2 暗灰黄色極細砂
16. 2.5Y6/1 黄灰色極細砂

図 20　552 ピット群平面図および断面図

541 掘立柱建物　第３調査区で検出した建物である（図 19）。梁行２間（2.5m）、桁行２間（2.8m）で、方位は北から西へ 10°振るものと思われる。側柱の交点にそれらと同程度の規模の束柱と考えられるピットを持つ。この建物を構成する 345 ピットから高杯脚部片（図 12-44）が出土した。底径 8.4cm を測る。

552 ピット群　第３調査区 547 建物の東側で検出した遺構である（図 20）。南北 6.0m、東西 3.5m 程度の範囲に多数のピットが並ぶ。柱筋は通らないが矩形を呈することから、平地式建物の可能性が考えられる[注2)]。長方形の範囲の方位は北から東へ 7°振る。ピットはいずれも浅く、布堀溝などは認められなかった。

その他のピット出土遺物　そのほかピット出土遺物として、39（417 ピット）、46（185 ピット）、47・48（258 ピット）、49（189 ピット）、50（082 ピット）を図化した（図 12）。

39 は、須恵器椀でかなり大型であるが、形態的には把手が付くものと思われる。小型のもの

同様に体部の突線による区画の内部に波状文を施す。体部下半にはヘラケズリの痕跡が認められる。46・48・49 は、須恵器杯蓋でいずれも天井部と口縁部の境界の稜はやや甘く、端部は内傾する凹面をもつ。46・48 の口縁部はなだらかに湾曲して下がるのに対し、49 ではやや下外方にのびる。47 は、須恵器杯身でたちあがりはやや高く内上方にのび、端面はわずかに内傾する凹面をなす。50 は、土師器鉢で口径 12.7cm、器高 6.9cm を測る。やや深い体部はケズリによって丸底に仕上げられ、口縁部は短く外上方へのびる。庄内式期～古墳時代前期に属するものと思われる。

（３）溝

溝は、第１調査区南半で１条、第２調査区北半で４条、同南半で７条、第３調査区で１条を検出した。多少の差はあるが、方向としてはおおむね東から西へ向かうものからなる。

018 溝　第１調査区南半で検出した、東南から北西へのびる溝である（図 21、図版 21 ～ 23）。東南端は調査区外にあたり、西北端で 016 流路につながる。主軸方位はおおむね北から 21° 西へ振る。検出長 6.9m、最大幅 0.98m を測る。断面形は浅い逆三角形からＶ字形を呈し、深さは検出面から 0.3m 前後を測る。埋土は、炭・土器を含む砂質シルト主体の細粒物質で開放状態の溝内に周囲から流入したものと考えられる。

埋土中にも若干の土器は含まれているが、溝底面において多数の完形品を含む土器群を検出した。土器は、須恵器杯蓋、杯身、高杯、椀、瑞、壺、土師器高杯、甑（鍋）、甕からなる（図 22-51 ～ 78）。

杯蓋（51 ～ 57）は口径 12.7 ～ 14.4cm、器高 4.0 ～ 4.7cm 程度で、天井部が平らなもの（51 ～ 53）と、口径 12.0 ～ 13.3cm、器高 3.9 ～ 4.4cm 前後で天井部がやや丸みをもつもの（54 ～ 57）とに分けられる。前者の口縁部は下外方へ開き気味であるのに対し、後者では直下へとのびる。天井部と口縁部の境界の稜はやや甘いものが多いが、外側方へ

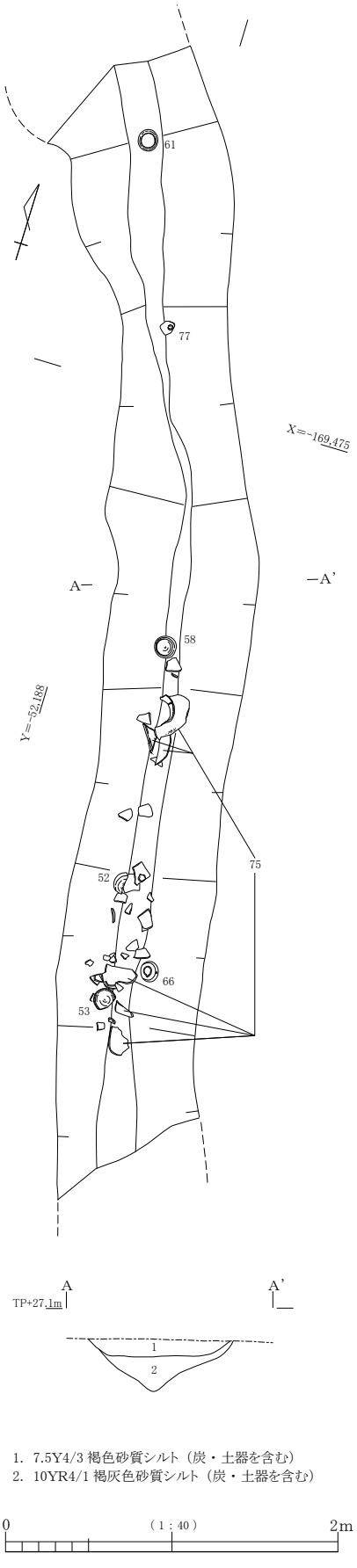


図 21　018 溝平面図および断面図

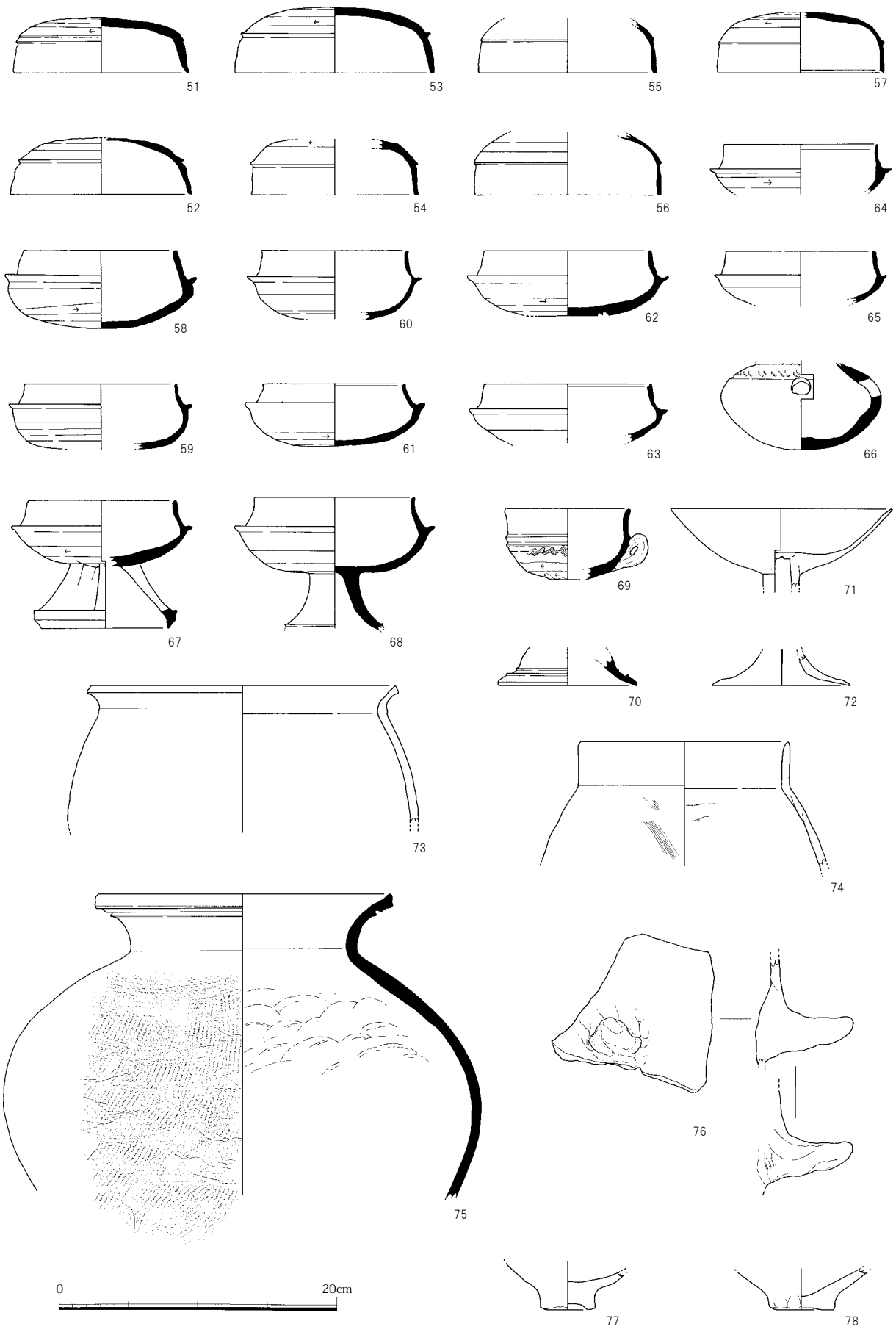


図 22　018 溝出土遺物

突出させたもの（53）もある。口縁端部は、丸くおさめるもの（51）、わずかに内傾する平坦面をなすもの（52）、ほぼ水平な平坦面をなすもの（53 ～ 56）、内傾する凹面をなすもの（57）がある。

杯身(58 ～ 65)は口径 10.2 ～ 12.0cm、器高 3.5 ～ 5.6cm 前後で、底部が深く、丸みをもつもの(58・59）と浅いもの（60 ～ 65）がある。前者の体部最大径位置は、受け部より下位に位置するのに対し、後者のそれは、受け部と一致する。たちあがりは高くやや内傾し、端部は水平な面をもつもの（58・59・62・65）とわずかに内傾する平坦面をもつもの（60・61）、内傾する凹面をもつもの（63・64）とがある。

66 は壺で、扁平な体部中位やや上方に円孔が穿たれ、それに切られる形でやや上位に１条の沈線とヘラ状工具による列点文が施される。頸部は比較的細く、底面および内面には丁寧なナデ調整が施されている。67・68 は、有蓋高杯で脚基部が太く長方形透かしを施すもの（67）と、脚基部が細く透かし孔が認められないもの（68）とがある。ともに立ち上がりは高くやや内傾し、67 の口縁端部はやや内傾する平坦面をなすが、68 の端部幅は著しく狭く水平に近い。また 67 に対して 68 の杯部は径、高さともに大きく、立ち上がり断面の形状をみても供伴した杯身との共通性が高い。70 は、高杯脚部片と思われ、底径 10.0cm を測る。脚端部近くには２条の突線を巡らせるが透かしの有無等は不明である。69 は把手付椀で、口径 9.0cm、器高 5.1cm を測る。体部中位に２条の突帯がめぐり、その下位に波状文が巡る。口縁端部は丸く収め、底部には静止ヘラケズリ調整が施される。

75 は広口壺で、口径 21.1cm、残存高 22.0cm を測る。頸基部は太く、短く外反した口頸部の端部付近には突線が巡らされる。端部は、わずかに上方に拡張され、面をなす。体部外面には、並行タタキが施され、その上にカキメ調整が間隔をもって施される。内面には、ナデ調整が施されるが、上半には、当て具の同心円文をすり消した痕跡が認められる。

71 は土師器高杯で、口径 16.0cm、杯部高 5.7cm とやや浅い。杯部から口縁部へとゆるやかに移行し、屈曲部には明瞭な屈曲点を持たない。杯部底面裏側には、刺突痕が認められる。72 は、高杯脚端部かと思われるもので底径 9.0cm を測る。

73 は、土師器甑あるいは鍋と思われるもので口径 22.0cm を測る。口縁部はくの字状に緩く外反し、端部は面をなす。76 も甑もしくは鍋かと考えられるもので、断面形がやや扁平な把手を伴う。接合は差し込み式であるが切り込みや刺突痕などは認められない。74 は、甕で口径 15.0cm を測る。ハケメ調整を施した寸胴な体部に直立した口縁部を伴うようである。そのほか、突出底の底部２点を図化したが、これらは下位の弥生時代後期～庄内式期の流路埋土から巻き上げられたものである可能性が高い。

以上の遺物から見て 018 溝は、Ⅰ型式２段階から３段階の古相に位置づけられる（中村 1978)。また、埋土の大半について洗浄を行った結果、滑石製臼玉製品 24 点（図 66・67-621 ～ 627・756 ～ 772）が検出された。

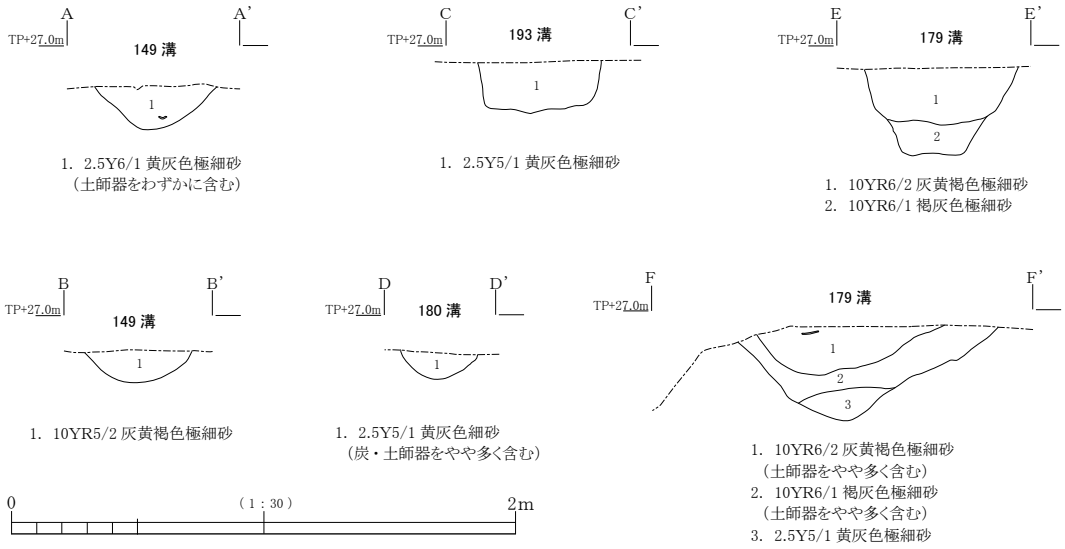
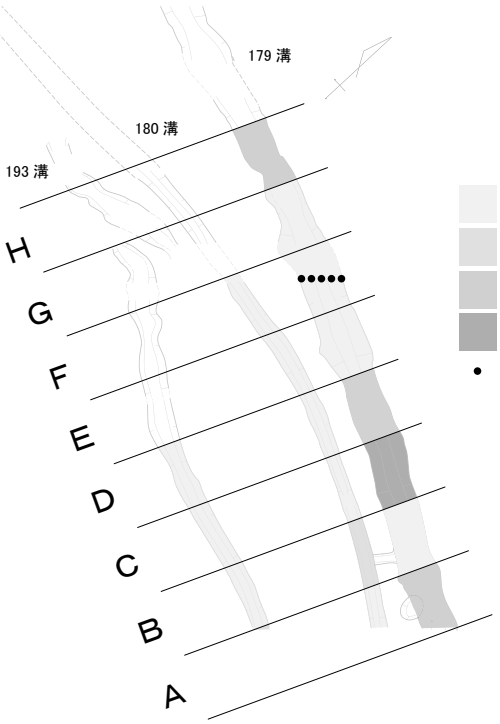


図 23　149・179・180・193 溝平面図および断面図



遺構・地区別土器出土量

遺構・地区	出土土器 重量(g)	出土土器 破片数	出土玉類 臼玉製品
179溝A	491.3	33	
179溝B	55.5	12	
179溝C	1248.7	60	
179溝D	589.6	79	
179溝E	61.3	17	
179溝F	45.5	14	5
179溝G	34.6	9	
179溝H	722.6	59	
180溝A	84.9	16	
180溝B	109.6	18	
180溝C	33.1	5	
180溝D	53.9	3	
180溝E	38	8	
180溝F	16.6	3	
193溝A	194.9	4	
193溝B	33.9	7	
193溝C	56	9	
193溝D	51.1	11	

図 24　179・180・193 溝地区別遺物出土量

179 溝　第２調査区北半で検出した東から西南へのびる溝である（図 23、図版 24)。ほぼ並行する 180・193 溝とともに集落内の区画として機能したものかと思われる。主軸方位はおおむね北から 73° 西へ振る。検出長 19.3m、最大幅 1.2m を測る。断面形は逆台形から浅い逆三角形を呈し、深さは検出面から 0.33 ～ 0.37m を測る。埋土は、土器を含む極細粒砂を主体とする細粒物質で開放状態の溝内に周囲から流入したものと考えられる。

埋土中および溝底面において多数の土器を検出した。また Y=-52,180 付近の埋土中位において緑泥石片岩板材（図 67-792、詳細は本章第３節において後述）が出土した。遺物の取上げに際しては、東から西へ２m ごとの地区割りにしたがってこれを実施した。各地区出土土器の数量を示したものが図 24 である。Ｃ区およびＨ区に多く、上流から下流へと漸減するといった傾向を示さない。また、各地区の埋土をサンプルとして土嚢５袋ずつ採取し、洗浄した結果、Ｆ区から５点の臼玉が検出された（図 67-780 ～ 784)。

以下、出土土器について説明を行うが、各地区において明確な時期差は認めがたいことから、地区を一括した記述とする。

土器は、須恵器杯蓋、杯身、高杯、椀、甕、壺、不明品、土師器甑、甕、鍋からなる（図 25-79 ～ 109)。杯蓋（79 ～ 81）は、口径 10.7 ～ 12.4cm、器高 3.7 ～ 3.8cm 程度を測り、いずれも天井部は平らである。口縁部もいずれも下外方へ開き気味で、天井部と口縁部の境界の稜はやや甘いもの（80)、外方へ突出させるもの（81)、天井部が厚く境界が段をなすもの（79）がある。口縁端部は、丸くおさめるもの（80)、わずかに内傾する平坦面をなすもの（81）がある。79 は、天井部に静止ヘラケズリ調整が施され、口縁部に波状文を巡らすなど、通有の須恵器杯蓋にはみられない特徴を有しているが、他に適切な器種も見当たらないのでひとまず杯蓋としておきたい。

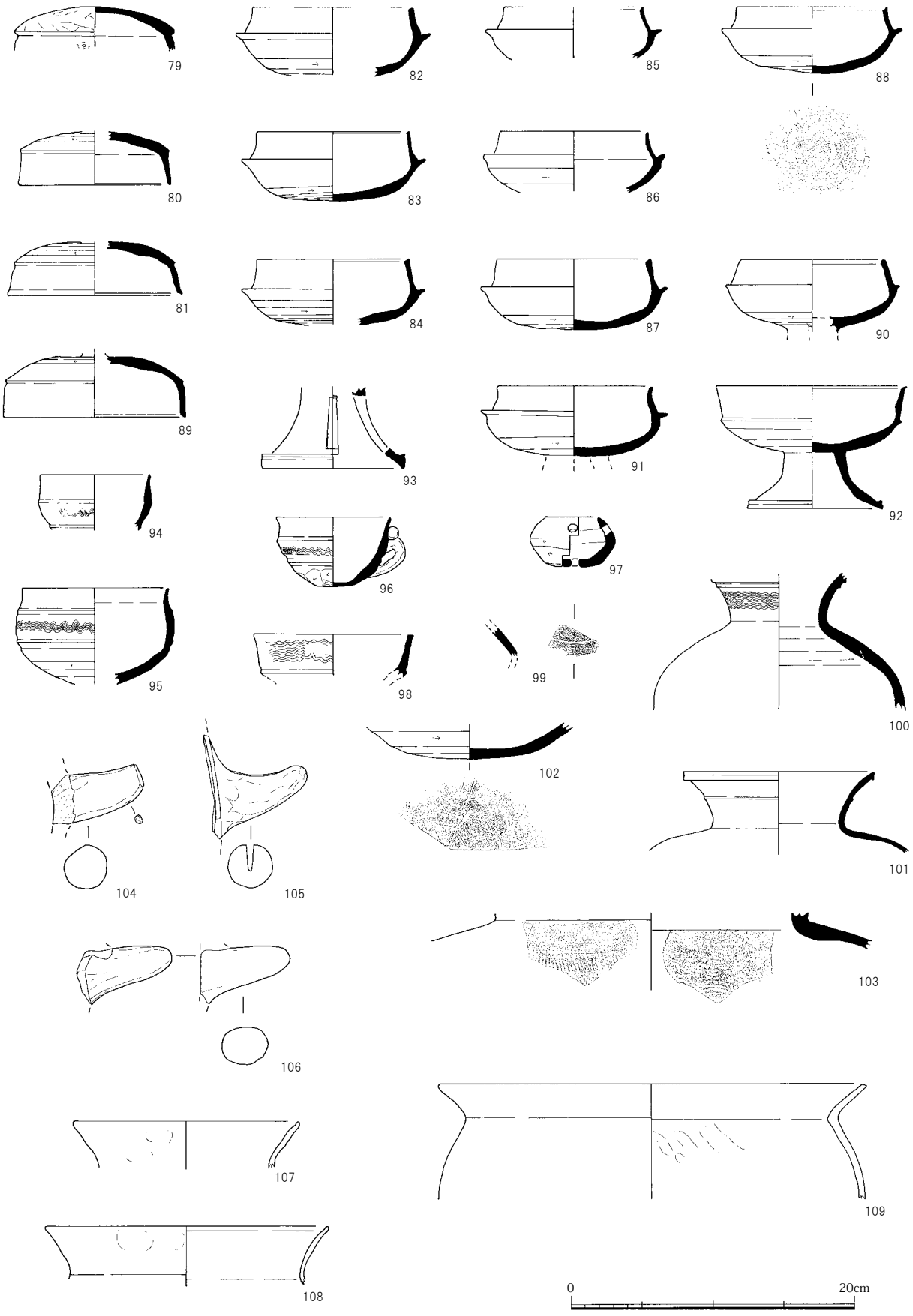


図 25　179・180・193 溝出土遺物

79 ～ 94・96 ～ 98・100 ～ 105・107 ～ 109：179 溝　95・106：193 溝　99：180 溝

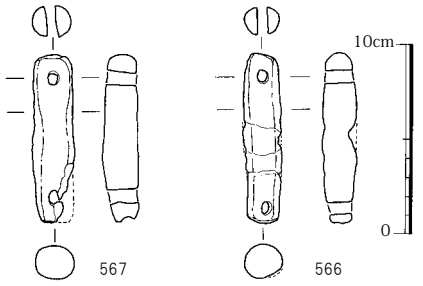


図 26　179 溝出土遺物２

杯身（82 ～ 88）は、口径 9.7 ～ 11.3cm、器高 4.3 ～ 5.0cm 前後で底部がやや深く、丸みをもつものが多い。たちあがりは高くやや内傾するもの（82 ～ 87）とやや短く内傾するもの（88）がある。口縁端部はわずかに内傾する平坦面をもつもの（82 ～ 84）、うすくおさめるもの（86）、内傾する凹面をもつもの（85・87・88）がある。89 は、高杯杯蓋で口径 13.5cm、残存高 8.6cm を測る。天井部はやや丸く、直下へのびる口縁部の端部は、内傾する凹面をなす。

90 は有蓋高杯杯身で、口径 10.0cm、杯部高 5.2cm を測る。受け部の突出は小さく、立ち上がりはやや内傾し、端部は内傾する平坦面をなす。脚部には長方形の透かしが施されたものと思われる。91 も有蓋高杯杯身であり、口径 11.0cm、杯部高 4.9cm を測る。受け部は、外側方へむけて水平に突出し、立ち上がりは内湾気味に内上方へ上がる。端部は丸くおさめており、脚部には円形透かしが施されたものと思われる。92 は小型の無蓋高杯で、口径 13.5cm、器高 8.6cm を測る。杯部は杯蓋を逆転したような形で、底部はやや深く丸みをもち、口縁部はわずかに外反気味に外上方へ立ち上がり、端部は内傾する凹面をなす。脚基部はやや細く、外反して上部をつまみ上げた端部に至る。透かしや突線は認められない。93 は高杯脚部で端部は上下に拡張し、面をもつ。透かしは、長方形で４方向に施されたものと思われる。

94・96 は椀で 94 も本来は把手を持っていた可能性がある。いずれも体部中位を２条の突線によって区画し、その内部に波状文を巡らす。96 の底部には静止ヘラケズリ調整が加えられている。97 は須恵質の不明品で、口径 8.0cm、器高 4.9cm を測る。屈曲の緩い算盤玉状の体部に小さな平底と内傾する口縁を備え、口縁部付近および底部中央に円孔が穿たれている。体部下半はヘラケズリ調整が加えられるが、作りは丁寧である。窯道具かとも考えられるが、灰の付着や土器片の溶着などは認められない。同様の形態の類例（堺市陶器山南遺跡など）に比べて著しく小型であり、その用途には検討の余地を残す。

98 は、壺あるいは甕の口縁部かと思われるもので、口縁部外面に波状文を施す。100・101 は、広口壺で頸部に波状文を施すもの（100）と突線を巡らすもの（101）がある。後者の口縁端部はわずかに上下に拡張され、面をもつ。102 の底面には、複数の沈線が認められるが、記号として加えたというよりは成形に伴ってとどめられた痕跡とみるべきであろう。103 は甕で、頸部径 22.0cm を測る。外面に並行タタキ、内面には当て具の痕跡が認められる。

104・105 は土師器甑（鍋）の把手である。104 は断面円形で接合は差し込み式である。先端に面をもち、端部付近下面に半裁竹管による圧痕をとどめている。105 の上面には、切り込みが加えられている。107・108 は甕口縁部でくの字状に緩やかに外反する。109 は、同じくくの字状に緩やかに外反する口縁をもつもので、頸部径が大きいことから鍋と考えておきたい。566・567 は土師質の棒状土錘で長さ 8.8 ～ 8.9cm、幅 2.0cm、重量は 566 が 34.4g、567 が 39.1g を測り、

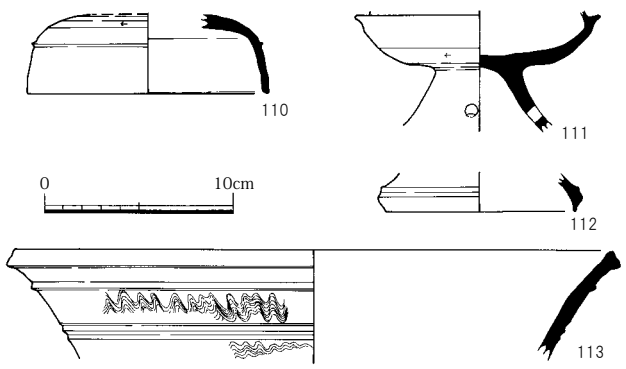


図 27　149 溝出土遺物

ほぼ同じサイズである（図 26）。上下端近くに円孔が穿たれている。

180 溝　179 溝の南側で検出した東から西南へのびる溝である（図 23、図版 24）。主軸方向はおおむね北から西へ 75° 振る。検出長 10.2m、幅 0.27 ～ 0.4m を測る。断面形は、浅い皿状を呈し、深さは 0.1m 前後である。埋土は、土器を含む極細粒砂を主体とする細粒物質で開放状態の溝内に周囲から流入したものと考えられる。179 溝と比較して出土土器は少ないが、埋土から壺かと思われる須恵器小片（図 25-99）が出土した。沈線の上位に綾杉状の列点文が巡らされている。

193 溝　180 溝の南側で検出した東から西南へのびる溝である（図 23、図版 24）。主軸方向はおおむね北から西へ 70° 振る。検出長 10.4m、幅 0.32 ～ 0.6m を測る。断面形は、浅い皿状を呈し、深さは 0.2m 前後である。埋土は、土器を含む極細粒砂を主体とする細粒物質で開放状態の溝内に周囲から流入したものと考えられる。180 溝同様に出土土器は少ないが、埋土から須恵器椀（図 25-95）が出土した。口径 10.2cm と大型で、本来は把手を備えていた可能性が高い。底部には、回転ヘラケズリ調整が施される。ほかに土師器甑（鍋）の把手（106）が出土した。

149 溝　第２調査区北半～南半にかけて北東から西南へのびる溝である（図 23、図版 25）。主軸方向はおおむね北から西へ 94° 振る。検出長 13.1m、幅 0.27 ～ 0.76m を測る。断面形は、浅い皿状を呈し、深さは 0.13 ～ 0.17m である。埋土は、土器を含む極細粒砂を主体とする細粒物質で開放状態の溝内に周囲から流入したものと考えられる。

埋土中および溝底面において複数の土器を検出した（図 27-110 ～ 113）。土器は、須恵器杯蓋、高杯、甕からなる。110 は杯蓋で、口径 12.8cm、器高 4.2cm を測る。天井部はやや浅く、口縁部との境界の稜線はやや甘い。端部は、わずかに内傾する平坦面をなす。111 は有蓋高杯で、やや太い脚部には、小円孔が穿たれている。112 は高杯脚端部で突線を施した下端を拡張している。

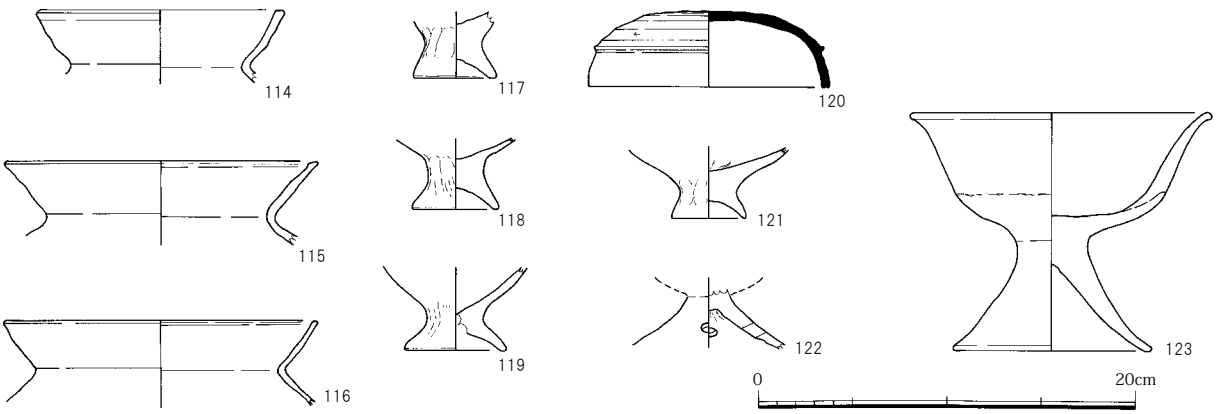
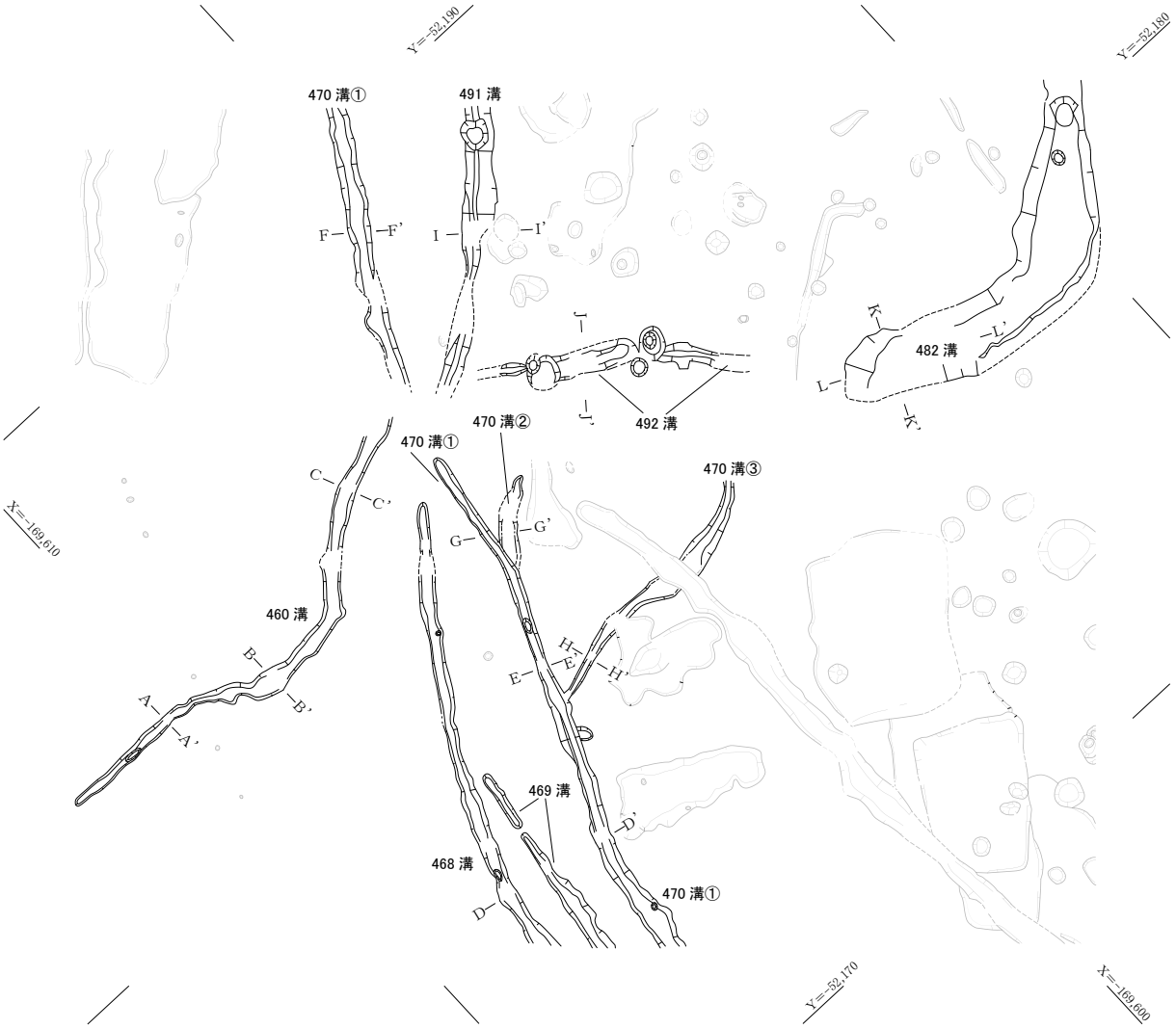


図 28　470・482・491・492 溝出土遺物
114 ～ 115：491 溝　116 ～ 119：492 溝　120・121：470 溝　122・123：482 溝



1. 2.5Y6/1 黄灰色細砂　2. 5Y5/1 灰色極細砂　3. 5Y5/1 灰色極細砂
4. 5Y5/1 灰色極細砂（わずかに土師器を含む）　5. 5Y6/1 灰色極細砂
6. 2.5Y6/1 黄灰色極細砂　7. 10YR5/2 灰黄褐色極細砂
8. 5Y6/1 灰色極細砂　9. 2.5Y6/1 黄灰色極細砂
10. 10YR5/2 灰黄褐色極細砂（土師器を少量含む）
11. 2.5Y6/2 黄灰色極細砂
12. 10YR4/2 灰黄褐色極細砂（わずかに炭・土師器を含む）
13. 10YR5/2 灰黄褐色極細砂

図 29　460・468・470・482・492 溝平面図および断面図

113 は甕口縁部と考えられ、上下に拡張され面をもつ口縁端部の下に突線および波状文からなる装飾が加えられる。

145・147・148 竪穴建物を切っており、これらに後出する遺構である。

460 溝　第２調査区南半で検出した南東から北西へのびる溝である（図 29、図版 25)。蛇行するが、主軸方向はおおむね北から西へ 9° 振る。検出長 10.1m、幅 0.15 ～ 0.53m を測る。断面形は、浅い皿状を呈し、深さは 0.05 ～ 0.1m である。埋土は、細粒砂を中心とするものである。

468 溝　第２調査区南半で検出した東から西へのびる溝である（図 29、図版 25)。主軸方向はおおむね北から西へ 13° 振る。検出長 9.4m、幅 0.23 ～ 0.43m を測る。断面形は、浅い皿状を呈し、深さは 0.15m 前後である。埋土は、極細粒砂を中心とするものである。

469 溝　468 溝の北側で検出した東から西南へのびる溝である（図 29、図版 25)。主軸方向はおおむね北から西へ 82° 振る。検出長 4.3m、幅 0.18 ～ 0.43m を測る。断面形は、浅い皿状を呈し、深さは 0.1m 前後である。埋土は、極細粒砂を中心とするものである。.

470 溝　469 溝の北側で検出した東から西南へのびる溝である（図 29、図版 25)。調査区東端から 3.7m 南西へ進んだところで 470 溝③に分岐し（本流を 470 溝①とする)、さらに 1.6m 進んだところで 470 溝②に枝分かれする。そこから 1.7m 進んだところで浅くなり、肩が立ち上がるが、さらに西側の撹乱をこえた地点にもこれと同じ主軸をもつ溝があり、埋土等の特徴も類似することから、これを 470 溝①の延長と考える。

470 溝①は、検出長 18.6m、幅 0.19 ～ 0.61m を測り、主軸方向はおおむね北から西へ 70° 振る。470 溝②は、検出長 1.75m、幅 0.12 ～ 0.41m を測り、主軸方向は北から西へ 39° 振る。470 溝③は、検出長 5.6m、幅 0.14 ～ 0.5m を測り、主軸方向は北から西へ 9° 振る。断面形は、浅い皿状を呈し、深さは 0.05 ～ 0.12m 前後である。埋土は、極細粒砂を中心とするものである。

埋土から須恵器蓋杯（図 28-120)、製塩土器（121）が出土した。120 は口径 12.7cm、器高 4.0cm を測り、天井部はやや丸く、口縁部との境の稜はやや甘い。口縁端部は、水平な平坦面をなす。製塩土器は、積山分類Ｄ類で蓋杯との年代に隔たりがあるため、下層流路埋土からの巻き上げと考えるべきであろう。

482 溝　第２調査区北半で検出した溝で西端は調査区外にあたる（図 29、図版 26)。調査区端から 4.0m ほど東へ進んだところで南東へ折れ曲がり、4.8m ほどのびたところで肩が立ち上がる。幅 0.76 ～ 1.79m を測る。断面形は、浅い皿状を呈し、深さは 0.21 ～ 0.43m を測る。埋土は、極細粒砂中心で、かなり土壌化の進んだ堆積である。埋土から、土師器高杯（図 28-122・123)が出土した。122 はいわゆる庄内系椀型高杯で精緻な胎土をもつ。123 は、口径 16.6cm、器高 12.6cm を測るもので、杯部の屈曲が甘く、脚もゆるやかに開く点など特異な形態である。

491 溝　第２調査区南半で検出した、東西方向へのびる溝である（図 29、図版 27)。調査区西端から 5.7m 東へのびた地点で撹乱にあたり、その先では検出されなかった。主軸方位はおおむね北から 41° 西へ振る。検出長 5.7m、幅 0.52 ～ 0.72m を測る。断面形は逆台形～Ｖ字形を呈し、

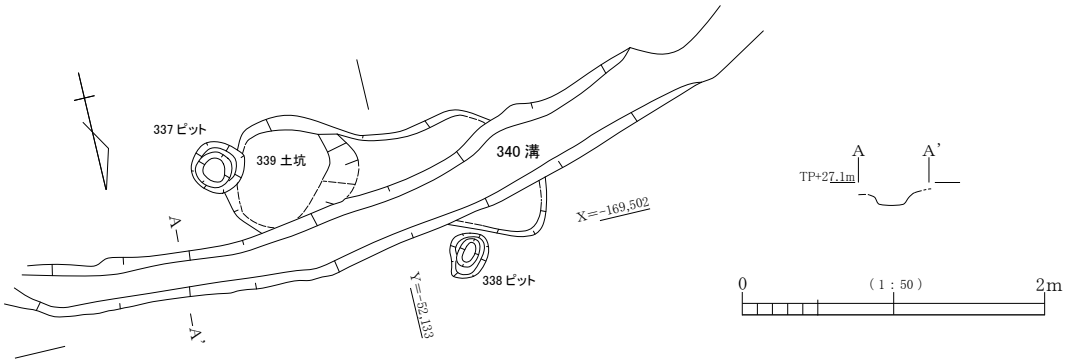


図 30　340 溝平面図および断面図

深さは検出面から 0.26m 前後を測る。埋土は、土器を含む極細粒砂を主体とする細粒物質で開放状態の溝内に周囲から流入したものと考えられる。埋土から布留甕口縁部（図 28-114・115）が出土しており、古墳時代前期後葉～末の年代が与えられる。

492 溝　第２調査区南半で検出した、南北方向へのびる溝である（図 29、図版 27）。撹乱が著しく、全形が把握しづらいが 491 溝の東端付近から北へ 4.48m ほどを検出した。主軸方位はおおむね北から 38° 東へ振る。検出位置の高い場所では幅 0.5m 前後を測る。断面形はＶ字形を呈し、深さは検出面から 0.45m 前後を測る。埋土は、土器を含む細粒物質で開放状態の溝内に周囲から流入したものと考えられる。埋土から、布留甕口縁部（図 28-116）および製塩土器（117 ～ 119）が出土している。製塩土器は、積山氏分類のＤ類にあたり、布留甕の年代と整合的である。

491 溝と 492 溝は、方向的にほぼ直交し、幅・形状共に似通っている。また出土遺物の年代も近いことから、両者は一体として区画をなしていた可能性が高い。さらにこれらの北側に位置する 482 溝は、幅が著しく広いという相違点はあるものの、ほぼ 492 溝の延長上に位置し、出土遺物も古墳時代前期の土器を含む。この３つの溝が関連するものと考えると、およそ南北 11m、東西 4.9m 以上の範囲が区画されることとなる。この範囲は、下層（第２面）の流路が形成した礫からなる高まりの上にあたっており、古墳時代においても水はけのよい微高地をなしていたものと思われる。この近辺の土層が周囲に対して土層の土壌化が著しかったこともこれを裏付ける。

古墳時代前期段階の集落内には、中期以降と比較して、いまだ地形の凹凸が残っていたものと思われ、早くから微高地をなしていたこの付近が利用される中で溝による区画がなされたものと思われる。しかしながら、肝心の前期段階の遺構は、区画内においても不明瞭である。

340 溝　第３調査区で検出した東北から西南へのびる溝である（図 30）。調査区東端から南端へ向かって 5.1m を検出した。主軸方向はおおむね北か

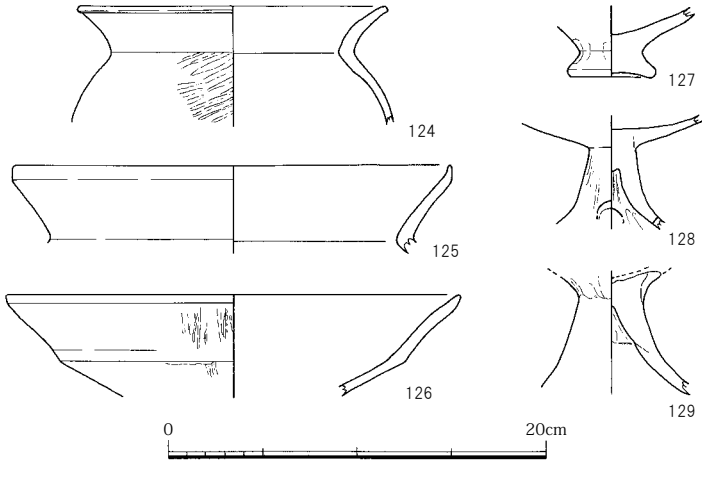


図 31　399 井戸出土遺物

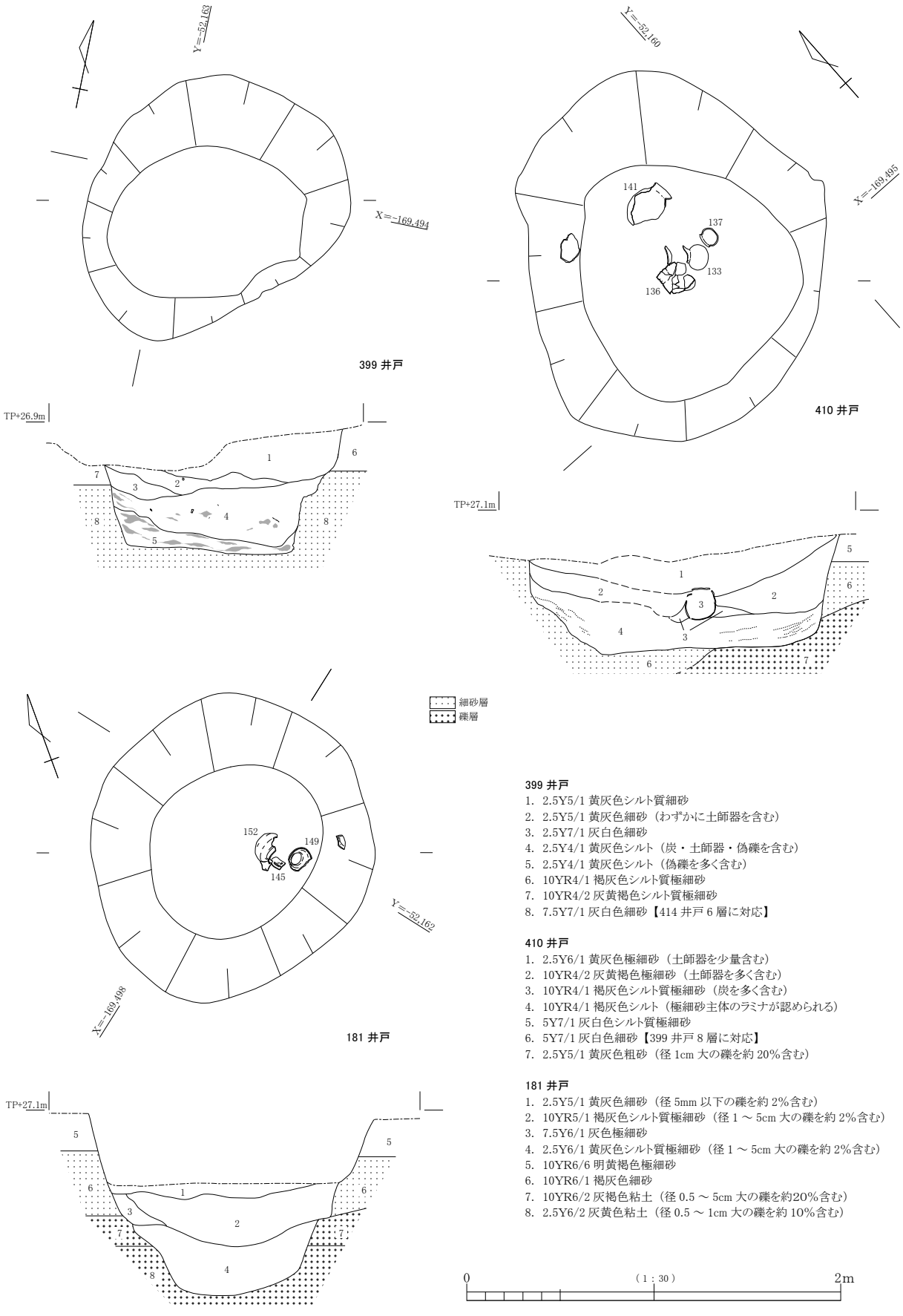


図 32　399・414・181 井戸平面図および断面図

ら西へ 97° 振る。検出長 5.1m、幅 0.32 ～ 0.52m を測る。断面形は、浅い皿状を呈し、深さは 0.1m 前後である。埋土は、極細粒砂を主体とする細粒物質で開放状態の溝内に周囲から流入したものと考えられる。第２調査区の 179 溝などと同様の集落を区画する溝と考えられる。

（４）土坑

399 井戸　第２調査区北半で検出した井戸と考えられる土坑である（図 32、図版 28）。長径 1.48m、短径 1.28m、深さ 0.66m を測る。中ほどに若干の傾斜変換点があり、下部の傾斜が急となる。底面は、下層（第２面）414 流路の流路充填堆積物である細粒砂層まで掘り込んでいる。最下層（５層）には多くの偽礫が含まれており、掘削後すぐに堆積したものと思われ、その上の土器や炭を多く含む４層が機能時の主な堆積と考えられる。

４層を中心とした中層～上層より、土師器が出土した（図 31-124 ～ 129）。124・125 はＶ様式

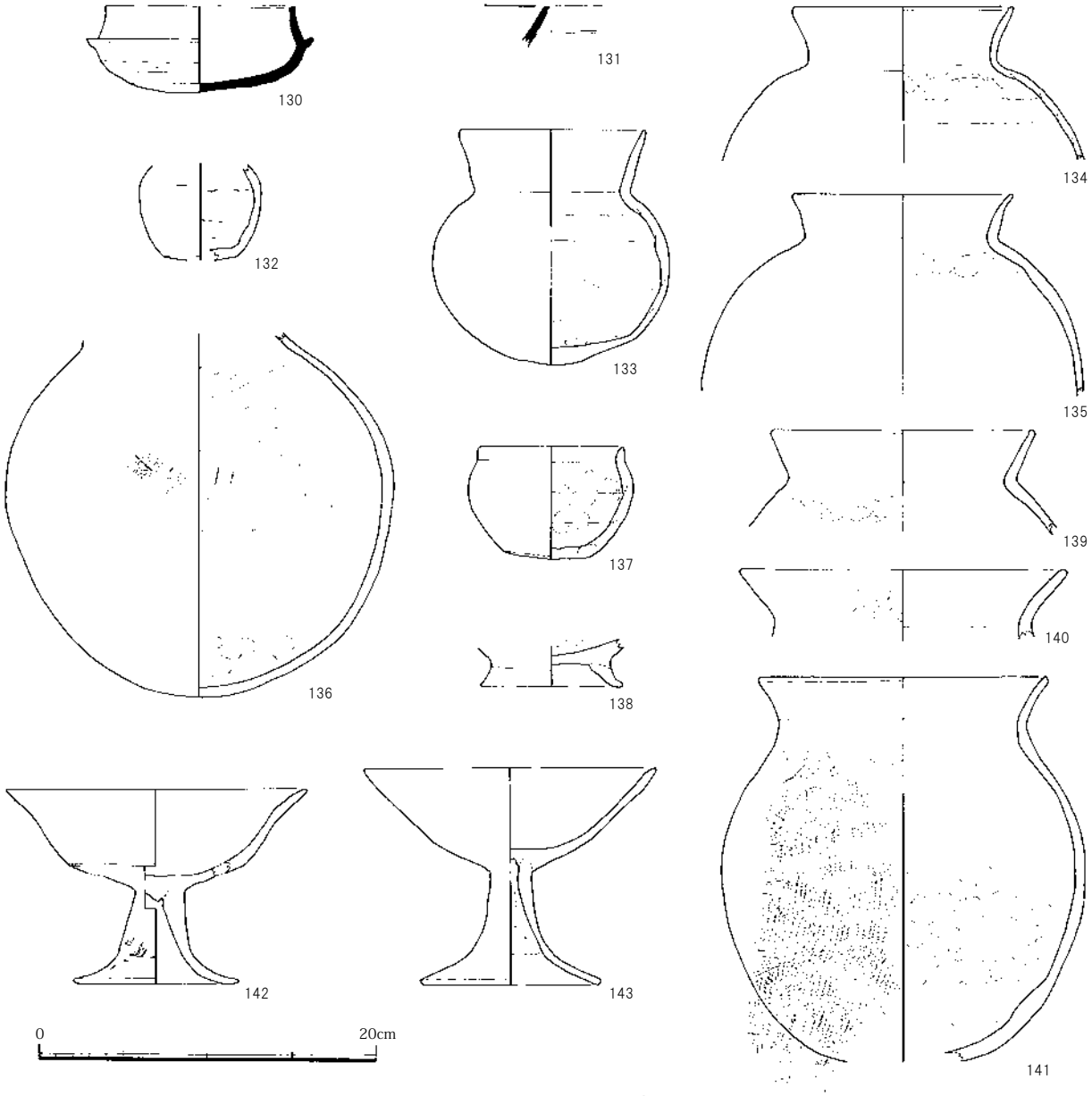


図 33　410 井戸出土遺物

系甕である。126・128・129 は高杯で杯部口縁部は外上方へ伸長しており、脚部もやや短い脚柱部から外方へ屈曲する。127 は製塩土器の可能性がある。以上により、399 井戸はおおむね庄内式期に属するものととらえておく。

なお本遺構は、第１面の遺構精査当初には検出されず、146 落ち込みの堆積を除去したところで輪郭が認識できた。出土遺物も他の遺構に対して古いことと整合的である。

410 井戸　399 井戸の北東、135 ピットの下位で検出した井戸と考えられる土坑である（図 32、図版 29)。長径 1.66m、短径 1.52m、深さ 0.97m を測る。上面から急な傾斜をなし、底面は、下層（第２面）414 流路の流路充填堆積物である細粒砂～粗粒砂層まで掘り込んでいる。最下層（４層）には、明瞭なラミナが認められ、機能時の主な堆積と考えられる。その上の２層には、土器が含まれているが、特に４層の上面で完形品を含む土器群が検出された。１・２層には、ラミナなども認められないことから、井戸としての機能は失われた後の堆積であったと考えられる。

土器は、須恵器杯身、壺、土師器壺、鉢、高杯、甕からなる（図 33-130 ～ 143)。なお須恵器については、かなり上層から検出されており、井戸の機能時の堆積とは考え難い。130 は杯身で、口径 11.1cm、器高 5.1cm を測る。底部はやや浅く、立ち上がりはやや高く内傾し、端部はわずかに内傾する平坦面をなす。131 は、沈線をもつ須恵器口縁部片である。壺であろうか。

132 は小型の土師器壺である。内外面に接合痕をとどめた粗雑な作りであるため、ミニチュアとみなすべきかもしれない。133 は直口壺で、口径 10.8cm、器高 14.0cm を測る。内面はナデ調整で、接合痕をよくとどめるが、外面調整は磨滅のため不明である。134・135 は短頸の壺で内面調整はナデで仕上げられる。136 も壺であるが、こちらの内面調整はケズリとなっている。137 は、鉢で平底の底部からわずかに屈曲した口縁部まで粘土紐を積み上げた痕跡が明瞭に確認できる。

138 は台付の鉢や壺といった器種であろうか。高台状の脚部が貼り付けられており、煤等の付着は認められない。遺構からは考えにくいが、後世の遺物の混入と考えるべきか。139 は布留系の甕口縁であるが内面調整にケズリは確認できない。140 は、くの字状に緩く外反する口縁部を持つ甕である。141 もまた同様の口縁部をもつ甕であるが、底部はやや平底で体部に並行タタキが施される。内面に当て具の痕跡はなく、指頭圧痕が著しい。頸部も横ナデではなく、工具で抑

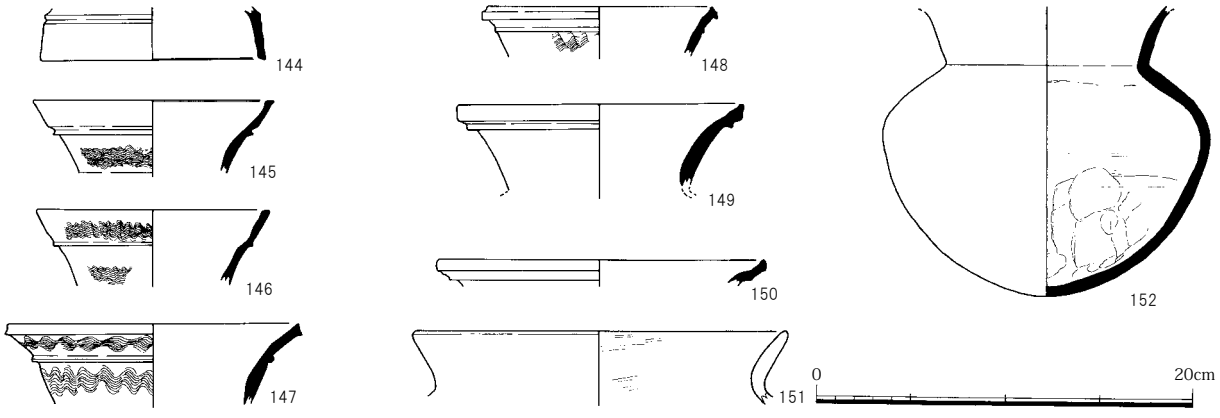


図 34　181 井戸出土遺物

えたような痕跡が認められるなど、通有の土師器との差異が際立っており、韓式系土器の範疇で理解しておいてよいと思われる。

142・143 は、高杯である。142 は杯底部と口縁部の境の稜線が明瞭であるのに対し、143 ではゆるやかに移行する。また 142 の脚部は短く外反し、ナデ調整が施されるのに対し、143 の脚柱部は細長く、内面にケズリ調整が加えられる。さらに 142 の脚部内面には、脚頂部から充填した粘土を指で押さえた痕跡が認められるのに対し、143 のその部位には、指が差し込めるような空間はなく、棒状工具による刺突の痕跡が認められる。このように両者は成形・調整の各要素で異なった特徴をもつ、系統の異なる土器である。

本遺構の年代にかんして上層で出土した須恵器は、廃絶後の埋没過程を示すものととらえると、布留系甕の残存、土師器高杯の顕在性、韓式系土器の存在などから、本遺跡の古墳時代中期の遺構の中では古いものとして、位置づけることが可能であろう。

なお本遺構も 399 井戸同様に第１面の遺構精査当初には検出されず、135 ピットおよびその周囲の不明瞭な落ち込み状の堆積を除去したところで輪郭が認識できた。出土遺物も他の遺構に対して古いことから、井戸の上面を覆う部分的な堆積をもたらすような流路の溢流が前期から中期にかけて、いまだ存在したことを示唆するものである。

181 井戸　399 井戸の南で検出した井戸と考えられる土坑である（図 32、図版 30）。長径 1.99m、短径 1.69m、深さ 0.59m を測る。中ほどに若干の傾斜変換点があり、上部の傾斜が急となる。底面は、下層（第２面）414 流路の流路充填堆積物である礫層まで掘り込んでいる。下層（２・４層）は、細粒物質が堆積しており、機能時の主な堆積と思われ、底面において完形品を含む土器群が検出された。

土器は、須恵器杯蓋、瑞、壺、土師器甕からなっている（図 34-144 ～ 152）。144 は、杯蓋で口径

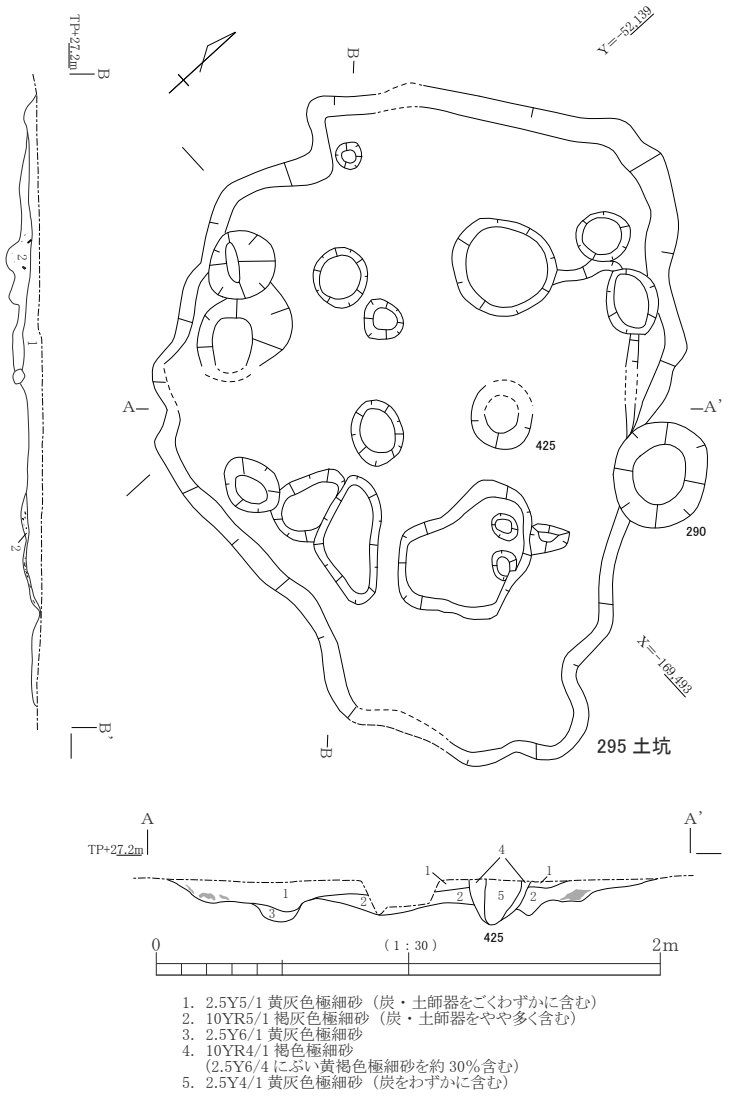


図 35　295 土坑平面図および断面図

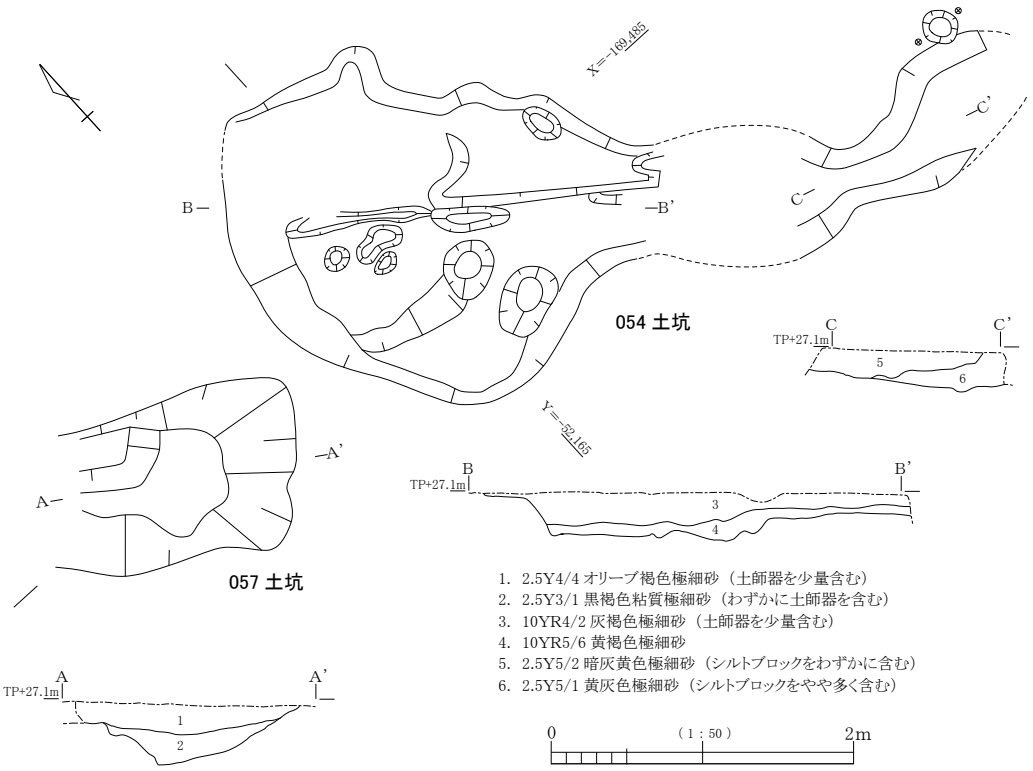


図 36　054・057 土坑平面図および断面図

11.9cm を測る。口縁部は、わずかに開き気味にのび、端部は内傾する平坦面をなす。145・146 は瓶あるいは、小型の壺の口縁部と考えられ、波状文が施される。壺には、外面を波状文で飾るもの（147・148）と突線のみのもの（149）がある。152 は、頸部以下はほぼ完存し、口縁部を打ち欠いた状態で利用されていた可能性がある。151 は、くの字状を呈する土師器甕である。

295 土坑　第３調査区の 547 建物の下位で検出した土坑である（図 35、図版 31・32）。平面形は不整形な長方形を呈し、長径 2.7m、短径 2.12m、深さ 0.07 ～ 0.15m を測る。底面は浅い凹凸が著しく、埋土には炭や土器がやや多く含まれている。なお 547 建物に伴う施設の可能性を考え

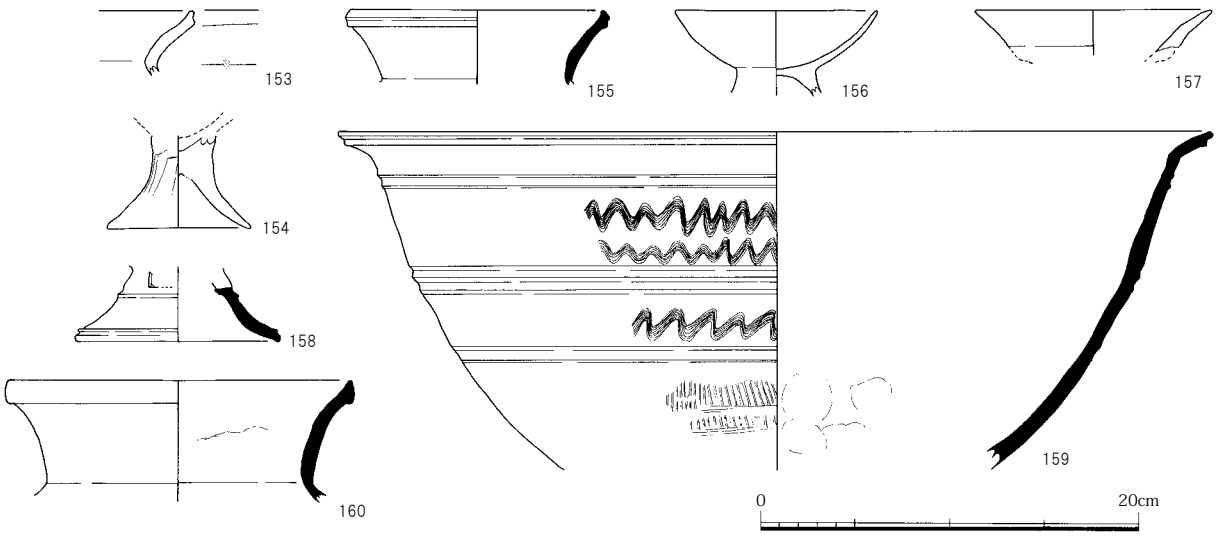


図 37　土坑出土遺物

153・154：057 土坑　155 ～ 157：054 土坑　158・159：295 土坑　160：土坑

て精査を行ったが、547 建物の床束と考える 425 ピットに切られる様子が明瞭に確認できたことから、先後関係があることは明らかである。

底面上から須恵器高杯および器台（図 37-158・159）が出土した。159 は口径 46.0cm を測る高杯型器台であり、突線で区切られた受け部外面に波状文が充填される。口縁端部直下には突線が加えられるが、面は持たず、丸くおさめられている。受け部内面の当て具痕は、丁寧にすり消されている。158 も細い脚部に突線が加えられるなど、古い様相を示している。以上により、295 土坑は、Ｉ型式２段階以前に位置づけられる。

054 土坑　第２調査区北半で検出した西北～東南主軸の不整形な土坑で、一部溝状を呈する（図 36、図版 33）。長さ 5.0m、幅 0.38 ～ 2.41m、深さ 0.13 ～ 0.28m を測る。埋土は、極細粒砂を主体とするもので、若干偽礫を含む部分もあるが、人為的なものかどうか判断がつかなかった。内部から少量の土器（図 37-155 ～ 157）が出土したが、下層の土器を巻き上げたものかもしれない。

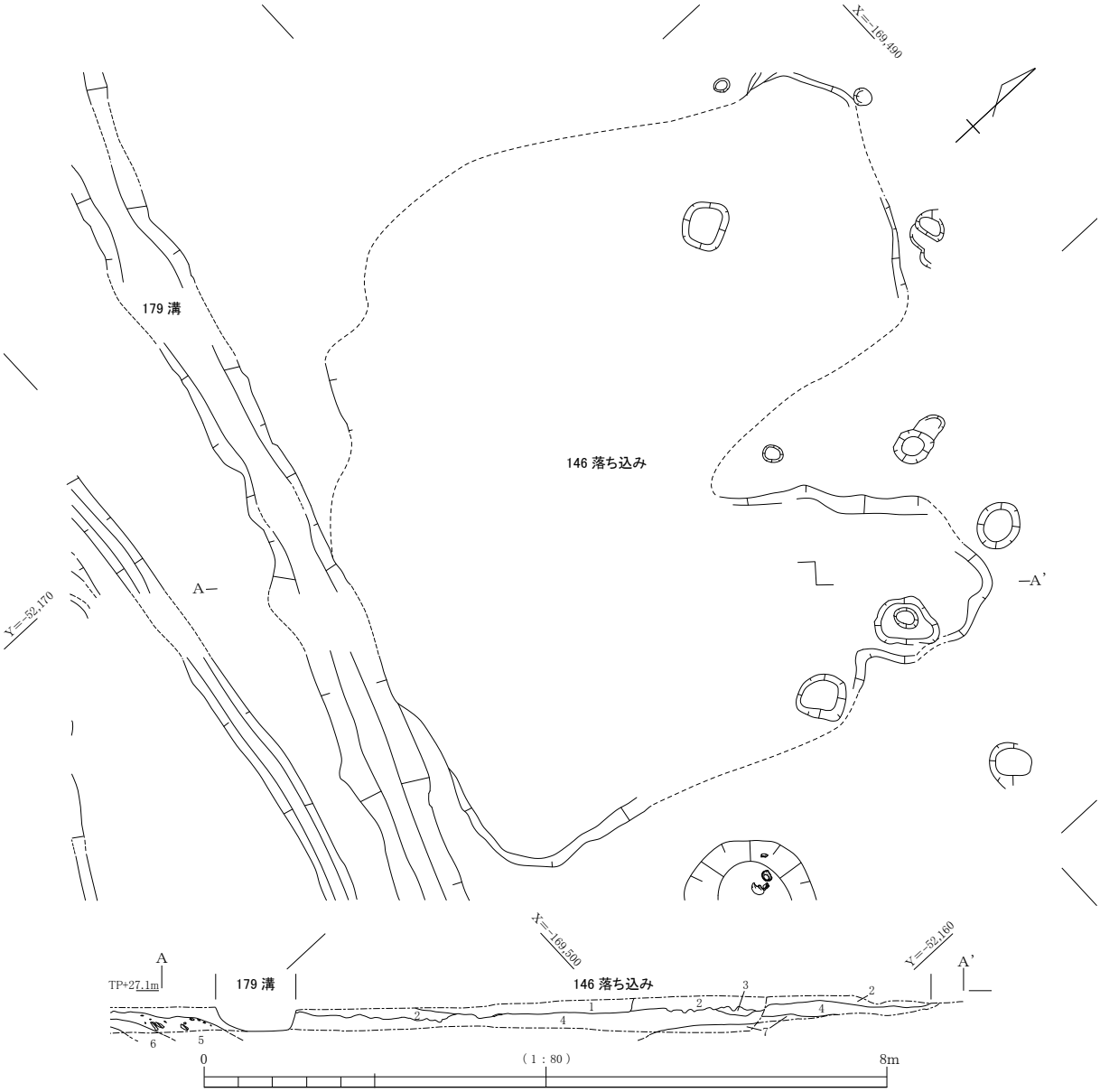
057 土坑　054 土坑の西側で検出した西北～東南主軸の不整形な土坑である（図 36、図版 33）。西端は調査区外へのび、長さ 1.61m、幅 0.87 ～ 1.14m、深さ 0.14 ～ 0.4m を測る。埋土は、極細粒砂を主体とする細かいものである。古式土師器（153・154）が出土したが、下層の巻き上げの可能性がある。

（５）落ち込み

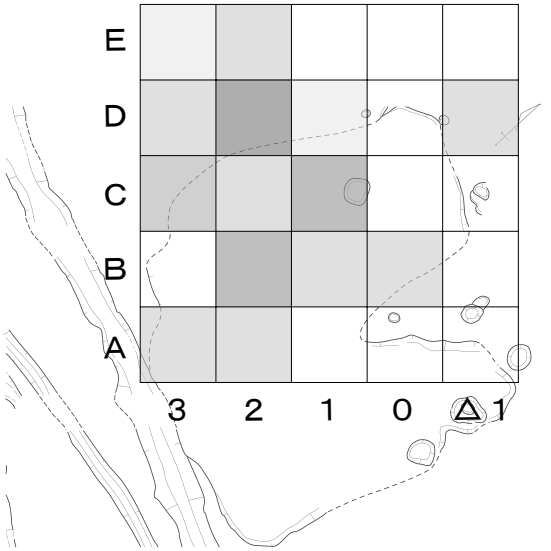
146 落ち込み　第２調査区北半で検出した遺構でプラン、肩ともに不明瞭な落ち込みである（図 38、図版 34）。東西 7.21m、南北 6.71m の長方形の範囲に強く土壌化した細粒物質からなる土層が深さ 0.06 ～ 0.23m 程度堆積し、北側中ほどは南北 2.56m、東西２m の範囲が内側に屈曲する。埋土には大量の土器が含まれ、落ち込み底面にはこまかな凹凸が認められた。遺物取上げに際しては、２m 四方の地区割りを行い、これを実施した。西端については、遺構の輪郭が不明瞭であったため、Ｅ２・３といった周辺部まで含めて取上げを行った。結果として、落ち込みの中央部にやや多いようにも見えるが、周辺の遺構等との関連は不明である。以下、出土遺物について説明を加えるが、各地区出土土器に明確な時期差は認めがたいことから、一括した記述を行うものとする。なお、本遺構埋土についても一定程度の洗浄を行ったが、玉類等は検出されなかった。

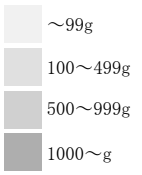
土器は、須恵器杯蓋、杯身、高杯、𤭯、椀、壺、甑、土師器甕、甑、高杯、平底鉢などからなる（図 39 ～ 42-161 ～ 255）。

杯蓋（図 39-161 ～ 185）は、口径 11.3 ～ 13.0cm、器高 3.9 ～ 5.0cm を測り、天井部が平らなもの（161 ～ 165）とやや丸みをもつもの（166 ～ 185）がある。前者の口縁部は、やや外反気味に開いて端部が平坦面をなすものが多く、後者は直下にのびて端部が内傾する凹面をなすものが多い。ただし、これらの要素は截然とは分離できず、一定程度の混淆を示す。なお挿図は、左上から右下に向かって、天井部が平たいものから丸いものへ、口縁端部形態は平坦面をなすものから内傾する凹面をなすものへと配列しようと試みた。また大半の個体の天井には、回転ヘラケズ



1．10YR4/1 褐灰色シルト質極細砂（土師器・須恵器・炭を多く含む）　2．7.5YR4/3 褐色シルト質極細砂（土師器・須恵器・炭を多く含む）
3．7.5YR4/3 褐色シルト質極細砂（10YR5/6 黄褐色シルトを少量含む）　4．10YR5/6 黄褐色シルト
5．10YR3/1 褐灰色細砂（径 0.5 ～ 3cm 大の礫を約 30%含む）　6．2.5Y6/4 にぶい黄色シルト質極細砂　7．7.5Y5/2 灰オリーブ色中粒砂
1 ～ 3：落ち込み埋土　4 ～ 7：基盤層（414 流路）





地区別土器出土量

地区	出土土器	
	重量(g)	破片数
A2	309.5	30
A3	305.2	24
B0	427.2	26
B1	424.8	27
B2	1509.6	94
C1	1112.2	44
C2	271.7	6
C3	611.9	31
D△1	244.8	24
D1	4.6	2
D2	2020.4	91
D3	225.3	23
E2	161.9	8
E3	40.8	3

図 38　146 落ち込み平面図、断面図および地区別遺物出土量

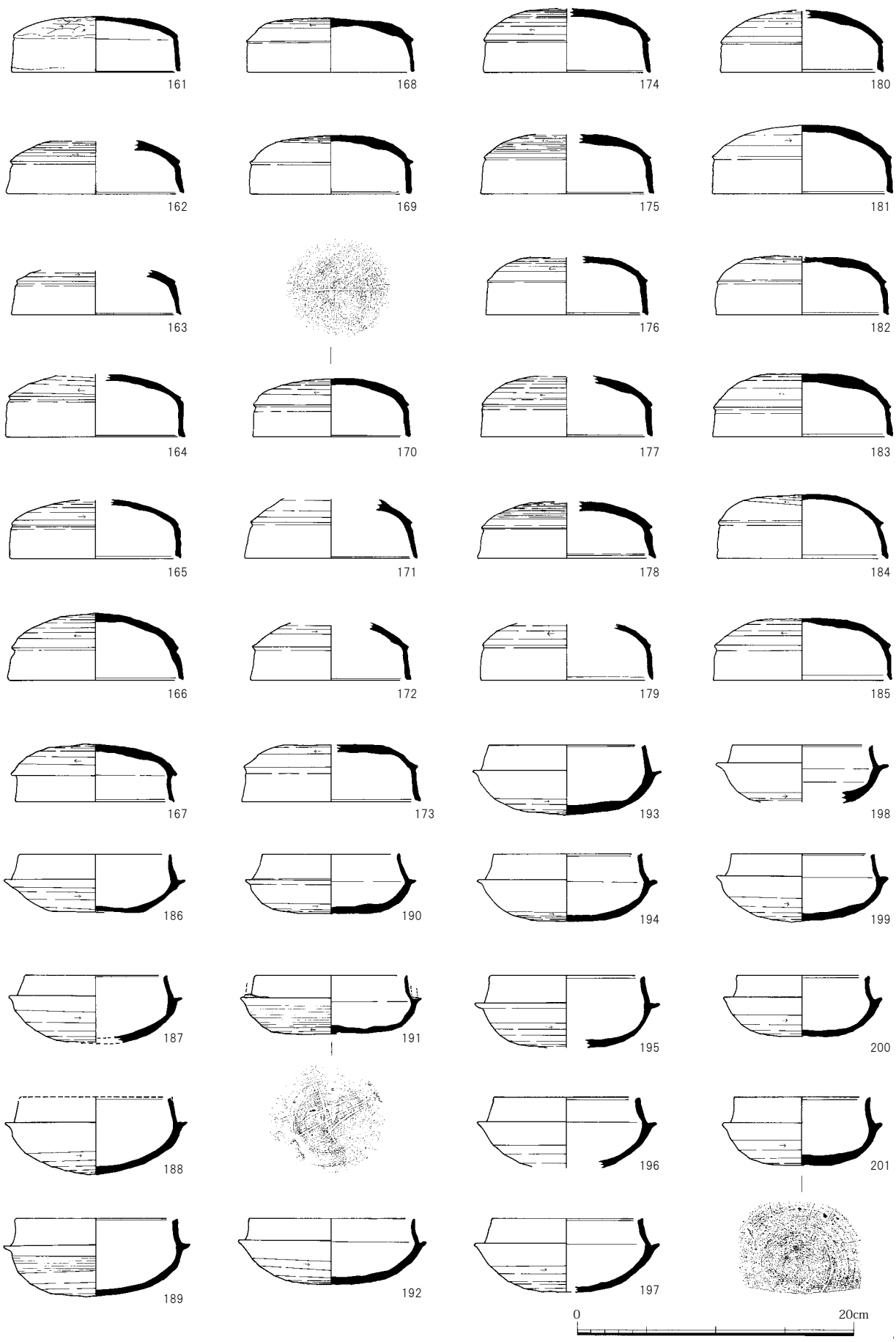


図 39　146 落ち込み出土遺物 1

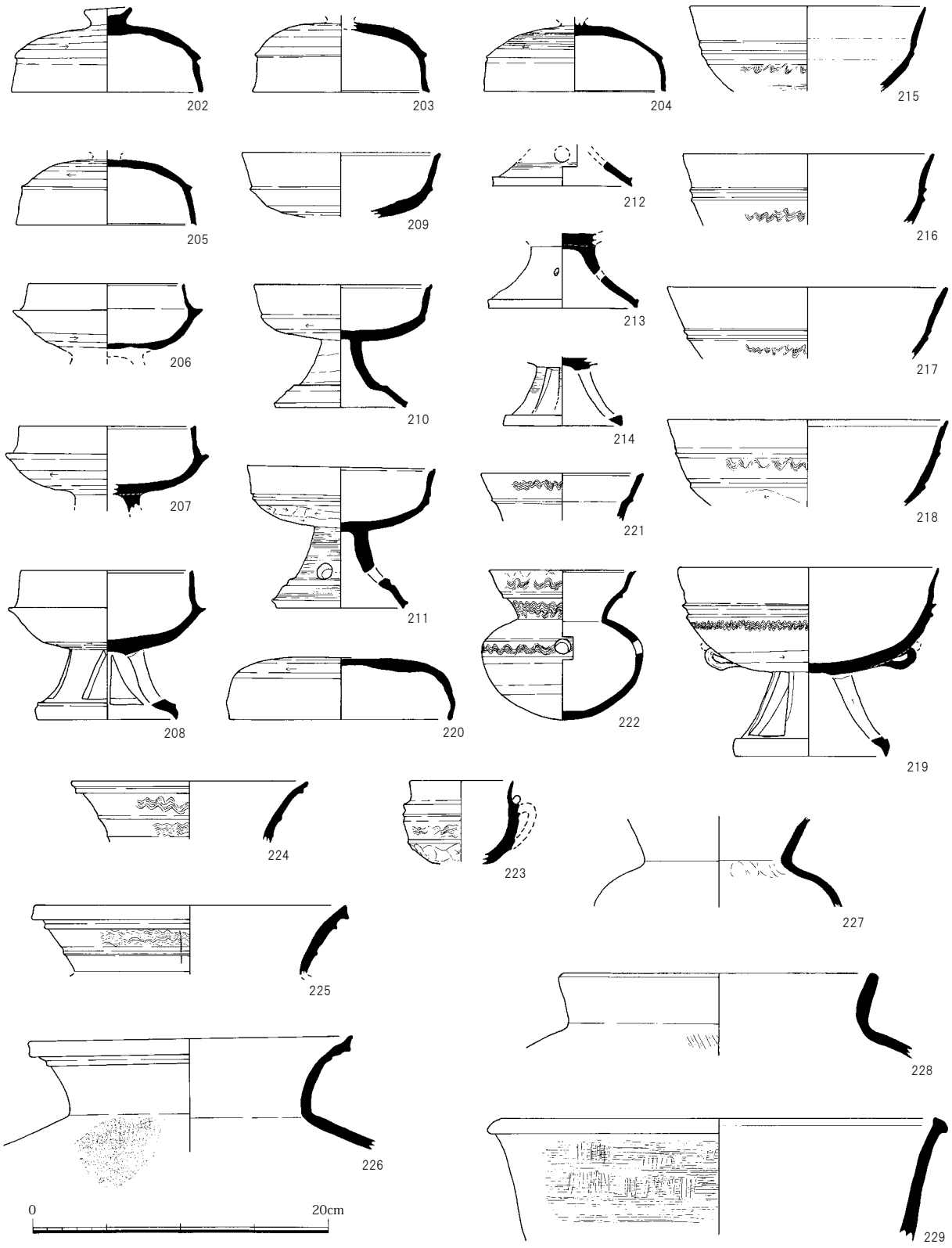


図 40　146 落ち込み出土遺物２

リ調整が施されるが、161 のみ静止ヘラケズリ調整が認められる。さらに 170 天井部外面には、ヘラ記号が認められる。

杯身（186 ～ 201）は、口径 9.8 ～ 11.8cm、器高 4.2 ～ 5.6cm を測り、底部が深く、丸みをも

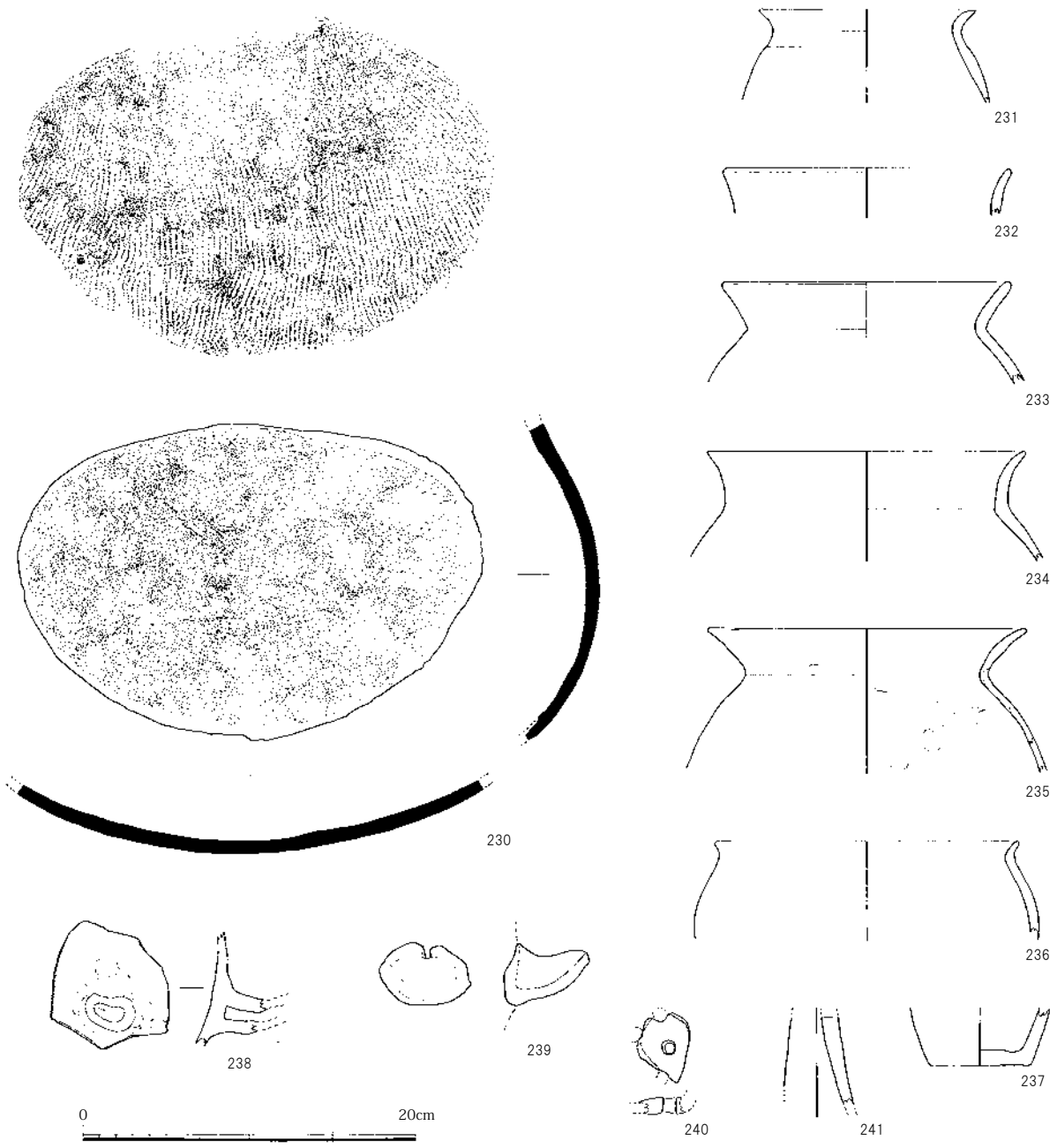


図 41　146 落ち込み出土遺物３

つもの（187 ～ 189）、丸みを持ちながらもやや浅いもの（190 ～ 201）、極端に浅いもの（186）に分けることができる。後二者の体部最大径位置は、受け部と一致するのに対し、前者のそれは受け部より下位に位置する。立ち上がりはいずれもやや短く内傾するが、やや浅いとしたもののなかでも特に底部高が小さい 190 ～ 192、およびごく浅いとした 186 の口縁端部はいずれも丸く収める特徴的なものであり、器形との間に相関関係がありそうである。その他、底部が丸みをもつものとやや浅いものの口縁端部は、やや内傾する平坦面を主体としており、これらと組み合う蓋に比べると凹面化の程度は概して弱い。また 191・201 の底部外面にはヘラ記号が認められる。202 ～ 205 は、有蓋高杯杯蓋である。口径 11.8 ～ 13.0cm を測り、天井部と口縁部の境は鋭く突出する。口縁端部には、平坦面をなすもの（202）とやや内傾する凹面をなすもの（203 ～ 205）

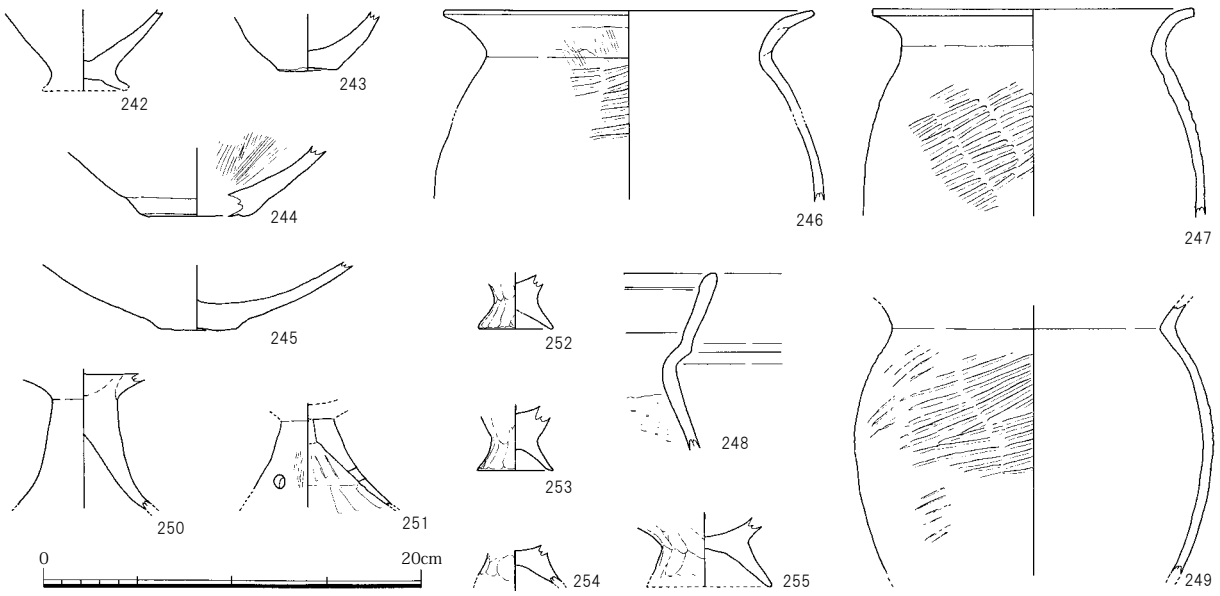


図 42　146 落ち込み出土遺物４

がある。206 ～ 208 は、有蓋高杯杯身である。口径 10.5 ～ 12.0cm を測り、立ち上がりややや短く内傾し、端部は、内傾する凹面をなす。209 ～ 211 は小型の無蓋高杯である。口径 12.0 ～ 13.3cm を測る。211 の杯部底面には、静止ヘラケズリ調整が施され、脚部にはカキメが加えられるなど､古い様相を示している。212 ～ 214 は､高杯脚部で円孔､刺突､長方形透かしが認められる。215 ～ 219 は、大型の無蓋高杯である。口径 16.0 ～ 20.0cm を測る。いずれも杯部中位を突帯で区画し、波状文を巡らす。口縁端部は、うすくおさめられるものが多いが、218 は内傾する凹面をなす。また、219 の脚外面の透かし孔の周囲には、面取り状の調整が加えられている。

220 は、何らかの器種の蓋と考えられるが、通有の蓋杯に比べると著しく大きく、天井部と口縁部の境界が不明瞭であるといったの違いがある。221･222 は、小型の甕でいずれも口縁端部は、内傾する凹面をなす。223 は把手付椀であるが、小型化、粗雑化の感が否めない。

224 ～ 226 は、広口壺である。もっとも小さい 224 の口縁は端部直下に突帯を加えるもので、端部は丸く仕上げられている。225・226 の口縁端部は上あるいは下方に拡張され、面をなす。227 は、小型の壺と考えられる。228 は、焼成は甘いが須恵器無頸壷であろう。229 は、甑口縁部かと思われ、外面には並行タタキ後カキメが加えられている。

230 は、甕あるいは壺の肩部～体部片であるが、割れ口には小さな加工が加えられ、楕円形へと整えられている。出土状況としても、落ち込み内において内面を上に向けて据えられたような形をとっており、須恵器片を転用して容器としたものと考えられる。外面には並行タタキが施され、内面の当て具痕はすり消した痕跡が認められる。

231 ～ 235 は土師器甕である。いずれも緩く外反したくの字状口縁をもつようである。調整は磨滅が著しいが、内面へのケズリ調整の痕跡は認められない。236 は土師質で短く外反する口縁部をもつ。鍋あるいは甑であろうか。

237 は、平底鉢底部である。磨滅が著しく、調整や使用の痕跡は認めることができない。238・

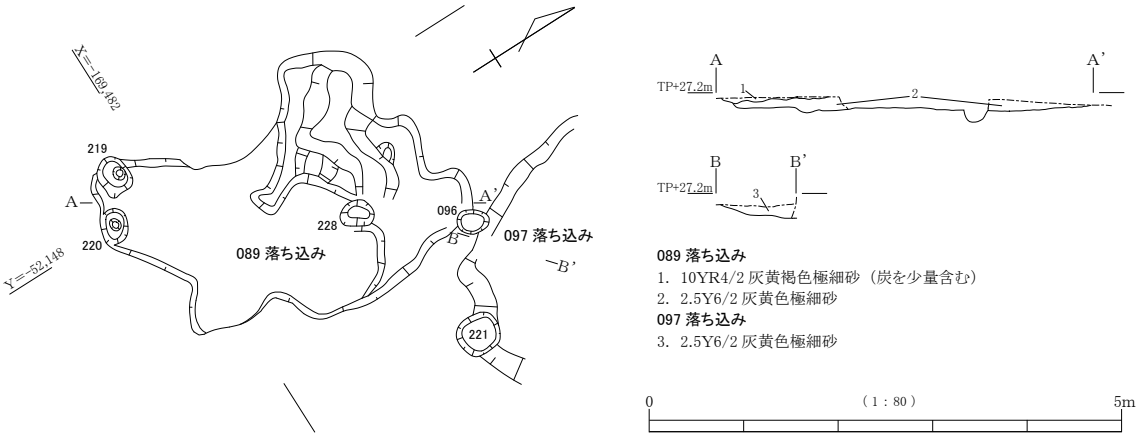


図 43　089 落ち込み平面図および断面図

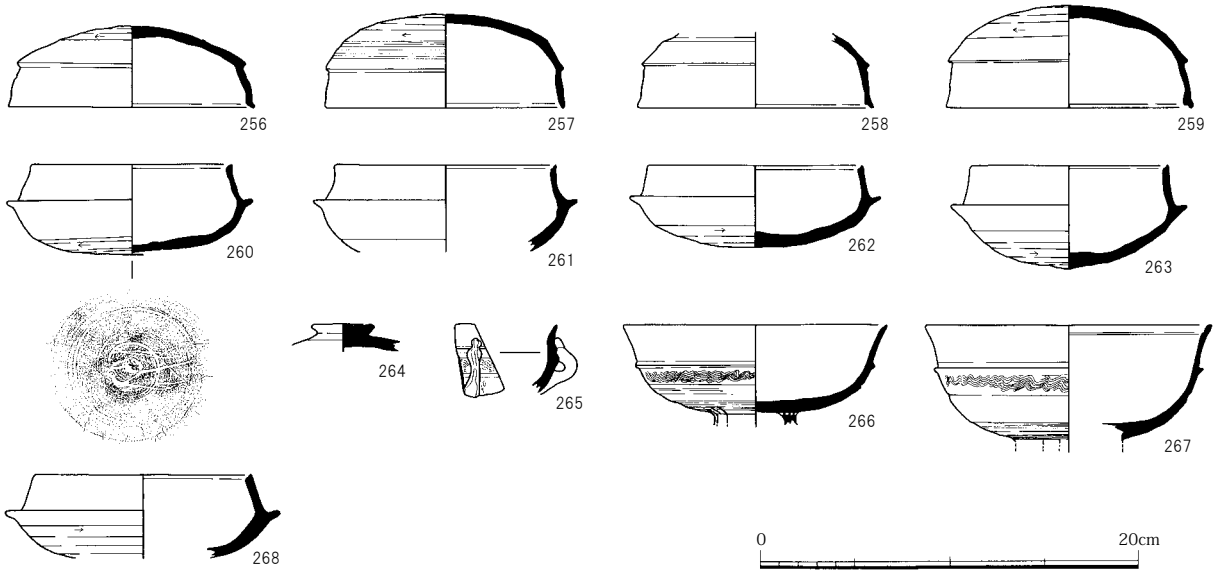


図 44　その他の落ち込み出土遺物１
256 ～ 267：089 落ち込み　268：093 落ち込み

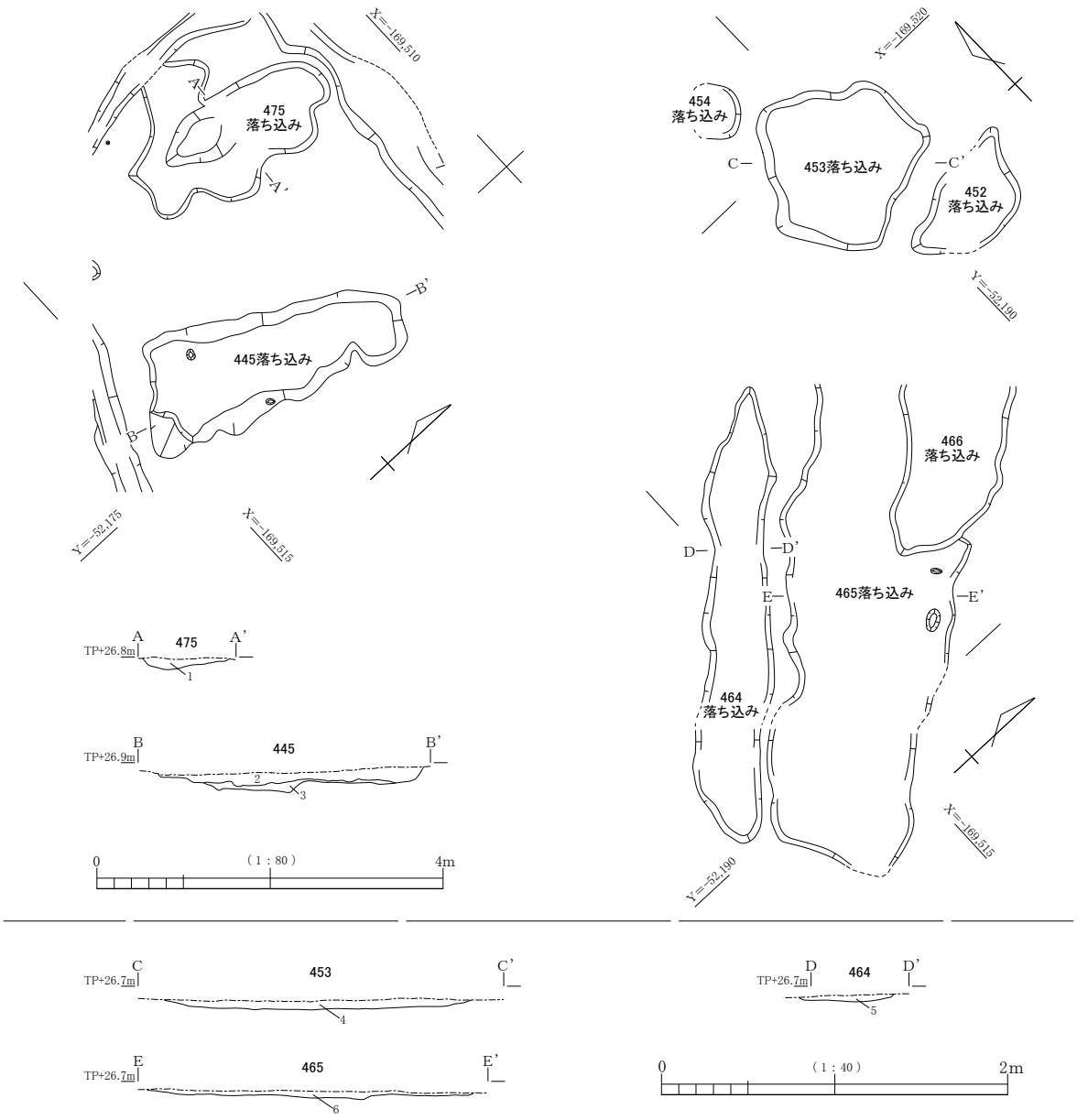
239 は甑（鍋）の把手と考えられ、238 は中空で成形され、239 の上面には切り込みが加えられる。240 は、小円孔が複数認められるもので、甑底部の可能性がある。241 は高杯脚部である。

242 ～ 255 は、下層からの巻き上げと思われる土器である。242 ～ 245 は、壺・鉢の底部と思われる。246・247・249 はＶ様式系甕である。248 は山陰系複合口縁甕で、口縁端部は内面に肥厚している。250・251 は高杯脚部である。252 ～ 255 は製塩土器の脚部と思われる。大半のものは、庄内式期に属するものと思われるが、248 は布留式後半期に降るものと考えられる。

以上の遺物から見て 146 落ち込みはＩ型式３～４段階に位置づけられるであろう。

089 落ち込み　第２調査区北半東北部で検出した不整形な落ち込みである（図 43）。南北 4.05m、東西 2.82m の範囲に炭・土器などを含む極細粒砂層が深さ 0.12m 程度堆積していた。さらに北側には、097 落ち込みとした遺構があり、調査区外へと続いている。

埋土から完形品を含む土器が出土した（図 44-256 ～ 268）。杯蓋には、口径 12.4 ～ 13.0cm、器高 4.3 ～ 5.4cm を測り、天井部が平らなもの（256）と丸みをもつもの（257 ～ 259）がある。前者の口縁部は外方へ広がっている。口縁端部は、いずれも内傾する凹面をなす。杯身（260 ～



1. 7.5Y7/1 灰白色極細砂　2. 7.5Y7/1 灰白色極細砂　3. 7.5Y7/2 灰白色極細砂　4. 2.5Y6/1 黄灰色シルト質細砂　5. 2.5Y6/2 灰黄色極細砂
6. 2.5Y6/1 黄灰色シルト質細砂（土師器をわずかに含む）

図 45　445・452・453・454・464・465・466・475 落ち込み平面図および断面図

263・268）は、口径 10.4 ～ 11.6cm、器高 4.3 ～ 5.5cm を測り、底部がやや深いものと浅いものがあるが、立ち上がりはいずれもやや短く内傾し、端部は内傾する凹面をなす。264 は有蓋高杯杯蓋である。265 は小型の把手付椀である。266・267 は大型の無蓋高杯で、前者の口縁端部は内傾する平坦面をなすのに対し、後者では沈線上のナデが加えられている。

445 落ち込み　第２調査区南半で検出した不整形な落ち込みで南北 3.16m、東西 0.7 ～ 1.34m、深さ 0.16 ～ 0.22m を測る（図 45）。

475 落ち込み　445 落ち込みの北西で検出した不整形な落ち込みで南北 2.47m、東西 0.58 ～ 1.83m、深さ 0.12m 程度を測る（図 45）。470 溝③に切られている。

452 落ち込み　第２区調査区南半で検出した不整形な落ち込みで南北 0.92m、東西 1.7m、深さ

0.05m 程度を測る（図 45）。

453 落ち込み　452 落ち込みの北西で検出した不整形な落ち込みで南北 2.04m、東西 2.07m、深さ 0.5m 程度を測る（図 45、図版 35）。

454 落ち込み　453 落ち込みの北西で検出した不整形な落ち込みで北西部が撹乱によって失われているが、長径 0.62、短径 0.4m 以上、深さ 0.05m を測る（図 45）。

464 落ち込み　第２調査区南半で検出した北西から南西にむけた主軸をもつ落ち込みである（図 45）。長さ 5.27m、幅 0.56 ～ 0.81m、深さ 0.05m 程度を測り、主軸は、北から西へ 46° 振る。

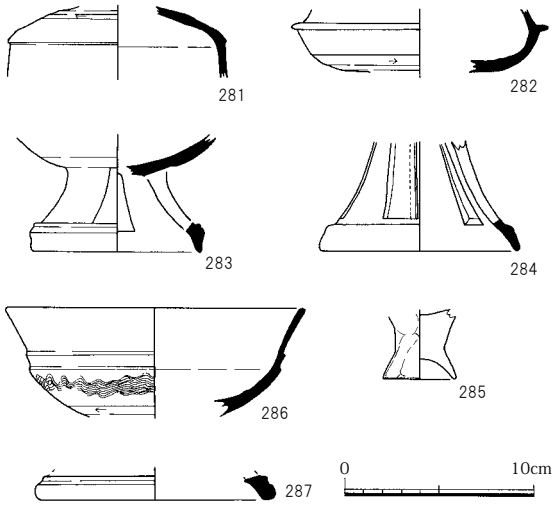


図 46　その他の落ち込み出土遺物２
281 ～ 285：480 落ち込み　286：507 落ち込み　287：475 落ち込み

465 落ち込み　464 落ち込みの北側で検出した北西から南西にむけた主軸をもつ落ち込みである（図 45、図版 35）。西端は調査区外へのびるが、長さ 5.57m、幅 1.55 ～ 2.19m、深さ 0.05m 程度を測る。主軸は、北から西へ 41° 振る。

466 落ち込み　465 落ち込みの北西側を切る落ち込みである（図 45、図版 35）。北西から南西にむけた主軸をもち、西端は調査区外へのびるが、長さ 1.95m、幅 1.01 ～ 1.34m、深さ 0.05m 程度を測る。主軸は、北から西へ 39° 振る。

その他の落ち込み出土遺物　第２調査区北半において、不明瞭な輪郭ながら周辺の基盤層とは異なる埋土が認められる箇所が複数検出されたため、これらを 120・130・134・349・524 落ち込みとして掘削した。120 落ち込みからは、Ｖ様式系甕（図 47-269）が出土した。口径 14.0cm を測り、受口状の口縁部を持つことから、弥生時代後期中葉から後葉に属するものと思われる。134 落ち

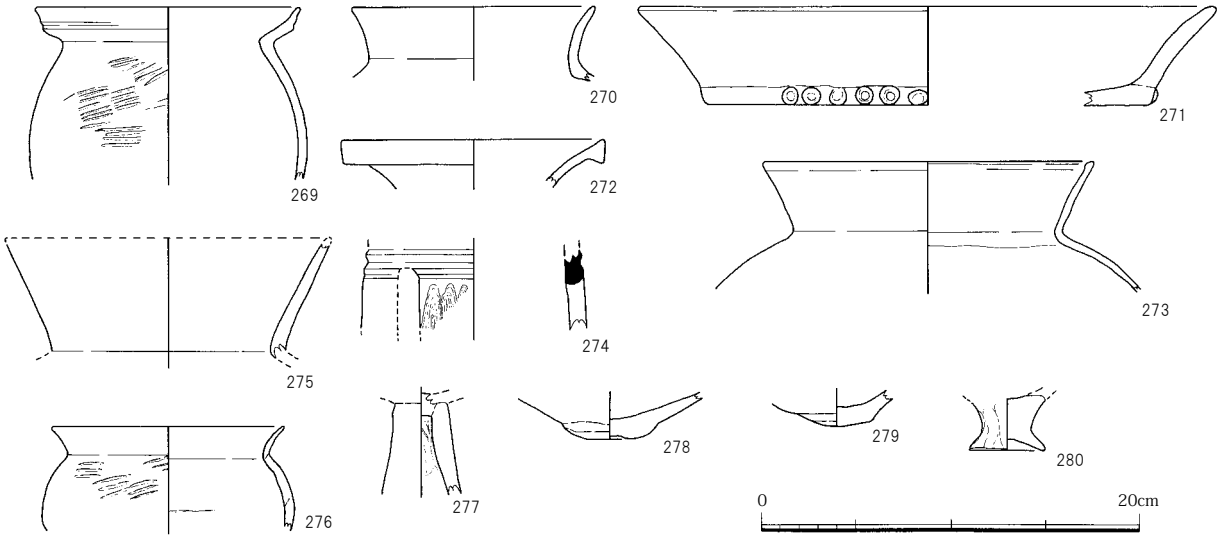


図 47　その他の落ち込み出土遺物３
269：120 落ち込み　270・271：134 落ち込み　272：130 落ち込み
273：524 落ち込み　274 ～ 280：349 落ち込み

込みからは、直口壺(270)・二重口縁壺(271)が出土した。349 落ち込みからは、須恵器器台片(274)とともに直口壺（275)、Ｖ様式系甕（276)、製塩土器（280）などが出土した。

第２調査区南半においても同様の遺構が認められ、475・480 落ち込みとして掘削した。掘削に伴い須恵器杯蓋、高杯、土師器製塩土器などが出土した（281 ～ 287)。

これらの落ち込みは、平面的にも断面的にも明瞭な輪郭が認識できないものであった。410 井戸に関連して述べたとおり、これらはいまだ凹凸の残る地形の窪地が流路の溢流によって埋積されたものと思われ、内部から出土した土器は集落基盤層平坦化の進行時期を示している。

（６）流路

016 流路　第２調査区北半北西角をかすめ、第１調査区中ほどを横切る流路跡で寺田遺跡第１次調査において検出された河川 1500 につながるものと考えられる（図 48、図版 36 ～ 38)。ある程度の期間に南北へと移動を繰り返しながら浸食と堆積をくりかえしたものと思われる。流路の北側は、第１調査区北半において基本層序第５層を削り込んだ肩が確認された。南側は、第１調査区外へとのびており、本流路の振幅の最大幅は約 26 m以上ということになる。埋土は、粗砂～細粒砂を主体とする下層（第４－２層）とシルトを主体とする上層（第４－１層）とに大別できる（図 49)。

下層は、礫を多く含む灰～灰オリーブ色粗粒砂および細粒砂が主体で明瞭な葉理が確認できる部分も多いことから、比較的強い水流があったことが明らかである。ただし、中には木質を含む土壌化層（図 49-36 層）も認められることから、ほとんど水の流れていない期間もあったと思われる。

これに対して上層は、黒褐色から暗褐色のシルト、極細粒砂を主体とする細粒物質で、葉理は認められず土壌化も強く作用している。このため、上流からの強い水流が恒常的にあったとは考えにくく、本流路は上層の堆積時にはすでに放棄流路化していたと考えられる。このように上層の堆積は、下層の堆積にかかる活発な河川活動によって形成された窪

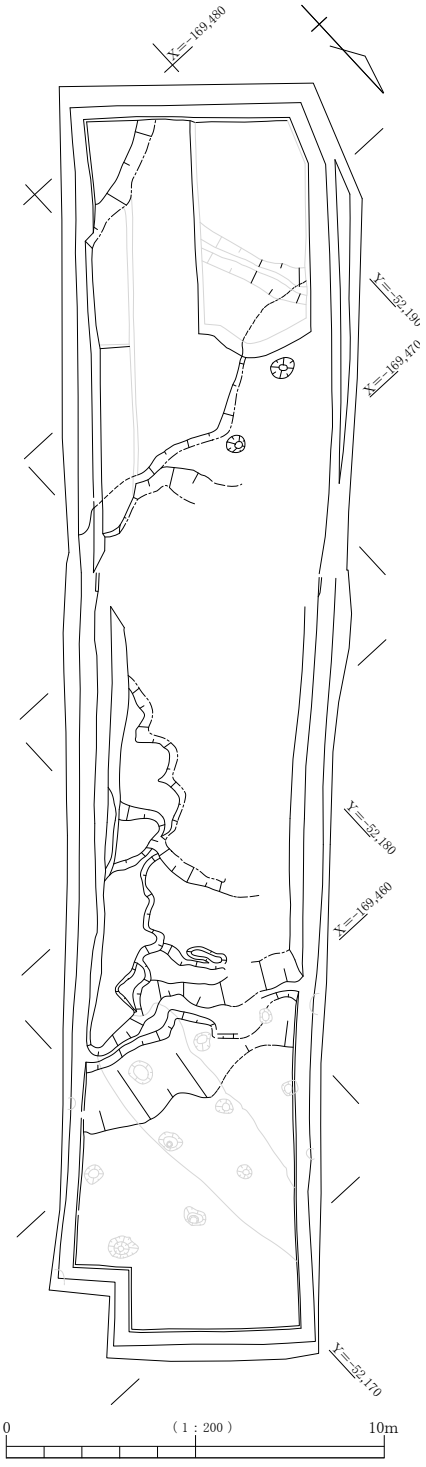
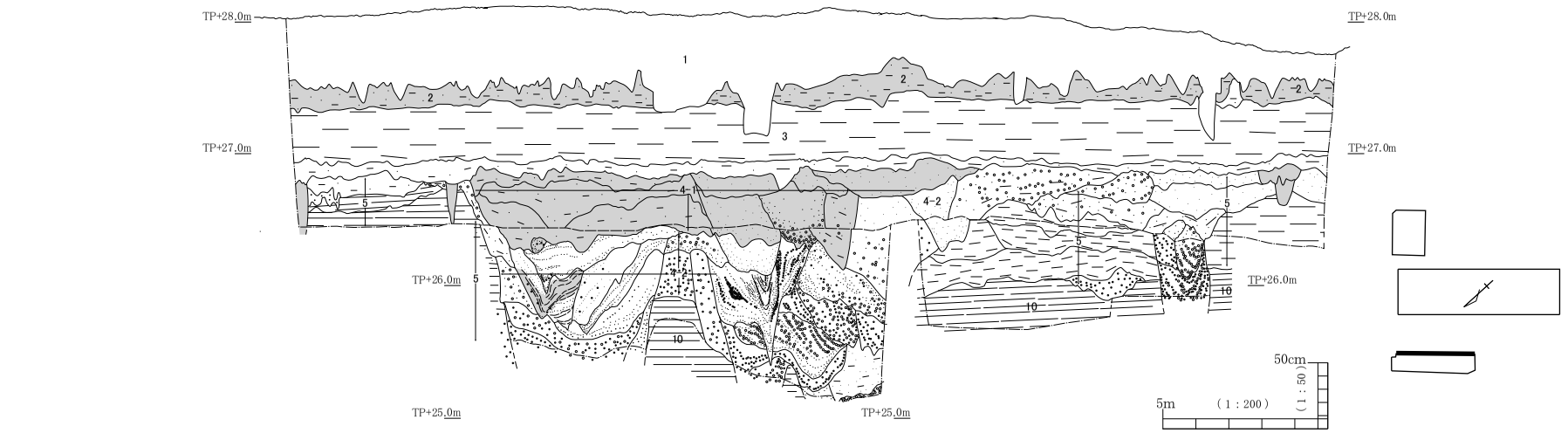
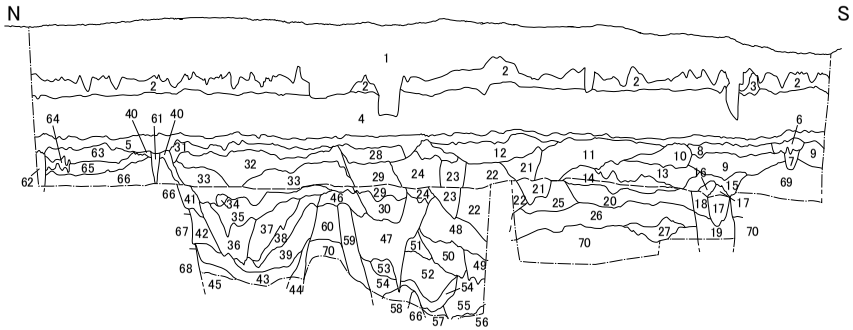


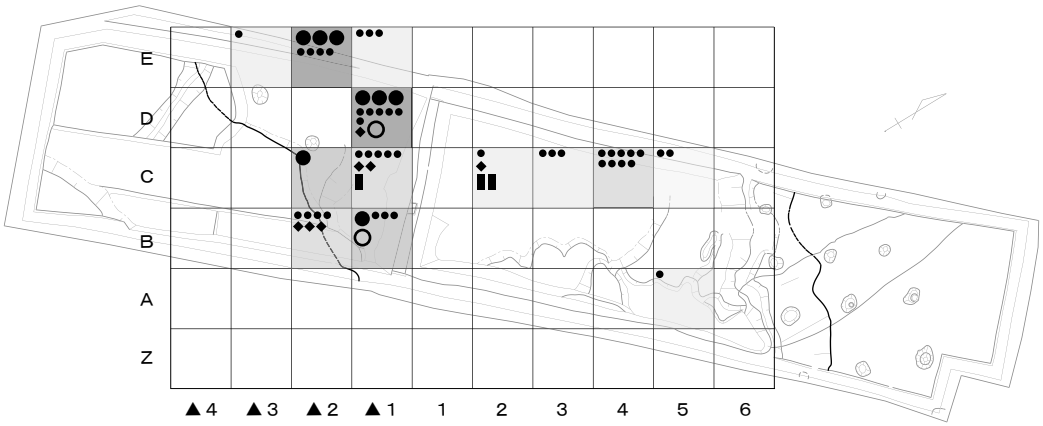
図 48　第１調査区（016 流路）平面図





1. 造成土・攪乱
2. 2.5Y3/1 黒褐色砂質シルト
3. 2.5Y5/1 黄灰色色砂質シルト
4. 2.5Y5/3 黄褐色シルト
5. 10YR5/4 にぶい黄褐砂質シルト
6. 7.5Y4/3 褐色砂質シルト（炭・土器を含む）【018 溝】
7. 10YR4/1 褐灰色砂質シルト（炭・土器を含む）【018 溝】
8. 2.5Y6/2 灰黄色極細粒砂
9. 10YR4/2 灰黄褐色細粒砂
10. 10YR4/3 にぶい黄褐色細粒砂（径 1cm 以下の礫 5%含む）
11. 5Y4/4 灰オリーブ砂質シルト（径 2cm 以下の礫 10%含む）
12. 2.5Y4/1 黄灰色砂質シルト（土器を含む）
13. 10GY4/1 暗緑灰色粘質細粒砂
（径 1cm 以下の礫 10%含む）
14. 10GY5/1 緑灰色シルト（粗粒砂 5%含む）
15. 2.5Y5/3 黄褐色粘質細粒砂
16. 2.5Y5/2 暗灰黄色粗粒砂
17. 2.5Y5/3 黄褐色細粒砂（径 2cm 以下の礫 30%含む）
18. 2.5Y5/2 暗灰黄色粗粒砂
19. 2.5Y6/2 灰黄色粗粒砂
（土器を含む、径 1cm 以下の礫がラミナをなす）
20. 5GY5/1 灰オリーブ色シルト
21. 5Y4/2 灰オリーブ色極細砂
22. 2.5Y5/1 黄灰色粗粒砂
23. 7.5Y5/1 灰色砂質シルト
24. 2.5Y5/2 黄褐色細粒砂（径 1cm 以下の礫 20%含む）
25. 5Y6/1 灰色粘質シルト
26. 2.5Y4/1 黄灰色シルト
27. 7.5Y5/2 灰オリーブ色粗粒砂
28. 10YR4/1 褐灰色極細粒砂
29. 7.5Y6/1 灰色細粒砂（粗粒砂がラミナをなす）
30. 2.5Y6/3 にぶい黄色極細粒砂
31. 10YR6/1 褐灰色砂質シルト（土器を含む）
32. 2.5Y3/1 黒褐色砂質シルト（土器を多く含む）
33. 10YR5/1 灰色砂質シルト
34. 2.5Y4/3 オリーブ褐色細粒砂（径 2cm 以下の礫 80%含む）
35. 7.5Y5/1 灰色細粒砂（土器を含む、粗粒砂がラミナをなす）
36. 7.5Y3/1 オリーブ黒色砂質シルト
（土器を含む、粗粒砂がラミナをなす）
37. 5Y5/2 灰オリーブ極細粒砂
38. 5Y6/2 灰オリーブ中粒砂
39. 2.5Y5/4 黄褐色中粒砂
40. 2.5Y5/1 灰色砂質シルト（径 2cm 以下の礫 50%含む）
41. 2.5Y5/1 黄灰色砂質シルト
42. 2.5Y4/2 暗灰黄色細粒砂
（土器を含む、径 1cm 以下の礫 40%含む）
43. 7.5Y5/2 灰オリーブ色粗粒砂（径 3cm 以下の礫 50%含む）
44. 7.5Y4/1 灰色中粒砂
45. 5Y5/2 灰オリーブ色粗粒砂
46. 10YR5/6 黄褐色細粒砂（径 2cm 以下の礫 15%含む）
47. 5Y5/2 灰色～ 7.5Y5/1 灰色細粒砂～粗粒砂
（粘土～粗粒砂がラミナをなす）
48. 7.5Y6/1 灰色細粒砂（粗粒砂がラミナをなす）
49. 5Y4/1 灰色粗粒砂
50. 5Y4/2 灰オリーブ色粗粒砂
51. 5Y5/2 灰オリーブ色粗粒砂
52. 10YR5/1 灰色粗粒砂（径 1cm 以下の礫 80%含む）
53. 10YR5/1 灰色粗粒砂
（土器を含む、径 1cm 以下の礫 80%含む）
54. 5Y4/2 灰オリーブ色粗粒砂（径 1cm 以下の礫 30%含む）
55. 7.5Y4/1 灰色粘質極細砂
56. 7.5Y5/1 灰色粗粒砂（径 2cm 以下の礫 20%含む）
57. 5Y4/2 灰オリーブ色細粒砂
58. 5Y5/2 灰オリーブ色粗粒砂（径 1cm 以下の礫 60%含む）
59. 5Y5/2 オリーブ色粗粒砂（径 5cm 以下の礫 20%含む）
60. 10YR3/4 暗褐色粗粒砂（径 5cm 以下の礫 30%含む）
61. 10YR4/1 褐灰色シルト【015 ピット】
62. 10YR4/1 褐灰色シルト【006 ピット】
63. 7.5Y5/1 灰色砂質シルト
64. 5Y5/1 灰色極細砂
65. 7.5Y5/1 灰色粘土
66. 5Y6/1 灰色砂質シルト
67. 7.5Y5/1 灰色粘土
68. 5Y5/1 灰色粗粒砂（径 1cm 以下の礫 50%含む）
69. 2.5Y5/1 黄灰色シルト
70. 7.5Y5/1 灰色粘土

図 49　第 1 調査区東壁（016 流路）断面図



地区	出土玉類 臼玉製品	臼玉未成品	管玉	双孔円盤	計
A5	1				1
C2	1	1	2		4
C3	3				3
C4	9				9
C5	2				2
B△1	13			1	14
B△2	4	3			7
C△1	5	2	1		8
C△2	10				10
D△1	36	1		1	38
E△1	3				3
E△2	34				34
E△3	1				1
計	122	7	3	2	134

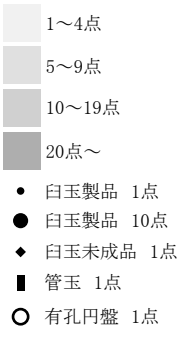


図 50　016 流路地区別遺物出土量

地へ周囲の地表物質が供給されるとともに土壌化が進行していくことによって形成されたと考えられるものであり、その分布は、東から西に向かい、幅約 14 m程度で帯状にのびていくものと思われる。

016 流路上層出土遺物　上層出土遺物として、須恵器杯蓋、杯身、高杯、椀、甕、壺、器台、甕、瓦質の鍋、円筒形土器、土師器壺、甕、甑、小型丸底土器、製塩土器、高杯、滑石製臼玉（本章第３節で詳述）が挙げられる（図 51 ～ 55-288 ～ 446）。須恵器は、古墳時代中期が主体であるが、土師器は前期のものと中期のものとが混在している。

杯蓋（288 ～ 306）は、口径 11.5 ～ 15.8cm、器高 3.5 ～ 5.0cm を測り、天井部が平らなもの（288 ～ 294・301）とやや丸みをもつもの（295 ～ 299・302 ～ 306）がある。前者の口縁部は、やや外反気味に開いて端部が平坦面をなすものもあるが、後者は直下にのびて端部が内傾する凹面をなすものが多い。ただし、これらの要素は截然とは分離できず、一定程度の混淆を示す。なお挿図は、左上から右下に向かって、天井部が平たいものから丸いものへ、口縁端部形態は平坦面をなすものから内傾する凹面をなすものへと配列しようと試みた。306 は、口径がひときわ大きく、口縁端部の処理も粗雑化が進んでおり、他の個体とは時期的な隔たりを感じさせる。

杯身（307 ～ 322）は、口径 9.8 ～ 11.8cm、器高 4.0 ～ 5.3cm を測り、そのほとんどの底部が丸みを持ちながらもやや浅いものであることは、146 落ち込み出土遺物との相違点である。体部最大径位置は、受け部と一致する。立ち上がりは、やや短く内傾し、端部は内傾する凹面をなす

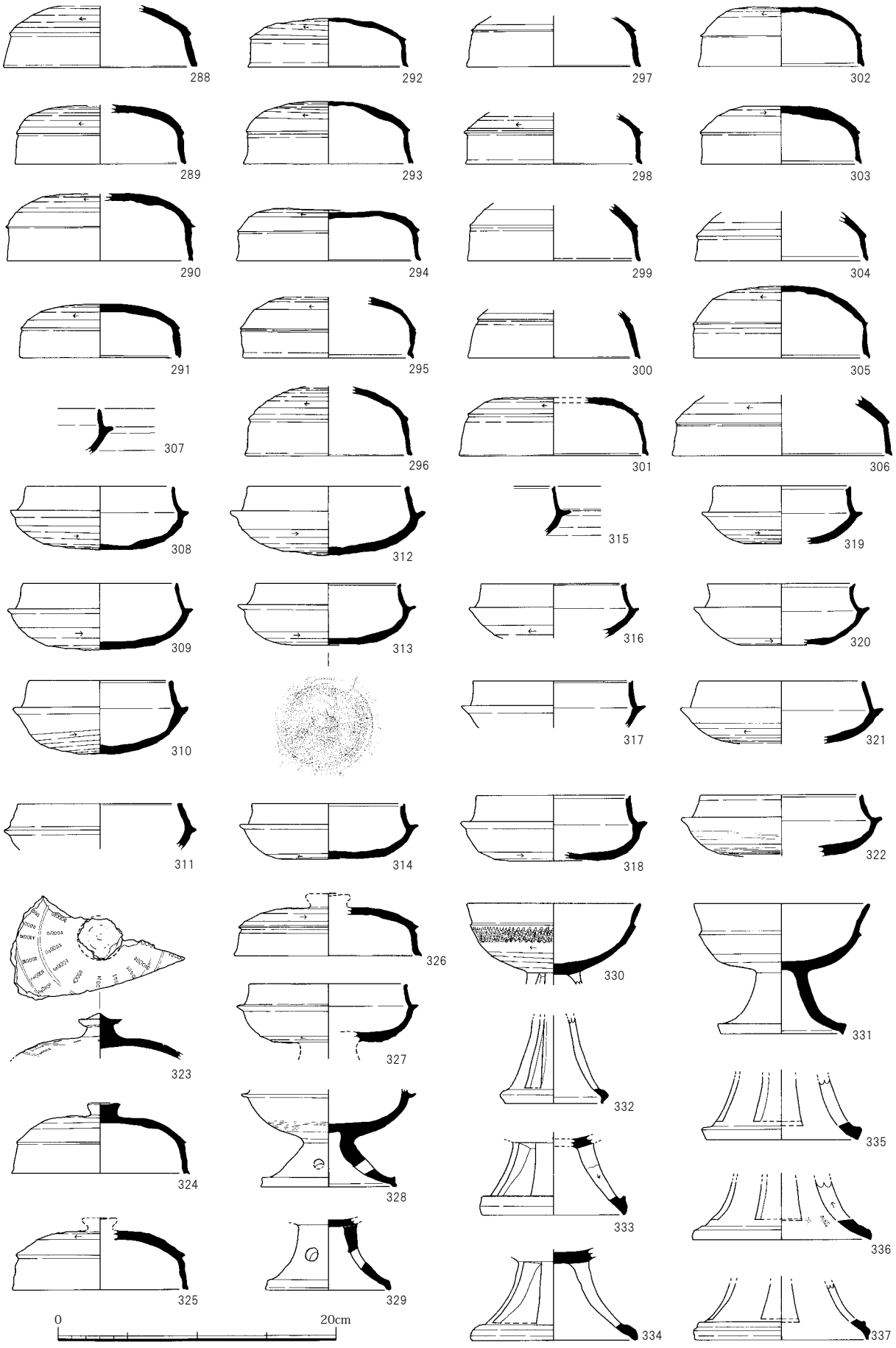


図 51　016 流路上層出土遺物 1

ものが多いが、底部が特に浅い 308・309 の口縁端部はいずれも丸く収める特徴的なものであり、146 落ち込みでみたものと同様の相関関係がありそうである。313 の底部外面にはヘラ記号が認められる。また、321・322 は、口径 11.6 ～ 11.8cm とひときわ大きく、立ち上がりも直線的であることなどから、杯蓋 306 同様に他の資料に対して時期的に降るものと考えられる。

323 ～ 326 は有蓋高杯杯蓋である。天井部がやや丸いもの(324･325)と平たいもの(326)がある。後者の天井部と口縁部の境の稜線は鋭く突出するものの、口縁端部は外反気味で凹面をなしている。323 のつまみは基部がやや高く中央部が突出するもので、天井部に沈線および列点文からなる装飾が加えられることと同様に通有の高杯杯蓋とは異なっている。327 ～ 329 は有蓋高杯杯身で、脚部には小円孔が認められる。

330・331・338・339 は無蓋高杯であり、332 ～ 337 も脚部のみであるがそのサイズと特徴からして無蓋高杯と考えられる。小型（330 ～ 332）と大型（333 ～ 339）に分けられる。小型のものにかんして、331 は杯蓋を反転させたような杯部に透かし孔のない脚部をもつ通有のものであるが、330 は杯部に波状文を加え、脚部に長方形透かしをもつ。前者は、独立した器種と考えられるが、後者は大型無蓋高杯を小型化したものの可能性がある。脚部の著しく伸長化した 332 とあわせて他の資料より時期的に降るものと考えられる。

340・341 は椀で本来は把手を伴っていた可能性がある。342 は小型の壺である。頸部径が大きいことから短頸壷かと思われる。343 も壺と思われるが、肩部の稜線が明瞭で頸部が細いことから、６世紀代の細頸壷になる可能性がある。344 ～ 346 は甕である。344 は扁球形の体部に短い口頸部を備える５世紀後半に通有のものであるが、345 の頸部は著しく長く、体部も委縮していることから、これについては６世紀に降るものと考えられる。

347・348 は広口壺で、ともに突線および波状文による装飾が加えられ、348 の口縁端部は面を持つ。350 は高杯形器台口縁部で、端部直下に突線が加えられ、端部は丸くおさめられている。349 ～ 353・356 は甕である。いずれも端部は上下に拡張され、面をなす。

354 は瓦質に焼き上げられた円筒形土製品で、下方が緩やかに広がっている。外面には、幅広のミガキ様の調整が加えられ、内面には接合痕およびナデの痕跡が明瞭にとどめられている。ナデは、横方向に施されたものであるが、通有の須恵器のような回転力を利用したものという印象は薄い。355 は瓦質の鍋で、体部外面に並行タタキ後カキメ調整、内面に当て具痕が認められる。

347 ～ 435 は土師器である。器種ごとに古墳時代前期に属するものと中期に属するものをなるべく分けて配列することをこころがけた。

壺については、357 ～ 373 を古墳時代前期、374 ～ 377 を中期に属するものと考えた。357 ～ 362 は二重口縁壺である。二次口縁部が垂下するもの（357・359)、二次口縁部が一次口縁部端の上に接合されるもの（360 ～ 362）があり、一次口縁部の形態も直線的にのびるもの（360）と曲線を描くもの（361）などさまざまである。361 については、山陰系土器の範疇で理解できる。363 は細頸壷で頸部に断面正方形の突帯を巡らす。364 ～ 371 は直口壺で、大きさに大小があり、

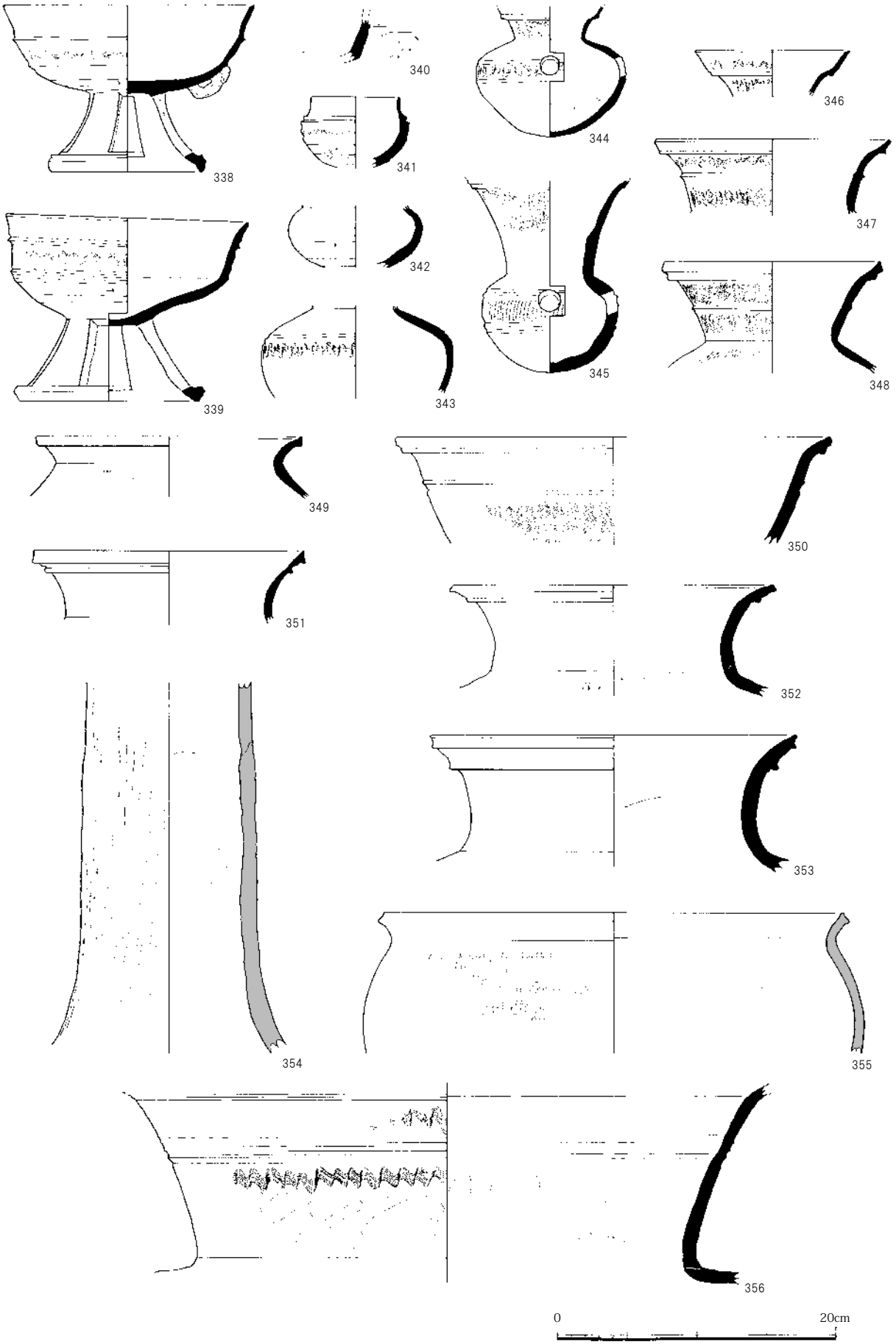


図 52　016 流路上層出土遺物２

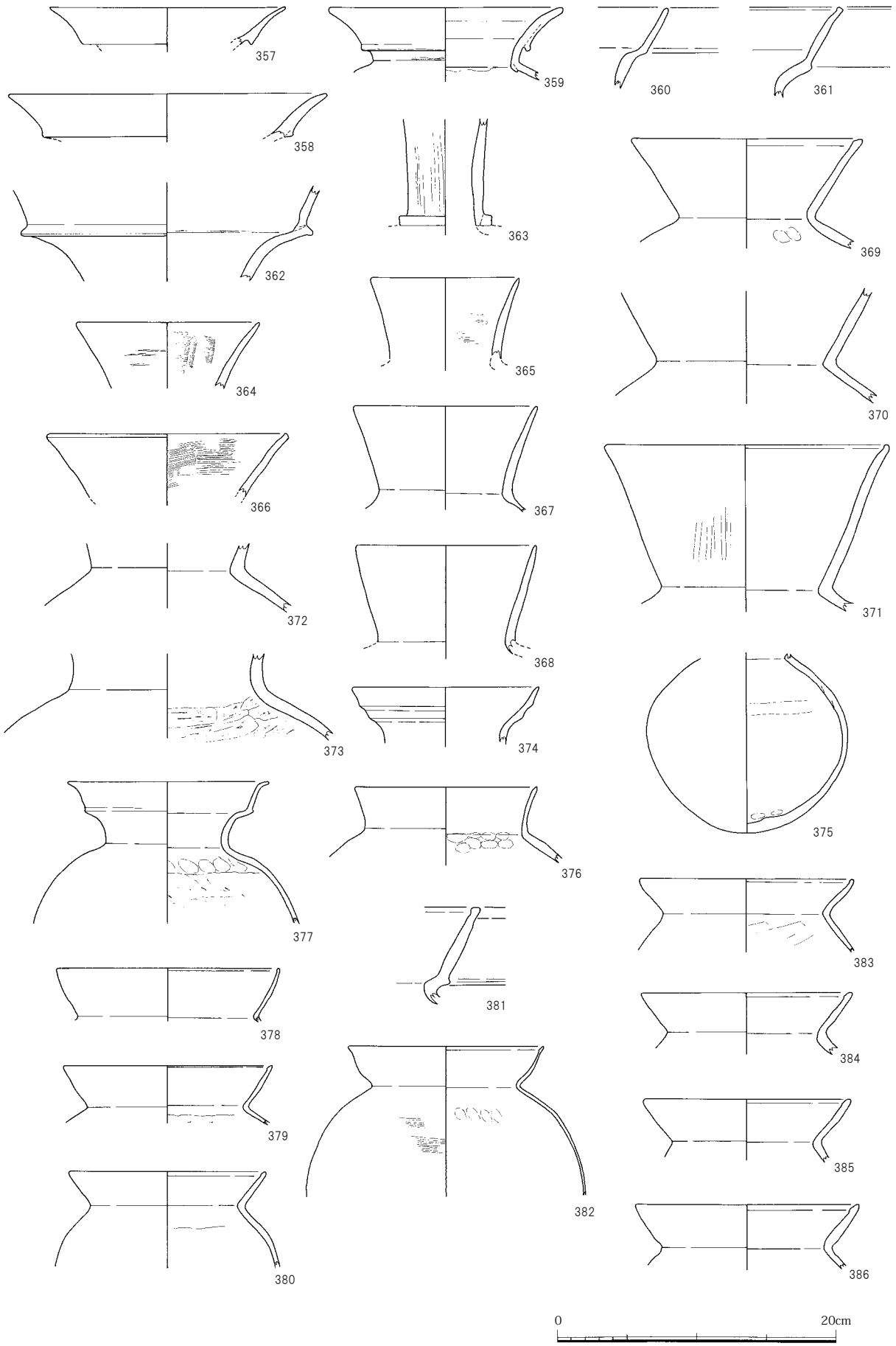


図 53　016 流路上層出土遺物３

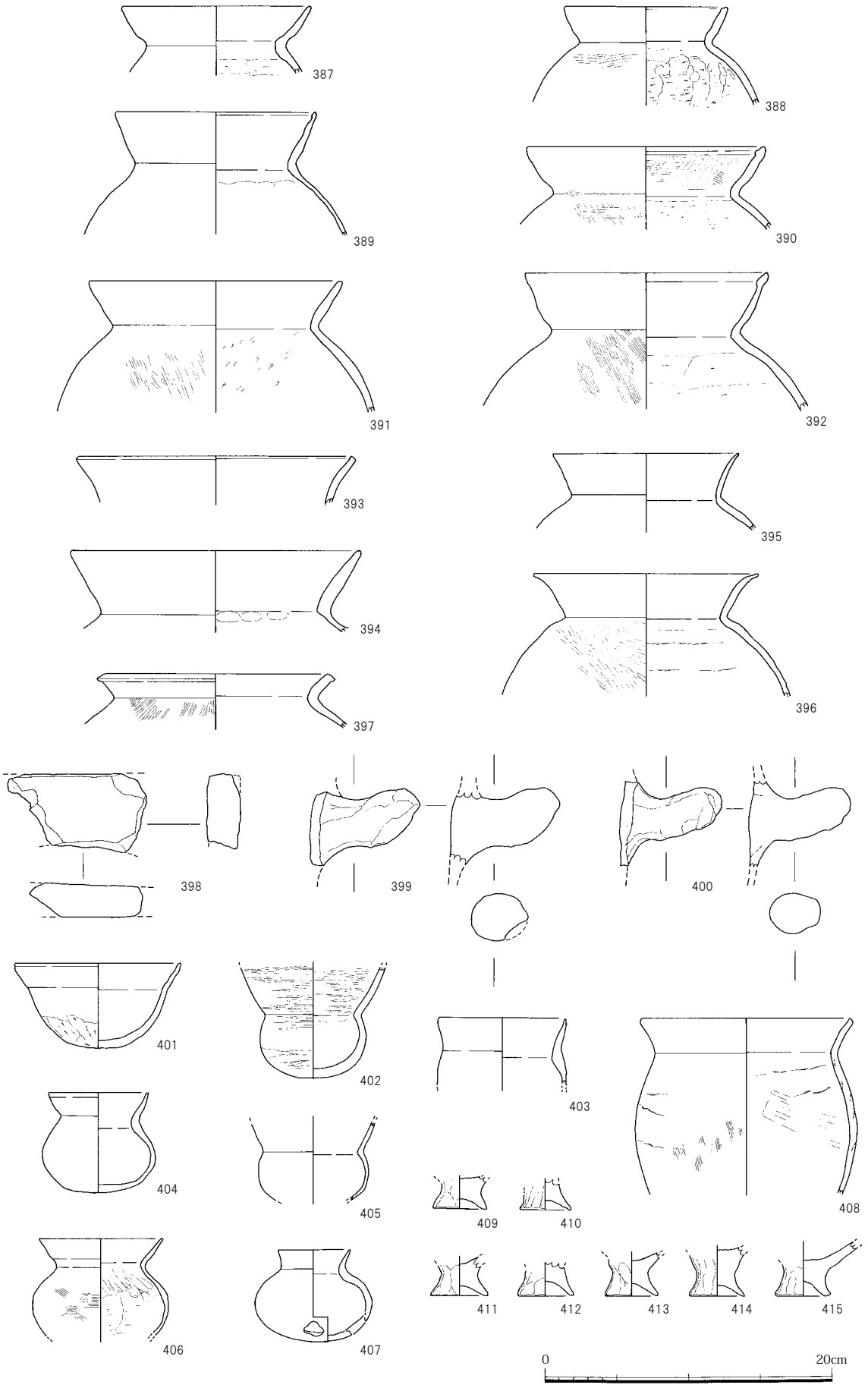


図 54　016 流路上層出土遺物４

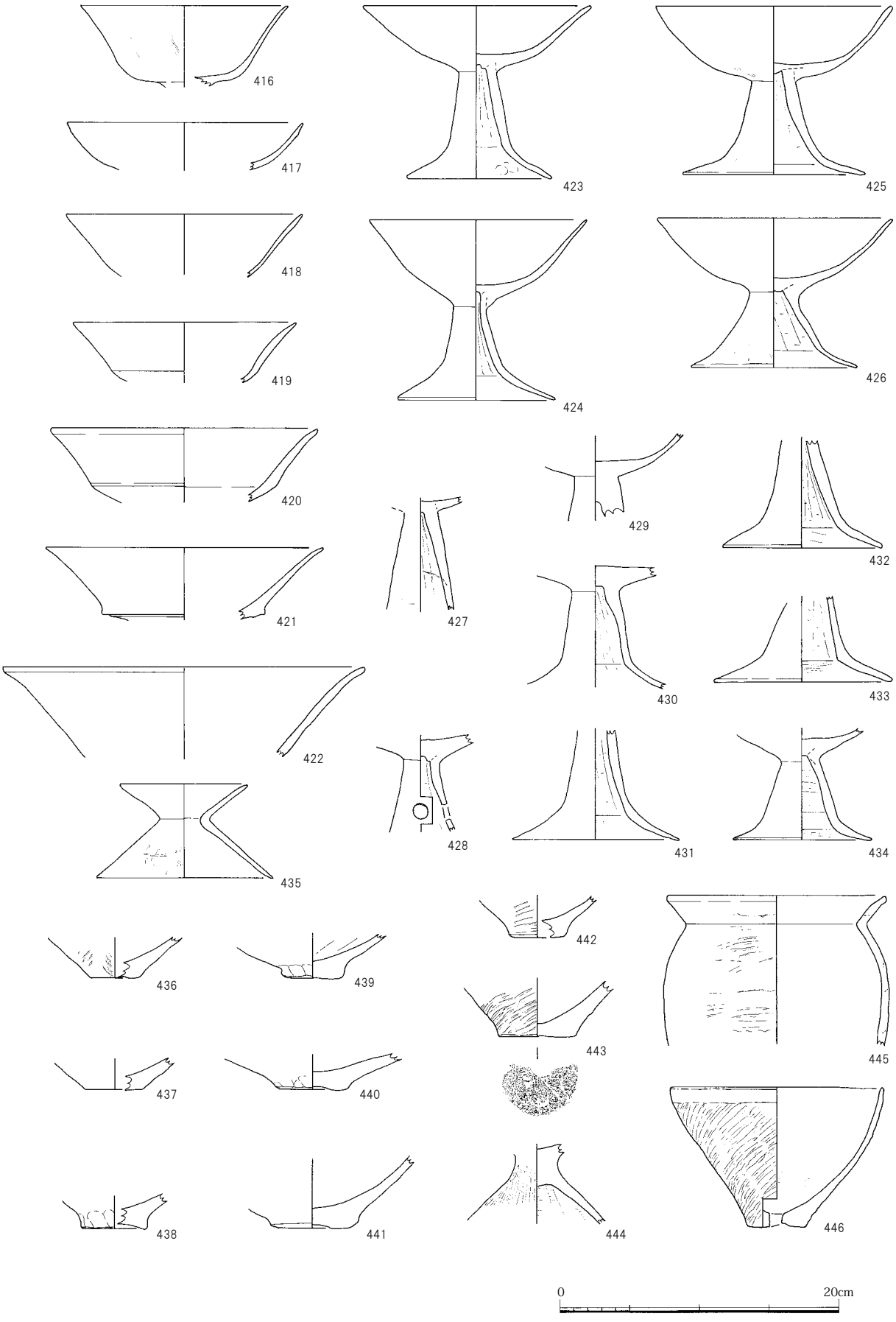


図 55　016 流路上層出土遺物５

大きいものの口縁端部内面は肥厚している（369・371）。374 は口縁部に浅い凹線状のくぼみが巡らされたもので、二重口縁壺の亜種ととらえるべきかもしれない。375 は小型の直口壺体部と思われる。376 は短い口縁部をもつもので前期には見られない形態である。377 は二重口縁壺で、内面にはケズリ調整をほどこすものの、肩部に傾斜変換点をもち、口縁端部が強く外反する様子などは前期にはみられないものである。甕は布留甕（378 ～ 392）、山陰系甕（381）、くの字状口縁甕（393 ～ 396）、宇田型甕（397）に分けられる。布留甕には口縁端部の内面肥厚が極端に大きいもの（390・392）や失われたものなど（388・391）も認められ、これらは中期に属する可能性が高い。381 は、暗い色調に角閃石を含む胎土を持つもので、河内地域からの搬入品と考えられる。397 は、粗い白色砂粒を多く含むもので、東海地方からの搬入品と考えられる。399・400 は甑把手である。断面形は楕円形を呈し、端部の面や上面の切り込みなどは認められない。398 は、土師質の土製品であるが、器種は不明である。小型丸底土器には、鉢形（401）と壺形があり、後者は口縁部の長いもの（402・405）と短いもの（403・404・406・407）に分けられる。壺形で口縁部の短いものは中期に降る可能性がある。408 ～ 415 は製塩土器である。408 は積山分類Ｇ類かと思われる甕形のもので、その他はＤ類である。中期中ごろから主体となるＨ類は認められない。416 ～ 434 は高杯である。杯底部と口縁部の境が明瞭なもの（419 ～ 421）と不明瞭なもの（416・423 ～ 426）がある。杯部と脚部の接合も中実の脚頂部に杯部を作り付けるもの（Ⅰ：427・429）と中空の脚頂部に杯部を作り付けるものとがある。後者には、杯底裏面に棒状工具による刺突痕跡が認められるもの（Ⅱ：423・424・428）と粘土を充填したままのもの（Ⅲ：425・426・434）とがある。Ⅱは前期から中期を通じて一定量が認められる。一方、Ⅰは主に前期に認められ、Ⅲは中期以降に主体がある。435 は小型器台であり、前期に属するものである。436 ～ 446 は弥生後期～庄内式期に属するものと思われる土器で、壺、甕、鉢、高杯などがある。

以上のとおり 016 流路上層出土遺物は、古墳時代前期後半（布留２式）から中期後半（Ⅰ型式４段階）を主体とし、わずかに後期前半（Ⅱ型式１段階）の須恵器が含まれる。016 流路上層は、既述した通り、放棄流路化した状態での堆積である可能性が高く、まれに水流があったとしてもその力は土器片を運搬できるほどのものではなかったと思われる。よって古墳時代前期後半～末には、集落内に残された窪地状の 016 流路に土器を主とする遺物が投棄されたものと思われる。この流路の上流にあたる第１次調査河川 1500 出土遺物では、今回の出土遺物よりやや古いものと新しいものの存在が目立っており、同じ流路であっても地点によって含まれる遺物の時期幅が異なる可能性が高い。このことは、この河川の運搬営力がすでに著しく弱まっており、出土遺物はその周辺から投棄されたものとする想定に整合的である。

016 流路下層出土遺物　下層出土遺物として、古式土師器壺、甕、高杯、器台、小型丸底土器、鉢、製塩土器、土錘がある（図 56 ～ 59-447 ～ 565）。

447 ～ 473 は壺である。直口壺には、サイズの大きいものと小さいものがあり、後者に精緻な横ミガキ調整を施すもの（精製器種Ⅰ群：451・452・459・460）が認められる。467 は大型品で、

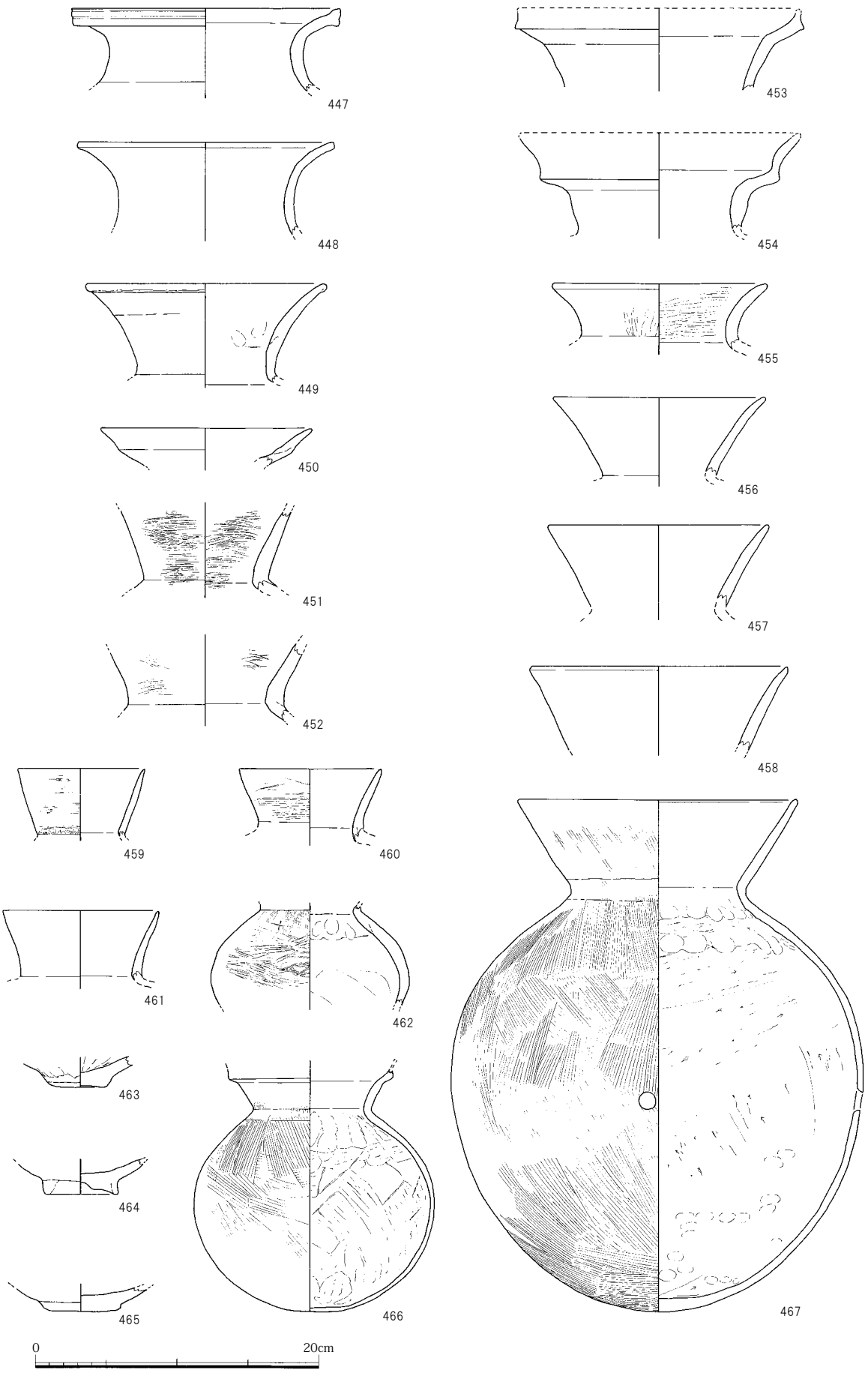


図 56　016 流路下層出土遺物 1

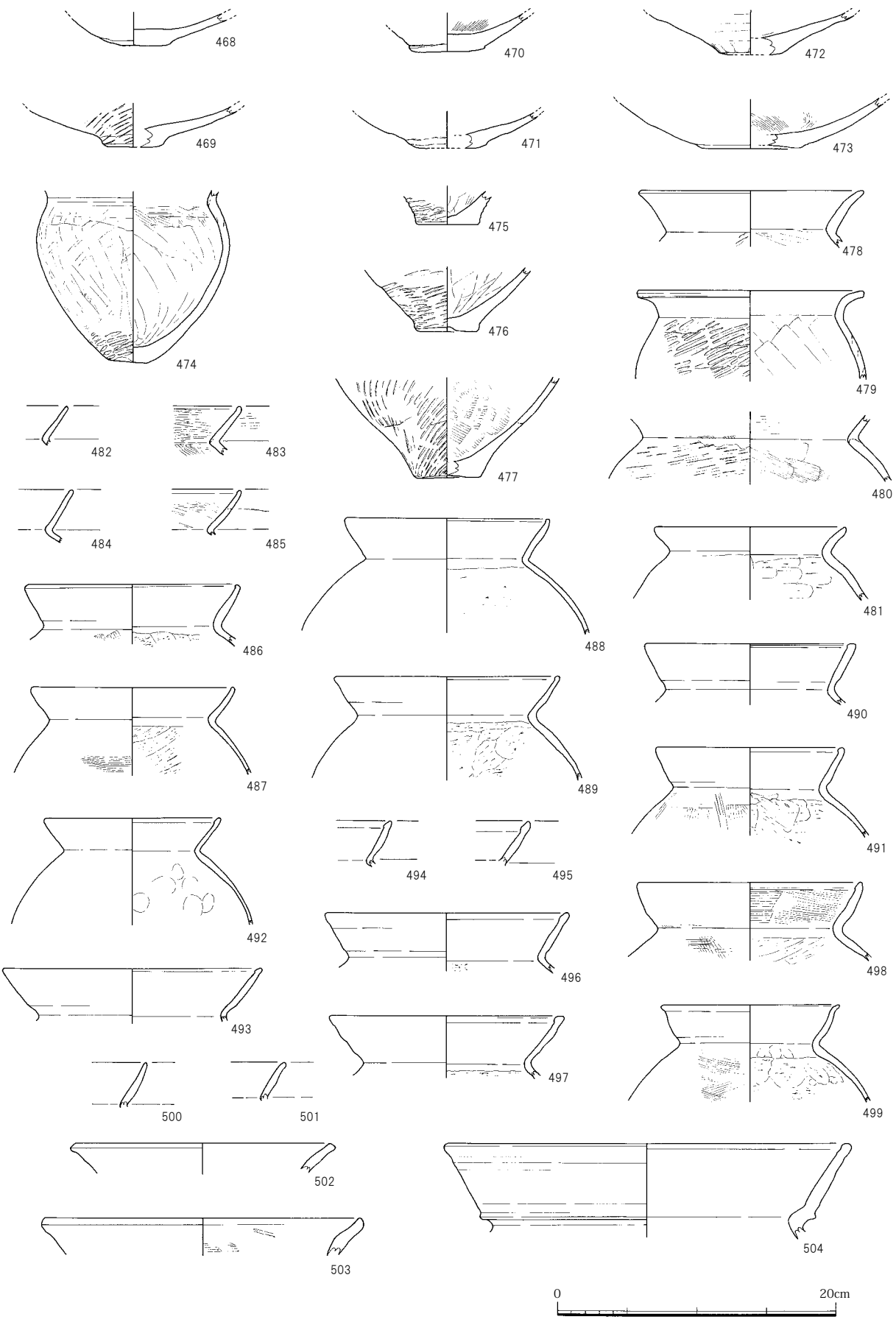


図 57　016 流路下層出土遺物２

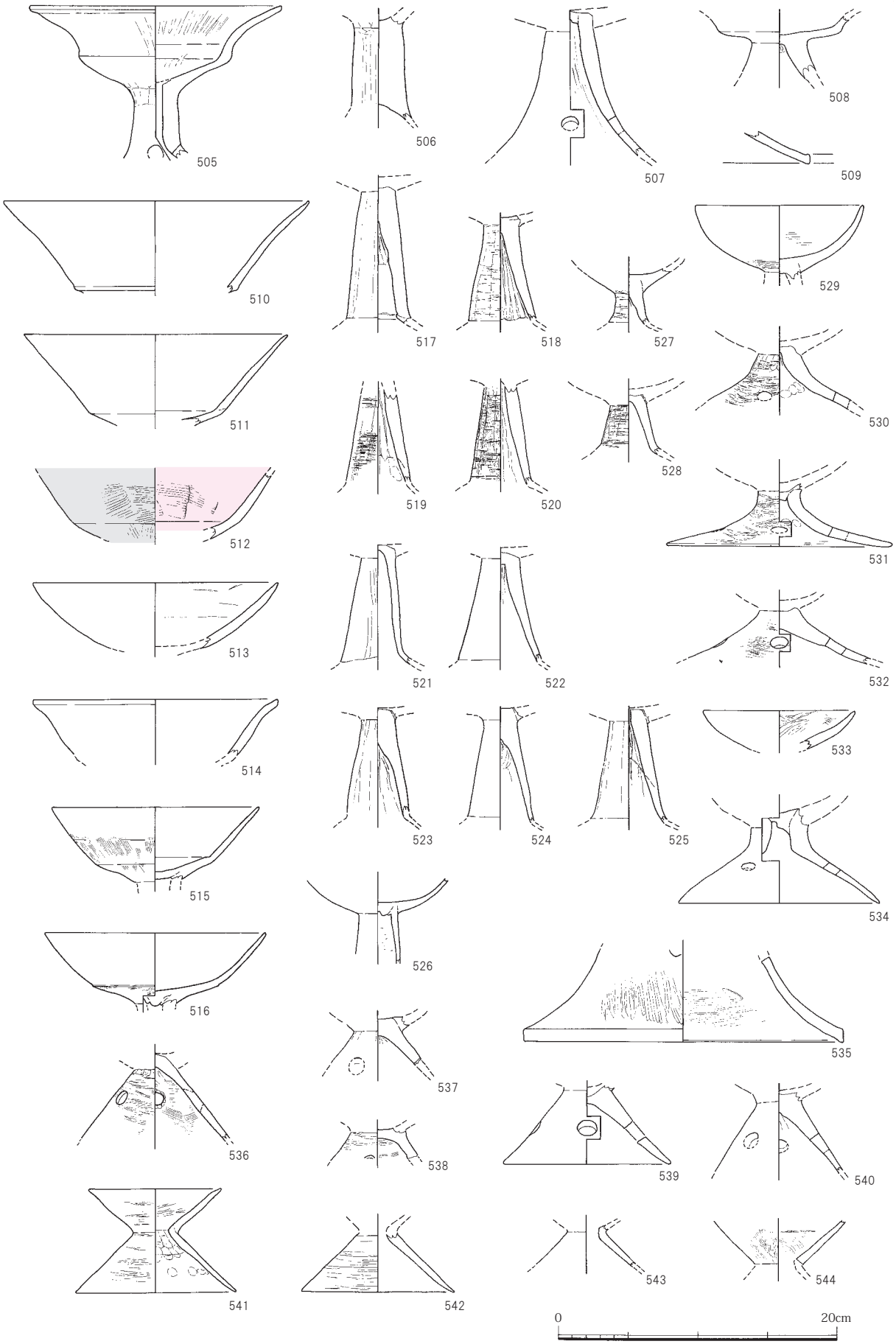


図 58　016 流路下層出土遺物３

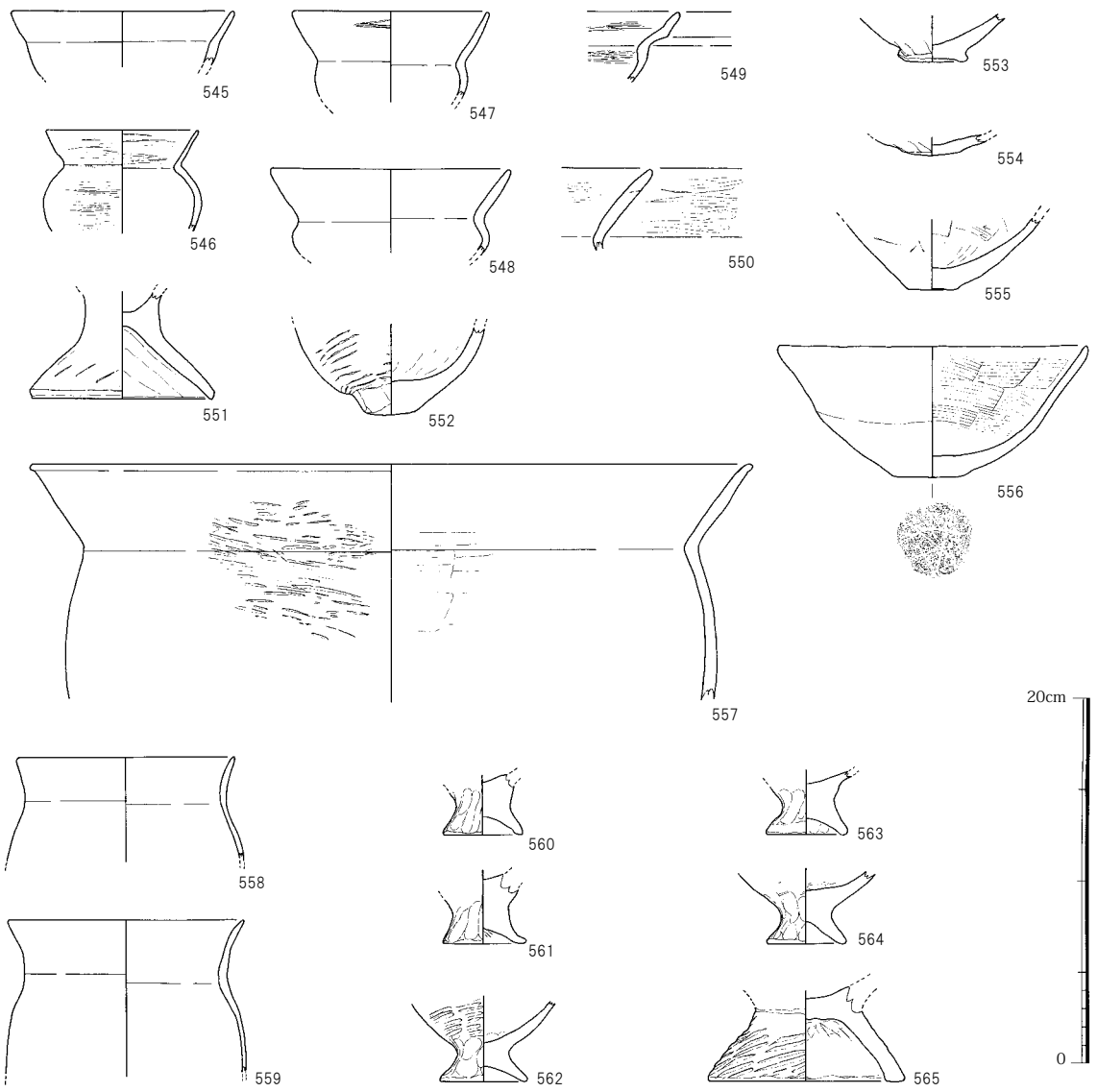


図 59　016 流路下層出土遺物４

体部側面に小孔が穿たれている。広口壺 453 と二重口縁壺 454 は、褐色～橙褐色を呈し、白色砂粒を含むもので、阿波地方からの搬入品と考えられる。454 の内面には、うすく煤の付着が認められる。466 は丸底の体部に短い口頸部をもつ二重口縁壺であるが、頸部の特徴などあまり類例をみないもので、体部内面側方に円形の焦げ付きの付着が認められる（図版 58)。底部は、丸底のものもある一方で突出底や小平底をなすものも多い（463 ～ 465・468 ～ 473)。

甕として 474 ～ 504 が挙げられる。474 ～ 480 は、外面にタタキを施したＶ様式系甕である。通有のものが多い中、474 は体部のタタキ目をナデによって消そうとしていること、および底部は成形後に再度タタキを加えて径を小さくしようとした可能性があり、Ｖ様式系甕の伝統からの逸脱を試みたものとして興味深い。483・485 の口縁は、Ｖ様式系のように外反することなく、直線的に上方へ立ち上がり、端部はわずかに上方へつまみあげられていることから、庄内甕の影響が考えられるかもしれない。

486 ～ 499 は布留甕で､端部の肥厚の小さいもの(486)から極端に大きいもの(498･499)まで様々

である。504 は複合口縁をもつ甕で、いわゆる山陰系の範疇でとらえられるものであろうが胎土には角閃石を含んでおり、河内地域からの搬入品と考えられる。505 ～ 534 は高杯である。有稜高杯には、Ｖ様式系（505 ～ 507)、精製器種Ⅰ群（上層遺物説明におけるⅠ：510・511・517 ～ 525)、精製器種Ⅱ群（同じくⅡ：526）が認識される。他に中実の脚柱部頂部に杯部を作り付け、粘土を充填したままのもの（同じくⅢ：515・516）がある。Ⅰ群高杯にも、脚柱部が長いものから短く調整の粗雑なものまで幅がある。なお 512 の杯部内面には、うすく水銀朱の付着が認められ、外面にはススが付着する。内外面ともハケが施されるなど、特異な個体である。

椀形高杯にも同様に精製器種Ⅰ群に属するもの（527 ～ 530）がある一方、これを在地の技術で模倣したと思われるもの（531 ～ 534）が一定量存在する。Ⅰ群のものが中実の脚頂部に杯部を作り付け、精緻な横ミガキを施すのに対し、模倣品は頂部がくぼんだ脚部を用いたり、幅広のミガキ調整を行ったりとその様相は安定的でない。

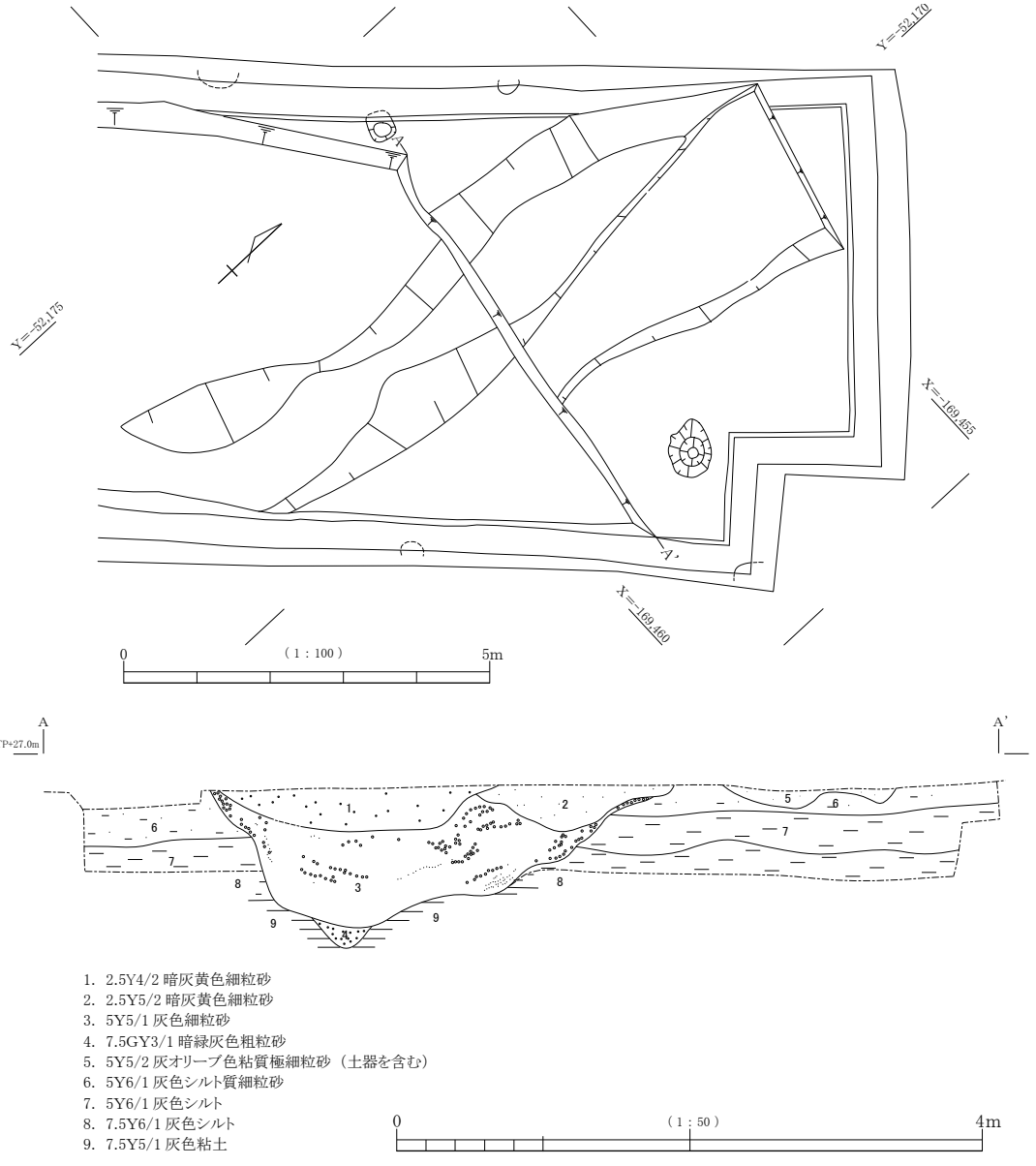


図 60　017 流路平面図および断面図

535 は器台で、小型化していないことから、弥生時代後期に位置づけられる。この流路の年代の上限を示すもの、あるいは下層からの巻き上げととらえるべきかもしれない。

536 ～ 544 は小型器台である。椀形の受け部をもつものと中空のものがあるが、精製器種Ｉ群（536・537・541 ～ 544）とその模倣品（538 ～ 540）があることは高杯と同様である。ただし、中空のものに模倣品が認められないという点は、時期と系統の関係を示すものとして興味深い。

545 ～ 548 は小型丸底土器で、これらは有段口縁鉢（549）とともにＩ群精製器種に属するものとみることができる。550・557 は大型の鉢でくの字状口縁をもつ。外面および口縁部内外面には横方向の粗いミガキ様の調整が施される。551 は、脚部のみであるが高杯に伴うものとは考えにくいことから、いちおう鉢として扱っておく。鉢の底部も、突出底から小平底まで幅があることは甕と同様であり、特に 552 や 554 には、底部を小さく見せようと努力した形跡が窺われる。

558 ～ 565 は製塩土器である。558・559 は積山分類Ｇ類の甕型を呈するもので、器壁の赤変が著しい。560 ～ 564 はＤ類、565 はＡ類の脚部である。

以上のとおり 016 流路下層出土遺物は、弥生時代後期末（庄内式期）から古墳時代前期後半（布留２式）を主体とし、わずかに前期末の土器が含まれる。既述した通り、この時期には活発な河川活動があり、それに伴い多くの土器片や流木が上流より運搬されてきたものと思われる。

017 流路　016 流路と交差する南北方向の流路である（図 60、図版 39）。上面幅約３ｍ、深さ約 1.4m を測り、第５層を鋭く切り込んでいる。埋土には礫が多く、強い流速が窺われる。遺物は少なく、完形に近い有孔鉢（図 80-882）１点が主な出土品である。第５層が 016 流路からの溢流堆積によって形成されているとすれば、これを切る 017 流路は、016 流路に後出することになるが、両者の交錯する部分においてこれを平面的に認識することはできなかった。あるいは 016 流路断面北側に現れたある時点での流路につながるものかとも考えたが、平面的にうまく接続せず、層相も異なることから、積極的には支持しがたい。本書では、一応これを 016 流路下層の一定の活動によって第５層の堆積が進んだ後に形成され、その後再度 016 流路下層本流の流れによって切られたものと考えておきたい。

（７）包含層等出土遺物

古墳時代遺構面の検出に際して、568 ～ 574 の土器が出土した（図 61）。遺構面の上の旧作土（第４層）に含まれるものである。568 は、弥生土器広口壺と思われる口縁部片で、磨滅が著しく調整や装飾などは

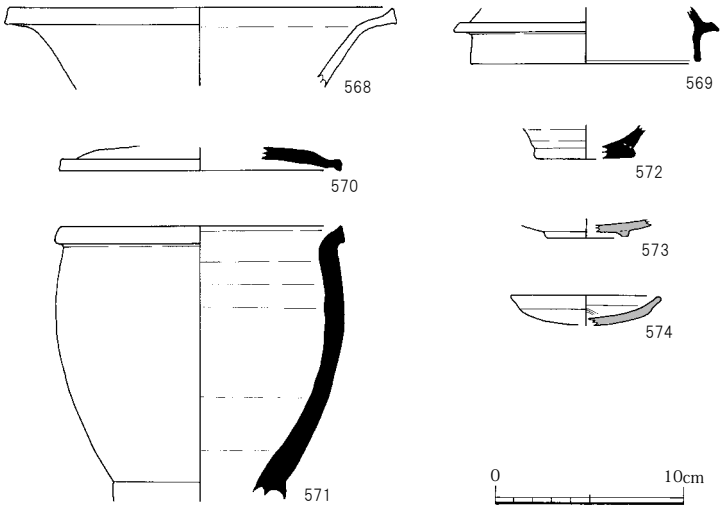


図 61　第３層出土遺物

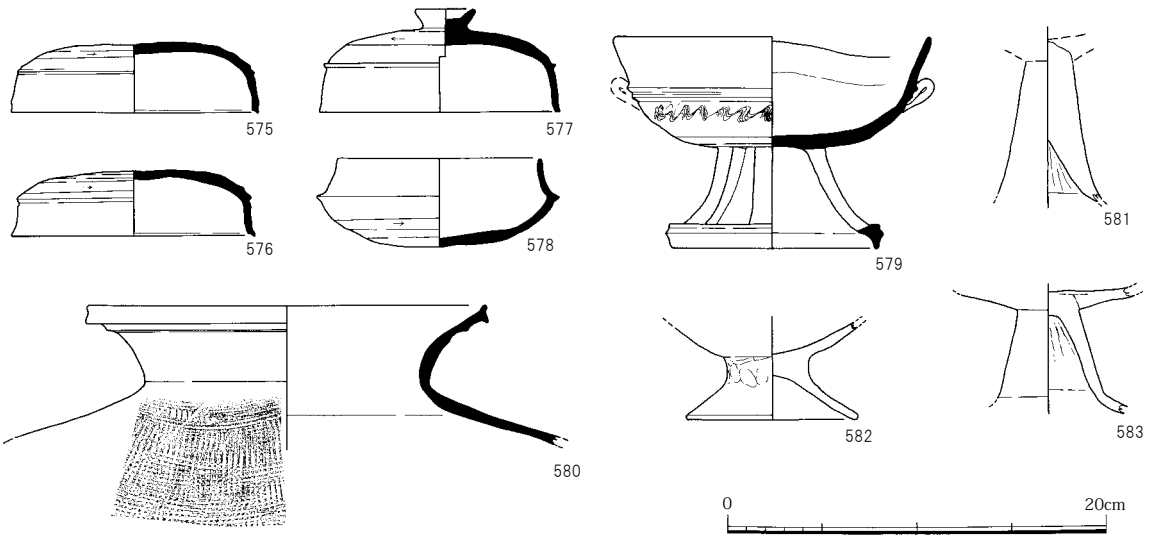


図 62　撹乱内出土遺物

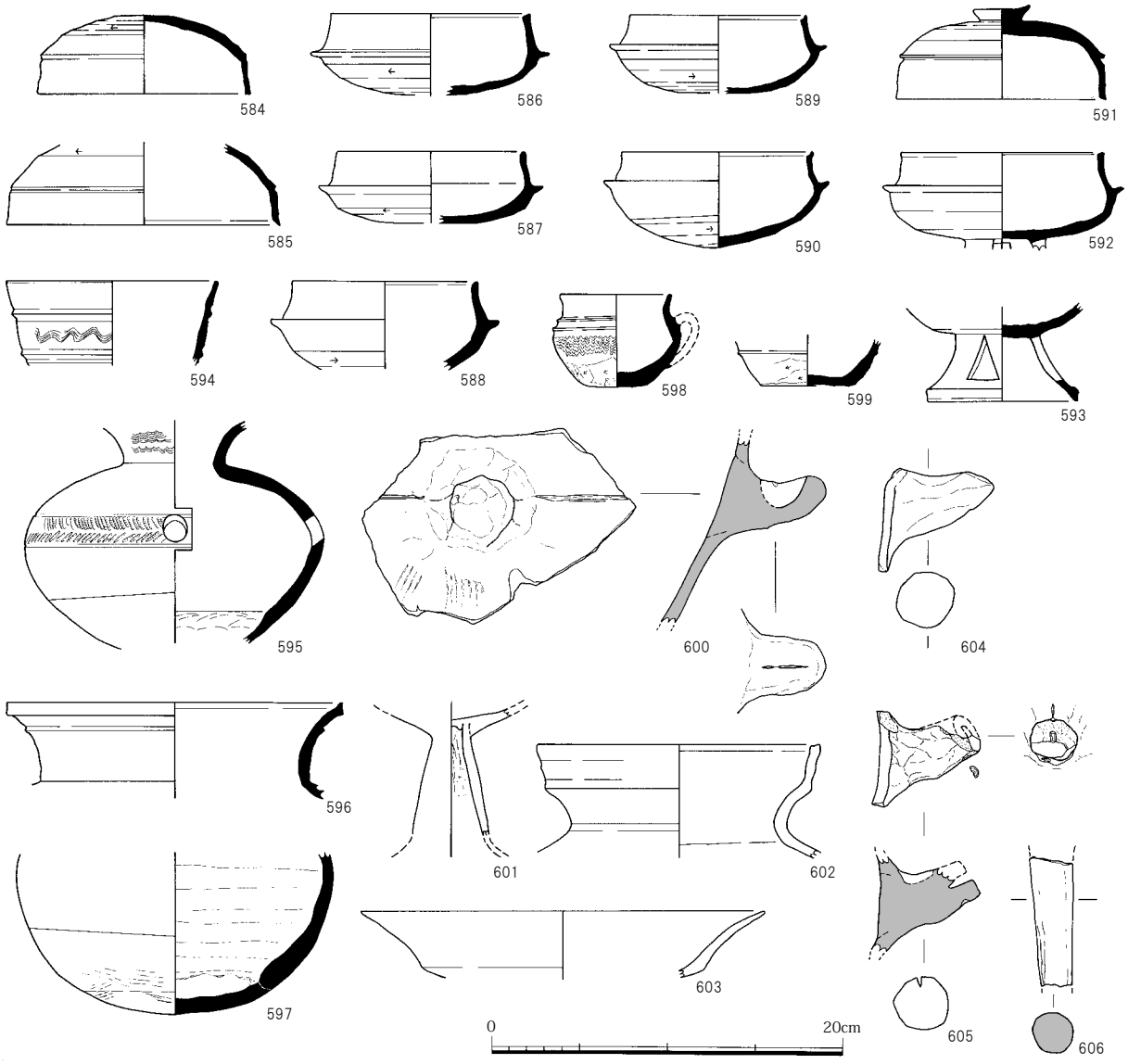


図 63　包含層等出土遺物１

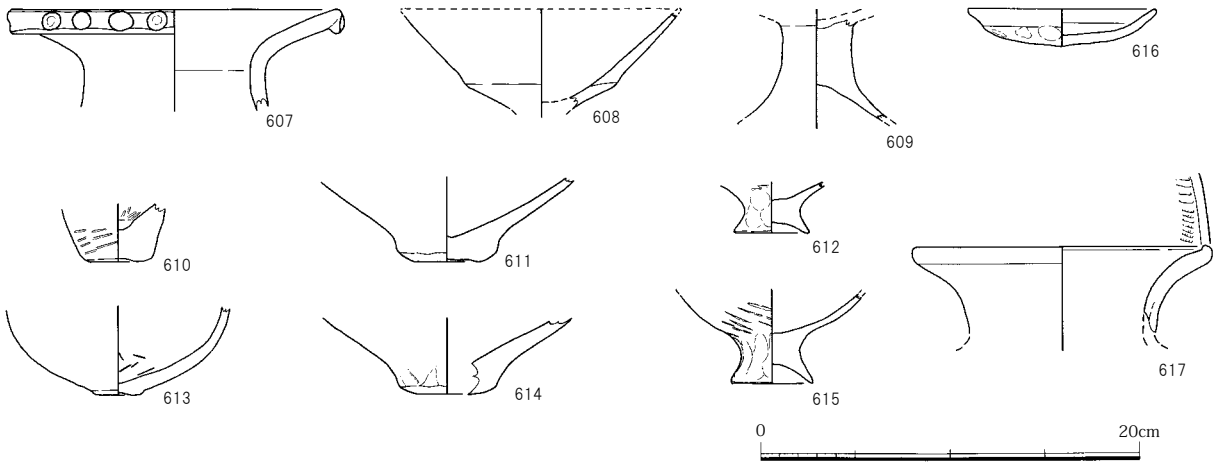


図 64　包含層等出土遺物２

確認できないが、弥生時代中期にさかのぼる可能性があろう。569 ～ 572 は須恵器で、８～９世紀に属するものと思われる。573・574 は、おおむね 13 世紀に属するものと思われる瓦器である。

575 ～ 583 は、撹乱内から出土した遺物である（図 62)。杯蓋（575・576）はともに天井部が平らであるが、576 の口縁端部は幅広の内傾した平坦面をなす特徴的なものである。杯身（578）も受け部の突出が小さく、緩やかに内湾する立ち上がりの端部は丸くおさめられるなど、他の個体にはみられない特徴をもつ。579 は、大型の無蓋高杯で焼成により、全体のひずみが著しい。土師器高杯の 581・583 は、ともに接合技法、胎土などの面でⅠ群精製器種の特徴を備えている。

ほかに第１調査区包含層出土遺物として 584 ～ 606 がある（図 63)。包含層として取り上げを行ったが、その大半は 016 流路上層に属するものであったと考えられる。須恵器杯蓋には、５世紀代に属すると思われるもの（584）と６世紀に降るもの（585）とがある。杯身はいずれも５世紀に属するものと思われるが、底部がやや浅く立ち上がりはやや長いもの（586・587・589）と底部が深く立ち上がりはやや短いもの（588・590）がある。大型の瑞（595）も５世紀に特有のものである。601 は高杯脚部で、精製器種Ⅱ群の特徴をもつ。600 の鍋は、瓦質焼成で体部の把手接合位置に沈線が巡らされている。把手の接合は､差し込み式で上面に切り込みをもつ。また、605 の甑（鍋）把手も、上面に切り込み、端面に刺突、下面に半裁竹管による刺突の痕跡をとどめている。606 は瓦器三足の脚であろうか。

第２調査区包含層等出土遺物として 607 ～ 617 がある（図 64)。大半は庄内式期に属すると思われるが、616 の土師器皿は 13 世紀に降るものであろう。他に第３調査区包含層出土遺物として 618、出土地不明遺物として 619・620 を図化した（図 65)。620 は口縁部外面にもタタキを施したＶ様式系甕であるが、頸部に強い横ナデを施すなど、いわゆる淡路型甕とも異なる特徴をもつように思われる。

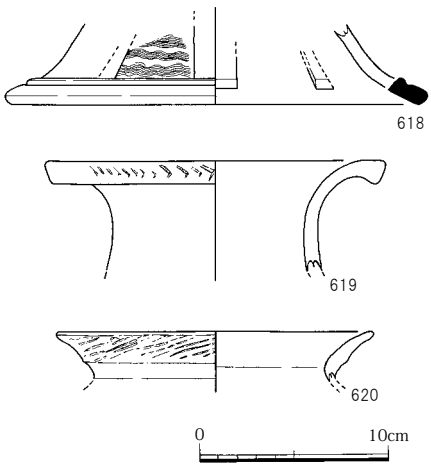


図 65　包含層等出土遺物３

第３節　その他の遺物

（１）玉類

古墳時代遺構面出土玉類として 621 ～ 791 がある（図 66・67)。内訳としては、滑石製臼玉製品 156 点（621 ～ 674、680 ～ 777、779 ～ 784)、同未成品７点（675 ～ 679、785・786)、滑石製管玉３点（787 ～ 789)、ガラス小玉１点（778)、滑石製有孔円盤２点（790・791）となり、素材と思われる緑泥色片岩の板材（792）がこれに加わる。

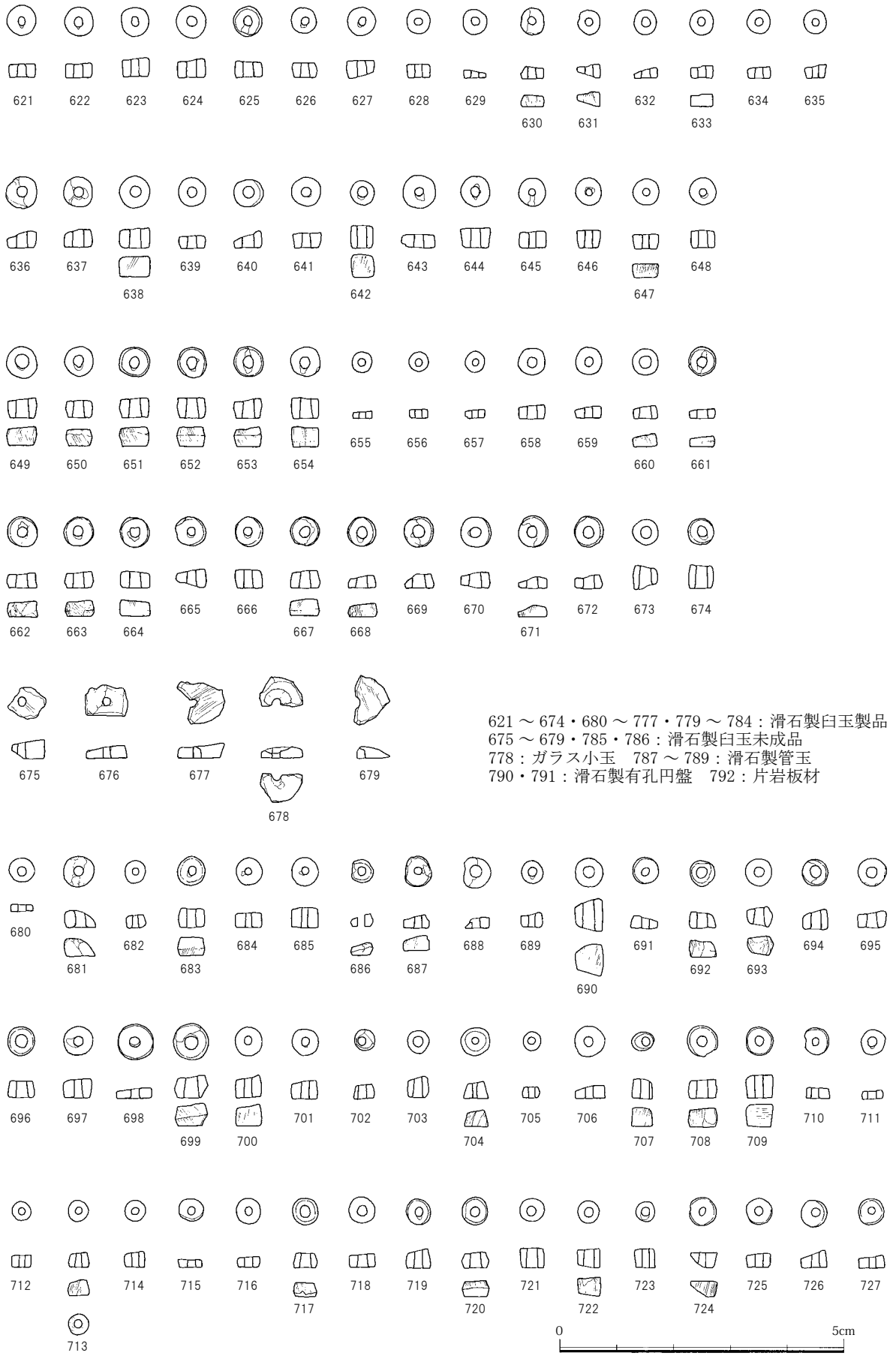
大半は、016 流路からの出土であるが、ほかに 018 溝、179 溝、145 竪穴建物、177 竪穴建物、295 土坑からも出土をみた。これらの玉類は、現地の掘削において認識することはできなかったが､第１次調査において河川内出土土器の内部などから滑石製玉類が出土したことを念頭におき、各種の遺構についてサンプル的に埋土の洗浄を行った結果として得られたものである。なお、他に 146 落ち込みについても若干の埋土洗浄を行ったが、玉類は含まれていなかった。

滑石製臼玉　臼玉はいわゆる滑石製で、蛇紋岩に近い特徴をもつものと、片岩に近いものとに分かれる。先行事例を参照し(島崎編 2002､廣瀬 2002 ほか)､下記のとおり観察項目を定めて観察、図化を行った。

・寸法：径（㎜)、孔径（㎜)、厚さ（㎜）
・断面形：Ａ（中位に稜をもつ算盤玉形のもの)、Ａ’（Ａの稜の緩いもの)、
　　Ｂ（丸みをおびるもの)、Ｃ（直線的なもの）のいずれか
・穿孔：片面穿孔、両面穿孔のいずれか
・表裏面角度：表面と裏面の角度が平行であるか非平行であるか
・穿孔角度：穿孔開始面（表面とよぶ）に対して、穿孔角度が直交するか斜交するか
・色調：灰、白、褐、淡緑灰のいずれか
・質感：緻密、ざらざらする、など任意に記述
・穿孔剥離：裏面（穿孔開始面に対して）に孔の貫通に伴って生じたと思われる剥離があるかいなか
・擦痕：側面の擦痕の有無および方向（右上がり、左上がり、横方向のいずれか)
・グループ：法量、形態、製作技法などの観察によって認識したまとまり（第７章で詳述）

その結果は、表３のとおりであり、寸法や材質、その他の特徴など変異に富むことが理解されるであろう。これらの詳細については、第７章において改めて検討を行うこととする。

滑石製臼玉未成品　次にこれらの臼玉の製作途中品と考えられるのが、675 ～ 679・785・786 である。675 は平面形菱形を呈すもので、本来の工程上はこののちに周囲を円形に研磨するものと思われる。穿孔は成功しているが、その位置が著しく端によっているため、その後の工程が断念されたものと思われる。676 は、平面長方形を呈するもので工程が完遂されていない理由は不明である。677 ～ 679・785 は、いずれも穿孔時に破損したもので、677・679・785 の断面をみる



621 ～ 674・680 ～ 777・779 ～ 784：滑石製臼玉製品
675 ～ 679・785・786：滑石製臼玉未成品
778：ガラス小玉　787 ～ 789：滑石製管玉
790・791：滑石製有孔円盤　792：片岩板材

図 66　出土玉類１

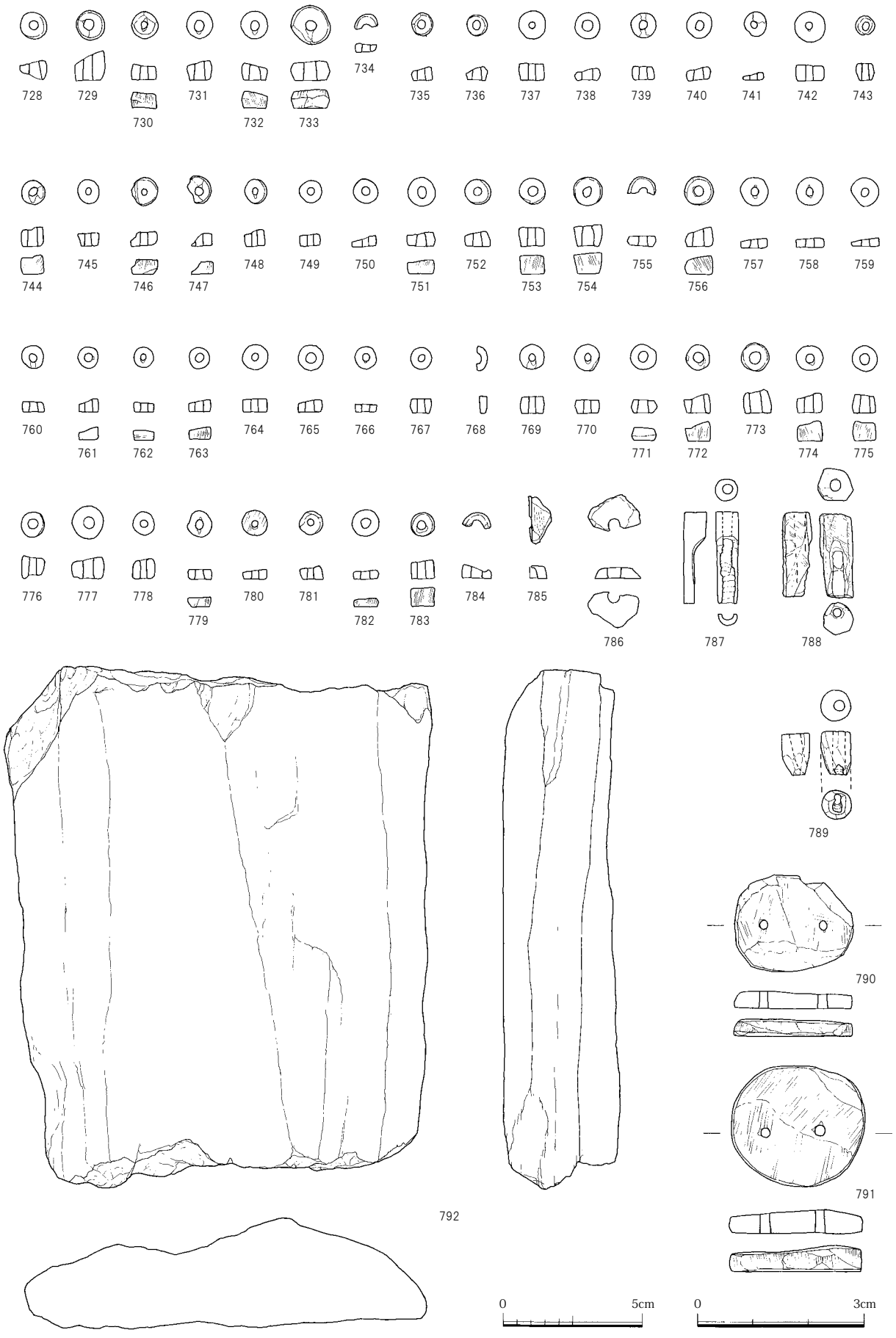

728
729
730
731
732
733
734
735
736
737
738
739
740
741
742
743
744
745
746
747
748
749
750
751
752
753
754
755
756
757
758
759
760
761
762
763
764
765
766
767
768
769
770
771
772
773
774
775
776
777
778
779
780
781
782
783
784
785
786
787
788
789
790
791
792
0
5cm
0
3cm

図 67　出土玉類２

表３　寺田遺跡出土玉類観察表

報告No.	分析No.	遺構・地区	形態	径(mm)	孔径(mm)	厚さ(mm)	断面形	穿孔	表裏面角度	穿孔角度	色調	質感	穿孔剥離	擦痕	備考	グループ
621	113361	018 溝	臼玉製品	5.0	1.9	2.4	B	片面	非平行	直交	灰	きらきらする	○			A
622	113362	018 溝	臼玉製品	5.0	2.0	2.6	B	片面	平行	直交	灰	きらきらする	○			A
623	113363	018 溝	臼玉製品	5.1	1.7	3.3	B	片面	平行	直交	灰	きらきらする				A
624	113364	018 溝	臼玉製品	5.4	1.9	3.3	B	片面	平行	直交	灰	きらきらする				A
626	113366	018 溝	臼玉製品	4.5	1.8	2.7	B	片面	平行	直交	灰	きらきらする	○			A
627	113367	018 溝	臼玉製品	5.0	1.9	3.0	B	片面	非平行	直交	灰	きらきらする	○		非平滑面から穿孔	A
628	113275	016 流路 C △ 2	臼玉製品	4.1	1.4	2.5	C	片面	平行	直交	白	緻密			断面逆台形	B
629	113285	016 流路 D △ 1	臼玉製品	4.2	1.5	1.6	C	片面	非平行	直交	白	緻密				B
630	113286	016 流路 D △ 1	臼玉製品	4.2	1.5	2.0	C	片面	平行	直交	白	緻密		左		B
631	113287	016 流路 D △ 1	臼玉製品	4.1	1.5	2.5	C	片面	非平行	斜交	白	緻密		左		B
632	113288	016 流路 D △ 1	臼玉製品	4.2	1.4	2.0	C	片面	非平行	直交	白	緻密				B
633	113289	016 流路 D △ 1	臼玉製品	4.1	1.5	2.2	C	片面	平行	直交	白	緻密		左		B
634	113290	016 流路 D △ 1	臼玉製品	4.0	1.6	2.0	C	片面	平行	直交	白	緻密				B
635	113291	016 流路 D △ 1	臼玉製品	3.9	1.4	2.4	C	片面	非平行	直交	白	緻密			断面逆台形	B
636	113231	016 流路 C3	臼玉製品	5.5	1.8	2.9	C	片面	非平行	直交	白～褐	緻密				Ca
637	113245	016 流路 B △ 1	臼玉製品	5.1	1.8	3.1	B	片面	非平行	直交	白～褐	緻密	○		断面台形	Ca
638	113267	016 流路 C △ 1	臼玉製品	5.6	1.9	3.6	B	片面	平行	直交	白～褐	緻密		右		Ca
639	113277	016 流路 C △ 2	臼玉製品	4.8	1.7	2.1	B	片面	平行	直交	白～褐	緻密				Ca
640	113278	016 流路 C △ 2	臼玉製品	5.1	2.0	3.1	B	片面	非平行	直交	白～褐	緻密				Ca
641	113293	016 流路 D △ 1	臼玉製品	4.8	1.7	2.8	B	片面	非平行	直交	白～褐	緻密			断面逆台形	Ca
642	113294	016 流路 D △ 1	臼玉製品	4.3	1.8	3.8	B	片面	平行	直交	白～褐	緻密	○	右		Ca
643	113295	016 流路 D △ 1	臼玉製品	5.8	1.8	2.4	B	片面	平行	直交	白～褐	緻密	○			Ca
644	113296	016 流路 D △ 1	臼玉製品	5.2	1.8	3.5	C	片面	平行	直交	白～褐	緻密	○		断面逆台形	Ca
645	113242	016 流路 C4	臼玉製品	4.8	1.3	3.0	C	片面	平行	直交	白～褐	緻密	○			Cb
646	113250	016 流路 B △ 1	臼玉製品	4.4	1.6	3.0	C	片面	非平行	直交	白～褐	緻密	○		断面逆台形	Cb
647	113276	016 流路 C △ 2	臼玉製品	4.6	1.3	2.6	C	片面	平行	直交	白～褐	緻密		左	断面逆台形	Cb
648	113292	016 流路 D △ 1	臼玉製品	4.7	1.5	3.2	C	片面	非平行	直交	白～褐	緻密	○			Cb
649	113297	016 流路 D △ 1	臼玉製品	5.2	2.4	3.5	B	片面	非平行	直交	淡緑灰	緻密	○	左右		D
650	113326	016 流路 E △ 2	臼玉製品	5.2	2.3	3.0	A'	片面	平行	直交	淡緑灰	緻密	○	左		D
651	113327	016 流路 E △ 2	臼玉製品	5.0	2.3	3.3	A'	片面	平行	直交	淡緑灰～緑灰	緻密	○	左		D
652	113328	016 流路 E △ 2	臼玉製品	5.2	2.4	3.6	A'	片面	非平行	直交	淡緑灰	緻密	○	左		D
653	113329	016 流路 E △ 2	臼玉製品	5.2	2.4	3.7	A'	片面	非平行	直交	淡緑灰	緻密	○	左		D
654	113330	016 流路 E △ 2	臼玉製品	5.0	2.2	3.6	B	片面	非平行	直交	淡緑灰	緻密	○	左右		D
655	113246	016 流路 B △ 1	臼玉製品	3.6	1.3	1.3	C	片面	平行	直交	淡緑灰	ややざらざら				E
656	113331	016 流路 E △ 2	臼玉製品	3.5	1.3	1.6	C	片面	非平行	直交	淡緑灰	ややざらざら				E
657	113332	016 流路 E △ 2	臼玉製品	3.6	1.3	1.6	C	片面	非平行	直交	淡緑灰～淡褐	ややざらざら				E
658	113247	016 流路 B △ 1	臼玉製品	4.6	1.9	2.4	B	片面	非平行	直交	淡緑灰	ややざらざら	○			F
659	113259	016 流路 B △ 2	臼玉製品	4.7	1.7	2.0	B	片面	非平行	直交	淡緑灰～灰	ややざらざら				F
660	113333	016 流路 E △ 2	臼玉製品	4.4	2.3	2.4	B	片面	非平行	直交	淡緑灰	ざらざら		左		F'
661	113334	016 流路 E △ 2	臼玉製品	4.7	2.0	1.9	A'	片面	非平行	直交	淡緑灰	ざらざら	○	右		F'
662	113239	016 流路 C4	臼玉製品	5.3	2.2	2.9	A'	片面	非平行	直交	淡緑灰	ざらざら	○			G
663	113248	016 流路 B △ 1	臼玉製品	5.5	2.0	2.9	A'	片面	非平行	直交	淡緑灰	ややざらざら	○	左		G
664	113280	016 流路 C △ 2	臼玉製品	5.3	2.1	3.0	B	片面	非平行	直交	淡緑灰	きらきらする	○	左		G
665	113335	016 流路 E △ 2	臼玉製品	5.4	1.8	3.1	B	片面	非平行	斜交	淡緑灰	ざらざら	○			G
666	113336	016 流路 E △ 2	臼玉製品	5.2	1.7	3.2	B	片面	非平行	直交	淡緑灰	きらきらする	○			G
667	113337	016 流路 E △ 2	臼玉製品	5.3	1.9	3.0	A'	片面	非平行	直交	淡緑灰	ざらざら		右	断面台形	G
668	113338	016 流路 E △ 2	臼玉製品	5.3	2.3	2.1	B	片面	非平行	直交	淡緑灰	ざらざら	○		断面台形	H
669	113339	016 流路 E △ 2	臼玉製品	5.2	2.3	2.8	B	片面	非平行	直交	淡緑灰～淡灰	ざらざら	○		断面台形	H
670	113340	016 流路 E △ 2	臼玉製品	5.3	2.0	2.6	B	片面	非平行	直交	淡緑灰	ざらざら	○		断面台形	H
671	113341	016 流路 E △ 2	臼玉製品	5.6	2.1	2.1	B	片面	非平行	直交	淡緑灰	ざらざら	○	左	断面台形	H
672	113342	016 流路 E △ 2	臼玉製品	5.3	2.0	2.8	B	片面	非平行	直交	淡褐	ざらざら			断面台形	H
673	113249	016 流路 B △ 1	臼玉製品	4.3	2.0	4.0	B	片面	非平行	直交	淡緑灰	ややざらざら	○			I
674	113298	016 流路 D △ 1	臼玉製品	4.6	2.0	4.3	B	片面	非平行	直交	淡緑灰	ざらざら	○			I
675	113263	016 流路 B △ 2	臼玉未成品	5.5*5.1	1.4	3.3	-	片面	非平行	直交	白～褐	緻密			平面平行四辺形	J
676	113264	016 流路 B △ 2	臼玉未成品	7.2*5.2	1.5	2.1	-	片面	非平行	直交	淡緑灰	ざらざら			平面長方形	K
677	113265	016 流路 B △ 2	臼玉未成品	8.6*7.2	1.6	2.7	-	片面	非平行	直交	淡緑灰	ざらざら			穿孔時に破損	K
678	113272	016 流路 C △ 1	臼玉未成品	7.0*5.0	1.7	2.2	-	片面	非平行	直交	淡緑灰	ざらざら			穿孔時に破損	K
679	113273	016 流路 C △ 1	臼玉未成品	8.3*5.8	1.8	2.2	-	片面	平行	直交	淡緑灰～褐	ざらざら			穿孔時に破損	K
680	113227	016 流路 C2	臼玉製品	4.2	1.8	1.4	C	片面	平行	直交	淡緑灰	ざらざら				
682	113232	016 流路 C3	臼玉製品	3.8	1.3	2.2	B	片面	非平行	直交	白～褐	緻密				
683	113233	016 流路 C3	臼玉製品	4.8	1.8	3.6	A'	片面	非平行	直交	淡緑灰	ややざらざら	○	右		
684	113234	016 流路 C4	臼玉製品	4.8	1.5	2.6	C	片面	平行	直交	淡緑灰	ややざらざら	○			
685	113235	016 流路 C4	臼玉製品	4.7	1.6	3.4	C	片面	平行	直交	淡緑灰	緻密	○			
686	113236	016 流路 C4	臼玉製品	4.0	1.7	2.3	A'	片面	非平行	直交	淡緑灰	緻密				

報告No.	分析No.	遺構・地区	形態	径(mm)	孔径(mm)	厚さ(mm)	断面形	穿孔	表裏面角度	穿孔角度	色調	質感	穿孔剥離	擦痕	備考	グループ
687	113237	016 流路 C4	臼玉製品	5.3	1.6	2.5	C	片面	非平行	直交	淡緑灰	ざらざら	○	右	断面台形	
688	113238	016 流路 C4	臼玉製品	5.5	2.0	1.8	C	片面	平行	直交	淡緑灰	ややざらざら				
689	113240	016 流路 C4	臼玉製品	4.0	1.8	2.7	B	片面	非平行	斜交	淡緑灰	ややざらざら	○			
690	113241	016 流路 C4	臼玉製品	4.6	2.1	5.2	B	片面	非平行	直交	淡緑灰	ざらざら		右		
691	113243	016 流路 C5	臼玉製品	4.8	1.6	2.1	C	片面	非平行	直交	褐～淡緑灰	緻密	○			
692	113244	016 流路 C5	臼玉製品	4.5	2.0	3.0	B	片面	非平行	直交	灰	緻密			断面逆台形、面残る	
693	113251	016 流路 B △ 1	臼玉製品	4.3	2.4	3.3	A'	片面	非平行	斜交	褐	ややざらざら		右		
694	113252	016 流路 B △ 1	臼玉製品	4.4	2.1	3.3	B	片面	非平行	直交	淡緑灰	ややざらざら				
695	113253	016 流路 B △ 1	臼玉製品	4.8	2.3	2.8	B	片面	非平行	直交	淡緑灰	ややざらざら				
696	113254	016 流路 B △ 1	臼玉製品	4.9	2.2	3.0	B	片面	非平行	直交	淡緑灰	ややざらざら			断面台形	
697	113255	016 流路 B △ 1	臼玉製品	5.4	1.9	3.1	B	片面	非平行	直交	淡緑灰	ややざらざら	○		断面逆台形	
698	113256	016 流路 B △ 1	臼玉製品	6.2	1.7	1.8	C	片面	非平行	直交	淡緑灰	ややざらざら				
699	113257	016 流路 B △ 1	臼玉製品	6.4	2.6	4.0	A	片面	非平行	直交	淡緑灰	ややざらざら		左		
700	113260	016 流路 B △ 2	臼玉製品	4.7	1.7	3.8	B	片面	非平行	直交	淡緑灰	ややざらざら		右		
701	113261	016 流路 B △ 2	臼玉製品	4.3	1.7	3.0	B	片面	非平行	直交	淡緑灰	ややざらざら	○			
702	113262	016 流路 B △ 2	臼玉製品	3.8	1.8	2.5	B	片面	非平行	直交	淡緑灰	ややざらざら			断面台形、面残る、平面不整形、孔偏る	
703	113268	016 流路 C △ 1	臼玉製品	4.0	1.8	3.7	B	片面	平行	直交	淡緑灰	ざらざら				
704	113269	016 流路 C △ 1	臼玉製品	4.7	1.4	2.9	C	片面	非平行	直交	淡緑灰～黒	ざらざら		右	断面台形	
705	113271	016 流路 C △ 1	臼玉製品	3.4	1.4	2.0	B	片面	平行	直交	淡緑灰	ざらざら				
706	113270	016 流路 C △ 1	臼玉製品	5.3	1.9	2.2	C	片面	非平行	直交	淡緑灰	ざらざら				
707	113279	016 流路 C △ 2	臼玉製品	3.8	1.7	3.6	C	片面	非平行	直交	白～褐	緻密		右	平面不整形、孔偏る	
708	113281	016 流路 C △ 2	臼玉製品	5.4	2.2	3.2	B	片面	非平行	直交	淡灰～褐	ざらざら		縦	面残る	
709	113282	016 流路 C △ 2	臼玉製品	4.8	1.8	4.0	C	片面	非平行	直交	淡褐	ざらざら		横		
710	113283	016 流路 C △ 2	臼玉製品	4.6	1.7	2.0	C	片面	非平行	直交	淡緑灰	ざらざら				
711	113284	016 流路 C △ 2	臼玉製品	4.2	1.8	1.5	C	片面	平行	直交	淡緑灰	ざらざら	○			
712	113299	016 流路 D △ 1	臼玉製品	3.6	1.4	2.1	C	片面	平行	直交	淡緑灰	ややざらざら				
713	113300	016 流路 D △ 1	臼玉製品	3.9	1.8	2.5	B	片面	平行	直交	褐	緻密		右	断面台形	
714	113301	016 流路 D △ 1	臼玉製品	3.7	1.5	2.8	B	片面	非平行	直交	淡緑灰	ややざらざら				
715	113302	016 流路 D △ 1	臼玉製品	4.1	1.6	1.6	C	片面	非平行	直交	淡緑灰	ややざらざら				
716	113303	016 流路 D △ 1	臼玉製品	4.2	1.7	1.9	C	片面	非平行	直交	淡緑灰	ややざらざら				
717	113304	016 流路 D △ 1	臼玉製品	4.5	2.1	2.6	B	片面	非平行	直交	淡緑灰	ややざらざら	○	左	断面台形、下端に面	
718	113305	016 流路 D △ 1	臼玉製品	4.7	1.7	2.5	B	片面	非平行	直交	淡緑灰	ややざらざら				
719	113306	016 流路 D △ 1	臼玉製品	4.4	1.7	3.3	B	片面	非平行	直交	淡緑灰	ややざらざら	○			
720	113307	016 流路 D △ 1	臼玉製品	4.7	2.1	2.8	A'	片面	平行	直交	淡灰	緻密				
721	113308	016 流路 D △ 1	臼玉製品	4.2	1.8	3.6	B	片面	非平行	直交	淡緑灰	ややざらざら				
722	113309	016 流路 D △ 1	臼玉製品	3.9	2.1	3.5	B	片面	非平行	直交	淡緑灰	ややざらざら		右		
723	113310	016 流路 D △ 1	臼玉製品	3.6	1.3	3.4	C	片面	非平行	直交	淡緑灰	ややざらざら	○			
724	113311	016 流路 D △ 1	臼玉製品	4.9	1.5	2.8	C	片面	平行	直交	淡緑灰	ややざらざら		右	断面逆台形	
725	113312	016 流路 D △ 1	臼玉製品	4.5	1.8	2.7	C	片面	平行	直交	淡緑灰	ややざらざら				
726	113313	016 流路 D △ 1	臼玉製品	4.8	2.1	3.1	B	片面	非平行	直交	淡緑灰	ややざらざら				
727	113314	016 流路 D △ 1	臼玉製品	4.6	1.3	2.5	C	片面	非平行	直交	淡緑灰	ややざらざら			断面逆台形	
728	113315	016 流路 D △ 1	臼玉製品	4.8	1.7	3.3	B	片面	非平行	斜交	淡緑灰	ややざらざら			穿孔開始面不整形	
729	113316	016 流路 D △ 1	臼玉製品	5.3	1.8	4.2	B	片面	非平行	直交	淡緑灰	ややざらざら				
730	113317	016 流路 D △ 1	臼玉製品	4.9	1.7	3.0	B	片面	非平行	直交	淡緑灰	ややざらざら	○	右	わずかに稜残る	
731	113318	016 流路 D △ 1	臼玉製品	4.7	2.4	3.4	B	片面	非平行	直交	淡緑灰	ややざらざら	○			
732	113319	016 流路 D △ 1	臼玉製品	5.3	2.3	3.0	B	片面	非平行	直交	淡緑灰	ややざらざら	○	左	わずかに稜残る	
733	113320	016 流路 D △ 1	臼玉製品	7.3	2.7	3.4	A	片面	非平行	直交	淡緑灰～褐	ややざらざら	○	右		
734	113321	016 流路 D △ 1	臼玉製品	4.0*2.4	1.3	1.6	C	片面	非平行	直交	淡緑灰	ややざらざら				
735	113323	016 流路 E △ 1	臼玉製品	4.0	1.6	2.4	C	片面	非平行	直交	淡緑灰	ざらざら				
736	113324	016 流路 E △ 1	臼玉製品	3.9	2.0	2.6	B	片面	非平行	直交	淡緑灰	ざらざら				
737	113325	016 流路 E △ 1	臼玉製品	4.8	1.3	3.1	B	片面	非平行	直交	淡緑灰	ざらざら				
738	113343	016 流路 E △ 2	臼玉製品	4.6	2.1	2.2	B	片面	非平行	直交	白	緻密				
739	113344	016 流路 E △ 2	臼玉製品	4.4	1.7	2.5	C	片面	非平行	直交	白～褐	緻密	○			
740	113345	016 流路 E △ 2	臼玉製品	4.5	2.0	2.4	B	片面	非平行	直交	白～褐	緻密				
741	113346	016 流路 E △ 2	臼玉製品	4.3	1.4	1.6	C	片面	非平行	直交	白～褐	緻密				
742	113347	016 流路 E △ 2	臼玉製品	5.7	1.6	3.0	B	片面	非平行	直交	白～褐	きらきらする	○			
743	113348	016 流路 E △ 2	臼玉製品	3.7	1.6	3.0	B	片面	平行	直交	白～褐	きらきらする				
744	113349	016 流路 E △ 2	臼玉製品	4.3	2.0	3.6	B	片面	非平行	直交	白～褐	ざらざら	○	右		
745	113350	016 流路 E △ 2	臼玉製品	4.0	1.5	2.4	C	片面	平行	直交	淡褐	緻密			断面逆台形	
746	113351	016 流路 E △ 2	臼玉製品	4.9	1.5	2.6	B	片面	非平行	直交	淡緑灰	ややざらざら		右		
747	113352	016 流路 E △ 2	臼玉製品	4.8	1.7	2.3	C	片面	非平行	直交	淡緑灰	ややざらざら	○	右		
748	113353	016 流路 E △ 2	臼玉製品	4.0	1.4	3.0	C	片面	非平行	直交	淡緑灰	ややざらざら	○			
749	113354	016 流路 E △ 2	臼玉製品	4.0	1.5	2.1	B	片面	平行	直交	淡灰	緻密				
750	113355	016 流路 E △ 2	臼玉製品	4.4	1.5	2.0	B	片面	非平行	直交	淡灰	緻密				
751	113356	016 流路 E △ 2	臼玉製品	5.3	2.0	2.6	B	片面	非平行	直交	淡灰	緻密	○	右		

報告No.	分析No.	遺構・地区	形態	径(mm)	孔径(mm)	厚さ(mm)	断面形	穿孔	表裏面角度	穿孔角度	色調	質感	穿孔剥離	擦痕	備考	グループ
752	113357	016 流路 E △ 2	臼玉製品	4.5	1.8	2.8	B	片面	非平行	直交	淡緑灰	緻密			断面台形	
753	113358	016 流路 E △ 2	臼玉製品	4.7	1.8	3.2	B	片面	平行	直交	淡緑灰	緻密		右		
754	113359	016 流路 E △ 2	臼玉製品	5.4	2.2	4.0	B	片面	非平行	直交	淡緑灰	緻密		左	断面逆台形	
755	113360	016 流路 E △ 3	臼玉製品	5.0	1.7	2.0	B	片面	平行	直交	淡緑灰～淡褐	ざらざら				
756	113368	018 溝	臼玉製品	5.4	2.2	3.7	B	片面	非平行	直交	淡緑灰	緻密	○	左		
757	113369	018 溝	臼玉製品	4.8	1.8	1.9	C	片面	非平行	直交	淡緑灰	ざらざら	○			
758	113370	018 溝	臼玉製品	5.0	1.8	1.8	C	片面	非平行	直交	淡緑灰	ざらざら	○			
759	113371	018 溝	臼玉製品	4.8	1.8	1.5	C	片面	非平行	直交	淡緑灰	ざらざら				
760	113372	018 溝	臼玉製品	4.1	1.8	2.0	B	片面	非平行	直交	淡緑灰～褐	ざらざら	○			
761	113373	018 溝	臼玉製品	3.8	1.8	2.3	B	片面	非平行	直交	淡緑灰	ざらざら	○	横		
762	113374	018 溝	臼玉製品	3.8	1.4	1.8	B	片面	非平行	直交	淡緑灰	ざらざら	○	横	断面逆台形	
763	113375	018 溝	臼玉製品	4.0	1.7	2.2	B	片面	非平行	直交	淡緑灰	ざらざら		右		
764	113376	018 溝	臼玉製品	4.3	1.5	2.4	B	片面	非平行	直交	白～褐	ざらざら				
765	113377	018 溝	臼玉製品	4.1	2.1	2.1	B	片面	非平行	直交	淡緑灰	ややざらざら				
766	113378	018 溝	臼玉製品	4.0	1.6	1.5	C	片面	非平行	直交	淡緑灰	ややざらざら	○			
767	113379	018 溝	臼玉製品	3.9	1.6	2.7	B	片面	非平行	直交	淡緑灰	きらきらする				
768	113380	018 溝	臼玉製品	4.3	1.8	3.2	B	片面	非平行	直交	淡緑灰	ざらざら				
769	113381	018 溝	臼玉製品	4.3	1.2	3.0	B	片面	平行	直交	淡緑灰	ややざらざら	○			
770	113382	018 溝	臼玉製品	4.5	1.5	2.2	B	片面	平行	直交	灰	緻密				
771	113383	018 溝	臼玉製品	4.5	2.1	2.4	A'	片面	平行	直交	灰	緻密			断面逆台形気味	
772	113384	018 溝	臼玉製品	4.6	2.3	3.7	B	片面	非平行	直交	淡緑灰～褐	ざらざら	○	右		
773	113385	145 竪穴 NE	臼玉製品	4.9	2.2	3.6	B	片面	非平行	直交	褐	ややざらざら				
774	113386	147 竪穴 N	臼玉製品	4.6	1.9	3.5	B	片面	非平行	直交	淡緑灰	ざらざら	○	左		
775	113387	177 竪穴 NW	臼玉製品	4.5	2.1	3.3	B	片面	非平行	直交	淡緑灰	ざらざら		右		
776	113388	177 竪穴 SE	臼玉製品	4.5	2.1	4.2	B	片面	非平行	直交	淡緑灰	ややざらざら				
777	113389	177 竪穴 SE	臼玉製品	5.5	2.3	3.8	B	片面	非平行	直交	淡緑灰	ざらざら				
778	113390	177 竪穴 SE	ガラス小玉	3.9	0.9	3.5	B	片面	平行	直交	緑	－				
779	113391	295 土坑 NW	臼玉製品	4.4	2.0	1.9	C	片面	平行	直交	淡緑灰	ざらざら	○		断面逆台形	
780	113392	179 溝 F	臼玉製品	4.3	1.2	1.7	C	片面	平行	直交	淡緑灰	ざらざら	○		裏面に擦痕	
781	113393	179 溝 F	臼玉製品	4.3	1.2	2.3	C	片面	非平行	直交	淡緑灰	ざらざら				
782	113394	179 溝 F	臼玉製品	4.7	1.9	1.8	B	片面	非平行	直交	淡灰	緻密		右	わずかに稜残る	
783	113395	179 溝 F	臼玉製品	4.1	1.9	3.6	C	片面	非平行	直交	白～褐	緻密	○	右		
784	113396	179 溝 F	臼玉製品	5.1	1.9	2.5	B	片面	非平行	直交	淡緑灰	ざらざら				
785	113226	016 流路 A5	臼玉未成品	8.4*4.1	2.2	2.3	－	片面	平行	直交	淡緑灰	ざらざら			穿孔時に破損	
786	113228	016 流路 C2	臼玉未成品	9.0*5.7	1.9	1.9	－	片面	平行	直交	淡緑灰	ざらざら			穿孔時に破損	
787	113229	016 流路 C2	管玉	4.1	2.1	16.5	C	両面	平行	直交	淡緑灰	緻密			穿孔時に破損	
788	113274	016 流路 C △ 1	管玉	6.0	2.2	14.8	C	両面	非平行	斜交	褐	ややざらざら		左	穿孔時に破損	
789	113230	016 流路 C2	管玉	5.6	2.2	8.2	C	両面	不明	直交	淡緑灰	緻密			穿孔時に破損	
790	113322	016 流路 D △ 1	有孔円盤	21.7*17.7	1.8	3.4	－	片面	平行	直交	淡緑灰	ややざらざら			平面、側面に擦痕	
791	113258	016 流路 B △ 1	有孔円盤	24.4	1.8	4.4	－	片面	非平行	直交	淡緑灰	ややざらざら			平面、側面に擦痕	

と貫通直前のところまで進んでいたことがわかる。また、678 の穿孔剥離は大きく半円形に生じており、表面には穿孔工具の痕跡が複数個所認められる。786 の破損理由は不明であるが、これも穿孔時に失敗したものであろうか。これらを臼玉製品と比較すると、材質および孔径にまとまりがある点が特徴的である。このことは、本遺跡で製品として出土した玉類すべての種類の加工がなされたのではなく、一部のグループの玉のみが製作された可能性を示唆するものである。

滑石製管玉　管玉は、３点が出土した（図 67-787 ～ 789）。いずれも両面穿孔であるが、加工時に孔が偏ったために破損したものと思われる。787 の内面には、穿孔時の工具の痕跡が輪状の単位としてよくとどめられている。788 は、外側面に多くの面を残し、研磨痕が著しい。789 は、管玉を短く鉛筆の先状に加工したもので、製作時の破損品を他種の玉へと転用しようと試みたものかと思われる。787・789 が側面加工により断面円形の状態で穿孔を施しているのに対して、788 では粗い面を残す断面多角形である点は、製作工程の違いを窺わせるものとして興味深い。

ガラス小玉　177 竪穴建物埋土から１点が出土した（図 67-778）。色調は黄緑色で、高アルミ

ナタイプのソーダ石灰ガラスと考えられる。[3)]

滑石製有孔円盤　２点が出土した（図 67-790・791）。楕円形を呈し、中位の左右に一対の円孔が穿たれる。ともにわずかに穿孔剥離が認められ、表裏面、側面共に研磨が加えられている。

片岩板材　179 溝埋土中層から緑泥石片岩の板材（図 67-792）が出土しており、臼玉等の素材として持ち込まれた可能性が考えられる。長辺 18.9cm、短辺 15.4cm、厚さ 4.0cm、重さ 1844g を測り、長辺は石の節理にそったものであるが、短辺には小さな剥離痕が認められる。原石を運搬しやすい状態に加工した可能性が考えられる。なお、第１次調査河川 1500（016 流路の上流）の河床からは、同様の緑色片岩板材とともにグリーンタフ素材が出土している。

（２）その他の石製品

793 は、第１調査区北半 016 流路上層より出土した砂岩製と思われる円礫で、長辺 9.9cm、短辺 6.8cm、厚さ 6.4cm、重さ 606.4g を測る（図 68-793）。倒卵形を呈し、底面に若干の使用痕をとどめている。794 は、同じく第１調査区北半 016 流路上層から出土した粘板岩製と思われる砥石で、残存長 5.3cm、残存最大幅 2.7cm、厚さ 0.8cm、重さ 17.0g を測る。上下は折損しているが、本来は薄い長方形の板状のものであったと考えられる。表面が残る表裏および両側面はすべて研磨に利用されており、本来の中央部は砥ぎ減りによって幅が狭くなっている。表面（図左）には、砥面を薄く削り取ったような断面浅いｖ字状の傷が長軸に沿って複数条並行する。下端から１cm 程度の範囲は厚さ 0.6cm 程度と薄くなっているが、この部分にもこれらの条痕が認められる。裏面の状態および砥石の機能からすれば元来表面に凹凸があったとは考えにくく、この部分が変形した後にも研磨を行ったとみておきたい。さらにこれらの条痕を切るようにして、下端から 1.5～２cm の範囲にひときわ大きな傷が認められる。この傷は砥石に対してやや斜交し、細かい条痕を伴う幅広いものである。上半から砥石の主軸と直交する方向に刃をあて、やや深く入ったところで左半に力が抜けたものであろうか。砥石自体の表面を深く削っており、通常の研磨とは異なった行為の痕跡を思わせる。側面には、断面ｖ字状の細かい溝状の傷が複数条認められる。裏面(図右)も、同様で長軸に並行するものと斜交するものが認められる。

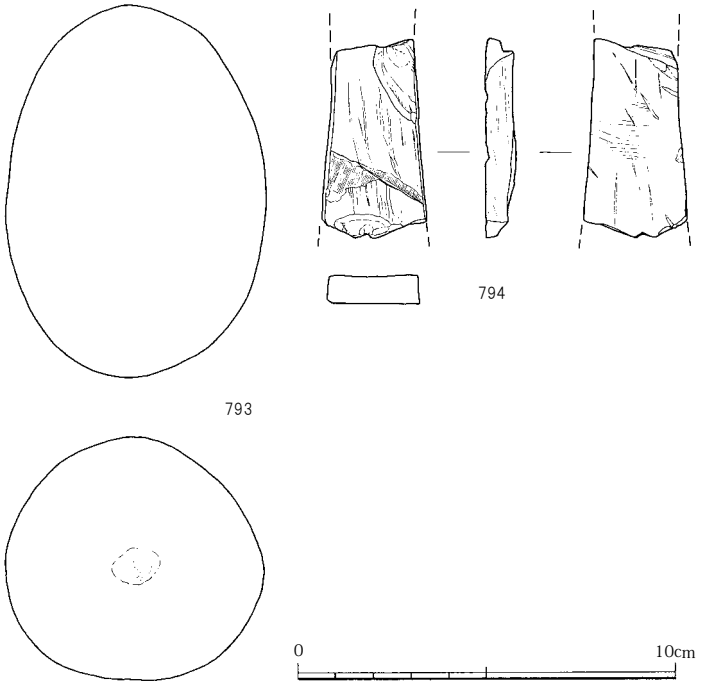


図 68　出土石製品
793：016 流路上層出土円礫　794：016 流路上層出土砥石

（３）木製品

柱（図 69-795 ～ 798・801・802）と礎板（800）を図化した。柱はいずれも心持ち材である。801 の底付近には、加工により横方向の刳りこみが巡る。800 は、厚さ２～３㎝程度の板材であるが、長辺片側に浅い刳り方をもっており、転用材の可能性が高い。樹種は図示したものにヒノキが多いがそれ以外に柱材としてコナラ亜属、スダジイ、クスノキなどの広葉樹も用いられている[4)]。

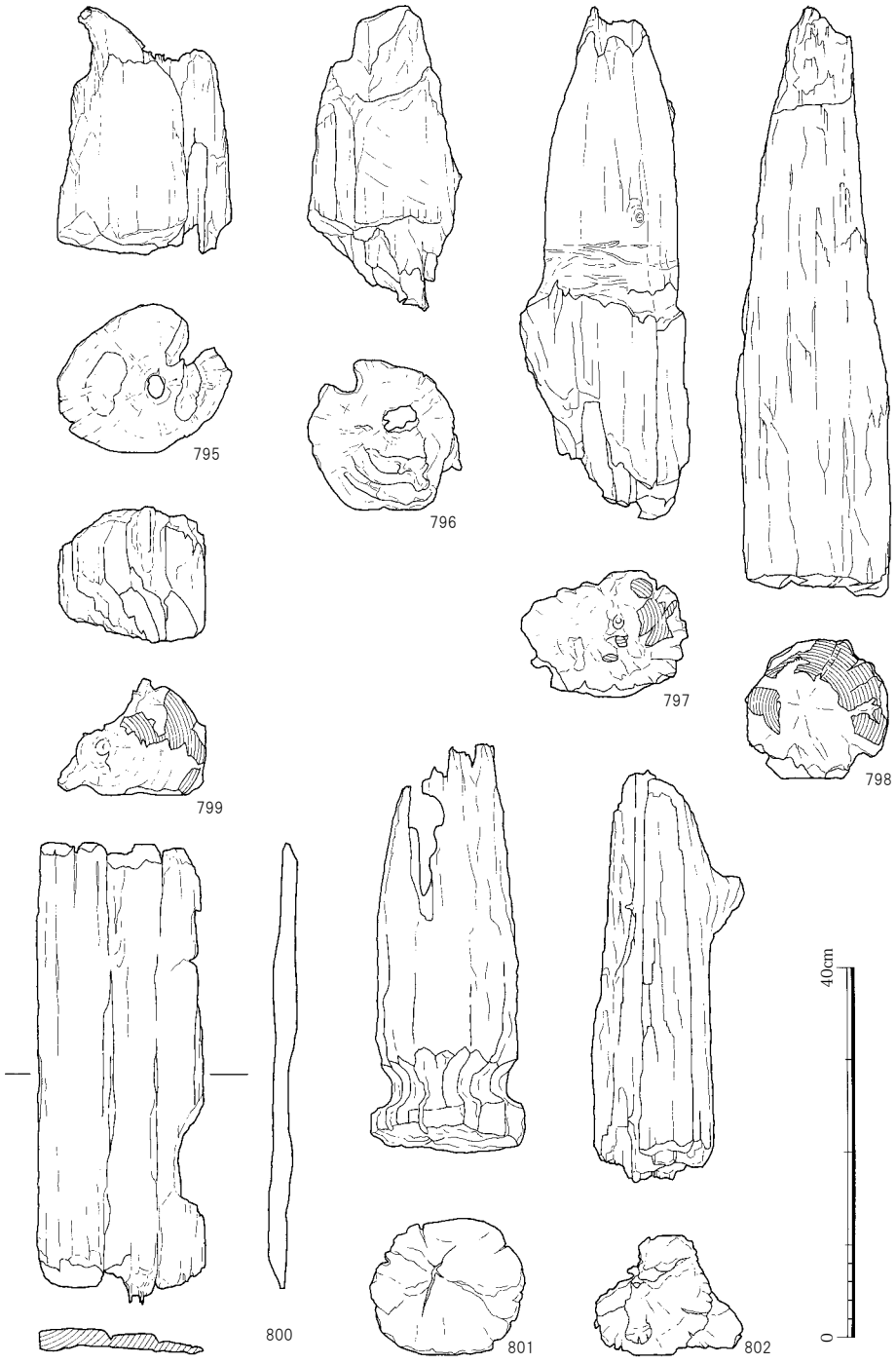


図 69　出土木製品

795：008 ピット（545 建物）［ヒノキ］
796：012 ピット（545 建物）［ヒノキ］
797：192 ピット（542 建物）［ヒノキ］
798：169 ピット（542 建物内）［ヒノキ］
799：230 ピット（047 建物内）［ヒノキ］
800：128 ピット（538 建物）［不明］
801：250 ピット［コナラ亜属コナラ節］
802：127 ピット［ヒノキ］

注

１）土器の系譜に基づき、布留式土器精製器種をⅠ群（吉備系）・Ⅱ群（山陰系）に分類する（三好 2010）。

２）同様の遺構が長原遺跡（NG02- ８次調査）において報告されている（市文協 2005）。

３）大賀克彦氏のご教示による。

４）樹種鑑定は、大阪府教育委員会事務局文化財保護課岡田賢による。

第５章　弥生時代中期～後期

第１節　遺構の分布

調査に際して古墳時代構面の基盤層（第５層）は、地点によって細粒から粗粒まで層相が異なり変異に富むことから、流路を充填する堆積およびそこからの氾濫堆積物からなることが予想された。さらに第３調査区の遺構面精査によって、多量の礫を含む層が東から西に向かって明瞭な帯状の広がりが明らかとなったため、古墳時代遺構面の調査を終了したのちに第３調査区全体および第２調査区の一部において第５層を除去し、下層遺構を確認した（図 70）。

断面の観察および面的な掘削の結果、弥生中期から後期にかけて調査区を東西に横断する複数の流路からなる流路帯が形成されたことを確認した。今回の調査では、古墳時代居住域と微地形との関係把握に主眼を置いたため、流路跡の調査は基本的には平面的な検出にとどめたが、適宜サブトレンチ（断割り）を設定し、流路帯の構造の検討を行った。

第２節　弥生時代後期の遺構と遺物

414 流路・534 流路・529 流路　414 流路は、東（第３調査区）から西（第２調査区中位）へ流れる旧流路である。上述のとおり第３調査区において、礫層の広がりが幅広く帯状に認められたため、断割りを設定し断面を観察したところ、旧流路が存在することが判明した。その流れは、第２調査区へと続くことが予想されたため、こちらでも複数個所の断割りを設定した結果、調査区を東西に横切る大規模な流路跡の存在が明らかとなった。

第２調査区断割り２の断面観察（図 72）によれば、この流路はある程度の期間に南北へと移動を繰り返しながら浸食と堆積をくりかえしたものと思われる。流路の北岸は、平面および断面によって確認できたが、南岸については後述する 533 流路の上部へと重なり、明確にすることができなかった。流路は、非常に粗粒の礫層からなる第７－２層で充填されており、掘削深度の問題から下面の様子は確認できなかったが、上面は中央部が高まりをなしている。礫層には、斜め方向のラミナが発達している。調査は、礫層の高まりの検出にとどめ、内部の掘削を進めていないにも関わらず、比較的多くの土器片が出土した。

414 流路の南側では、基本層序第７－３層からなる流路跡（534 流路）を検出した。弥生時代遺構検出面および断割り２において確認した細粒物質の充填されたチャネルである。幅２ｍ程度を測り、断割り２では 414 流路の礫層（第７－２層）の南側に接している。

414 流路の北側でも、基本層序第７－１層からなる流路跡（529 流路）を検出した。弥生時代遺構検出面および第２調査区北東隅に設定した断割り１において確認したものである（図 73）。幅２ｍ程度を測り、断割り１では、414 流路の礫層（第７－２層）の北側に接している。流路は

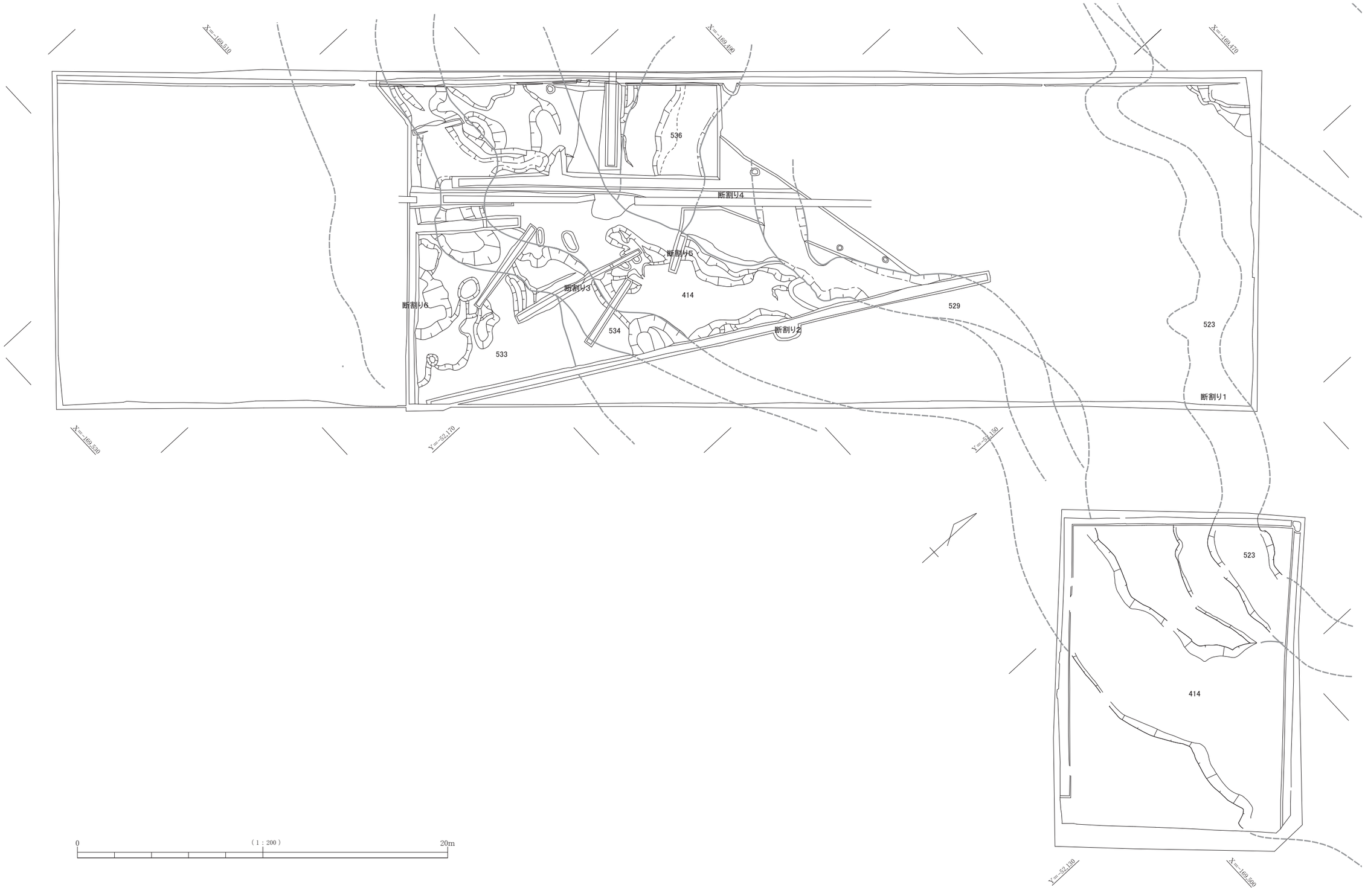
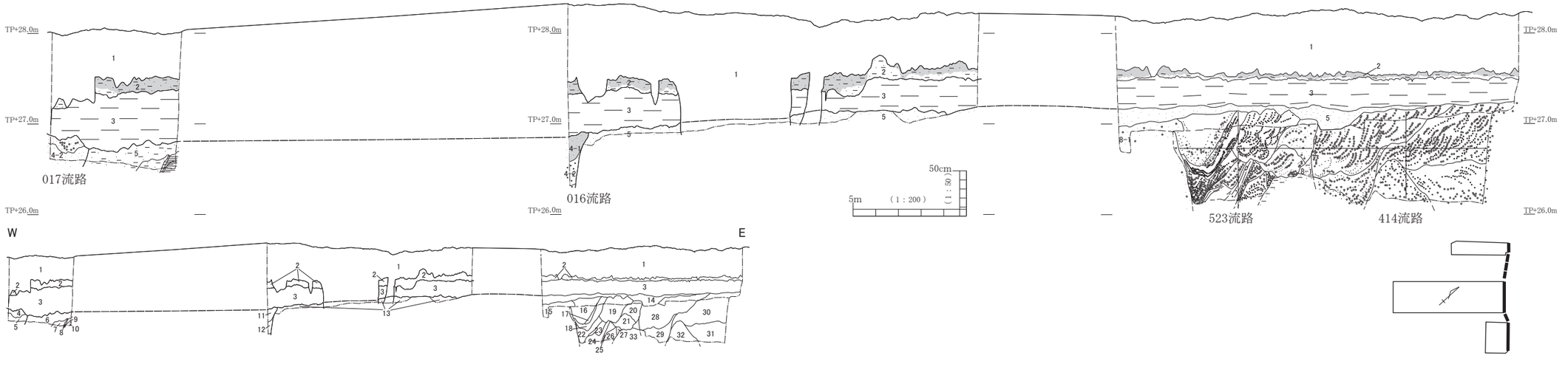
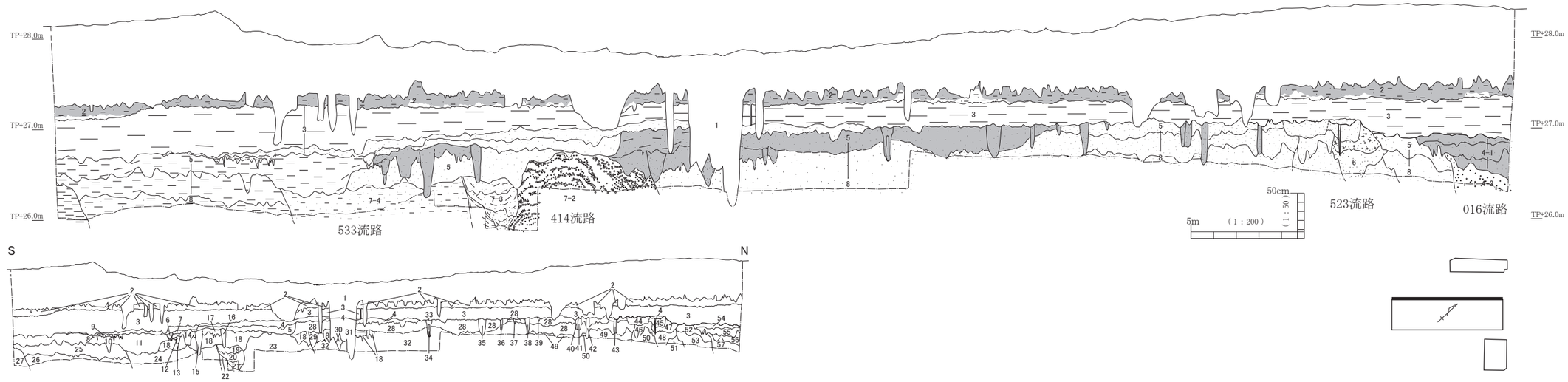


図 70　第２面（弥生時代中期～後期）の遺構（s=1/200）

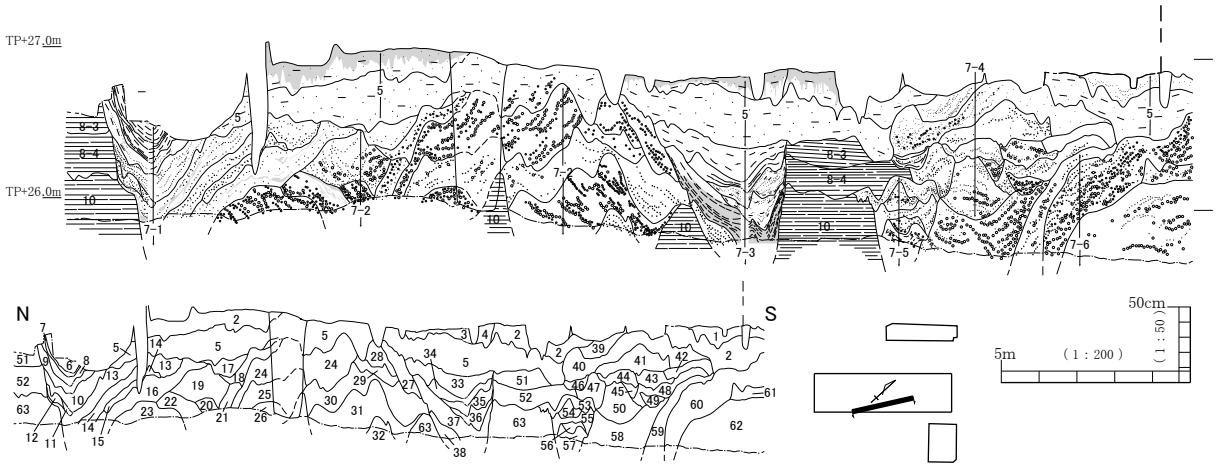


1. 造成土・攪乱
2. 2.5Y3/1 黒褐色砂質シルト
3. 2.5Y5/3 黄褐色シルト
4. 2.5Y6/1 黄灰色極細粒砂
5. 2.5Y5/2 暗灰黄色極細砂
6. 7.5Y5/1 灰色砂質シルト
7. 2.5GY5/1 オリーブ灰色砂質シルト
8. N6/ 灰色粘土
9. 7.5Y5/1 灰色極細粒砂
10. 7.5Y4/1 灰色粘土
11. 2N6/ 灰色極細粒砂（土器を多く含む）【016 流路上層】
12. 5B6/1 青灰色粗粒砂【016 流路下層】
13. 2.5Y6/1 黄灰色極細粒砂
14. 10YR5/2 灰黄褐色極細粒砂
15. 2.5Y5/1 黄灰色シルト質極細砂（礫をわずかに含む）
16. 5Y6/1 灰色中粒砂（わずかに土器を含む、径 1cm 以下の礫がラミナをなす）
17. 7.5Y6/1 灰色中粒砂（粗粒砂がラミナをなす）
18. 2.5Y6/2 灰黄色中粒砂（粗粒砂がラミナをなす）
19. 2.5Y6/1 黄灰色粗粒砂（径 3cm 以下の礫がラミナをなす）
20. 2.5Y6/3 にぶい黄色細粒砂（径 3cm 以下の礫がラミナをなす）
21. 2.5GY5/1 オリーブ灰色砂質シルト
22. 7.5Y7/1 灰白色粗粒砂（わずかに土器を含む、径 3cm 以下の礫がラミナをなす）
23. 2.5Y7/3 浅黄色細粒砂（径 2cm 以下の礫がラミナをなす）
24. 7.5Y6/1 灰色粗粒砂（径1cm 以下の礫がラミナをなす）
25. 2.5Y6/2 灰黄色粗粒砂（径 8cm 以下の礫がラミナをなす）
26. 7.5Y6/1 灰色粗粒砂（径 8cm 以下の礫がラミナをなす）
27. 5Y5/1 灰色粗粒砂（細粒砂がラミナをなす）
28. 5Y7/1 灰白色中粒砂（わずかに土器を含む、径 3cm 以下の礫がラミナをなす）
29. 5Y7/2 灰白色中粒砂（径 5cm 以下の礫がラミナをなす）
30. 5Y6/1 灰色粗粒砂（径 3cm 以下の礫がラミナをなす）
31. 7.5Y7/1 灰色粗粒砂（径 4cm 以下の礫がラミナをなす）
32. 7.5Y6/1 灰色粗粒砂（わずかに土器を含む、径 8cm 以下の礫がラミナをなす）
33. 7.5Y6/2 灰オリーブ色シルト質細粒砂



1. 造成土・攪乱
2. 2.5Y3/1 黒褐色砂質シルト
3. 2.5Y5/3 黄褐色シルト
4. 2.5Y5/2 暗灰黄色シルト質極細粒砂
5. 10YR5/2 灰黄褐色極細砂（土器をやや多く含む）
6. 7.5Y5/1 灰色砂質シルト
7. 10YR5/2 灰黄褐色極細砂
8. 2.5Y5/2 暗灰黄色シルト質極細粒砂
9. 2.5Y5/2 暗灰黄色シルト質極細粒砂
10. 2.5Y5/2 暗灰黄色シルト質極細粒砂
11. 2.5Y6/2 灰黄色シルト
12. 10YR6/1 黄灰色極細粒砂（土器をやや多く含む）
13. 10YR6/1 黄灰色極細粒砂
14. 10YR5/2 灰黄褐色極細粒砂
15. 10YR6/1 褐灰色極細粒砂
16. 10YR5/1 褐灰色極細粒砂
17. 10YR5/2 灰黄褐色極細粒砂
18. 10YR6/2 灰黄褐色極細粒砂
19. 2.5Y6/1 黄灰色シルト質極細粒砂
20. 2.5Y6/3 にぶい黄色シルト質細粒砂
21. 2.5Y6/1 黄灰色シルト質細粒砂
22. 2.5Y6/2 灰黄色シルト
23. 2.5Y6/1 黄灰色粗粒砂（径 3cm 以下の礫がラミナをなす）
24. 2.5Y6/2 灰黄色シルト質極細粒砂
25. 7.5Y7/1 灰白色シルト
26. 2.5Y6/1 黄灰色砂質シルト
27. 7.5Y6/1 灰色粘質シルト
28. 10YR6/1 褐灰色シルト質極細粒砂（土器を少量含む）
29. 10YR4/2 灰黄褐色極細粒砂（土器を少量含む）
30. 10YR6/2 灰黄褐色細粒砂（土器を少量含む）
31. 10YR6/2 灰黄褐色極細粒砂
32. 5Y6/1 灰色細粒砂
33. 2.5Y6/2 灰黄色極細粒砂
34. 10YR5/1 褐灰色極細粒砂
35. 10YR5/1 褐灰色極細粒砂
36. 10YR6/1 褐灰色極細粒砂
37. 10YR5/1 褐灰色極細粒砂
38. 10YR6/1 褐灰色極細粒砂
39. 10YR6/1 褐灰色極細粒砂
40. 10YR5/2 灰黄褐色極細粒砂
41. 10YR6/1 褐灰色極細粒砂
42. 10YR6/1 褐灰色極細粒砂
43. 10YR6/1 褐灰色極細粒砂
44. 2.5Y7/3 浅黄色極細粒砂
45. 10YR6/2 灰黄褐色極細粒砂
46. 2.5Y6/1 黄灰色極細粒砂
47. 2.5Y7/1 灰白色中粒砂（径 1cm 以下の礫約 15％含む）
48. 2.5Y6/1 黄灰色細粒砂
49. 10YR6/1 褐灰色極細粒砂
50. 10YR7/1 灰色極細砂
51. 5Y6/2 灰オリーブ極細粒砂
52. 5Y7/2 灰白色極細砂
53. 2.5GY7/1 明オリーブ灰色極細砂
54. 2.5GY6/1 オリーブ灰色極細砂
55. N6/ 灰色極細砂（土器を多く含む）【016 流路上層】
56. N5/ 灰色極細砂（土器を多く含む）【016 流路上層】
57. 5B6/1 青灰色粗粒砂【016 流路下層】

図 71　第１～３調査区北壁および第２調査区西壁断面図



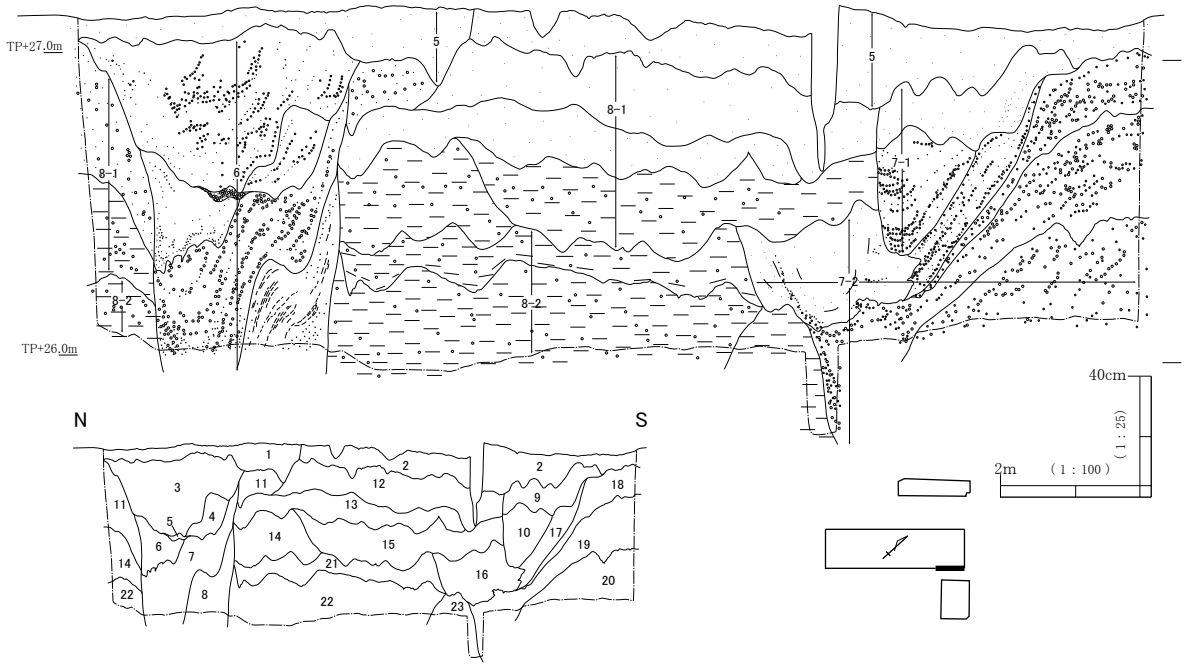
1. 2.5Y7/1 灰白色極細砂（わずかに土器を含む、径 1cm 以下の礫がラミナをなす）
2. 2.5Y7/2 灰黄色シルト質極細粒砂（上面からわずかに黒色化）
3. 7.5Y6/1 灰色シルト質極細粒砂（上面からわずかに黒色化）
4. 10YR6/2 灰黄褐色極細粒砂（上面からわずかに黒色化）
5. 5Y5/2 灰オリーブ色シルト質細粒砂
6. 2.5Y6/2 灰黄色シルト（上面と下面にうすい黒色層はさむ）
7. 2.5Y5/1 黄灰色シルト（灰白色粘土がラミナをなす）
8. 2.5Y6/1 黄灰色細粒砂（シルト～粘土がラミナをなす）
9. 2.5Y7/1 灰白色シルト質極細粒砂（黄灰色極細粒砂がラミナをなす）
10. 7.5Y6/1 灰色細粒砂（粘土がラミナをなす）
11. 7.5Y5/1 灰色粗粒砂（粗粒砂がラミナをなす）
12. 7.5Y6/1 灰色細粒砂（細粒砂がラミナをなす）
13. 2.5Y7/1 灰白色細粒砂（中粒砂がラミナをなす、有機質を多く含む）
14. 2.5Y7/2 灰黄色シルト質細粒砂（中粒砂がラミナをなす）
15. 2.5Y6/2 灰黄色細粒砂（中粒砂がラミナをなす）
16. 2.5Y6/2 灰黄色細粒砂（細粒砂がラミナをなす）
17. 2.5Y6/3 にぶい黄色シルト質細粒砂
18. 10YR6/2 灰黄褐色中粒砂（粗粒砂がラミナをなす）
19. 2.5Y6/1 黄灰色細粒砂（径 4cm 以下の礫がラミナをなす）
20. 2.5Y6/3 にぶい黄色中粒砂（径 1cm 以下の礫がラミナをなす）
21. 2.5Y6/2 灰黄色細粒砂（粗粒砂がラミナをなす）
22. 2.5Y6/2 灰黄色粗粒砂（中粒砂がラミナをなす、有機質を含む）
23. 2.5Y6/1 黄灰色粗粒砂（径 3cm 以下の礫がラミナをなす）
24. 5Y5/1 灰色粗粒砂（径 1cm 以下の礫がラミナをなす）
25. 5GY6/1 オリーブ灰色中粒砂（1cm 以下の礫がラミナをなす）
26. 2.5Y5/2 暗灰黄色粗粒砂（径 5cm 以下の礫がラミナをなす）
27. 2.5Y5/1 黄灰色粗粒砂 5Y7/1 灰白色細粒砂（中粒砂がラミナをなす）
28. 2.5Y4/1 黄灰色粗粒砂
29. 5Y5/1 灰色粗粒砂（径 1cm 以下の礫がラミナをなす）
30. 5GY6/1 オリーブ灰色中粒砂（中粒砂がラミナをなす）
31. 2.5Y5/2 暗灰黄色粗粒砂（径 5cm 以下の礫がラミナをなす）
32. 5Y7/1 灰白色細粒砂（中粒砂がラミナをなす）
33. 5Y6/2 灰オリーブ色シルト（10YR3/3 褐色粒が均質に含まれる）
34. 2.5GY6/1 オリーブ灰色粘土
35. 5GY6/1 オリーブ灰色シルト質極細粒砂（極細粒砂がラミナをなす）
36. 7.5Y5/1 灰色シルト質極細粒砂（極細粒砂がラミナをなす）
37. 2.5GY6/1 オリーブ灰色シルト（褐灰色シルトがラミナをなす）
38. 2.5Y5/2 暗灰黄色粗粒砂（褐色粗粒砂がラミナをなす）
39. 2.5Y6/1 黄灰色極細粒砂（細粒砂がラミナをなす）
40. 2.5Y7/1 灰白色細粒砂
（わずかに土器を含む、中粒砂～粗粒砂がラミナをなす）
41. 2.5Y6/1 黄灰色細粒砂（中粒砂がラミナをなす）
42. 2.5Y7/2 灰黄色細粒砂
43. 2.5Y7/1 灰白色細粒砂（径 2cm 以下の礫がラミナをなす）
44. 2.5Y6/2 灰黄色細粒砂（極細粒砂がラミナをなす）
45. 5Y7/1 灰白色細粒砂（径 1cm 以下の礫がラミナをなす）
46. 2.5Y6/2 灰黄色粗粒砂
47. 2.5Y6/2 灰黄色細粒砂（中粒砂がラミナをなす）
48. 5Y7/1 灰白色細粒砂
49. 5Y7/1 灰白色細粒砂（粗粒砂がラミナをなす）
50. 2.5Y7/1 灰白色細粒砂（径 1cm 以下の礫がラミナをなす）
51. 2.5Y7/2 灰黄色粘土（2.5Y3/1 黒褐色斑状にまじる）
52. 5Y7/2 灰白色シルト質粘土
53. 5Y6/2 灰オリーブ色極細砂（中粒砂がラミナをなす）
54. 5Y7/1 灰白色細粒砂（中粒砂～粗粒砂がラミナをなす）
55. 2.5Y7/2 灰黄色細粒砂（中粒砂がラミナをなす）
56. 2.5Y7/2 灰黄色中粒砂（粗粒砂がラミナをなす）
57. 2.5Y6/1 黄灰色シルト（粘土がラミナをなす）
58. 2.5Y7/1 灰白色細粒砂（径 5cm 以下の礫がラミナをなす）
59. 2.5Y7/2 灰黄色中粒砂（径 5cm 以下の礫がラミナをなす）
60. 2.5Y7/1 灰白色細粒砂（径 3cm 以下の礫がラミナをなす）
61. 5Y6/2 灰オリーブ色細粒砂（径 1cm 以下の礫がラミナをなす）
62. 2.5Y6/3 にぶい黄色細粒砂（径 5cm 以下の礫がラミナをなす）
63. 2.5GY5/1 オリーブ灰色粘土

図 72　断割り２断面図

そこから西に向かい、断割り２のあたりで 414 流路の堆積の屈曲に沿って南に曲がる。さらに Y=−52,165 付近で 414 流路から離れて西に蛇行する。

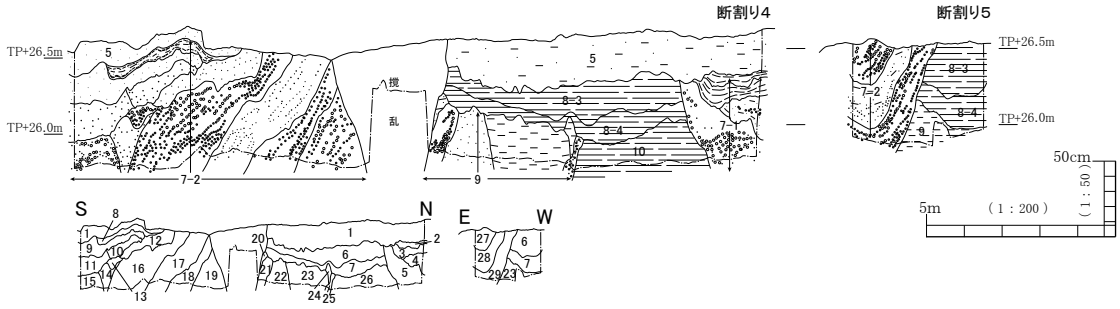
534・529 流路は別遺構として調査したが、実態としては 414 流路と一連の流路帯の一部をなすものである。強い出水にともなって運搬された砂礫の堆積によって旧流路部分が高まりをなした後、その脇に緩やかな流れが形成されたことを示すと考えられる。その後、チャネルが比較的細粒の砂粒によって埋積されると、礫層からなる微高地とその周囲の微低地が遺構面に残されることとなる。最終的に弥生時代後期末ごろ、周辺の河川の氾濫に伴う氾濫堆積物によって調査区のほぼ全体が覆われ、地形の凹凸は目立たなくなる。古墳時代遺構面の基盤層は、これらの河川活動によって生じた微高地をなす礫層（第７－１～６層）およびそれらの間を埋める氾濫堆積物（第５層）からなるものと考えられる。

414・534・529 流路出土遺物　414 流路と認識した層準の掘削にともない多数の弥生土器およ



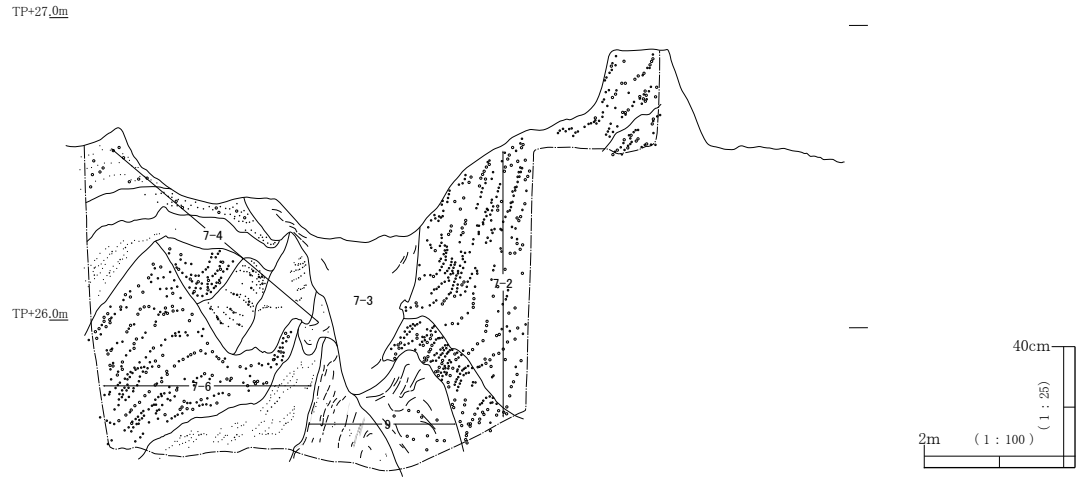
1. 2.5Y6/2 灰黄色極細粒砂
2. 2.5Y7/2 灰黄色極細粒砂
3. 5Y5/3 灰オリーブ細粒砂（粗粒砂がラミナをなす）
4. 5Y5/3 灰オリーブ色細粒砂（わずかに土器を含む、粗粒砂がラミナをなす）
5. 5Y6/1 灰色細粒砂（径 1cm 以下の礫がラミナをなす）
6. 7.5Y6/2 灰オリーブ細粒砂（中粒砂がラミナをなす）
7. 7.5Y5/1 灰色中粒砂（径 2cm 以下の礫がラミナをなす）
8. 7.5Y6/1 灰色細粒砂（シルトがラミナをなす）
9. 5Y6/2 灰オリーブ色極細砂
10. 5Y6/1 灰色中粒砂（粗粒砂がラミナをなす）
11. 5Y6/1 灰色細粒砂（径 3cm 以下の礫 5%含む）
12. 2.5Y6/2 灰黄色極細粒砂
13. 5Y6/2 灰オリーブ色極細砂
14. 5Y6/1 灰色シルト（径 1cm 以下の礫 2%含む）
15. 2.5Y6/1 黄灰色シルト（径 1cm 以下の礫 2%含む）
16. 7.5Y7/1 灰白色シルト質極細粒砂（中粒砂～粗粒砂がラミナをなす）
17. 2.5Y6/2 灰黄色細粒砂（中粒砂～粗粒砂がラミナをなす）
18. 2.5Y6/1 黄灰色極細粒砂（径 1cm 以下の礫がラミナをなす）
19. 2.5Y6/1 黄灰色粗粒砂（径 5cm 以下の礫がラミナをなす）
20. 2.5Y7/1 灰白色粗粒砂（径 2cm 以下の礫がラミナをなす）
21. 2.5Y5/2 暗黄灰色シルト（径 1cm 以下の礫 2%含む）
22. 7.5Y5/1 灰色シルト（径 1cm 以下の礫 2%含む）
23. 7.5Y5/1 灰色シルト

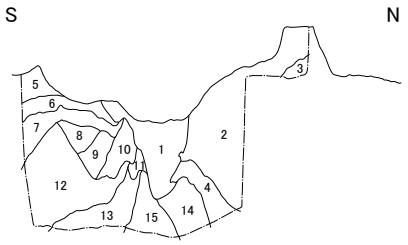
図 73　断割り１断面図



1. 10YR4/1 褐灰色極細粒砂
2. 2.5Y5/3 黄褐色シルト
3. 2.5Y6/1 黄灰色シルト
4. 5Y6/1 灰色シルト質極細粒砂（粗粒砂がラミナをなす）
5. 5Y6/1 灰色中粒砂（径 1cm 以下の礫がラミナをなす）
6. 2.5Y7/2 灰黄色粘土（2.5Y3/1 黒褐色斑状にまじる）
7. 5Y7/2 灰白色シルト質粘土
8. 2.5Y7/2 灰黄色シルト質極細粒砂（シルトがラミナをなす）
9. 2.5Y6/2 灰黄色極細粒砂
10. 7.5Y6/2 灰黄色中粒砂
11. 5Y6/2 灰オリーブ色中粒砂
12. 2.5Y6/2 灰黄色細粒砂
13. 2.5Y6/1 黄灰色粗粒砂（径 1cm 以下の礫がラミナをなす）
14. 2.5Y6/2 灰黄色中粒砂
15. 2.5Y6/1 黄灰色中粒砂（径 3cm 以下の礫がラミナをなす）
16. 2.5Y6/1 黄灰色粗粒砂（径 3cm 以下の礫がラミナをなす）
17. 5Y6/1 灰色中粒砂（細粒砂がラミナをなす）
18. 2.5Y6/1 黄灰色粗粒砂（灰色粗粒砂がラミナをなす）
19. 2.5GY6/1 オリーブ灰色粗粒砂（径 3cm 以下の礫がラミナをなす）
20. 2.5Y6/1 黄灰色シルト質細粒砂
21. 2.5Y5/2 暗灰黄色粗粒砂
22. 2.5Y5/2 暗灰黄色細粒砂
23. 7.5Y5/1 灰色シルト
24. 5Y6/2 灰オリーブシルト
25. 2.5Y5/2 暗灰黄色粗粒砂（中粒砂がラミナをなす）
26. 2.5GY5/1 オリーブ灰色粘土
27. 10YR6/1 褐灰色粗粒砂（わずかに土器を含む、径 2cm以下の礫がラミナをなす）
28. 7.5Y5/2暗灰黄色シルト質細粒砂（中粒砂がラミナをなす）
29. 2.5Y6/1黄灰色粗粒砂（径1cm以下の礫がラミナをなす）

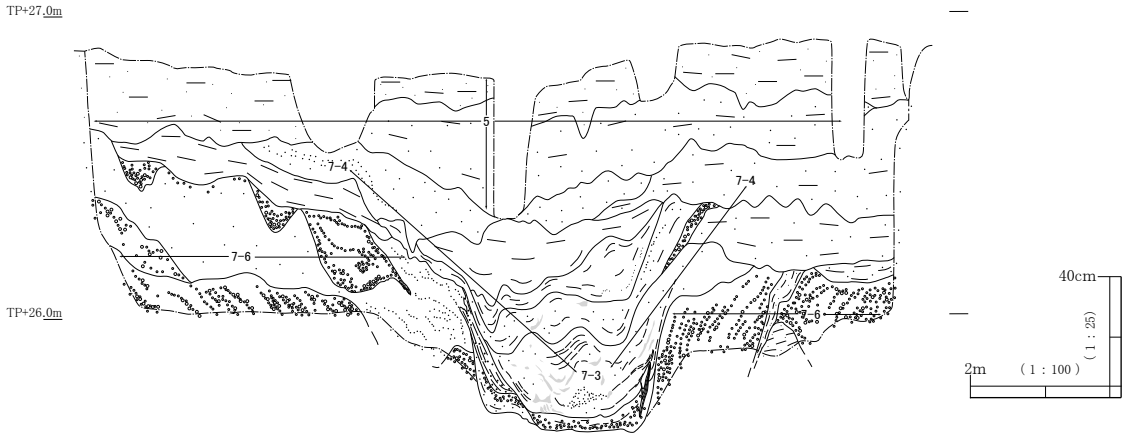
図 74　断割り４・５断面図

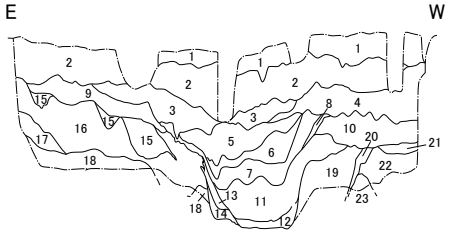




1. 2.5Y6/1灰色シルト
2. 2.5Y5/2 暗灰黄色粗粒砂（土器をやや多く含む、0.5 ～ 2cm 大の礫約 15%ラミナをなす）
3. 10YR4/3 にぶい黄褐色粗粒砂（0.5 ～ 3cm 大の礫約 15%ラミナをなす）
4. 2.5Y6/1 黄灰色粗粒砂（0.5 ～ 5cm 大の礫約 15%ラミナをなす）
5. 10YR6/1 褐灰色シルト（0.5 ～ 3cm 大の礫約 15%ラミナをなす）
6. 2.5Y6/2 灰黄色中粒砂（0.5 ～ 1cm 大の礫約 5%ラミナをなす）
7. 2.5Y6/2 灰黄色細粒砂（中粒砂約 5%ラミナをなす）
8. 2.5Y5/2 暗灰黄色粗粒砂（0.5 ～ 1cm 大の礫約 10%ラミナをなす）
9. 2.5Y6/2 灰黄色中粒砂（粗粒砂約 5%ラミナをなす）
10. 2.5Y7/1 灰白色中粒砂（細粒砂約 5%ラミナをなす）
11. 2.5Y6/1 黄灰色シルト質細粒砂
12. 2.5Y6/2 灰黄色粗粒砂（0.5 ～ 5cm 大の礫約 15%ラミナをなす）
13. 7.5Y6/2 にぶい黄色細粒砂（中粒砂約 10%ラミナをなす）
14. 2.5Y3/1 黒褐色シルト（有機物非常に多い、細粒砂約 10%ラミナをなす）
15. 2.5Y5/1 黄灰色シルト（有機物多い、細粒砂約 10%ラミナをなす）

図 75　断割り３断面図





1. 2.5Y6/1黄灰色シルト質極細粒砂
2. 5Y6/1 灰色シルト質細粒砂
3. 5Y6/1 灰色細粒砂
4. 2.5Y7/2 灰黄色シルト質細粒砂（マンガンを少量含む）
5. 5Y7/1 灰色シルト（有機物を少量含む）
6. 2.5Y6/2 灰黄色シルト（極細粒砂約 2%ラミナをなす）
7. 2.5Y7/1 灰白色シルト質極細粒砂（有機物を少量含む）
8. 2.5Y6/3 にぶい黄色粗粒砂（0.5 ～ 2cm 大の礫約 10%含む）
9. 7.5Y6/1 灰色シルト
10. 2.5Y6/2 灰黄色シルト質細粒砂
11. 2.5Y6/1 黄灰色シルト質細粒砂（有機物を多く含む、シルト約 10%ラミナをなす）
12. 7.5Y6/1 灰色粗粒砂（シルト質細粒砂約 10%ラミナをなす）
13. 7.5Y5/1 灰色中粒砂（シルト約 15%ラミナをなす）
14. 5Y6/1 灰色粗粒砂（0.5 ～ 2.5cm 大の礫約 15%ラミナをなす）
15. 5Y5/1 灰色粗粒砂（0.5 ～ 1cm 大の礫約 15%ラミナをなす）
16. 7.5Y6/1 灰色細粒砂
17. 5Y6/1 灰色中粒砂（0.5 ～ 1cm 大の礫約 15%ラミナをなす）
18. 5Y5/1 灰色粗粒砂（0.5 ～ 1cm 大の礫約 15%ラミナをなす）
19. 5Y6/1 灰色粗粒砂（0.5 ～ 2cm 大の礫約 15%ラミナをなす）
20. 2.5Y6/1 黄灰色シルト質極細粒砂
21. 7.5Y6/2 灰黄色シルト質細粒砂
22. 2.5Y6/2 灰黄色粗粒砂（0.5 ～ 1cm 大の礫約 10%ラミナをなす）
23. 2.5Y6/1 黄灰色シルト質極細粒砂

図 76　断割り６断面図

び古式土師器が出土した（図 77 ～ 79-803 ～ 881）。803 ～ 819 は壺であり、直口壺（803・804）、広口壺（805･806･808 ～ 811）、二重口縁壺（812･813）、長頸壷（814）、短頸壷（815）、細頸壷（816）に分類しておく。広口壺には、ややサイズが大きく、折り曲げた口縁の端部に面をなすもの（805･806）とややサイズが小さく、口縁端部を丸くおさめるもの（808 ～ 811）とがある。二重口縁壺には、サイズが大きく、一次口縁部の上に二次口縁部を接合するもの（812）とややサイズが小さく、一次口縁部を上方へ拡張するように粘土を貼りつけるもの（813）がある。前者は、さらに粘土を貼り付けて口縁端部を下方へ拡張し、擬凹線と円形浮文による装飾を加える。812 は、胎土に角閃石を含んでおり、中河内地域からの搬入品と考えられる。長頸壷（814）は、頸部に列点文を加えるもので、口縁部は残っていないが、和泉地域に特徴的な広口長頸壷となる可能性がある。短頸壷（815）は、短い口縁部をもつもので、体部最大径に対して頸部径が著しく大きいことから通有の壺の形態ではないが、外面に縦方向のミガキ調整を施すことから、いちおう壺としておく。そのほか器種の細分はできないが、かなり径の縮小化したものを含む壺底部３点を図化した（817 ～ 819）。

820 ～ 850 は甕である。いずれも外面タタキ、突出底、くの字状口縁といったＶ様式系甕の特徴を備えるものであり、多くの個体で体部下半の接合痕を境にタタキの角度が変化することが確認できる。サイズは小型のものから大型のものまでバリエーションがあり、口径および器高が大きいものほど、体部最大径に対する頸部径の大きさが小さいという関係にある。また各所に明瞭な接合痕をとどめており、基本的には内傾接合であることを確認できるが、他の器種に比べると下の粘土帯と上の粘土帯の重なる幅が著しく短いことが指摘できそうである。823 は、体部上半を中心にタタキ目をナデ消そうとした形跡が認められる。833 は、体部最大径が底部付近に位置するもので、壺として扱うべきものかもしれない。835 は、口縁部が受口状を呈する、和泉から紀伊地域にかけて特徴的なものである。

851 ～ 874 は高杯である。杯部が残存するものはいずれも有稜高杯であるが、870 の杯部は本来、椀形であった可能性がある。有稜高杯は、いずれも外上方へ発達した口縁部をもつ。脚柱部は上半まで中空のものとほぼ中実のものとがあるが、おおむねいずれも短く、脚裾部は外方へ強く屈曲する。873・874 などで、強く開いた脚裾部に多数の透かし孔を穿つ点などは、河内の庄内式土器の影響を窺わせるものである。861 は、タタキによって成形されたもので、製塩土器に含めて理解すべきものという可能性もあるが、被熱の痕跡は認められない。

875 は器台である。体部中位に互い違い上下二段の透かし孔をもつ。サイズは縮小しておらず、弥生時代後期後半以前に位置づけられるものである。876 ～ 878 は鉢である。876 は通有のものであるが、877・878 は砲弾形の器形をもつ特異なものである。879 ～ 881 は製塩土器で、879 は積山分類Ｇ類、880・881 は同Ｄ類である。

883 ～ 886 は、529 流路内部から出土した遺物である（図 80）。広口壺（883）、Ｖ様式系甕（884･885）、高杯（886）からなる。885 は、器形的にはＶ様式系甕の特徴をもつが、外面にタタキは

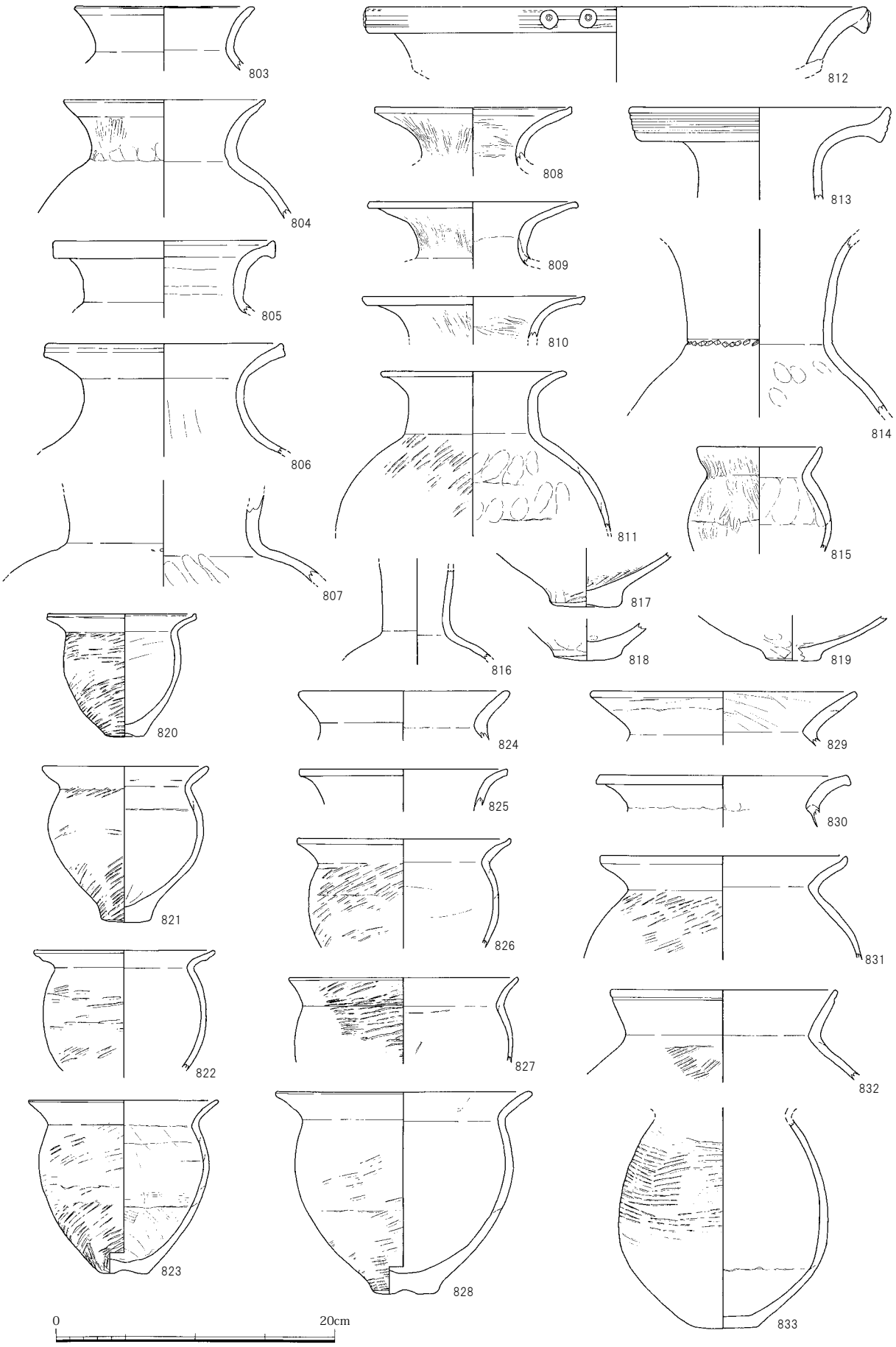


図 77　414 流路出土遺物 1

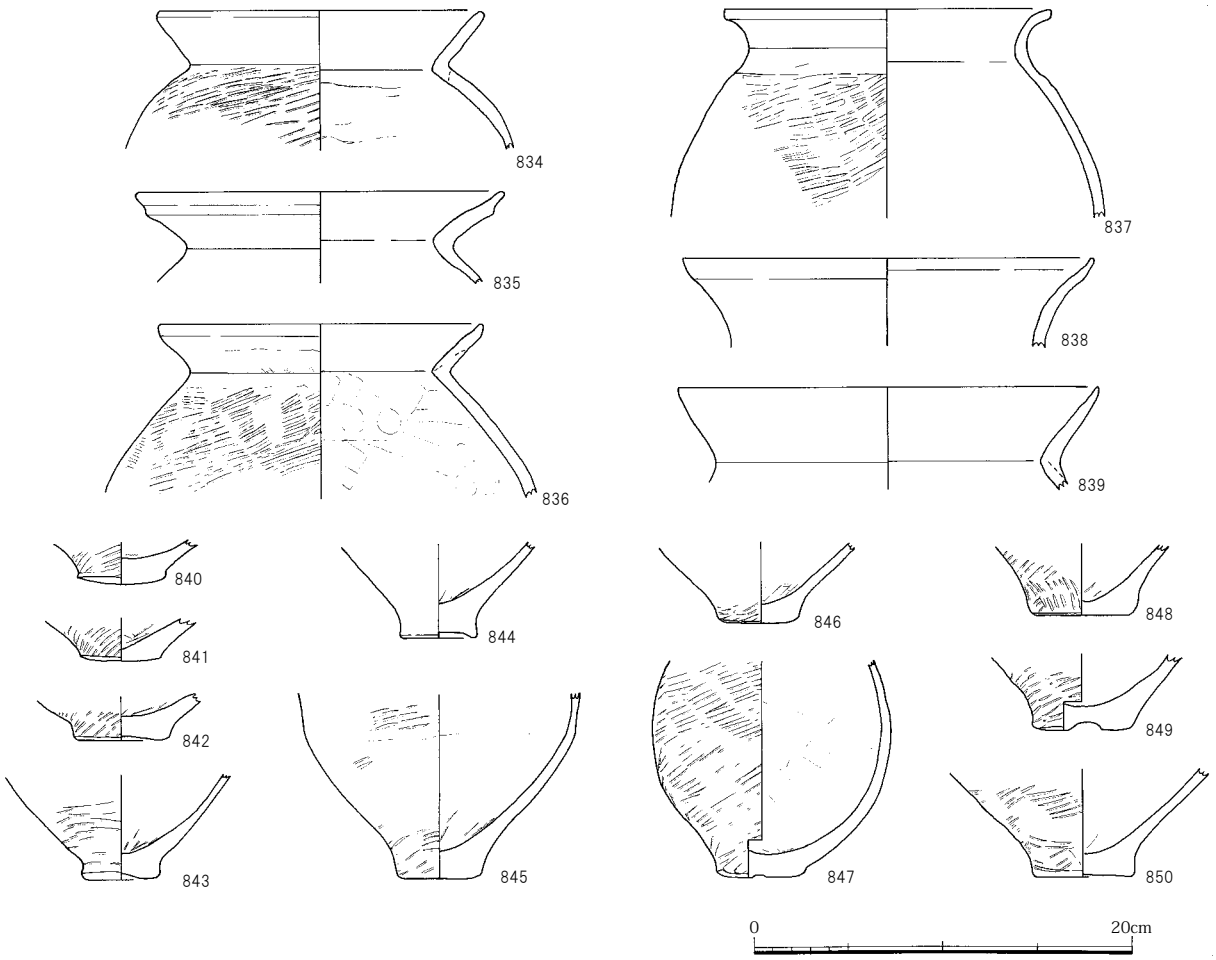


図 78　414 流路出土遺物２

施されず、底部も径を小さくしようとした形跡がみてとれる。埋土は、粗い細粒砂を多く含み、葉理も明瞭に観察できることから、529 流路は弥生時代後期後半～末（庄内式期）に活発な河川活動によって埋積されたものと考えられる。

以上の出土遺物により寺田遺跡では、弥生時代後期後半～末（庄内式期）にかけて 414 流路が活発な河川活動を行っており、多数の土器を運搬しつつ河道の浸食と埋積が進行していったことが理解される。

523 流路　414 流路の北側で検出した流路で、414 流路の肩を一部切るものである。第３調査区北壁断面図（図 71）によれば、上面幅約５m、深さ５m 以上を測る。埋土には礫が多く、強い流速が窺われる。

第３調査区では、414 流路との間に切り合い関係をもつが、523 流路が西へ向かい、414 流路が南西へ向かうため、第２調査区北東隅の断割り１（図 73）においては、両者には 5.5m ほどの間隔が生じている。西へ向かった本流路は、第２調査区西壁断面（図 71）においてその延長を確認することができた。図 70 には、空中写真から窺われる基盤層の層相の違いに基づき、第２調査区北東隅から西壁までの間の想定流路位置を記入した。古墳時代中期の須恵器が多く出土した 089 落ち込みは、この流路の跡に残された窪地状の地形であった可能性がある。第２調査区よ

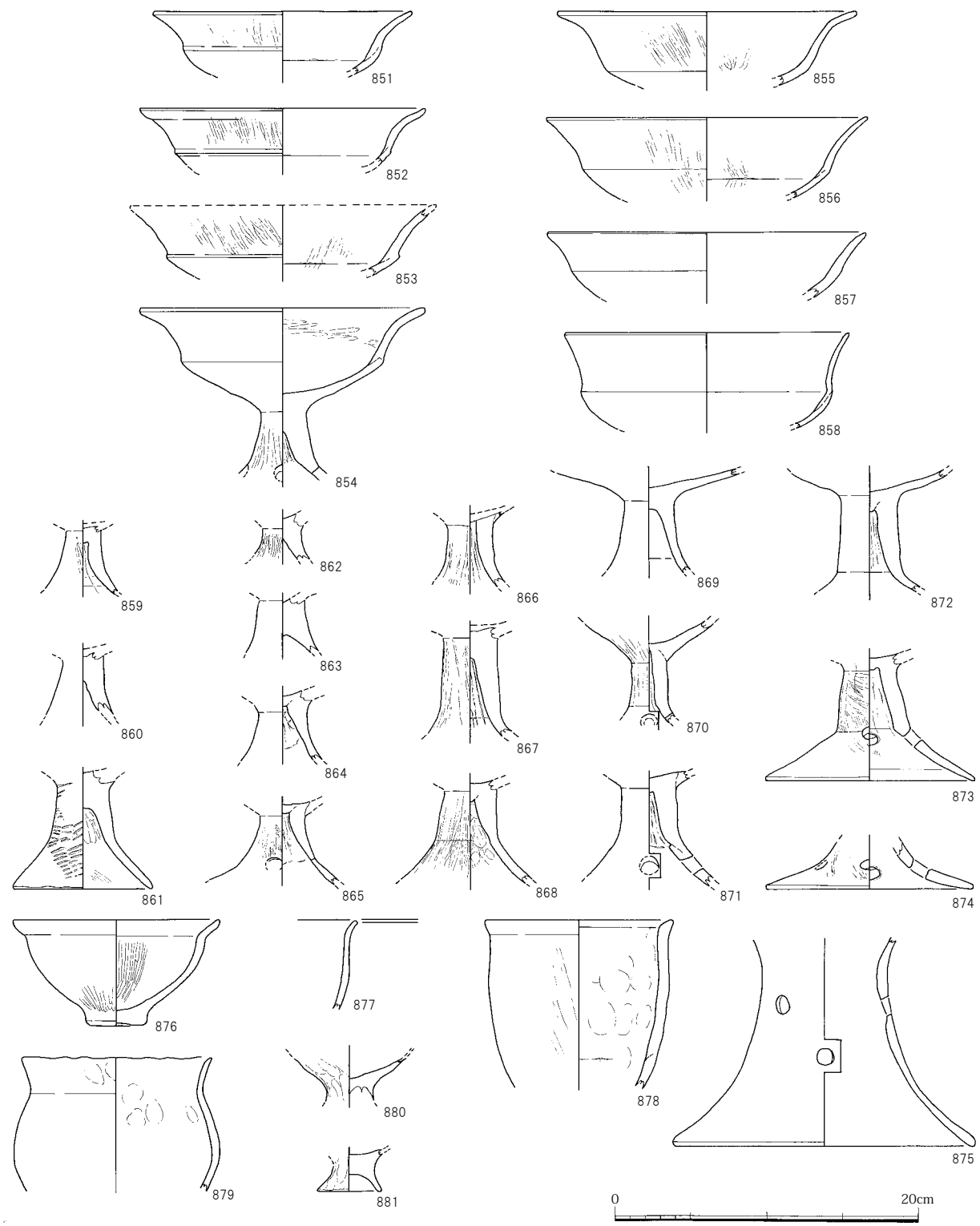


図 79　414 流路出土遺物３

りさらに西では、016 流路の想定位置と重なっており、古墳時代前期に活動の中心のある 016 流路によってかつての流路は失われている可能性が高い。

533 流路　414 流路の南側で検出したもので、414 流路の下位に位置する。414 流路同様、礫層の高まりとこれに伴うチャネルを流路と認識したもので、北岸は断面的には確認できたが、南岸は下層調査範囲の外へと広がっている。断割り２の断面観察によれば（図 72）、切り込みを開始

した基盤層との関係で上下に分けることができる。上層は、第８－３層から切り込むもの（第７－４層）で、断割り断面において幅約 5m、深さ３m を測る。下層は、第 10 層から切り込むもので、礫層の高まり（第７－６層）およびその北側のチャネル（第７－５層）からなる。

埋土から広口長頸壷（887）が出土している。414 流路同様に礫層の上面は微高地をなし、両脇の相対的に低い部分を第５層が埋積している。

第３節　弥生時代中期の遺構と遺物

536 流路　414 流路の掘削を進めるとその下位から流向の異なる流路が検出された。断割り４の断面観察によれば（図 74)、調査区の大半を覆う第５層の下に 414・529 流路とその基盤層（第８層）が堆積し、さらにその下位に第 10 層を切り込んだ 536 流路（第９層）が位置することがわかる。断割り４では撹乱によって不明であるが、断割り５によって、414 流路、第８層、536 流路の上下関係が確かめられた。

414 流路が東北から西南へ流れるのに対し、536 流路は、南東から北西へ流れている。414 流路を掘削した下位のみで部分的に検出されたものであるため、全形は分からないが、流向の違いおよび包含される遺物の古さから、別の遺構として取り扱うこととした。東西方向にのびる砂層を主体とし、この北側にチャネルと考えられる幅約１ｍのシルト層が伴う。

埋土からわずかに土器が出土した（図 80-888・889)。888 は、小型の広口壷で、緩く外反した口縁端部は幅の狭い平坦面をなしている。頸部内面に横方向のケズリ様の痕跡が認められる。889 も広口壷であるが、こちらの口縁端部は上方へ強く拡張されている。表面は磨滅が著しく、調整や装飾などは確認できないが、ゆるやかに外反する太い頸部などの形態も併せて考えると弥生時代中期にさかのぼる可能性が高いであろう。

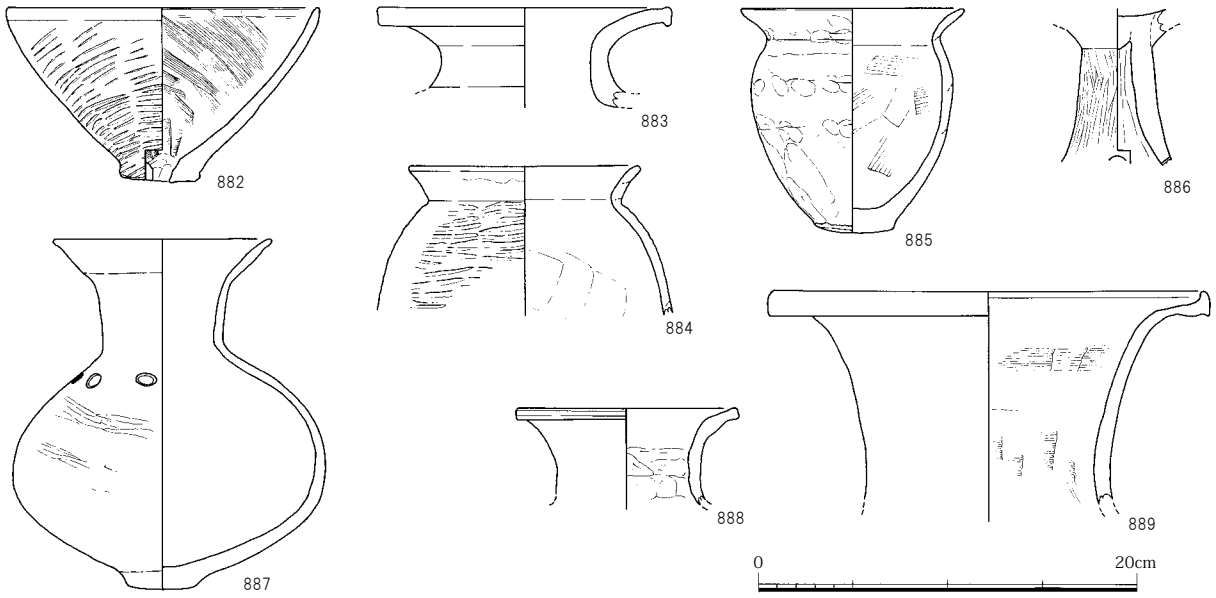


図 80　その他の流路出土遺物

第４節　包含層等出土遺物

基本層序第５層の掘削に伴い出土した遺物が図 81・82 である。890 ～ 904 は須恵器である。古代に属すると思われるもの（890 ～ 893）と古墳時代に属するもの（894 ～ 904）とがある。905 ～ 907 は、古墳時代中期以降に属すると思われる土師器である。903 は、椀かと思われるが通有の把手付のものに対して著しく大きい。

908 ～ 942 は、弥生時代後期～古墳時代前期に属すると思われる土器である。917 はＶ様式系のくの字状口縁をもつタタキ甕であるが、底部は著しく縮小している。また二重口縁壺（908）、有段口縁鉢（924）、小型丸底土器（925）など、明らかに庄内式期以降に属するものが認められる。

これらに対して 939 の器台はやや大型で、942 の高杯は短い口縁部をもつなど比較的古い形態をとどめており、第５層の堆積の上限が庄内式期以前にさかのぼることを示すものである。921 は側面に把手を持つ大型の鉢で、角閃石を含む暗褐色の胎土をもつ。

以上のとおり第５層には、弥生時代後期～古墳時代中期を中心とする遺物が含まれていた。中期に属するものに関しては、上面の遺構に伴うものを誤認した可能性が高いと思われるが、それ以前のものについては、流路の活動に伴う第５層の堆積が長期間に及ぶものであったことを示すと考える。

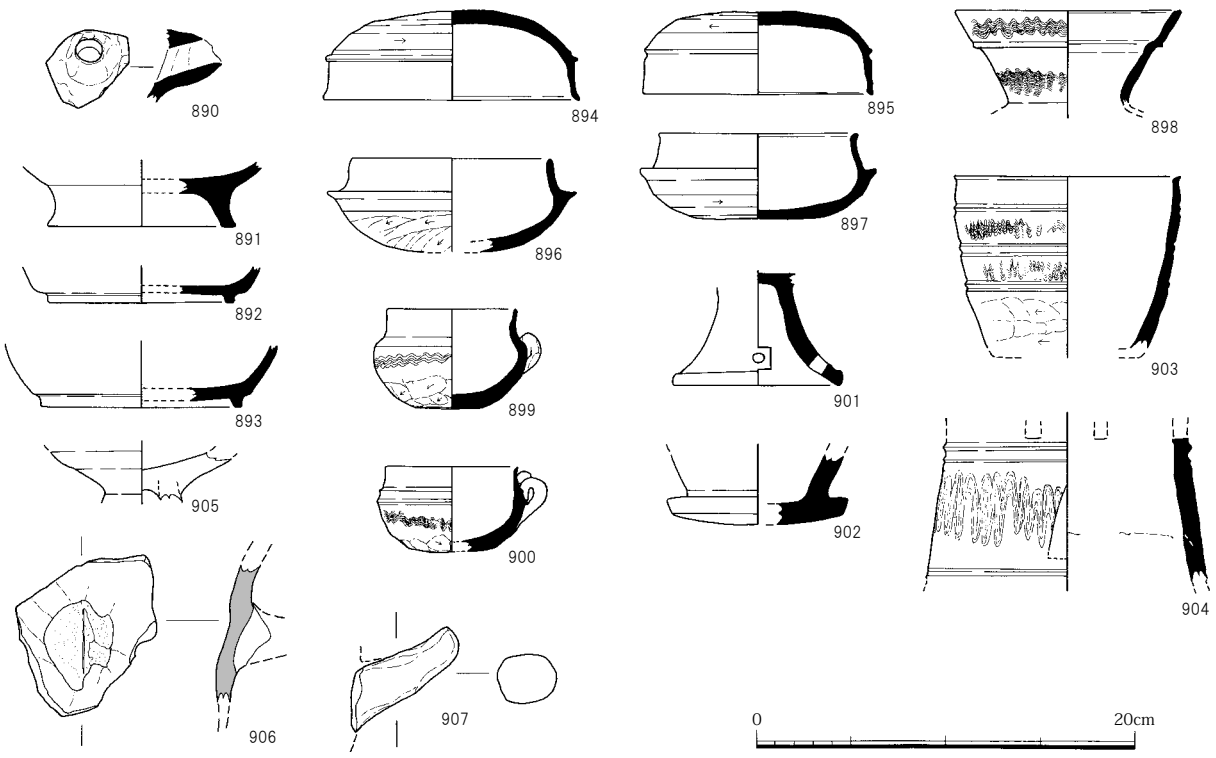


図 81　包含層等出土遺物１

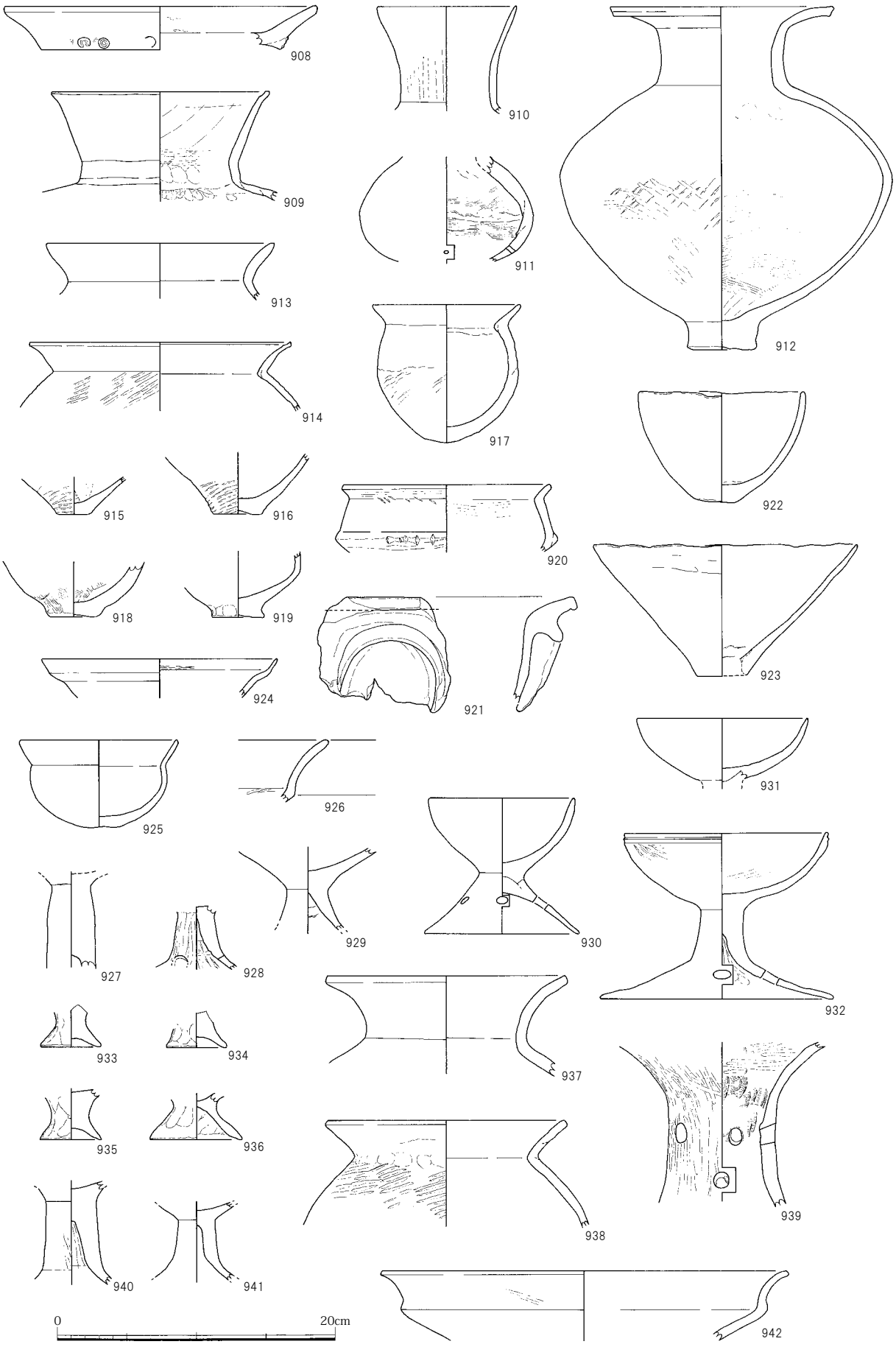


図 82　包含層等出土遺物２

第６章　自然科学的分析

第１節　寺田遺跡発掘調査に伴う花粉・種実分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

今回の調査区では、古墳時代前期・中期の集落跡、弥生時代～古墳時代にかけて侵食・堆積を繰り返している流路が確認されている。検出された流路充填堆積物中には、当時の調査区および集水域の植生や古環境を考える上で有効な植物遺体を挟在する層準が確認されている。

本遺跡の過去の発掘調査では、今回の調査区南側に隣接する調査区において、弥生時代頃の土地利用状況に関する情報を得ることを目的とする自然科学分析調査が実施されている。これにより、当時の氾濫原における人間活動の様相が明らかになってきている。ただし、植物化石が遺存しにくい好気的な堆積場であったため、風化に耐性のある植物珪酸体の産状に基づく古植生復元が行われているだけであり、森林植生やイネ科以外の植物に関する情報は得られておらず、人間と植生の複合動態の把握には至っていない。そこで、今回の調査では、多くの情報が得られる可能性が高い流路充填堆積物を対象とし、弥生時代から古墳時代にかけての調査区およびその周辺域の人間をとりまく古環境の変遷を明らかにすることを目的として、花粉･種実分析を実施する。

（１）　試料

分析調査は、１区 016 流路、２区 534 流路（断割り６内)、２区 536 流路（断割３内）の充填堆積物について実施する（図 83)。各流路の年代は、出土遺物の年代から、016 流路が古墳時代前期、534 流路が弥生時代後期後半～庄内式期、536 流路が弥生時代中期と推定される。

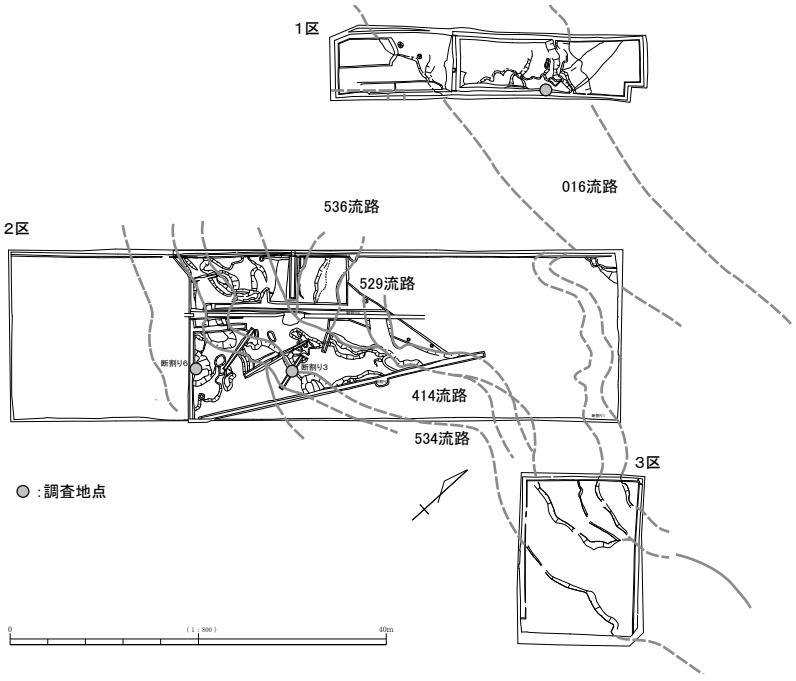


図 83　調査地点の位置

各流路充填堆積物の層相

表４　花粉分析結果

種　類	1区	2区	
	016流路	534流路	536流路
	36層	11層	15層下部
木本花粉			
マキ属	2	1	－
モミ属	16	11	13
ツガ属	14	16	13
トウヒ属	2	2	2
マツ属単維管束亜属	－	1	－
マツ属複維管束亜属	18	19	14
マツ属(不明)	44	38	38
コウヤマキ属	2	1	6
スギ属	21	30	20
イチイ科－イヌガヤ科－ヒノキ科	3	4	2
ヤマモモ属	6	4	4
サワグルミ属	1	3	2
クルミ属	1	1	－
クマシデ属－アサダ属	－	3	2
カバノキ属	－	－	1
ハンノキ属	2	4	2
ブナ属	6	9	10
コナラ属コナラ亜属	18	16	15
コナラ属アカガシ亜属	26	53	45
クリ属	－	5	3
シイ属	6	12	16
ニレ属－ケヤキ属	10	7	4
エノキ属－ムクノキ属	1	－	1
フウ属	－	1	－
アカメガシワ属	－	1	－
モチノキ属	2	－	－
カエデ属	－	－	1
ノブドウ属	2	－	－
ウコギ科	1	2	1
カキノキ属	－	4	－
イボタノキ属	2	－	－
ガマズミ属	－	－	1
草本花粉			
ミズオオバコ属	1	－	－
イネ科	76	6	6
カヤツリグサ科	1	1	－
ミズアオイ属	6	－	－
ユリ科	1	－	－
クワ科	16	4	－
サナエタデ節－ウナギツカミ節	3	2	－
アカザ科	4	－	－
ナデシコ科	1	－	－
キンポウゲ科	－	1	－
バラ科	1	－	－
マメ科	1	－	1
ツリフネソウ属	4	－	－
ネナシカズラ属	3	－	－
ヨモギ属	8	6	－
キク亜科	5	－	－
不明花粉			
不明花粉	11	16	18
シダ類胞子			
ヒカゲノカズラ属	5	2	－
イノモトソウ属	4	2	4
他のシダ類胞子	99	98	67
合　計			
木本花粉	206	248	216
草本花粉	131	20	7
不明花粉	11	16	18
シダ類胞子	108	102	71
合計(不明を除く)	445	370	294

および分析層準を図84に示す。いずれの流路も上方細粒化し、分析調査は充填堆積物上部の植物遺体を挟在する砂質泥ないし泥質砂を対象とする。

（２）　分析方法

過去の植生復元は、堆積物中に取り込まれている花粉・胞子・種実・葉・木材・植物珪酸体といった、植物体の各部位の遺体の産状（種類や量）に基づいて検討されている。この際、各植物遺体群がどのような過程（堆積物中への取り込まれ方、堆積時後の分解作用の影響など）を経て形成されたものか、層相解析に基づいて評価する必要がある。このような各遺体群の形成にかかわる全過程をタフォノミーと呼ぶ。このタフォノミーは部位によって異なっているため、同じ堆積物中の各部位の植物遺体群を複合的に調査することで、母植物の統一的把握、母植物の生育地の推定や植生の空間的分布状況の把握が可能となることが指摘されている（辻ほか, 1986)。このような複合的な調査により、当時の植生の空間的配置などの検討が可能となり、現在ではみることができなくなった

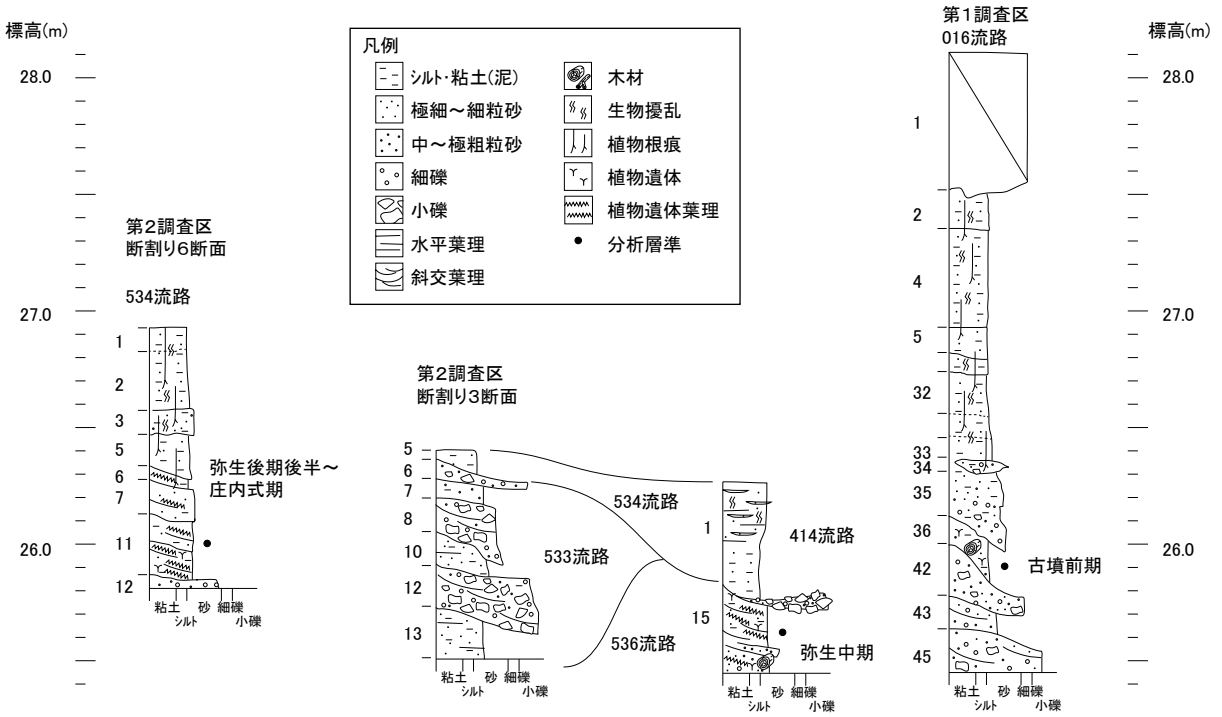


図 84　調査地点の層序および分析層準

平地林の復元や、現在の植生とは異なる植生の存在などが確認されている事例もある（辻ほか, 1987 など）。今回の調査では、このような視点から花粉分析・種実分析を実施する。以下に各分析方法を示す。

①花粉分析

試料約 10g について、水酸化カリウムによる泥化、篩別、重液（臭化亜鉛，比重 2.3）による有機物の分離、フッ化水素酸による鉱物質の除去、アセトリシス（無水酢酸９：濃硫酸１の混合液）処理による植物遺体中のセルロースの分解を行い、物理・化学的処理を施して花粉を濃集する。残渣をグリセリンで封入してプレパラートを作成し、400 倍の光学顕微鏡下でプレパラート全面を走査し、出現する全ての種類について同定・計数する。同定は、当社保有の現生標本や島倉（1973）、中村（1980）等を参考にする。

結果は同定・計数結果の一覧表、及び花粉化石群集の層位分布図として表示する。図表中で複数の種類をハイフォンで結んだものは、種類間の区別が困難なものを示す。図中の木本花粉は木本花粉総数を、草本花粉・シダ類胞子は総数から不明花粉を除いた数をそれぞれ基数として、百分率で出現率を算出し図示する。

②大型植物化石分析

試料 300cc を水に浸し、粒径 0.5㎜ の篩を通して水洗する。水洗後の篩内の試料を粒径別にシャーレに集めて双眼実体顕微鏡下で観察し、ピンセットを用いて同定が可能な種実などの大型植物化石を抽出する。

大型植物化石の同定は、現生標本と石川（1994）、中山ほか（2000）等を参考に実施し、状態別

（完形、破片（半分以下）、炭化）の個数を数えて結果を一覧表で示す。実体顕微鏡下による区別が困難な複数種間は、ハイフォンで結んで表示する。分析後は、大型植物遺体を約 70％のエタノール溶液を入れた容器中で保存する。

（３） 結果

①花粉分析

結果を表４、図 85 に示す。以下、調査区ごとに述べる。

・１区

016 流路 36 層では花粉化石が豊富に産出する。

木本花粉をみると、マツ属が最も多く産出し、モミ属、ツガ属、スギ属、コナラ属コナラ亜属、アカガシ亜属、ニレ属－ケヤキ属等を伴う。そのほかではイチイ科－イヌガヤ科－ヒノキ科、ヤマモモ属、ブナ属、シイ属なども認められる。

草本花粉ではイネ科が多産し、カヤツリグサ科、ヨモギ属、キク亜科等を伴う。また、ミズオオバコ属、ミズアオイ属、ツリフネソウ属等の水湿地生植物に由来する花粉も検出される。

・２区

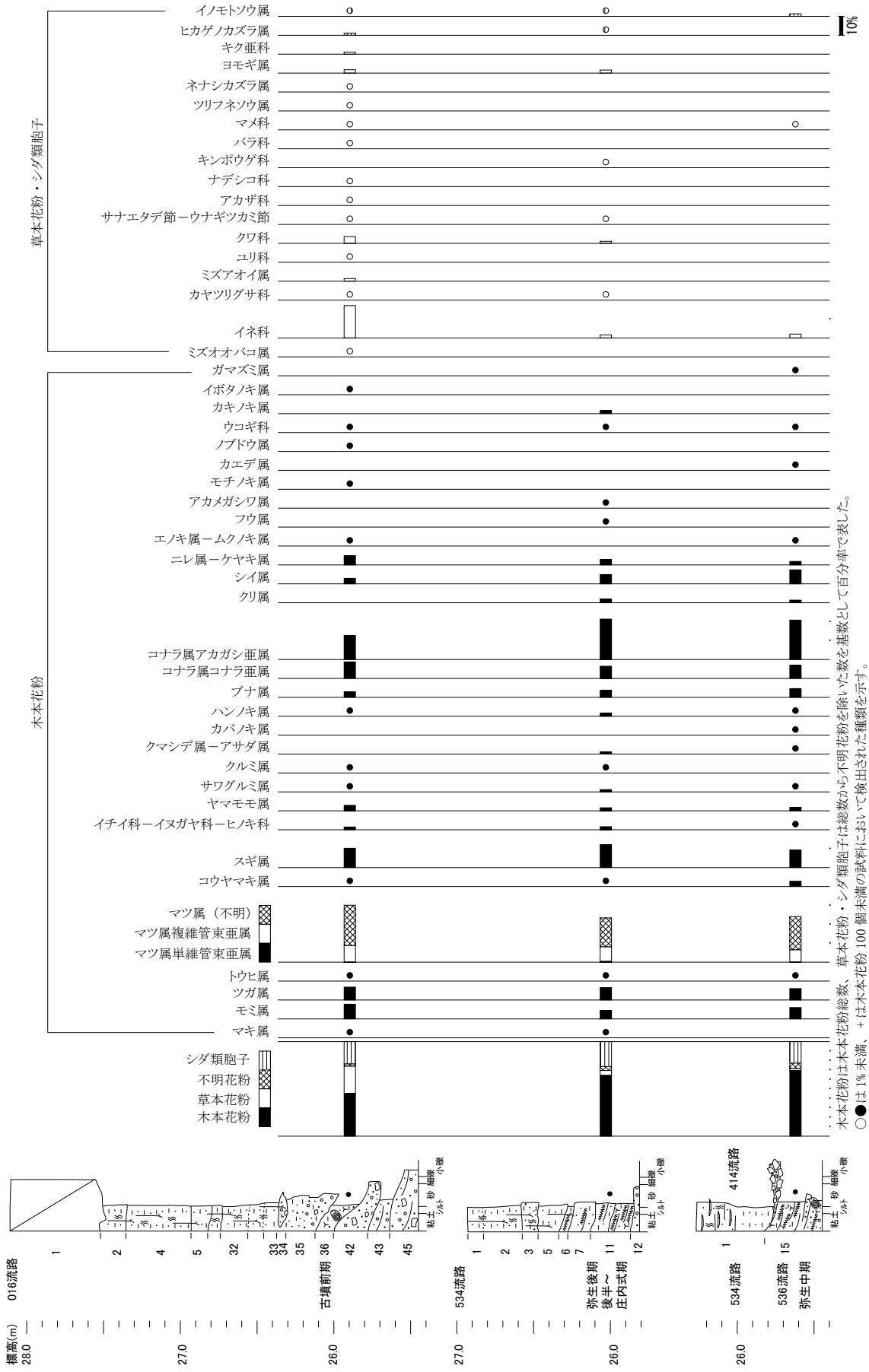
534 流路 11 層および 536 流路 15 層下部の花粉化石群集は類似する。いずれも木本花粉が優占し、その中ではマツ属、アカガシ亜属が多産する。そのほかではモミ属、ツガ属、スギ属、ブナ属、コナラ亜属、シイ属等を伴う。

草本花粉は、いずれの試料からも産出は少なく、イネ科、クワ科、サナエタデ節－ウナギツカミ節、ヨモギ属等がわずかに認められるにすぎない。

②大型植物化石分析

結果を表５に示す。３試料を通じて、被子植物 47 分類群（アカガシ亜属、コナラ属、ツブラジイ、シイ属、クワ属、ヒメコウゾ－ツルコウゾ、サカキ、ヒサカキ属、フユイチゴ近似種、キイチゴ属、アカメガシワ、カエデ属、ブドウ属、クマノミズキ、ムラサキシキブ属、オモダカ属、オモダカ科、コナギ近似種、イネ、エノコログサ属、イネ科（大型、小型）、ホタルイ属、ヌカスゲ類、カヤツリグサ科（３稜）、カナムグラ、カラムシ属、サナエタデ近似種、タデ属（２面網目、３稜網目）、ザクロソウ、ナデシコ科、アカザ科、アブラナ科、ネコノメソウ類、キジムシロ属－ヘビイチゴ属－オランダイチゴ属、カタバミ属、ヒメミカンソウ、ウドガズラ－ヤブガラシ、スミレ属、メロン類（マクワ・シロウリ型）、チドメグサ属、サクラソウ科、キランソウ属、ナス科（A、B）、キク科）239 個の種実遺体を抽出同定した。８個の種実が同定できなかった。種実遺体以外では、広葉樹の葉、木の芽、木材、炭化材、植物のトゲ、シダ植物の葉、蘚苔類、菌核、昆虫類が確認された。

種実遺体の出土個数は、１区 016 流路の 36 層が 183（木本 18、草本 165）個と最も多く、２区 536 流路の 15 層が 52（木本 23、草本 29）個で、２区 534 流路の 11 層が４（木本２、草本２）個



木本花粉は木本花粉総数、草本花粉・シダ類胞子は総数から不明花粉を除いた数を基数として百分率で表した。
○●は 1% 未満、＋は木本花粉 100 個未満の試料において検出された種類を示す。

図 85　花粉化石群集の層位分布

表５　大型植物化石分析結果

分類群	部位	状態		1区 016流路 36層	2区 534流路 11層	2区 536流路 15層下部	備考
木本							
アカガシ亜属	殻斗	完形				2	
		破片			1	2	
コナラ属	果実	完形				1	
		破片(基部)				2	別種
		破片				1	
ツブラジイ	果実	破片		6			
シイ属	果実	破片		6			
クワ属	核	完形		1			
ヒメコウゾ－ツルコウゾ	核	完形				1	
サカキ	種子	破片				3	
ヒサカキ属	種子	完形		1	1	1	
		破片		1		1	
フユイチゴ近似種	核	完形				1	
キイチゴ属	核	完形		1		1	
		破片		1		1	
アカメガシワ	種子	完形				1	
		破片				1	
カエデ属	種子	破片				2	半分,計1個分
ブドウ属	種子	破片				1	
クマノミズキ	核	破片				1	
ムラサキシキブ属	核	破片		1			
広葉樹	葉	破片		5			
木の芽				+		+	
木材				+	+	+	
炭化材			炭化	+	+	+	
草本種実							
オモダカ属	果実	完形		1			
		破片		1			
オモダカ科	種子	完形		1			
コナギ近似種	種子	完形		1			
イネ	穎	破片(基部)	炭化	1		1	
		破片(基部)		4		1	
		破片	炭化	2		13	
		破片		13		3	
	胚乳	完形	炭化			1	未熟
エノコログサ属	果実	完形		4			
		破片		12			
イネ科(大型)	果実	完形		2			
イネ科(小型)	果実	完形		24			
		破片		4			
ホタルイ属	果実	完形		2		1	
ヌカスゲ類	果実	完形		2			
カヤツリグサ科(3稜)	果実	完形				1	
カナムグラ	核	完形		2			
		破片		2			
カラムシ属	果実	完形		3			
		破片		1			
サナエタデ近似種	果実	完形		3			
		破片		1			
タデ属(2面網目)	果実	完形		2			
タデ属(3稜網目)	果実	完形		1		1	
ザクロソウ	種子	完形		1			
ナデシコ科	種子	完形		15		1	
アカザ科	種子	完形		1			
		破片		1			
アブラナ科	種子	完形		12			
ネコノメソウ類	種子	完形		1			
キジムシロ類＊	核	完形		5		1	
カタバミ属	種子	完形		8		1	
		破片		8			
ヒメミカンソウ	種子	完形		10			
ウドガズラ－ヤブガラシ	種子	破片			1		
スミレ属	種子	完形		1			
		破片		3		1	
マクワ・シロウリ型	種子	完形		2			
メロン類	種子	破片(基部)		4			
チドメグサ属	果実	完形		1			
サクラソウ科	種子	完形				2	
キランソウ属	果実	完形		1			
ナス科A	種子	完形		1			
ナス科B	種子	破片			1		
キク科	果実	完形		1		1	
不明種実		完形		2	1		
		破片		2	3		
植物のトゲ						+	
シダ植物の葉				+			
蘚苔類				+		+	
菌核				+	+	+	
昆虫類				+	+	+	
分析量				300cc	300cc	300cc	
				512.5g	481.5g	435.7g	

注)＊キジムシロ類:キジムシロ属－ヘビイチゴ属－オランダイチゴ属

と最も少ない。

本分析で同定された種実遺体各分類群の写真を図 87 に示し、栽培種の形態的特徴等を以下に記す。

・イネ (Oryza sativa L.)　イネ科イネ属

穎（果）は淡～灰褐色、一部の穎と胚乳は炭化しており黒色、偏平な長楕円体。大きさは、長さ 2.73㎜、幅 1.17㎜、厚さ 0.5㎜と薄く小型であることから、未熟個体と考えられる。胚乳の基部一端には、胚が脱落した斜切形の凹部がある。表面はやや平滑で、２～３本の縦隆条がある。穎は、完形ならば、長さ６～ 7.5㎜、幅２～３㎜、厚さ１～ 1.5㎜程度で、基部に大きさ１㎜程度の斜切状円柱形の果実序柄と１対の護穎を有し、その上に外穎（護穎と言う場合もある）と内穎がある。外穎は５脈、内穎は３脈をもち、ともに舟形を呈し、縫合してやや偏平な長楕円形の稲籾を構成する。果皮は薄く、表面には顆粒状突起が縦列する。破片は最大３㎜程度。

・メロン類 (Cucumis melo L.)　ウリ科キュウリ属

種子は淡～灰褐色、偏平な狭倒皮針形。完形２個の大きさは、長さ 6.98㎜、幅 2.87㎜、厚さ 0.9㎜と、長さ 7.56㎜、幅 3.45㎜、厚さ 1.06㎜で、藤下 (1984) の基準による中粒のマクワ・シロウリ型（長さ 6.1 ～ 8.0㎜) に該当する。基部には倒「ハ」の字形の凹みがある。種皮表面には縦長の細胞が密に配列する。

（４）　考察

弥生時代中期～古墳時代前期までの各時期の流路充填堆積物中の花粉・大型植物化石群集の特徴を捉え、古植生・古環境を推定する。

①弥生時代中期（２区 536 流路 15 層形成期）

花粉化石群集は、木本花粉が優占すること、その中では針葉樹のマツ属、常緑広葉樹のコナラ属アカガシ亜属が多産することが特徴である。このほかモミ属、ツガ属、スギ属などの針葉樹、ブナ属、コナラ属コナラ亜属、ニレ属－ケヤキ属などの落葉広葉樹、常緑広葉樹のシイ属等を伴う。これらのうち、多産するマツ属は伐採地や崩壊地など土地条件が悪い場所に先駆的に侵入して生育する陽樹、アカガシ亜属はシイ属、ヤマモモ属等とともに暖温帯性常緑広葉樹林の主要構成要素となる樹種である。随伴する種類では、モミ属、ツガ属、スギ属が温帯性針葉樹ないしその種を含む種類である。温帯性針葉樹は扇状地や地すべり地など地表・河川撹乱が及ぶ領域が更新適地とされる。落葉広葉樹のコナラ亜属・ニレ属－ケヤキ属などは二次林や河川沿いの氾濫低地などの植生を構成する陽樹である。なお、シイ属やアカガシ亜属の仲間にはスダジイ・アラカシのように萌芽能力が高く、二次林の構成要素となる樹種も含まれる。草本花粉は低率であるが、イネ科、クワ科、サナエタデ節－ウナギツカミ節、ヨモギ属など、開けた場所に生育する種類が認められる。

一方、大型植物化石群集は、木本類・草本類がほぼ同等の割合で産出する。木本類は、アカガ

シ亜属、サカキ、ヒサカキ属、フユイチゴ（近似種）、キイチゴ属、ブドウ属、ヒメコウゾまたはツルコウゾ、カエデ属、アカメガシワ、クマノミズキ等が産出する。このうちアカガシ亜属・サカキ・ヒサカキは常緑広葉樹林要素であり、ヒサカキは二次林から極相林まで幅広く生育する種である。フユイチゴ（近似種）、キイチゴ属、ヒメコウゾまたはツルコウゾは林縁などに生育する中低木である。ブドウ属はツル性植物であり、カエデ属は河畔などに生育する落葉広葉樹の種を含む種類、アカメガシワは河原、海岸、伐採跡地などの日当たりの良い場所に生える落葉高木、クマノミズキは谷沿いなどの水分条件の良好な場所に生育する落葉高木である。草本類では栽培種のイネ属の穎（炭化しているもの含む）などが多く産出し、水湿地に生育するホタルイ属のほか タデ属、ナデシコ科、キジムシロ類、カタバミ属、スミレ属、サクラソウ科、キク科など開けた場所や荒れ地などに生育する種を含む種類を伴う。

花粉化石群集と大型植物化石群集を比較すると、両群集で対応関係にある種類として木本類のアカガシ亜属・コナラ属・カエデ属・シイノキ属・アカメガシワ、草本類のイネ科があげられる。これらは流路沿いの植生を構成する要素であったと推定される。その他の多くの種類では対応関係が認められなかったが、これは、母植物の生育地、生産量、堆積環境に起因する化石群集の形成過程などの違いが複合的に関連している可能性がある。流路充填堆積物の層相を踏まえると、水利的淘汰が大きく関係している可能性が高い。上述したように大型植物化石では、河畔や林縁など開けた場所に生育する種類が多く、流路沿いの植生を強く反映していると考えられる。これらの種類は花粉生産量が少ないため､花粉化石群集では確認されなかったものとみられる。また、風媒性で花粉生産量の多い、温帯性針葉樹やマツ属（複維管束亜属を含む)、コナラ亜属などの木本の種類が大型植物化石で確認されなかったのは、これらの種類が流路より離れた場所の植生を反映していることを示唆する。

以上のことから、当時の周辺植生を推定すると、流路の集水域には、アカガシ亜属・シイ属などの常緑広葉樹林が存在したと推定される。ただし、この林分はマツ属やコナラ亜属なども混在していた可能性が高く、二次林的性格の強い林分であった可能性が高い。一方、温帯性針葉樹やブナ属などは山地部などの標高の高い場所に土地条件に応じて分布していたことが推定される。また、流路沿いはハンノキ属、ニレ属－ケヤキ属、サカキ、ヒサカキ属、フユイチゴ（近似種）、キイチゴ属、ブドウ属、ヒメコウゾまたはツルコウゾ、カエデ属、アカメガシワ、クマノミズキなどが生育していたと推測される。特に木本花粉の占める割合が高かったことから、上流域では常緑広葉樹林が流路際まで迫っており、その林縁構成要素としてこれらの樹木が分布していた可能性がある。草本類は少ないながらも、イネ科、カヤツリグサ科、クワ科、サナエタデ節－ウナギツカミ節、タデ属、ナデシコ科、キジムシロ類、カタバミ属、スミレ属、サクラソウ科、ヨモギ属、キク科などが産出することから、河川沿いの湿地や氾濫原など土壌が不安定な地域を中心に生育していたと考えられる。

また、本流路充填堆積物からは栽培植物のイネ属の穎・胚乳が産出する。これらは炭化してい

るものも認められる。当時の人間が栽培利用していたものに由来すると考えられる。東側に隣接する調査区でも弥生時代中期の層準において、少ないながらも栽培種のイネ属の植物珪酸体が産出しており、同調的である。

②弥生時代後期後半～庄内式期（534 流路 11 層形成期）

本時期の花粉化石群集は、上記した２区 536 流路 15 層の花粉化石群集の特徴と類似する。ただし、木本類でカキノキ属が産出し、草本花粉でクワ科・ヨモギ属・サナエタデ節－ウナギツカミ節など種類数が僅かに増える。一方、大型植物化石群集は産出する種類・個数ともに少なく、木本類でアカガシ亜属・ヒサカキ属、草本類でウドカズラ－ヤブガラシ、ナス科が産出するだけであった。花粉化石群集に層位変化がほとんど確認されないこと、および層相を踏まえると、流水による水利的淘汰により、大型植物化石が取り込まれにくかったことが推定される。

以上のことから、弥生時代後期後半～庄内式期の周辺植生は、基本的には弥生時代中期の頃と同様であったと推定される。

③古墳時代前期（１区 016 流路 36 層形成期）

花粉化石群集は層位的に変化する。木本類では同様の種類が産出するものの、アカガシ亜属の割合が減少し、二次林要素のマツ属の割合が増加することが特徴である。また、草本花粉の占める割合が高くなり、種類数が増加する。その中ではイネ科が多産するようになり、水生植物のミズオオバコ属・ミズオアイ属のほか、開けた場所に生育するアカザ科・ナデシコ科・バラ科・ツリフネソウ属・ネナシカズラ属・キク亜科などが産出するようになる。

大型植物化石群集も層位的に変化する。木本類では、ツブラジイを含むシイ属およびクワ属などが産出するようになるものの、下位層準で多産していたアカガシ亜属のほか、サカキカエデ属、クマノミズキなどが産出しなくなる。草本花粉は種類数・個数とも増加する。水生植物のオモダカ属・コナギ近似種、原野や河原などの荒地、人里などに生育するカナムグラ、カラムシ属、カナムグラ、チドメグサ属、アカザ科、アブラナ科、ネコノメソウ類、ヒメミカンソウ、キランソウ属、栽培種のマクワ・シロウリ型を含むメロン類などが産出するようになる。

以上、本層準では花粉化石・大型植物化石群集ともに層位的に変化する。その変化の傾度は類似しており、草本類の占める割合と種類構成が多様になることが特徴として認識される。両群集で対応関係にある種類も多くなる。これら増加する草本類の多くは、栽培種を除くと、明るく開けた場所に生育する、いわゆる人里植物に属する種類である。また、水・湿地生植物の種類も増加しているが、これらの多くが水田雑草としても生育する種類である。

このような草本類の産状を踏まえると、古墳時代前期には調査地点近辺の氾濫原から流路岸では、草地領域が分布を拡げたとみられる。一方、周辺の林分ではカシ類などの常緑広葉樹が減少し、マツ属やコナラ亜属の仲間などからなる二次林要素が分布を拡げたと推定される。このような植生変化の原因としては、その変化が庄内式期～弥生時代前期の間で急激に起こっており、調査区の堆積環境が古墳時代以降に静穏化していることを踏まえると、弥生時代に比較して人為的

植生撹乱が強まったことが考えられる。栽培植物のイネ、マクワ・シロウリ型を含むメロン類などの種子の産出も同調的であり、これらが栽培、利用されていたことも示唆される。

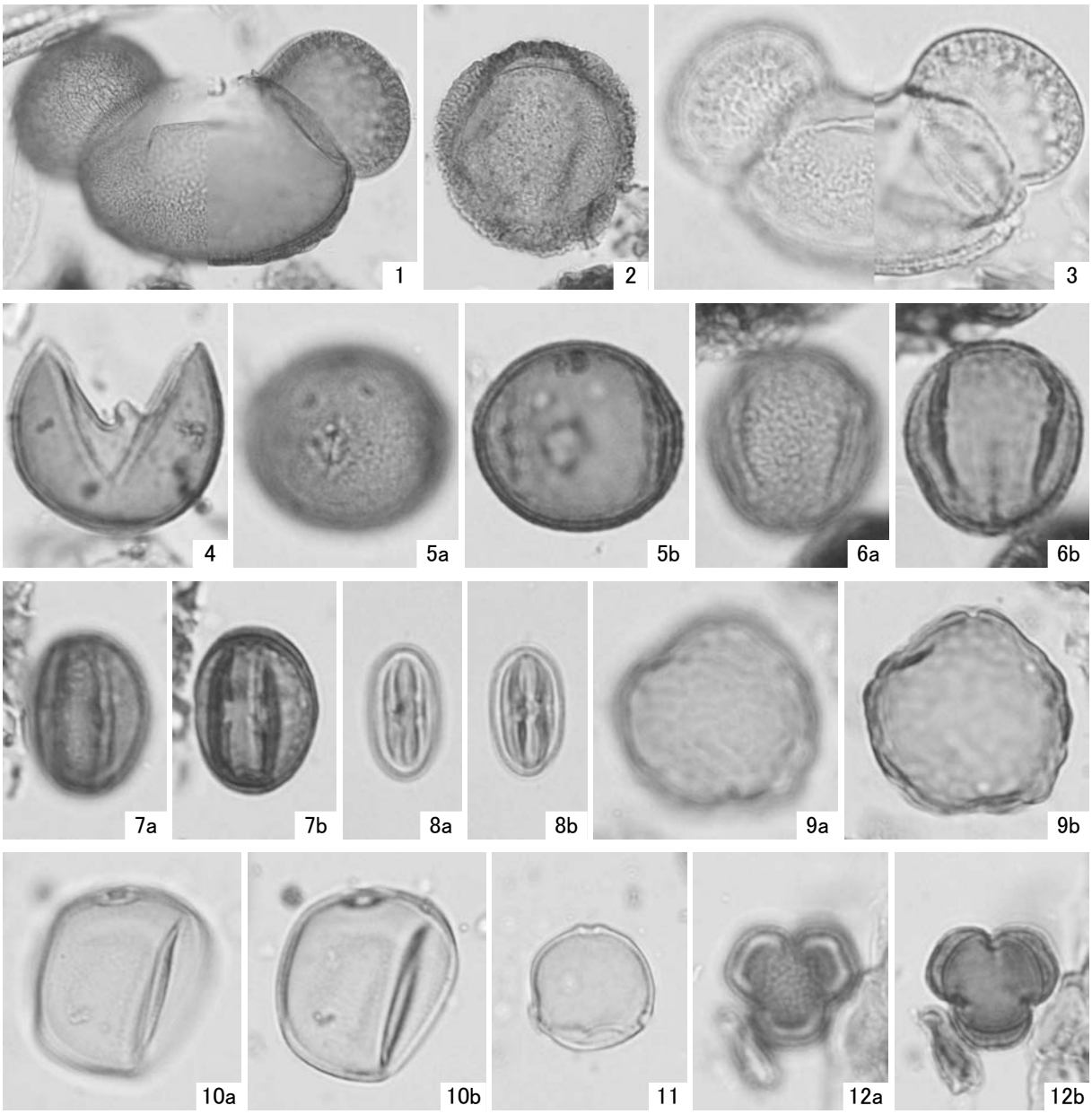
（５） まとめ

今回の分析調査の結果、寺田遺跡周辺における弥生時代中期から古墳時代前期にかけての古植生・古環境について検討を行った。その結果、以下の事項が明らかとなった。

１）弥生時代中期から庄内式期までは、流路の集水域などにシイ類・カシ類などから常緑広葉樹、落葉広葉樹ナラ類などの落葉広葉樹、マツ属などからなる二次林的性格の強い林分が存在したことが推定された。流路沿いの氾濫原には草本類が生育する領域も存在したが、その分布は少なかったと思われる。

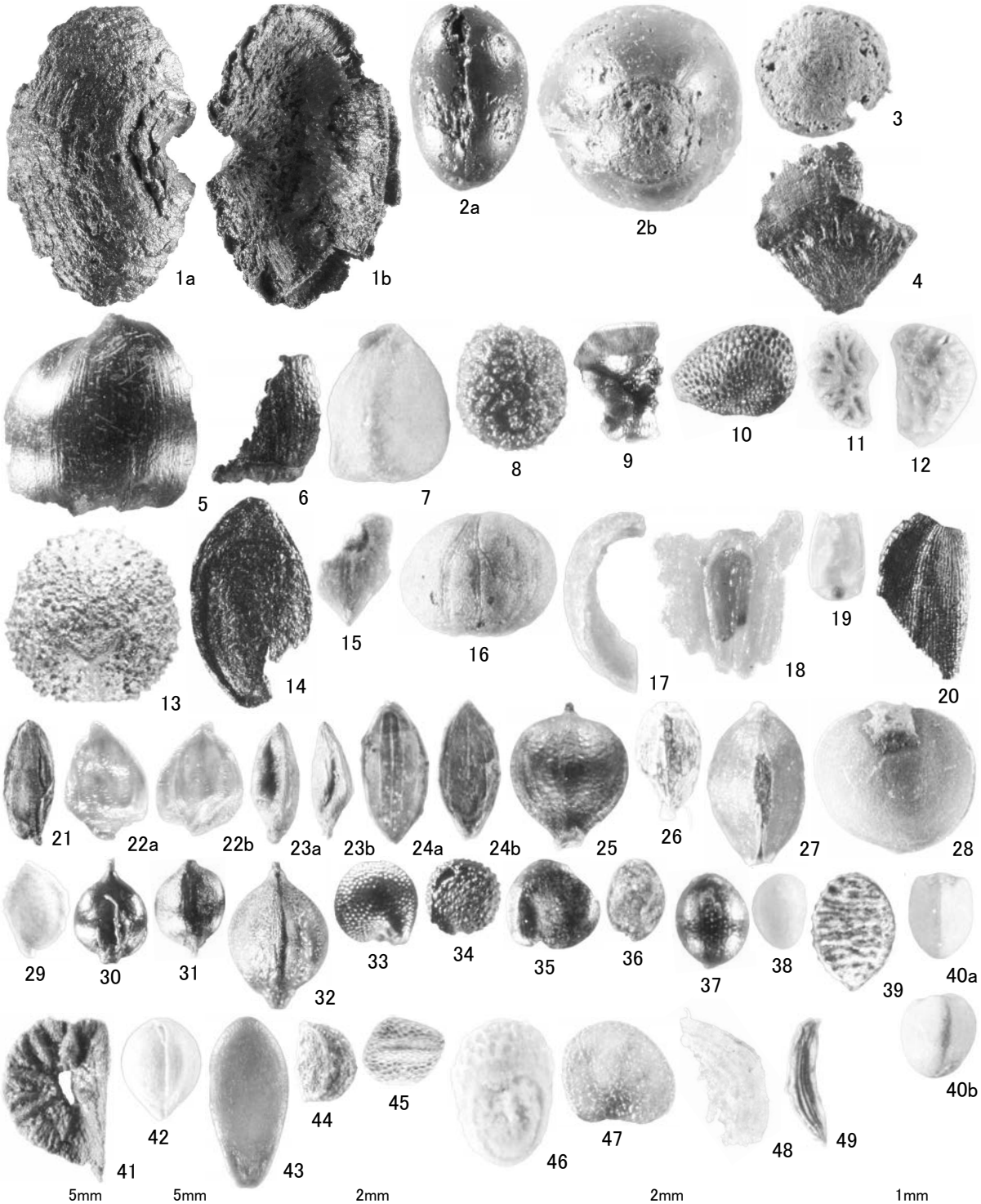
２）古墳時代前期になると、周辺植生が変化する。周辺に存在した林分では、カシ類などの常緑広葉樹が減少し、マツ属やコナラ亜属などからなる二次林要素が分布を拡げた。一方、調査区周辺では草地領域が拡大したとみられる。この植生変化は人為的植生撹乱に起因するものと判断される。

３）栽培植物のイネに由来する大型植物化石が弥生時代中期および古墳時代前期の流路充填堆積物、マクワ・シロウリ型を含むメロン類が古墳時代の流路充填堆積物から産出した。これらが各時期に栽培利用されていた可能性が推定された。



1．モミ属(2区1地点;11層)
2．ツガ属(2区1地点;11層)
3．マツ属(2区1地点;11層)
4．スギ属(2区1地点;11層)
5．ブナ属(2区1地点;11層)
6．コナラ属コナラ亜属(2区1地点;11層)
7．コナラ属アカガシ亜属(2区1地点;11層)
8．シイ属(2区1地点;11層)
9．ニレ属－ケヤキ属(2区1地点;11層)
10．イネ科(1区東壁;36層)
11．クワ科(1区東壁;36層)
12．ヨモギ属(2区1地点;11層)

図 86　花粉分析



1．アカガシ亜属 殻斗(2区4地点;15層下部)
2．コナラ属 果実(2区4地点;15層下部)
3．コナラ属 果実(2区4地点;15層下部)
4．コナラ属 果実(2区4地点;15層下部)
5．ツブラジイ 果実(1区東壁;36層)
6．ツブラジイ 果実(1区東壁;36層)
7．クワ属 核(1区東壁;36層)
8．ヒメコウゾーツルコウゾ 核(2区4地点;15層下部)
9．サカキ 種子(2区4地点;15層下部)
10．ヒサカキ属 種子(2区1地点;11層)
11．フユイチゴ近似種 核(2区4地点;15層下部)
12．キイチゴ属 核(2区4地点;15層下部)
13．アカメガシワ 種子(2区4地点;15層下部)
14．カエデ属 種子(2区4地点;15層下部)
15．ブドウ属 種子(2区4地点;15層下部)
16．クマノミズキ 核(2区4地点;15層下部)
17．ムラサキシキブ属 核(1区東壁;36層)
18．オモダカ属 果実(1区東壁;36層)
19．コナギ近似種 種子(1区東壁;36層)
20．イネ 穎(2区4地点;15層下部)
21．イネ 胚乳(2区4地点;15層下部)
22．エノコログサ属 果実(1区東壁;36層)
23．イネ科(大型) 果実(1区東壁;36層)
24．イネ科(小型) 果実(1区東壁;36層)
25．ホタルイ属 果実(2区4地点;15層下部)
26．ヌカスゲ類 果実(1区東壁;36層)
27．カヤツリグサ科(3稜) 果実(2区4地点;15層下部)
28．カナムグラ 核(1区東壁;36層)
29．カラムシ属 果実(1区東壁;36層)
30．サナエタデ近似種 果実(1区東壁;36層)
31．タデ属(2面網目) 果実(1区東壁;36層)
32．タデ属(3稜網目) 果実(1区東壁;36層)
33．ザクロソウ 種子(1区東壁;36層)
34．ナデシコ科 種子(1区東壁;36層)
35．アカザ科 種子(1区東壁;36層)
36．アブラナ科 種子(1区東壁;36層)
37．ネコノメソウ類 種子(1区東壁;36層)
38．キジムシロ類 核(2区4地点;15層下部)
39．カタバミ属 種子(1区東壁;36層)
40．ヒメミカンソウ 種子(1区東壁;36層)
41．ウドガズラーヤブガラシ 種子(2区1地点;11層)
42．スミレ属 種子(1区東壁;36層)
43．マクワ・シロウリ型 種子(1区東壁;36層)
44．チドメグサ属 果実(1区東壁;36層)
45．サクラソウ科 種子(1区東壁;36層)
46．キランソウ属 果実(1区東壁;36層)
47．ナス科A 種子(1区東壁;36層)
48．ナス科B 種子(2区1地点;11層)
49．キク科 果実(1区東壁;36層)

図 87　種実遺体

第２節　寺田遺跡出土鍛冶関連遺物の金属学的調査

九州テクノリサーチ・TAC センター
大澤　正己

（１）調査概要

４世紀後半から５世紀初めに属する寺田遺跡第１次調査出土の鍛冶関連遺物(椀形鍛冶滓６点、羽口１点、鋳造鉄斧（梯形状）破片１点）の分析調査を行った。鍛冶は海外生産の塊状鉄鉱石起源の精製された鍛冶原料鉄を充当し、高温沸し鍛接から低温成形・鍛錬鍛冶を経た鉄器製作である。この事は椀形鍛冶滓の鉱物組成と化学組成分析を根拠にしての発言である。一方、鋳造鉄斧など廃鉄器原料の下げ脱炭処理からの鉄器製作説は希薄となる。羽口先端溶融ガラスも高温析出鉱物を含まない。梯形鋳造鉄斧の材質は、共晶組成白鋳鉄（4.23％C）で溶融点が 1150℃と最も低下する組成であった。

（２）いきさつ

寺田遺跡は大阪府和泉市寺田町に所在する古墳時代の集落跡である。河川内より大量の土器に共伴して鍛冶関連遺物が出土した。これら遺物（４世紀後半～５世紀初）を通した当時の鍛冶の実態把握を目的として分析調査の運びとなった。なお出土鉄滓 21 点中６点の分析資料を抽出した。この抽出基準は磁着度４・３・２と磁性の強弱、すなわちウスタイト（Fe0）晶出量の差を３水準・繰返し２回を念頭に据えている。

（３）調査方法

（３）－１．供試材

表６に示す。供試材は椀形鍛冶滓６点、羽口１点、鋳造鉄斧（梯形状）１点である。

（３）－２．調査項目

①　肉眼観察

遺物の外観上の特徴を簡単に記載した。観察結果をもとに各分析試料採取位置を決定している。

②　マクロ組織

本来は肉眼またはルーペで観察した組織であるが、本稿では顕微鏡埋込み試料の断面全体像を、投影機の 10 倍から 20 倍で撮影したものを指す。当調査は、顕微鏡検査によるよりも広い範囲にわたって、組織の分布状態、形状、大きさなどの観察ができる利点がある。

③　顕微鏡組織

鉱滓の鉱物組成、金属部の組織観察や非金属介在物の調査などを目的とする。

試料観察面を設定・切り出し後、試験片は樹脂に埋込み、エメリー研磨紙の #150、#240、

#320、#600、#1000、及びダイヤモンド粒子の３μと１μで鏡面研磨した。

また観察には金属反射顕微鏡を用い、特徴的･代表的な視野を選択して、写真撮影を行った（25～400倍）。なお金属鉄の調査では５％ナイタル（硝酸アルコール液）を腐食（Etching）に用いた。

④　ビッカース断面硬度

ビッカース断面硬度計（Vickers Hardness Tester ）を用いて硬さの測定を行った。試験は鏡面研磨した試料に136°の頂角をもったダイヤモンドを押し込み、その時に生じた窪みの面積をもって、その荷重を除した商を硬度値としている。試料は顕微鏡用を併用した。

⑤　化学組成分析

供試材の分析は次の方法で実施した。

全鉄分（Total Fe）、金属鉄（Metallic Fe）、酸化第一鉄（FeO）：容量法。

炭素（C）、硫黄（S）、：燃焼容量法、燃焼赤外吸収法

二酸化硅素（SiO_2）、酸化アルミニウム（Al_2O_3）、酸化カルシウム（CaO）、酸化マグネシウム（MgO）、酸化カリウム（K_2O）、酸化ナトリウム（Na_2O）、酸化マンガン（MnO）、二酸化チタン（TiO_2）、酸化クロム（Cr_2O_3）、五酸化燐（P_2O_5）、バナジウム（V）、銅（Cu）、二酸化ジルコニウム（ZrO_2）：ICP（Inductively Coupled Plasma Emission Spectrometer）法 ：誘導結合プラズマ発光分光分析。

（４）調査結果

740　椀形鍛冶滓

①　肉眼観察：平面は不整楕円形状で、片側面を欠く210gの椀形鍛冶滓である。酸化土砂で覆われ、上下面と片側面が生きている。側面の３面が破面。ただし本来面は土壌腐蝕により風化脱色して暗緑灰色を呈する。茶褐色破面は気孔を散発するものの緻密だった。

②　顕微鏡組織：図89の④～⑩に示す。鉱物相の根底はウスタイト（wustite：FeO）＋ファヤライト（fayalite：$2FeO \cdot SiO_2$）である。高温沸し鍛接・鍛錬鍛冶滓の晶癖を呈す。しかし該品は通常の組織と違って、風化浸蝕の被害を受けて乱れた結晶となる。⑤⑥が肉眼観察で指摘した風化脱色直下の組織を示す。ウスタイト＋ファヤライトは侵されて組織消滅の憂き目に遭っている。次に内部寄り⑦⑧になると、白色粒状結晶のウスタイトは形状を保ちつつも亀裂を生じ、結晶晶出温度の低い淡灰色盤状結晶ファヤライトは、表層被膜に準じて風化浸食の痕跡を残す。⑨⑩はウスタイト凝集箇所を示した。やはりウスタイト結晶は亀裂を残し、強固さを失う。

該品の抽出理由は磁着度[1)]２であり、ファヤライト主体でウスタイト晶出の少ない鉱物相から構成された鉄滓を選んだ心算だった。ところが安定する筈の鉄酸化物スラグにおいても、風化浸蝕が起きて材質変化を来たした結果に遭遇する破目になった。

③　ビッカース断面硬度：当初、白色粒状結晶のウスタイトの硬度値測定を試みたが、本来組織が壊滅して圧痕形状が定まらず測定不可となった。

図 89 の④は羽口先端溶融ガラスの硬度圧痕を示す。値は 1024Hv と頗る硬質の数値である。履歴不明ながらガラス文献値として 639 ～ 884Hv があって[2)]これを遥かに上回わる。カルシウム(Ca)固溶の少ないガラスと推定される。

④　化学組成分析：表 7 に示す。全鉄分（Total Fe）は 41.94％に対して、酸化第 1 鉄（FeO）が 25.29％と低く、酸化第 2 鉄（Fe_2O_3）が高めの 31.73％になり、風化浸食の影響が現われる。造滓成分（SiO_2+Al_2O_3+CaO+MgO+K_2O+Na_2O）が 32.24％と高目も、ファヤライト組織の消滅由来とみられよう。一方、塊状鉄鉱石を原料とした鍛冶滓の化学組成は随伴微量元素が低めをとる特質をもつ。0.24％ TiO_2、＜ 0.01％ V、0.20％ MnO、0.03％ Cr_2O_3、0.01％ Cu などその現われである。鉄の鍛打作業で割れ発生に影響を及ぼす硫黄（S）は 0.007％と低値は可として、五酸化燐（P_2O_5）の 0.80％と高値は少々気掛りとなる。ただし、風化浸蝕からきた二次汚染であれば論外となる。

742　椀形鍛冶滓

①　肉眼観察:平面が不整隅丸長方形状の椀形鍛冶滓破片である。上下面と片側面は生きていて、破面を５箇所数える。厚さは 3.5cm と当グループでは大きく、126g を測る。色調は酸化土砂に覆われながら青灰色から暗緑色を呈し､風化浸蝕からの脱皮が認められる。気孔少なく緻密質で、前述 740 椀形鍛冶滓に準じた質感をもつ。磁着度は３を理由に抽出している。

②　顕微鏡組織：図 90 の④～⑩に示す。鉱物相はウスタイト＋ファヤライトで、高温沸し鍛接・鍛錬鍛冶滓の晶癖を呈す。ウスタイト晶出密度にバラツキをもつ。検鏡下のウスタイトとファヤライトの損傷具合は弱くなりつつも、中核部④～⑧に比べて表層側⑨⑩は風化浸食ダメージは僅かながら認められた。

③　ビッカース断面硬度：図 90 の④は白色粒状結晶の硬度圧痕を示す。ウスタイトが想定できる粒の硬度値は 333Hv、335Hv が得られた。ウスタイトの文献硬度値は 450 ～ 500Hv の範囲内であって、これから大きく外れた。同じく図 90 の⑤淡灰色盤状結晶は 2 点の値が 405Hv を呈した。ファヤライトが予想されたが文献硬度値の 600 ～ 700Hv[3)]から外れた結果となった。④⑤の両結晶は一見外傷なく正常な鉱物相と受取れたが、その実、内部劣化の進行の著しいものに変換されていた。

④　化学組成分析：表 7 に示す。全鉄分（Total Fe）は 46.61％に対して、酸化第 1 鉄（FeO）が 27.16％と少なく、酸化第 2 鉄（Fe_2O_3）が 36.36％と多い。やはり風化浸蝕傾向の窺われる滓の成分傾向を呈す。脈石成分は 0.18％ TiO_2、＜ 0.01％ V、0.22％ MnO など低値で、0.005％ S、0.85％ P_2O_5 など前述 740 椀形鍛冶滓に準じた成分系となる。

745　椀形鍛冶滓

①　肉眼観察：平面は不整五角形状を呈し、偏平薄手の椀形鍛冶滓である。厚みは 2.5cm、96g の小型品で、側面に破面をもつ。風化浸蝕が激しくて亀裂も走る損傷品。色調は脱色青灰色で破

面は４ヶ所が認められる。磁着度は４から内部組織の崩壊を予測しなければならなかった。

②　顕微鏡組織：図 91 の④～⑩に示す。ファヤライト＋ウスタイト組成の鉱物相は低温成形素延べ・鍛錬鍛冶滓の晶癖である。しかし白色粒状結晶の損傷は激しく傷つき結晶で、正常な結晶でないことは一目瞭然である。

③　ビッカース断面硬度：図 91 の④に白色粒状結晶の硬度圧痕を示す。対象結晶は圧痕口から壊れて値は取れぬ状況にあった。

④　化学組成分析:全鉄分(Total Fe)が 36.78％と低下して､造滓成分の 38.65％と増加したのは、鉄酸化物のウスタイト（FeO）やファヤライト（$2FeO \cdot SiO_2$）が損なわれた結果を予知させる。脈石成分は前述 740、742 椀形鍛冶滓と差異がない。0.26％ TiO_2、＜ 0.01％ V、0.15％ MnO が得られた。更に鉄の有害元素（鍛打脆性）は 0.007％ S、0.84％ P_2O_5 も大きく動かなかった。一方、鋳造鉄斧を鍛冶原料とした下げ脱炭を推定させる分析値は否定される。

746　椀形鍛冶滓

①　肉眼観察：平面が不整楕円形状から破損した椀形鍛冶滓と予測のつく破片である。偏平で厚みが 2.0cm と薄く、58g 弱の小型品。上下面は生きており、大きな破面が３ヶ所に観察できる。色調は暗緑灰色からオリーブ灰色ながら緻密質。僅かに風化浸蝕されて本来表皮を失う。酸化土砂を付着する。磁着度２を理由に抽出した資料である。

②　顕微鏡組織：図 92 の④～⑩に示す。組織写真は断面厚み縦方向上・中・下の３ヶ所を対象とする。鉱物相は３ヶ所共に共通しており、発達した淡灰色盤状結晶のファヤライトが大半を占める。これに極く僅かな白色粒状結晶のウスタイトから構成される。ファヤライト優先晶出の鉱物相から鍛冶工程を推測すると、低温加工型・素延べ・鍛錬鍛冶滓に分類される。当鉱物相から磁着度２は矛盾のない対応と考える。

一方、鉄素材は酸化目減り対策として粘土汁が塗布され、800℃前後の低温で素延べ鍛打が施された。造滓は塗布粘土汁や羽口先端溶損ガラス由来であろう。このガラス中に晶出した鉱物相のファヤライト晶出温度は、文献からも援用が出来る[4)]。因にウスタイトが加わった時の晶出温度は 1180℃以上となる[5)]。

③　ビッカース断面硬度：図 92 の④に淡灰色盤状結晶の硬度測定の圧痕を示す。値は 548Hv であった。ファヤライトの文献硬度値は 600 ～ 700Hv の範囲に収まる。下限から大きく下回る。やはり表皮脱色があるように風化浸蝕からの内部劣化の兆候が硬度値にも及ぼした。

748　椀形鍛冶滓

①　肉眼観察：平面が不定形状を呈する 46g の小型椀形鍛冶滓である。上下面と端面の一部が生きるが側面４ヶ所に破面をもつ。色調は青灰色の脱色表皮で、やはり風化浸蝕滓である。破面は気孔少なく緻密質。上面の一部に羽口先端から溶融滴下した黒色ガラスを付着する。また酸化土

砂の固着もある。供試材は磁着度が３の理由からの抽出である。

②　顕微鏡組織：図 93 の④～⑩に示す。断面の上・中・下段のウスタイト＋ファヤライトの鉱物相の晶出は、高温沸し鍛接・鍛錬鍛冶滓の晶癖である。風化浸蝕はファヤライトや素地の黒色ガラスに強く現われる。

③　ビッカース断面硬度：図 93 の④に白色粒状結晶ウスタイトの圧痕を示す。値は 280Hv と 450 ～ 500Hv 文献硬度値から大きく外れる。風化浸食の影響は顕著である。

751　椀形鍛冶滓

①　肉眼観察：楕円形状椀形鍛冶滓の長軸側の約半分相当からなる破片である。上下面と側面の一部が生きて、破面が４面にみられた。破面は些か粗であるが、光沢質で青灰色を呈し、風化浸食の度合いは低い。酸化土砂の付着はあった。供試材は磁着度４からの抽出とした。

②顕微鏡組織：図 94 の④～⑩に示す。断面の上・中・下段を観察対象とした。各位置共に鉱物相は白色粒状結晶のウスタイトが凝集晶出して、その粒間を僅かの淡灰色柱状結晶のファヤライトが埋める。鋳造鉄斧片など廃鉄器の下げ脱炭を施して、鍛冶原料鉄を調達した可能性の高い晶癖である。

下げ脱炭とは硬くて脆い直接加工のきかない鋳造鉄斧など廃鉄器を鍛冶原料として加熱溶融し､鋳鉄中の割れの元になる炭素を酸化除去して軟化鍛造可能な柔軟鉄を造り出す熱処理を指す。寺田遺跡でこの下げ脱炭処理を検証するには化学組成分析の結果がほしい。滓中の酸化マンガン(MnO) が 0.05%以下であればほぼ間違いなく下げ脱炭滓の確証となる。鋳造品は脈石を含まないので、成分的に高純度傾向は顕著となる。富化することはない。そういった意味からの駄目押しデータの裏打ちが望ましいところである。

③　ビッカース断面硬度：図 94 の④に白色粒状結晶のウスタイトの硬度測定の圧痕を示す。硬度値は 438Hv である。ウスタイト文献硬度値の 450 ～ 500Hv の下限値を僅かに割るがウスタイトに同定される。

766　羽口

①　肉眼観察：外見は筒形で、最大外径 8.0cm、孔径が 2.3 ～ 2.7cm を測る。現存長さ 6.3cm、重量は 117g。装着角度は約 25 度が被熱痕跡から読み取れた。暗黒色ガラス質滓の一部は光沢をもつ。胎土は砂礫が目立ち、籾殻の混和がある。５区大溝出土であるが、調査椀形鍛冶滓は１区河川 1500 出土品であることを付記しておく。

②　顕微鏡組織：図 95 の④～⑩に示す。⑤⑥は羽口先端側溶融部の黒色ガラスである。鉱物結晶の晶出はない溶融である。⑦⑧は少し基部寄りのガラス化部分である。僅かに微小マグネタイトを局部的に晶出するが高温使用を語るものでもない。

③　ビッカース断面硬度：黒色ガラスの硬度測定の結果を図の④に示す。値は 546Hv、571Hv が

得られた。低温軟質ガラスといえる。

257　鋳造鉄斧

①　肉眼観察：現存長さ 7.2cm で刃部幅が 6.5cm が推定されて、上面に突線のつかない梯形鋳造鉄斧である。袋部の大半と刃部の一部を欠損する。鍛冶原料の廃鉄器にみられている。メタルチェッカーで反応がなく金属鉄の遺存は望めない。全て銹化鉄であろう。顕微鏡試料は刃部寄りから採取した。

②　マクロ組織：図 96 の④に示す。銹化鉄になるが、金属鉄組織の痕跡を残す。鋳放しの共晶組成白鋳鉄(4.23％C)であり、軟化脱炭処理は施されていない。韓半島産の梯形鋳造鉄斧として、常時みられる組織である。

③　顕微鏡組織：図 96 の⑤～⑬に示す。均等組織ではなく 3 視野でバラツキを紹介する。⑤～⑧の白色板状結晶は初晶セメンタイト（Cementite：Fe_3C）で、地はオーステナイト（常温ではパーライトになる）とセメンタイトとの共晶のレデブライト（ledeblite）である。金属鉄組織の痕跡は、共晶組成白鋳鉄（4.23％C）レベルで溶融点が 1150℃と最も低下する炭素量の位置だった。なお、蜂の巣状レデブライトは、金属鉄組織での色調が白黒反転する。⑧～⑩のレデブライトは大きさが不均一で白黒反転を考えると見辛い組織となる。

一方、⑪～⑬は色調反転組織なれどパーライト地にばら状黒鉛が認められる。白鋳鉄ではなくねずみ鋳鉄（gray cast iron）であった。白鋳鉄のセメンタイトの一部が黒鉛化している。鋳鉄は凝固冷却速度が早くなれば、セメンタイトを晶出し、白鋳鉄（white cast iron）と呼ばれ、遅くなれば黒鉛晶出という現象を生ずる。その冷却速度が一定でなかった様相が組織写真に現われた。

（５）まとめ

４世紀後半から５世紀初めに属する寺田遺跡出土の鍛冶関連遺物（椀形鍛冶滓６点、羽口１点、鋳造鉄斧（梯形状）破片１点）の分析調査を行った。鍛冶は海外生産で精製された鍛冶原料鉄を用いて、高温沸し鍛接工程から鍛冶素材を調達し、これを酸化目減りを配慮して低温素延べを経ての鉄器製作を推定される。図 88 にその工程模式図を示したので参照されたし。また、個々のまとめを表８に示す。

高温沸し鍛接時の鉄滓鉱物相はウスタイト（wusutite：FeO）＋ファヤライト（fayalite：$2FeO \cdot SiO_2$）となる。この時の操業温度は FeO － SiO_2 二元系状態図から 1,180℃以上が想定される。次に後工程の低温素延べ工程では鉱物相がファヤライト主体に少量のウスタイトで、推定操業温度は文献値から 800℃前後が考えられる。

一方、寺田遺跡では下げ脱炭に伴う鍛冶原料鉄になり得る鋳造鉄斧(梯形状片)が出土している。鋳鉄片の下げ脱炭処理からの鉱物相はウスタイトが凝集傾向で晶出する。更に化学組成は鉄製品

であり脈石成分の低下が特徴となる。特に注目すべきは酸化マンガン（MnO）で＜0.05%が大きな目安になる。因に韓国の加平大成里遺跡（原三国時代）の鍛冶滓では0.05% MnO[6]、渓沙里遺跡（三国時代）でも0.07% MnO[7]の実績値が得られている。この２遺跡は鍛冶滓と鋳造鉄斧が共伴する鍛冶工房として衆知の遺跡である。751 椀形鍛冶滓の凝集ウスタイトの晶出からその可能性が窺われるが、残念な事に分析値を欠く。畿内の長原遺跡（５世紀前半）の鍛冶滓は下げ脱炭処理の兆候は弱く[8]、川西市所在小戸遺跡（４世紀後半）でも同様である[9]。今後更なる分析調査事例の集積が望まれる。

鍛冶羽口の先端溶融ガラスは、微小マグネタイト（magnetite：Fe_3O_4）の晶出であった。特別高温化現象は現われず、通常使用と評価する。

今回の寺田遺跡の鉄滓で奇異に感じた事は、椀形鍛冶滓の鉄酸化物にもかかわらず、風化浸食が進行していた。ウスタイトの断面硬度値が 450 ～ 500Hv の範囲内に収まるものが、300Hv 台にバラツキを生じ、中には測定不能まで発生した。土壌からの汚染であろうか。埋蔵条件に問題があったのであろう。

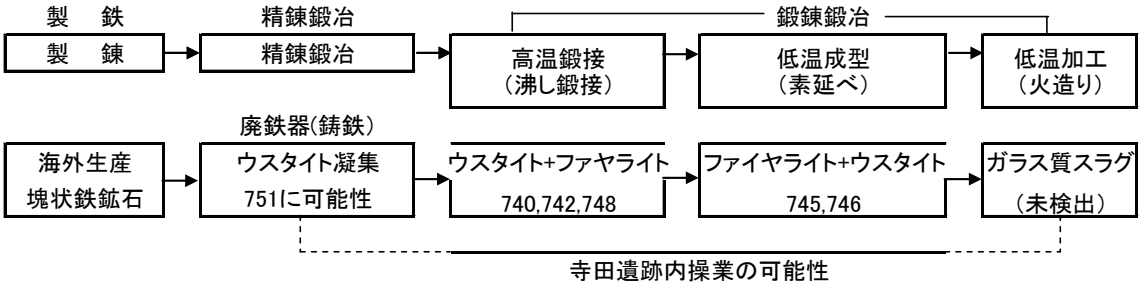


図 88　寺田遺跡鍛冶工程模式図

注

１）磁着度　鉄滓分類用の「標準磁石」を用いて資料との反応単位を１から順に表現したもので、 数値が大きいほど磁性が強い。（歴博報告書第 58・59 集「日本・韓国の鉄製産技術」資料編国立歴史民俗博物館 1994 に準じた）

２）ガラスのビッカース断面硬度：639 ～ 884Hv

日本学術振興会製銑第 54 委員会（1968）

３）日刊工業新聞社『焼結鉱組織写真および識別法』1968.

ウスタイトは 450 ～ 500Hv、マグネタイトは 500 ～ 600Hv、ファイヤライトは 600 ～ 700Hv の範囲が提示されている。また､ウルボスピネルの硬度値範囲の明記がないが､マグネタイトにチタン(Ti)を固溶するので、600Hv 以上であればウルボスピネルと同定している。それにアルミナ（Al）が加わり、ウルボスピネルとヘーシナイトを端成分とする固溶体となると更に硬度値は上昇する。このため 700Hv を超える値では、ウルボスピネルとヘーシナイトの固溶体の可能性が考えられる。

４）ファヤライトの低温安定に関する実験論文と筆者（大澤）はホーロー焼成実験の体験から割り出した推定温度である。

４）－１　Womes.D.R.and Gilbert.M.C(1969) The fayalite－magnetite－quarts assemblage between 600

° and 800℃ American Journal of Seience.Schairer Vol.267 － A.p.480 － 488

水熱反応実験で600° のファヤライト生成を示す。

４）－２　0´Neill. H.Si.C. (1987) Quartz － Fayarite － iron and quartz － fayarite － magnetite equilibria and the frce energy of formation of fayalite (Fe_2SiO_4) and magnetite(Fe_3O_4). American Mineralogist.Vol.72.p.67 － 75.

電気化学反応で1000K(700℃) 前後のファヤライト生成を確認。

４）－３　Roedder.E(1952) A reconnaissance of liguidus relations in the system $K_2O \cdot 2SiO_2$ － FeO － SiO_2.　Amer.Jour.Science.Bowen Volume. P435 － 456

金属鉄と平衡する条件で、800℃までファヤライト生成が「推定」されている。(カリの存在でファヤライトの生成温度が低下する)

５)『鉄鋼便覧』第３版　巻１巻 (1981)　丸善　P48

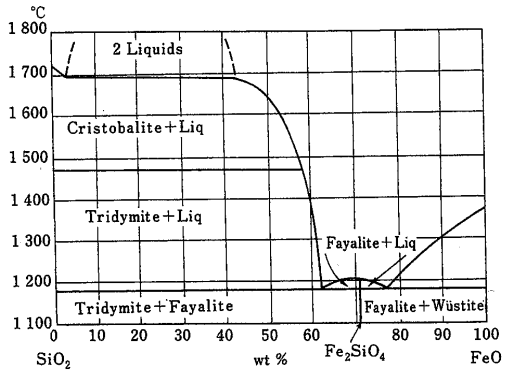


図 4・13　FeO－SiO_2

６）大澤正己　2009「加平大成里遺跡出土鉄関連遺物の金属学的調査」『加平大成里遺跡』－京春線複線電鐵事業區間（第41區）内発掘調査報告書－（学術調査報告　第103冊）京畿文化財団京畿文化財研究院2分冊　261 ～ 304頁和文、 304 ～ 345頁ハングル

７）－１村上恭通　1997「原三国・三国時代における鉄技術の研究」『青丘学術論文集』第11集　韓国文化研究振興財団

７）－２大澤正己　2004「金属組織学からみた日本列島と朝鮮半島の鉄」『国立歴史博物館研究報告』第10集（国際シンポジウム　古代東アジアにおける倭と加那の交流）国立歴史博物館

８）大澤正己　2005「長原遺跡出土鉄滓およびスラグ様遺物の金属学的調査」『長原遺跡発掘調査報告』ⅩⅡ　(財) 大阪市文化財協会

９）大澤正己「小戸遺跡（第６次）出土鉄滓の金属学的調査」提出原稿

表６　供試材の履歴と調査項目

符号	遺跡名	出土位置	遺物No.	遺物名称	推定年代	計測値		磁着度	メタル度	調査項目								備考
						大きさ（mm）	重量（g）			マクロ組織	顕微鏡組織	ﾋﾞｯｶｰｽ断面硬度	X線回折	EPMA	化学分析	耐火度	カロリー	
740	寺田遺跡	1区河川1500		椀形鍛冶滓	4C後半～5C初	97 × 75 × 33	201.0	2	なし		○	○			○			
742						75 × 55 × 35	126.4	3	なし		○	○			○			
745						67 × 72 × 25	96.2	4	△（錆化）		○	○			○			
746						60 × 44 × 20	57.8	2	なし		○	○						
748						57 × 45 × 25	46.2	3	なし		○	○						
751						55 × 32 × 25	59.2	4	△（錆化）		○	○						
766		5区大溝		羽口		長 63 ×径 80	117.2				○	○						
257		土坑1507（竪穴住居1499隣接）		鋳造鉄片		72* × 65 × 10**					○	○						

＊ 残存長　＊＊ 袋側

表７　供試材の組成

符号	遺跡名	出土位置	遺物名称	推定年代	全鉄分（Total Fe）	金属鉄（Metallic Fe）	酸化第1鉄（FeO）	酸化第2鉄（Fe_2O_3）	二酸化珪素（SiO_2）	酸化アルミニウム（Al_2O_3）	酸化カルシウム（CaO）	酸化マグネシウム（MgO）	酸化カリウム（K_2O）	酸化ナトリウム（Na_2O）	酸化マンガン（MnO）	二酸化チタン（TiO_2）	酸化クロム（Cr_2O_3）	硫黄（S）	五酸化燐（P_2O_5）	炭素（C）	バナジウム（V）	銅（Cu）	二酸化ジルコニウム（ZrO_2）	造滓成分	造滓成分Total Fe	TiO_2 Total Fe	注
740	寺田遺跡	1区河川1500	椀形鍛冶滓	4C後半～5C初	41.94	0.09	25.29	31.73	24.56	5.41	0.90	0.53	0.47	0.37	0.20	0.24	0.03	0.007	0.80	0.19	<0.01	0.01	0.01	32.24	0.769	0.006	
742					46.61	0.07	27.16	36.36	18.68	4.72	1.01	0.53	0.26	0.29	0.22	0.18	0.03	0.005	0.85	0.26	<0.01	0.01	<0.01	25.49	0.547	0.004	
745					36.78	0.04	21.63	28.49	28.28	6.58	1.72	0.77	0.70	0.60	0.15	0.26	0.03	0.007	0.84	0.11	<0.01	0.01	0.01	38.65	1.051	0.007	

表８　出土遺物の調査結果のまとめ

符号	遺跡名	出土位置	遺物名称	推定年代	顕微鏡組織	化学組成（%）								所見
						Total Fe	Fe2O3	塩基性成分	TiO2	V	MnO	ガラス質成分	Cu	
740	寺田遺跡	1区河川1500	椀形鍛冶滓	4C後半～5C初	ウスタイト＋ファヤライト、風化浸食顕著	41.94	31.73	1.43	0.24	<0.01	0.20	32.24	0.01	塊状鉄鉱石系高温沸し鍛接鍛錬鍛冶滓
742					ウスタイト＋ファヤライト、風化浸食顕著	46.61	36.36	1.54	0.18	<0.01	0.22	25.49	0.01	塊状鉄鉱石系高温沸し鍛接鍛錬鍛冶滓
745					ファヤライト＋ウスタイト、風化浸食顕著	36.78	28.49	2.49	0.26	<0.01	0.15	38.65	0.01	塊状鉄鉱石系低温成形素延べ鍛錬鍛冶滓
746					ファヤライト＋ウスタイト、風化浸食顕著	－	－	－	－	－	－	－	－	塊状鉄鉱石系低温成形素延べ鍛錬鍛冶滓
748					ウスタイト＋ファヤライト、風化浸食顕著	－	－	－	－	－	－	－	－	塊状鉄鉱石系高温沸し鍛錬鍛冶滓
751					ウスタイト凝集＋ファヤライト、ほぼ正常	－	－	－	－	－	－	－	－	塊状鉄鉱石系精錬鍛冶（下げ）滓の可能性
766		5区大溝	羽口		ガラス中へ少量のマグネタイト晶出、胎土セリサイト	－	－	－	－	－	－	－	－	一般鍛冶羽口鉱物相を晶出
257		土坑1507（竪穴住居1499隣接）	鋳造鉄片		オーステナイト（常温パーライト）、板状セメンタイト、局部黒鉛	－	－	－	－	－	－	－	－	亜共晶組成白鋳鉄（＜4.23% C）

740
椀形鍛冶滓

①実測図
②外観写真
③埋込み試料
④硬度圧痕：1024Hv
⑤⑥表層風化部
⑦⑧平均的組織ウスタイト
⑨⑩凝集ウスタイト
　ウスタイト＋ファヤライト

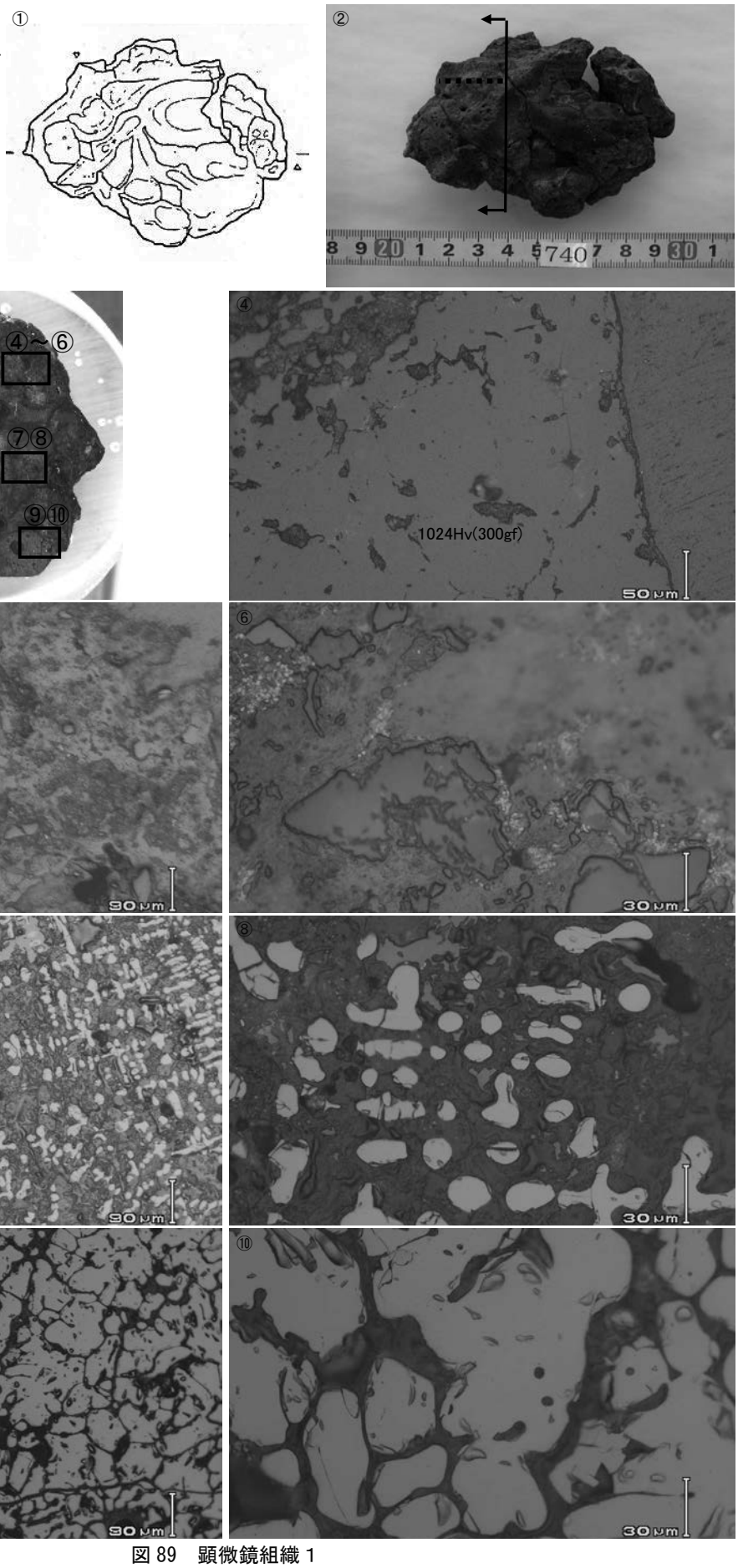


図 89　顕微鏡組織 1

742
椀形鍛冶滓

①実測図
②外観写真
③埋込み試料
④⑤硬度圧痕：339Hv、406Hv
⑥⑦⑧島状ウスタイト
⑨⑩浸食基地
　ウスタイト＋ファヤライト

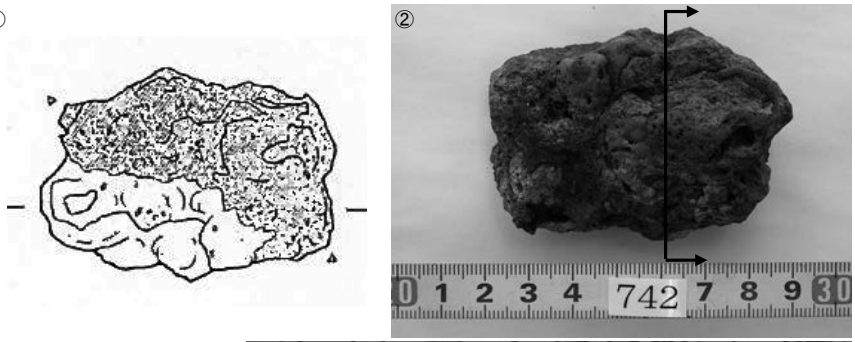


図 90　顕微鏡組織２

745
椀形鍛冶滓

①実測図
②外観写真
③埋込み試料
④硬度圧痕：測定不可
⑤⑥上段、ウスタイト風化浸食
⑦⑧中段、ウスタイト風化侵食
⑨⑩下段（底部）、ウスタイト風化侵食
ウスタイト＋ファヤライト

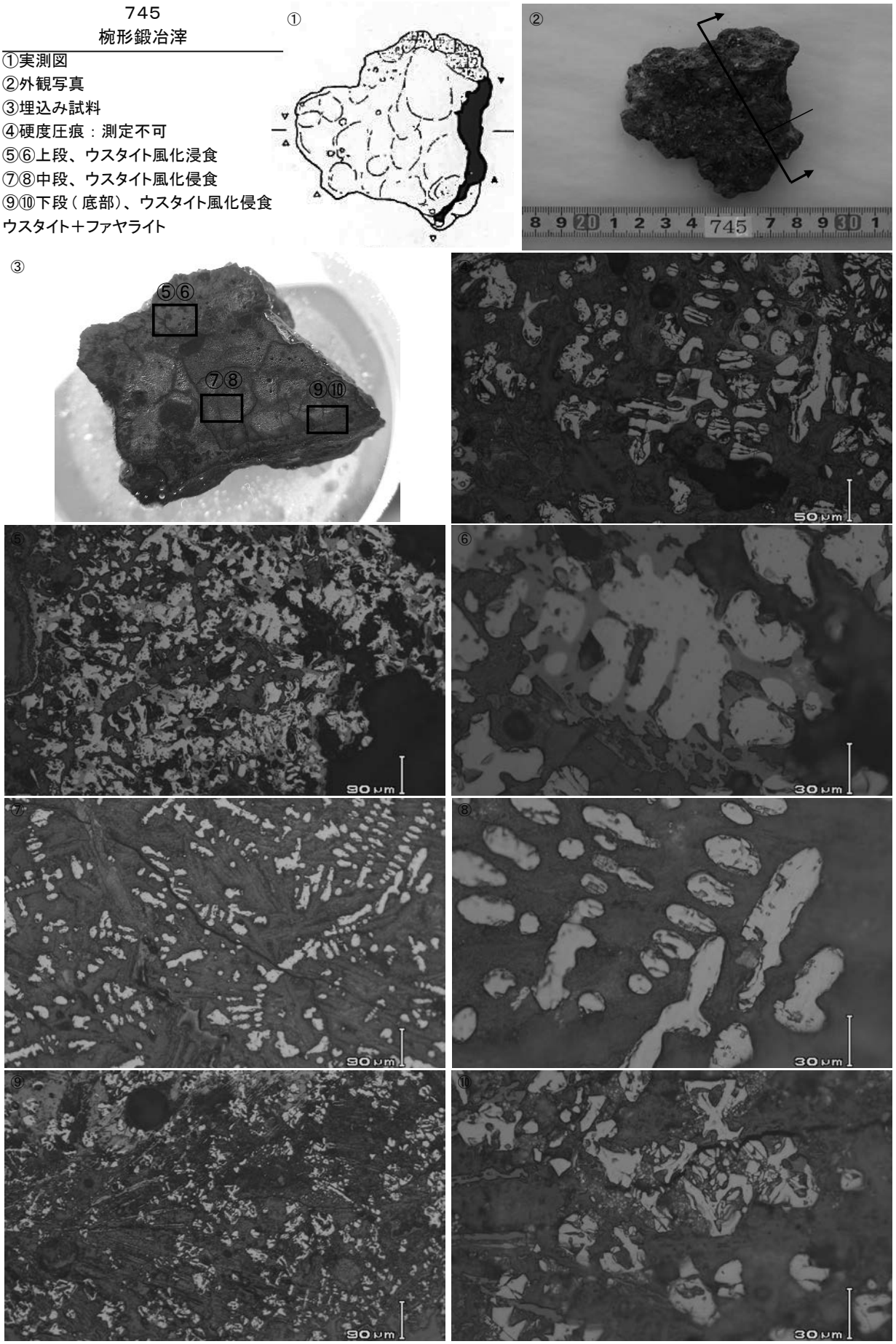


図 91　顕微鏡組織３

746

椀形鍛冶滓

①実測図
②外観写真
③埋込み試料
④硬度圧痕：548Hv
⑤⑥上段
⑦⑧中段
⑨⑩下段
ウスタイト＋ファヤライト

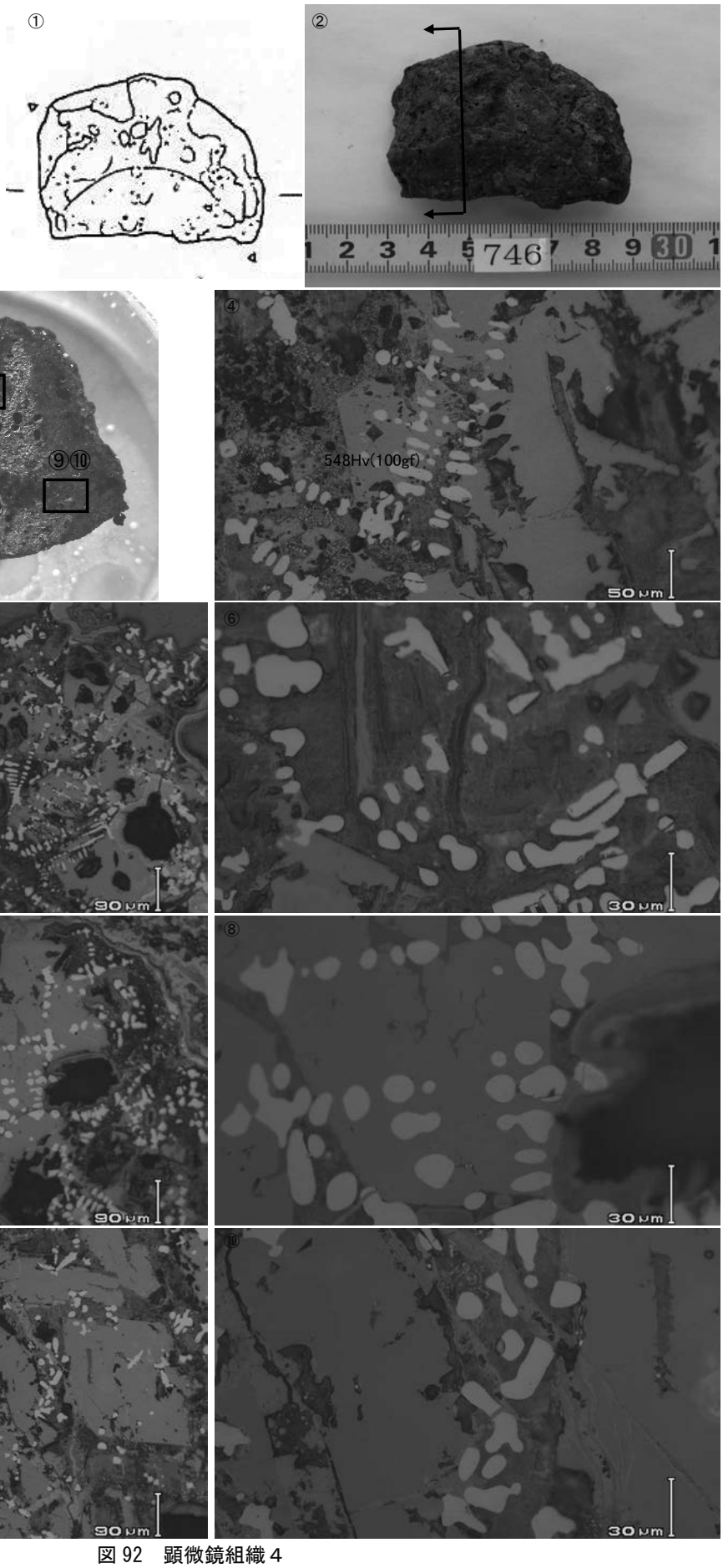


図 92　顕微鏡組織４

748
椀形鍛冶滓

①実測図
②外観写真
③埋込み試料
④硬度圧痕：280Hv
⑤⑥上段
⑦⑧中段ウスタイト浸食風化
⑨⑩下段
　ウスタイト＋ファヤライト

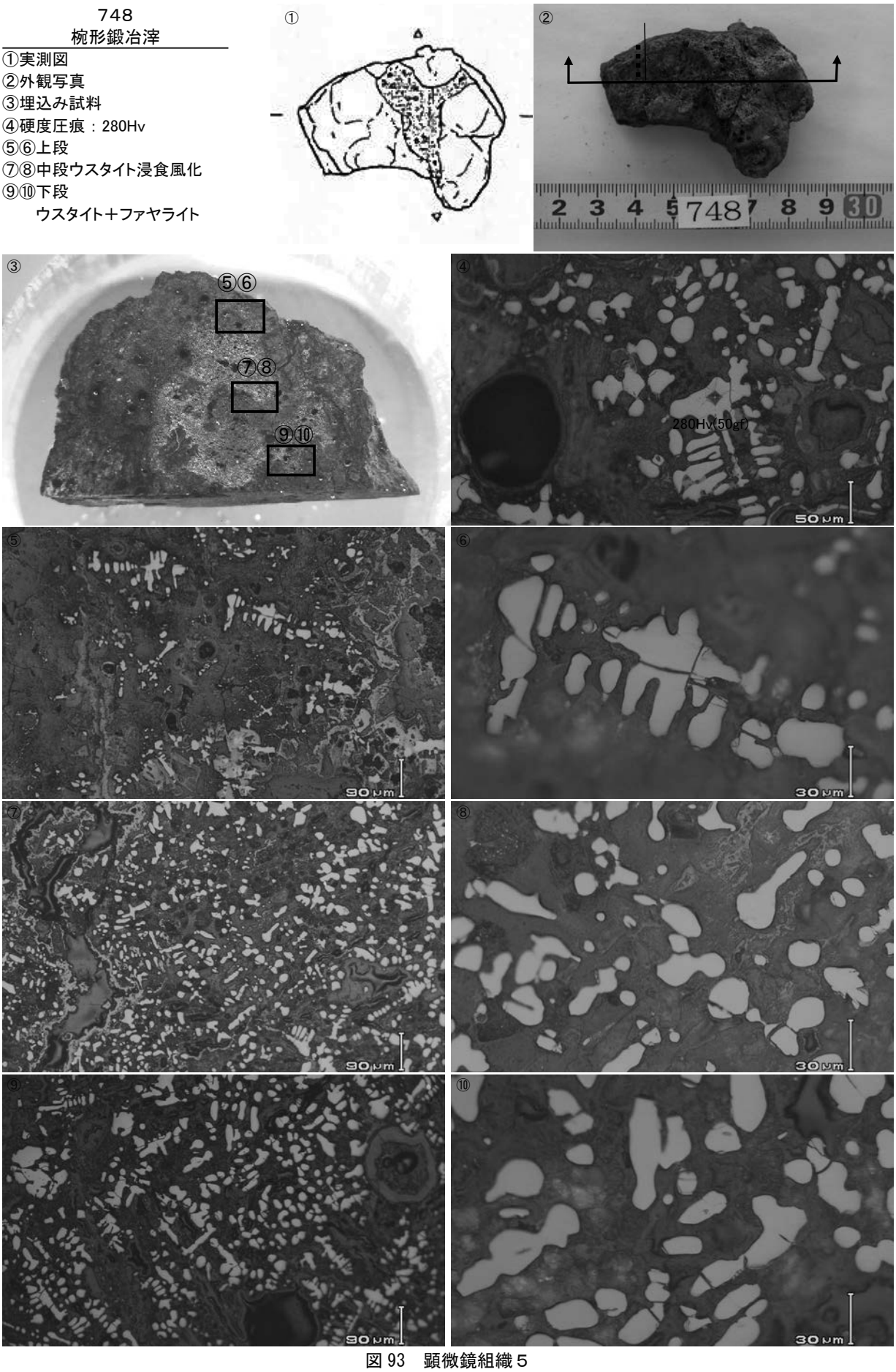


図 93　顕微鏡組織５

751
椀形鍛冶滓

①実測図
②外観写真
③埋込み試料
④硬度圧痕：438Hv
⑤⑥上段
⑦⑧中段
⑨⑩下段
ウスタイト＋ファヤライト

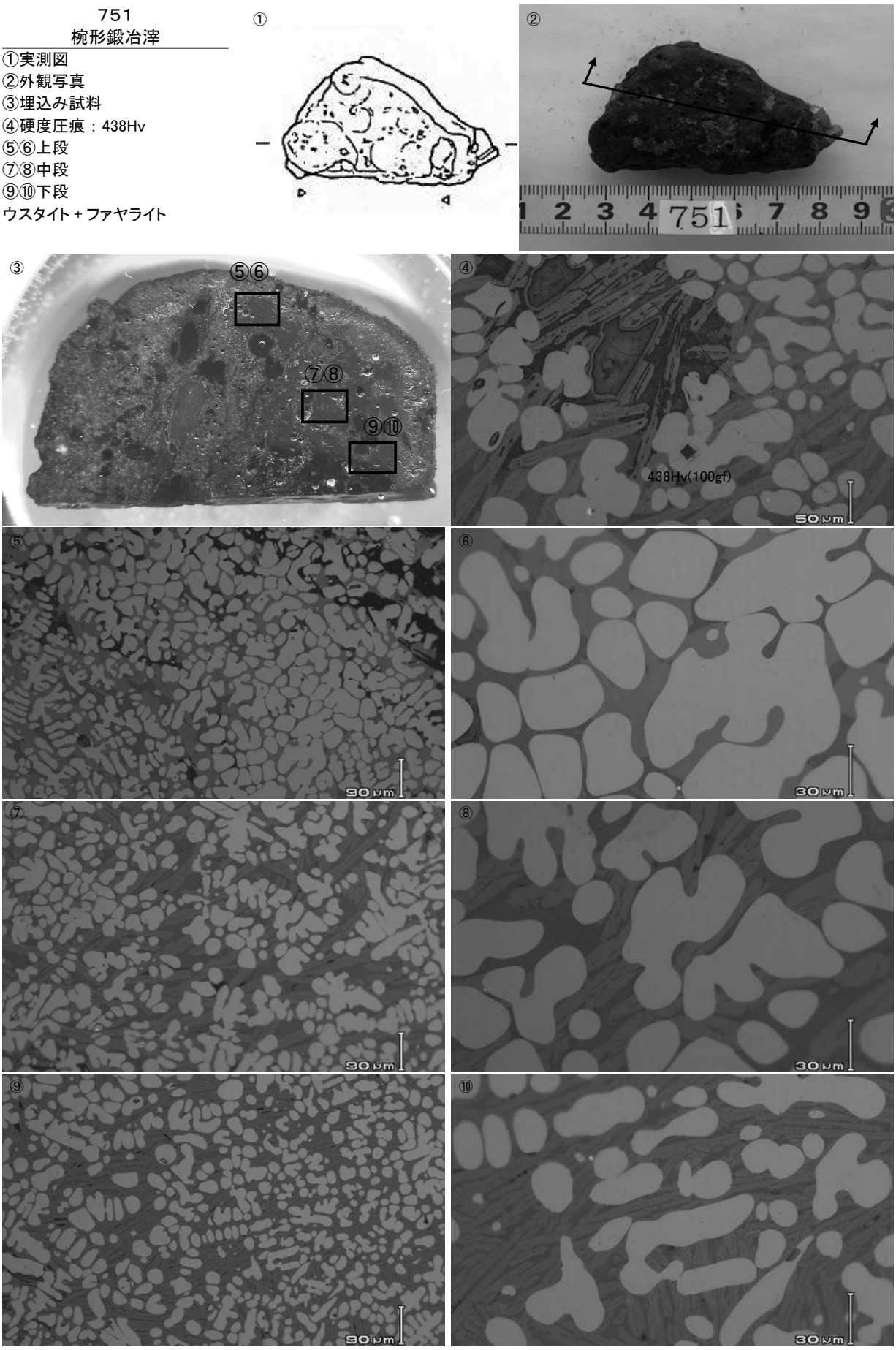


図 94　顕微鏡組織６

766
羽口

①実測図
②外観写真
③埋込み試料
④硬度圧痕：546Hv、571Hv
⑤⑥先端溶融ガラス化
⑦⑧ガラス中のマグネタイト
⑨⑩胎土セリサイト

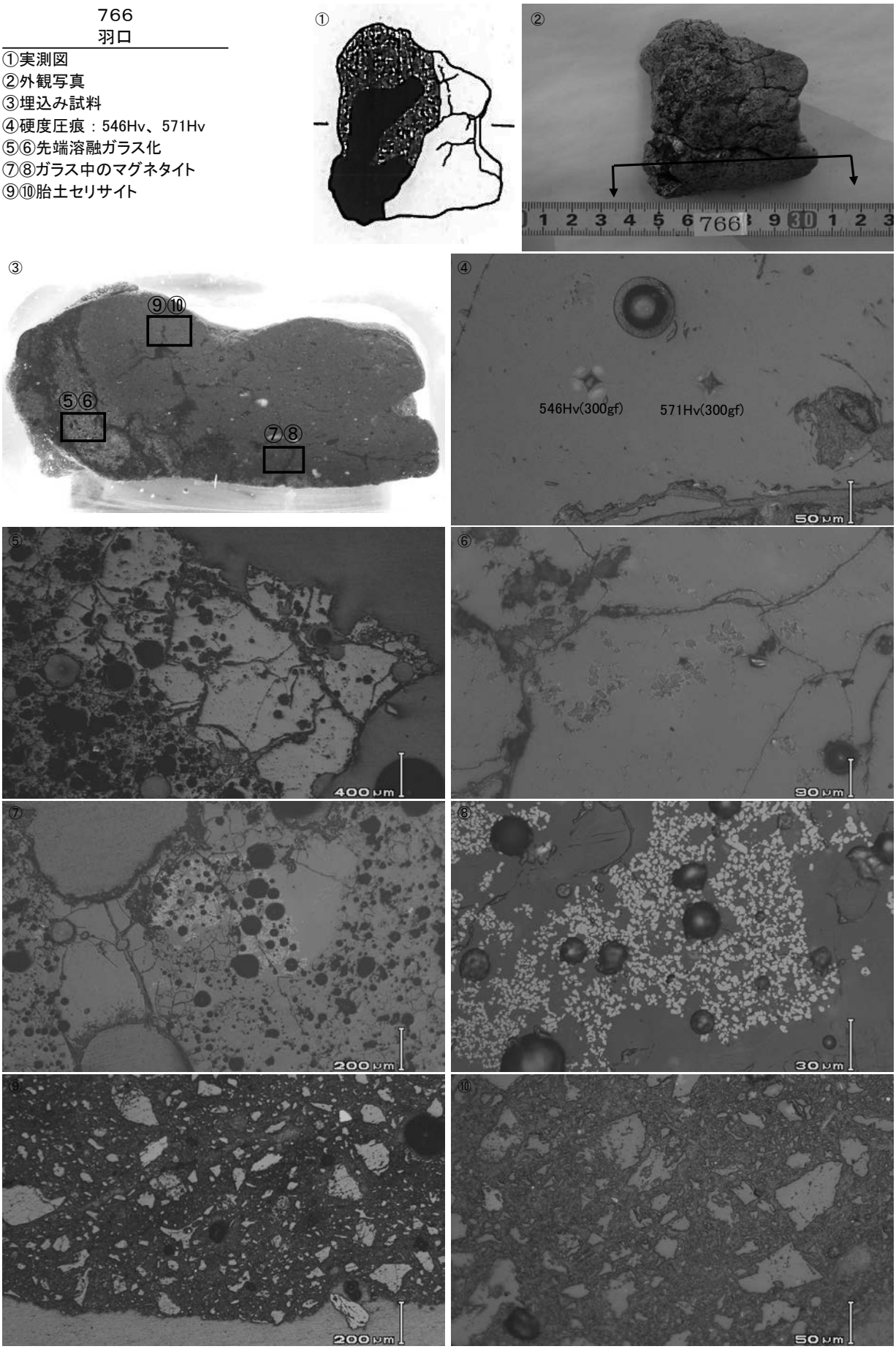
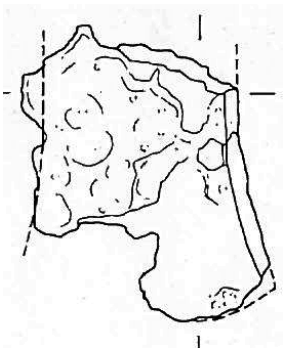
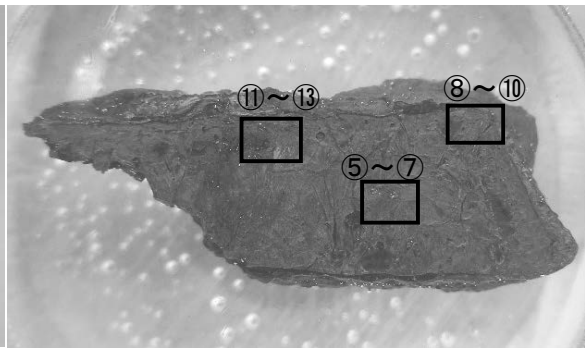


図 95　顕微鏡組織 7

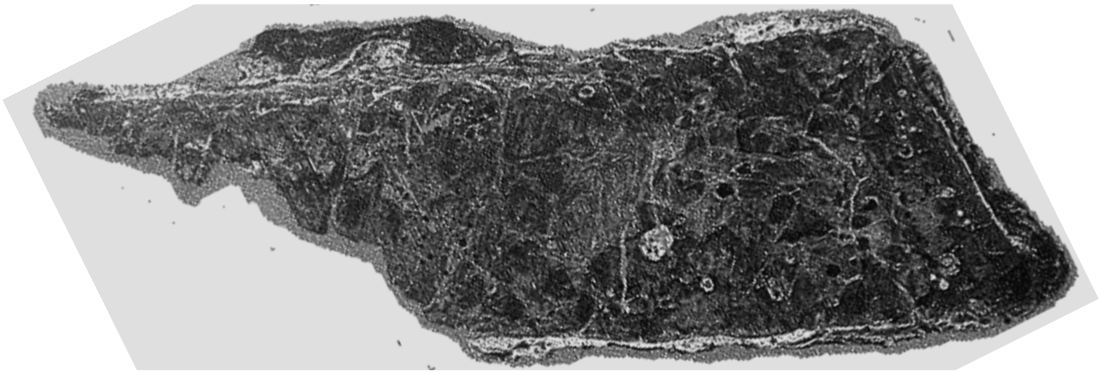


①257　鋳造鉄斧実測図

②外観写真

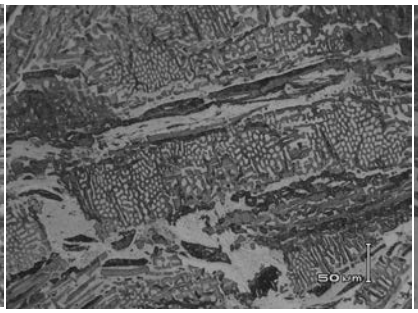


③埋込み試料

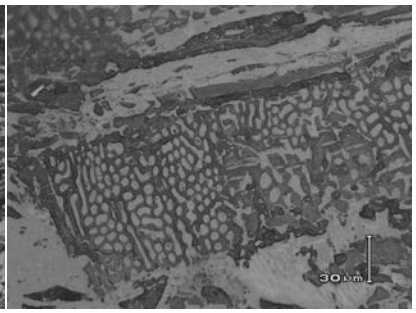


④マクロ組織　×５

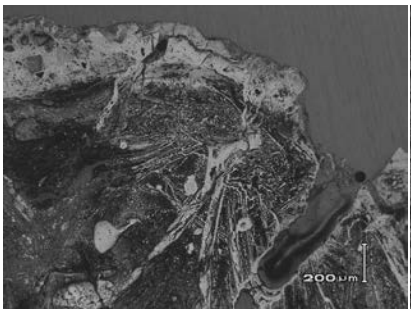
⑤錆化、白鋳鉄レデブライト痕跡



⑥⑤の拡大

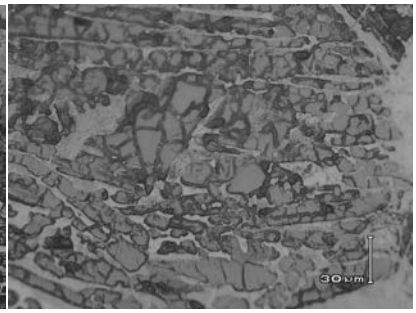


⑦⑥の拡大

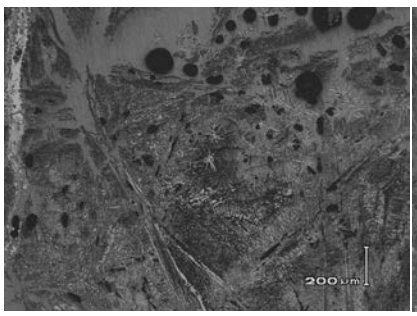


⑧錆化、白鋳鉄レデブライト痕跡

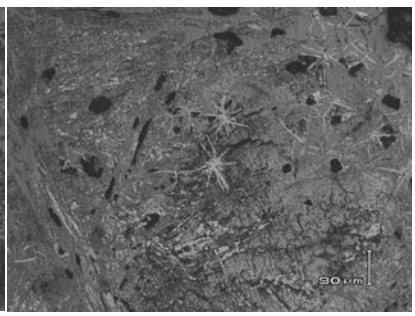
⑨



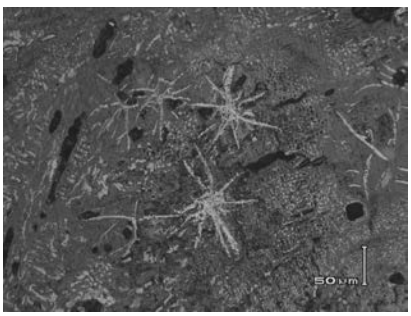
⑩



⑪錆化、バラ状黒鉛痕跡（局部）



⑫⑪の拡大



⑬⑫の拡大

図 96　鋳造鉄斧（257）の顕微鏡組織

第３節　寺田遺跡出土滑石・緑泥石片岩製玉類の産地分析

有限会社　遺物材料研究所　藁科哲男

（１）はじめに

遺跡から出土する臼玉、管玉、円盤などの岩石名の推定は、一般的には肉眼観察で岩石の種類を決定し、それが真実のように思われているのが実態である。玉類の原材料としては滑石、軟玉（角閃石）、硬玉、蛇紋岩、結晶片岩、碧玉、緑色疑灰岩（グリーンタフ）などが推測される。それぞれの岩石の命名定義に従って岩石名を決定するが、非破壊で命名定義を求めるには限度があり、若干の傷を覚悟して硬度、光沢感、比重、結晶性、主成分組成を求めるなどしなければ命名の主定義の結晶構造、屈折率などを正確には求められない。原石名が決定されたのみでは考古学の資料としては不完全で、例えば緑色疑灰岩製管玉と岩石名が決められ、軟らかく加工が容易だと想像できても、実際の硬度、打撃亀裂性などを測定した上で考察しなければ、古代の管玉製作技術に関する資料として無意味である。地学の専門家でも、肉眼観察では、岩石名を間違うことは避けられないと指摘している。岩石名を決定することよりも、どこの産地の原石が使用されているか、産地分析が行われて初めて、考古学に寄与できる資料となり、また産地分析の過程で岩石名決定に関係する情報も得られる。産地分析の結果から原材料産地が特定出来なくても得られた分析値を他の遺跡出土の玉類の分析値と相互比較することにより、同じ組成の材料から作られた玉類の使用圏の情報が得られ、将来、原材料産地の調査が進めばこれら玉類の原材産地は明らかになる。遺跡から出土する玉類の産地分析というのは、玉類の製品が何処の玉造遺跡で加工されたということを調査するのではなくて、何ケ所かある玉類の原産地うち、どこの原産地の原石を使用しているかを明らかにすることである。玉類の原石の産地を明らかにすることは考古学上重要な意味をもっている。例えば糸魚川市でヒスイが発見されるまでは、中国、雲南、ビルマ説が主流であったが、発見後は、専ら国内説が有力となり、岩石学的方法[1)]および貴重な考古遺物を非破壊で産地分析を行った蛍光Ｘ線分析で行う元素比法[2,3)]が報告されている。また、碧玉製管玉の産地分析で系統的な研究として蛍光Ｘ線分析法と電子スピン共鳴法を併用し、産地分析をより正確に行った例[4)]が報告されている。石鏃など石器と玉類の製品はそれぞれ使用目的が異なるため、それぞれの産地分析で得られた結果の意味も異なる。（１）石器の原材産地推定で明らかになる、遺跡から石材原産地までの移動、活動範囲は、石器は生活必需品であるため、生活上必要な生活圏と考えられる。（２）　玉類は古代人が生きるために必ずしもいるものではない。勾玉、管玉は権力の象徴、お祭、御守り、占いの道具、アクセサリーとして、精神的な面に重要な作用を与えると考えられる。従って、玉類の産地分析で、明らかになる玉類の原石の分布範囲は、権力の象徴としての玉類であれば、権力圏を表わしているかもしれない。お祭、御守り、占いの道具であ

れば、同じような習慣を持つ文化圏が考えられる。玉類の原材産地分析によって、石器の分析では得られない貴重な資料を考古学の分野に提供することができる。

今回分析した試料は大阪府和泉市寺田町に位置する寺田遺跡から出土した滑石様・緑泥石片岩様玉類で、表３に示す考古学的検証を終えた 169 個の玉類製品で分析結果が得られたので報告する。

（２）非破壊での産地分析の方法と手段

原産地推定の第一歩として原産地間を区別する人間で言えば指紋のような、その原産地だけにしかないという指標を見つけなければならない。区別するための指紋は鉱物組成の組合わせ、比重の違い、原石に含有されている元素組成の違いなどにより、原産地同士を区別できるものでなければ産地分析はできない。成功するかどうかは、とにかく行ってみなければわからない。原産地同士が指紋でもって区別できたならば、次に遺跡から出土する遺物の指紋と原産地の指紋を比較して、一致しない原産地を消去して一致する原産地の原石が使用されていると判定する。

勾玉、大珠、玉類などは、国宝、重要文化財級のものが多くて、非破壊で産地分析が行なえる方法でなければ発展しない。本分析では、石器の原材産地分析で成功している[4)]非破壊で分析を行なう蛍光Ｘ線法を用いて玉類に含有されている元素を分析する。遺跡から出土した大珠、勾玉、管玉、臼玉など玉類を水洗いして、試料ホルダーに置くだけの、完全な非破壊で産地分析を行った。玉類は蛍光Ｘ線分析法で元素の種類と含有量を求め、試料の形や大きさの違いの影響を打ち消すために分析された元素同士で含有量の比を取り、この元素比の値を原産地を区別する指紋とした。さらにＥＳＲ法の併用により、試料を全く破壊することなく、玉類に含有されている常磁性種を分析し、その信号から滑石、緑泥石片岩、碧玉など産地間を区別する指標を見つけて、産地分析に利用した[5)]。

（３）滑石・緑泥石片岩様製玉類の分析と分類

蛍光Ｘ線分析法による分類と産地分析結果　本分析は、超音波洗浄器で水洗を行うだけの完全な非破壊分析であり、大きな玉類は肉眼で汚染の少ない面を選んで直径約１cm φ以内の部分を行うが分析した玉類は大半が１cm 以内である。出土玉類の分析は風化層を通して遺物の内部の新鮮面をいかに多く測定するかが重要である。蛍光Ｘ線分析法の中の電子線励起方式のＥＰＭＡ分析は表面の分析面積１～数百ミクロンが分析されているが、深さ約１ミクロンの風化層しか分析を行っていないために、得られた結果は原石で求めた新鮮面のマトリックスと全く異なった可能性の高い風化層のみの分析結果になる。従って、非破壊分析された非破壊遺物のＥＰＭＡ測定された産地分析結果は全く信用できない。一方､今回の分析に使用したＸ線励起方式（50 ＫｅＶ）でマトリックスをシリカとしてモデル計算を行うと、表面から、カリウム元素など軽元素で数ミクロンから 10 ミクロン、鉄元素で約 300 ミクロン、ジルコニウムで約 800 ミクロンの深さまで

分析され、鉄元素より重い元素では風化層の影響は相当無視できると思われる。ただし、風化層以外に表面に固着した汚染物が超音波洗浄でも除去できないときはその影響を受ける。風化の影響は避けがたい問題で、蛍光Ｘ線分析法にどれだけ影響しているか不明で、また、玉類の考古学的様式観察も風化・汚染の影響を受けた結果から導かれたものである。分析した玉類はセイコーインスツルメンツ社のＳＥＡ 2110 Ｌシリーズ卓上型蛍光Ｘ線分析計で行った。

滑石・緑泥石片岩様製玉類のエネルギー分散型蛍光Ｘ線分析の蛍光Ｘ線スペクトルを図 97 ～ 110 に示す。分析された元素のピークは、マグネシウム (Mg)、アルミニウム (Al)、珪素 (Si)、カルシウム (Ca)、チタン (Ti)、クロム (Cr)、マンガン (Mn)、鉄 (Fe)、ニッケル (Ni) で、緑泥石片岩には微量にイットリウム (Y)、ジルコニウム (Zr) などが観測できる。これら元素含有量の分析値には、分析遺物の形状の違いによる影響が含まれているために、遺物相互の組成比較は、元素比を取って形の影響を取り除き元素比組成を求め、また比重を求めて表９に示した。表 10 の各産地の滑石・片岩原石で作った原石群および各遺跡から出土した滑石・緑泥石片岩製遺物で作った遺物群と比較し、マハラノビスの距離を求めてホテリングのＴ２乗検定によって同定を行った。結果は昼飯大塚Ｃ遺物群のみに 96 個が、また昼飯大塚ＣとＢ両遺物群に同時に５％以上の確率で同定された遺物は 25 個で、昼飯大塚Ａ群と昼飯大塚Ｂ遺物群のみに各１個が同定され表 11 に示した。何処の原石・遺物群にも一致しなかった玉類は 46 個で、肉眼観察でＣａグループとＣｂグループに分類された遺物を中心に比較的組成の似た、分析番号 113231、113245、113267、113278、113293、113295、113296、113242、113250、113276、113292 番の 11 個の遺物を選び、遺物の分析場所を変えながら統計処理が可能な 40 回以上分析して寺田Ｃａｂ遺物群を作り、表 10 に登録した。ＡグループとＤグループに分類された遺物を中心に比較的組成の似た、分析番号 113297、113361、113362、113363、113365、113367 番の６個の遺物を選び、遺物の分析場所を変えながら統計処理が可能な 40 回以上分析して寺田ＡＤ遺物群を、Ｂグループに分類された遺物を中心に比較的組成の似た、分析番号 113275、11328、113285、113286、113287、113288、113289、113290、113291 番の８個の遺物を選び、遺物の分析場所を変えながら統計処理が可能な 40 回以上分析して寺田Ｂ遺物群を、Ｇグループに分類された遺物を中心に比較的組成の似た、分析番号 113274、113280、113354 番の３個の遺物を選び、遺物の分析場所を変えながら統計処理が可能な 40 回以上分析して寺田Ｇ遺物群を、またグループ分けされていない遺物のなかで、分析番号 113228、113255、113270 番の３個の遺物を選び、遺物の分析場所を変えながら統計処理が可能な 40 回以上分析して寺田３・30・45 遺物群をそれぞれ作った。前述の複数の遺物組み合わせで作った遺物諸群にも一致しない玉類が分析番号 113227、113230、113237、113263、113265、113272、113307、113378、113397、113398 番の 10 個あり、遺物の分析場所を変えながら統計処理が可能な 40 回以上分析して寺田２、５、12、38、40、47、82、153、7-1、7-2 の各遺物群 10 個を作り、表 10 に登録し、将来、他の遺跡で同じ組成の遺物が使用されていたか、また新たに見つかった原石産地の原石に一致するか判定出来るようにした。より産地を正

確に特定するために、蛍光Ｘ線分析法で同定された遺物の結果がＥＳＲ分析の結果と一致するかＥＳＲ分析を行った。

ＥＳＲ分析による分類　ＥＳＲ分析は滑石、緑泥石片岩などの鉱物結晶および共生鉱物に含有されているイオンとか、岩石が自然界からの放射線を受けてできた色中心などの常磁性種を分析し、その信号の違いから産地間を区別する指標を見つけて、産地分析に利用した。ＥＳＲの測定は、完全な非破壊分析で、直径が 11㎜ 以下の玉なら分析は可能で、ＥＳＲ信号の強度が大きい場合は、胡麻粒大の試料で分析ができる場合がある。滑石、緑泥石片岩の代表的なＥＳＲスペクトルとして、昼飯大塚古墳出土遺物のＥＳＲ信号を図 111 に示した。また各産地の滑石・片岩原石の代表的ＥＳＲスペクトル信号を図 112 ～ 113 に示した。

滑石、緑泥石片岩などのＥＳＲ信号は全て基本的には６本から構成されその間隔はＥＳＲ信号のｇ値決定用の標準試料 Mn ２＋に一致していることから、滑石、緑泥石片岩の中の Mg を置換した Mn に関係した信号と推測した。（１）の０mT（ミリテスラー）から 600mT 間のＥＳＲ信号の中で、100mT ～ 200mT の信号は鉄の高スピンの信号と推測され、遺物の中には２本に分裂した信号を示すものも見られた。また 200mT ～ 600mT 間の大波の信号は鉄の低スピンの信号と思われ、この鉄信号に 300mT ～ 400mT 間に Mn イオンの６本が重なる形で分析される。（２）の信号は 240mT ～ 430mT 間を拡張して Mn イオン信号に注目して示した。変成岩では変成度の違いなどで、生成鉱物種も異なり、鉱物ごとに Mn イオンの周り原子との相互作用が異なると推測される。Mn イオンの６本の信号は分裂し超微細構造を示し複雑な形となる（仮に複６形と呼ぶ）。この超微細構造はｇ異方性を示す場合が多く、試料を回転させて分析すると、ＥＳＲ信号が変化するため、信号が異なる事が直ちに遺物玉材の岩石の種類が違うとはいえない。実際に試料を回転させて信号が変化するか否かをを確かめる必要がある。しかし、幅の広い単純な６本（仮に単６形と呼ぶ）の信号を示す遺物は、回転させても、信号の形の変化はない。従って、複６形と単６形は異なった鉱物の可能性が推測され、岩石を区別する指標になると思われる。同じ変成度で同じ鉱物であれば、同じ信号になることは想像できる。分析番号 76965 番で明確に確認できる鉄イオンの信号と思われるれる大波の信号は、多少の差はあるものの全ての滑石、緑泥石片岩に含有されている。分析番号 76945 は鉄信号と小さな単６形の信号が重なり（鉄・単６形）、さらに不明の常磁性種（他イオン）の小さな信号も重なっている。これら代表的な、４個の形のＥＳＲ信号と比較するために、寺田遺跡の分析できたＥＳＲ信号を図 114 ～ 116 に示し、その結果を表 11 に示した。表 11 の中で、単６、複６形など理想化したスペクトルを推測し、同じ鉱物とか結晶が含有されていると推測してのことで、実際の測定スペクトルを重ね合わせてぴったり一致すると言う意味ではない。実際のＥＳＲ信号には、鉄イオンの信号が大きすぎて、Mn イオンの信号が隠れる可能性もあり、また、鉄、Mn イオン以外の信号が重なっていると思われる場合もみられる。蛍光Ｘ線分析法で昼飯大塚Ａ・Ｂ・Ｃ遺物諸群に同定された遺物は単６形が 96.7％で、複複６の可能性も否定出来ない遺物が１点で 0.8％であった。寺田 Cab、Ｂ遺物群を作った遺物では複複６形が 87.5％で単６が

4.2%、鉄イオンの信号のみが２個（8.3%）で、寺田 AD 遺物群は６個全て単６形で、寺田 G 遺物群はが個が単２で、１個は共振条件のＱ値が非常に小さく分析出来なかった。寺田３・30・45 遺物群の３個はＱ値が非常に小さく分析出来なかった。寺田２、５、12、38、47、82、7-2 の各遺物群は単６系で、寺田 153 遺物群は複６の可能性がある。寺田 7-1 遺物群は遺物が大きく分析できなかったが、寺田 7-1 遺物群は鉄信号に重なる単６形と推測した。滑石岩系のＥＳＲスペクトルは複複６形が多く、片岩系は単６形が多い。遺物の判定は蛍光Ｘ線分析法とＥＳＲ分析の両結果が一致した群の可能性があるものとして総合判定を行う。

（４）結　論

片岩・滑石製の臼玉、管玉、円盤などについて蛍光Ｘ線分析法によるホテリングＴ２乗検定を行い、結果を表 11 に示し、これら遺物の各原石・遺物群に同定された頻度を表 12 に示した。今回分析された遺物 169 個の中の 123 個（72.8%）が昼飯大塚古墳の遺物群に同定され、46 個（27.2%）が表 10 の原石・遺物群に一致しなかった。本分析の目的の一つに肉眼観察による岩石の種類分類が蛍光Ｘ線分析法と相対的に一致するかを求めることがある。結果として肉眼でＥ、Ｆ、Ｈのグループに分類された遺物は全て昼飯大塚Ｃ遺物群に同定されており、肉眼観察と蛍光Ｘ線分析法の分類が一致したと言え、肉眼観察では、Ｅ，Ｆ、Ｈと詳細に分類されている。Ｃａグループに分類された遺物の中に昼飯大塚Ｂ、Ｃ遺物群に同定されたものがあり、同定されなかった遺物とＣｂグループは元素比組成が似ていて、両グループをまとめて、寺田Ｃａｂ遺物群をつくった。ＡグループとＤグループの中にも昼飯大塚Ｂ、Ｃ遺物群に同定されるものがあり、同定されなかった両グループの元素比組成は似ていて、これをまとめて寺田ＡＤ遺物群を作った。Ｇグループの遺物の中には昼飯大塚Ｃ遺物群に同定されたものがあり、同定されなかった遺物で寺田Ｇ遺物群を作った。Ｂグループは何処の原石遺物群にも一致せず、このＢグループをまとめて寺田Ｂ遺物群を作った。また、肉眼観察でグループ分け出来なかった遺物（分類外グループ）の中に何処の原石・遺物群にも一致しなかった遺物 13 個のうち組成が相互に似た遺物３個（No.3、30、45）により寺田３・30・45 遺物群を作り、残りの 10 個（No.2、5、12、38、40、47、82、153、7-1、7-2）で、寺田２、５、12、38、40、47、82、153、7-1、7-2 の各遺物群を作った。これら寺田遺跡の遺物群を表 10 に登録し、将来、他の遺跡で同じ組成の遺物が使用されていたか、また新たに見つかった原石産地の原石に一致するか判定出来るようにした。次にこれまでの分析結果に基づき和歌山市秋月遺跡と阪南市亀川遺跡の関係を推測する。表 13 は、2002 年にケベックス社の蛍光Ｘ線分析装置で得た結果と 2012 年にセイコーインスツルメンツ社のＳＥＡ 2110 Ｌで同じ遺物を再分析した結果で、2002 年分析の昼飯大塚１，２群と再測定で作成した昼飯Ａ、Ｂ、Ｃ群の関係を示した。この中で昼飯大塚１遺物群の臼玉の中に亀川２遺物群に同定されるものがあり、この玉が昼飯大塚Ｃ遺物群の臼玉と同じであることから、寺田遺跡で昼飯大塚Ｃ遺物群に同定された臼玉は亀川遺跡の遺物と同じ組成である可能性が推測される。この判定をより確実に

するには、亀川遺跡出土片岩・滑石製遺物を昼飯大塚Ａ、Ｂ、Ｃの各群で判定する必要がある。また、秋月遺跡の臼玉、滑石製紡錘車の分析値を表 10 の原石・遺物群で再同定した結果を表 14 に示す。秋月遺跡の臼玉の中に昼飯大塚Ｃ、Ｂ遺物群に同定されるものがあり、さらに、秋月遺跡の分析番号 108430 番の臼玉と 108409 番の滑石製紡錘車が寺田Ｃａｂ遺物群に同定された。秋月遺跡の滑石製紡錘車は和歌山県船戸鉱山産滑石原石と同定され、寺田Ｃａｂ群が間接的に同鉱山産原石の可能性が推測されるが、今回の寺田遺跡の遺物分析で直接、同鉱山産原石と同定された試料はない。船戸鉱山から、調査した原石以外に組成が少し異なる原石も産出し、これを寺田Ｃａｂ遺物群の玉が使用した可能性が想像される。また寺田遺跡、亀川遺跡、昼飯大塚古墳が昼飯大塚Ｂ、Ｃ遺物群を通して関連性があることを推測した。昼飯大塚Ａ、Ｂ、Ｃ遺物群と現在調査した滑石・片岩と一致した産地は不明である。

産地分析結果から遺物の使用圏を推測するとき、石器、玉類などの産地分析で重要なことは、得られた結果の通用する範囲は比較同定した原石・遺物群の範囲に限られ、また同定結果は判定に使用した元素の組み合わせによっても変わってくるということである。また、判定のときにある元素を判定の指標に入れると、ある原石・遺物群に同定されるが、抜くと同定されないことがある。さらに各方法論ごとに、使用する指標が元素濃度か絶対値か相対値かといった判定基準などが違えば結果も異なる可能性がでてくる。産地分析結果から考古学を推測するときは、同じ方法論で行われた結果で考察する必要がある。産地分析の結果が表 10 の何処の原石・遺物群にも一致しなかったとき、その原石・遺物群の産地、遺跡と関連がないと言うことで、考古学の参考資料となる。本分析では寺田遺跡出土滑石、片岩製遺物に紀ノ川周辺地域の原石が使用されている可能性を推測したが、直接証明することは出来なかった。これらの産地分析の精度をあげるためには、より広い範囲の原石の調査、各遺跡の遺物分析数の増加が必要である。

注

1) 茅原一也 (1964)、長者が原遺跡産のヒスイ（翡翠）について（概報）。長者ケ原、新潟県糸魚川市教育委員会 :63－73

2) 藁科哲男・東村武信 (1987)、ヒスイの産地分析。富山市考古資料館紀要 6:1－18

3) 藁科哲男・東村武信 (1990)、奈良県内遺跡出土のヒスイ製玉類の産地分析。橿原考古学研究所紀要『考古学論攷』, 14:95－109

4) 藁科哲男・東村武信 (1983)、石器原材の産地分析。考古学と自然科学, 16:59－89

5) Tetsuo Warashina(1992)、Alloction of Jasper Archeological Implements By Means of ESR and XRF. Journal of Archaeological Science 19:357-373

6) 東村武信 (1976), 産地推定における統計的手法。考古学と自然科学, 9:77-90

表９　寺田遺跡出土滑石・片岩製玉類の元素比と比重

分析番号	元素比																	重量	比重
	Mg/Si	Al/Si	K/Si	Ca/Si	Ca/Ti	Ca/Fe	Cr/Fe	Cr/Mn	Mn/Ti	10*Ti/Fe	10*Mn/Fe	10*Ni/Fe	10*Y/Fe	10*Zr/Fe	10*Sr/Fe	10*Rb/Fe	Ba/Zr	(gr)	
113226	6.613	0.232	0	0.417	1.04	0.005	0.002	0.16	16.966	0.007	0.113	0	0	0	0	0	0	0.0916	2.964
113227	10.11	0.189	0	0.338	1.954	0.017	0.003	0.563	4.703	0.012	0.055	0.148	0	0	0	0	0	0.0296	2.792
113228	4.342	0.063	0	10.07	11.887	0.347	0.017	4.613	0.907	0.041	0.036	0.103	0.016	0.031	0.04	0	0	0.1225	2.797
113229	8.073	0.18	0	0.624	1.318	0.019	0.005	0.427	6.183	0.021	0.124	0.019	0	0	0.037	0	0	0.2396	2.695
113230	8.511	0.231	0	0.74	0.237	0.018	0.003	0.117	2.072	0.108	0.218	0	0.034	0.715	0.015	0	0	0.355	3.161
113231	3.712	0.017	0.045	0.01	0.08	0.001	0.008	3.694	1.098	0.02	0.021	0.314	0	0	0	0	0	0.1058	2.923
113232	8.118	0.261	0	0.83	0.068	0.009	0	0	0.319	0.186	0.057	0	0.022	0.374	0	0	0	0.0301	2.712
113233	6.781	0.186	0	4.88	0.684	0.077	0.004	0.73	0.358	0.159	0.055	0.017	0.028	0.2	0.01	0	0	0.1096	2.839
113234	8.312	0.214	0	0.409	0.053	0.007	0.003	0.428	0.395	0.188	0.072	0.004	0.019	0.233	0	0	0	0.1009	2.908
113235	8	0.219	0	3.454	0.746	0.057	0.004	0.48	0.793	0.108	0.083	0	0.016	0.132	0.017	0	0	0.1196	2.889
113236	8.974	0.228	0	1.139	0.323	0.027	0.001	0.067	0.703	0.118	0.08	0	0	0.239	0.021	0	0	0.0402	2.892
113237	2.338	0.231	0.105	34.94	4.53	0.822	0.002	0.272	0.324	0.257	0.081	0	0.073	0.431	0.243	0	0	0.0844	3.161
113238	9.297	0.241	0	0.603	0.113	0.014	0.007	0.671	0.623	0.175	0.106	0.021	0.037	0.298	0	0	0	0.0577	2.959
113239	7.511	0.189	0.044	1.917	0.525	0.052	0.003	0.446	0.485	0.14	0.066	0.019	0.044	0.314	0	0	0	0.1105	2.931
113240	8.109	0.191	0	1.371	0.308	0.027	0.003	0.523	0.466	0.123	0.055	0.009	0.012	0.18	0	0	0	0.0479	2.868
113241	8.37	0.203	0	2.555	0.678	0.051	0.004	0.323	1.127	0.107	0.117	0.011	0.037	0.169	0	0	0	0.147	2.994
113242	3.717	0.019	0.059	0.015	0.293	0.002	0.008	2.046	5.345	0.007	0.039	0.439	0	0	0	0	0	0.1253	3.005
113243	9.01	0.223	0	0.758	4.072	0.02	0.002	0.23	12.322	0.007	0.082	0.007	0	0	0.019	0	0	0.0605	2.75
113244	7.941	0.196	0	1.903	0.775	0.037	0.003	0.387	1.274	0.068	0.083	0.015	0.026	0.12	0.02	0	0	0.0656	2.942
113245	4.08	0.032	0.038	0.116	6.839	0.009	0.038	12.37	17.134	0.002	0.03	0.172	0	0	0	0	0	0.1156	2.792
113246	6.615	0.159	0	3.134	0.743	0.064	0.002	0.386	0.427	0.123	0.051	0	0.036	0.141	0.013	0	0	0.0203	2.636
113247	6.351	0.175	0.159	1.826	0.883	0.04	0.002	0.295	0.971	0.064	0.06	0	0.016	0.085	0.011	0	0	0.0645	2.733
113248	6.672	0.187	0.099	2.407	0.5	0.051	0.004	0.446	0.59	0.143	0.082	0.007	0.04	0.27	0	0	0	0.117	2.677
113249	9.188	0.208	0	0.582	0.136	0.013	0.006	0.745	0.643	0.135	0.084	0.016	0.027	0.237	0	0	0	0.0878	2.685
113250	3.549	0.02	0.042	0.052	1.47	0.004	0.021	6.111	8.215	0.004	0.034	0.292	0	0	0	0	0	0.0948	2.788
113251	7.848	0.175	0	0.966	0.887	0.022	0.001	0.203	1.832	0.036	0.064	0.025	0.02	0.057	0.024	0	0	0.0646	2.648
113252	7.917	0.214	0	1.717	0.274	0.034	0	0	0.589	0.176	0.1	0	0.034	0.455	0	0	0	0.081	2.893
113253	9.655	0.223	0	1.265	0.453	0.023	0.002	0.267	1.313	0.071	0.09	0.011	0.016	0.151	0	0	0	0.0799	2.905
113254	7.187	0.159	0	2.988	0.747	0.052	0.002	0.339	0.69	0.099	0.066	0.005	0.024	0.117	0.022	0	0	0.0834	2.699
113255	4.464	0.065	0	10.76	15.64	0.289	0.015	2.651	2.156	0.026	0.055	0.072	0.017	0.012	0.016	0	0	0.1358	2.679
113256	7.335	0.205	0	3.427	0.698	0.059	0.004	0.481	0.73	0.121	0.085	0.003	0.028	0.203	0.009	0	0	0.1051	2.73
113257	9.069	0.203	0	1.707	0.427	0.034	0.003	0.285	0.817	0.113	0.09	0	0.028	0.172	0	0	0	0.1919	2.703
113258	7.293	0.205	0.006	2.599	0.588	0.041	0.004	0.574	0.735	0.1	0.071	0.008	0.022	0.165	0.005	0	23.604	3.7158	2.718
113259	6.145	0.237	0.086	0.875	0.067	0.015	0.001	0.085	0.434	0.321	0.135	0	0.14	1.724	0.008	0	0	0.0664	2.85
113260	5.187	0.283	0	21.44	5.79	0.569	0.002	0.22	0.661	0.139	0.089	0	0.054	0.375	0.836	0	0	0.1294	2.832
113261	7.827	0.23	0	4.817	0.69	0.092	0	0	0.456	0.188	0.083	0.006	0.025	0.163	0	0	0	0.0823	2.707
113262	7.322	0.217	0	4.695	0.585	0.078	0.001	0.104	0.302	0.188	0.055	0	0.054	0.628	0.021	0	0	0.0349	2.705
113263	9.208	0.194	0	1.324	6.792	0.039	0.005	0.331	19.259	0.008	0.153	0.142	0	0.414	0.032	0	0	0.1097	2.669
113264	6.631	0.202	0	4.446	0.944	0.099	0.002	0.296	0.504	0.149	0.072	0.002	0.048	0.731	0.03	0	0	0.1255	2.604
113265	6.156	0.212	1.086	3.909	0.713	0.068	0.003	0.399	0.531	0.135	0.069	0	0.044	0.715	0.036	0	0	0.1824	2.895
113267	3.322	0.04	0.161	0.558	6.669	0.034	0.009	2.433	5.044	0.007	0.035	0.128	0	0.069	0.039	0	0	0.1568	2.708
113268	7.657	0.214	0	0.364	0.049	0.006	0.004	0.462	0.5	0.182	0.088	0.009	0.037	0.17	0.008	0	0	0.0725	2.726
113269	7.306	0.176	0	1.517	3.267	0.042	0.002	0.227	5.749	0.018	0.101	0	0	0	0.05	0	0	0.0736	2.453
113270	4.619	0.062	0	10.21	21.227	0.415	0.017	4.249	1.472	0.028	0.039	0.13	0.009	0.013	0.054	0	0	0.0746	2.618
113271	6.309	0.174	0	3.287	0.759	0.07	0.003	0.397	0.482	0.131	0.061	0.015	0.017	0.19	0	0	0	0.0272	2.747
113272	5.689	0.222	0	6.776	0.8	0.094	0.009	1.206	0.467	0.166	0.075	0.013	0.023	0.086	0.021	0	0	0.0978	2.973
113273	6.501	0.175	0.172	1.728	2.697	0.052	0.001	0.105	3.933	0.027	0.105	0.012	0	0	0.056	0	0	0.1138	2.496
113274	2.397	0.169	2.041	6.357	1.332	0.077	0.002	0.583	0.369	0.082	0.029	0	0.029	0.539	0.069	0.021	29.773	0.6748	2.435
113275	3.167	0.016	0	0.096	1.553	0.009	0.021	5.112	4.694	0.009	0.039	0.355	0	0.028	0	0	0	0.0641	2.775
113276	3.952	0.014	0.03	0	0	0	0.008	2.415	1.382	0.023	0.03	0.301	0	0	0	0	0	0.0876	2.737
113277	9.049	0.255	0	0.389	2.27	0.01	0.016	1.925	14.032	0.006	0.083	0.129	0	0	0	0	0	0.0706	2.715
113278	4.085	0.02	0	0.007	7.758	0.001	0.041	20.903	170.735	0	0.019	0.18	0	0	0	0	0	0.0821	2.755
113279	8.517	0.201	0	2.667	0.586	0.056	0.003	0.528	0.486	0.135	0.063	0.007	0.026	0.229	0	0	0	0.0535	2.73
113280	4.089	0.261	7.557	2.371	0.48	0.067	0.002	0.264	0.315	0.199	0.061	0	0.074	0.386	0.094	0.177	82.061	0.1156	2.813
113281	7.533	0.179	0	4.583	0.717	0.085	0.003	0.382	0.542	0.168	0.088	0.013	0.036	0.213	0.012	0	0	0.1268	2.642
113282	8.84	0.196	0	0.649	0.143	0.013	0.009	1.138	0.645	0.126	0.079	0.031	0.04	0.244	0.01	0	0	0.1333	2.598
113283	8.336	0.22	0	0.477	0.057	0.008	0.004	0.46	0.397	0.197	0.076	0.004	0.025	0.249	0	0	0	0.0649	2.715
113284	7.443	0.184	0	0.779	1.485	0.013	0.03	4.879	4.886	0.012	0.059	0.051	0	0	0	0	0	0.0322	2.661

分析番号	元素比																	重量	比重
	Mg/Si	Al/Si	K/Si	Ca/Si	Ca/Ti	Ca/Fe	Cr/Fe	Cr/Mn	Mn/Ti	10*Ti/Fe	10*Mn/Fe	10*Ni/Fe	10*Y/Fe	10*Zr/Fe	10*Sr/Fe	10*Rb/Fe	Ba/Zr	(gr)	
113285	4.002	0.02	0.042	0	0	0	0.035	10.305	3.677	0.009	0.033	0.421	0	0	0	0	0	0.0363	2.814
113286	4.109	0.022	0.071	0	0	0	0.032	6.977	2.752	0.016	0.044	0.558	0	0	0	0	0	0.0484	2.83
113287	4.094	0.02	0.044	0	0	0	0.036	9.829	3.974	0.009	0.035	0.375	0	0	0	0	0	0.0487	2.767
113288	4.008	0.021	0	0	0	0	0.034	13.82	1.928	0.013	0.024	0.373	0	0	0	0	0	0.0363	2.836
113289	3.988	0.021	0	0	0	0	0.036	17.412	1.653	0.013	0.02	0.315	0	0	0	0	0	0.0517	2.81
113290	4.215	0.026	0.068	0.023	0.179	0.003	0.023	4.895	2.358	0.02	0.045	0.471	0	0	0	0	0	0.0484	2.814
113291	3.783	0.022	0	0.041	1.077	0.004	0.036	11.925	5.414	0.006	0.03	0.525	0	0	0	0	0	0.0513	2.803
113292	3.854	0.019	0.084	0.078	1.864	0.007	0.007	3.864	3.654	0.005	0.018	0.178	0.014	0	0	0	0	0.111	2.727
113293	3.65	0.026	0	0.056	1.315	0.004	0.014	5.464	6.655	0.004	0.024	0.109	0.015	0	0	0	0	0.0908	2.752
113294	6.731	0.187	0.013	3.214	0.992	0.075	0	0	0.881	0.107	0.092	0	0.019	0.276	0.023	0	0	0.0984	2.556
113295	3.896	0.028	0	0.028	0.333	0.002	0.043	11.213	4.505	0.009	0.038	0.212	0	0	0	0	0	0.1193	2.781
113296	3.811	0.026	0.051	0.006	0.065	0.001	0.045	13.699	2.523	0.013	0.032	0.508	0	0	0	0	0	0.1527	2.802
113297	0	0.237	8.403	2.793	0.538	0.096	0.003	0.477	0.26	0.253	0.064	0	0.098	0.564	0.125	0.38	167.65	0.1235	2.813
113298	7.702	0.2	0	4.154	0.813	0.089	0.004	0.346	0.714	0.154	0.107	0.013	0.028	0.286	0	0	0	0.1137	2.701
113299	8.483	0.2	0	3.325	0.619	0.062	0.002	0.387	0.407	0.141	0.055	0	0.028	0.23	0	0	0	0.0359	2.72
113300	4.271	0.02	0	0.036	0.591	0.003	0.04	9.343	5.75	0.007	0.042	0.37	0	0	0	0	0	0.0561	2.791
113301	6.682	0.219	0	1.414	0.281	0.025	0.007	0.823	0.693	0.124	0.083	0.024	0	0.196	0	0	0	0.0484	2.659
113302	6.464	0.214	0	2.837	0.418	0.037	0.003	0.669	0.414	0.124	0.05	0	0.014	0.15	0	0	0	0.0285	2.714
113303	6.534	0.196	0	2.323	0.286	0.032	0.003	0.408	0.485	0.159	0.075	0	0.014	0.163	0.008	0	0	0.0324	2.656
113304	7.519	0.186	0	2.045	0.797	0.04	0.001	0.253	0.813	0.071	0.056	0	0.015	0.114	0	0	0	0.0577	2.611
113305	6.446	0.16	0	2.944	0.592	0.047	0.003	0.545	0.51	0.113	0.056	0.005	0.021	0.117	0.014	0	0	0.0662	2.546
113306	7.313	0.217	0	5.798	0.752	0.108	0.004	0.357	0.484	0.204	0.096	0.005	0.041	0.376	0	0	0	0.0909	2.713
113307	6.675	0.199	0.153	2.664	1.116	0.071	0.003	0.088	3.186	0.089	0.276	0	0.015	0.597	0	0	0	0.0785	2.844
113308	7.731	0.186	0	4.207	0.998	0.1	0.004	0.439	0.667	0.142	0.092	0.009	0.056	0.293	0	0	0	0.0852	2.606
113309	7.079	0.175	0	2.259	0.921	0.043	0.003	0.316	1.258	0.066	0.081	0.003	0.032	0.106	0.022	0	0	0.0573	2.605
113310	7.982	0.206	0	1.962	0.724	0.034	0	0.059	1.041	0.066	0.067	0	0.017	0.151	0	0	0	0.0645	2.699
113311	6.857	0.194	0	0.66	0.088	0.013	0.004	0.481	0.373	0.202	0.073	0.004	0.037	0.26	0	0	0	0.0853	2.682
113312	7.215	0.17	0	2.814	1.02	0.069	0.003	0.415	0.844	0.096	0.078	0.012	0.016	0.164	0.015	0	0	0.074	2.569
113313	7.976	0.194	0	0.657	0.076	0.014	0.004	0.567	0.298	0.261	0.075	0.011	0.036	0.244	0.007	0	0	0.0858	2.648
113314	6.386	0.171	0.094	3.552	0.767	0.075	0.001	0.091	0.633	0.138	0.085	0.004	0.027	0.224	0.051	0	7.663	0.071	2.423
113315	7.063	0.177	0	1.835	0.426	0.033	0.004	0.644	0.557	0.111	0.06	0.007	0.027	0.14	0	0	0	0.0794	2.656
113316	8.84	0.229	0	0.56	0.096	0.01	0.004	0.48	0.552	0.152	0.081	0.021	0.03	0.23	0.01	0	0	0.1556	2.655
113317	7.067	0.153	0	2.132	1.946	0.042	0.002	0.209	2.45	0.031	0.072	0	0.019	0.099	0.025	0	0	0.0939	2.587
113318	7.888	0.19	0	2.141	0.603	0.048	0.005	0.628	0.752	0.114	0.083	0.032	0.043	0.244	0	0	0	0.0902	2.685
113319	9.058	0.2	0	1.256	0.429	0.027	0.004	0.44	0.971	0.089	0.084	0.008	0.014	0.172	0	0	0	0.1065	2.643
113320	6.868	0.172	0	2.264	0.581	0.036	0.003	0.509	0.592	0.087	0.05	0.006	0.016	0.206	0.008	0	0	0.2346	2.621
113322	8.551	0.212	0.061	2.027	0.6	0.046	0.004	0.449	0.838	0.108	0.088	0.004	0.024	0.236	0	0.012	0	2.066	2.703
113323	8.129	0.214	0	1.995	0.305	0.033	0.006	0.809	0.493	0.155	0.074	0.018	0.028	0.201	0	0	0	0.0427	2.686
113324	8.279	0.22	0	1.799	0.633	0.04	0.003	0.211	1.356	0.089	0.117	0.004	0.031	0.196	0	0	0	0.0411	2.704
113325	7.609	0.207	0	2.681	0.574	0.049	0.004	0.311	1.061	0.122	0.125	0.014	0.037	0.206	0	0	0	0.1146	2.665
113326	6.872	0.187	0	3.699	1.616	0.08	0.001	0.287	0.702	0.07	0.048	0	0.03	0.154	0.055	0	0	0.1039	2.637
113327	5.712	0.176	0	5.073	1.009	0.07	0.001	0.277	0.459	0.099	0.044	0	0.03	0.13	0.019	0	0	0.1135	2.539
113328	6.629	0.182	0	4.001	0.758	0.072	0.003	0.517	0.481	0.135	0.063	0.011	0.04	0.273	0.023	0	0	0.1292	2.653
113329	6.826	0.195	0	2.676	0.807	0.052	0.002	0.297	0.674	0.091	0.059	0	0.035	0.209	0	0	0	0.1091	2.674
113330	6.858	0.193	0	4.893	0.793	0.081	0.002	0.333	0.337	0.144	0.047	0	0.033	0.225	0.017	0	0	0.1187	2.667
113331	6.953	0.184	0	2.632	0.613	0.05	0.003	0.444	0.515	0.115	0.057	0	0.021	0.109	0	0	0	0.027	2.647
113332	6.41	0.177	0	3.935	1.144	0.086	0.001	0.096	0.713	0.107	0.074	0	0	0.207	0.036	0	0	0.022	2.558
113333	6.195	0.198	0	3.221	0.637	0.058	0.003	0.427	0.593	0.129	0.074	0.011	0.015	0.119	0	0	0	0.057	2.664
113334	7.519	0.216	0	4.443	0.471	0.088	0.003	0.317	0.329	0.263	0.084	0	0.044	0.374	0	0	0	0.0535	2.744
113335	7.265	0.222	0	2.953	0.611	0.051	0.001	0.154	0.559	0.118	0.064	0.001	0.031	0.262	0.027	0	0	0.1138	2.716
113336	8.087	0.203	0	1.752	1.844	0.043	0.001	0.108	2.57	0.033	0.082	0.001	0.006	0.127	0.033	0	0	0.132	2.651
113337	6.917	0.239	0.146	4.944	0.697	0.084	0.004	0.448	0.463	0.171	0.077	0.006	0.07	0.36	0.059	0	1.119	0.1158	2.784
113338	8.298	0.217	0	2.372	0.476	0.054	0.003	0.359	0.486	0.16	0.075	0.007	0.019	0.378	0.012	0	0	0.073	2.655
113339	6.982	0.203	0	2.896	0.768	0.059	0	0.06	0.736	0.109	0.078	0	0.028	0.318	0	0	0	0.0881	2.711
113340	7.836	0.213	0	1.967	0.658	0.048	0.003	0.38	0.861	0.102	0.085	0.001	0.027	0.224	0	0	0	0.0902	2.725
113341	7.904	0.212	0	2.705	0.811	0.058	0.001	0.147	0.73	0.101	0.072	0	0.031	0.242	0.019	0	0	0.0719	2.663
113342	7.335	0.218	0	2.959	0.49	0.051	0.002	0.209	0.519	0.146	0.074	0	0.015	0.192	0.011	0	0	0.0836	2.688
113343	3.919	0.021	0	0	0	0	0.027	5.544	3.292	0.015	0.047	0.371	0	0	0	0	0	0.051	2.802
113344	3.966	0.017	0	0	0	0	0.016	4.244	4.453	0.009	0.037	0.321	0	0	0	0	0	0.0661	2.801

分析番号	元素比																	重量	比重
	Mg/Si	Al/Si	K/Si	Ca/Si	Ca/Ti	Ca/Fe	Cr/Fe	Cr/Mn	Mn/Ti	10*Ti/Fe	10*Mn/Fe	10*Ni/Fe	10*Y/Fe	10*Zr/Fe	10*Sr/Fe	10*Rb/Fe	Ba/Zr	(gr)	
113345	8.204	0.204	0	0.907	0.91	0.022	0.003	0.393	2.231	0.033	0.072	0.009	0	0.083	0.017	0	0	0.0593	2.636
113346	6.187	0.155	0	2.404	0.384	0.047	0.003	0.711	0.28	0.172	0.047	0.018	0.015	0.172	0.028	0	0	0.0211	2.512
113347	4.071	0.014	0	0	0	0	0.034	8.266	2.056	0.02	0.04	0.17	0	0	0	0	0	0.1344	2.771
113348	7.043	0.199	0	1.406	2.706	0.024	0.001	0.087	5.496	0.013	0.067	0	0	0.084	0.029	0	0	0.0453	2.696
113349	8.666	0.21	0	1.708	0.49	0.035	0	0.036	0.764	0.102	0.076	0.007	0.017	0.189	0.009	0	0	0.0755	2.696
113350	9.681	0.274	0	0.513	1.88	0.014	0.003	0.286	9.253	0.01	0.092	0.009	0	0	0	0	0	0.0609	2.719
113351	7.397	0.191	0.031	1.282	0.195	0.022	0.004	0.502	0.471	0.16	0.073	0.013	0.021	0.151	0.01	0	0	0.0818	2.639
113352	7.536	0.173	0	2.189	1.566	0.052	0.002	0.267	1.552	0.047	0.071	0	0.01	0.071	0.025	0	0	0.0431	2.565
113353	6.941	0.211	0	1.082	0.238	0.017	0.001	0.148	0.691	0.101	0.067	0	0.041	0.3	0.018	0	0	0.0612	2.627
113354	7.977	0.248	1.958	2.349	0.781	0.064	0.002	0.134	1.19	0.116	0.134	0	0.058	0.924	0.123	0.434	4.859	0.0413	2.772
113355	6.997	0.211	0	6.429	0.728	0.109	0.003	0.361	0.379	0.213	0.078	0.002	0.04	0.241	0	0	0	0.0459	2.749
113356	8.941	0.23	0	1.978	0.686	0.041	0.003	0.336	1.2	0.084	0.098	0.01	0.022	0.293	0.013	0	0	0.1034	2.75
113357	7.817	0.221	0	3.326	0.868	0.071	0.001	0.063	0.749	0.115	0.084	0	0.026	0.153	0	0	0	0.072	2.707
113358	9.383	0.24	0	3.021	0.732	0.069	0.003	0.319	0.744	0.134	0.097	0.007	0.045	0.334	0	0	0	0.1103	2.751
113359	7.58	0.206	0	5.058	0.622	0.085	0.003	0.474	0.345	0.193	0.064	0	0.048	0.306	0	0	0	0.1295	2.738
113360	8.6	0.161	0	1.213	12.022	0.03	0.031	5.151	16.889	0.004	0.058	0.143	0	0	0.027	0	0	0.044	2.651
113361	0.916	0.239	14.05	2.28	0.749	0.215	0	0	0.236	0.406	0.093	0	0.221	3.108	0.637	5.951	15.691	0.0888	2.893
113362	0.301	0.248	13.5	2.356	0.651	0.161	0.002	0.2	0.28	0.349	0.095	0	0.212	2.32	0.759	3.355	12.906	0.1118	2.896
113363	0.188	0.253	12.84	1.949	1.276	0.129	0.004	0.42	0.74	0.143	0.103	0	0.117	1.083	1.389	3.633	24.689	0.0931	2.865
113364	8.827	0.247	0	2.912	0.749	0.081	0.002	0.225	0.634	0.153	0.094	0.002	0.092	1.755	0	0	0	0.142	2.741
113365	1.585	0.248	10.47	6.857	1.029	0.309	0	0	0.233	0.426	0.096	0	0.261	3.945	3.71	1.93	5.055	0.111	2.906
113366	7.871	0.216	0	4.114	0.965	0.092	0	0	0.7	0.135	0.091	0	0.037	0.319	0	0	0	0.0851	2.79
113367	1.021	0.241	13.25	2.079	0.716	0.186	0.004	0.387	0.293	0.367	0.104	0.005	0.181	2.35	1.072	4.697	14.034	0.1107	2.86
113368	5.661	0.198	0	6.074	0.727	0.094	0.003	0.345	0.439	0.183	0.078	0	0.058	0.382	0	0	0	0.1223	2.761
113369	6.977	0.221	0	3.952	0.629	0.056	0.004	0.548	0.572	0.126	0.07	0.002	0.028	0.109	0	0	0	0.0569	2.671
113370	7.208	0.211	0	6.236	0.688	0.099	0.003	0.465	0.283	0.203	0.056	0	0.052	0.175	0	0	0	0.0548	2.754
113371	7.257	0.204	0	6.784	0.634	0.108	0.002	0.317	0.228	0.241	0.053	0	0.055	0.106	0	0	0	0.0375	2.841
113372	7.653	0.192	0	3.265	0.412	0.064	0.003	0.464	0.292	0.22	0.062	0.03	0.031	0.268	0.015	0	0	0.0361	2.714
113373	7.541	0.184	0	4.131	0.682	0.093	0.002	0.329	0.361	0.193	0.067	0	0.036	0.329	0.021	0	0	0.0308	2.655
113374	8.16	0.188	0.031	2.647	0.952	0.062	0.001	0.132	0.786	0.092	0.07	0	0.029	0.837	0.016	0	0	0.0315	2.625
113375	7.372	0.189	0	2.748	0.329	0.049	0.003	0.521	0.273	0.209	0.055	0.007	0.031	0.263	0.017	0	0	0.0349	2.624
113376	4.012	0.016	0.031	0	0	0	0.029	4.902	5.584	0.011	0.057	0.5	0	0	0	0	0	0.0642	2.816
113377	7.348	0.21	0	6.444	0.731	0.109	0.002	0.234	0.438	0.211	0.089	0	0.041	0.413	0	0	0	0.0404	2.73
113378	0.2	0.307	13.7	0.235	0.143	0.015	0	0	0.354	0.146	0.05	0	0.083	0.962	0.066	3.567	10.647	0.0359	3.068
113379	9.663	0.262	0	0.468	0.124	0.009	0.001	0.105	0.902	0.108	0.094	0	0.132	1.023	0	0	0	0.054	2.727
113381	8.966	0.213	0	3.902	0.662	0.081	0.003	0.328	0.516	0.174	0.087	0	0.034	0.211	0	0	0	0.0825	2.741
113382	7.556	0.188	0	6.279	0.928	0.132	0.003	0.349	0.385	0.201	0.075	0.004	0.037	0.347	0.018	0	0	0.0662	2.724
113383	8.551	0.256	0.06	1.264	0.739	0.023	0.002	0.135	3.845	0.044	0.162	0	0.031	0.409	0	0	0	0.0598	2.808
113384	9.237	0.247	0	2.724	0.567	0.053	0.006	0.528	0.795	0.133	0.102	0.046	0.026	0.292	0	0	0	0.0862	2.719
113385	7.088	0.183	0	2.601	0.464	0.044	0.004	0.557	0.573	0.134	0.074	0.008	0.018	0.196	0.02	0	0	0.0897	2.662
113386	7.572	0.236	0	0.657	0.068	0.009	0.002	0.284	0.388	0.18	0.068	0	0.028	0.197	0	0	0	0.0859	2.701
113387	9.466	0.23	0	3.064	0.711	0.065	0.004	0.373	0.792	0.13	0.099	0.012	0.035	0.284	0.013	0	0	0.0856	2.744
113388	7.842	0.196	0	2.176	1.542	0.062	0	0.009	2.102	0.057	0.115	0.007	0.029	0.175	0	0	0	0.1031	2.664
113389	8.731	0.246	0	2.319	0.201	0.033	0.001	0.121	0.408	0.229	0.091	0	0.023	0.292	0.012	0	0	0.1382	2.694
113391	9.15	0.218	0	3.586	0.52	0.075	0.004	0.433	0.477	0.205	0.095	0.007	0.063	0.498	0	0	0	0.0421	2.716
113392	6.989	0.188	0	1.43	0.241	0.029	0.004	0.566	0.38	0.171	0.063	0.01	0.031	0.173	0.015	0	0	0.0472	2.565
113393	7.622	0.18	0.044	2.925	0.845	0.063	0.002	0.335	0.571	0.106	0.058	0.015	0.027	0.218	0.014	0	0	0.05	2.66
113394	8.87	0.245	0	2.116	0.56	0.053	0.006	0.484	0.932	0.133	0.12	0.022	0.039	0.318	0	0	0	0.0478	2.685
113395	9.341	0.218	0	0.47	0.101	0.011	0.006	0.643	0.624	0.152	0.092	0.045	0.044	0.29	0	0	0	0.0825	2.644
113396	6.463	0.167	0	6.227	1.042	0.117	0.001	0.292	0.216	0.158	0.033	0	0.039	0.294	0.028	0	0	0.0331	2.606
113397	8.206	0.256	0	3.665	0.883	0.054	0.01	1.702	0.69	0.087	0.058	0.018	0.02	0.065	0.026	0	0	0.5669	3.073
113398	7.478	0.208	1.028	0.795	0.304	0.016	0.004	0.575	0.915	0.073	0.065	0.046	0.012	1.35	0.01	0	0	0.1614	2.967
GJ-1	0.229	0.092	3.604	2.312	5.554	0.826	0.014	1.126	0.604	0.211	0.123	0.003	0.469	2.759	3.205	8.511	6.736		
比重測定システムによる比重 2.55 のガラス標準試料分析値																		0.2595	2.567

JG-1：標準試料 -Ando,A.,Kurasawa,H.,Ohmori,T.& Takeda,E. 1974 compilation of data on the GJS geochemical reference samples JG-1 granodiorite and JB-1 basalt. Geochemical Journal, Vol.8 175-192 (1974)

表 10　各産地における滑石、片岩原石群及び遺物群の元素比の平均値と標準偏差値

原石群名	分析個数	Mg／Si Xav±σ	Al／Si Xav±σ	K／Si Xav±σ	Ca／Si Xav±σ	Ca／Ti Xav±σ	Ca／Fe Xav±σ	Cr／Fe Xav±σ	Cr／Mn Xav±σ	Mn／Ti Xav±σ
筑豊・古屋敷	48	4.193 ± 0.076	0.019 ± 0.002	0.050 ± 0.021				0.032 ± 0.013	5.721 ± 2.578	2.258 ± 1.151
養父・満福寺境内	45	4.079 ± 0.092	0.025 ± 0.002	0.060 ± 0.009				0.039 ± 0.006	12.429 ± 1.646	1.487 ± 0.121
養父・聖長鉱山	42	4.133 ± 0.128	0.022 ± 0.003	0.067 ± 0.016				0.041 ± 0.017	12.361 ± 3.694	1.435 ± 0.188
桃山・石筆山	42	4.209 ± 0.092	0.018 ± 0.002	0.047 ± 0.019				0.036 ± 0.010	7.937 ± 2.493	2.295 ± 0.396
桃山・金神	42	3.935 ± 0.082	0.019 ± 0.003	0.068 ± 0.012				0.028 ± 0.013	4.118 ± 1.600	2.756 ± 0.625
和歌山・船戸鉱山	54	4.045 ± 0.092	0.029 ± 0.003	0.033 ± 0.015				0.032 ± 0.006	6.305 ± 1.036	2.222 ± 0.528
桃山・三和	45	4.086 ± 0.224	0.031 ± 0.013	0.043 ± 0.023				0.025 ± 0.005	4.237 ± 1.057	3.469 ± 0.420
紀の川・寺山古墳鉱床	45	4.439 ± 0.136	0.041 ± 0.004	0.031 ± 0.022				0.029 ± 0.003	4.794 ± 0.810	2.345 ± 0.396
和歌山・下三毛	49	3.904 ± 0.076	0.019 ± 0.001	0.033 ± 0.018				0.035 ± 0.020	7.389 ± 2.530	2.479 ± 0.484
中ノ宮	45	4.160 ± 0.319	0.021 ± 0.009	0.056 ± 0.023				0.042 ± 0.007	5.360 ± 1.158	3.164 ± 0.563
埼玉・波久礼	45	4.136 ± 0.118	0.029 ± 0.004	0.052 ± 0.014				0.035 ± 0.006	6.106 ± 0.897	3.374 ± 0.629
埼玉・神流川上流	49	3.227 ± 0.708	0.275 ± 0.006	6.700 ± 2.494	4.884 ± 2.452				0.377 ± 0.124	
茨城・白羽	46	2.160 ± 0.258	0.245 ± 0.006	0.750 ± 0.133	20.695 ± 1.765	15.128 ± 4.234			0.405 ± 0.105	
養父・関宮	44	4.260 ± 0.061	0.018 ± 0.001	0.078 ± 0.007				0.036 ± 0.010	5.332 ± 1.221	1.815 ± 0.257
沼島アミダバエ	48	4.151 ± 0.087	0.029 ± 0.013	0.056 ± 0.012				0.034 ± 0.004	6.055 ± 0.548	2.764 ± 0.888
桃山・亀和本流	48	4.247 ± 0.158	0.032 ± 0.009	0.019 ± 0.006				0.041 ± 0.008	6.286 ± 0.652	4.284 ± 0.704
和歌山・上三毛	48	4.126 ± 0.067	0.024 ± 0.002	0.055 ± 0.015				0.035 ± 0.005	6.271 ± 0.857	2.436 ± 0.223
紀の川・最初ヶ峰	45	4.240 ± 0.120	0.023 ± 0.003	0.028 ± 0.006				0.033 ± 0.009	7.193 ± 1.630	1.878 ± 0.638
養父・聖長鉱山（益富）	44	1.611 ± 0.300	0.020 ± 0.001	0.081 ± 0.007				0.044 ± 0.012	9.282 ± 1.847	3.428 ± 1.077
養父・満福寺露頭	48	4.135 ± 0.097	0.018 ± 0.001	0.072 ± 0.010				0.038 ± 0.006	11.543 ± 2.426	1.251 ± 0.200
和歌山・岩橋千塚 C 地点	44	4.554 ± 0.474	0.252 ± 0.007		15.394 ± 4.862	1.727 ± 0.874				0.221 ± 0.056
和歌山・岩橋千塚 AB 地点	101	1.085 ± 0.174	0.111 ± 0.009		16.465 ± 3.047	5.545 ± 2.311				0.235 ± 0.067
和歌山・岡山丁	44	1.848 ± 0.248	0.131 ± 0.009		16.117 ± 1.724	0.427 ± 0.076				0.427 ± 0.076
和歌山・雑賀崎 -1	52	0.590 ± 0.145	0.177 ± 0.043	8.295 ± 2.391					0.778 ± 0.364	0.369 ± 0.087
和歌山・雑賀崎 -2	52	0.337 ± 0.073	0.111 ± 0.015	3.526 ± 1.185					1.943 ± 0.605	0.316 ± 0.058
葛城・三谷 -1	47	0.190 ± 0.075	0.119 ± 0.011	4.622 ± 1.014		1.569 ± 0.151				
葛城・三谷 -2	52	0.984 ± 0.110	0.137 ± 0.007	7.762 ± 0.466		3.398 ± 0.397				
紀の川・荒見	50	0.226 ± 0.082	0.049 ± 0.023	1.202 ± 0.768		0.618 ± 0.139				
橋本・上田	48	1.086 ± 0.199	0.133 ± 0.013	1.573 ± 0.766		6.434 ± 2.515				
橋本・学文路	50	1.519 ± 0.473	0.155 ± 0.024	1.182 ± 1.527		4.408 ± 1.672				
鞆渕八幡神社	50	0.652 ± 0.329	0.075 ± 0.019		11.635 ± 2.680	5.710 ± 2.254				0.299 ± 0.080
橋本・竜門山	50	1.196 ± 0.121	0.115 ± 0.010		15.878 ± 2.350	3.653 ± 0.909				0.193 ± 0.049
徳島・眉山	54	0.945 ± 0.194	0.104 ± 0.017		16.940 ± 4.061	5.054 ± 2.475				0.269 ± 0.194
眉山落合谷（摂理直行）	46	0.842 ± 0.110	0.113 ± 0.008		16.131 ± 3.108	4.363 ± 1.392				0.199 ± 0.044
眉山落合谷（摂理平行）	46	1.224 ± 0.281	0.911 ± 0.023		12.405 ± 4.791	5.304 ± 3.059				0.515 ± 0.507
眉山鮎喰川	54	0.976 ± 0.392	0.132 ± 0.020		17.852 ± 4.210	6.123 ± 2.057				0.240 ± 0.054
眉山大谷	50	1.254 ± 0.544	0.120 ± 0.021		14.786 ± 3.102	6.414 ± 5.677				0.290 ± 0.091
眉山蛇谷	48	0.550 ± 0.601	0.111 ± 0.029		15.708 ± 3.362	7.088 ± 1.488				0.360 ± 0.050
眉山鈴江谷	44	1.120 ± 0.369	0.124 ± 0.018		17.974 ± 2.426	5.535 ± 2.289				0.275 ± 0.087
徳島・高越山・川田川	48	1.110 ± 0.391	0.108 ± 0.021		14.639 ± 3.557	4.200 ± 1.664				0.241 ± 0.123
沼島西海岸	48	1.230 ± 0.177	0.120 ± 0.016		13.176 ± 3.090	5.516 ± 1.775				0.311 ± 0.144
秋月片岩A遺物群	45	9.505 ± 0.336	0.248 ± 0.005		0.693 ± 0.120	1.115 ± 0.147		0.009 ± 0.004	0.965 ± 0.469	
平塚・塚越 12 遺物群	44	6.235 ± 0.137	0.226 ± 0.004	0.175 ± 0.028	2.907 ± 0.408	0.606 ± 0.154			0.341 ± 0.074	
大蔭 H-1 遺物群	43	0.517 ± 0.070	0.115 ± 0.014		0.861 ± 0.146	1.328 ± 0.071			0.341 ± 0.074	0.447 ± 0.060
岡田西河内67遺物群	45	3.523 ± 0.108	0.046 ± 0.001		0.121 ± 0.020		0.013 ± 0.003	0.038 ± 0.015	9.342 ± 3.180	
昼飯大塚A遺物群	50	8.135 ± 0.827	0.060 ± 0.066	0.145 ± 0.143				0.019 ± 0.014	2.165 ± 1.727	
昼飯大塚B遺物群	48	9.709 ± 0.544	0.238 ± 0.022	0.013 ± 0.040				0.014 ± 0.007	1.455 ± 0.804	
昼飯大塚C遺物群	48	7.567 ± 1.231	0.235 ± 0.068	0.018 ± 0.050				0.002 ± 0.004	0.280 ± 0.405	
寺田 Cab 遺物群	44	3.840 ± 0.2587	0.024 ± 0.007	0.051 ± 0.043				0.006 ± 0.009	7.015 ± 5.299	
寺田 B 遺物群	46	3.915 ± 0.345	0.021 ± 0.003	0.033 ± 0.029				0.030 ± 0.006	9.810 ± 4.022	
寺田 AD 遺物群	48	0.722 ± 0.532	0.244 ± 0.006		0.822 ± 0.219	0.822 ± 0.219				0.331 ± 0.130
寺田 G 遺物群	45	4.660 ± 2.125	0.230 ± 0.039		3.773 ± 2.146	0.832 ± 0.372				0.616 ± 0.372
寺田 3・30・45 遺物群	45	4.472 ± 0.210	0.063 ± 0.002	0.003 ± 0.007				0.017 ± 0.002	3.804 ± 0.698	
寺田 2 遺物群	49	7.508 ± 0.361	0.209 ± 0.002		0.820 ± 0.011		0.016 ± 0.002	0.004 ± 0.001	0.493 ± 0.072	
寺田 5 遺物群	49	8.785 ± 0.206	0.229 ± 0.002		0.844 ± 0.080	0.290 ± 0.035				2.206 ± 0.367
寺田 12 遺物群	49	2.266 ± 0.213	0.231 ± 0.003		37.044 ± 2.108	5.054 ± 0.903				0.336 ± 0.022
寺田 38 遺物群	49	8.899 ± 0.284	0.197 ± 0.003		1.383 ± 0.111	9.255 ± 3.603				25.175 ± 7.962
寺田 40 遺物群	49	6.209 ± 0.201	0.213 ± 0.002	0.997 ± 0.055	3.903 ± 0.120				0.381 ± 0.020	0.549 ± 0.027
寺田 47 遺物群	49	5.685 ± 0.183	0.222 ± 0.002		6.383 ± 0.328	0.774 ± 0.022			1.085 ± 0.129	0.467 ± 0.011
寺田 82 遺物群	45	6.467 ± 0.400	0.197 ± 0.004	0.107 ± 0.060	3.008 ± 0.333	1.271 ± 0.121				3.215 ± 0.506
寺田 153 遺物群	45	0.967 ± 0.551	0.304 ± 0.003	13.681 ± 0.397	0.223 ± 0.063	0.130 ± 0.039				0.395 ± 0.070
寺田 7-1 遺物群	45	7.658 ± 0.864	0.239 ± 0.030		2.813 ± 0.701	0.969 ± 0.215			1.176 ± 0.795	1.728 ± 1.194
寺田 7-2 遺物群	45	7.508 ± 0.361	0.209 ± 0.002	0.806 ± 0.338	0.820 ± 0.112				0.493 ± 0.072	0.665 ± 0.313
JG-1	33	0.229 ± 0.036	0.092 ± 0.001	3.604 ± 0.016	2.312 ± 0.010	5.554 ± 0.092	0.826 ± 0.004	0.014 ± 0.001	1.126 ± 0.042	0.604 ± 0.017

原石 群名	分析 個数	10*Ti ／ Fe Xav± σ	10*Mn ／Fe Xav± σ	10* Ni／Fe Xav± σ	10*Y ／Fe Xav± σ	10* Zr／Fe Xav± σ	10*S r／Fe Xav± σ	ESR信号形	比　重
筑豊・古屋敷	48		0.058 ± 0.015	0.400 ± 0.069				複複6形	2.804
養父・満福寺境内	45		0.031 ± 0.003	0.354 ± 0.012				鉄、複6形	2.806
養父・聖長鉱山	42		0.032 ± 0.008	0.391 ± 0.029				複複6形	2.814
桃山・石筆山	42		0.046 ± 0.008	0.327 ± 0.028				複複6形	2.815
桃山・金神	42		0.065 ± 0.012	0.349 ± 0.054				複複6形	2.823
和歌山・船戸鉱山	54		0.050 ± 0.006	0.217 ± 0.030				複複6形	2.798
桃山・三和	45		0.058 ± 0.007	0.176 ± 0.029				複複6形	2.831
紀の川・寺山古墳鉱床	45		0.060 ± 0.008	0.291 ± 0.025				複複6形	2.767
和歌山・下三毛	49		0.045 ± 0.012	0.152 ± 0.025				鉄、複6形	2.816
中ノ宮	45		0.079 ± 0.018	0.574 ± 0.144				複複6形	2.835
埼玉・波久礼	45		0.055 ± 0.003	0.322 ± 0.029				複複6形	2.831
埼玉・神流川上流	49		0.058 ± 0.004			0.180 ± 0.072	0.058 ± 0.027	上加世田形	2.937
茨城・白羽	46		0.045 ± 0.003			0.110 ± 0.017	1.696 ± 0.313	鉄、単6形？	2.988
養父・関宮	44		0.066 ± 0.010	0.699 ± 0.057				複複6形	2.782
沼島アミダバエ	48		0.055 ± 0.005	0.230 ± 0.017				複複6形	2.796
桃山・亀和本流	48		0.062 ± 0.006	0.250 ± 0.017				複複6形	2.830
和歌山・上三毛	48		0.055 ± 0.006	0.139 ± 0.024				鉄イオン	2.777
紀の川・最初ヶ峰	45		0.045 ± 0.008	0.224 ± 0.024				複複6形	2.775
養父・聖長鉱山（益富）	44		0.045 ± 0.006	0.370 ± 0.033				単6形	2.797
養父・満福寺露頭	48		0.033 ± 0.008	0.503 ± 0.049				鉄、複6形	2.791
和歌山・岩橋千塚 C 地点	44				0.035 ± 0.009	0.281 ± 0.063	0.255 ± 0.100	鉄、単6形？	2.900
和歌山・岩橋千塚 AB 地点	101				0.067 ± 0.012	0.389 ± 0.063	0.241 ± 0.083	鉄、単6形	2.993
和歌山・岡山丁	44				0.065 ± 0.009	0.406 ± 0.047	0.887 ± 0.133	複単6形	2.938
和歌山・雑賀崎 -1	52				0.360 ± 0.073	2.997 ± 0.632	0.154 ± 0.059	単6形	2.655
和歌山・雑賀崎 -2	52				0.190 ± 0.065	4.798 ± 1.148	0.234 ± 0.092	単6形	2.587
葛城・三谷 -1	47		0.202 ± 0.036		0.641 ± 0.082	25.515 ± 2.679	3.770 ± 0.584	鉄イオン	2.681
葛城・三谷 -2	52		0.062 ± 0.008		0.062 ± 0.007	1.050 ± 0.069	2.383 ± 0.319	鉄、単6形	2.971
紀の川・荒見	50		0.278 ± 0.042		0.156 ± 0.061	1.113 ± 0.276	0.483 ± 0.155	鉄、単6形？	2.707
橋本・上田	48		0.052 ± 0.005		0.076 ± 0.011	1.052 ± 0.152	0.583 ± 0.136	複複6形	2.922
橋本・学文路	50		0.056 ± 0.004		0.062 ± 0.011	0.791 ± 0.167	0.669 ± 0.378	複複6形	2.948
鞆渕八幡神社	50				0.069 ± 0.010	0.368 ± 0.071	0.336 ± 0.135	複単6形	3.000
橋本・竜門山	50				0.068 ± 0.011	0.408 ± 0.059	0.214 ± 0.047	鉄・単6形	3.027
徳島・眉山	54				0.069 ± 0.025	0.470 ± 0.272	0.184 ± 0.063	単6形	3.169
眉山落合谷（摂理直行）	46				0.077 ± 0.020	0.558 ± 0.182	0.211 ± 0.091	鉄・単6形	3.153 ± 0.038
眉山落合谷（摂理平行）	46				0.040 ± 0.024	0.253 ± 0.171	0.131 ± 0.072	鉄・単6形	3.153 ± 0.038
眉山鮎喰川	54				0.061 ± 0.014	0.419 ± 0.070	0.506 ± 0.267	鉄・単6形	3.009 ± 0.031
眉山大谷	50				0.061 ± 0.013	0.375 ± 0.092	0.257 ± 0.107	鉄・単6形	2.986 ± 0.065
眉山蛇谷	48				0.053 ± 0.007	0.297 ± 0.064	0.244 ± 0.058	鉄・単6形	2.966 ± 0.069
眉山鈴江谷	44				0.066 ± 0.018	0.389 ± 0.104	0.183 ± 0.065	鉄・単6形	3.043 ± 0.042
徳島・高越山・川田川	48				0.079 ± 0.034	0.510 ± 0.268	0.190 ± 0.060	鉄・単6形	3.161 ± 0.048
沼島西北岸	48				0.059 ± 0.016	0.376 ± 0.097	0.161 ± 0.058	鉄・単6形	3.003 ± 0.031
秋月片岩A遺物群	45		0.088 ± 0.005	0.054 ± 0.011				単6形	2.723
平塚・塚越 12 遺物群	44		0.061 ± 0.003			0.831 ± 0.094		単6形	2.742
大蔭 H-1 遺物群	43				0.077 ± 0.014	1.521 ± 0.065	1.453 ± 0.111	崩単6形	2.601
岡田西河内67遺物群	45		0.038 ± 0.006	0.358 ± 0.108				複複6形	2.778
昼飯大塚A遺物群	50		0.092 ± 0.021	0.416 ± 0.166				単6形	2.6 ～ 2.8
昼飯大塚B遺物群	48		0.095 ± 0.013	0.085 ± 0.050				単6形	2.6 ～ 2.8
昼飯大塚C遺物群	48		0.068 ± 0.032	0.008 ± 0.031				単6形	2.6 ～ 2.8
寺田 Cab 遺物群	44		0.032 ± 0.012	0.259 ± 0.128				複複6	2.796 ± 0.089
寺田 B 遺物群	46		0.033 ± 0.010	0.428 ± 0.077				鉄、複複6	2.806 ± 0.023
寺田 AD 遺物群	46				0.182 ± 0.059	2.156 ± 0.991	1.257 ± 1.044	単6	2.872 ± 0.031
寺田 G 遺物群	45				0.056 ± 0.020	0.575 ± 0.236	.091 ± 0.024	単6	2.673 ± 0.169
寺田 3・30・45 遺物群	45		0.044 ± 0.005	0.108 ± 0.028				Q なし	2.698 ± 0.074
寺田 2 遺物群	45		0.070 ± 0.007	0.046 ± 0.002				単6	2.792
寺田 5 遺物群	49				0.037 ± 0.008	0.705 ± 0.095	0.013 ± 0.007	単6	3.161
寺田 12 遺物群	49				0.076 ± 0.006	0.422 ± 0.008	0.249 ± 0.014	鉄・単6	3.161
寺田 38 遺物群	49			0.137 ± 0.018		0.386 ± 0.029	0.036 ± 0.009	単6	2.669
寺田 40 遺物群	49	0.132 ± 0.005				0.665 ± 0.040		不明	2.895
寺田 47 遺物群	49	0.165 ± 0.002				0.106 ± 0.020		崩れ単6	2.973
寺田 82 遺物群	45		0.267 ± 0.019			0.667 ± 0.072		単6	2.844
寺田 153 遺物群	45	0.136 ± 0.012				0.929 ± 0.059		複6？	3.068
寺田 7-1 遺物群	45		0.130 ± 0.099			0.260 ± 0.298		遺物過大	3.073
寺田 7-2 遺物群	45	0.155 ± 0.098				1.331 ± 0.039		鉄・単6	2.967
JG-1	33	0.211 ± 0.003	0.123 ± 0.004	0.003 ± 0.004	0.469 ± 0.019	2.759 ± 0.036	3.205 ± 0.039		

Xav：平均値、 σ：標準偏差値、10*Mn/Fe：Mn/Fe 比値を10倍（桁上げ処理）

山岡 邦章氏（岸和田市教育委員会）提供原石：古屋敷、満福寺境内、聖長鉱山、石筆山、金神、船戸鉱山、三和、寺山古墳鉱床、下三毛、中ノ宮、波久礼、神流上流、白羽、関宮、沼島アミダバエ、亀和本流、上三毛、最初ヶ峰、聖長鉱山（益富）、満福寺露頭

中原 知之氏（紀伊風土記の丘）提供：岩橋千塚A・B・C地点、岡山丁、雑賀崎 -1、-2、、三谷 -1・-2、荒見、上田、学文路、鞆渕八幡神社、竜門山

中村 豊（徳島大学）提供：眉山

秋月片岩A遺物群：秋月遺跡（和歌山市）、塚瀬 12 遺物群：平塚市塚瀬古墳 のそれぞれの玉類で作った群。

JG-1：標準試料 -Ando,A.,Kurasawa,H.,Ohmori,T.& Takeda,E. 1974 compilation of data on the GJS geochemical reference samples JG-1 granodiorite and JB-1 basalt. Geochemical Journal, Vol.8 175-192 (1974)

表 11　寺田遺跡出土滑石・片岩製玉類の産地分析結果

No.	形態	肉眼分類グループ	分析番号	ホテリングのT2検定結果（%）	ESR信号波形	総合判定	比重
1	臼玉未成品		113226	昼飯大塚C遺物 (54%)	単6	昼飯大塚C遺物	2.964
2	臼玉製品		113227	寺田 2 遺物群 (81%)	単6	寺田 2 遺物群	2.792
3	臼玉未成品		113228	寺田 3・30・45 遺物群 (75%)	Q無し	寺田 3・30・45 遺物群	2.797
4	管玉		113229	昼飯大塚C遺物群 (0.3%)	鉄・単6	昼飯大塚C遺物	2.695
5	管玉		113230	寺田 5 遺物群 (52%)	単6	寺田 5 遺物群	3.161
6	臼玉製品	Ca	113231	寺田 Cab 遺物群 (93%), 寺田 B 遺物群 (0.5%)	複複6	寺田 Cab 遺物群	2.923
7	臼玉製品		113232	昼飯大塚C遺物群 (97%)	単6	昼飯大塚C遺物	2.712
8	臼玉製品		113233	昼飯大塚C遺物群 (33%)	単6	昼飯大塚C遺物	2.839
9	臼玉製品		113234	昼飯大塚C遺物群 (83%), 昼飯大塚 B 遺物群 (3%)	単6	昼飯大塚C遺物	2.908
10	臼玉製品		113235	昼飯大塚C遺物群 (37%), 昼飯大塚 B 遺物群 (3%)	単6	昼飯大塚C遺物	2.889
11	臼玉製品		113236	昼飯大塚C遺物群 (61%), 昼飯大塚 B 遺物群 (9%)	単6	昼飯大塚C・B遺物	2.892
12	臼玉製品		113237	寺田 12 遺物群 (63%)	鉄・単6	寺田 12 遺物群	3.161
13	臼玉製品		113238	昼飯大塚 B 遺物群 (66%), 昼飯大塚 C 遺物群 (1%)	単6	昼飯大塚C遺物	2.959
14	臼玉製品	G	113239	昼飯大塚C遺物群 (94%), 昼飯大塚 B 遺物群 (0.9%)	単6	昼飯大塚C遺物	2.931
15	臼玉製品		113240	昼飯大塚C遺物群 (71%), 昼飯大塚 B 遺物群 (0.2%)	単6	昼飯大塚C遺物	2.868
16	臼玉製品		113241	昼飯大塚C遺物群 (5%)	単6	昼飯大塚C遺物	2.994
17	臼玉製品	Cb	113242	寺田 Cab 遺物群 (69%), 寺田 B 遺物群 (8%)	複複6	寺田 Cab 遺物群	3.005
18	臼玉製品		113243	昼飯大塚C遺物群 (58%), 昼飯大塚 B 遺物群 (32%)	単6	昼飯大塚C・B遺物	2.75
19	臼玉製品		113244	昼飯大塚C遺物群 (73%), 昼飯大塚 B 遺物群 (6%)	単6	昼飯大塚C・B遺物	2.942
20	臼玉製品	Ca	113245	寺田 Cab 遺物群 (89%)	複複6	寺田 Cab 遺物群	2.792
21	臼玉製品	E	113246	昼飯大塚C遺物群 (90%)	単6	昼飯大塚C遺物	2.636
22	臼玉製品	F	113247	昼飯大塚C遺物群 (12%)	単6	昼飯大塚C遺物	2.733
23	臼玉製品	G	113248	昼飯大塚C遺物群 (36%)	単6	昼飯大塚C遺物	2.677
24	臼玉製品		113249	昼飯大塚 B 遺物群 (81%), 昼飯大塚 C 遺物群 (7%)	単6	昼飯大塚B・C遺物	2.685
25	臼玉製品	Cb	113250	寺田 Cab 遺物群 (71%), 寺田 B 遺物群 (32%)	鉄・複複6	寺田 Cab・B 遺物群	2.788
26	臼玉製品		113251	昼飯大塚C遺物群 (27%), 昼飯大塚 B 遺物群 (0.2%)	単6	昼飯大塚C遺物	2.648
27	臼玉製品		113252	昼飯大塚C遺物群 (38%), 昼飯大塚 B 遺物群 (0.6%)	単6	昼飯大塚C遺物	2.893
28	臼玉製品		113253	昼飯大塚C遺物群 (85%), 昼飯大塚 B 遺物群 (18%)	単6	昼飯大塚C・B遺物	2.905
29	臼玉製品		113254	昼飯大塚C遺物群 (72%)	単6	昼飯大塚C遺物	2.699
30	臼玉製品		113255	寺田 3・30・45 遺物群 (46%)	Q無し	寺田 3・30・45 遺物群	2.679
31	臼玉製品		113256	昼飯大塚C遺物群 (38%), 昼飯大塚 B 遺物群 (0.2%)	単6	昼飯大塚C遺物	2.73
32	臼玉製品		113257	昼飯大塚 B 遺物群 (74%), 昼飯大塚 C 遺物群 (11%)	単6	昼飯大塚B・C遺物	2.703
33	双孔円盤		113258	昼飯大塚C遺物群 (90%), 昼飯大塚 B 遺物群 (0.2%)	遺物過大	昼飯大塚C遺物	2.718
34	臼玉製品	F	113259	昼飯大塚C遺物群 (26%)	単6	昼飯大塚C遺物	2.85
35	臼玉製品		113260	昼飯大塚C遺物群 (8%)	単6	昼飯大塚C遺物	2.832
36	臼玉製品		113261	昼飯大塚C遺物群 (74%), 昼飯大塚 B 遺物群 (1%)	単6	昼飯大塚C遺物	2.707
37	臼玉製品		113262	昼飯大塚C遺物群 (99.8%)	単6	昼飯大塚C遺物	2.705
38	臼玉未成品		113263	寺田 38 遺物群 (75%)	単6	寺田 38 遺物群	2.669
39	臼玉未成品	K	113264	昼飯大塚C遺物群 (96%)	単6	昼飯大塚C遺物	2.604
40	臼玉未成品	K	113265	寺田 40 遺物群 (66%)	不明	寺田 40 遺物群	2.895
41	欠　番						
42	臼玉製品	Ca	113267	寺田 Cab 遺物群 (35%)	複複6	寺田 Cab 遺物群	2.708
43	臼玉製品		113268	昼飯大塚C遺物群 (64%), 昼飯大塚 B 遺物群 (1%)	単6	昼飯大塚C遺物	2.726
44	臼玉製品		113269	昼飯大塚C遺物群 (15%)	単6	昼飯大塚C遺物	2.453
45	臼玉製品		113270	寺田 3・30・45 遺物群 (78%)	Q無し	寺田 3・30・45 遺物群	2.618
46	臼玉製品		113271	昼飯大塚C遺物群 (88%)	単6	昼飯大塚C遺物	2.747
47	臼玉未成品	K	113272	寺田 47 遺物群 (95%), 昼飯大塚C遺物群 (0.3%)	崩れ単6	寺田 47 遺物群	2.973
48	臼玉未成品	K	113273	昼飯大塚C遺物群 (15%)	単6	昼飯大塚C遺物	2.496
49	管玉		113274	寺田 G 遺物群 (37%)	Q無し	寺田 G 遺物群	2.435
50	臼玉製品	B	113275	寺田 B 遺物群 (34%), 寺田 Cab 遺物群 (1%)	鉄・複複6	寺田 B 遺物群	2.775
51	臼玉製品	Cb	113276	寺田 Cab 遺物群 (87%), 寺田 B 遺物群 (0.2%)	複複6	寺田 Cab 遺物群	2.737
52	臼玉製品	Ca	113277	昼飯大塚 B 遺物 (62%)	単6	昼飯大塚 B 遺物	2.715
53	臼玉製品	Ca	113278	寺田 Cab 遺物群 (31%), 寺田 B 遺物群 (3%)	複複6	寺田 Cab 遺物群	2.755
54	臼玉製品		113279	昼飯大塚C遺物群 (67%), 昼飯大塚 B 遺物群 (2%)	単6	昼飯大塚C遺物	2.73
55	臼玉製品	G	113280	寺田 G 遺物群 (87%)	単6	寺田 G 遺物群	2.813
56	臼玉製品		113281	昼飯大塚C遺物群 (46%)	単6	昼飯大塚C遺物	2.642
57	臼玉製品		113282	昼飯大塚 B 遺物群 (59%), 昼飯大塚 C 遺物群 (6%), 昼飯大塚A遺物群 (0.2%)	単6	昼飯大塚B・C遺物	2.598
58	臼玉製品		113283	昼飯大塚C遺物群 (76%), 昼飯大塚 B 遺物群 (4%)	単6	昼飯大塚C遺物	2.715
59	臼玉製品		113284	昼飯大塚 A 遺物群 (2%)	単6	昼飯大塚C遺物	2.661
60	臼玉製品	B	113285	寺田 B 遺物群 (98%), 寺田 Cab 遺物群 (85%)	鉄・単6	寺田 B・Cab 遺物群	2.814
61	臼玉製品	B	113286	寺田 B 遺物群 (79%), 寺田 Cab 遺物群 (25%)	複複6	寺田 B・Cab 遺物群	2.83
62	臼玉製品	B	113287	寺田 B 遺物群 (91%), 寺田 Cab 遺物群 (87%)	鉄・複複6	寺田 B・Cab 遺物群	2.767
63	臼玉製品	B	113288	寺田 B 遺物群 (98%), 寺田 Cab 遺物群 (56%)	鉄・複複6	寺田 B・Cab 遺物群	2.836
64	臼玉製品	B	113289	寺田 B 遺物群 (72%), 寺田 Cab 遺物群 (50%)	鉄・複複6	寺田 B・Cab 遺物群	2.81
65	臼玉製品	B	113290	寺田 B 遺物群 (57%), 寺田 Cab 遺物群 (2%), 中の宮 (0.1%)	複複6	寺田 B 遺物群	2.814
66	臼玉製品	B	113291	寺田 B 遺物群 (49%), 寺田 Cab 遺物群 (11%)	複複6	寺田 B・Cab 遺物群	2.803
67	臼玉製品	Cb	113292	寺田 Cab 遺物群 (68%)	複複6	寺田 Cab 遺物群	2.727
68	臼玉製品	Ca	113293	寺田 Cab 遺物群 (58%)	複複6	寺田 Cab 遺物群	2.752

No.	形態	肉眼分類グループ	分析番号	ホテリングのT2検定結果（%）	ESR信号波形	総合判定	比重
69	臼玉製品	Ca	113294	昼飯大塚C遺物(61%)	単6	昼飯大塚C遺物	2.556
70	臼玉製品	Ca	113295	寺田 Cab 遺物群(71%)	鉄・複複6？	寺田 Cab 遺物群	2.781
71	臼玉製品	Ca	113296	寺田 Cab 遺物群(16%), 寺田 B 遺物群(4%)	複複6	寺田 Cab 遺物群	2.802
72	臼玉製品	D	113297	寺田 AD 遺物群(86%)	単6	寺田 AD 遺物群	2.813
73	臼玉製品		113298	昼飯大塚C遺物群(24%)	単6	昼飯大塚C遺物	2.701
74	臼玉製品		113299	昼飯大塚C遺物群(76%)	単6	昼飯大塚C遺物	2.72
75	臼玉製品		113300	寺田 Cab 遺物群(78%), 寺田 B 遺物群(19%)	鉄	寺田 Cab・B 遺物群	2.791
76	臼玉製品		113301	昼飯大塚C遺物群(48%)	単6	昼飯大塚C遺物	2.659
77	臼玉製品		113302	昼飯大塚C遺物群(35%)	単6	昼飯大塚C遺物	2.714
78	臼玉製品		113303	昼飯大塚C遺物群(71%)	単6	昼飯大塚C遺物	2.656
79	臼玉製品		113304	昼飯大塚C遺物群(97%)	単6	昼飯大塚C遺物	2.611
80	臼玉製品		113305	昼飯大塚C遺物群(77%)	単6	昼飯大塚C遺物	2.546
81	臼玉製品		113306	昼飯大塚C遺物群(56%)	単6	昼飯大塚C遺物	2.713
82	臼玉製品		113307	寺田 82 遺物群(69%)	単6	寺田 82 遺物群	2.844
83	臼玉製品		113308	昼飯大塚C遺物群(21%), 昼飯大塚 B 遺物群(0.5%)	単6	昼飯大塚C遺物	2.606
84	臼玉製品		113309	昼飯大塚C遺物群(57%)	単6	昼飯大塚C遺物	2.605
85	臼玉製品		113310	昼飯大塚C遺物群(91%), 昼飯大塚 B 遺物群(0.1%)	単6	昼飯大塚C遺物	2.699
86	臼玉製品		113311	昼飯大塚C遺物群(80%)	単6	昼飯大塚C遺物	2.682
87	臼玉製品		113312	昼飯大塚C遺物群(65%)	単6	昼飯大塚C遺物	2.569
88	臼玉製品		113313	昼飯大塚C遺物群(66%), 昼飯大塚 B 遺物群(6%)	単6	昼飯大塚C・B遺物	2.648
89	臼玉製品		113314	昼飯大塚C遺物群(71%)	単6	昼飯大塚C遺物	2.423
90	臼玉製品		113315	昼飯大塚C遺物群(71%)	単6	昼飯大塚C遺物	2.656
91	臼玉製品		113316	昼飯大塚C遺物群(81%), 昼飯大塚 B 遺物群(26%)	単6	昼飯大塚C・B遺物	2.655
92	臼玉製品		113317	昼飯大塚C遺物群(47%)	単6	昼飯大塚C遺物	2.587
93	臼玉製品		113318	昼飯大塚C遺物群(66%), 昼飯大塚 B 遺物群(4%)	単6	昼飯大塚C遺物	2.685
94	臼玉製品		113319	昼飯大塚C遺物群(70%), 昼飯大塚 B 遺物群(16%)	単6	昼飯大塚C・B遺物	2.643
95	臼玉製品		113320	昼飯大塚C遺物群(82%)	Q無し	昼飯大塚C遺物	2.621
96			113321				
97	双孔円盤		113322	昼飯大塚 B 遺物群(51%), 昼飯大塚 C 遺物群(16%)	遺物過大	昼飯大塚B・C遺物	2.703
98	臼玉製品		113323	昼飯大塚C遺物群(62%), 昼飯大塚 B 遺物群(6%)	単6	昼飯大塚C・B遺物	2.686
99	臼玉製品		113324	昼飯大塚C遺物群(19%)	単6	昼飯大塚C遺物	2.704
100	臼玉製品		113325	昼飯大塚C遺物群(7%)	単6	昼飯大塚C遺物	2.665
101	臼玉製品	D	113326	昼飯大塚C遺物群(99.6%)	単6	昼飯大塚C遺物	2.637
102	臼玉製品	D	113327	昼飯大塚C遺物群(90%)	Q無し	昼飯大塚C遺物	2.539
103	臼玉製品	D	113328	昼飯大塚C遺物群(92%)	単6	昼飯大塚C遺物	2.653
104	臼玉製品	D	113329	昼飯大塚C遺物群(99%)	単6	昼飯大塚C遺物	2.674
105	臼玉製品	D	113330	昼飯大塚C遺物群(99%)	単6	昼飯大塚C遺物	2.667
106	臼玉製品	E	113331	昼飯大塚C遺物(93%)	単6	昼飯大塚C遺物	2.647
107	臼玉製品	E	113332	昼飯大塚C遺物(84%)	単6	昼飯大塚C遺物	2.558
108	臼玉製品	F	113333	昼飯大塚C遺物(90%)	単6	昼飯大塚C遺物	2.664
109	臼玉製品	F	113334	昼飯大塚C遺物(79%)	単6	昼飯大塚C遺物	2.744
110	臼玉製品	G	113335	昼飯大塚C遺物(99.97%)	単6	昼飯大塚C遺物	2.716
111	臼玉製品	G	113336	昼飯大塚C遺物群(71%), 昼飯大塚 B 遺物群(8%)	単6	昼飯大塚C・B遺物	2.651
112	臼玉製品	G	113337	昼飯大塚C遺物(16%)	単6	昼飯大塚C遺物	2.784
113	臼玉製品	H	113338	昼飯大塚C遺物群(91%), 昼飯大塚 B 遺物群(5%)	単6	昼飯大塚C・B遺物	2.655
114	臼玉製品	H	113339	昼飯大塚C遺物(94%)	単6	昼飯大塚C遺物	2.711
115	臼玉製品	H	113340	昼飯大塚C遺物群(54%), 昼飯大塚 B 遺物群(3%)	単6	昼飯大塚C遺物	2.725
116	臼玉製品	H	113341	昼飯大塚C遺物群(96%), 昼飯大塚 B 遺物群(0.5%)	単6	昼飯大塚C遺物	2.663
117	臼玉製品	H	113342	昼飯大塚C遺物(99%)	単6	昼飯大塚C遺物	2.688
118	臼玉製品		113343	寺田 Cab 遺物群(75%), 寺田 B 遺物群(34%), 波久礼(0.3%)	鉄・複複6？	寺田 Cab・B 遺物群	2.802
119	臼玉製品		113344	寺田 Cab 遺物群(79%), 寺田 B 遺物群(15%)	複複6	寺田 Cab・B 遺物群	2.801
120	臼玉製品		113345	昼飯大塚C遺物群(87%), 昼飯大塚 B 遺物群(5%)	崩れ複複6？	昼飯大塚C・B遺物	2.636
121	臼玉製品		113346	昼飯大塚C遺物群(6%)	鉄・単6	昼飯大塚C遺物	2.512
122	臼玉製品		113347	寺田 Cab 遺物群(8%), 寺田 B 遺物群(0.3%)	鉄	寺田 Cab 遺物群	2.771
123	臼玉製品		113348	昼飯大塚C遺物(98%)	単6	昼飯大塚C遺物	2.696
124	臼玉製品		113349	昼飯大塚C遺物群(48%), 昼飯大塚 B 遺物群(8%)	単6	昼飯大塚C遺物	2.696
125	臼玉製品		113350	昼飯大塚C遺物群(70%), 昼飯大塚 B 遺物群(1%)	単6	昼飯大塚C遺物	2.719
126	臼玉製品		113351	昼飯大塚C遺物群(94%), 昼飯大塚 B 遺物群(1%)	単6	昼飯大塚C遺物	2.639
127	臼玉製品		113352	昼飯大塚C遺物群(62%), 昼飯大塚 B 遺物群(0.4%)	単6	昼飯大塚C遺物	2.565
128	臼玉製品		113353	昼飯大塚C遺物(99.6%)	単6	昼飯大塚C遺物	2.627
129	臼玉製品		113354	寺田 G 遺物群(54%)	単6	寺田 G 遺物群	2.772
130	臼玉製品		113355	昼飯大塚C遺物(91%)	単6	昼飯大塚C遺物	2.749
131	臼玉製品		113356	昼飯大塚 B 遺物群(53%), 昼飯大塚 C 遺物群(41%)	単6	昼飯大塚B・C遺物	2.75
132	臼玉製品		113357	昼飯大塚C遺物群(91%), 昼飯大塚 B 遺物群(2%)	単6	昼飯大塚C遺物	2.707
133	臼玉製品		113358	昼飯大塚 B 遺物群(64%), 昼飯大塚 C 遺物群(32%)	単6	昼飯大塚B・C遺物	2.751
134	臼玉製品		113359	昼飯大塚C遺物群(89%), 昼飯大塚 B 遺物群(0.1%)	単6	昼飯大塚C遺物	2.738
135	臼玉製品		113360	昼飯大塚 A 遺物(15%)	単6	昼飯大塚 A 遺物	2.651
136	臼玉製品	A	113361	寺田 AD 遺物群(59%)	単6	寺田 AD 遺物群	2.893

No.	形態	肉眼分類グループ	分析番号	ホテリングのT2検定結果（%）	ESR信号波形	総合判定	比重
137	臼玉製品	A	113362	寺田 AD 遺物群 (67%)	単6	寺田 AD 遺物群	2.896
138	臼玉製品	A	113363	寺田 AD 遺物群 (34%)	単6	寺田 AD 遺物群	2.865
139	臼玉製品	A	113364	昼飯大塚C遺物群 (75%), 昼飯大塚 B 遺物群 (14%)	単6	昼飯大塚C・B遺物	2.741
140	臼玉製品	A	113365	寺田 AD 遺物群 (71%)	単6	寺田 AD 遺物群	2.906
141	臼玉製品	A	113366	昼飯大塚C遺物群 (65%), 昼飯大塚 B 遺物群 (3%)	単6	昼飯大塚C遺物	2.79
142	臼玉製品	A	113367	寺田 AD 遺物群 (85%)	単6	寺田 AD 遺物群	2.86
143	臼玉製品		113368	昼飯大塚C遺物 (52%)	単6	昼飯大塚C遺物	2.761
144	臼玉製品		113369	昼飯大塚C遺物 (81%)	単6	昼飯大塚C遺物	2.671
145	臼玉製品		113370	昼飯大塚C遺物 (96%)	単6	昼飯大塚C遺物	2.754
146	臼玉製品		113371	昼飯大塚C遺物 (99.8%)	不明	昼飯大塚C遺物	2.841
147	臼玉製品		113372	昼飯大塚C遺物 (29%)	単6	昼飯大塚C遺物	2.714
148	臼玉製品		113373	昼飯大塚C遺物群 (81%), 昼飯大塚 B 遺物群 (0.3%)	単6	昼飯大塚C遺物	2.655
149	臼玉製品		113374	昼飯大塚C遺物群 (66%), 昼飯大塚 B 遺物群 (2%)	単6	昼飯大塚C遺物	2.625
150	臼玉製品		113375	昼飯大塚C遺物 (89%)	単6	昼飯大塚C遺物	2.624
151	臼玉製品		113376	寺田 Cab 遺物群 (40%), 寺田 B 遺物群 (0.2%)	鉄・複複6	寺田 Cab 遺物群	2.816
152	臼玉製品		113377	昼飯大塚C遺物群 (78%), 昼飯大塚 B 遺物群 (0.2%)	単6	昼飯大塚C遺物	2.73
153	臼玉製品		113378	寺田 153 遺物群 (34%)	複6？	寺田 153 遺物群	3.068
154	臼玉製品		113379	昼飯大塚C遺物群 (47%), 昼飯大塚 B 遺物群 (6%)	単6	昼飯大塚C・B遺物	2.727
155							
156	臼玉製品		113381	昼飯大塚C遺物群 (63%), 昼飯大塚 B 遺物群 (21%)	単6	昼飯大塚C・B遺物	2.741
157	臼玉製品		113382	昼飯大塚C遺物群 (79%), 昼飯大塚 B 遺物群 (0.9%)	単6	昼飯大塚C遺物	2.724
158	臼玉製品		113383	昼飯大塚C遺物 (3%)	単6	昼飯大塚C遺物	2.808
159	臼玉製品		113384	昼飯大塚 B 遺物群 (71%), 昼飯大塚 C 遺物群 (29%)	単6と他イオン	昼飯大塚B・C遺物	2.719
160	臼玉製品		113385	昼飯大塚C遺物 (68%)	単6	昼飯大塚C遺物	2.662
161	臼玉製品		113386	昼飯大塚C遺物 (99.9%)	単6	昼飯大塚C遺物	2.701
162	臼玉製品		113387	昼飯大塚 B 遺物群 (86%), 昼飯大塚 C 遺物群 (17%)	単6	昼飯大塚C遺物	2.744
163	臼玉製品		113388	昼飯大塚C遺物 (3%)	単6	昼飯大塚B・C遺物	2.664
164	臼玉製品		113389	昼飯大塚C遺物群 (82%), 昼飯大塚 B 遺物群 (9%)	単6	昼飯大塚C・B遺物	2.694
165							
166	臼玉製品		113391	昼飯大塚C遺物群 (82%), 昼飯大塚 B 遺物群 (11%)	単6	昼飯大塚C・B遺物	2.716
167	臼玉製品		113392	昼飯大塚C遺物 (91%)	単6	昼飯大塚C遺物	2.565
168	臼玉製品		113393	昼飯大塚C遺物群 (89%), 昼飯大塚 B 遺物群 (0.1%)	単6	昼飯大塚C遺物	2.66
169	臼玉製品		113394	昼飯大塚C遺物群 (5%), 昼飯大塚 B 遺物群 (1%)	単6	昼飯大塚C遺物	2.685
170	臼玉製品		113395	昼飯大塚 B 遺物群 (95%), 昼飯大塚 C 遺物群 (23%)	単6	昼飯大塚B・C遺物	2.644
171	臼玉製品		113396	昼飯大塚C遺物 (97%)	単6	昼飯大塚C遺物	2.606

表 12　寺田遺跡出土玉類 169 個の各群一致頻度

各遺跡群合計頻度	各遺物群名	一致頻度個数・(%)
昼飯大塚諸群 合計 123 個 (72.8%)	昼飯大塚A遺物群	1(0.6%)
	昼飯大塚B遺物群のみ	1(0.6%)
	昼飯大塚C遺物群のみ	96(56.8%)
	昼飯大塚CとB両遺物群	25(14.8%)
寺田遺物諸群 合計 46 個 (27.2%)	寺田 B 遺物群のみ	2(1.2%)
	寺田 Cab 遺物群のみ	12(7.1%)
	寺田 Cab とB両遺物群	10(5.9%)
	寺田 G 遺物群	3 (1.8%)
	寺田 AD 遺物群	6(3.6%)
	寺田 3・30・45 遺物群	3 (1.8%)
	寺田 2 遺物群	1(0.6%)
	寺田 5 遺物群	1(0.6%)
	寺田 12 遺物群	1(0.6%)
	寺田 38 遺物群	1(0.6%)
	寺田 40 遺物群	1(0.6%)
	寺田 47 遺物群	1(0.6%)
	寺田 82 遺物群	1(0.6%)
	寺田 153 遺物群	1(0.6%)
	寺田 7-1 遺物群	1(0.6%)
	寺田 7-2 遺物群	1(0.6%)
合計		196 個 (100.2%)

表 13　昼飯大塚古墳出土滑石、緑泥石片岩様玉類の昼飯大塚１、２遺物群と昼飯大塚Ａ、Ｂ、Ｃ遺物群による分類結果

分析番号	連番	遺物番号	遺構番号	玉種類	クラスター分類	昼飯大塚1遺物群	昼飯大塚2遺物群	亀川1遺物群	亀川2遺物群	昼飯大塚C遺物群	昼飯大塚B遺物群	昼飯大塚A遺物群	ESR 信号形
76929	1	49	NW7-6 サブトレ	臼玉	D	★ 69%	---	0.009%	48%	83.0%			鉄
76930	2	55	NE2-2	臼玉	B	---	☆ 66%	---	79%			42%	単6
76931	3	76	NW4-3	臼玉		★ 11%	---	---	8%	32.0%			鉄
76932	4	110	NW2-3	臼玉	A	★ 66%	---	0%	0.003%	0.2%	72.0%		単6
76933	5	146	SW1-3 東西サブトレ	臼玉	D	★ 25%	0.0001%	1%	32%	88.0%			単6
76934	6	186	NE2-2	臼玉	C	★ 55%	15%	---	1%	2.0%	33.0%		単6
76935	7	190	NW1-2	臼玉		0.0002%	---	---	65%				単6
76936	8	198	NW2-2	臼玉	C	★ 23%	4%	---	21%	26.0%	28.0%		単6
76937	9	220	SW 盗掘壙	臼玉	B	★ 48%	---	2%	55%	90.0%			単6
76938	10	223	NW2-3	臼玉	D	★ 91%	0.0008%	1%	51%	41.0%			単6
76939	11	342	NW2-3	臼玉	C	★ 22%	---	0.002%	16%	53.0%			単6
76940	12	375	NW2-3	臼玉		---	---	0%	0.03%			2%	単6
76941	13	422	NW1-3	臼玉	A	0.0001%	☆ 31%	0%	---	10.0%	52.0%		単6
76942	14	6	NW4-1	臼玉	A	0.0002%	0.0008%	---	44%			0.30%	単6
76943	15	10	NW8-2	臼玉	C	★ 28%	0.2%	---	28%		74.0%		単6
76944	16	65	NW4-3	臼玉	A	★ 46%	0.00001%	25%	0.3%	99.0%			単6
76945	17	141	NE3-3	臼玉	A	★ 64%	---	0.001%	12%	64.0%			鉄・単6・他イオン？
76946	18	146	NE2-1	臼玉	D	★ 54%	2%	0.003%	60%	77.0%			鉄・単6・他イオン？
76947	19	156	NW6-4	臼玉	D	★ 90%	---	0.1%	25%	99.0%			単6
76948	20	282	NE6-3	臼玉	D	★ 45%	0.00002%	0.2%	19%	96.0%			単6
76949	21	287	NW7-5	臼玉	A	★ 71%	---	9%	20%	87.0%			単6
76950	22	297	NW7-5	臼玉	C	0.0030%	☆ 45%	---	28%				単6
76951	23	320	NW7-5	臼玉		0.20%	---	0.02%	2%	11.0%			鉄
76952	24	332	NW6-4	臼玉	A	★ 65%	0.00002%	39%	2%	99.5%			単6
76953	25	352	NW3-5	臼玉	D	★ 36%	---	0.3%	54%	98.0%			鉄
76954	26	374	NW3-2	臼玉	A	★ 42%	---	1%	4%	90.0%			単6
76955	27	376	NE6-3	臼玉	C	★ 27%	---	---	42%		91.0%		単6
76956	28	412	SE2-2	臼玉	D	★ 87%	---	0.1%	35%	94.0%			単6
76957	29	94	SW 盗掘坑 No.19	臼玉	C	★ 91%	---	2%	50%	71.0%			鉄・単6・他イオン？
76958	30	122	SW 盗掘壙 No.13	臼玉		0.003%	---	2%	0.008%	57.0%			高スピン鉄大・単6
76959	31	174	SW 盗掘壙	臼玉	C	★ 48%	---	---	74%	4.0%	93.0%		単6
76960	32	176	SW 盗掘壙	臼玉	C	★ 55%	0.00003%	---	2%		36.0%		単6
76961	33	177	SW 盗掘壙	臼玉		0.01%	---	---	1%	51.0%			鉄
76962	34	235	SW 盗掘壙 No.2	臼玉	A	★ 67%	---	0.2%	63%	40.0%			単6
76963	35	327	NW2-2	臼玉	D	★ 64%	---	0.04%	27%	86.0%			鉄・単6・他イオン？
76964	36	575	NW2-3	臼玉	C	★ 28%	0.1%	---	62%	18.0%	81.0%		単6
76965	37	610	NW2-2	臼玉	C	★ 97%	0.0002%	4%	51%	84.0%	0.2%		鉄
76966	38	660	NW-SW 間アゼ	臼玉	D	★ 21%	---	---	43%	84.0%			鉄
76967	39	674	NW2-3	臼玉	C	★ 52%	13%	---	43%	0.9%	77.0%		単6
76968	40	994	盗掘坑	臼玉	B	★ 67%	---	0.07%	32%	96.0%			単6
76969	41	1020	盗掘坑	臼玉	C	0.6%	0.3%	0%	---				鉄
76970	42	1023	盗掘坑	臼玉		---	---	0%	0.0008%			47%	高スピン鉄大・単6
76971	43	1759	NW-SW 間アゼ	臼玉	D	0.00%	0.00004%	0.06%	1%	98.0%			単6
76972	44	2097	盗掘坑	臼玉	A	★ 65%	---	0.005%	29%	57.0%			鉄・小さい単6
76973	45	2163	盗掘坑	臼玉	A	0.8%	---	---	0.2%				単6
76974	46	2772	NW2-2	臼玉	C	★ 63%	---	6%	1%	96.0%			単6
76975	47	5	NE4-4	管玉		---	---	0.1%	---	4.0%			単6
76981	53	283	NE6-3	管玉	A	★ 47%	0.00004%	---	0.04%	0.2%	1.0%		単6
76988	60	22	NW6-5	算盤玉	C	---	☆ 61%	---	1%			51%	鉄
76989	61	107	NW1-3	算盤玉	B	---	☆ 93%	---	3%			99.90%	鉄・小さい単6
76990	62	157	NW3-3	算盤玉	B	---	☆ 64%	---	0.4%			91%	高スピン鉄・複6
76991	63	187	NW1-2	算盤玉	B	---	☆ 89%	---	4%			97%	鉄
76992	64	335	NW2-2	算盤玉	B	---	☆ 38%	---	1%			47%	鉄・単6・他イオン？
76993	65	382	NW2-3	算盤玉	B	---	☆ 98%	---	9%	68.0%			高スピン鉄・複6
76994	66	394	NW2-3	算盤玉		---	0.002%	---	0.2%			21%	鉄・小さい単6
76995	67	424	NW5-5	算盤玉		---	0.00003%	---	9%			34%	鉄

分析番号	連番	遺物番号	遺構番号	玉種類	クラスター分類	昼飯大塚1遺物群	昼飯大塚2遺物群	亀川1遺物群	亀川2遺物群	昼飯大塚C遺物群	昼飯大塚B遺物群	昼飯大塚A遺物群	ESR 信号形
76996	68	2629	NW1-3	算盤玉	A	0.4%	☆ 31%	---	0.01%			6%	単6
76997	69	7	NE2-4	嚢玉		0.4%	0.00004%	15%	30%	56.0%			鉄
76998	70	102	NW1-2	嚢玉		★ 7%	0.0001%	9%	0.09%	93.0%			単6
76999	71	158	NW2-3	嚢玉		---	0.0009%	0%	63%			10%	鉄
77000	72	169	NW1-3	嚢玉		0.03%	---	0.09%	0.08%	6.0%			単6
77001	73	254	NW1-2	嚢玉	D	★ 95%	---	0.07%	53%	49.0%			単6
77002	74	292	NW2-2	嚢玉	C	★ 69%	---	7%	53%	83.0%			単6
77003	75	319	NW2-3	嚢玉	C	★ 94%	---	1%	31%	89.0%			単6
77004	76	345	NW2-3	嚢玉	B	---	☆ 90%	---	10%			25%	鉄
77005	77	276	SW2-5	嚢玉	D	★ 78%	0.001%	0.3%	54%	93.0%			単6
77006	78	285	NW6-2	嚢玉	A	★ 68%	---	4%	6%	93.0%			単6
77007	79	1187	盗掘坑	嚢玉	A	★ 21%	---	2%	0.4%	0.2%			単6
77008	80	11	NE5-6	勾玉	B	---	☆ 95%	---	2%			99.70%	鉄
77009	81	52	NW5-5	勾玉	B	---	☆ 70%	---	1%			99%	
77010	82	59	NE5-4	勾玉	B	---	☆ 96%	---	0.2%			97%	鉄
77011	83	95	NE4-3	勾玉								81%	
77012	84	106	NW1-3	勾玉		---	---	0%	0.0002%				単6
77013	85	160	NW4-3	勾玉	B	---	☆ 98%	---	0.2%			65%	鉄
77014	86	231	NW2-3	勾玉	A	★ 69%	---	0%	0.0001%	0.7%	25.0%		
77015	87	240	NE5-5	勾玉	C	0.001%	☆ 96%	---	0.02%			91%	鉄
77016	88	303	NW2-2	勾玉	A	★ 36%	---	---	0.01%	0.7%	46.0%		単6
77017	89	307	NW2-3	勾玉	B	---	☆ 99%	0%	0.0001%			99%	鉄
77018	90	332	NW2-2	勾玉	A	0.10%	---	---	1%		0.1%	0.30%	単6
77019	91	406	NW1-2	勾玉	A	★ 94%	---	---	1%		92.0%	0.20%	
77020	92	428	NW1-3（アゼ内）	勾玉	A	★ 90%	---	---	0.1%	17.0%	96.0%		単6
77021	93	435	NW1-3（アゼ内）	勾玉	A	★ 84%	---	---	0.2%	2.0%	99.0%		
77022	94	21	NW2-4	勾玉	A	0.0006%	---	---	0.03%			35%	単6
77023	95	33	NE5-4	勾玉	C	---	☆ 87%	---	0.09%			84%	鉄
77024	96	49	NE5-5	勾玉	C	0.002%	☆ 96%	---	0.3%			89%	鉄
77025	97	91	NW4-3	勾玉		---	---	0%	0.0001%				単6
77026	98	127	NE3-2	勾玉	A	★ 86%	---	---	0.003%	6.0%	99.8%		
77027	99	134	NW4-1	勾玉	A	★ 68%	---	---	0.03%		79.0%	0.20%	単6
77028	100	159	NE5-5	勾玉	C	0.006%	☆ 96%	---	0.2%			60%	鉄
77029	101	270	NW4-2	勾玉	A	★ 89%	---	---	0.02%		31.0%	0.20%	単6
77030	102	289	NW6-1	勾玉	A	★ 73%	---	---	0.008%		88.0%	3%	単6
77031	103	344	NW6-4	勾玉	A	★ 47%	0.00002%	0.008%	0.4%		24.0%	6%	単6
77032	104	414	NE4-1	勾玉		---	---	0%	0.001%				単6
77033	105	160	SW 盗掘坑 No.11	勾玉	A	1.0%	---	0%	0.0001%		50.0%	0.30%	単6
77034	106	216	SW 盗掘坑 No.3	勾玉	A	★ 15%	---	---	0.006%		99.0%	0.20%	単6
77035	107	264	SW 盗掘坑 No.16	勾玉	A	★ 16%	---	0%	0.004%		86.0%	0.30%	単6
77036	108	292	SW 盗掘坑	勾玉	A	★ 87%	---	---	0.004%	0.1%	96.0%		
77037	109	392	NW1-2	勾玉	A	0.01%	---	---	0.1%			37%	単6
77038	110	754	盗掘坑	勾玉	B	---	☆ 94%	---	0.2%			88%	高スピン鉄・複6
77039	111	758	盗掘坑	勾玉	B	---	☆ 82%	0%	0.05%			66%	高スピン鉄・複6
77040	112	1798	盗掘坑	勾玉	A	★ 91%	---	---	0.009%	11.0%	84.0%		単6
77041	113	2912	盗掘坑	勾玉	A	★ 83%	---	---	0.008%		89.0%		単6
77042	114	特3	SW 盗掘坑 No.2	石釧片	A	★ 84%	---	---	0.2%	未測定	未測定	未測定	
77043	115	2967	SW 盗掘坑 No.2		A	★ 78%	---	---	1%	未測定	未測定	未測定	単6
77044	116	2963	SW 盗掘坑 No.2	石釧片	A	★ 85%	---	0%	0.0002%	未測定	未測定	未測定	
77045	117	2998	SW 盗掘坑 No.2		A	0.03%	---	---	0.02%	未測定	未測定	未測定	
77046	118	2996	SW 盗掘坑 No.2		A	★ 82%	---	---	0.002%	未測定	未測定	未測定	
77047	119	2995	SW 盗掘坑 No.2			---	---	1%	2%	未測定	未測定	未測定	鉄
77048	120	2384	SW 盗掘坑 No.2			---	---	---	76%	未測定	未測定	未測定	

ーーー：推定確率が 0．00001%以下の低い確率

★：昼飯1遺物群を作った玉類

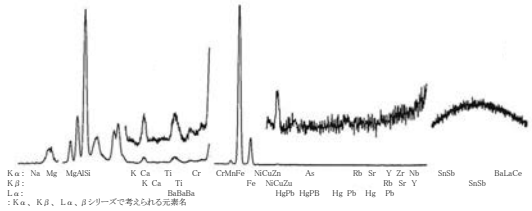
☆：昼飯2遺物群を作った玉類

2012 年に昼飯大塚A、B、C遺物群を作成、それ以外は 2004 年以前に作成

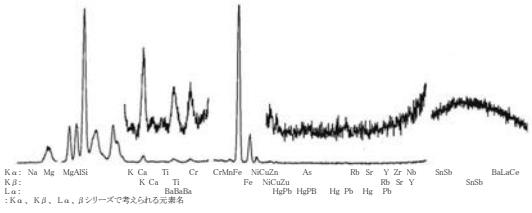
太字：昼飯大塚A、B、C遺物群を作った玉類

表 14　秋月遺跡出土玉類の産地分析結果

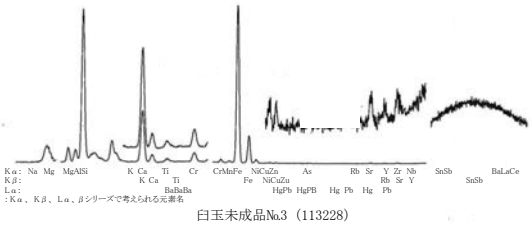
品名	登録番号	図番	分析番号	旧報告ーホテリングのT2検定結果（%）	2012 年度（表3）原石・遺物群によるーホテリングのT2検定結果（%）	ESR信号波形	20 12 年度原石・遺物群による総合判定
片岩勾玉	1160	1	108394	昼飯1遺物群	昼飯大塚B遺物群 (54%), 昼飯大塚C遺物群 (15%)	単6形	昼飯大塚B遺物群・昼飯大塚C遺物群
片岩勾玉	1160	2	108395	亀川2遺物群 (0.7%)		鉄イオン	
片岩勾玉	1160	3	108396	秋月片岩A遺物群 (14%)	秋月A遺物群 (68%), 昼飯大塚B遺物群 (43%), 昼飯大塚C遺物群 (20%)	単6形	秋月遺物群・昼飯大塚B遺物群・昼飯大塚C遺物群
片岩勾玉	1160	4	108412	秋月片岩A遺物群 (64%)	昼飯大塚B遺物群 (67%), 秋月A遺物群 (75%), 昼飯大塚C遺物群 (27%)	単6形	秋月遺物群・昼飯大塚B遺物群・昼飯大塚C遺物群
片岩勾玉	1160	5	108413	秋月片岩A遺物群 (83%)	秋月A遺物群 (69%), 昼飯大塚B遺物群 (38%), 昼飯大塚C遺物群 (8%)	単6形	秋月遺物群・昼飯大塚B遺物群・昼飯大塚C遺物群
片岩勾玉	1160	6	108414	秋月片岩A遺物群 (56%)	秋月A遺物群 (71%), 昼飯大塚B遺物群 (50%), 昼飯大塚C遺物群 (11%)	単6形	秋月遺物群・昼飯大塚B遺物群・昼飯大塚C遺物群
片岩勾玉	985	7	108415	秋月片岩A遺物群 (55%)	秋月A遺物群 (89%), 昼飯大塚B遺物群 (63%)	単6形	秋月遺物群・昼飯大塚B遺物群
片岩小玉	985	8	108397	亀川2遺物群 (3%)	沼島北西岸 (0.1%)	単6形	
片岩小玉	985	15	108398	昼飯1遺物群 (0.3%)	昼飯大塚B遺物群 (57%), 昼飯大塚C遺物群 (3%)	単6形	昼飯大塚B遺物群・昼飯大塚C遺物群
片岩小玉	985	17	108399		昼飯大塚A遺物群 (0.1%)	単6形	
片岩小玉	985	9	108416	亀川2遺物群 (8%)		単6形	
片岩小玉	985	10	108417		昼飯大塚C遺物群 (0.1%)	単6形	
片岩小玉	985	11	108418	昼飯1遺物群 (0.2%)	昼飯大塚A遺物群 (0.3%), 昼飯大塚B遺物群 (0.3%)	単6形	
片岩小玉	985	12	108419		昼飯大塚C遺物群 (13%)	単6形	昼飯大塚C遺物群
片岩小玉	985	13	108420	亀川2遺物群 (6%)		単6形	
片岩小玉	985	14	108421	亀川2遺物群 (79%)		単6形	
片岩小玉	985	16	108422			単6形	
滑石小玉	1182	33	108430	亀川2遺物群 (67%)	寺田Cab遺物群 (70%), 寺田B遺物群 (0.2%)	鉄イオン・複6	寺田Cab遺物群
滑石小玉	1182	32	108407	亀川2遺物群 (59%)		鉄イオン・複6	
片岩小玉	813	34	108408			不明	凝灰岩製？
滑石嚢玉	1160	25	108404	昼飯2遺物群 (0.6%)		鉄イオン	
滑石紡錘車		35	108409	船戸鉱山 −1(68%), 沼島アミダバエ (4%), 亀川2遺物群 (69%)	寺田Cab遺物群 (60%), 船戸鉱山 −1(68%), 沼島アミダバエ (4%)	遺物過大	寺田Cab遺物群・船戸鉱山



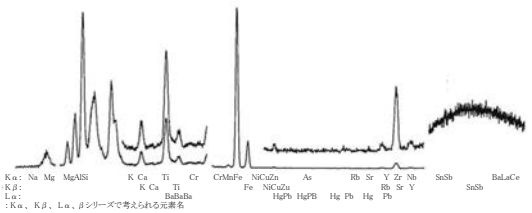
臼玉未成品№1（113226）



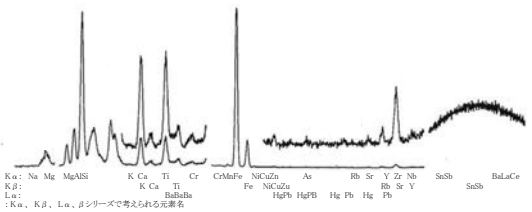
臼玉製品№2（113227）



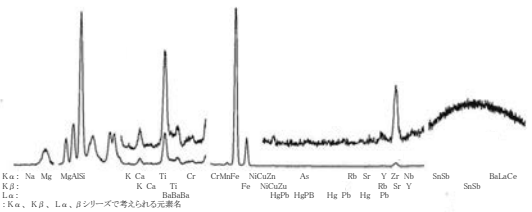
臼玉未成品№3（113228）



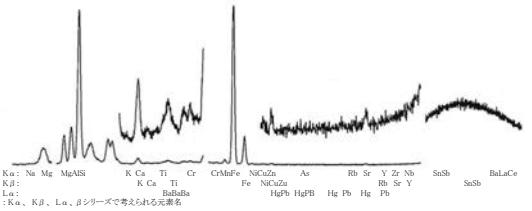
臼玉製品№7（113232）



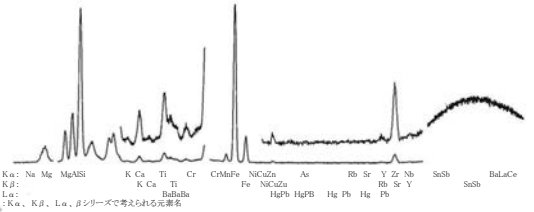
臼玉製品№8（113233）



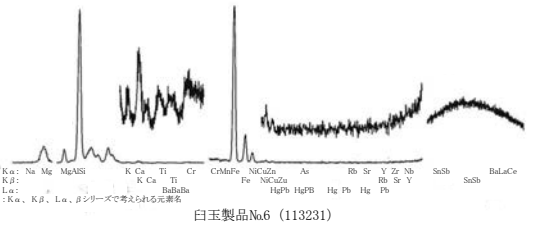
臼玉製品№9（113234）



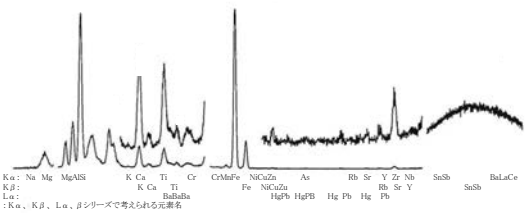
管玉№4（113229）



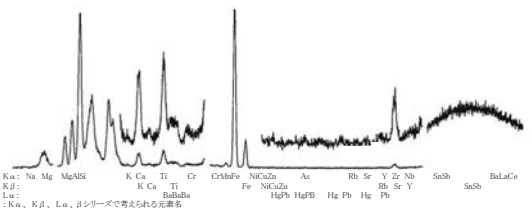
管玉№5（113230）



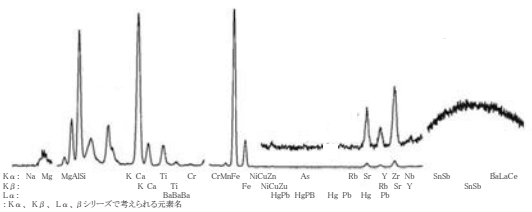
臼玉製品№6（113231）



臼玉製品№10（113235）

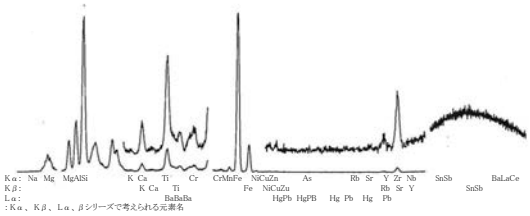


臼玉製品№11（113236）

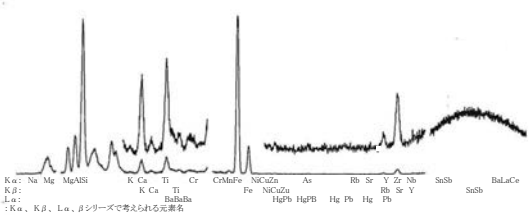


臼玉製品№12（113237）

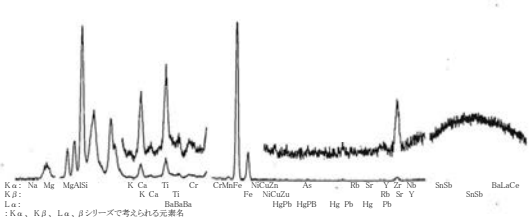
図 97　寺田遺跡出土玉類の蛍光Ｘ線スペクトル１



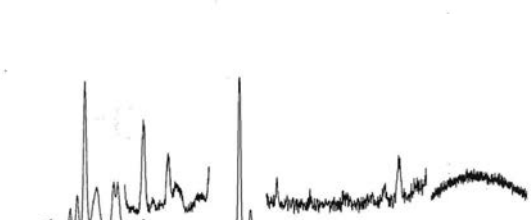
臼玉製品№13（113238）



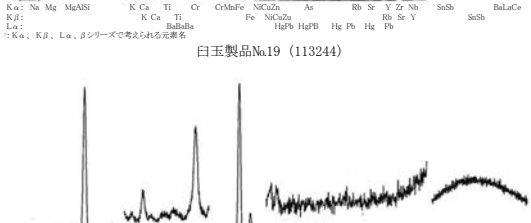
臼玉製品№14（113239）



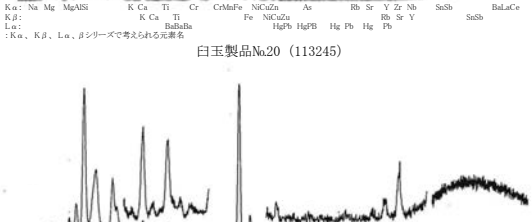
臼玉製品№15（113240）



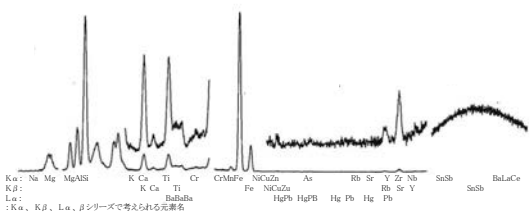
臼玉製品№19（113244）



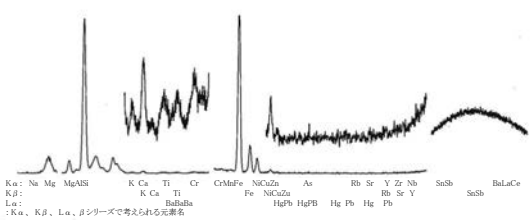
臼玉製品№20（113245）



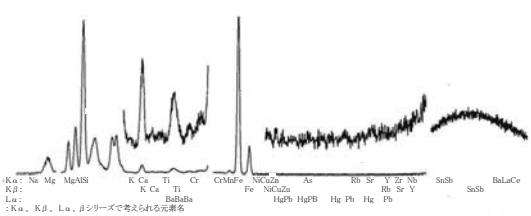
臼玉製品№21（113246）



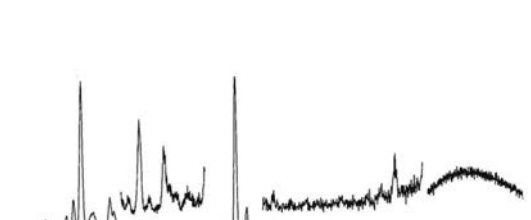
臼玉製品№16（113241）



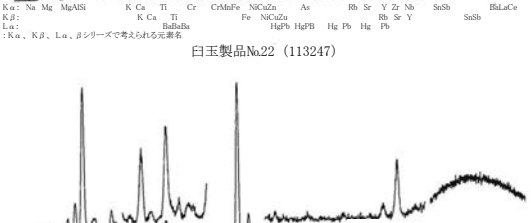
臼玉製品№17（113242）



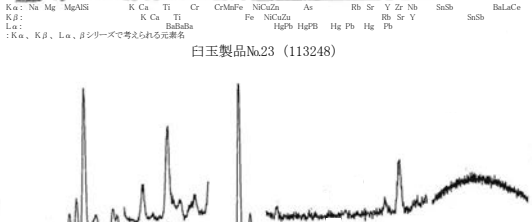
臼玉製品№18（113243）



臼玉製品№22（113247）

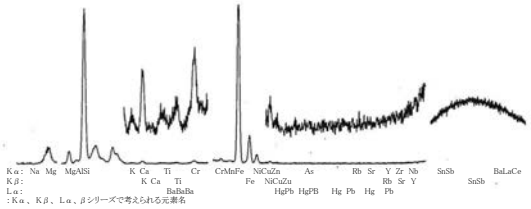


臼玉製品№23（113248）

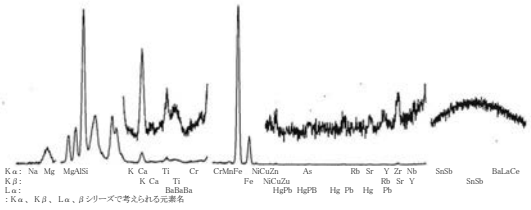


臼玉製品№24（113249）

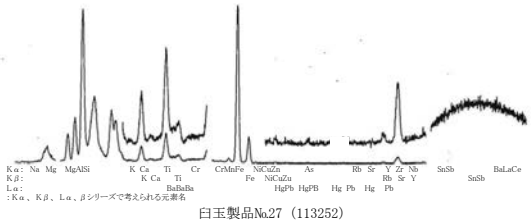
図 98　寺田遺跡出土玉類の蛍光Ｘ線スペクトル２



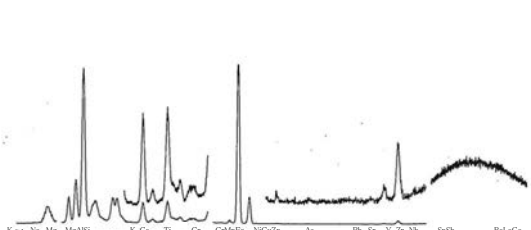
臼玉製品№25（113250）



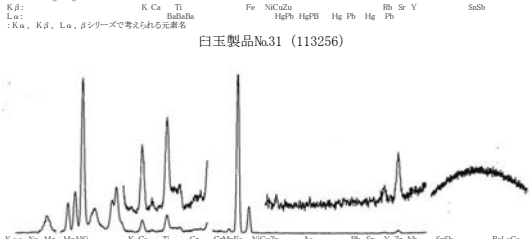
臼玉製品№26（113251）



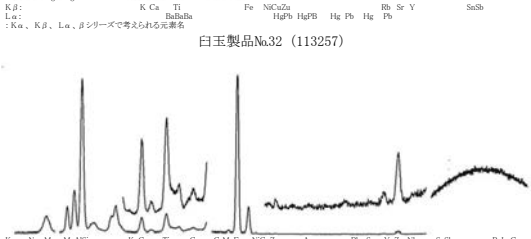
臼玉製品№27（113252）



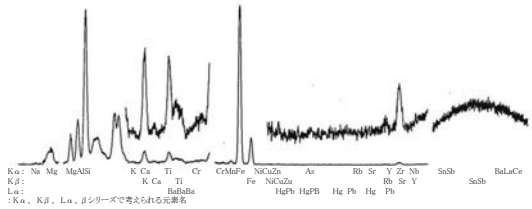
臼玉製品№31（113256）



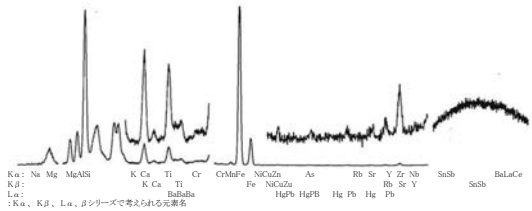
臼玉製品№32（113257）



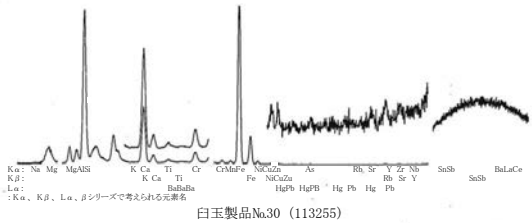
臼玉製品№33（113258）



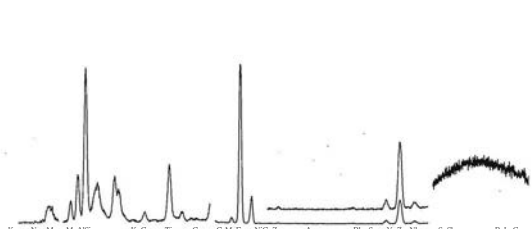
臼玉製品№28（113253）



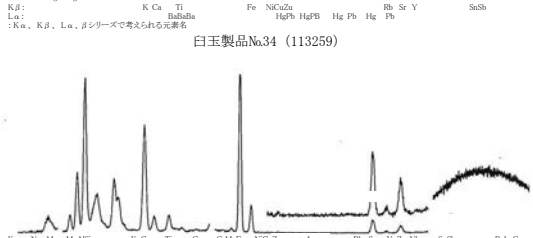
臼玉製品№29（113254）



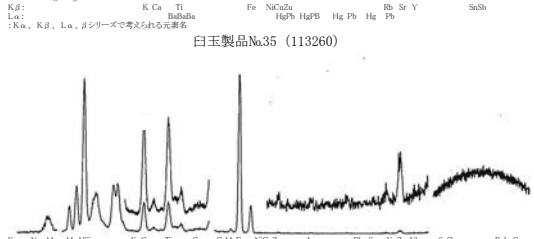
臼玉製品№30（113255）



臼玉製品№34（113259）

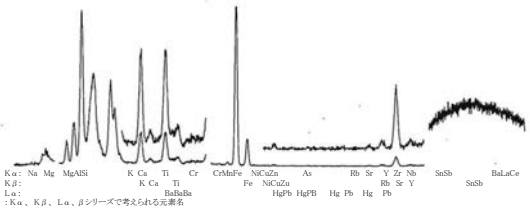


臼玉製品№35（113260）

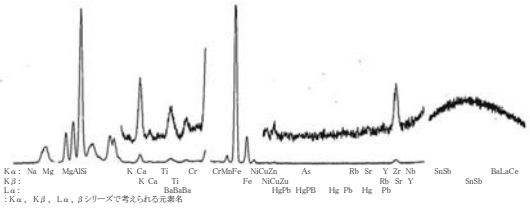


臼玉製品№36（113261）

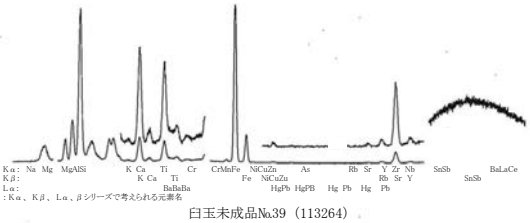
図 99　寺田遺跡出土玉類の蛍光Ｘ線スペクトル３



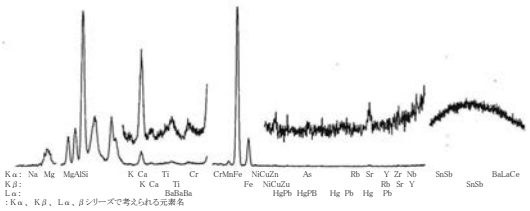
臼玉製品№37（113262）



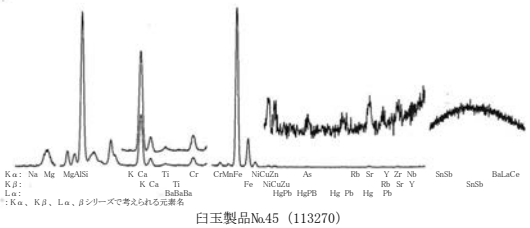
臼玉未成品№38（113263）



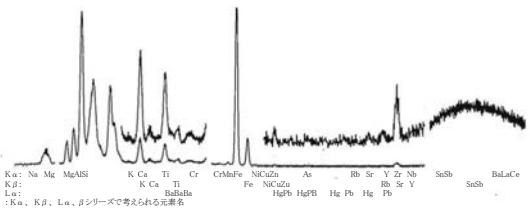
臼玉未成品№39（113264）



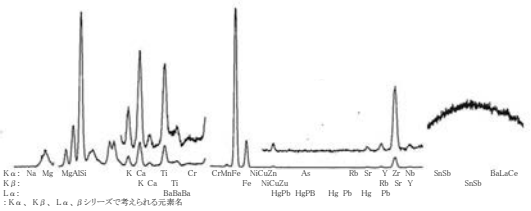
臼玉製品№44（113269）



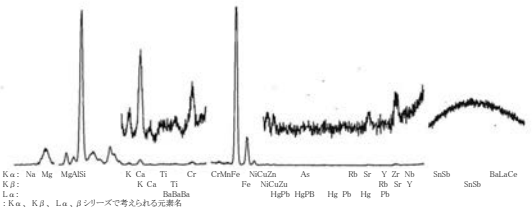
臼玉製品№45（113270）



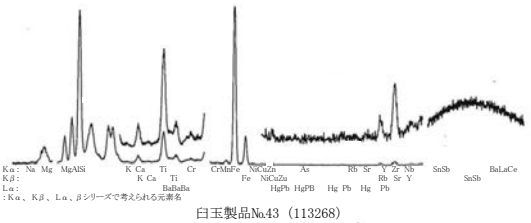
臼玉製品№46（113271）



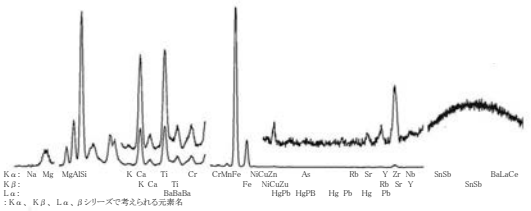
臼玉未成品№40（113265）



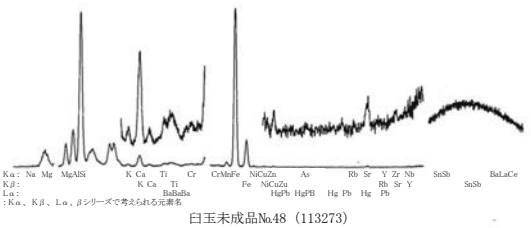
臼玉製品№42（113267）



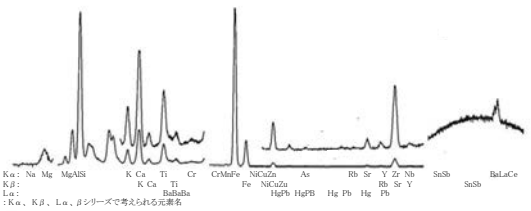
臼玉製品№43（113268）



臼玉未成品№47（113272）

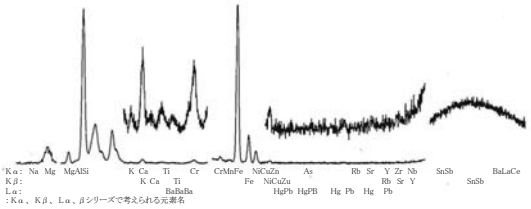


臼玉未成品№48（113273）

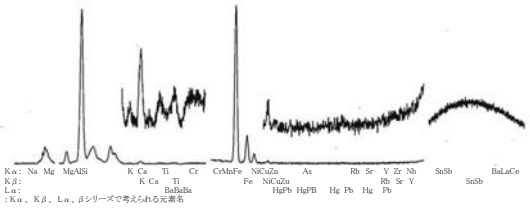


管玉№49（113274）

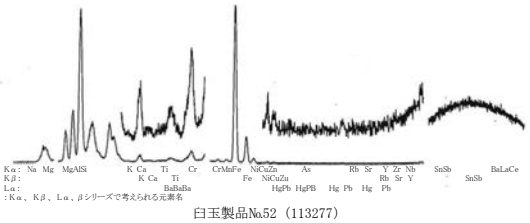
図 100　寺田遺跡出土玉類の蛍光Ｘ線スペクトル４



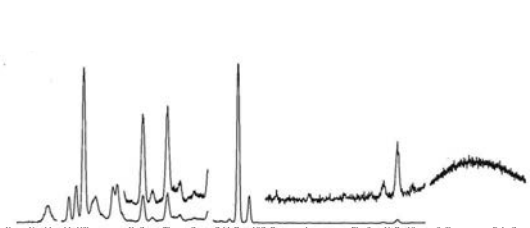
臼玉製品№50（113275）



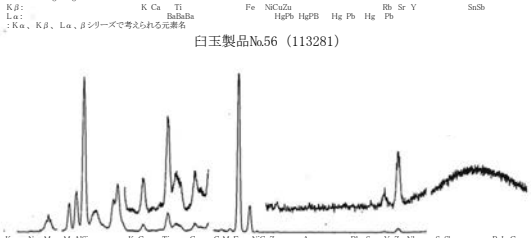
臼玉製品№51（113276）



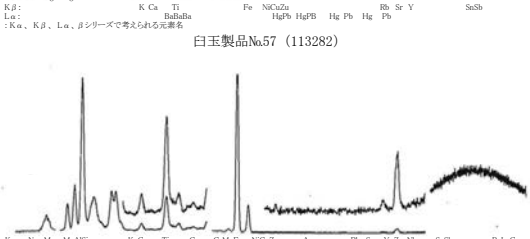
臼玉製品№52（113277）



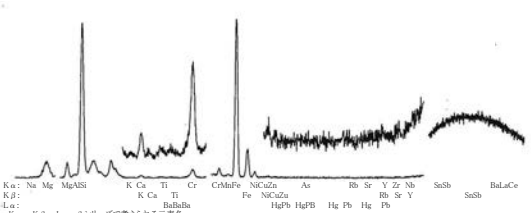
臼玉製品№56（113281）



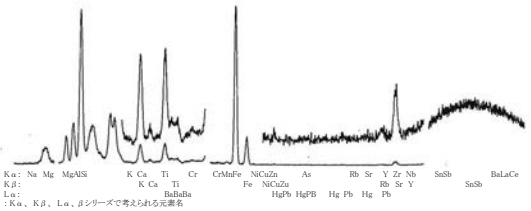
臼玉製品№57（113282）



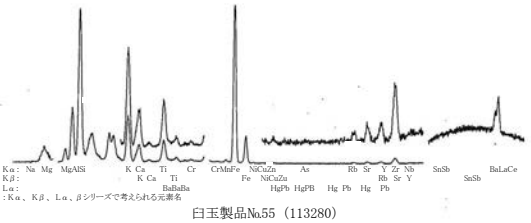
臼玉製品№58（113283）



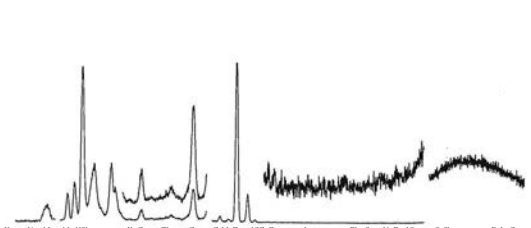
臼玉製品№53（113278）



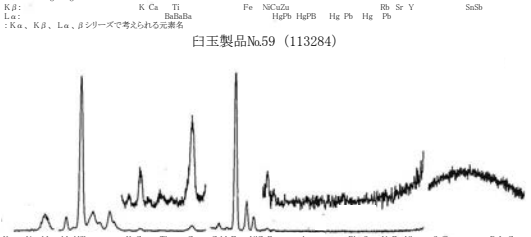
臼玉製品№54（113279）



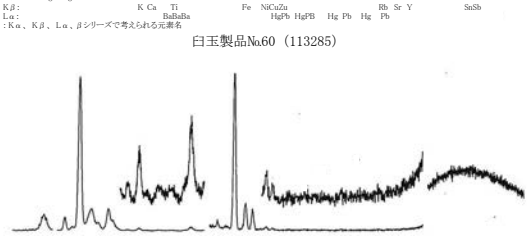
臼玉製品№55（113280）



臼玉製品№59（113284）

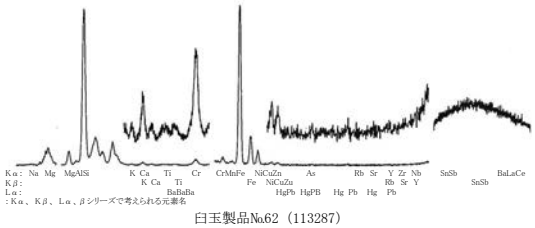


臼玉製品№60（113285）

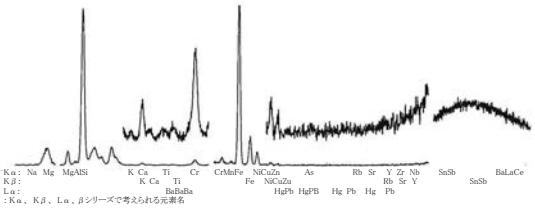


臼玉製品№61（113286）

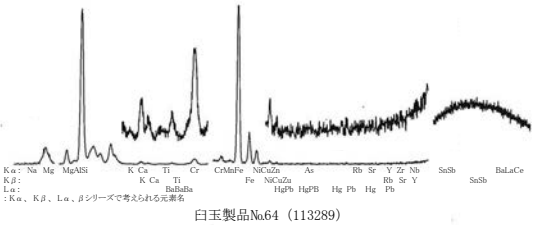
図 101　寺田遺跡出土玉類の蛍光Ｘ線スペクトル５



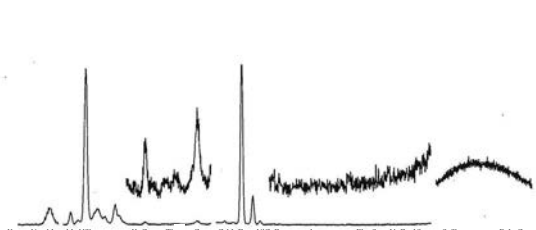
臼玉製品No.62（113287）



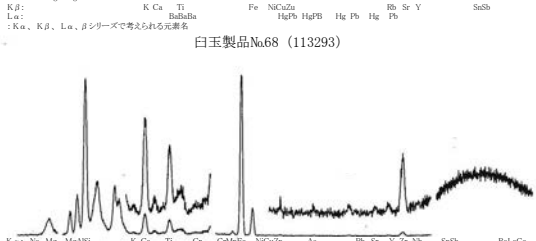
臼玉製品No.63（113288）



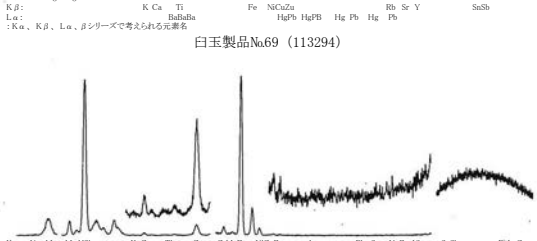
臼玉製品No.64（113289）



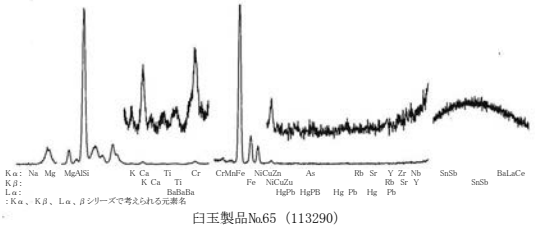
臼玉製品No.68（113293）



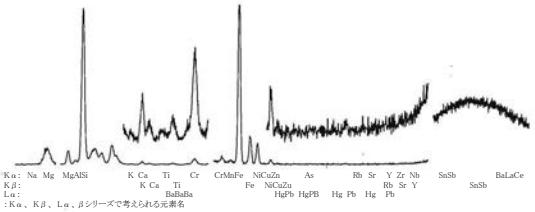
臼玉製品No.69（113294）



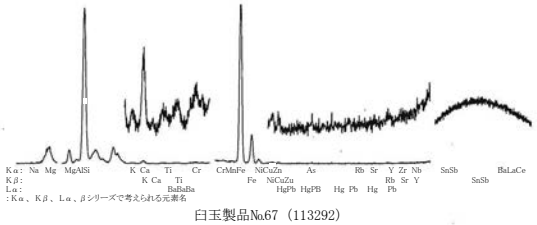
臼玉製品No.70（113295）



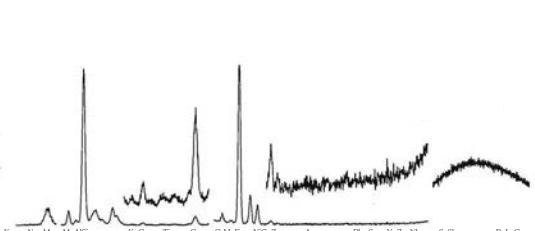
臼玉製品No.65（113290）



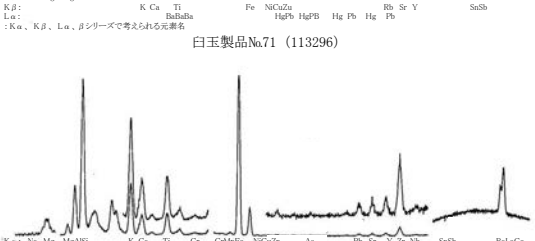
臼玉製品No.66（113291）



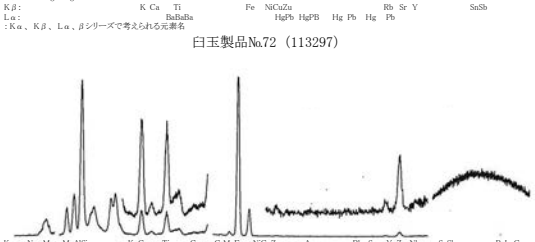
臼玉製品No.67（113292）



臼玉製品No.71（113296）

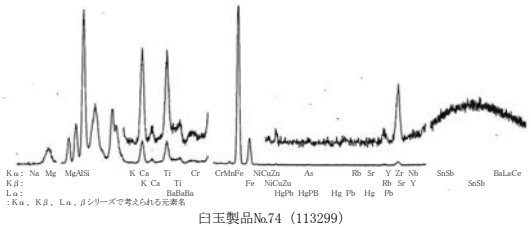


臼玉製品No.72（113297）

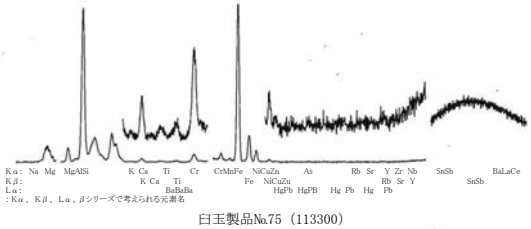


臼玉製品No.73（113298）

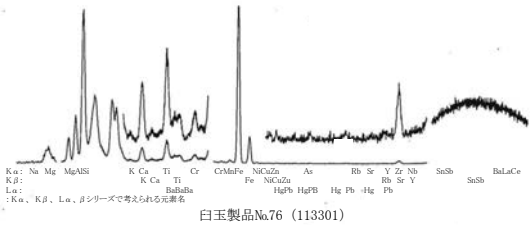
図 102　寺田遺跡出土玉類の蛍光Ｘ線スペクトル６



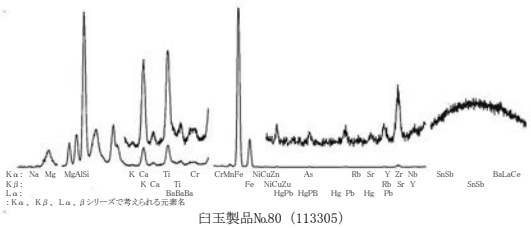
臼玉製品№.74（113299）



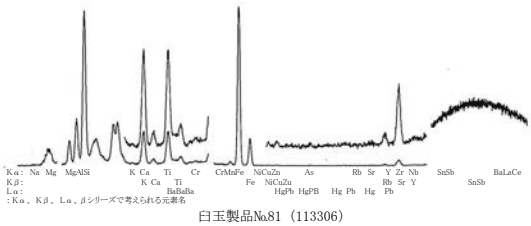
臼玉製品№.75（113300）



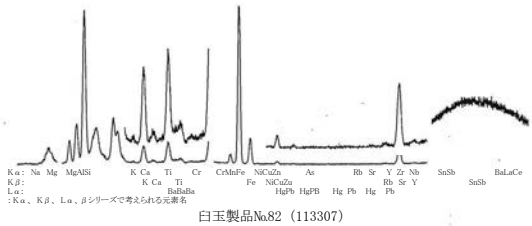
臼玉製品№.76（113301）



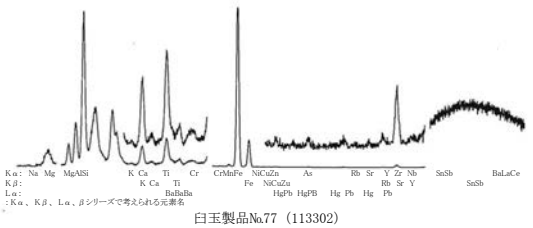
臼玉製品№.80（113305）



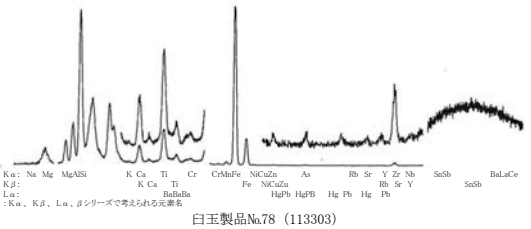
臼玉製品№.81（113306）



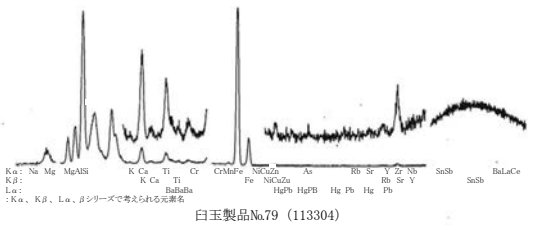
臼玉製品№.82（113307）



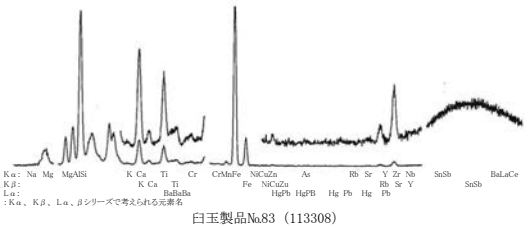
臼玉製品№.77（113302）



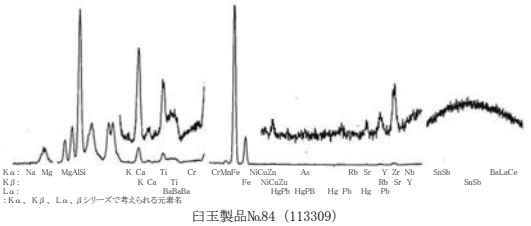
臼玉製品№.78（113303）



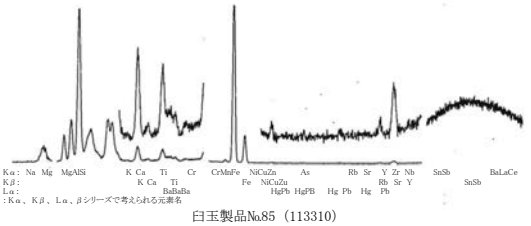
臼玉製品№.79（113304）



臼玉製品№.83（113308）

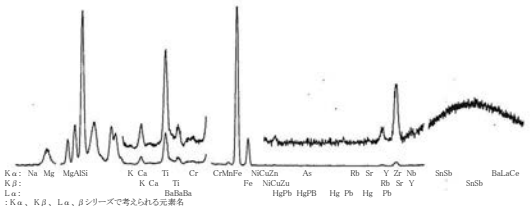


臼玉製品№.84（113309）

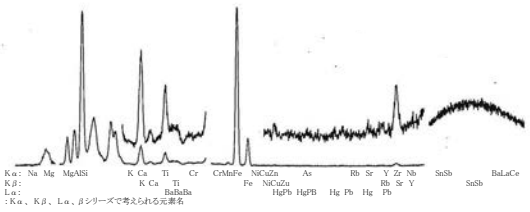


臼玉製品№.85（113310）

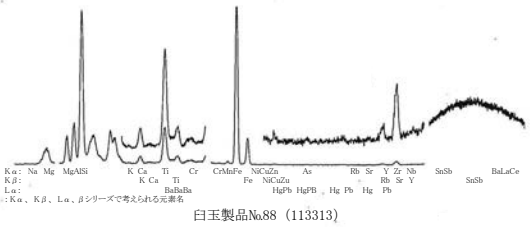
図 103　寺田遺跡出土玉類の蛍光Ｘ線スペクトル７



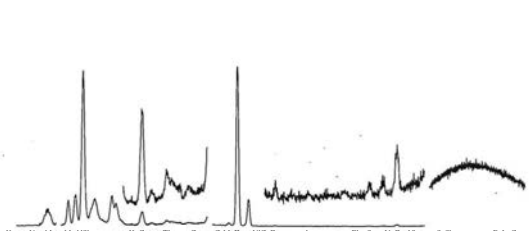
臼玉製品№86（113311）



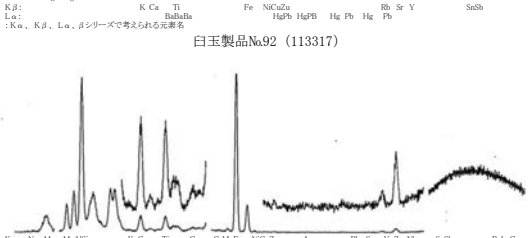
臼玉製品№87（113312）



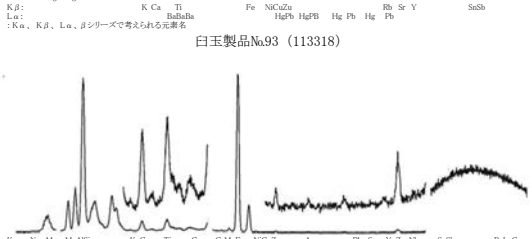
臼玉製品№88（113313）



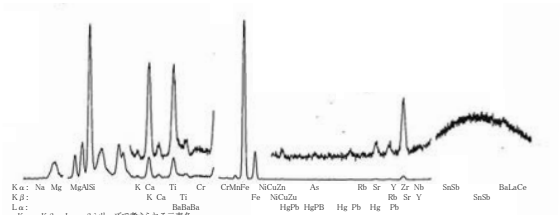
臼玉製品№92（113317）



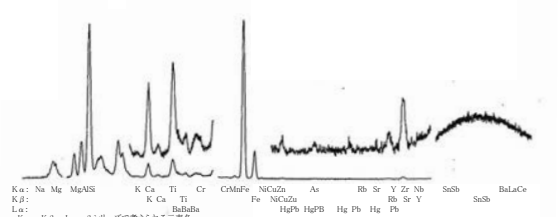
臼玉製品№93（113318）



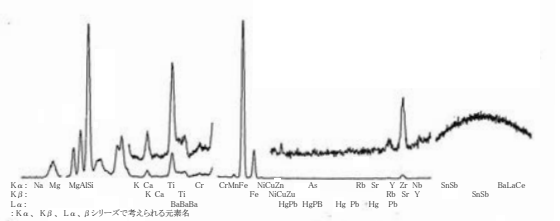
臼玉製品№94（113319）



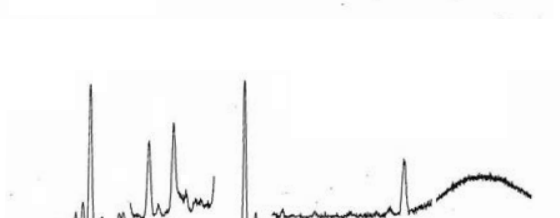
臼玉製品№89（113314）



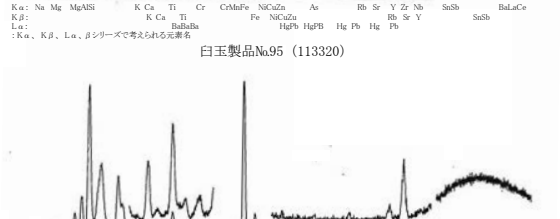
臼玉製品№90（113315）



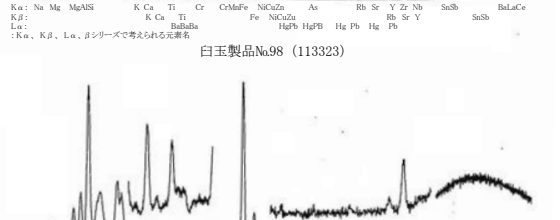
臼玉製品№91（113316）



臼玉製品№95（113320）

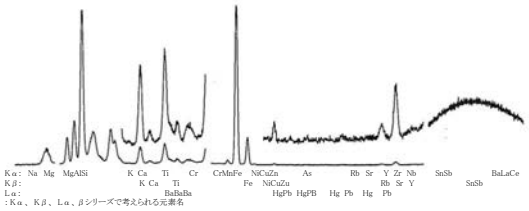


臼玉製品№98（113323）

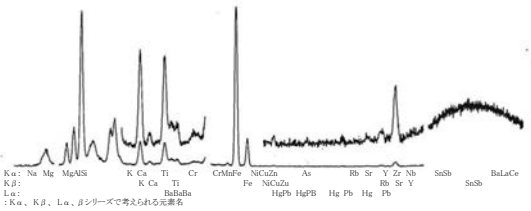


臼玉製品№99（113324）

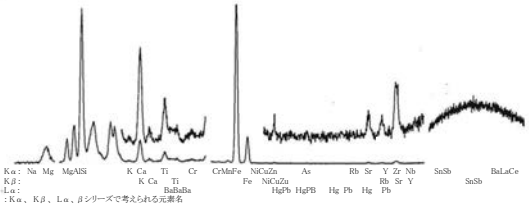
図 104　寺田遺跡出土玉類の蛍光Ｘ線スペクトル８



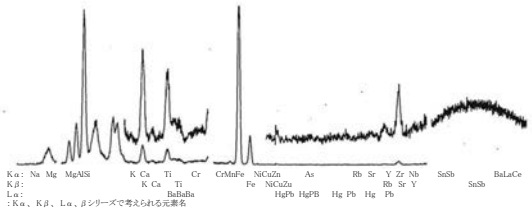
臼玉製品№100（113325）



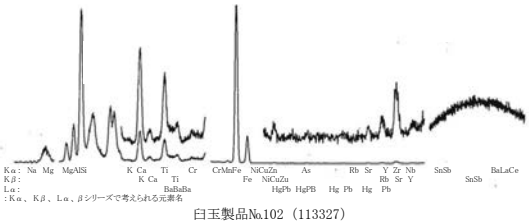
臼玉製品№103（113328）



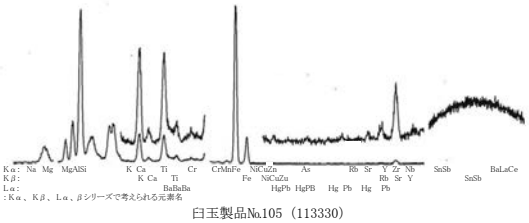
臼玉製品№101（113326）



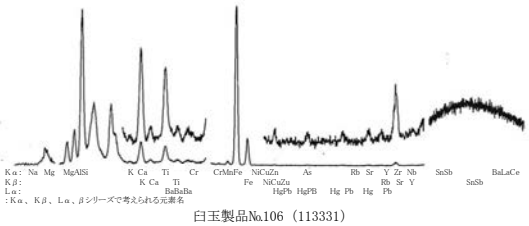
臼玉製品№104（113329）



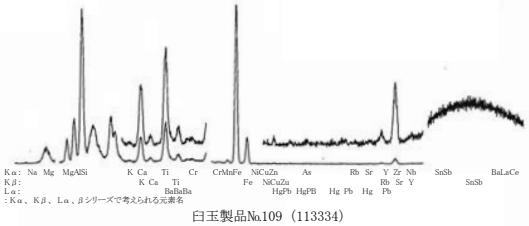
臼玉製品№102（113327）



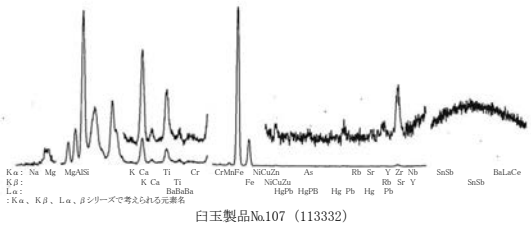
臼玉製品№105（113330）



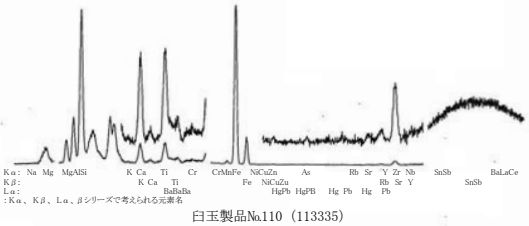
臼玉製品№106（113331）



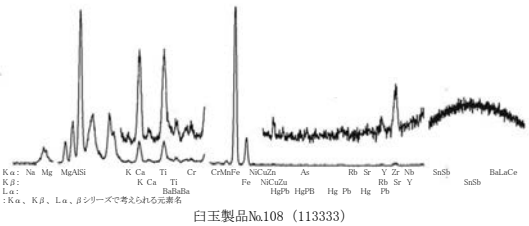
臼玉製品№109（113334）



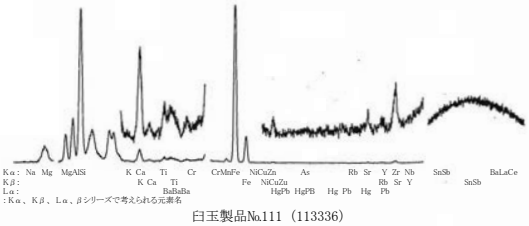
臼玉製品№107（113332）



臼玉製品№110（113335）

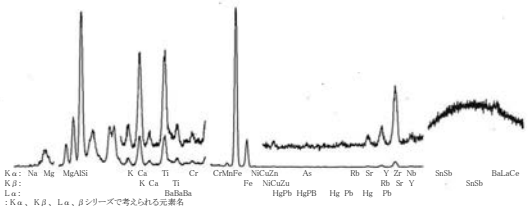


臼玉製品№108（113333）

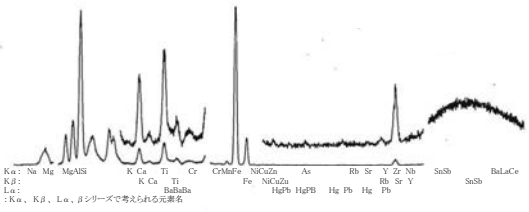


臼玉製品№111（113336）

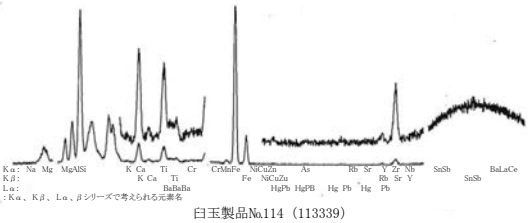
図 105　寺田遺跡出土玉類の蛍光Ｘ線スペクトル９



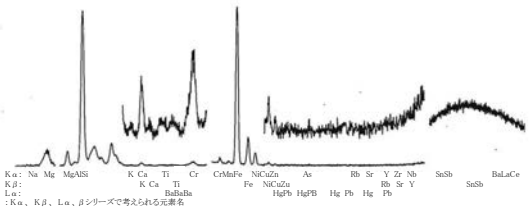
臼玉製品№112（113337）



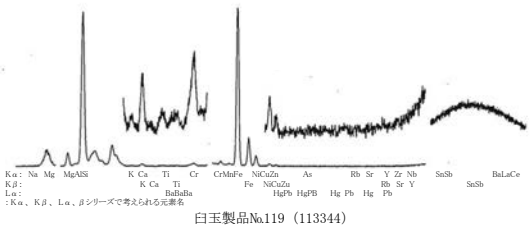
臼玉製品№113（113338）



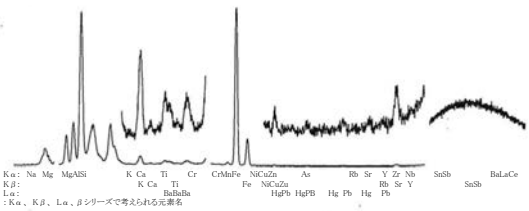
臼玉製品№114（113339）



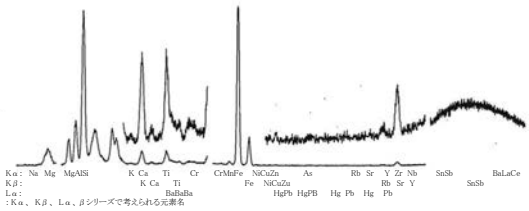
臼玉製品№118（113343）



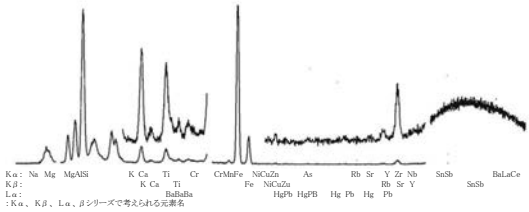
臼玉製品№119（113344）



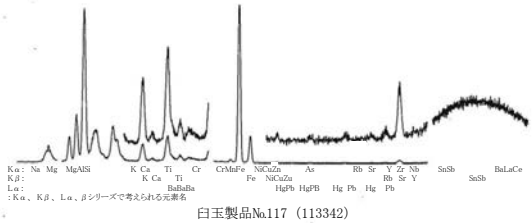
臼玉製品№120（113345）



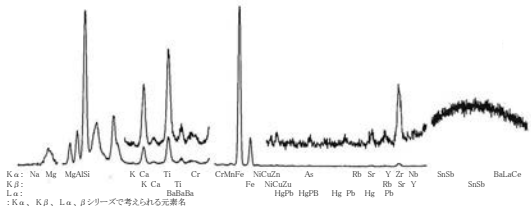
臼玉製品№115（113340）



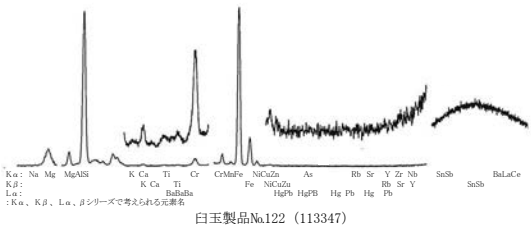
臼玉製品№116（113341）



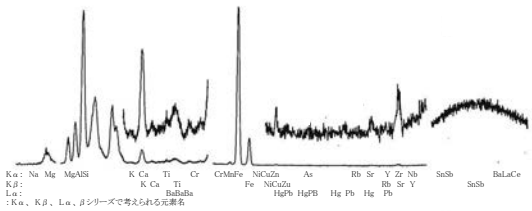
臼玉製品№117（113342）



臼玉製品№121（113346）

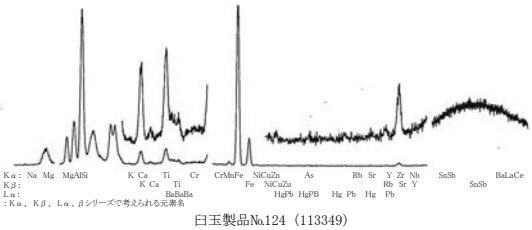


臼玉製品№122（113347）

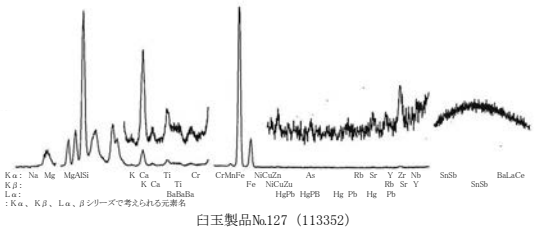


臼玉製品№123（113348）

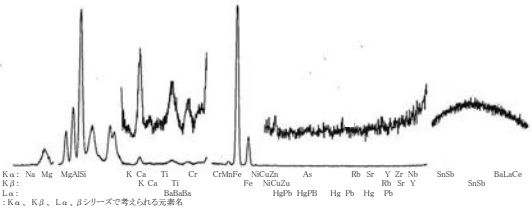
図 106　寺田遺跡出土玉類の蛍光Ｘ線スペクトル 10



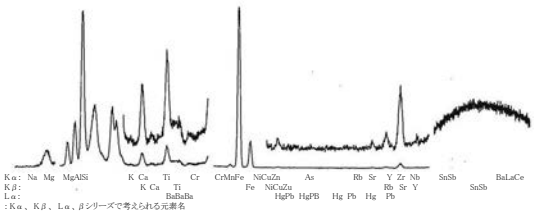
臼玉製品No.124（113349）



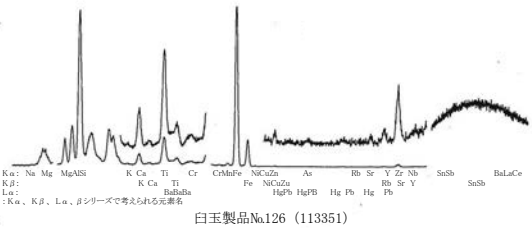
臼玉製品No.127（113352）



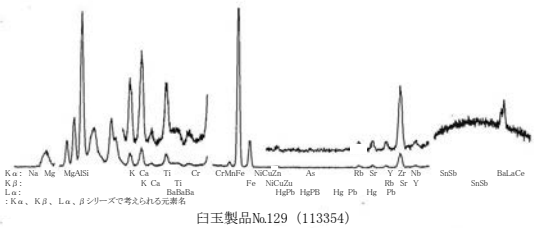
臼玉製品No.125（113350）



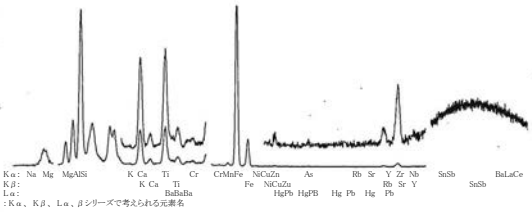
臼玉製品No.128（113353）



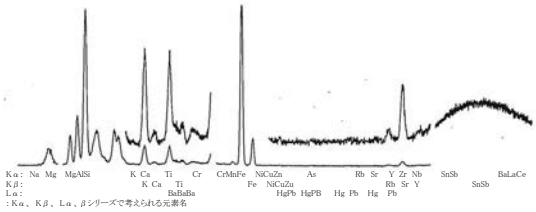
臼玉製品No.126（113351）



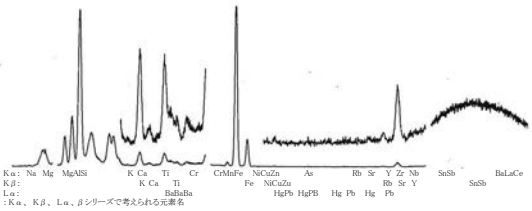
臼玉製品No.129（113354）



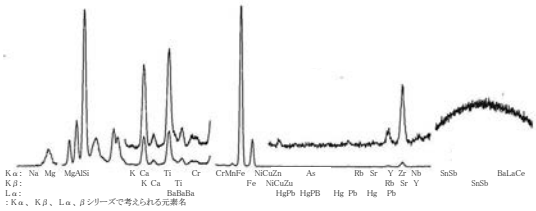
臼玉製品No.130（113355）



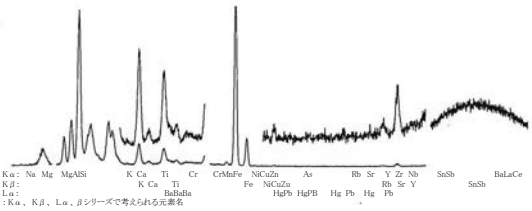
臼玉製品No.133（113358）



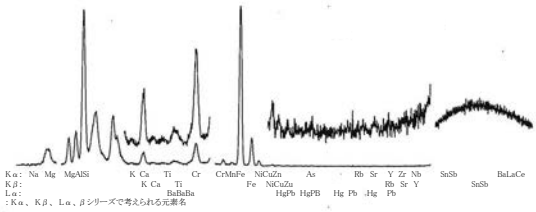
臼玉製品No.131（113356）



臼玉製品No.134（113359）

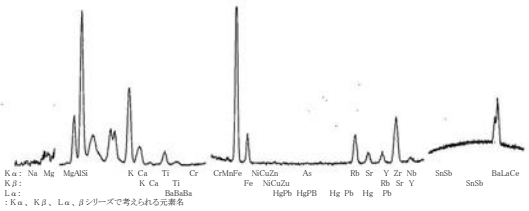


臼玉製品No.132（113357）

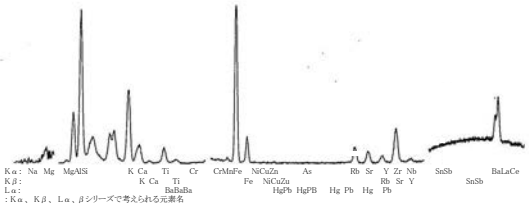


臼玉製品No.135（113360）

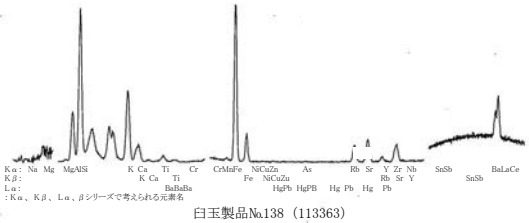
図 107　寺田遺跡出土玉類の蛍光Ｘ線スペクトル 11



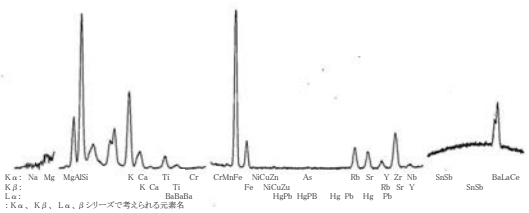
臼玉製品№136（113361）



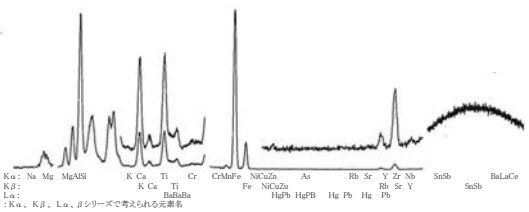
臼玉製品№137（113362）



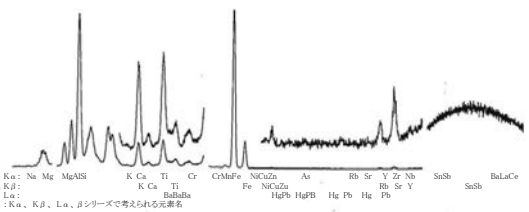
臼玉製品№138（113363）



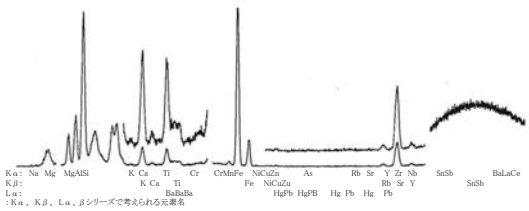
臼玉製品№142（113367）



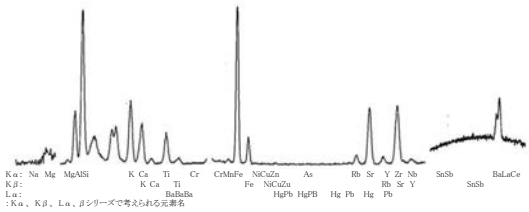
臼玉製品№143（113368）



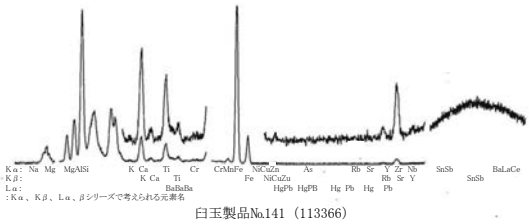
臼玉製品№144（113369）



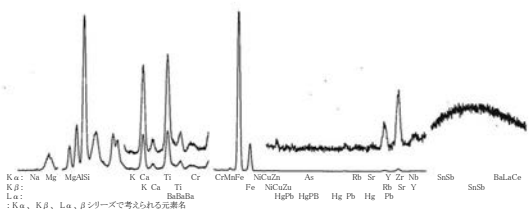
臼玉製品№139（113364）



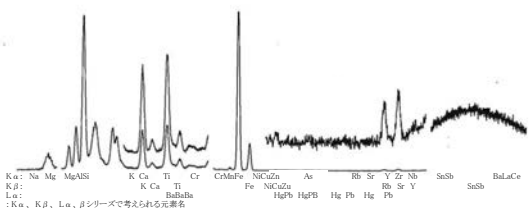
臼玉製品№140（113365）



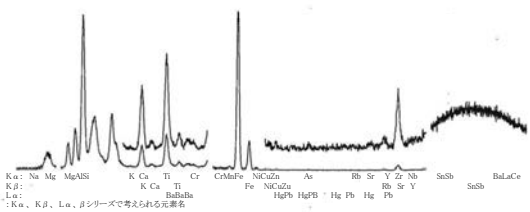
臼玉製品№141（113366）



臼玉製品№145（113370）

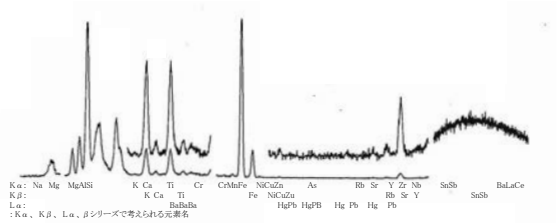


臼玉製品№146（113371）

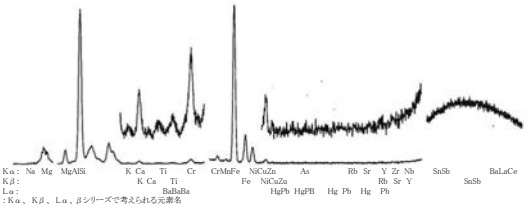


臼玉製品№147（113372）

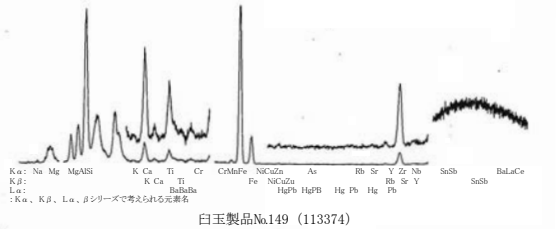
図 108　寺田遺跡出土玉類の蛍光Ｘ線スペクトル 12



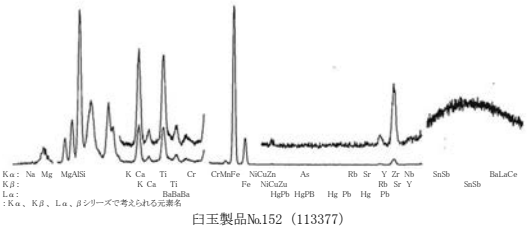
臼玉製品№148（113373）



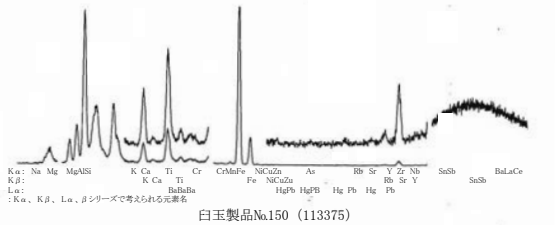
臼玉製品№151（113376）



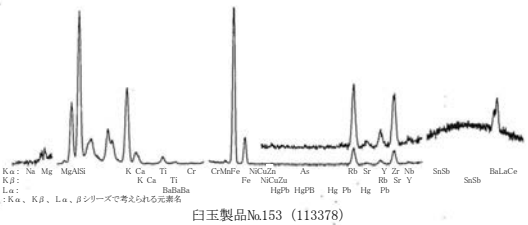
臼玉製品№149（113374）



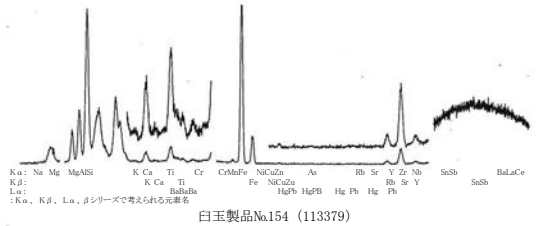
臼玉製品№152（113377）



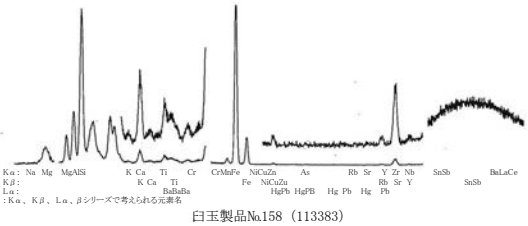
臼玉製品№150（113375）



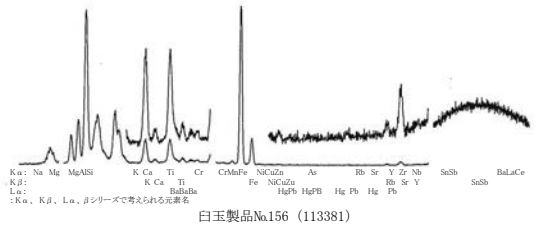
臼玉製品№153（113378）



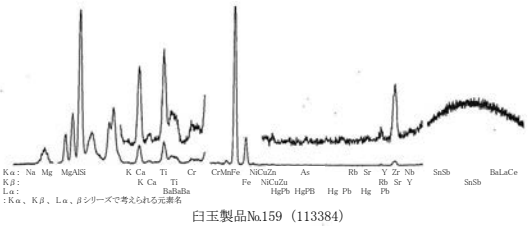
臼玉製品№154（113379）



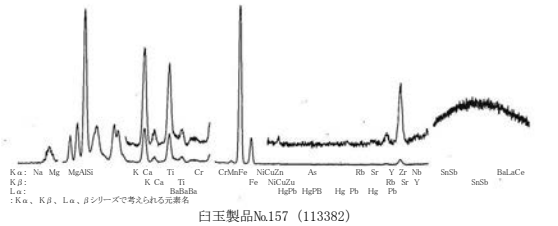
臼玉製品№158（113383）



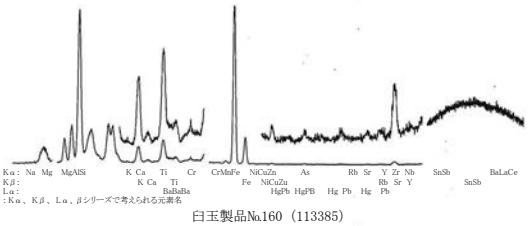
臼玉製品№156（113381）



臼玉製品№159（113384）

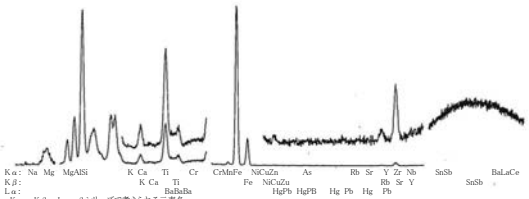


臼玉製品№157（113382）

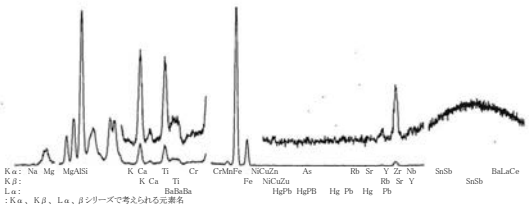


臼玉製品№160（113385）

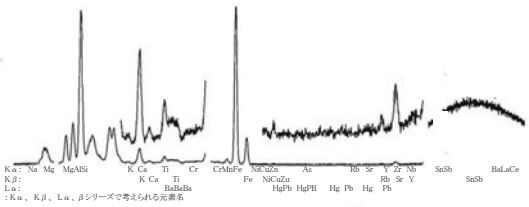
図 109　寺田遺跡出土玉類の蛍光Ｘ線スペクトル 13



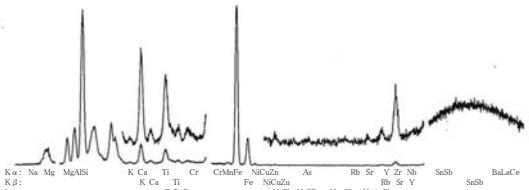
臼玉製品№161（113386）



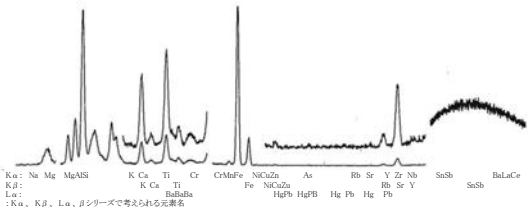
臼玉製品№162（113387）



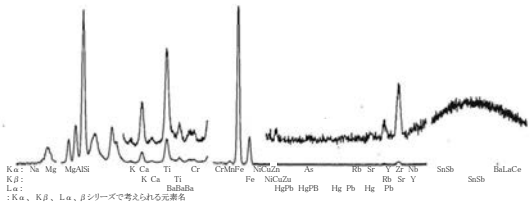
臼玉製品№163（113388）



臼玉製品№164（113389）

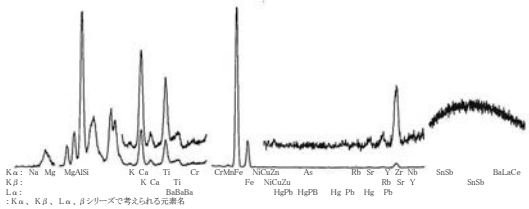


臼玉製品№166（113391）

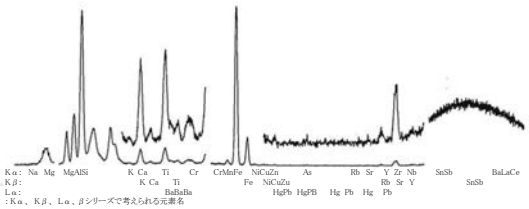


臼玉製品№167（113392）

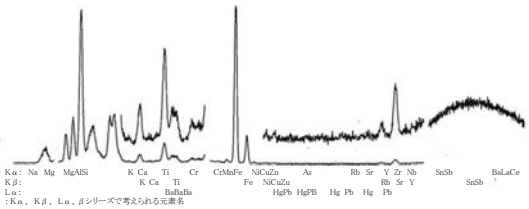
臼玉製品№168（113393）



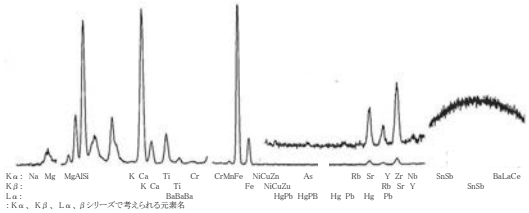
臼玉製品№171（113396）



臼玉製品№169（113394）



臼玉製品№170（113395）



双孔円盤№97（113322）

図 110　寺田遺跡出土玉類の蛍光Ｘ線スペクトル 14

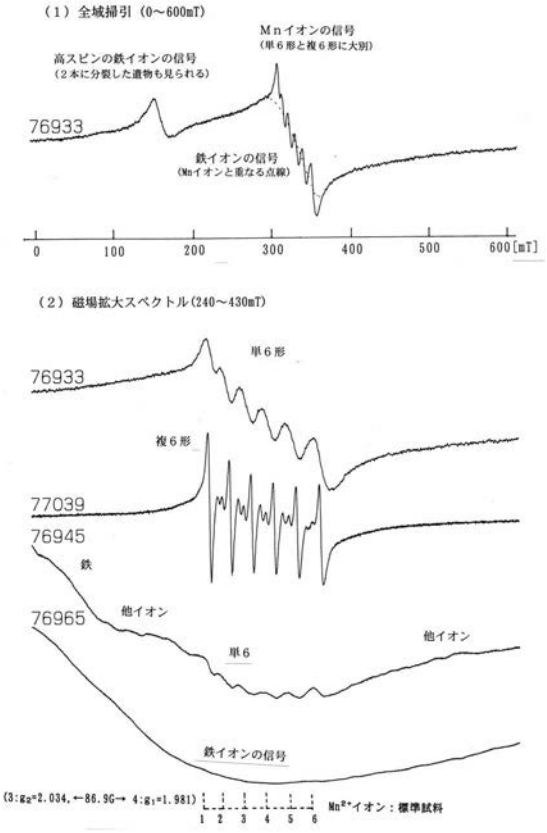


図 111　昼飯大塚古墳出土滑石、緑泥石片岩製玉類の代表的なＥＳＲスペクトル

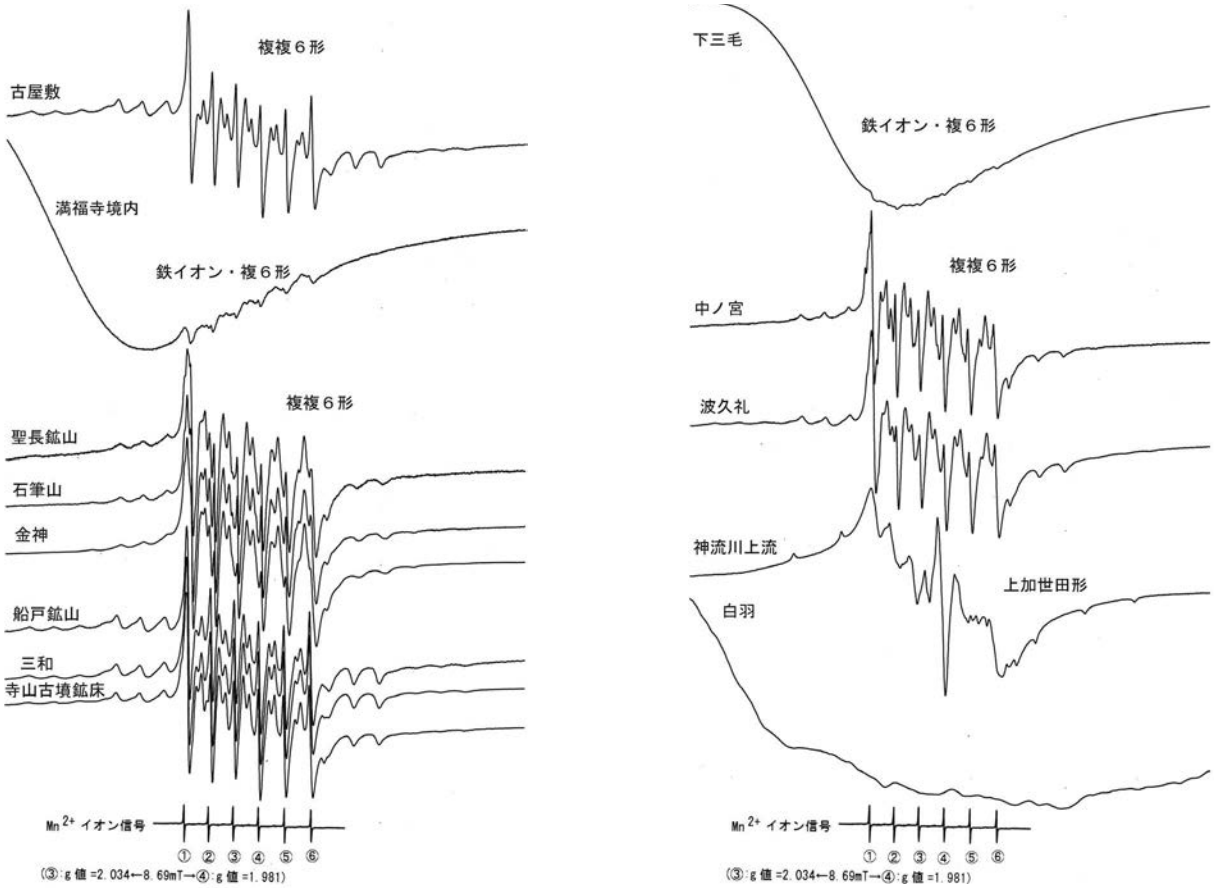
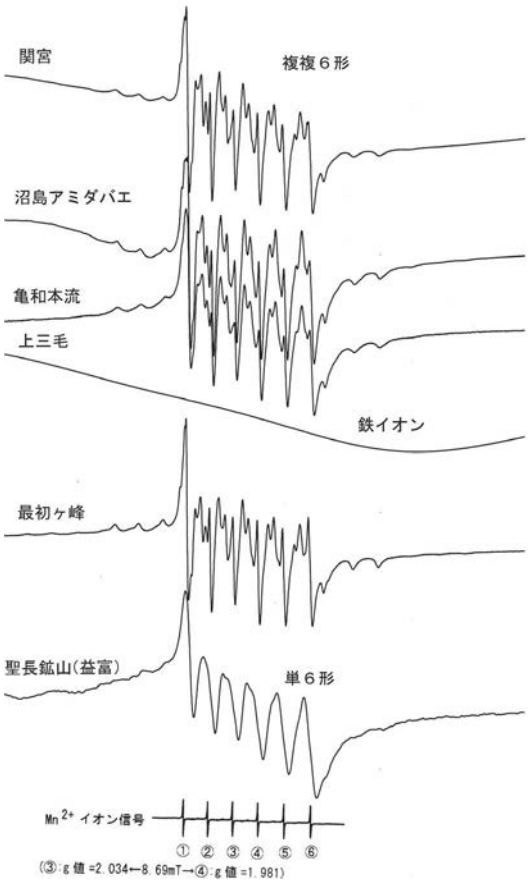
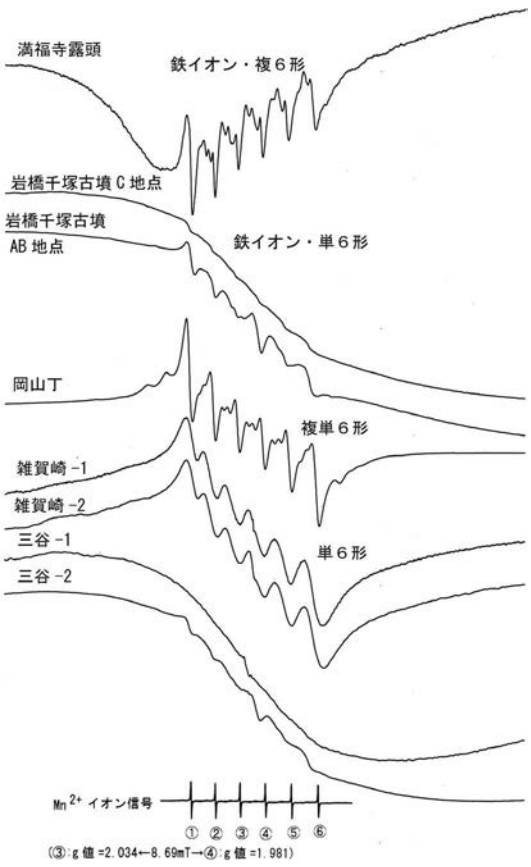


図 112　産地別滑石・片岩原石の代表的なＥＳＲスペクトル１





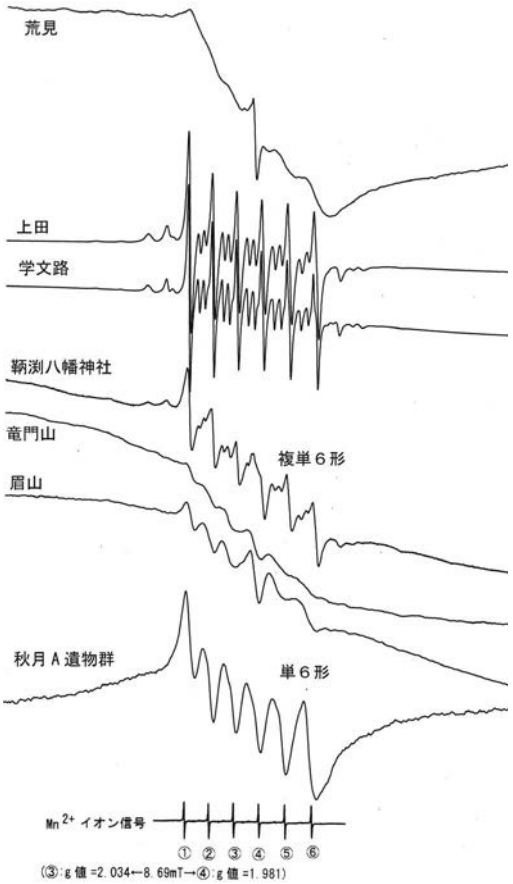
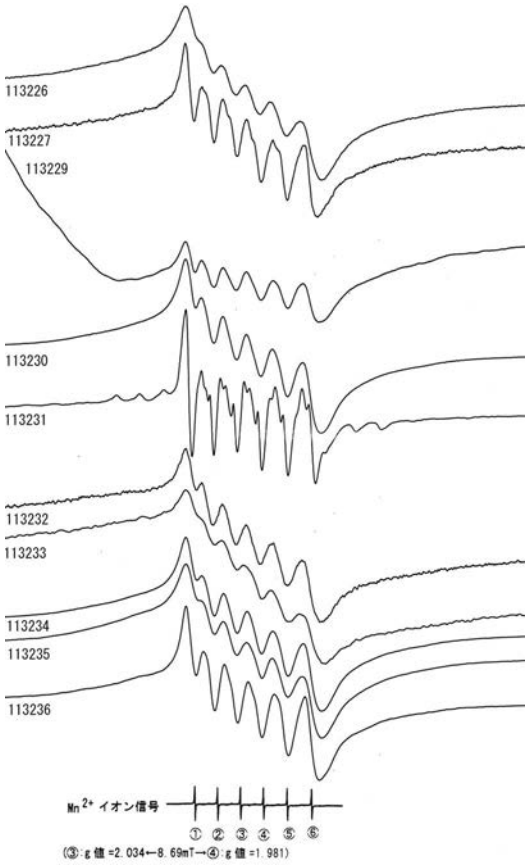
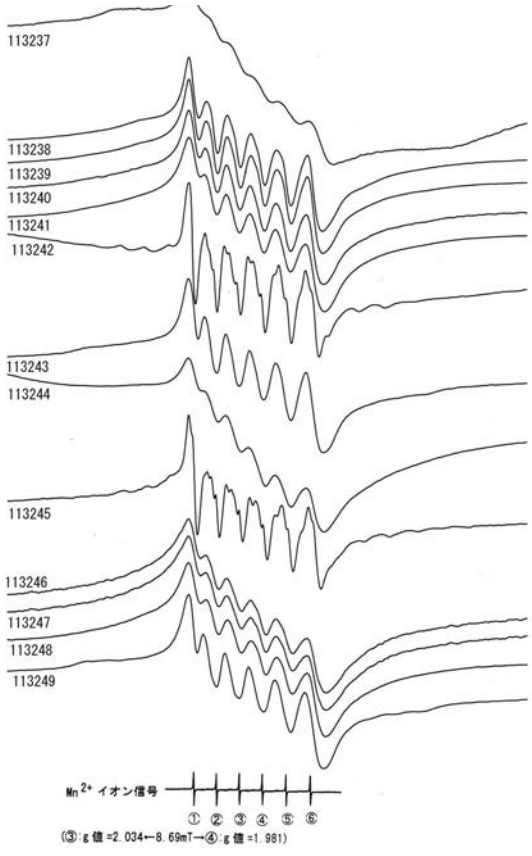


図 113　産地別滑石・片岩原石の代表的なＥＳＲスペクトル２





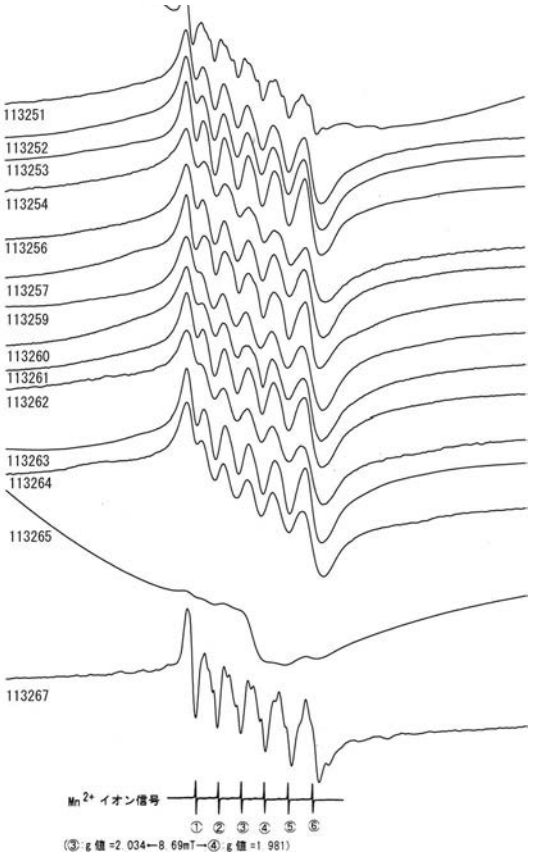


図 114　寺田遺跡出土玉類のＥＳＲスペクトル１

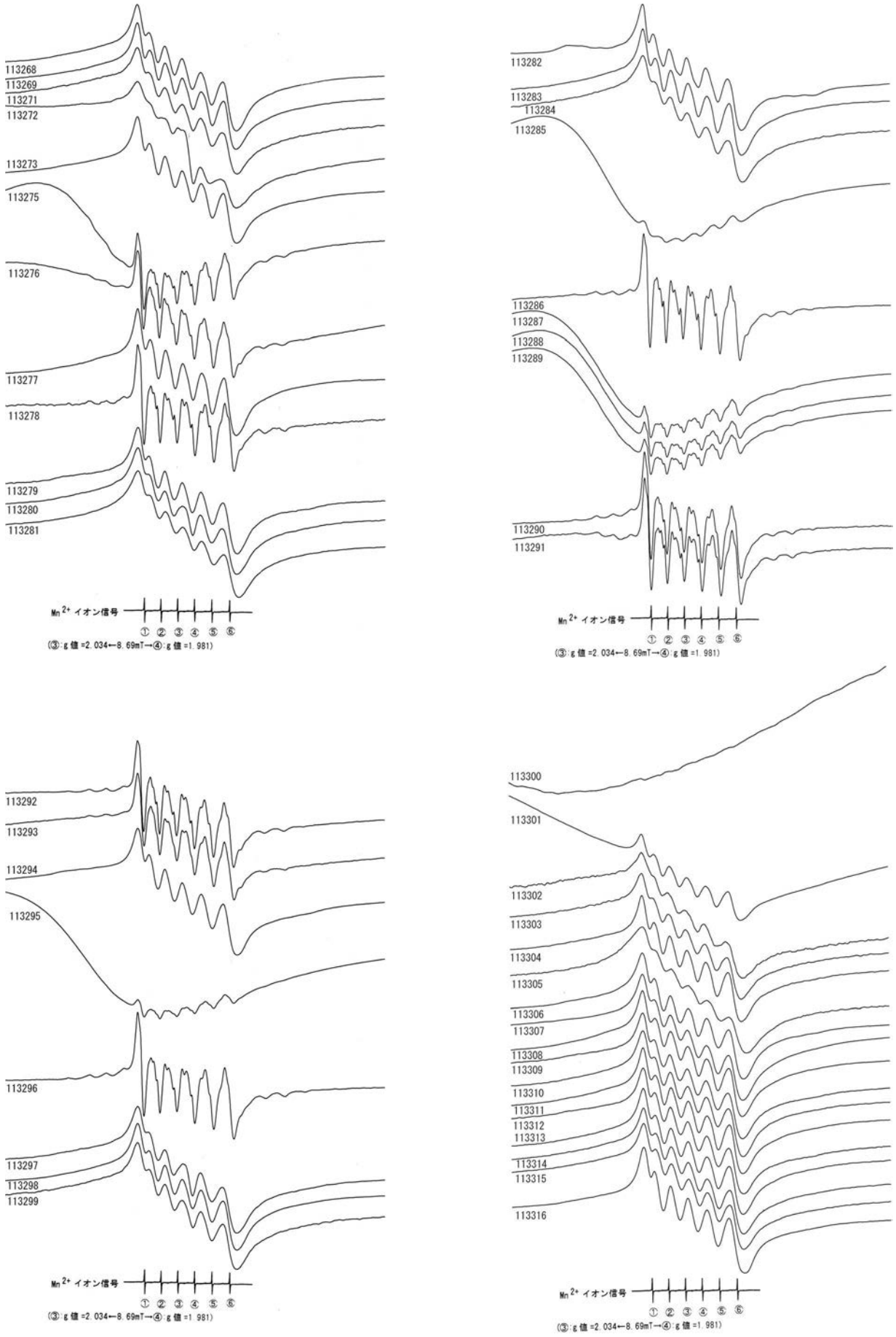


図 115　寺田遺跡出土玉類のＥＳＲスペクトル２

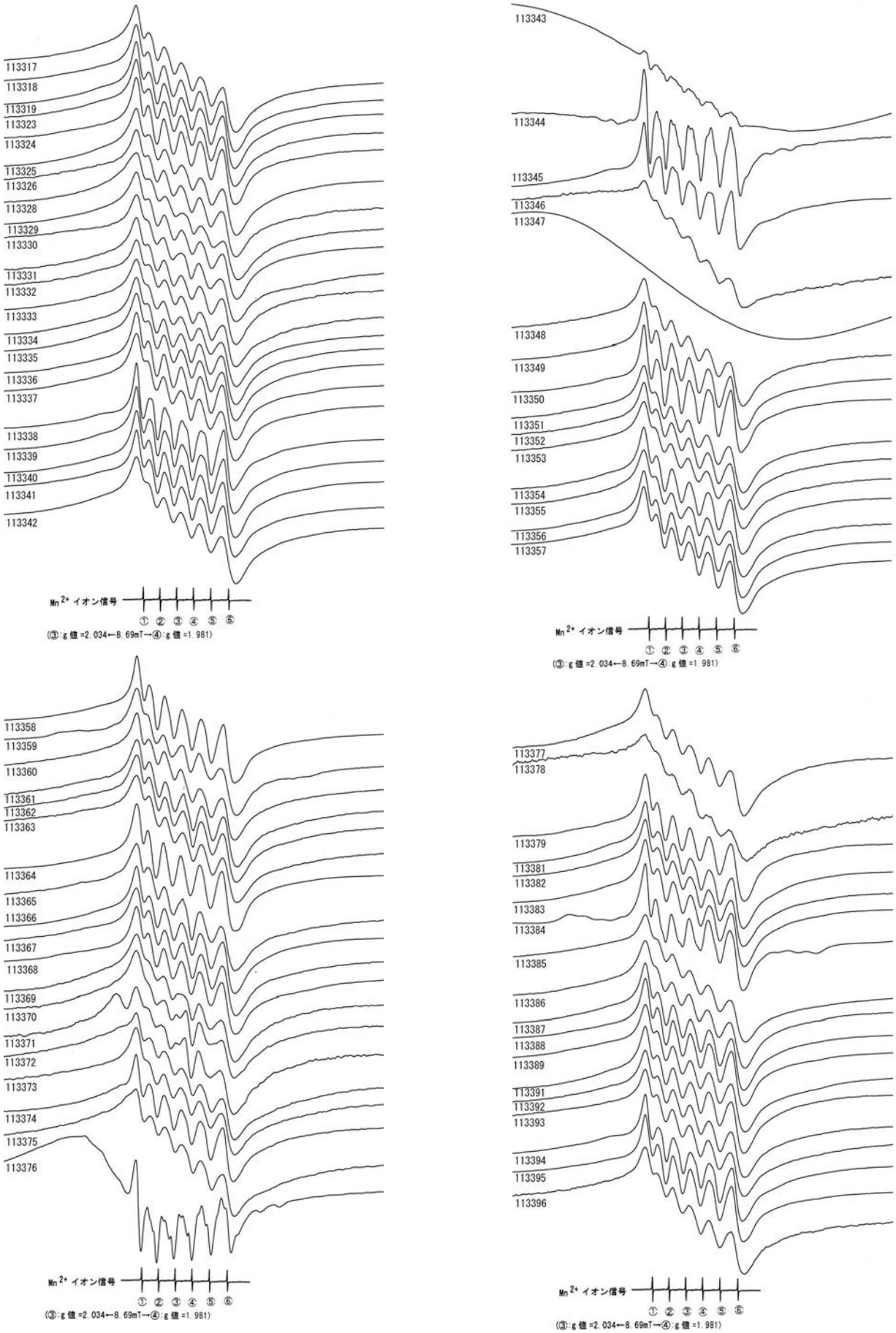


図 116　寺田遺跡出土玉類のＥＳＲスペクトル３

第７章　出土遺物の検討

第１節　弥生時代末～古墳時代前期の土器について

本調査では、016 流路などから庄内式期から古墳時代前期後半にかけての遺物が出土した。ここでは各遺構から出土した古式土師器について改めてその特徴をまとめておきたい。

器種構成　016 流路下層について器種構成を見ると、甕が 32.5％ともっとも多く、高杯 27.4％、壺 18.8％、高杯以外の精製器種 12.8％がこれに続く（表 15)。高杯と精製器種をあわせて供膳具とすれば、これらの比率が高い点が特徴的である。

製塩土器　また製塩土器の脚台が 12 点（全体の 8.0％）出土している。さらに中期後半以降の遺構からも積山分類Ｄ類の脚台が出土しており、これらを基本的に古墳時代中期前半以前の混入品と考えれば、合計 18 点以上にのぼることとなる。古墳時代中期後半以降に属する型式のものでは、047 建物から同Ｈ類（146）が１点出土しているほか、同Ｇ類かと思われる被熱した甕形のものが数点みられるが、その比率は以前に比べて減少するものと考えられる。

外来系土器　016 流路下層から出土した壺（453・454）が挙げられ、器形および胎土からは両者ともに阿波地域からの搬入品と考えられる。また 016 流路下層・上層から角閃石を含む山陰系甕口縁部片（504・381）が出土しており、中河内地域からの搬入品と考えられる。そのほか、弥生時代後期に属する可能性もあるが、溝 179 の掘削に伴って下位の基盤層から出土した壺底部(611)も胎土に角閃石を含んでいる。さらに 414 流路出土二重口縁壺(812)や３層下半出土鉢(921)も同様の胎土であり、河内あるいは讃岐地域からの搬入品の可能性がある。

精製器種の系統　高杯では、精製器種Ⅰ群が 19 点確認できるのに対し、Ⅱ群は１点しか認められない。小型丸底土器についても同様にⅠ群６点対Ⅱ群２点とⅠ群が卓越している。高杯では、その他としたものも 12 点が確認できるが、Ⅰ群の多さが特徴的である。時間的には幅を持つ資料であるが、椀型高杯の存在から考えれば、布留０式期からはこのような傾向を認めてよいものと思われる。

近畿地方では、大局的には布留１式を境にしてⅠ群からⅡ群へという器種構成の変化が認められるが（三好 2010)、大和盆地東南部など地域的にⅠ群が根強く残る場合もある。泉州では、布留式土器精製器種の系統差に関する分析は進められていないが、本遺跡の資料からは古墳時代中期までⅠ群が優勢を占める可能性が指摘できる。

精製器種の模倣　上記したように本遺跡では、中河内の庄内式にはじまる精製器種Ⅰ群が多く認められることが特徴であるが、それに加えて在地の技術でこれを模倣したものと考えられる土器も出土している。椀形高杯（531・532）は、裾広がりの低い脚部を持つもので、調整も横ミガキを採用するなど、精製器種Ⅰ群との共通性が認められる。しかしながら、脚頂部が中空の状態

で杯部を作り付ける、脚柱から裾部にかけての傾斜変換点に明瞭な屈曲がなくゆるやかに移行する、横ミガキの幅が広い、胎土に砂粒を含む、といった相違点があり、模倣に際して在地の弥生土器製作技術が動員されたものと考えられる。椀形高杯は、布留１式にはほとんど認められない器種であることから、このような模倣が布留０式期以前にさかのぼることが理解できる。

小型器台（539）も同様に、椀形の受け部をもつⅠ群に近い形態をもつが、剥離痕から脚頂部は窪んだ状態で受け部を作り付けていることが理解できる。

遺跡による様相の違い　近隣には庄内式期の土器を出土した遺跡は多く報告されており、岸和田市大町遺跡流路 NR01（三木 2007）などは、庄内式でも新しい様相を示す可能性が高いと思われるが、このような模倣品は認められず、精製器種Ⅰ群自体も出土していない。大町遺跡では、わずかに河内産庄内甕が認められるが、大津川の対岸の豊中遺跡では、多くの庄内甕の出土が知られており、当該期の土器様相には遺跡ごとの差が大きかった可能性が高い。精製器種Ⅰ群とその模倣品の分布もまたこういった遺跡の性格の差を表すものか、あるいは布留０式前後のかなり短い時間幅の様相を示すものか、さらに検討が必要である。

甕の模倣　016 流路下層出土甕（483）は、断面形としては、庄内甕もしくは古相の布留甕と類似したものだが、その調整は、横方向のハケが目立ち、内面にケズリは施されていない。精製器種同様、甕においても庄内式ないし布留式の模倣があったのではないかと思われる。また、同じく 016 流路下層出土甕（474）は、Ｖ様式系のタタキ甕であるが、外面のタタキの痕跡をナデ消し､底部径を小さくするような調整が加えられたことが見て取れる。同じ遺構出土の壺（469)･鉢（552）や第３層下半の甕（915・916・917）についてもタタキ成形を用いながらも、小さな底部径を志向したものと考えられる。これらは伝統的なＶ様式系の規範からの逸脱を示すものと考えられ、精製器種の様相とあわせて当該期の寺田遺跡を評価するうえで重要な要素となる。

小　結　以上、本調査で出土した古式土師器の特徴について 016 流路下層を中心に概観した。時期に幅はあるが、大津川流域における古墳時代初頭の土器様相を把握するうえで良好な資料となるものと思われる。とくに精製器種の中でⅠ群の比率が高く、その模倣品が存在することは注目される。これらは精製器種Ⅰ群の中心地である中河内地域の土器様式への志向を示唆するものである。これに対して、近隣の和泉市府中遺跡（和泉寺跡）では、弥生時代後期～庄内式期にかけての淡路島に特徴的な土器と共通する要素をもつ器台や甕が多く報告されている（土屋編 2012 など)。これらの資料の主体は庄内式期でもやや古相にあたるものと考えられ、新相以降の様相を示す寺田遺跡の様相とは時間差がある。したがって本地域では、庄内式期の中で淡路島など大阪湾沿岸の地域から中河内地域へと主な外来系土器の様相が変化した可能性がある。もっとも庄内式期でも多くの庄内甕が出土する和泉市豊中遺跡や庄内式期新相でも中河内志向の土器が認められない岸和田市大町遺跡などの存在を考えると、流域全体を包括する傾向を導き出そうとすることは不適切かもしれない。今後も遺跡あるいは居住域ごとの様相把握に努める必要があると思われる。

第２節　古墳時代中期の土器について

須恵器と土師器の比率　今回の調査で出土した古墳時代中期の土器には、土師器と須恵器があり、泉州ではとくに須恵器の比率が高いことがこれまでの調査でも注目されてきた（広瀬 1981 など)。それらをふまえて土器の構成比率をまとめたものが表 15 である。中期の遺構出土土器を百分比で表せば、重量ではほぼ須恵器 45 対土師器 55、破片数では 15 対 85 と土師器が須恵器を上回るが、個体数では、61 対 39 と逆転する。さらに前期の遺物を比較的多く含む 016 流路出土土器をのぞけば、71 対 29 と須恵器が土師器を圧倒することになる。

周辺遺跡との比較でいえば、堺市深田遺跡、同太平寺遺跡、同西浦橋遺跡など、陶邑窯跡群の所在する石津川流域の集落でも須恵器が７～８割を占めるとされている（石神 1984)。また高石市大園遺跡は、直接陶邑窯跡群と同じ河川流域ではないが、６世紀後半における須恵器の構成比率は、８割以上であるとされており（広瀬 1981)、寺田遺跡の様相もこれらと整合的である。

器種構成　次に器種構成についてみてみたい。土師器では、高杯 31.9%がもっとも多く、甕 27.7%、壺 20.2%、甑 9.2%と続く。高杯の比率が高く、甕に集中していない点が特徴的である。中期前半にさかのぼる可能性が高い 410 井戸（高杯７点）および 418 建物（同１点）を除くと、高杯と甕の比率は逆転するが、いずれにしても甕への集中度合いが低いことは変わらない。

須恵器の器種構成は、杯身・杯蓋が 168 点で 58.5%と最も多い。次いで高杯（無蓋、有蓋）

表 15　出土土器組成比較

遺跡名		全体比率 須恵器	全体比率 土師器	須恵器 蓋杯	甕	高坏	𤭯	壺	坩	器台	坏	椀	把手付鉢	鉢	擂鉢	提瓶	甑	その他	土師器 坏・椀	高坏	甕	壺	器台	甑	鉢	その他	数量比率	備考
寺田	前期	2	117	2															8	32	38	22	6		3	8	点	016 流路下層のみ対象
		1.7	98.3	100.0															6.8	27.4	32.5	18.8	5.1		2.6	6.8	%	土師器その他は製塩土器
	中期	287	119	168	6	69	6	24		4			7	1		1	1			38	33	24		11	2	11	点	点数は個体数
		70.7	29.3	58.5	2.1	24.0	2.1	8.3		1.4			2.4	0.3		0.3	0.3			31.9	27.7	20.2		9.2	1.7	9.2	%	016 流路上層を除く
西浦橋	6C 初	786		525	45	125	24	1		60								6			約 20						点	SDN2 が対象
				66.8	5.7	15.9	3.1	0.1		7.6								0.8									%	
	6C 後半～7C	627		393	54	89	12	34		30								15			約 20						点	点数は個体数
				62.7	8.6	14.2	1.9	5.4		4.8								2.4									%	
太平寺	全体	198	52	128	7	30	21	9									3		3	2	42	1		4			点	点数は個体数
		79.2	20.8	64.6	3.5	15.2	10.6	4.5									1.5		5.8	3.8	80.8	1.9		7.7			%	
	SKN7	75	17	45	3	13	10	3									1		3	2	10			2			点	
		81.5	18.5	60.0	4.0	17.3	13.3	4.0									5.9		17.6	11.8	58.8			11.8			%	
	SKN6	76	13	51	2	13	6	4													12	1					点	
		85.4	14.6	67.1	2.6	17.1	7.9	5.3													92.3	7.7					%	
	SKB1-2	47	22	32	2	4	5	2									2				20			2			点	
		68.1	31.9	68.1	4.3	8.5	10.6	4.3									4.3				90.9			9.1			%	
深田	SD001	564	243	140	212	60	15	34	1	7	24	11		4			16	40		22	119	59	2	2		39	点	点数は破片数
		69.9	30.1	24.8	37.6	10.6	2.7	6.0	0.2	1.2	4.3	2.0		0.7			2.8	7.1		9.1	49.0	24.3	0.8	0.8		16.0	%	
	SK006	2928	621	1207	942	198	47	112		12	218	16		1				175	3	6	318	96	9	9		180	点	
		82.5	17.5	41.2	32.2	6.8	1.6	3.8	0.0	0.4	7.4	0.5		0.0				28.2	0.5	1.0	51.2	15.5	1.4	1.4		29.0	%	
東上野芝	Ⅰ期			11	12	8	3	2		1	1	2															点	点数は個体数
				27.5	30.0	20.0	7.5	5.0		2.5	2.5	5.0															%	陶邑Ⅰ-2 期
	Ⅱ期			63	42	24	8	3		6		3		1					27	48	54	27		47		7	点	陶邑Ⅰ-3～4 期
		77.0	23.0	42.0	28.0	16.0	5.3	2.0		4.0		2.0		0.7													%	
	Ⅲ期			21	11	6		1																			点	陶邑Ⅰ-5～Ⅱ-1 期
				53.8	28.2	15.4		2.6																			%	
	Ⅳ期			25	3	2													12.9	22.9	25.7	12.9		22.4		3.3	点	陶邑Ⅱ-2～4 期
				83.3	10.0	6.7																					%	
大園	6C 後半	647	130	490	35	45	2	27		2		1		3				2	2		110			5		5	点	点数は個体数と思われる
		83.3	16.7	75.7	5.4	7.0	0.3	4.2		0.3		0.2		0.5				0.3	1.5		84.6			3.8		3.8	%	

※石神 1984 に加筆

が 24.0%、壺が 8.3%、甕が 2.1%と続く。杯身・杯蓋と高杯を併せて供膳具とすれば、その割合は 82.5%にのぼり、貯蔵形態を圧倒している。これに対して土師器でも供膳具である高杯が相対的に多く存在することは、既述した通りだが、須恵器高杯と土師器の比率を比較すると 64 対 36 と須恵器が卓越することとなる。このことを重視すれば、大園遺跡で広瀬が指摘した須恵器が供膳形態の主体になるという６世紀後半の様相に向けて変化していく過程を反映したものと考えることも可能である。泉州では土師器椀が器種構成から欠落するという点が特徴的であるが、これもまた須恵器との関係で理解すべきであろう。

遺跡による構成比の違い　これに加えて堺市太平寺遺跡や深田遺跡などの石津川流域の遺跡では、明らかに中期に属する土師器の構成比をみても、甕への集中度合いが高い点は注目される。須恵器の生産・流通を担った地域とその周辺部とで器種構成に差が生じている可能性がある。

遺跡による様相差は、須恵器でも確認できる。すなわち堺市深田遺跡 SD001（中村 1973）は、破片点数のカウントであるため、同じ条件での比較ではないが、蓋杯 24.8%に対して甕が 37.6%と高い比率を示す。同遺跡 SK006 でも蓋杯 41.2%、甕 32.2%と比較的高率である。寺田遺跡の 2.3%はじめ通有の集落では、甕の組成が 10%を超えることはなく、その時期の古さに加えて、深田遺跡が須恵器の流通に直接関与したことを反映する可能性がある。さらに陶邑窯跡群から離れた堺市東上野芝遺跡でも甕が 30%前後と高率を示しており、こちらについてはその立地から須恵器の流通ではなく、百舌鳥古墳群の築造と関連した現象と解釈できるかもしれない。

須恵器の胎土　土師器との比率や器種構成以外に特筆すべき観点として、須恵器の胎土が挙げられる。本遺跡出土須恵器の多くの個体には、石英や長石などと考えられる白色砂粒やクサリ礫が還元炎焼成されたものと思われる黒色砂粒が含まれているが、それらに加えてチャートを含む個体が一定数を占めている。図化を行った須恵器 315 点のうち、チャートを含むものは 40 点（12.7%）である。チャート入り須恵器には、砂粒を多く含んだ粗い胎土、内外面および断面まで灰白色を呈する色調、甘い焼成といった特徴が認められる。

これに対して、須恵器で精良とされる特徴として内外面灰色で断面が小豆色を呈するものがあるが、こちらは 72 点（22.9%）を図化した。断面小豆色須恵器には、色調以外にもわずかに微細な白色砂粒を含む精良な胎土、硬質な焼成といった特徴が認められる。

以上の２種類の胎土は、同一遺構において供伴することから時間差による違いとは考えられない。また特定の器種に偏ることなく用いられていることから、機能差による胎土の使い分けとも考えにくい。よってここで認められる胎土と焼成の相関関係は、それらを生産した窯の違いを表すものと考えることが妥当であろう。さらに言えば陶邑窯跡群で大勢を占めるのは、断面小豆色須恵器であり、チャート入り須恵器についてはあまり報告例を聞かない。前者は陶邑窯跡群の主流をなすものであるのに対し、後者はマイナーな生産の有り方を示すものかもしれない。

近年、陶邑窯跡群を東と西に二分し、それぞれの製品や窯構造の違いなどを明らかにしようとする試みがなされているが（菅原 2006、十河 2010）、対象とする時期や地区によっては、このよう

な胎土の違いも比較の観点として有効と思われる。しかしながら資料としては、チャートを含まないが断面小豆色でもないという個体が最も多く、これらの位置付けも念頭に置いた過去の報告資料胎土の再検討が望まれるところである。

外来系土器　古墳時代中期の土師器では、016 流路上層出土の宇田型甕（図 54-397）が挙げられる。胎土に粗い白色砂流を多く含んでおり、在地の一般的なものと異なることから、搬入品の可能性が高いと思われる。搬出元と考えられる東海地域での分類における宇田型甕３類（古墳時代中期中頃～後半）に該当するものと思われる（赤塚・早野 2001）。

第３節　韓式系軟質土器およびその関連資料について

第３次調査出土土器　韓式系軟質土器としては、047 建物出土甕体部片（図９-36）、410 井戸出土甕（図 33-141）、146 落ち込み出土小型平底鉢（図 41-237）が挙げられる。ほかに 016 流路上層出土土製品（図 54-398）も全形は不明であるが、土師器の範疇では理解しにくいものである。

また瓦質焼成の 016 流路上層出土円筒形土製品（図 52-354）は、本来住居等の排煙に用いられたと考えられ、渡来人とのかかわりを示すものとしてとらえられる。円筒形土製品は、寺田遺跡第１次調査でも３個体以上が出土しており（図 118-⑮～⑲）、形態や調整にまとまりがない点が特徴的である。近隣では、堺市伏尾遺跡や同小阪遺跡等でも類例が知られており、陶邑窯跡群で生産された可能性を考慮すべきであろう。

第１次調査出土土土器　図 118 は、第１次調査において出土した韓式系土器および関連資料である。竪穴建物 1480 からは、定着型長胴甕、甑、鍋等が出土している（①・②・③・⑧・⑪）。長胴甕（⑧）は、形態的には韓式系土器に酷似するが外面ハケ調整となっており、甑（①）も底部のケズリを欠くなど、土師器の製作技法との混淆が認められる。

竪穴建物 1511 の床面からは、瓦質円筒形土製品を含む多数の土器が出土した（同⑯～⑳）。円筒形土製品は、外面にハケ調整、内面にナデを施す。住居に伴い、わずかに煤様の物質の付着も認められることから、排煙用と考えられる。また、床面において、これらの土器とともに馬歯が検出されている（図 120）。ウマ右上顎臼歯２点が確認できる[注1)]。歯冠高から年齢は、８歳以下と推定される。

ピット 1663 からは瓦質円筒形土製品が出土した（⑮）。口縁部を伴う個体で、鍔状に巡らされた突帯が連結に際して機能したことが窺われる。調整は、外面平行タタキ、内面ナデで、既述した⑯等と大きく異なる。またピット 1645 からは外面タタキの甕が出土した（同⑤）。口縁部は、くの字形に外反し、端部に面をもつ。⑬・⑭は、土坑 1909 出土の土師質の平底鉢底部、同じく須恵質の口

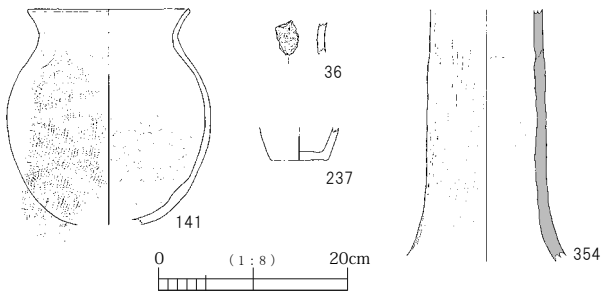


図 117　第３次調査出土韓式系土器および関連遺物

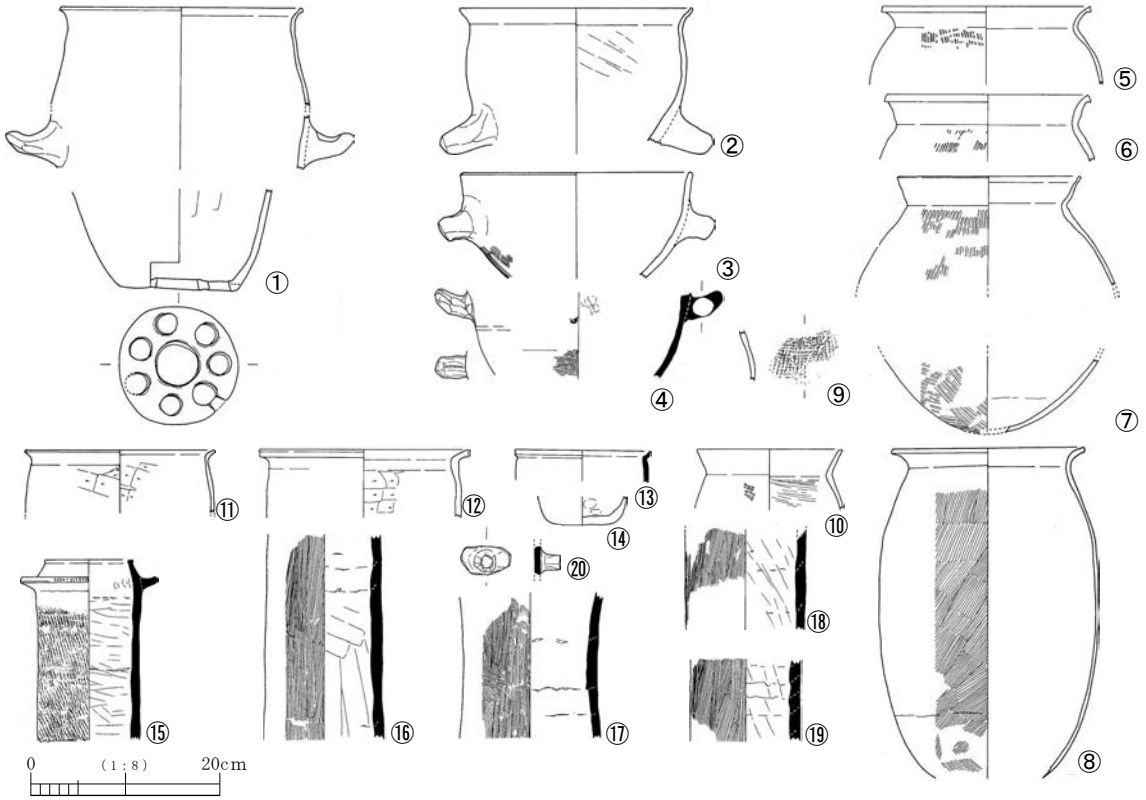


図 118　寺田遺跡第１次調査出土韓式系土器および関連遺物（既報告）

縁部片である。

河川 1500 の堆積層中からは、甑、タタキ甕などが出土した（④・⑥・⑦・⑨・⑫）。⑤と同様の器形をもつ⑥のほか、⑦の体部や口縁部などは、布留式系甕の形態を踏襲しており、これもまた土師器との製作技術混淆のあり方の一例である。

その他、第１次調査出土遺物のうちの韓式系土器関連遺物として 943 ～ 949 がある（図 119）。

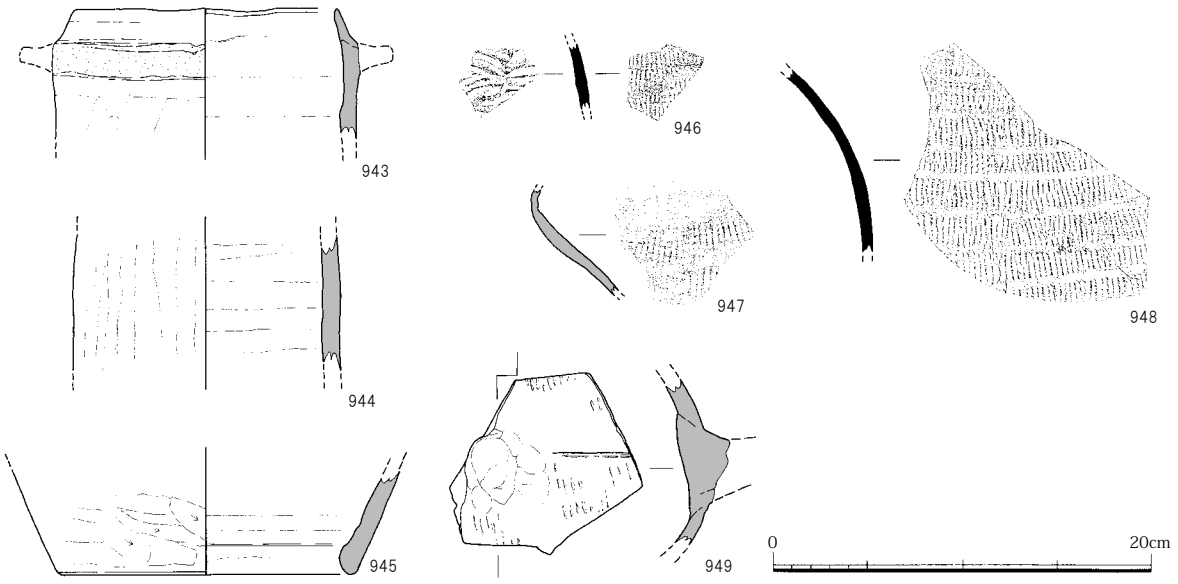


図 119　寺田遺跡第１次調査出土韓式系土器および関連遺物（新規報告）

図 120　寺田遺跡第１次調査竪穴建物 1511 出土馬歯

943・944 は瓦質円筒形土製品で、943（口縁端部）は外面やや下位に突帯の剥離痕が認められる。945 は瓦質の甑底部で外面にケズリが認められる。946 はタタキ成形の須恵器壺・甕体部片であるが、通有の平行タタキではなく、工具に一条の横線が加えられている。948 も須恵器壺あるいは甕の体部片で並行タタキを一定間隔でナデ消している。949 は瓦質の鍋かと思われるもので体部に沈線で割り付けを行ったのちに内面から把手が挿入されている。

第４節　玉類について

臼玉製品は 156 点が出土したが、直径７㎜をこえる大型のものから４㎜以下の小型のものまでサイズに幅があり、材質についても複数種が含まれるものと思われる。臼玉については他遺跡における報告を参照してもさまざまな分類がなされてきており（島崎編 2002、廣瀬 2002 ほか）、今回の整理においては、産地分析の実施を念頭において分類を行った。まず色調に注目した肉眼観察によって材質的まとまりをある程度認識した上で細分の可能性を検討したが、その際、すべての個体を分類に当てはめようとするとまとまりとしての有意性に欠けると考えた。そこで、材質が類似すると思われる個体群の中でも特に寸法が類似し、製作の痕跡なども共通するものを選び出し、これを製作時の一括性という観点から有意性の高いまとまりとして抽出し、グループと呼ぶこととした（表 16）。したがって、多くの個体が今回認識したグループには含まれないこととなる。なお観察表（表３）で記載した色調のうち、白色と褐色については同一個体の中で漸移的に変化するものが認められるため、これを一括し、記述の都合上から、色１（灰色）・色２（白色～褐色）・色３（淡緑灰色）と表すこととする。

表 16　出土玉類の分類

色調	グループ	外径（㎜前後）	孔径（㎜前後）	厚さ（㎜前後）	断面形	穿孔	点数
色１（灰）	A	5	2	2.0 ～ 3.3	丸み有	片面	7 点
色２（白）	B	4.1	1.5	1.3 ～ 2.5	直線	片面	8 点
色２（白～褐）	Ｃａ	5.2	1.7	2.8 ～ 3.5	丸み～直線	片面	14 点
	Ｃｂ	4.5	1.5	3.0 ～ 4.0			
色３（淡緑灰）	D	5.1	2.3	3.0 ～ 3.7	丸み有	片面	6 点
	E	3.5	1.3	1.6	直線	片面	3 点
	F	4.6	1.8	2.4	丸み有	片面	4 点
	G	5.4	2.2	2.7	算盤玉状	片面	6 点
	H	5.2	2.2	2.1 ～ 2.8	丸み～直線	片面	5 点
	I	4.6	2	4.3	丸み有	片面	2 点
色２（白～褐）	J	未成品				片面	1 点
色３（淡緑灰）	K	未成品				片面	4 点

※残余の 111 点は、グループにまとまらない。

以下では色調およびグループを中心に他の属性との関係を確認しておく。

出土遺構　今回の調査で検出した滑石製臼玉の大半は、016 流路（121 点）から出土し、これに 018 溝（24 点）が次ぎ、その他の遺構から少数点ずつ（合計 11 点）が出土している（図 121）。遺構ごとの色調をみると、016 流路およびその他の遺構として一括した資料は、ともに大半を色３が占め、４分の１程度の色２がこれに加わるという組成をなす。一方、018 溝は、色３が最多である点は共通するが、色１が４割弱を占め、ごくわずかに色２がこれに加わる。

寸　法　次に寸法について検討してみよう。まずすべての色調の玉の径を見ると、4.0 ～ 5.5㎜を中心とし、その前後にわずかな分布が認められる（図 122）。次にこれを色調ごとにみてみると、色１は 4.5 ～ 5.5㎜に分布するが母数が少ないこともあり、明瞭なピークは認めがたい。色２は、4.0 ～ 6.0㎜台を中心とした幅広い分布を示す。色３は、4.0 ～ 5.5㎜台に集中するが、7.5㎜代までの大型のものがごくわずかではあるが認められる（図 123）。

さらに厚さについてみてみると、径との間の相関性はさほど強くはなく（図 124）、径との相関はむしろ孔径との間に強いものがある（図 125）。一方、厚さと孔径の相関関係は弱い（図 126）。また図 127 には孔径との関係をグループ別に示した。

断面形　断面形は、色１はA’・B、色２はB・C、色３はB・Cを主体とし、わずかにA・A’を含むことがわかる（表 17）。

表裏面角度　非平行の出現率は、色１が 30%ともっとも小さく、色２が 63.6%、色３が 82.4% と割合が高くなる（表 17）。

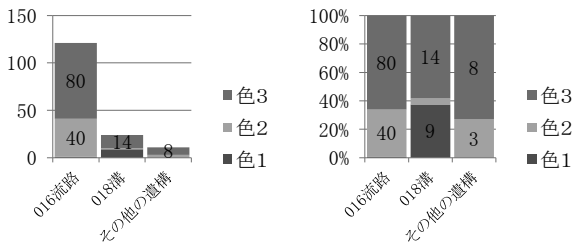


図 121　出土遺構による比較

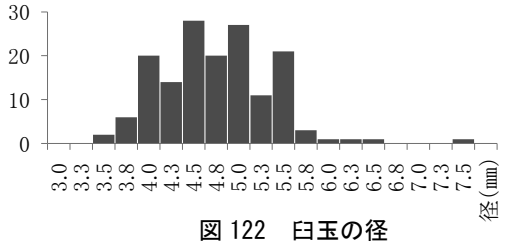


図 122　臼玉の径

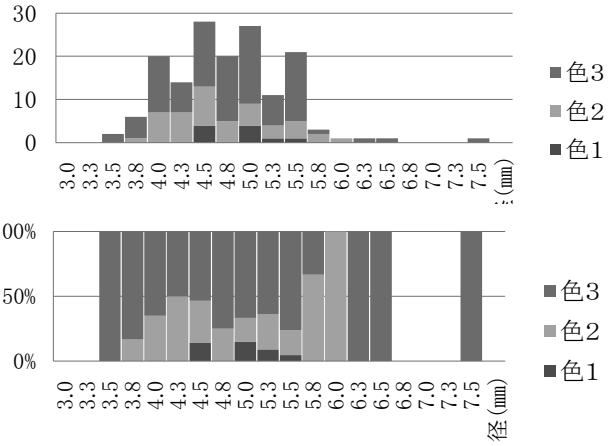


図 123　径と色調
（上：個体数　下：%）

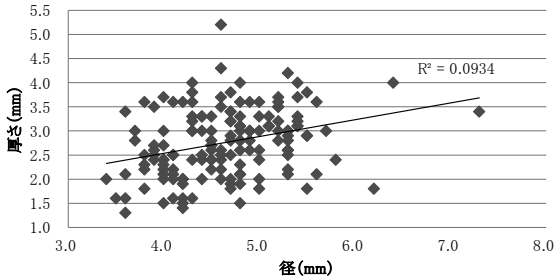


図 124　径と厚さ

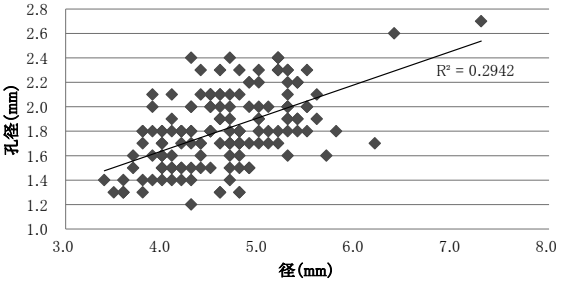


図 125　径と孔径

穿孔剥離　穿孔剥離の出現率は、色１・３が50%と高いのに対し、色３は29.5%となる（表17)。色調ごとの厚さの平均も色２の場合は、穿孔剥離ありが3.0m、なしが2.5mと差が認められるようである。

穿孔位置と径について　穿孔位置がどれだけ玉の中心から偏っているか、という点を検討するために図上で上下、左右のずれを計測し、これらの和を玉の径で割り、ずれの指数を算出した。これを玉の径との関係で散布図としたのが、図128である。未成品の観察によれば、臼玉の製作にあたっては多角形の小さな板材に穿孔を施したのち、研磨を加えて丸く仕上げるという製作工程が復元できる。指数0.1以下には、大多数の個体が当てはまるので、これらについては一般的な誤差の範囲としてとらえておこう。0.1をこえるものについては、穿孔の偏りが著しいということになるが、その分布をみると中央下位のまとまりから離れた左上の領域にプロットされる３点が目につく。これらの３点を確認すると、平面形はいずれもいびつな多角形を示しており、その研磨は通有の丸い形態を仕上げるまでに至っていない。よってこれらを除外して考えると、その分布は右上がりの傾斜を示す。これにより、これらの臼玉製品の穿孔のずれは、外径が大きいものほど幅があり、外径が小さくなるほど、ずれも小さくなるという関係にあるとみることができる[注2)]。

グループと産地分析　表18は、第６章第３節の産地分析において示された結果（表11）の一部をグループと総合判定結果に基づき、並べ替えたものである。これによって各グループと判定結果には、一定の対応関係が認められることが明らかであろう。分析報告で指摘された

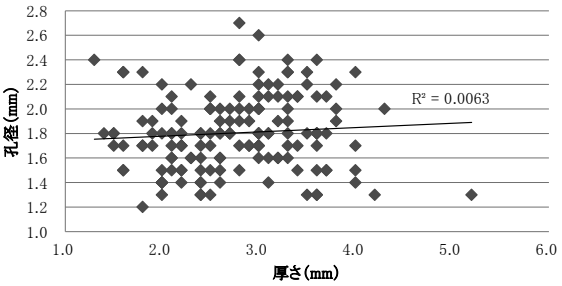


図126　厚さと孔径

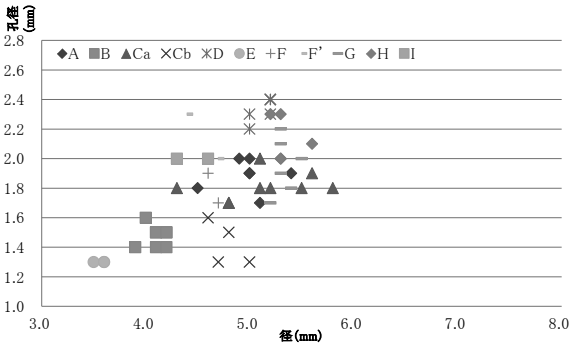


図127　径と孔径（グループ別）

表17　色調とその他の属性の相関性

■断面形

	A	A'	B	C
色1	0	9	9	0
色2	0	0	23	20
色3	2	12	82	51

■表裏面角度

		平均厚さ(mm)		
	非平行出現率	全体	平行	非平行
色1	30.0%	2.8	2.8	2.8
色2	63.6%	2.7	2.7	2.7
色3	82.4%	2.8	2.9	2.4

■穿孔剥離

		平均厚さ(mm)		
	出現率	全体	あり	なし
色1	50.0%	2.8	2.7	2.8
色2	29.5%	2.7	3.0	2.5
色3	47.1%	2.8	2.8	2.6

■擦　痕

		平均径(mm)		
	出現率	全体	あり	なし
色1	0.0%	4.7	－	4.8
色2	31.8%	4.8	4.8	4.9
色3	35.3%	4.6	4.7	4.5

通り、色３のグループＤ～Ｈは昼飯大塚Ｃ遺物群との相関性が特に高い。一方、色２については、寺田Ｂ遺跡群と寺田Ｃａｂ遺物群という異なった同定がなされており、白色のみのもの（Ｂ）と一部に褐色を含むもの（Ｃａ・Ｃｂ）とで材質が異なる可能性を示唆するものかもしれない。もっとも変成岩の特質を考えれば同一産地でも異なった結果が得られる可能性が現状では否定できず、断定にはさらなる分析結果の蓄積をまつ必要がある。

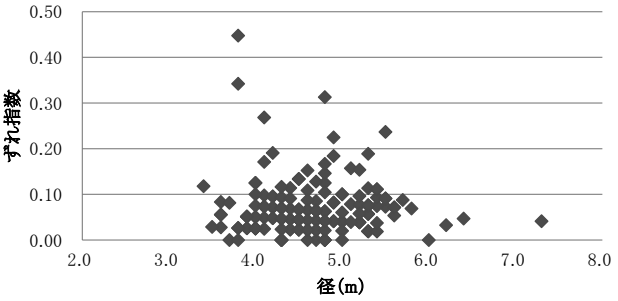


図 128　径と穿孔位置のずれ

表 18　グループと産地分析の結果

色	1	2			3				
グループ	A	B	Ca	Cb	D	E	F	G	H
昼飯大塚 B 遺物群			1						
昼飯大塚 C 遺物群	2		1		5	3	3	5	5
寺田 AD 遺物群	5				1				
寺田 B 遺物群		7							
寺田 Cab 遺物群			5	2					

第１次調査出土玉類　今回の調査で出土した玉類は以上のとおりであるが、第１次調査においても河川 1500（第３次調査の流路 016）から、滑石製臼玉 25 点、同管玉１点、同有孔円盤１点、素材と考えられる緑色凝灰岩片、緑泥石片岩板材が出土している。これらの検出に際しては、土壌洗浄等は行われておらず、さらに多くの玉類が存在した可能性がある。

寺田遺跡における玉生産　最後に寺田遺跡における玉生産について整理しておきたい。本遺跡では､古墳時代中期前半（018 溝）から中期後半（016 流路ほか）にかけて玉類の生産が行われた。出土した玉類関連遺物は、滑石製臼玉製品、同未成品、滑石製管玉、ガラス小玉、滑石製有孔円盤、素材と思われる緑色凝灰岩および緑泥色片岩の板材からなる。これらは流路や落ち込み内からの出土に加え、竪穴建物内からも検出されたが具体的な使用のあり方は不明である。また未成品の出土から、集落内で複数種の玉生産が行われことは確実であるが、製品に対するそれらの出土量は少ないこと、また色１の未成品は伴っていないことなどから一定量の完成品の流通を考慮する必要性が残されている。石材産地については、分析によって一定の結果が示されており、さらなる分析結果の蓄積が期待される。

注

１）馬歯の鑑定は、大阪府教育委員会事務局文化財保護課宮崎泰史による。

２）この相関関係にかんしては、小さいものほど穿孔位置に注意を払うという一般的な傾向にくわえ、穿孔位置を中心にもってくるために側面をつよく研磨した結果、外径が小さくなった個体の存在を考えてもよいかもしれない。このことからすれば、臼玉製作にあたって玉の径は重要な要素であることは間違いないが、それは穿孔位置などとの関係によっては変化させうるものであったと考えられる。このような特徴を踏まえれば、素材を円筒状に仕上げてから穿孔を施す碧玉製管玉や中空の円筒状素材の切断あるいは鋳型成形によるガラス小玉などに対して、滑石製臼玉の径には変異の幅が大きくなる可能性を考慮すべきものと思われる。

第８章　総　括

第１節　地形環境と土地利用

上記してきた知見および既往の調査成果をもとに、寺田遺跡の地形環境およびそれに伴う土地利用の変遷についてまとめておきたい。

遺跡の立地　前述のとおり、寺田遺跡所在地は、地形分類上は低位段丘とされているが、一連の調査では、比較的大規模な流路跡とそれらに伴う溢流堆積など河川の活動が顕著に認められたことから、古墳時代以前にはこの近辺はいまだ離水していなかったと考えられる。現在の段丘面と氾濫原との境界は寺田遺跡南側に位置する松尾川との間の段丘崖であるが、その地点付近の発掘調査の結果、段丘崖より下位には中世以降の遺構・遺物しか認められなかったことは、段丘化の年代がそう古くは遡らないことを示している。以上により、寺田遺跡所在地はいわゆる完新世段丘にあたり、古墳時代以前には松尾川の氾濫原の一部を占めていたと考えられる（高橋2003)。

弥生時代中期の地形環境　次に時期ごとの地形環境について整理しておこう。まず、遺跡内の層準で最も古く位置づけられるのは、基本層序第10層とした灰白色粘土である。これは第１次調査において「地山」とされた１・２・３・５区第８層および４区第14層の黄白色粘土に対応する可能性が高い。また、第２次調査において第17層とされた灰白色粘土もこれに対応するものであろう。第２次調査では、この粘土層は調査区東から西にかけて傾斜をなしており、T.P.26.5～27.0mを測る東端部で竪穴建物２棟をはじめとする弥生時代中期の居住域の遺構面となっている。第１次調査においても、「地山」粘土層は調査区東から西にかけて傾斜しており、東端部はT.P.27.0m以上を測る。

今回の第３次調査区は、その大半が後述する弥生時代後期以降の流路内に当たっているが、第２調査区断割り２や断割り４・５で検出された第10層はT.P.26.0～26.2m程度を測るものであり、東から西への傾斜を考慮しても第１・２次調査区に対して相対的に低いといえる。536流路（第９層）は、この微低地を流れていたと考えられる。断面観察によればその流れは緩やかなものであったと考えられる。

また、断割り２断面によれば、533流路下層についても第10層から切り込んでいることが確認できる。年代的にはさかのぼるものと思われるが、遺物からそれを確認することはできなかった。この遺構は、断面で確認したのみで平面形は不明であるが、414流路によって分断されているものの、536流路につながる可能性も考えるべきかもしれない。

弥生時代中期の土地利用　上記したとおり、第２次調査区の東半部は相対的な微高地をなしており、この上に竪穴建物からなる居住域が形成された。自然科学的分析によれば、第２次調査区

西半の微低地は生産域ではなく、草地からなる空閑地と判断される。ただし、居住域からの細堆積と解釈されるものの、イネ属の植物珪酸体が検出されていることから、周辺部では稲作が営まれたとみるのが自然であろう（土屋編 2010 第５章)。また第３次調査における花粉分析の結果はさらに広い領域について考える手掛かりとなるものである。すなわち弥生時代中期から庄内式期までは、流路の集水域などに二次林的性格の強い林分が存在し、流路沿いの氾濫原には草本類が生育する領域も存在したが、その分布は少なかったと判断されている（本書第６章第１節)。

弥生時代後期の地形環境　その後、埋没した 536 流路（第９層）やその周囲の第 10 層などを覆う広い範囲に第８層が堆積した。533 流路上層は、第８－３層を見かけ上切り込む遺構であるが、その形成時期については、完全に前後に分けられるものとは言い切れず、具体的対応関係は不明であるものの、第８層などの堆積自体にこれらの流路の活動が寄与した可能性が高い。また、同じく見かけ上第８層から切り込む遺構として、414・529・534・523 の各流路があり、多量の砂礫の運搬を伴う活発な河川活動があったことが理解される。特に 414 流路は、多量の出水があったようで大径の礫によって埋積され、流路中央部がうず高くなっている。これらの層準からは弥生時代後期～庄内式期の遺物が出土している。

以上のような堆積の結果、旧流路を中心とする微高地とその後背部の微低地という地形の凹凸が形成された。

弥生時代後期の土地利用　上述した通り、当該期には 414 流路を中心とした活発な河川活動があり、その氾濫は周囲へも大きな影響を及ぼしたものと思われる。第３次調査第８層や第２次調査区西半で確認されている弥生時代後期後半の洪水堆積物（14 層）はこういった活動の痕跡であると考えられる。

このように弥生時代後期の寺田遺跡は、しばしば河川の溢流にみまわれる不安定な土地であった。それを反映して居住や生産の痕跡は極めて少ないが、第１次調査区東端の微高地上において円形の竪穴建物が１棟検出されている。周囲から弥生時代後期の土器が出土しており、小規模な居住域が形成されていたようである。

庄内式期～古墳時代前期の地形環境　以上のような弥生時代後期の河川活動によって残された地形の凹凸は、第５層の堆積によって埋積される。第５層は、シルト質細粒砂など細かい堆積物であり、基本的には溢流堆積であると考えられる。

この第５層を見かけ上切るのが 016 流路である。ただし、第５層自体の堆積に 016 流路の活動が寄与している可能性は多分に考えられ、両者の形成時期にはある程度の並行関係を想定した方がよいかもしれない。前述したとおり、016 流路は上下層に分かれ、河川としての主な活動は、下層の堆積時になされたと考えられる。下層埋土には、庄内式後半～古墳時代前期の土器が含まれており、弥生時代後期の 414 流路をはじめとする流路帯から遺構面をたがえて、北側へ流路が移動したものと捉えられる。

第５層は調査区の広い範囲を覆うものであったが、それ以前の微地形を水平にするまでには至

らず、窪地の埋積と微高地の安定化が進行する。古墳時代前期の間は、これらの溢流と堆積が続いたようであり、第１次調査区東南部から、第３次調査区第２調査区中央および第３調査区にかけて、東西約 100m、南北約 50m の範囲に 414 流路を中心とした礫層からなる微高地が形成されていくこととなる。

庄内式期～古墳時代前期の土地利用　当該期には、埋没した 414 流路を中心とした微高地が形成されているものの、いまだに氾濫は及んでいたようである。第３次調査第２調査区に認められた落ち込み状の堆積の一部や 399 井戸など、古墳時代前期以前の土器を出土する遺構はこれらの影響を蒙っていてる可能性が高い。

一方で第１次調査区の東端部付近は、弥生時代以来の微高地として比較的安定した環境を保っていたようで、竪穴建物や井戸などからなる居住域が形成されたが、その規模は小さい。さらに第２次調査区西半で掘立柱建物や溝からなる小居住域が検出されたほか、第３次調査区第２調査区南半付近でも 414 流路が形成した微高地の周囲に溝を巡らせて利用した形跡が認められる。

以上のとおり、当該期の寺田遺跡では基本的に微高地を意識しながら、広範囲かつ散漫な土地利用がなされたものと評価できる。また花粉分析の結果によれば、古墳時代前期になると、周辺植生が変化し、二次林が拡大した一方で、調査区周辺では草地領域が拡大するなど、人為的植生撹乱が生じたものと判断されている（本書第６章第１節）。

古墳時代中期の地形環境　その後、古墳時代中期には 016 流路の水流は衰え、放棄流路化する。残された窪地には周囲の地表物質の流入や土壌化によって細粒物質からなる堆積、016 流路上層が形成される。第１次調査区中央を流れる河川 1500 もこれと基本的に同じ堆積状況を示し、両者は同一の流路と考えられる。

第１次調査区では、さらにその北側に河川 1500 から分岐する河川 1500 北東が検出されており、河川 1694・1692 といった周辺部の流路を含め、016 流路の北側への移動による分流、あるいは排水を目的として設けられた溝という可能性が考えられる。

古墳時代中期の土地利用　寺田遺跡の古墳時代中期の集落は、第５層の上に形成されている。基本的に前期のような氾濫の影響は少なくなったと考えられ、微高地上に多数の竪穴建物、掘立柱建物、井戸、溝、土坑などからなる居住域が形成された。遺構の数および分布の密度ともに前代を上回っており、居住域として巨大化するとともに集住化が進行したと評価できる。016 流路は、窪地として居住域を区切る境界的な意味合いを持つとともに、廃棄および儀礼の場として利用された可能性が高い。

古墳時代後期以降の地形環境と土地利用　古墳時代中期の居住域が形成された微高地の南側は、相対的に微低地となっており、古墳時代後期～飛鳥時代には溢流が及んだことが堆積から明らかである（第２次調査区第 10 層）。

さらに時代が降ると調査区全体が耕作地化したようである。古墳時代中期の遺構やその基盤層である第５層は、第３層および第４層の均質な広がりに覆われており、これらは人為的に撹拌さ

れた作土と考えられる。この層には、古代の須恵器や瓦器などが含まれており、古代以降、この地が農地として利用されたことを示している。第１～３次のいずれの調査でも、古墳時代遺構面より上位で耕作に伴う溝が検出されているが、これらの方位はおおむね現在の地割および古代に施行された条里にのったものである。

長い耕作地としての利用の後、現代の作土（第２層）による耕作が行われ、最終的に 20 世紀中頃には、盛土による造成（第１層）の上に府営住宅が建設されることとなった。

第２節　寺田遺跡における集落の展開

次に寺田遺跡における弥生時代から古墳時代の集落変遷について、以下の１～７期に整理したうえで（図 129）集落内の手工業生産および渡来人の痕跡について概観しておこう。

（１）居住域の変遷

寺田１期　これまでの調査で明確な居住が確認できた最古の段階として、弥生中期後葉を寺田１期とする。第２次調査区東端部の微高地が居住域として利用され、竪穴建物、溝などが形成された。微低地となる第３次調査区には、流路が位置したものと考えられる。

寺田２期　弥生後期後半～庄内式期を寺田２期とする。第１次調査区東端の微高地上に小居住域が形成される。第１・３次調査区を中心に流路の活動による微高地化が進展する。

寺田３期　庄内式併行期～古墳前期後半を寺田３期とする。第２次調査区西半に掘立柱建物２棟からなる小居住域が形成される。第１次調査区および第３次調査区では井戸が複数掘削される。016 流路が活発な活動を行っている。

寺田４期　古墳前期末～中期初頭を寺田４期とする。第１次調査区東半で、竪穴建物１棟からなる小居住域が形成される。この時期の居住域は、規模は小さいが鉄滓や鞴の羽口など、鍛冶を行った形跡を伴っている。そのほか、016 流路（1500 河川）が活動を継続している。

寺田５期　古墳中期前半、須恵器編年でいうⅠ－２段階以前を寺田５期とする。第１次調査区および第３次調査区の微高地上に竪穴建物４棟、井戸などの居住域が形成される。016 流路（1500 河川）は、放棄流路化し、廃棄および儀礼の場となっている。

寺田６期　古墳中期後半、須恵器編年Ⅰ－３～４段階を寺田６期とする。第１次調査区および第３次調査区の微高地上の居住域がその規模を拡大し、竪穴建物９棟、掘立柱建物 10 棟以上、井戸などを備える。016 流路（1500 河川）は引き続き、廃棄および儀礼の場として利用された。

寺田７期　古墳中期末、須恵器編年Ⅰ－５段階以降を寺田７期とする。第１調査区を中心に掘立柱建物が多数され、完全に埋没した流路上にも建物が進出する。しかしながら、第２次調査区では当該期の遺構は希薄であり、居住域全体の面積は、縮小したものと思われる。

集落の継続性と断絶　長期間にわたって人間活動が認められるが、その中には住居跡等が検出されない時期をはさんでいる。遺跡の南側に位置する第２次調査では竪穴建物２棟からなる１期

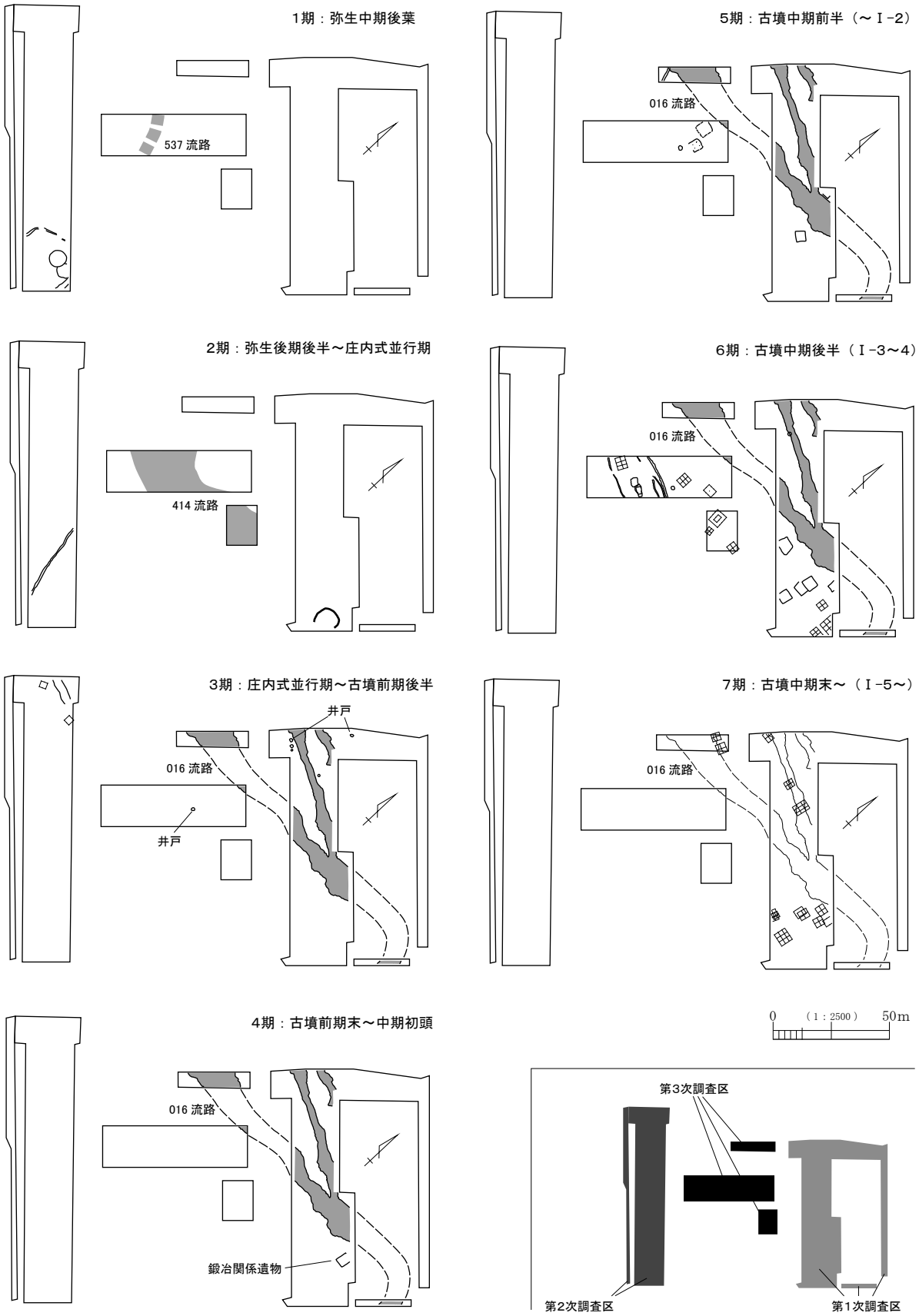


図 129　寺田遺跡における遺構の変遷

の居住域が検出されたものの、後期前葉に継続することなく断絶してしまう（土屋編 2010）。その後、一定の空白期を経て２期に流路下層から多くの土器が検出されるほか、円形竪穴建物１棟が検出されている。３期にも第２次調査区の掘立柱建物からなる居住域に加え、第１・３次調査区では井戸が複数検出されている。当該期の建物等の遺構についてはその後の削平を受け、掘削深度の深い遺構のみが残された可能性も考慮すべきか。

４期以降、竪穴建物や掘立柱建物、井戸、溝などが検出されるようになる。４期に特筆されるのは、鍛冶遺構が検出された竪穴建物 1499 である。続く５期には居住域の規模が拡大し、竪穴建物及び井戸が検出されている。６期は寺田遺跡の最盛期にあたり、多くの建物、井戸、溝、土坑などが検出されている。続く７期には、掘立柱建物のみからなる集落へと移行するようである。その後、６世紀前半を最後に集落は廃絶し、古代以降は全面的に耕作地化する。

（２）手工業生産

鍛　冶　第１次調査において流路内の３～４期に相当する層から多数の鉄滓（21 点、1550 グラム）、鞴羽口が出土しており、遺跡内において鍛冶が行われたことが確実である。さらに竪穴建物 1499（４期）には焼土層を伴う土坑が認められ、埋土から砥石や焼土塊などが出土した。隣接する土坑 1507 内からは土器とともに鍛冶原料の可能性のある鋳造鉄斧が出土しており、竪穴建物 1499 が工房としての機能を果たした可能性が高い。この遺構に関連する鉄滓・鞴羽口の分析の結果、本遺跡では海外生産で精製された鍛冶原料鉄を用い、高温沸し鍛接工程をともなう鉄器製作が行われたと推定された（第６章第２節参照）。

玉作り　流路内から滑石製の有孔円盤、管玉、臼玉等が検出されていることに加え、第１次調査において緑色凝灰岩石核および板状の緑色片岩様の石材が出土している。また第３次調査では、滑石製臼玉の未成品が複数点検出されており、玉作りが行われたことは明らかである。ただし、製品に対して未成品の量はわずかであり、特別大きな生産規模ではないものと思われる。

その他　内部に漆の付着した土器（図９-27）の存在から、漆を用いた製品の加工が推測される。また、直接的に手工業生産を示すものではないが、竪穴建物 1511（６期）の床面中央部からは多数の土器、滑石製有孔円板と共に馬歯が検出されており、馬の使役がなされていたことが窺える。他に各種遺構より製塩土器片が出土しており、集落内で焼塩の工程の一部がなされた可能性を考えてよいであろう。また、土製漁錘も出土していることから、規模は別としても集落成員が漁撈にも従事したことが窺われる。

（３）渡来人の存在

５～６期にかけて一定量の韓式系土器の出土が認められる。土師器や須恵器に対する比率が特別高いとは言えないが、複数器種が存在することや円筒形土製品の利用から、期間は不明であるが当該期に渡来人が居住した可能性は高いと言える（今津 1994）。

第３節　大津川流域における古墳時代の集落動態

最後に寺田遺跡以外の遺跡を含めた大津川流域における古墳時代の集落を概観し、その中での寺田遺跡の位置づけを明らかにしておきたい。

地形の概観　和泉丘陵から海岸部に向かって低くなっていく地勢にあり、丘陵と大津川およびその支流である槇尾川、松尾川、牛滝川沿いに形成された沖積地、低位段丘および開析谷からなる。北側には信太山丘陵が張り出しており、安定した可耕地は広くはないが、和泉地域の中ではまとまった面積をもつ。

大津川流域における集落の変遷　既往の報告から、本地域に存在する集落遺跡を集成し、古墳時代中期の建物跡が検出されている事例を図 130 にまとめた（三好 2012)。検出された建物（竪穴建物・掘立柱建物）の総数を時期ごとに示したものである。

これに基づき、各時期の集落変遷について確認してみると、庄内式期から継続する集落は少なくない。特に段丘上でも比較的海岸部に近い泉大津市七ノ坪遺跡、同市豊中遺跡、和泉市府中遺跡などでは、古墳時代前期にかけて多くの竪穴建物が検出されている。しかしながら、これらを子細に見れば同一遺跡とされている範囲の中に空閑地を挟んだ複数の居住域を認めることができ、そのひとつひとつの単位は特別大きな規模ではない。

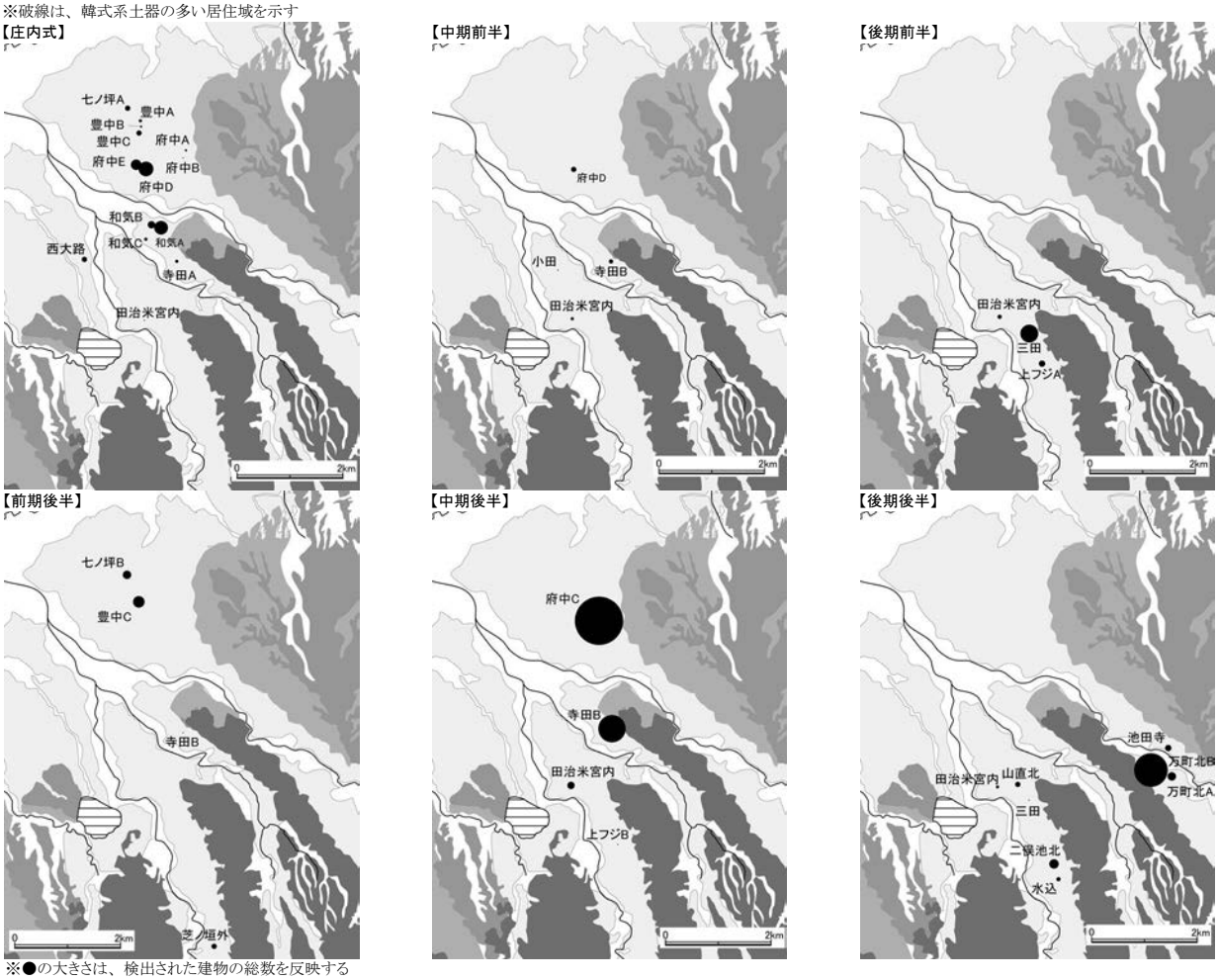
谷奥への開発の進展　これに対して、中期後半には和泉市府中遺跡、同市寺田遺跡などにおいて一つの居住域で 20 棟をこえるような多くの建物跡が検出されている。また後期には、前・中期に隆盛をほこった伝統的集落ではなく、槇尾谷、松尾谷、牛滝谷といった谷の奥へと進んでいく居住域の展開を認めることができる。

本地域では古墳時代中期段階では窯業生産や古墳群築造など、目立った手工業生産・開発は認められず、当地域の集落成員のおもな生業は農耕であったと考えられる。居住域の立地に影響する主な要因が農耕にあると考えるならば、このような居住域の動態は中期から後期にかけて、谷奥へと農地開発が進展したことを反映するものとみることができる。

韓式系土器と耕地開発　本地域では、府中遺跡をはじめとする豊中遺跡群および和泉市寺田遺跡、岸和田市田治米宮内遺跡など、比較的多くの遺跡で韓式系軟質土器が小数点ずつ出土している。豊中遺跡群は、前期以来の伝統的な集落で大津川流域の中核となるものである。これに対して、上述した通り寺田遺跡および田治米宮内遺跡は、中期に規模が拡大し、後期にかけてそれぞれ松尾谷、牛滝谷の谷奥への開発のきっかけとなる集落である。両遺跡における韓式系土器の存在は、このような開発の開始と関連する可能性があると考えられる。耕地開発における渡来人の役割は、田中清美らによって早くから指摘されていたが（田中 1989 ほか)、寺田遺跡をはじめとする近年の調査成果により、集落動態と地域開発の中に渡来人の存在を具体的に位置づけることが本地域では可能といえよう。

居住域	所在地	立地	庄内式		前期		中期前半		中期後半		後期前半		後期後半		
			竪穴	掘立	竪穴	掘立	竪穴	掘立	竪穴	掘立	竪穴	掘立	竪穴	掘立	
七ノ坪 A	泉大津市	平野			8										府第 3 次
七ノ坪 B	泉大津市	平野	5												府 1981
豊中A	泉大津市	平野	3												調査会・市概要Ⅱ
豊中 B	泉大津市	平野	2												府（古池北）
豊中 C	泉大津市	平野	5		5	1									市概報Ⅳ・Ⅵ
府中 A	和泉市	平野	2												市概要Ⅱ第 1 次
府中 B	和泉市	平野	1												市概要Ⅱ第 2 次
府中 C	和泉市	平野							26	20					市 01-116 地点
府中 D	和泉市	平野	4	10				＋							市駅前第 1 次
府中 E	和泉市	平野	10												市駅前第 2 次
和気A	和泉市	平野	8	5											調査会第 26 工区
和気B	和泉市	平野	7												府道Ⅳ区
和気C	和泉市	平野	3												府道Ⅲ M 区
寺田 A	和泉市	谷入口		2											府第 2 次
寺田B	和泉市	谷入口			1		4		9	20					府第 1・3 次
願成	和泉市	谷											○		
池田寺	和泉市	谷											6		市（飛鳥Ⅰ古）
万町北 A	和泉市	谷											8		市
万町北 B	和泉市	谷											6	26	市（後期末）
春木宮ノ上	岸和田市	平野			1										市
下池田	岸和田市	平野	周溝墓												
西大路	岸和田市	平野	5		1										協会
小田遺跡	和泉市	平野						1							協会
田治米宮内	岸和田市	谷入口	1				3		7		4		3		協会
山直北	岸和田市	谷入口											3	2	協会
三田	岸和田市	谷									15	2	2		協会 B 地区
上フジ A	岸和田市	谷									6				協会Ⅰ地区北半
上フジ B	岸和田市	谷							1						協会
二俣池北	岸和田市	谷											8	1	協会 4 区
水込	岸和田市	谷											3	1	協会 A・B 区
芝ノ垣外	岸和田市	谷			3	2									協会

※破線は、韓式系土器の多い居住域を示す



※●の大きさは、検出された建物の総数を反映する

図 130　大津川流域における居住域の動態（三好 2012 より）

第４節　寺田遺跡の歴史的性格

最後に以上の成果を踏まえ、寺田遺跡の歴史的性格についてまとめておこう。本遺跡は、遺構・遺物の多寡はありながらも弥生時代中期から古墳時代後期まで継続した遺跡であり、松尾川右岸の環境変化に対応して居住域を転々と移しながら営まれた伝統的な集落群の一部をなすものと考えられる。

弥生時代には竪穴建物数棟からなる通有の居住域であったが、庄内式期～古墳時代前期には定型的（精製器種Ⅰ群すなわち中河内的な）な布留式の精製器種が比較的多く出土するようになる（本書第７章）。明確な居住遺構は検出されておらず、詳細は不明であるが、和泉地域の中でもまとまった量の布留式精製器種が存在することは、これに続く時期の鍛冶生産開始の理由の一端を示唆するものかもしれない。

前期末～中期初頭（寺田４期）に属する第１次調査竪穴建物 1499 は、鍛冶遺構と考えられる。当該期は、本遺跡の南約１㎞に位置する岸和田市摩湯山古墳の築造時期とほぼ並行しており、この古墳の被葬者がこれらの生産に関与したと考えて不自然ではない。当該期の鍛冶生産は、奈良県桜井市纒向遺跡、兵庫県川西市小戸遺跡などで確認されているが、近畿地域でもきわめて希なものである。本遺跡の鍛冶生産は、精錬工程はともなわないものの、弥生時代とは明確に異なった技術レベルにあるといえ、当該期の大型古墳被葬者が保有していた技術の実態をうかがわせる可能性のあるものとして、その意義は大きい。

さらに居住域は、古墳時代中期前半（寺田５期）を境に大規模、集住化が進展する。本書では、周辺集落の動態と立地を踏まえ、これを古墳時代から古代にかけて進展する谷奥の耕地開発の起点となるものと考えた。また、そのような開発の起点となる遺跡において韓式系土器が多く出土する傾向があること、寺田遺跡でも複数器種の韓式系軟質土器の出土から渡来人の居住が明らかであること、本遺跡における渡来人の存在は、このような耕地開発の開始と関連する可能性があることを指摘した（本章第３節）。古墳時代中期に最盛期を迎えた集落は、後期後半以降には居住の痕跡がほとんど認められず、古代以降現代まで耕地として利用されたものと考えられる。

以上のとおり寺田遺跡は、大津川流域における集落動態のなかで要の一つとなる集落であり、その調査成果は鍛冶生産や周辺古墳との関連、渡来人の存在など、和泉地域の古墳時代を考える上で重要な要素を含んでいる。今後は周辺部での調査事例とのさらなる比較によってより精緻な歴史の復元を行うとともに成果の活用を図っていくことが必要である。

引用・参考文献

赤塚次郎・早野浩二 2001「松河戸・宇多様式の再編」『研究紀要』第２号、愛知県埋蔵文化財センター

石川茂雄 1994『原色日本植物種子写真図鑑』石川茂雄図鑑刊行委員会

石神 怡 1984「Ⅶ　まとめ―周辺集落との関連において―」『府道松原泉大津線関連遺跡発掘調査報告書』Ⅰ、(財)大阪府文化財センター

今津啓子 1994「渡来人の土器」『古代王権と交流５　ヤマト王権と交流の諸相』名著出版

大阪市文化財協会 2005『長原遺跡発掘調査報告』ⅩⅡ

島倉巳三郎 1973「日本植物の花粉形態」『大阪市立自然科学博物館収蔵目録』第５集

島崎久恵編 2002『亀川遺跡　一般国道 26 号線（第二阪和国道）建設に伴う発掘調査報告書』（財）大阪府文化財調査研究センター

菅原雄一 2006「陶邑古窯跡群の地域差と技術拡散」『考古学研究』第 53 巻第１号

杉本清美・藤沢真依・小山田宏一 2007『寺田遺跡』大阪府教育委員会

積山　洋 2004「大阪湾岸の古墳時代土器製塩」『季刊考古学別冊 14　畿内の巨大古墳とその時代』雄山閣

十河良和 2010「五世紀代における陶邑窯跡群の東部と西部」『ヒストリア』第 223 号

高橋　学 2003『平野の環境考古学』古今書院

田中清美 1989「５世紀における摂津・河内の開発と渡来人」『ヒストリア』第 125 号

辻　誠一郎・南木睦彦・鈴木三男・能城修一・鈴木三男・吉川純子・橋屋光孝 1987「東京都中里遺跡の縄文時代以降の古植生」『中里遺跡２－遺跡と古環境２－』中里遺跡調査団編，東北新幹線中里遺跡調査会

土屋みづほ編 2010『寺田遺跡Ⅱ』大阪府教育委員会

土屋みづほ編 2012『和泉寺跡・府中遺跡』大阪府教育委員会

中村　純 1980『日本産花粉の標徴』Ⅰ・Ⅱ（図版）　大阪市立自然史博物館収蔵資料目録第 12,13 集

中村 浩編 1973『陶邑・深田』大阪府教育委員会

中村　浩 1978「和泉陶邑窯出土遺物の時期編年」『陶邑 III』大阪府教育委員会

中山至大・井之口希秀・南谷忠志 , 2000, 日本植物種子図鑑 , 東北大学出版会 , 642p

樋口吉文 1982「東上野芝遺跡発掘調査報告」『堺市文化財調査報告』第 10 集、堺市教育委員会

広瀬和雄 1981「付２．６世紀後半における集落出土土器の二、三の分析」『大園遺跡発掘調査概要・Ⅵ』大阪府教育委員会

廣瀬時習 2002「池島・福万寺遺跡「滑石製品」―出土滑石製品とその生産について―」『池島・福万寺遺跡』２、財団法人大阪府文化財センター

藤下典之 1984「出土遺体よりみたウリ科植物の種類と変遷とその利用法」『古文化財の自然科学的研究』同朋舎

古田　昇 1990「第１章　槇尾川（大津川）右岸の地形環境」『史跡池上曽根遺跡発掘調査概要　松ノ浜曽根線建

設に伴う発掘調査』大阪府教育委員会

三木 弘 2007『大町遺跡』大阪府教育委員会

三好 玄 2010「布留式土器様式構造の再検討―精製器種を中心として―」『待兼山論叢』Ⅱ、大阪大学考古学研究室

三好 玄 2011「和泉北部における古墳時代の手工業生産―和泉市寺田遺跡の調査成果を中心に―」『ヒストリア』第 229 号

三好 玄 2012「和泉地域」『集落から探る古墳時代中期の地域社会―渡来文化の受容と手工業生産―』古代学研究会 2012 年度拡大例会シンポジウム資料集

表 19　寺田遺跡出土土器観察表

挿図番号	写真図版No.	遺物番号	器種	地区	遺構名	層位	口径 器高 (cm)	色調	胎土	白色砂粒	灰色砂粒	黒色砂粒	クサリ礫	チャート	その他	焼成 口縁部等の 残存率	備考
5		1	須恵器 杯蓋	2区 北半	090 溝		— 残 1.9	内 :N7/ 灰白 外 :N7/ 灰白 ,N6/ 灰 断 :7.5YR6/1 褐灰	密	○	−	−	−	−	−	良好堅緻 90%	断面 小豆色
5		2	須恵器 有蓋高杯	2区 北半	090 溝		推 9.6 残 4.35	内 :N6/ 灰 外 :N6/ 灰 ,7.5R6/1 赤灰 ,5Y4/1 灰 断 :7.5R6/1 赤灰	密	○	○	−	−	−	−	やや不良 20%	断面 小豆色
5		3	須恵器 杯蓋	3区	300 溝		推 12.9 残 3.6	内・断 :5YR7/6 橙 外 :5YR6/2 灰褐	密	○	○	−	−	−	−	不良 10%	
9		4	須恵器 杯蓋	2区 145 竪穴 北半	建物		推 12.8 残 3.4	内・外・断 :5Y8/1 灰白	密	○	○	○	−	−	−	不良 25%	
9	48	5	須恵器 杯蓋	2区 145 竪穴 北半	建物		12.6 4.4	内 :N7/0 灰白 外 :5R6/1 赤灰 断 :7.5YR5/2 灰褐	密	○	−	○	−	−	−	良好 堅緻 90%	断面 小豆色
9		6	須恵器 杯蓋	2区 北半	420 ピット		推 13.0 残 4.0	内・外 :N6/ 灰 断 :N7/ 灰	密	○	−	−	−	−	−	良好 23%	(145 竪穴建物)
9		7	須恵器 杯蓋	2区 145 竪穴 北半	建物		推 13.0 残 2.95	内・断 :N7/ 灰白 外 :N7/ 灰白 ,5Y5/1 灰	密	○	−	−	−	−	−	やや不良 20%	
9		8	須恵器 杯蓋	2区 145 竪穴 北半	建物		推 13.0 残 3.3	内・外・断 :N6/ 灰	密	○	−	−	−	−	−	良好堅緻 12%	
9	48	9	須恵器 杯身	2区 145 竪穴 北半	建物		推 10.9 4.35	内・断 :N6/0 灰 外 :N7/0 白灰	密	○	−	−	−	−	−	良好堅緻 45%	
9	48	10	須恵器 杯身	2区 145 竪穴 北半	建物		10.7 4.8	内 :7.5 Y 7/0 灰白 外・断 : N 7/0 灰白	密	○	−	○	−	○	−	やや不良 80%	大径チャートごくわすかに含む
9	48	11	須恵器 杯身	2区 145 竪穴 北半	建物		推 10.9 5.1	内・断 :N6/0 灰 外 :N5/0 灰	密	○	−	−	−	−	−	良好堅緻 50%	
9		12	須恵器 無蓋高杯	2区 145 竪穴 北半	建物		— 残 3.9	内 :N6/ 灰 外 :7/ 灰白 ,7.5Y5/2 灰オリーブ 断 :5RP6/1 紫灰	密	○	−	○	−	−	−	良好 25%	断面 小豆色
9		13	須恵器 高杯	2区 145 竪穴 北半	建物		— 残 4.85	内 :N7/ 灰白 外 :N7/ 灰白 ,10Y3/2 オリーブ黒 断 :N7/ 灰白 ,2.5Y5/2 暗灰黄	密	○	−	○	−	−	−	良好 23%	断面 小豆色
9	48	14	須恵器 高杯	2区 145 竪穴 北半	建物		— 残 4.6	内 :N5/0 灰 外・断 :N6/0 灰	密	○	−	○	−	○	−	良好 70%	大径チャートごくわずかに含む
9		15	土師器 甕	2区 145 竪穴 北半	建物		推 17.0 残 3.2	内・外・断 :7.5YR7/4 にぶい橙	密	○	○	−	○	○	−	良 12%	
9		16	須恵器 杯蓋	2区 147 竪穴 北半	建物		推 14.4 残 3.2	内・外 :N6/ 灰 断 :N7/ 灰 ,5RP4/1 暗紫灰	密	○	−	−	−	−	−	良好 12%	
9		17	須恵器 杯蓋	2区 147 竪穴 北半	建物		推 13.0 残 3.3	内・外 :N7/ 灰白 断 :N6/ 灰	密	○	−	−	−	−	−	良好 10%	
9		18	須恵器 高杯	2区 148 竪穴 北半	建物		— 残 2.05	内・外・断 :7.5Y8/1 灰白	密	○	○	−	−	○	−	やや不良 10%	細粒チャートわずかに含む
9	48	19	須恵器 杯蓋	2区 177 竪穴 北半	建物		13.1 4.6	内・断 : N 7/0 白灰 断 : N 8/0 白灰	密	○	−	○	−	−	−	良好 90%	
9		20	須恵器 杯蓋	2区 177 竪穴 北半	建物		推 13.0 残 2.9	内 :N6/ 灰 外 :N5/ 灰 断 :5R6/1 赤灰	密	○	−	−	−	−	−	良好堅緻 20%	断面 小豆色
9	48	21	須恵器 杯蓋	2区 177 竪穴 北半	建物		12.7 4.3	内 :N6/0 灰 外 :N5/0 灰 断 :5RP5/1 紫灰	密	○	−	○	−	○	−	良好 100%	細粒チャートわずかに含む,断面小豆色
9		22	須恵器 高杯				— 残 3.65	内 :N7/ 灰 外 :N6/ 灰 断 5R6/1 赤灰	密	○	−	−	−	−	−	良好堅緻 12%	断面 小豆色
9		23	須恵器 杯蓋	2区 177 竪穴 北半	建物		推 11.9 残 4.1	内・断 :N5/ 灰 ,5R5/1 赤灰 外 :N4/ 灰 ,N8/1 灰白	密	○	−	−	−	−	−	良好 10%	断面 小豆色
9		24	須恵器 杯蓋	2区 177 竪穴 北半	建物		推 13.0 残 2.6	内 :N6/ 灰 外 :N5/ 灰 断 :N8/ 灰白	密	○	−	−	−	−	−	良好堅緻 20%	
9	48	25	須恵器 杯身	2区 177 竪穴 北半	建物		推 11.0 残 4.5	内・断 : N 6/0 灰 外 :5PB6/1 青灰	密	○	−	−	−	−	−	良好堅緻 30%	
9	48	26	須恵器 杯身	2区 177 竪穴 北半	建物		推 10.3 残 5.0	内・断 :5P6/1 紫灰 外 :5PB6/1 青灰	密	○	−	−	−	−	−	良好堅緻 20%	
9	48	27	土師器 高杯	2区 177 竪穴 北半	建物		推 26.8 残 9.4	内 :10YR6/2 灰黄褐 外 :10YR7/3 にぶい黄橙 断 :10YR7/2 にぶい黄橙	密	○	−	−	−	−	−	やや不良 10%	
9		28	土師器 高杯	2区 177 竪穴 北半	建物		— 残 5.85	内・外 :5YR7/6 橙 ,2.5Y8/1 灰白 断 :5YR7/6 橙 ,2.5Y6/1 黄灰	やや密	○	○	−	−	○	−	良好 50%	
9		29	須恵器 高杯	2区 177 竪穴 北半	建物		推 15.0 残 5.4	内 :N7/ 灰白 ,N5/ 灰 外 :N7/ 灰白 断 :10YR7/1 灰白	密	○	−	−	−	−	−	良好 12%	
9		30	須恵器 杯身	2区 177 竪穴 北半	建物		— 残 3.85	内・外 :N6/ 灰 断 :N7/ 灰白	密	○	−	−	−	−	−	良好 20%	

出土土器観察表

挿図番号	写真図版No.	遺物番号	器種	地区	遺構名	層位	口径 器高 (cm)	色調	胎土	白色砂粒	灰色砂粒	黒色砂粒	クサリ礫	チャート	その他	焼成 口縁部(底部)等の残存率	備考
9		31	須恵器 壺 (口縁)	2区 北半	177竪穴 建物		推16.0 残4.3	内・外:N6/灰 断:10YR6/2灰黄褐	密	○	−	−	−	−	−	良好 堅緻 12%	
9	49	32	土師器 高杯	2区 北半	418竪穴 建物		推15.4 —	内・外・断:2.5YR5/8明赤褐	やや密	○	−	−	−	○	−	やや不良 25%	
9	49	33	須恵器 杯蓋	2区 北半	045ピット (047竪穴建物)		推12.6 残4.4	内:N5/0灰 外:N6/0灰 断:5YR6/1褐灰	密	○	−	○	−	−	−	良好 堅緻 25%	断面 小豆色
9	49	34	須恵器 杯蓋	2区 北半	037ピット(047 竪穴建物)		推13.4 —	内:N6/0灰 外:N5/0灰 断:7.5YR6/1褐灰	密	○	−	−	−	−	−	良好 堅緻 10%	断面 小豆色
9		35	土師器 製塩土器	2区 北半	212 ピット		推9.0 残2.5	内:10YR8/2灰白, 10YR7/2にぶい黄橙 外:10YR8/2灰白,10YR8/3浅黄橙 断:2.5Y8/1灰白,10YR6/3にぶい黄橙	密	○	−	−	○	−	−	良好 10%	
9	49	36	土師器 甕 (体部片)	2区 北半	047 竪穴 建物		— 残3.5	内:10YR7/3にぶい黄橙,7.5YR7/4にぶい橙 外:7.5YR4/2灰褐 断:10YR7/2にぶい黄橙	やや粗	○	−	−	−	−	−	やや良 5%以下	韓式系土器か
12	50	37	土師器 鍋 (体部〜把手)	2区 北半	131ピット(538 掘立柱 建物)		— 残13.6	内・断:7.5YR7/4にぶい橙 外:7.5YR7/4にぶい橙,10YR7/3にぶい黄橙	粗	○	○	−	○	○	−	やや不良 100%	
12		38	土師器 甕	2区 北半	135ピット(538 掘立柱 建物)		推14.6 残3.2	内:7.5YR7/4にぶい橙 外・断:10YR7/3にぶい黄橙	粗	○	○	○	○	○	−	やや不良 25%	
12	49	39	須恵器 鉢	2区 北半	417 ピット		13.3 —	内:10Y7/1灰白 外:10Y6/1灰 断:10YR5/1褐灰	密	○	○	−	−	−	−	良 50%	断面 小豆色
12		40	須恵器 把手付椀?	3区	272 ピット		推8.2 残3.1	内:7.5Y7/1灰白 外:7.5Y6/1灰 断:N6/0灰	密	○	−	○	−	−	−	良好 堅緻 5%以下	
12		41	須恵器 甕	3区	272 ピット		— 残3.3	内:N7/0灰白 外:7.5Y7/1灰白 断:N6/0灰	密	○	−	−	−	−	−	良好 堅緻 10%	
12		42	須恵器 高杯	3区	276 ピット		— 残3.5	内:N6/0灰 外:N7/0灰白,N6/0灰　断:N6/0灰	やや密	○	−	○	−	−	−	良好 堅緻 10%	
12		43	須恵器 高杯	3区	365 ピット		— 残3.3	内:N5/0灰,N7/0灰白 外:N4/0灰 断:5R5/1赤灰	密	○	−	○	−	−	−	良好 堅緻 5%以下	断面 小豆色
12		44	須恵器 高杯	3区	345 ピット		— 残2.5	内:N7/灰白 外:N6/灰,N8/灰白 断:2.5YR6/1赤灰	密	○	−	−	−	−	−	良好 堅緻 10%	断面 小豆色
12		45	須恵器 高杯	2区 南半	498 ピット		— 残6.9	内・外:N6/0灰 断:N5/0灰	やや密	○	○	○	−	−	−	良好 堅緻 98%	
12		46	須恵器 杯蓋	2区 北半	185 ピット		推12.4 残3.9	内・外・断:N6/0灰	密	○	−	−	−	−	−	良好 堅緻 5%以下	
12		47	須恵器 杯身	2区 北半	258 ピット		推10.4 残3.8	内・外:N5/0灰 断:10YR4/2灰黄褐	密	○	−	−	−	−	−	良好 堅緻 10%	
12		48	須恵器 杯蓋	2区 北半	258 ピット		— 残2.7	内・外:N7/0灰白 断:N6/0灰	密	○	−	−	−	−	−	良好 堅緻 5%以下	
12		49	須恵器 杯蓋	2区 北半	189 ピット		— 残2.7	内:N7/0灰白,5YR6/4にぶい橙 外:5YR6/6褐灰 断:5YR6/4にぶい橙	密	○	−	−	○	−	−	やや不良 5%以下	断面 小豆色
12		50	土師器 鉢	2区 北半	082 ピット		推12.7 残6.9	内:12.5Y7/2灰黄,10YR4/1褐灰 外:10YR2/1黒 断:10YR5/3にぶい黄褐	密	○	−	−	−	○	−	良好 30%	
22	52	51	須恵器 杯蓋	1区 南半	018 溝		12.7 4.0	内・外・断:N7/0灰白	密	○	−	−	−	−	−	良好 堅緻 100%	

挿図番号	写真図版No.	遺物番号	器種	地区	遺構名	層位	口径 器高 (cm)	色調	胎土	白色砂粒	灰色砂粒	黒色砂粒	クサリ礫	チャート	その他	焼成 口縁部（底部）等の残存率	備考
22	52	52	須恵器 杯蓋	1区 南半	018 溝		13.1 残 4.1	内・外・断 :5Y8/0 灰白	密	○	－	○	○	－	－	やや不良 45%	
22	52	53	須恵器 杯蓋	1区 南半	018 溝		14.4 4.7	内・外・断 :N7/0 灰白	密	○	－	－	－	－	－	良好堅緻 80%	
22		54	須恵器 杯蓋	1区 南半	018 溝		推 12.0 残 3.9	内・外 :N6/ 灰 断 :N7/ 灰白	密	○	－	○	－	○	－	良好 10%	細粒チャートわずかに含む
22		55	須恵器 杯蓋	1区 南半	018 溝		12.8 残 3.6	内・断 :7.5YR6/6 橙 外 :2.5Y6/4 にぶい黄 ,2.5Y7/2 灰黄	粗	○	－	－	○	－	－	不良 15%	
22		56	須恵器 杯蓋	1区 南半	018 溝		推 13.3 残 4.4	内 :7.5YR7/6 橙 外 :7.5Y8/1 灰白 断 :7.5YR7/6 橙 ,7.5Y8/1 灰白	やや密	○	－	－	○	－	－	不良 15%	
22		57	須恵器 杯蓋	1区 南半	018 溝		推 12.0 残 4.4	内・断 :N6/ 灰 外 :N5/ 灰	密	○	－	－	－	－	－	良好 13%	
22	52	58	須恵器 杯身	1区 南半	018 溝		11.0 5.6	内・外・断 :N7/0 灰白	密	○	－	○	－	○	－	良好堅緻 100%	細粒チャートわずかに含む
22		59	須恵器 杯身	1区 南半	018 溝		推 11.0 残 4.7	内 :N6/ 灰 外 :5Y7/1 灰白 断 :N7/ 灰白	密	○	－	－	－	○	－	やや良 30%	細粒チャートわずかに含む
22		60	須恵器 杯身	1区 南半	018 溝		推 10.6 残 5.0	内・外 :N6/ 灰 断 :N7/ 灰白	密	○	－	－	－	○	－	良好 8%	細粒チャートわずかに含む
22	52	61	須恵器 杯身	1区 南半	018 溝		10.2 4.5	内 :10YR6/1 灰 外 :10YR6/1 灰 ,7.5Y7/0 灰白 断 :10Y6/1 灰	密	○	－	黒	－	○	－	良好堅緻 100%	細粒チャートごくわずかに含む
22		62	須恵器 杯身	1区 南半	018 溝		推 12.0 残 4.7	内 :N6/ 灰 外 :7.5Y7/1 灰白 ,N5/ 灰 断 :N4/ 灰	密	○	－	－	－	○	－	やや不良 30%	細粒チャートわずかに含む
22		63	須恵器 杯身	1区 南半	018 溝		推 12.0 残 4.2	内・外 :N5/ 灰 断 :N5/ 灰 ,2.5YR5/1 赤灰	密	○	－	－	－	－	－	良好 16%	断面小豆色
22		64	須恵器 杯身	1区 南半	018 溝		推 11.0 残 3.5	内・断 :N7/ 灰白 外 :N6/ 灰	密	○	－	○	－	－	－	良好 12%	
22		65	須恵器 杯身	1区 南半	018 溝		推 10.8 残 3.8	内・断 :7.5YR6/6 橙 外 :7.5YR7/6 橙 ,2.5Y7/2 灰黄 ,2.5Y5/1 黄灰	粗	○	－	－	○	○	－	不良 20%	細粒チャートわずかに含む
22	52	66	須恵器 甕	1区 南半	018 溝		— 残 6.4	内・外 :N7/0 灰白 断 :N8/0 灰白	密	○	－	○	－	－	－	良好堅緻 70%	
22		67	須恵器 有蓋高杯	1区 南半	018 溝		推 10.6 残 9.25	内・外 :N5/ 灰 断 :5Y5/1 赤灰	密	○	－	－	－	－	－	良好 20%	断面 小豆色
22		68	須恵器 有蓋高杯	1区 南半	018 溝		推 11.6 残 9.4	内・外 :N7/ 灰 断 :N8/ 灰白	密	○	－	○	－	－	－	良好 40%	
22		69	須恵器 把手付椀	1区 南半	018 溝		推 9.0 残 5.1	内 :N7/ 灰白 ,10Y6/1 灰 外 :N7/ 灰白 ,5Y6/2 灰オリーブ　断 :N8/ 灰白	密	○	－	－	－	○	－	良好 5%以下	細粒チャートわずかに含む
22		70	須恵器 高杯	1区 南半	018 溝		— 残 2.2	内・外 :N6/ 灰 断 :N7/ 灰白	密	○	－	－	－	－	－	良好 25%	
22		71	土師器 高杯	1区 南半	018 溝		推 16.0 残 5.7	内・外・断 :5YR6/8 橙	密	○	○	－	○	○	－	良好 20%	
22		72	土師器 高杯	1区 南半	018 溝		— 残 2.3	内 :10YR8/2 灰白 ,7.5YR7/4 にぶい橙 外 :7.5YR5/6 明褐 断 :10YR8/2 灰白 ,10YR5/1 褐灰	やや密	○	－	－	○	－	－	良 20%	
22		73	土師器 甑	1区 南半	018 溝		推 22.0 残 9.7	内 :10YR8/2 灰白 外 :7.5YR7/4 にぶい橙 断 :7.5YR8/3 浅黄橙	密	○	○	－	○	－	－	良好 15%	
22		74	土師器 甕	1区 南半	018 溝		推 15.0 残 8.5	内・断 :10YR8/2 灰白 ,5YR6/6 橙 外 :5YR6/6 橙	粗	○	－	－	○	－	－	やや良 5%以下	
22	52	75	須恵器 広口壺	1区 南半	018 溝		21.1 残 22.0	内 :N5/0 灰 ,7.5Y5/1 灰 外 :N6/0 灰 ,10Y6/1 オリーブ灰 断 :7.5Y4/1 灰	密	○	－	－	－	－	－	やや良 40%	
22		76	土師器 甑	1区 南半	018 溝		— —	内 :10YR7/6 明黄褐 ,10YR8/3 浅黄橙 外 :10YR8/3 灰白 断 :10YR8/2 灰白	密	○	－	－	○	－	－	良好 100%	
22		77	弥生 / 土師 壺・鉢	1区 南半	018 溝		— 残 3.3	内 :2.5Y6/1 黄灰 外 :7.5YR7/3 にぶい橙 ,10YR8/2 灰白 断 :2.5Y6/1 黄灰	やや粗	○	－	－	○	－	－	やや良 80%	
22		78	弥生 / 土師 壺・鉢	1区 南半	018 溝		— 残 3.0	内 :10YR3/1 黒褐 外 :10YR3/1 黒褐 10YR8/2 灰白 ,5YR6/6 橙 断 :10YR3/1 黒褐 ,5YR6/6 橙	やや粗	○	－	－	○	－	－	やや良 95%	
25		79	須恵器 杯蓋	2区 北半	179 溝 B		— 残 3.05	内 :N5/ 灰 ,N7/ 灰白 外 :N5/ 灰 ,N6/ 灰 断 :N8/ 灰白	やや粗	○	－	－	－	－	－	やや不良 60%	
25		80	須恵器 杯蓋	2区 北半	179 溝 H		推 10.7 残 3.7	内・外・断 :5Y8/1 灰白	やや粗	○	○	－	－	－	－	不良 30%	
25	53	81	須恵器 杯蓋	2区 北半	179 溝 D		推 12.4 残 3.8	内・外・断 :N7/0 灰白	密	○	－	○	－	－	－	良好堅緻 40%	
25	53	82	須恵器 杯身	2区 北半	179 溝 B		推 11.3 残 4.8	内 :N8/0 灰白 外 :N8/0 灰白 , N 6/1 灰 断 :N8/0 灰白 , N 7/0 灰白	密	○	－	○	－	－	－	良好堅緻 30%	

出土土器観察表

挿図番号	写真図版No.	遺物番号	器種	地区	遺構名	層位	口径 器高 (cm)	色調	胎土	白色砂粒	灰色砂粒	黒色砂粒	クサリ礫	チャート	その他	焼成 口縁部（底部）等の残存率	備考
25		83	須恵器 杯身	2区 北半	179 溝C		推 10.6 残 4.85	内・断 :N7/ 灰白 外 :N7/ 灰白 ,N6/ 灰	やや密	○	－	－	－	－	－	やや良 60%	
25		84	須恵器 杯身	2区 北半	179 溝B		推 10.7 残 4.7	内 :N7/ 灰白 外 :N7/ 灰白 ,N6/ 灰 断 :5Y8/1 灰白	やや密	○	○	－	－	－	－	やや良 15%	
25		85	須恵器 杯身	2区 北半	179 溝D		推 9.7 残 3.7	内・断 :N6/ 灰 外 :N6/ 灰 ,N5/ 灰	密	○	－	－	－	－	－	やや良 25%	
25		86	須恵器 杯身	2区 北半	179 溝F		推 10.4 残 4.3	内・外・断 :5Y8/1 灰白	やや密	○	－	－	－	－	－	不良 25%	
25		87	須恵器 杯身	2区 北半	179 溝D		推 10.7 残 5.05	内 :N7/ 灰白 外 :N7/ 灰白 ,N6/ 灰 断 :N8/ 灰白	やや密	○	－	－	－	－	－	やや不良 25%	
25	53	88	須恵器 杯身	2区 北半	179 溝C		10.6 4.7	内 :7.5YR6/1 褐色 外 :7.5YR6/3 にぶい褐 ,5PB6/1 青灰 断 :7.5YR6/3 にぶい褐	密	○	－	－	○	○	－	良好堅緻 95%	大径チャートわずかに含む
25		89	須恵器 有蓋高杯	2区 北半	179 溝H		推 12.8 残 4.3	内・断 :N6/ 灰 外 :N6/ 灰 ,N7/ 灰白	やや密	○	－	－	－	－	－	やや良 20%	
25		90	須恵器 有蓋高杯	2区 北半	179 溝B		推 10.0 残 5.2	内・外・断 :N7/ 灰白	密	○	－	－	－	－	－	良好堅緻 60%	
25	53	91	須恵器 有蓋高杯	2区 北半	179 溝E		推 11.0 4.9	内 :N7/0 灰白 外 :N6/0 灰 断 :N5/0 灰	密	○	－	○	－	－	－	良好堅緻 90%	
25	53	92	須恵器 無蓋高杯	2区 北半	179 溝G		13.5 8.6	内 :10Y7/1 灰白 ,N6/0 灰 外 :N7/0 灰白 ,10Y7/1 灰白 断 :5GY6/1 オリーブ灰 ,2.5GY 明オリーブ灰	密	○	－	－	○	○	－	良好 70%	ごくわずかにチャートを含む
25		93	須恵器 高杯	2区 北半	179 溝C		— 残 5.7	内 :N7/ 灰白 ,N5/ 灰 外 :N6/ 灰 ,N7/ 灰白 断 :7.5YR6/1 褐灰	密	○	○	－	－	－	－	良好堅緻 20%	断面 小豆色
25		94	須恵器 把手付椀	2区 北半	179 溝D		推 7.7 残 3.9	内 :N3/ 暗灰 ,N7/ 灰白 外 :N4/ 灰 ,N7/ 灰白 断 :2.5YR5/1 赤灰 ,N7/ 灰白	密	○	－	○	－	－	－	やや不良 10%	断面 小豆色
25		95	須恵器 椀	2区 北半	193 溝A		推 10.2 残 6.8	内・外 :N7/ 灰白 ,N6/ 灰 断 :N7/ 灰白	密	○	－	－	－	－	－	良好堅緻 25%	
25	53	96	須恵器 把手付椀	2区 北半	179 溝B		8.0 4.9	内 :N6/0 灰 外 :N4/0 灰 断 :2.5GY 灰白	密	○	－	○	－	－	－	良好堅緻 95%	
25	53	97	須恵器 不明土製品	2区 北半	179 溝B		推 3.6 3.5	内 :7.5Y7/1 灰白 外 :N8/0 灰白 ,10Y5/1 灰 断 :7.5Y6/1 灰 ,7.5Y8/1 灰白	密	○	○	－	－	－	－	良好堅緻 30%	窯道具か
25		98	須恵器 壺	2区 北半	179 溝C		推 11.1 残 3.0	内 :N5/ 灰 ,N8/ 灰白 外 :N5/ 灰 断 :N8/ 灰白	やや密	○	－	○	－	－	－	良好堅緻 25%	
25		99	須恵器 壺？	2区 北半	180 溝D		— 残 2.2	内・外・断 :5Y5/1 灰	密	○	－	○	－	－	－	良好堅緻 5%以下	
25		100	須恵器 壺	2区 北半	179 溝G		— 残 9.6	内・外 :5Y8/1 灰白 ,N6/ 灰 ,5Y5/2 灰オリーブ 断 :N8/ 灰白	密	○	－	○	－	－	－	良好堅緻 60%	
25		101	須恵器 広口壺	2区 北半	179 溝A		推 13.3 残 5.8	内 :N6/ 灰 ,5Y7/1 灰白 ,5Y6/2 灰オリーブ 外 :5Y7/1 灰白 ,5Y6/2 灰オリーブ 断 :5YR7/1 明褐灰	密	○	－	－	－	－	－	良好堅緻 10%	砂粒はごくわずか 断面 小豆色
25		102	須恵器 壺？	2区 北半	179 溝B		— 残 2.5	内 :N6/ 灰 外 :N6/ 灰 ,5Y8/1 灰白 断 :5YR7/2 明褐灰	やや密	○	－	○	－	－	－	やや不良 30%	断面 小豆色
25		103	須恵器 甕	2区 北半	179 溝H		— 残 2.6	内 :N5/ 灰 外 :N6/ 灰 断 :2.5YR6/2 灰赤	密	○	－	－	－	－	－	やや不良 5%以下	断面 小豆色
25		104	土師器 甑・鍋	2区 北半	179 溝B		— 残 4.2	内・外・断 :7.5YR7/4 にぶい橙	やや粗	○	○	－	○	－	－	良 90%	
25		105	土師器 甑・鍋	2区 北半	179 溝E		— 残 7.3	内 :2.5Y6/1 黄灰 外・断 :7.5YR8/4 浅黄橙	やや粗	○	○	－	○	－	－	良 100%	
25		106	土師器 甑・鍋	2区 北半	193 溝A		— 残 4.1	内・外・断 :5YR7/8 橙	やや粗	○	○	－	○	－	－	やや不良 90%	
25		107	土師器 甕	2区 北半	179 溝H		推 15.7 残 3.3	内 :7.5YR7/4 にぶい橙 外 :5YR7/6 橙 断 :10YR8/3 浅黄橙	やや粗	○	○	－	－	－	－	良 10%	
25		108	土師器 甕	2区 北半	179 溝F		推 19.8 残 4.1	内・外・断 :7.5YR7/4 にぶい橙	やや密	○	○	－	○	－	－	良 10%	
25		109	土師器 鍋	2区 北半	179 溝A		推 29.8 残 8.1	内・外・断 :7.5YR8/4 浅黄橙	粗	○	○	○	○	－	－	やや不良 10%	
26	53	566	棒状土錘	2区 北半	179 溝		長 8.8 幅 2.0	内 : 外 :10YR7/3 にぶい黄橙 断 :5YR7/4 にぶい橙	やや粗	○	○	－	○	－	－	良 70%	土師質 重量 34.4g
26	53	567	棒状土錘	2区 北半	179 溝		長 8.9 幅 2.0	内 : 外 :7.5YR6/6 橙 断 :10YR6/4 にぶい黄橙	密	○	○	－	○	○	－	良 80%	土師質 重量 39.1g
27		110	須恵器 杯蓋	2区 南半	149 溝		推 12.8 4.2	内 :N6/ 灰 外 :N6/ 灰 ,N5/ 灰 ,N8/ 灰白 断 :N6/ 灰 ,10R6/1 赤灰	密	○	－	○	－	－	－	良好 15%	断面 小豆色

挿図番号	写真図版No.	遺物番号	器種	地区	遺構名	層位	口径 器高 (cm)	色調	胎土	白色砂粒	灰色砂粒	黒色砂粒	クサリ礫	チャート	その他	焼成 口縁部(底部)等の残存率	備考
27		111	須恵器 有蓋高杯	2区 南半	149 溝		— 残 6.4	内 :N6/ 灰 外 :N6/ 灰 ,N5/ 灰 断 :2.5YR6/1 赤灰	密	○	○	−	−	−	−	良好堅緻 60%	断面 小豆色
27		112	須恵器 高杯	2区 南半	149 溝		— 残 2.0	内・断 :N7/ 灰白 外 :N7/ 灰白 ,N5/ 灰	密	○	−	−	−	−	−	良好堅緻 10%	
27		113	須恵器 甕	2区 南半	149 溝		推 31.6 残 5.8	内 :N7/ 灰白 外 :N5/ 灰 断 :5R6/1 赤灰	密	○	−	○	−	−	−	良好堅緻 10%	断面 小豆色
28		114	土師器 布留甕	2区 南半	491 溝		推 13.0 残 3.8	内 :10YR5/2 灰黄褐 ,5YR6/4 にぶい橙 外 :5YR3/1 黒褐 ,5YR6/4 にぶい橙 断 :5YR6/4 にぶい橙	やや粗	○	○	−	−	−	−	良 10%	
28		115	土師器 布留甕	2区 南半	491 溝		推 16.5 残 4.35	内・外 :7.5YR7/4 にぶい橙 断 :2.5Y5/1 黄灰	やや粗	○	○	−	−	−	−	良 15%	
28		116	土師器 布留甕	1区 北半	492 溝		推 16.5 残 4.5	内 :5YR6/6 橙 外・断 :7.5YR6/4 にぶい橙	粗	○	−	−	−	−	−	良 10%	
28		117	土師器 製塩土器	2区 南半	492 溝		— 残 3.5	内・外 :2.5YR7/4 淡赤橙 ,5YR7/3 にぶい橙 断 :5YR7/3 にぶい橙	やや密	○	○	−	○	−	−	やや不良 60%	
28		118	土師器 製塩土器	2区 南半	492 溝		— 残 3.8	内 :5YR7/2 明褐灰 ,10YR6/6 明黄褐 外 :5YR7/2 明褐灰 ,2.5YR7/3 淡赤橙 断 :5YR7/2 明褐灰	やや粗	○	○	○	−	○	−	やや不良 80%	
28		119	土師器 製塩土器	2区 南半	492 溝		— 残 4.5	内・外・断 :7.5YR8/3 浅黄橙	やや密	○	−	−	○	−	−	良 10%	
28		120	須恵器 杯蓋	2区 南半	470 溝		推 12.7 4.0	内・外・断 :N6/ 灰	密	○	−	○	−	−	−	良好堅緻 25%	
28		121	土師器 製塩土器	2区 南半	470 溝		— 残 3.7	内 :7.5YR8/2 灰白 ,5YR7/6 橙 外 :7.5YR7/4 にぶい橙 断 :7.5YR8/2 灰白	やや粗	○	−	−	○	−	−	やや不良 40%	
28		122	土師器 高杯	2区 北半	482 溝		— 残 3.2	内・断 :7.5YR8/3 浅黄橙 外 :7.5YR8/3 浅黄橙 ,7.5YR7/6 橙	やや密	○	−	○	−	−	−	やや不良 30%	
28		123	土師器 高杯	2区 北半	482 溝		推 16.6 12.55	内・外・断 :7.5YR7/6 橙	粗	○	○	○	−	−	−	やや不良 40%	
31		124	弥生 / 土師 V様式系甕	2区 北半	399 井戸		推 15.2 残 6.3	内・外・断 :10YR7/2 にぶい黄橙 ,7.5YR7/3 にぶい橙	粗	○	○	−	○	○	−	やや良好 10%	
31		125	弥生 / 土師 V様式系甕	2区 北半	399 井戸		推 22.9 残 4.7	内 :7.5YR7/6 橙 外 :10YR6/3 にぶい黄橙 断 :10YR8/3 浅黄橙	粗	○	○	○	○	−	−	やや不良 5%以下	
31		126	弥生 / 土師 高杯	2区 北半	399 井戸		推 27.4 残 4.5	内・外 :10YR7/4 にぶい黄橙 断 :5YR6/6 橙	密	○	○	−	○	−	−	不良 5%以下	
31		127	土師器 製塩土器？	2区 北半	399 井戸		— 残 3.8	内・断 :5YR7/6 橙 外 :5YR7/2 明褐灰	粗	○	○	−	○	○	−	やや良 95%	
31		128	弥生 / 土師 高杯	2区 北半	399 井戸		— 残 6.0	内・断 :7.5YR8/4 浅黄橙 外 :2.5YR6/6 橙	粗	○	○	−	○	○	−	やや不良 50%	
31		129	弥生 / 土師 高杯	2区 北半	399 井戸		— 残 6.4	内・外 :5YR6/6 橙 断 :10YR8/4 浅黄橙	粗	○	○	−	○	○	−	やや良 40%	
33	51	130	須恵器 杯身		410 井戸		11.1 5.1	内 :5PB5/1 青灰 外 :5PB6/1 青灰 ,N6/1 灰 断 :N5/0 灰	密	○	−	−	−	−	−	良好 100%	
33		131	須恵器 壺？	2区 北半	410 井戸		— 残 2.5	内・断 :5Y8/1 灰白 外 :5Y6/1 灰	密	○	−	○	−	−	−	やや不良 10%	
33		132	土師器 小型壺	2区 北半	410 井戸		— 残 5.75	内・断 :7.5YR7/4 にぶい橙 外 :10YR7/3 にぶい黄橙 ,2.5Y4/1 黄灰	やや密	○	○	−	○	○	−	良 25%	
33	51	133	土師器 直口壺	2区 北半	410 井戸		推 10.8 14.0	内 :10YR7/4 にぶい黄橙 外 :10YR7/4 にぶい黄橙 ,7.5YR7/4 にぶい橙 断 :10YR7/4 にぶい黄橙	粗	○	○	−	○	−	−	やや良 80%	
33		134	土師器 甕	2区 北半	410 井戸		推 13.0 残 9.15	内・断 :10YR7/2 にぶい黄 ,10YR3/2 黒褐 外 :10YR7/2 にぶい黄橙 ,10YR3/2 黒褐 ,N2/ 黒	粗	○	○	○	−	−	雲母	やや不良 50%	
33	51	135	土師器 甕	2区 北半	410 井戸		12.8 —	内 :2.5Y5/1 黄灰 ,7.5YR7/4 にぶい橙 外 :7.5YR7/4 にぶい橙 断 :2.5Y5/1 黄灰	やや密	○	○	−	○	−	−	良好 30%	
33	51	136	土師器 壺	2区 北半	410 井戸		— —	内 :N3/0 暗灰 ,2.5Y6/7 灰黄 外 :10YR7/2 にぶい黄橙 ,7.5YR7/4 にぶい橙 断 :10YR7/2 にぶい浅黄橙	やや粗	○	−	−	○	−	−	やや良 60%	
33	51	137	土師器 鉢	2区 北半	410 井戸		推 8.4 6.65	内・外 :7.5YR6/6 橙 ,2.5Y3/1 黒褐 断 :7.5YR6/6 橙	やや粗	○	○	−	○	−	−	やや良 60%	
33		138	土師器 鉢？	2区 北半	410 井戸		— 残 2.85	内 :10YR8/2 灰白 ,10YR7/4 にぶい黄橙 外 :10YR8/2 灰白　断 :10YR8/2 灰白	やや粗	○	○	−	−	−	−	良 50%	
33		139	土師器 布留甕	2区 北半	410 井戸		推 15.2 残 6.2	内 :10YR8/1 灰白 外 :7.5YR6/6 橙 断 :10YR4/1 褐灰	やや密	○	○	○	−	−	−	良 20%	
33		140	土師器 甕	2区 北半	410 井戸		推 19.0 残 4.2	内・外・断 :10YR7/3 にぶい黄橙	やや粗	○	○	○	○	○	−	やや不良 20%	

出土土器観察表

挿図番号	写真図版No.	遺物番号	器種	地区	遺構名	層位	口径 器高 (cm)	色調	胎土	白色砂粒	灰色砂粒	黒色砂粒	クサリ礫	チャート	その他	焼成 口縁部（底部）等の残存率	備考
33	51	141	土師器 甕	2区 北半	410 井戸		推 16.8 —	内・外 :10YR7/3 にぶい黄 ,10YR5/2 灰黄橙 断 :10YR7/3 にぶい黄橙	やや密	○	－	－	○	○	－	やや良 40%	韓式系
33		142	土師器 高杯	2区 北半	410 井戸		推 17.6 推 11.5	内 :10YR7/4 にぶい黄橙 ,7.5YR7/3 にぶい橙 ,7.5YR6/1 褐灰 ,N4/ 灰 外・断 :10YR7/4 にぶい黄 ,7.5YR7/3 にぶい橙	やや密	○	－	○	○	○	－	不良 95%	
33	51	143	土師器 高杯	2区 北半	410 井戸		推 17.2 12.9	内・外・断 :7.5YR7/4 にぶい橙	やや粗	○	○	－	○	－	－	やや良 60%	
34		144	須恵器 杯蓋	2区 北半	181 井戸	上～下層	推 11.9 残 2.8	内 :N7/0 灰白 外 :N6/0 灰 断 :10Y6/1 灰	やや密	○	－	○	－	－	－	良好 5%以下	
34		145	須恵器 甕	2区 北半	181 井戸	最下層	推 12.6 残 3.8	内・外・断 :2.5Y5/1 黄灰	密	○	－	－	－	－	－	良好堅緻 30%	
34		146	須恵器 甕	2区 北半	181 井戸	最下層	推 12.2 残 4.0	内 :5Y5/2 灰オリーブ 外 :N5/0 灰 断 :N7/0 灰白	密	○	－	○	－	－	－	良好堅緻 10%	
34	50	147	須恵器 広口壺	2区 北半	181 井戸		推 15.4 残 4.3	内 :10Y6/1 灰 外 :7.5Y5/1 灰 断 :7.5Y8/1 灰白	密	○	－	○	－	－	－	良好堅緻 25%	
34		148	須恵器 広口壺	2区 北半	181 井戸	最下層	推 11.8 残 2.7	内 :N7/0 灰白 外 :N6/0 灰 断 :N5/0 灰	やや粗	○	○	－	－	－	－	良好堅緻 5%以下	
34	50	149	須恵器 広口壺	3区	181 井戸	最下層	推 15.0 残 4.5	内・外・断 :N7/0 灰白	密	○	－	○	－	－	－	良好堅緻 70%	
34		150	須恵器 広口壺	2区 北半	181 井戸	最下層	— 残 1.4	内・外 :2.5Y6/2 灰黄 断 :7.5YR7/3 にぶい橙	やや密	○	－	○	○	－	－	やや良好 5%以下	
34		151	土師器 広口壺	2区 北半	181 井戸	上～下層	推 19.2 残 3.9	内・外 :7.5YR7/3 にぶい橙 断 :7.5YR7/1 明褐灰	やや粗	○	－	－	○	－	－	やや良 5%以下	
34	50	152	須恵器 壺	3区	181 井戸	下層	— 残 15.4	内 :N4/0 灰 外 :N5/0 灰 ,7.5YR5/2 灰褐 断 :7.5YR5/2 灰褐	密	○	－	－	－	－	－	良好 65%	
37		153	弥生 / 土師 V様式系甕	2区 北半	057 土坑		— 残 3.5	内・外 :7.5YR5/2 灰褐 断 :7.5YR7/2 明褐灰	やや粗	○	○	○	－	○	－	良 5%以下	
37		154	弥生 / 土師 高杯	2区 北半	057 土坑		— 残 4.9	内 :5YR7/6 橙 外 :5YR6/6 橙 断 :5YR6/6 橙 ,10YR5/1 褐灰	やや粗	○	○	－	－	－	－	やや不良 10%	
37		155	須恵器 広口壺	2区 北半	054 土坑		推 13.4 残 3.9	内・外・断 :N6/ 灰	密	○	－	○	－	－	－	良好堅緻 25%	
37		156	弥生 / 土師 高杯	2区 北半	054 土坑		推 10.6 残 4.5	内 :2.5Y6/1 黄灰 外 :7.5YR7/6 橙 ,7.5Y5/1 灰　断 断 :2.5Y6/1 黄灰 ,7.5Y5/1 灰	粗	○	－	－	○	－	－	不良 30%	
37		157	土師器 壺	2区 北半	054 土坑		推 12.5 残 2.3	内 :7.5YR7/4 にぶい橙 外 :7.5YR7/4 にぶい橙 ,2.5Y5/1 黄灰 断 :2.5Y8/1 灰白	粗	○	○	－	○	－	－	やや不良 10%	
37	49	158	須恵器 高杯	3区	351 ピット（295 土坑）		— —	内 :N4/0 灰 外 :N6/0 灰 断 :N7/0 灰白	密	○	－	－	－	－	－	良好堅緻 10%	
37	49	159	須恵器 高杯形器台	3区	295 土坑（363 落込み）		推 46.0 —	内・外 :5PB6/1 青灰 断 :5R6/1 赤灰	密	○	－	－	－	－	－	良好堅緻 5%以下	断面 小豆色
37		160	須恵器 広口壺	2区 北半	土坑		推 18.0 残 6.5	内・外・断 :2.5Y8/1 灰白	やや粗	○	○	－	－	○	－	不良 20%	細粒チャートわずかに含む
39		161	須恵器 杯蓋	2区 北半	146 落込み		推 12.2 残 3.9	内 :2.5Y5/1 黄灰 外 :N6/0 灰 断 :7.5YR6/2 灰褐 ,7.5YR5/1 褐灰	やや粗	○	－	○	－	－	－	良好堅緻 20%	断面 小豆色
39		162	須恵器 杯蓋	2区 北半	146 落込み		推 12.8 残 3.8	内・断 :N7/0 灰白 外 :N6/0 灰	やや密	○	－	○	－	－	－	良好堅緻 10%	
39		163	須恵器 杯蓋	2区 北半	146 落込み		推 12.2 残 2.2	内・断 :N7/0 灰白 外 :N6/0 灰	やや密	○	－	○	－	－	－	良好堅緻 10%	
39		164	須恵器 杯蓋	2区 北半	146 落込み		12.9 残 4.5	内・外 :N7/0 灰白 断 :7.5Y5/1 灰	やや粗	○	○	－	－	－	－	良好堅緻 75%	
39		165	須恵器 杯蓋	2区 北半	146 落込み		推 12.2 残 4.2	内・断 :5PB7/1 明赤灰 外 :N7/0 灰白 ,N6/0 灰	やや密	○	－	○	－	－	－	良好堅緻 25%	
39		166	須恵器 杯蓋	2区 北半	146 落込み		推 12.4 4.8	内 :7.5Y8/1 灰白 外 :7.5Y8/1 灰白 ,N7/0 灰白 断 :N7/0 灰白	やや密	○	－	－	－	－	－	やや不良 25%	
39		167	須恵器 杯蓋	2区 北半	146 落込み		11.4 4.1	内・外 :N6/0 灰 断 :7.5YR4/2 灰褐	やや粗	○	－	○	－	－	－	良好堅緻 75%	
39		168	須恵器 杯蓋	2区 北半	146 落込み		推 12.0 3.85	内・外 :10Y7/1 灰白 断 :N4/0 灰	やや粗	○	○	－	－	－	－	良好堅緻 75%	
39		169	須恵器 杯蓋	2区 北半	146 落込み		11.4 4.2	内・外・断 :N7/0 灰白	やや粗	○	－	○	－	－	－	良好 70%	
39		170	須恵器 杯蓋	2区 北半	146 落込み		11.3 4.3	内・外 :N7/0 灰白 断 :N6/0 灰	やや粗	○	－	○	－	○	－	良好 45%	細粒チャートわずかに含む
39		171	須恵器 杯蓋	2区 北半	146 落込み		推 12.4 残 4.3	内・断 :N7/0 灰白 外 :N6/0 灰	やや密	○	－	○	－	－	－	不良 20%	

挿図番号	写真図版No.	遺物番号	器種	地区	遺構名	層位	口径 器高 (cm)	色調	胎土	白色砂粒	灰色砂粒	黒色砂粒	クサリ礫	チャート	その他	焼成 口縁部（底部）等の残存率	備考
39		172	須恵器 杯蓋	2区 北半	146 落込み		推 11.4 残 4.2	内・断 :N7/0 灰白 外 :N6/0 灰	やや 密	○	－	○	－	－	－	良好 堅緻 25%	
39		173	須恵器 杯蓋	2区 北半	146 落込み		推 12.8 残 4.1	内 :7.5YR7/4 にぶい橙 外 :5YR6/4 にぶい橙 断 :5YR6/6 橙	やや 粗	○	○	－	○	－	－	やや不良 10%	
39		174	須恵器 杯蓋	2区 北半	146 落込み		推 12.0 残 4.6	内・断 :7.5YR6/6 橙 外 :10YR7/3 にぶい黄橙 ,7.5YR6/2 灰褐	やや 粗	○	○	－	○	－	－	やや不良 30%	
39		175	須恵器 杯蓋	2区 北半	146 落込み		推 12.4 残 4.3	内・外 :N6/0 灰 断 :N4/0 灰	やや 密	○	－	－	－	－	－	良好 堅緻 30%	
39		176	須恵器 杯蓋	2区 北半	146 落込み		推 11.6 残 4.2	内・外 :N6/0 灰 断 :5RP3/1 暗紫灰	やや 密	○	○	○	－	－	－	良好 堅緻 30%	断面 小豆色
39		177	須恵器 杯蓋	2区 北半	146 込み		推 12.3 残 4.5	内 :N6/0 灰 外 :N6/0 灰 ,7.5Y7/1 灰白断 断 :5RP4/1 暗紫灰	やや 密	○	－	○	－	－	－	良好 堅緻 10%	断面 小豆色
39		178	須恵器 杯蓋	2区 北半	146 落込み		推 12.8 残 4.05	内・断 :N6/0 灰 外 :N5/0 灰	やや 密	○	－	○	－	－	－	良好 堅緻 15%	
39		179	須恵器 杯蓋	2区 北半	146 落込み		推 12.3 残 3.7	内・外 :5YR6/3 にぶい橙 断 :5YR5/3 にぶい赤褐	やや 密	○	－	－	○	－	－	やや不良 10%	
39		180	須恵器 杯蓋	2区 北半	146 落込み		推 11.7 残 4.4	内 :N7/0 灰白 外 :N6/0 灰 断 :N5/0 灰	やや 粗	○	－	－	－	－	－	良好 堅緻 40%	
39	54	181	須恵器 杯蓋	2区 北半	146 落込み		13.0 5.0	内・外 : N 7/0 灰白 断 : N 5/0 灰	密	○	－	－	－	－	－	良好 堅緻 95%	
39		182	須恵器 杯蓋	2区 北半	146 落込み		12.3 4.2	内 :N7/0 灰白 外 :5Y7/1 灰白 断 :N6/0 灰	やや 密	○	－	－	－	－	－	良好 堅緻 70%	
39		183	須恵器 杯蓋	2区 北半	146 落込み		推 13.0 4.55	内・外・断 :N7/0 灰白	やや 粗	○	－	○	－	－	－	良好 堅緻 20%	
39		184	須恵器 杯蓋	2区 北半	146 落込み		推 12.2 4.15	内・断 :5YR6/4 にぶい橙 外 :5YR5/2 灰褐	やや 粗	○	－	－	○	－	－	やや不良 30%	
39		185	須恵器 杯蓋	2区 北半	146 落込み		推 12.8 4.4	内 :5YR6/4 にぶい橙 外 :7.5YR7/3 にぶい橙 断 :7.5YR7/4 にぶい橙	やや 密	○	○	－	○	－	－	やや不良 30%	
39	54	186	須恵器 杯身	2区 北半	146 落込み		11.0 4.25	内 :10Y6/1 灰 外 :5GY6/1 オリーブ灰 ,N7/0 灰白 断 :10Y6/1 灰	密	○	－	－	－	○	－	良好 95%	細粒チャートわずかに含む
39		187	須恵器 杯身	2区 北半	146 落込み		推 10.1 残 4.8	内・外・断 :N7/0 灰白	やや 粗	○	○	○	－	－	－	やや不良 40%	
39		188	須恵器 杯身	2区 北半	146 落込み		推 11.0 残 5.6	内 :N7/0 灰白 外 :N6/0 灰 断 :N5/0 灰	やや 密	○	○	○	－	－	－	良好 堅緻 80%	
39	54	189	須恵器 杯身	2区 北半	146 落込み		11.7 5.6	内 :5PB5/1 青灰 外 :5PB6/1 青灰 ,10Y7/1 灰白 断 :5YR4/1 暗赤灰	密	○	－	－	－	－	－	良好 堅緻 80%	断面 小豆色
39		190	須恵器 杯身	2区 北半	146 落込み		推 9.8 4.3	内・外 :N5/0 灰 断 :10YR5/2 灰黄褐	やや 粗	○	○	－	○	－	－	良好 堅緻 45%	
39		191	須恵器 杯身	2区 北半	146 落込み		推 10.8 4.2	内 :N6/0 灰 外 :N4/0 灰 断 :5R4/1 暗赤灰	やや 粗	○	－	○	－	－	－	良好 堅緻 75%	断面 小豆色
39		192	須恵器 杯身	2区 北半	146 落込み		推 11.8 4.8	内 :N7/0 灰白 外・断 :N6/0 灰	やや 粗	○	○	○	－	－	－	良好 堅緻 75%	
39		193	須恵器 杯身	2区 北半	146 落込み		推 11.6 5.0	内 :N7/0 灰白 外 :N6/0 灰 ,N7/0 灰白 断 :N6/0 灰	やや 粗	○	－	○	－	－	－	良好 堅緻 35%	
39		194	須恵器 杯身	2区 北半	146 落込み		推 10.6 4.9	内 :N6/0 灰 外 :N6/0 灰 ,N7/0 灰白 断 :N7/0 灰白	やや 密	○	－	○	－	－	－	良好 堅緻 40%	
39		195	須恵器 杯身	2区 北半	146 落込み		推 11.1 残 5.2	内・外 :7.5YR7/4 にぶい橙 断 :7.5YR6/4 にぶい橙	やや 粗	○	－	－	○	－	－	やや不良 30%	
39		196	須恵器 杯身	2区 北半	146 落込み		推 10.5 残 5.05	内・外 :N6/0 灰 断 :N5/0 灰	やや 密	○	－	○	－	－	－	やや良 20%	
39		197	須恵器 杯身	2区 北半	146 落込み		推 10.8 残 5.3	内 :N6/0 灰 外 :5Y7/2 灰白 断 :N5/0 灰	やや 密	○	－	○	－	－	－	やや良 50%	
39		198	須恵器 杯身	2区 北半	146 落込み		推 10.0 残 4.15	内 :N7/0 灰白 外 :N6/0 灰 断 :7.5Y5/1 灰	やや 密	○	－	○	－	－	－	良好 堅緻 20%	
39		199	須恵器 杯身	2区 北半	146 落込み		10.2 残 4.85	内・断 :10YR7/4 にぶい黄橙 外 :5Y7/1 灰白	やや 粗	○	－	－	－	○	－	不良 90%	細粒チャートわずかに含む
39		200	須恵器 杯身	2区 北半	146 落込み		推 9.4 4.4	内・外 :N6/0 灰 断 :N5/0 灰	やや 密	○	－	－	－	－	－	良好 堅緻 25%	
39		201	須恵器 杯身	2区 北半	146 落込み		推 9.8 4.9	内 :5PB6/1 青灰 外 :N5/0 灰 断 :N4/0 灰	やや 粗	○	－	○	－	－	－	良好 堅緻 50%	
40		202	須恵器 高杯蓋	2区 北半	146 落込み		13.0 5.3	内・外 :N7 灰白 断 : —	密	○	－	－	－	○	－	やや良 100%	細粒チャートわずかに含む

出土土器観察表

挿図番号	写真図版No.	遺物番号	器種	地区	遺構名	層位	口径 器高 (cm)	色調	胎土	白色砂粒	灰色砂粒	黒色砂粒	クサリ礫	チャート	その他	焼成 口縁部(底部)等の残存率	備考
40		203	須恵器 高杯蓋	2区 北半	146 落込み		推 11.8 残 4.7	内 :5Y6/1 灰 外 :N6/0 灰 断 :N5/0 灰	やや密	○	－	○	－	－	－	良好堅緻 40%	
40		204	須恵器 高杯蓋	2区 北半	146 落込み		12.2 残 4.9	内・断 :N7/ 灰 外 :2.5Y7/ 灰白	密	○	○	○	－	－	－	やや良 90%	
40		205	須恵器 高杯蓋	2区 北半	146 落込み		推 12.2 残 4.5	内・外 :N6/0 灰 断 :N4/0 灰	やや密	○	－	○	－	－	－	良好堅緻 40%	
40		206	須恵器 有蓋高杯	2区 北半	146 落込み		10.5 残 4.5	内 :2.5Y8/2 灰白 外 :2.5Y8/1 灰白 ,10Y7/1 灰白 断 :10Y7/1 灰白	やや密	○	－	－	－	○	－	やや不良 95%	
40		207	須恵器 有蓋高杯	2区 北半	146 落込み		推 12.0 残 5.4	内 :N7/ 灰白 外 :5Y6/1 灰 断 :5R6/1 赤灰	密	○	－	－	－	－	－	良好 30%	断面 小豆色
40	54	208	須恵器 有蓋高杯	2区 北半	146 落込み		推 11.6 10.0	内 :10YR7/3 にぶい黄橙 外 :7.5YR7/4 にぶい橙 ,10YR7/3 にぶい黄 断 :7.5YR6/6 橙	密	○	－	－	○	－	－	やや不良 70%	断面 小豆色
40		209	須恵器 無蓋高杯	2区 北半	146 落込み		推 13.3 残 4.35	内 :10YR7/2 にぶい黄橙 ,10YR7/1 灰白 外 :5Y7/1 灰白 断 :10YR7/3 にぶい黄橙	やや密	○	－	－	○	－	－	不良 10%	
40		210	須恵器 無蓋高杯	2区 北半	146 落込み		12.0 8.3	内・外・断 :N7/ 灰白	密	○	－	○	－	－	－	やや不良 90%	
40		211	須恵器 無蓋高杯	2区 北半	146 落込み		12.6 残 9.4	内・外 :5Y8/ 灰白 断 :5Y7/ 灰白	不良	○	－	○	－	○	－	不良 80%	大径チャート少量含む
40		212	須恵器 高杯	2区 北半	146 落込み		— 残 1.8	内・断 :7.5Y7/1 灰白 外 :N6/ 灰	密	○	○	－	－	－	－	不良 20%	
40		213	須恵器 高杯	2区 北半	146 落込み		— 残 5.0	内 :N7/ 灰白 ,N6/ 灰 外 :N7/ 灰白 ,N5/ 灰 断 :N8/ 灰白	密	○	○	○	－	－	－	良好 20%	
40		214	須恵器 高杯	2区 北半	146 落込み		— 残 4.5	内・外 :N4/ 灰 断 :10R4/1 暗赤灰	密	○	－	－	－	－	－	良好 40%	断面 小豆色
40		215	須恵器 無蓋高杯	2区 北半	146 落込み		推 16.0 残 5.7	内 :N7/ 灰白 ,N6/ 灰 外 :N6/ 灰 断 :5R6/1 赤灰	やや密	○	－	－	－	－	－	良好 5%以下	断面 小豆色
40		216	須恵器 無蓋高杯	2区 北半	146 落込み		推 17.0 残 4.8	内 :N6/ 灰 外 :N7/ 灰白 断 :5RP6/1 紫灰	密	○	－	－	－	－	－	良好 12%	断面 小豆色
40		217	須恵器 無蓋高杯	2区 北半	146 落込み		推 20.0 残 4.8	内 :N6/ 灰 ,2.5Y5/1 黄灰 外 :N4/ 灰 断 :5R5/1 赤灰	密	○	－	－	－	－	－	良好 12%	断面 小豆色
40		218	須恵器 無蓋高杯	2区 北半	146 落込み		推 19.0 残 5.9	内 :N6/1 灰 外 :N5/ 灰 断 :N7/ 灰白	密	○	－	－	－	－	－	良好 5%以下	
40	54	219	須恵器 無蓋高杯	2区 北半	146 落込み		17.6 12.7	内 :7.5Y7/1 灰白 ,N6/0 灰 外 :7.5Y7/1 灰白 断 :N5/0 灰	密	○	－	○	－	○	－	良好 85%	細粒チャート含む
40		220	須恵器 蓋？	2区 北半	146 落込み		推 15.0 残 4.1	内 :N5/ 灰 外 :N6/ 灰 ,N7/ 灰 断 :10R3/1 暗赤灰	粗	○	－	－	－	－	－	やや良 50%	断面 小豆色
40		221	須恵器 甕	2区 北半	146 落込 み		推 10.0 残 3.2	内 :N8/ 灰白 外 :N5/ 灰 断 :N8/ 灰白 ,N6/ 灰	密	○	－	－	－	－	－	良好 5%以下	
40	55	222	須恵器 甕	2区 北半	146 落込み		推 9.9 10.15	内 :5Y8/1 灰白 ,5Y5/1 灰 外 :10Y6/1 灰 ,N7/0 灰白 断 :5Y8/1 灰白 ,	密	○	－	○	－	－	－	良好 80%	
40		223	須恵器 把手付椀	2区 北半	146 落込み		推 7.0 残 5.6	内 :N7/ 灰白 ,N6/ 灰 外 :N4/ 灰 ,N6/ 灰 断 :N7/ 灰白	やや密	○	－	－	－	－	－	良好 30%	
40		224	須恵器 広口壺	2区 北半	146 落込み		推 16.0 残 4.1	内・断 :N6/ 灰 外 :N5/ 灰	密	○	－	－	－	－	－	良好 5%以下	
40		225	須恵器 広口壺	2区 北半	146 落込み		推 21.0 残 4.5	内 :N7 灰白 ,5Y5/2 灰オリーブ 外 :5Y4/2 灰オリーブ 断 :5Y6/1 灰	密	○	－	－	－	－	－	やや良 25%	
40	55	226	須恵器 広口壺	2区 北半	146 落込み		21.8 残 8.7	内 :5Y7/1 灰白 外 :5Y6/1 灰 ,5Y7/1 灰白 断 :2.5Y7/2 灰黄	密	○	－	－	○	○	－	不良 10%	細粒チャートわずかに含む
40		227	須恵器 広口壺	2区 北半	146 落込み		— 残 6.0	内 :N5/ 灰 外 :N6/ 灰 ,5YR5/3 にぶい赤褐 断 :2.5YR5/2 灰赤	密	○	－	－	－	－	－	良好 10%	断面 小豆色
40		228	須恵器 無頸壺	2区 北半	146 落込み		推 21.0 残 5.1	内・断 :7.5YR8/4 浅黄橙 外 :7.5YR7/6 橙	密	○	－	－	－	－	－	不良 20%	
40		229	須恵器 甑	2区 北半	146 落込み		— 残 8.2	内 :N6/ 灰 外 :N7/ 灰白 ,N5/ 灰 断 :N7/ 灰白	密	○	－	－	－	－	－	良好 13%	
41	54	230	須恵器 甕 転用 皿？	2区 北半	146 落込み		— 残 5.5	内 :5Y6/1 灰 外 :7.5Y7/1 灰白 ,10Y5/1 灰 断 :5Y8/1 灰白 ,N6/0 灰	密	○	－	○	－	－	－	良好堅緻 100%	

挿図番号	写真図版No.	遺物番号	器種	地区	遺構名	層位	口径 器高 (cm)	色調	胎土	白色砂粒	灰色砂粒	黒色砂粒	クサリ礫	チャート	その他	焼成 口縁部(底部)等の残存率	備考
41		231	土師器 甕	2区 北半	146 落込み		推 13.0 残 5.6	内 :10YR8/3 浅黄橙 ,10YR5/3 にぶい黄褐 外 :10YR7/3 にぶい黄橙 ,10YR6/2 灰黄褐 断 :10YR7/3 にぶい黄橙	密	○	－	－	○	－	－	良 20%	
41		232	土師器 甕？	2区 北半	146 落込み		推 17.0 残 2.85	内 :5YR6/4 にぶい橙 外 :5YR6/4 にぶい橙 ,10YR7/2 にぶい黄橙 断 :5YR5/4 にぶい赤褐	やや密	○	－	－	○	－	－	良 15%	
41		233	土師器 甕	2区 北半	146 落込み		推 17.0 残 6.2	内 :10YR8/2 灰白 ,7.5YR7/4 にぶい橙 外 :7.5YR6/6 橙 ,7.5YR7/4 にぶい橙 断 :10YR7/2 にぶい黄橙 ,10YR6/4 にぶい黄橙	やや密	○	○	－	－	○	－	良 25%	
41		234	土師器 甕	2区 北半	146 落込み		推 19.0 残 6.35	内 :10YR8/2 灰白 ,10YR7/3 にぶい黄橙 外 :10YR8/3 浅黄橙 ,2.5Y7/1 灰白 断 :10YR8/2 灰白	やや粗	○	○	－	－	○	－	良好 25%	
41		235	土師器 甕	2区 北半	146 落込み		推 19.0 残 8.65	内 :5YR7/4 にぶい橙 外 :7.5YR7/3 にぶい橙 ,N4/ 灰 断 :7.5YR5/3 にぶい褐	やや粗	○	○	－	○	－	－	良 25%	
41	54	236	土師器 鍋？	2区 北半	146 落込み		推 18.0 残 5.8	内 :10YR76/3 にぶい黄橙 外 :10YR7/2 にぶい黄橙 ,7.5YR6/3 にぶい褐 断 :7.5YR5/3 にぶい褐	密	○	－	－	－	○	－	良好 5%以下	
41	54	237	韓式系土器 平底鉢	2区 北半	146 落込み		— 残 3.5	内・外 :10YR8/3 浅黄橙 断 :2.5Y8/2 灰白	密	○	－	－	－	○	－	良好 5%以下	土師質
41		238	土師器 甑・鍋	2区 北半	146 落込み		— 残 7.0	内 :10YR7/3 にぶい黄橙 ,10YR5/3 にぶい黄褐 外 :2.5Y5/1 黄灰 ,10YR7/2 にぶい黄橙 断 :10YR7/3 にぶい黄橙	やや密	○	－	－	－	－	－	良 50%	
41		239	土師器 甑・鍋	2区 北半	146 落込み		— —	内 ::5YR6/6 橙 断 :5YR7/6 橙	密	○	－	－	○	－	－	良 100%	
41		240	土師器 甑	2区 北半	146 落込み		— —	内 :10YR5/3 にぶい黄褐 ,7.5YR6/6 外 :7.5YR7/6 橙 ,10YR7/4 にぶい黄橙 断 :7.5YR6/6 橙	やや密	○	○	－	－	○	－	良 5%以下	
41		241	土師器 高杯	2区 北半	146 落込み		— 残 5.4	内 :7.5YR7/6 橙 外 :7.5YR7/6 橙 ,5Y6/1 灰断 :5Y6/1 灰	やや密	○	－	－	○	－	－	良 45%	
42		242	弥生 / 土師 鉢	2区 北半	146 落込み		— 残 4.3	内 :7.5YR7/6 橙 ,7.5YR6/6 橙 外 :10YR7/4 にぶい黄橙 ,7.5YR7/6 橙 断 :10YR5/2 灰黄褐	やや粗	○	○	－	－	○	－	良 90%	
42		243	弥生 / 土師 鉢	2区 北半	146 落込み		— 残 3.1	内 :10YR8/1 灰白 外 :10YR8/1 灰白 ,N3/1 暗灰 断 :N3/1 暗灰 ,2.5Y8/1 灰白	やや粗	○	○	－	○	－	－	良 55%	
42		244	弥生 / 土師 壺	2区 北半	146 落込み		— 残 4.2	内 :7.5YR5/6 明褐 ,10YR6/3 にぶい黄橙 外 :5YR6/6 橙 ,10YR8/2 灰白 断 :10YR6/2 灰黄褐 ,10YR8/2 灰白	密	○	－	－	－	－	－	良好 20%	
42		245	弥生 / 土師 壺	2区 北半	146 落込み		— 残 3.6	内 :5YR7/6 橙 外 :N4/ 灰 ,2.5 Y 7/1 灰白 断 :10YR6/2 灰黄褐	やや密	○	○	－	－	○	－	良 75%	
42		246	弥生 / 土師 V様式系甕	2区 北半	146 落込み		推 19.4 残 10.05	内 :10YR5/2 灰黄褐 ,2.5Y7/2 灰黄 外 :10YR5/2 灰黄褐 ,5Y2/1 黒 断 :10YR5/2 灰黄褐	やや粗	○	－	－	－	○	－	良 10%	
42		247	弥生 / 土師 V様式系甕	2区 北半	146 落込み		推 17.0 残 10.9	内 :10YR8/2 灰白 外 :10YR8/2 灰白 ,10YR5/2 灰黄褐 断 :10YR7/4 にぶい黄橙	やや粗	○	○	－	○	－	－	良 20%	
42		248	土師器 甕	2区 北半	146 落込み		— 残 9.45	内 :7.5YR8/6 浅黄橙 外 :7.5YR7/6 橙 断 :10YR8/4 浅黄橙	粗	○	○	－	－	○	－	良 10%	山陰系口縁
42		249	弥生 / 土師 V様式系甕	2区 北半	146 落込み		— 残 14.2	内 :5YR6/6 橙 ,2.5Y8/2 灰白 ,10YR4/2 灰黄褐 外 :10YR7/2 にぶい黄橙 断 :10YR8/2 灰白	やや粗	○	－	－	－	○	－	良 25%	
42		250	弥生 / 土師 高杯	2区 北半	146 落込み		— 残 10.25	内・外 :5YR7/6 橙 断 :7.5Y4/1 灰	やや粗	○	○	－	－	－	－	良 40%	
42		251	弥生 / 土師 高杯	2区 北半	146 落込み		— 残 4.6	内・外 :10YR8/2 灰白 断 :5YR6/6 橙	やや密	○	○	－	○	－	－	良 50%	
42		252	土師器 製塩土器	2区 北半	146 落込み		— 残 2.85	内・外・断 :10YR8/3 浅黄橙 ,5YR7/4 にぶい橙	やや密	○	○	－	－	○	－	良 25%	
42		253	土師器 製塩土器	2区 北半	146 落込み		— 残 3.4	内 :2.5Y8/2 灰白 ,7.5YR8/2 灰白 外 :5YR7/4 にぶい橙 ,10YR8/2 灰白 断 :2.5Y7/3 浅黄	密	○	－	－	－	－	－	良 80%	
42		254	土師器 製塩土器	2区 北半	146 落込み		— 残 2.0	内・外・断 :10YR8/3 浅黄橙	やや密	○	○	－	○	－	－	良 20%	

出土土器観察表

挿図番号	写真図版No.	遺物番号	器種	地区	遺構名	層位	口径 器高 (cm)	色調	胎土	白色砂粒	灰色砂粒	黒色砂粒	クサリ礫	チャート	その他	焼成 口縁部(底部)等の残存率	備考
42		255	土師器 製塩土器？	2区 北半	146 落込み		— 残 3.65	内 :2.5Y8/2 灰白 ,10YR5/2 灰黄褐 ,10YR2/1 黒 外 :5YR7/4 にぶい橙 ,10YR7/2 にぶい黄橙 断 :2.5Y6/1 黄灰	やや密	○	−	−	○	−	−	良 60%	
44		256	須恵器 杯蓋	2区 北半	089 落込み		推 13.0 残 4.3	内・外 :N7/ 灰白 ,N6/ 灰断 :10YR6/2 灰黄褐 ,N7/ 灰白	密	○	−	−	−	○	−	良好 45%	細粒チャートわずかに含む
44	55	257	須恵器 杯蓋	2区 北半	089 落込み		12.8 5.0	内 :N8/0 灰白 外 :5Y7/1 灰白 断 :N8/0 灰白 , N 6/0 灰	密	○	−	○	−	−	−	良好堅緻 90%	
44		258	須恵器 杯蓋	2区 北半	089 落込み		推 12.4 残 3.9	内 :N8/ 灰白 外 :N7/ 灰白 断 :5R6/1 赤灰	密	○	−	−	−	−	−	良好堅緻 12%	断面小豆色
44		259	須恵器 杯蓋	2区 北半	089 落込み		13.0 5.4	内・外・断 :N7/ 灰白	密	○	−	○	−	○	−	良好 80%	細粒チャートわずかに含む
44		260	須恵器 杯身	2区 北半	089 落込み		推 10.6 4.75	内・外・断 :N7/ 灰白	密	○	−	○	−	−	−	良好 85%	
44		261	須恵器 杯身	2区 北半	089 落込み		推 11.6 残 4.55	内 :N5/ 灰 外 :5PB6/1 青灰 ,5RP7/1 明紫灰 断 :2.5Y6/2 赤灰	密	○	−	−	−	−	−	良好堅緻 12%	断面小豆色
44		262	須恵器 杯身	2区 北半	089 落込み		推 11.4 残 4.3	内・外・断 :N7/ 灰白	密	○	−	−	−	−	−	良好 45%	
44		263	須恵器 杯身	2区 北半	089 落込み		推 10.4 残 5.5	内・外 :N6/ 灰 断 :2.5GY6/1 オリーブ灰	密	○	−	−	−	−	−	良好 40%	
44		264	須恵器 高杯蓋	2区 北半	089 落込み		— 残 1.4	内 :N8/ 灰白 外 :2.5Y8/1 灰白 断 :N8/ 灰白 ,7.5Y6/1 灰	密	○	−	−	−	−	−	良好 90%	
44		265	須恵器 把手付椀	2区 北半	089 落込み		— 残 3.2	内・外 :N4/ 灰 断 :10YR5/2 灰黄褐	密	○	−	−	−	−	−	良好堅緻 100%	
44		266	須恵器 無蓋高杯	2区 北半	089 落込み		推 14.0 残 5.3	内 :N7/ 灰白 ,2.5Y5/1 黄灰 外 :N5/ 灰 断 :5YR6/2 灰褐	密	○	−	−	−	−	−	良好堅緻 28%	断面小豆色
44		267	須恵器 無蓋高杯	2区 北半	089 落込み		推 15.2 残 6.3	内 :5Y7/1 灰白 外 :N7/ 灰白 断 :7.5YR7/2 明褐灰 ,10YR5/1 褐灰	密	○	−	−	−	−	−	良好 27%	断面小豆色
44		268	須恵器 杯身	2区 北半	093 落込み		推 11.4 残 4.4	内・断 :N7/ 灰白 外 :N6/ 灰	密	○	−	−	−	−	−	良好 20%	
47	55	269	弥生土器 甕	2区 北半	130 落込み		14.0 残 9.1	内 :10YR7/2 にぶい黄橙 ,2.5YR7/4 淡赤橙 ,5Y5/1 灰 外 :10YR7/4 にぶい黄橙 ,2.5YR6/6 橙 ,5Y4/1 灰 断 :5Y4/1 灰	密	○	−	−	−	−	−	良好 20%	
47		270	弥生 / 土師 壺	2区 北半	134 落込み		推 12.8 残 4.0	内・外 :10YR8/3 浅黄橙 断 :2.5Y8/2 灰白	粗	○	○	−	−	○	−	良 10%	
47		271	土師器 二重口縁壺	2区 北半	134 落込み		推 30.4 残 5.2	内 :10YR8/2 灰白 外 :7.5YR8/4 浅黄橙 断 :10YR8/2 灰白 ,7.5YR8/4 浅黄橙	密	○	○	−	−	−	−	良好 10%	
47		272	弥生 / 土師 壺？	2区 北半	130 落込み		— 残 2.05	内 :10YR7/3 にぶい黄橙 ,5Y5/1 灰 外 :7.5YR8/2 灰白 断 :7.5YR6/3 にぶい褐	粗	○	○	−	○	−	−	良 12%	
47		273	土師器 布留甕	2区 北半	524 落込み		推 17.3 残 6.9	内・断 :7.5YR7/6 橙 外 :7.5YR7/6 橙 ,10YR3/1 褐灰	やや粗	○	○	−	−	−	−	良 15%	
47		274	須恵器 筒型器台	2区 北半	349 落込み		— 残 4.25	内・断 :N7/0 灰白 外 :N4/0 灰	やや密	○	−	○	−	−	−	良好堅緻 5%以下	
47		275	土師器 直口壺	2区 北半	349 落込み		— 残 6.1	内 :7.5YR7/6 橙 外 :7.5YR7/4 にぶい橙 断 :7.5YR6/4 にぶい橙	やや粗	○	○	−	○	−	−	やや不良 10%	
47		276	弥生 / 土師 V様式系甕	2区 北半	349 落込み		推 12.3 残 5.6	内 :5YR6/2 灰褐 外 :5YR6/4 にぶい橙 ,10R5/6 赤 断 :5YR6/4 にぶい橙	粗	○	○	−	−	○	−	やや良 10%	
47		277	土師器 高杯	2区 北半	349 落込み		— 残 5.5	内・外 :2.5Y8/4 淡黄 断 :7.5YR6/6 橙	やや密	○	○	○	○	−	−	やや良 10%	
47		278	土師器 壺	2区 北半	349 落込み		— 残 2.5	内 :N7/0 灰白 外・断 :N3/0 暗灰	やや粗	○	○	−	○	○	−	良好 50%	
47		279	土師器 壺	2区 北半	349 落込み		— 残 2.0	内・断 :7.5Y6/1 灰 外 :10R6/6 赤橙	粗	○	○	−	○	○	−	良好 90%	
47		280	土師器 製塩土器	2区 北半	349 落込み		— 残 2.9	内・外 :2.5YR7/3 淡赤橙 断 :2.5YR7/1 明赤灰	やや密	○	−	○	−	−	−	良好 85%	
46		281	須恵器 杯蓋	2区 南半	480 落込み		— 残 3.75	内・外・断 :N6/ 灰	密	○	−	−	−	−	−	良好堅緻 20%	
46		282	須恵器 杯身	2区 南半	480 落込み		— 残 3.4	内 :N7/ 灰白 外 :N6/ 灰 ,N8/ 灰白 断 :N5/ 灰	密	○	−	−	−	−	−	良好堅緻 10%	
46		283	須恵器 有蓋高杯	2区 南半	480 落込み		— 残 6.2	内 :N6/ 灰 ,5RP6/1 紫灰 外 :N6/ 灰 ,N8/ 灰白 断 :N6/ 灰	密	○	−	−	−	−	−	良好堅緻 15%	
46		284	須恵器 高杯	2区 南半	480 落込み		— 残 5.8	内・外 :N7/ 灰白 ,5YR7/4 にぶい橙 断 :N7/ 灰白	密	○	○	−	−	−	−	良好堅緻 25%	

挿図番号	写真図版No.	遺物番号	器種	地区	遺構名	層位	口径 器高 (cm)	色調	胎土	白色砂粒	灰色砂粒	黒色砂粒	クサリ礫	チャート	その他	焼成 口縁部（底部）等の残存率	備考
46		285	土師器 製塩土器	2区 南半	480 落込み		— 残 3.7	内・外・断 :7.5YR8/2 灰白	やや 密	○	○	－	○	－	－	やや不良 70%	
46		286	須恵器 無蓋高杯	2区 南半	507 落込み		推 15.6 残 5.8	内・外・断 :N7/ 灰白	やや 粗	○	○	－	－	－	－	やや不良 25%	
46		287	須恵器 高杯	2区 南半	475 落込み		— 残 0.8	内・外 :N7/0 灰 断 :N6/0 灰	密	○	－	－	－	－	－	良好堅緻 5%以下	
51		288	須恵器 杯蓋	1区 南半	016 流路	上層	推 13.8 残 4.4	内・断 :7.5YR6/3 にぶい褐 外 :7.5YR6/1 褐灰 ,7.5YR6/2 灰褐	やや 密	○	－	○	－	－	－	やや不良 10%	
51		289	須恵器 杯蓋	1区 南半	016 流路	上層	推 12.2 残 4.3	内 :5YR6/4 にぶい橙 外 :N6/0 灰 断 :5YR6/4 にぶい橙 ,N5/0 灰	やや 密	○	○	－	－	－	－	良好 40%	
51		290	須恵器 杯蓋	1区 北半	016 流路	上層	推 13.4 4.85	内 :N5/0 灰 外 :N6/0 灰 断 :5R5/1 赤灰	やや 密	○	－	－	－	－	－	良好堅緻 15%	断面 小豆色
51		291	須恵器 杯蓋	1区 南半	016 流路	上層	推 11.4 3.9	内・外・断 :N7/0 灰白	粗	○	－	○	－	○	－	やや不良 40%	細粒チャートわずかに含む
51		292	須恵器 杯蓋	1区 北半	016 流路	上層	11.5 3.5	内 :N6/0 灰 外 :5R5/1 赤灰 ,N5/0 灰 断 :5YR4/2 灰褐	密	○	－	○	－	－	－	良好堅緻 50%	断面 小豆色
51		293	須恵器 杯蓋	1区 北半	016 流路	上層	12.1 4.5	内・外 :N6/0 灰 断 :N5/0 灰	やや 密	○	－	○	－	－	－	良好堅緻 100%	
51	55	294	須恵器 杯蓋	1区 南半	016 流路	上層	13.2 3.8	内・外 :N7/0 灰白 断 :5R 7/1 明赤灰	密	○	－	－	－	－	－	良好堅緻 70%	断面小豆色
51		295	須恵器 杯蓋	1区 南半	016 流路	上層	推 12.2 残 4.4	内・外・断 :N6/0 灰	やや 密	○	－	○	－	－	－	良好堅緻 20%	
51		296	須恵器 杯蓋	1区 北半	016 流路	上層	推 11.8 4.95	内 :5PB6/1 青灰 外 :N6/0 灰 断 :N5/0 灰	密	○	－	○	－	－	－	良好堅緻 30%	
51		297	須恵器 杯蓋	1区 北半	016 流路	上層	推 12.4 残 3.6	内 :N7/0 灰白 外 :7.5YR6/1 褐灰 ,7.5YR5/1 褐灰 断 :7.5YR5/2 灰褐	密	○	－	－	－	－	－	良好堅緻 10%	断面 小豆色
51		298	須恵器 杯蓋	1区 北半	016 流路	上層	推 12.6 残 3.65	内 :N6/0 灰 外 :N5/0 灰 断 :5R4/1 暗赤灰	密	○	－	－	－	－	－	良好堅緻 5%以下	断面 小豆色
51		299	須恵器 杯蓋	1区 北半	016 流路	上層	推 12.3 残 4.2	内・断 :10YR8/2 灰白 外 :10YR7/1 灰白	やや 粗	○	○	○	－	○	－	やや不良 10%	細粒チャートごくわずかに含む
51		300	須恵器 杯蓋	1区 北半	016 流路	上層	推 12.3 残 3.5	内・外・断 :N7/0 灰白	やや 密	○	－	○	－	－	－	良好堅緻 5%以下	
51		301	須恵器 杯蓋	1区 北半	016 流路	上層	推 13.5 残 4.2	内・外・断 :N6/0 灰	密	○	－	○	－	－	－	良好堅緻 10%	
51		302	須恵器 杯蓋	1区 北半	016 流路	上層	推 11.8 4.3	内・外 :2.5Y6/1 黄灰 断 :N4/0 灰	やや 粗	○	－	－	－	○	－	良好堅緻 20%	
51		303	須恵器 杯蓋	1区 南半	016 流路	上層	推 11.5 4.15	内 :5PB6/1 青灰 外 :N6/0 灰 断 :5R4/1 暗赤灰	やや 密	○	－	○	－	－	－	良好堅緻 65%	断面 小豆色
51		304	須恵器 杯蓋	1区 南半	016 流路	上層	推 12.4 残 3.6	内・断 :N5/0 灰 外 :N6/0 灰	やや 密	○	○	－	－	○	－	良好 5%以下	
51		305	須恵器 杯蓋	1区 北半	016 流路	上層	12.6 5.2	内・外 :N6/0 灰 断 :N7/0 灰白	やや 粗	○	－	○	－	－	－	良好堅緻 85%	
51		306	須恵器 杯蓋	1区 南半	016 流路	上層	推 15.8 残 4.35	内・外 :N6/0 灰 断 :N5/0 灰	やや 密	○	－	－	－	－	－	良好堅緻 5%以下	
51		307	須恵器 杯身	1区 南半	016 流路	上層	— 残 3.3	内・外・断 :N7/0 灰白	密	○	－	○	－	－	－	良好堅緻 5%以下	
51		308	須恵器 杯身	1区 南半	016 流路	上層	10.6 4.5	内 :N6/0 灰 外 :N6/0 灰 ,10YR7/1 灰白 断 :10YR4/2 灰黄褐	やや 密	○	－	－	－	－	－	良好堅緻 85%	
51		309	須恵器 杯身	1区 北半	016 流路	上層	推 11.1 4.8	内・外 :N7/0 灰白 断 :5R5/1 紫灰	やや 粗	○	－	○	－	－	－	良好堅緻 10%	断面 小豆色
51		310	須恵器 杯身	1区 北半	016 流路	上層	推 10.2 5.3	内・外・断 :N6/0	やや 密	○	－	○	－	－	－	良好堅緻 65%	
51		311	須恵器 杯身	1区 北半	016 流路	上層	推 11.7 残 3.3	内・外 :N6/0 灰 断 :N5/0 灰	密	○	－	－	－	－	－	良好堅緻 5%以下	
51		312	須恵器 杯身	1区 南半	016 流路	上層	推 11.4 4.9	内・外・断 :5Y6/1 灰	やや 密	○	－	－	－	○	－	やや良 50%	大径チャート少量含む
51		313	須恵器 杯身	1区 北半	016 流路	上層	10.4 4.4	内 :N5/ 灰 外 :N5/ 灰 ,N6/ 灰 断 :N6/ 灰	密	○	－	－	－	－	－	良好堅緻 75%	
51	55	314	須恵器 杯身	1区 北半	016 流路	上層	10.9 4.0	内 :N8/0 灰白 外 :N8/0 灰白 ,N6/0 灰 断 :5YR4/1 暗赤灰	密	○	－	－	－	○	－	良好堅緻 100%	細粒チャートわずかに含む断面小豆色
51		315	須恵器 杯身	1区 南半	016 流路	上層	— 残 3.5	内・外 :N6/0 灰 断 :N5/0 灰	密	○	－	○	－	－	－	良好堅緻 5%以下	
51		316	須恵器 杯身	1区 南半	016 流路	上層	推 11.5 残 3.9	内 :N7/0 灰白 外 :N6/0 灰 断 :5R5/1 赤灰	やや 粗	○	－	－	－	－	－	良好堅緻 10%	断面 小豆色
51		317	須恵器 杯身	1区 南半	016 流路	上層	推 10.4 残 3.4	内・外 :5PB4/1 暗青灰 断 :5R5/1 赤灰	密	○	－	○	－	－	－	良好堅緻 5%以下	断面 小豆色

出土土器観察表

挿図番号	写真図版No.	遺物番号	器種	地区	遺構名	層位	口径 器高 (cm)	色調	胎土	白色砂粒	灰色砂粒	黒色砂粒	クサリ礫	チャート	その他	焼成 口縁部（底部）等の残存率	備考
51		318	須恵器 杯身	1区 北半	016 流路	上層	推 11.0 4.7	内 :N6/0 灰 外 :N4/0 灰 ,N6/0 灰 断 :5RP6/1 紫灰	やや粗	○	－	○	－	－	－	良好堅緻 40%	断面 小豆色
51		319	須恵器 杯身	1区 南半	016 流路	上層	推 9.8 残 4.1	内 :N6/0 灰 外 :N6/0 灰 ,N5/0 灰 断 :2.5YR4/2 灰赤	やや粗	○	－	－	－	－	－	良好堅緻 25%	断面 小豆色
51		320	須恵器 杯身	1区 南半	016 流路	上層	推 10.7 残 4.4	内・外・断 :N6/0 灰	やや密	○	－	－	－	○	－	良好 5%以下	大径チャート少量含む
51		321	須恵器 杯身	1区 南半	016 流路	上層	推 11.8 残 4.45	内・外・断 :5PB6/1 青灰	やや粗	○	○	○	－	－	－	良好堅緻 5%以下	
51		322	須恵器 杯身	1区 南半	016 流路	上層	推 11.6 残 4.4	内・外・断 :N6/0 灰	密	○	－	－	－	－	－	良好 25%	
51	56	323	須恵器 高杯蓋	1区 北半	016 流路	上層	— 残 3.3	内 :5P6/1 紫灰 外 :N5/0 灰 断 :N7/0 灰白	密	○	－	－	－	－	－	良好堅緻 40%	
51		324	須恵器 高杯蓋	1区 北半	016 流路	上層	12.8 5.0	内 :5PB5/1 青灰 外 :N6/1 灰 断 :5YR4/2 灰褐	密	○	－	－	－	－	－	良好堅緻 90%	断面 小豆色
51		325	須恵器 高杯蓋	1区 北半	016 流路	上層	推 12.6 残 4.3	内・外 :N6/0 灰 断 :10Y6/1 灰	やや密	○	－	－	－	－	－	良好堅緻 40%	
51		326	須恵器 高杯蓋	1区 南半	016 流路	上層	推 13.4 残 3.5	内 :N7/0 灰白 外 :N7/0 灰白 ,N5/0 灰 断 :N6/0 灰	やや粗	○	－	○	－	－	－	良好堅緻 40%	
51		327	須恵器 有蓋高杯	1区 南半	016 流路	上層	推 11.2 残 4.2	内・外・断 :N6/0 灰	やや密	○	－	○	－	－	－	良好堅緻 10%	
51		328	須恵器 有蓋高杯	1区 北半	016 流路	上層	— 残 7.1	内 :N7/ 灰白 外 :N6/ 灰 断 :N3/ 暗灰 ,N6/ 灰	密	○	－	－	－	－	－	良好堅緻 45%	
51		329	須恵器 高杯	1区 北半	016 流路	上層	— 残 5.2	内・外・断 :N7/0 灰白	密	○	－	○	－	－	－	良好 95%	
51		330	須恵器 無蓋高杯	1区 北半	016 流路	上層	推 12.3 残 5.9	内 :N7/0 灰白 外・断 :N6/0 灰	やや密	○	－	○	－	－	－	良好堅緻 75%	
51		331	須恵器 無蓋高杯	1区 南半	016 流路	上層	推 12.6 9.4	内・外 :7.5Y7/1 灰白 断 :10YR7/3 にぶい黄橙	密	○	－	－	－	－	－	やや不良 30%	
51		332	須恵器 無蓋高杯	1区 南半	016 流路	上層	— 残 6.15	内・外・断 :N6/1 灰	密	○	－	－	－	－	－	良好堅緻 30%	
51	56	333	須恵器 無蓋高杯	1区 南半	016 流路	上層	— 残 5.7	内 :N6/1 灰 外 :N7/0 灰白 断 :5YR5/1 褐灰	密	○	－	－	－	－	－	良好堅緻 30%	断面 小豆色
51		334	須恵器 無蓋高杯	1区 北半	016 流路	上層	— 残 6.6	内 :5PB5/1 青灰 外 :N6/1 灰 断 :2.5YR5/2 灰赤	密	○	－	－	－	－	－	良好堅緻 30%	断面 小豆色
51		335	須恵器 無蓋高杯	1区 北半	016 流路	上層	— 残 4.4	内・外 :7.5YR6/3 にぶい褐 断 :7.5YR6/4 にぶい橙	密	○	－	－	○	－	－	不良 10%	
51		336	須恵器 無蓋高杯	1区 北半	016 流路	上層	— 残 4.2	内 :N5/0 灰 外 :N5/0 灰 ,N8/0 灰白 断 :N8/0 灰白	密	○	－	○	－	－	－	良好堅緻 10%	
51		337	須恵器 無蓋高杯	1区 北半	016 流路	上層	— 残 4.1	内・外 :N7/0 灰白 断 :5YR5/1 褐灰 ,N6/1 灰	密	○	－	－	－	－	－	良好堅緻 10%	断面 小豆色
52	56	338	須恵器 無蓋高杯	1区 北半	016 流路	上層	推 18.0 11.95	内 :N7/0 灰白 外・断 :N5/0 灰	密	○	－	○	－	－	－	良好堅緻 50%	
52		339	須恵器 無蓋高杯	1区 南半	016 流路	上層	— 残 13.4	内・外 :N5/0 灰 断 :5R6/1 赤灰	密	○	－	－	－	－	－	良好堅緻 30%	断面 小豆色
52		340	須恵器 把手付椀	1区 北半	016 流路	上層	— 残 3.2	内 :N7/0 灰白 外 :N5/0 灰 断 :5R6/1 赤灰	やや密	○	－	－	－	－	－	良好堅緻 5%以下	断面 小豆色
52		341	須恵器 把手付椀	1区 南半	016 流路	上層	推 6.2 残 5.1	内・外・断 :N7/0 灰白	やや密	○	－	－	－	－	－	良好堅緻 25%	
52		342	須恵器 壺	1区 北半	016 流路	上層	— 残 4.5	内・断 :N7/0 灰白 外 :7.5Y6/1 灰	やや粗	○	○	－	－	－	－	良好堅緻 10%	
52		343	須恵器 壺	1区 南半	016 流路	上層	— 残 6.3	内・外・断 :5PB6/1 青灰	やや密	○	－	－	－	－	－	良好堅緻 55%	
52		344	須恵器 瓶	1区 南半	016 流路	上層	— 残 9.35	内・外 :N6/ 灰 ,N5/ 灰 ,N7/ 灰白 断 :N6/ 灰 ,2.5Y5/1 赤灰	やや密	○	－	－	－	－	－	やや良 80%	断面 小豆色
52	56	345	須恵器 瓶	1区 北半	016 流路	上層	— 残 13.7	内・外 :N5/0 灰 ,7.5Y3/2 オリーブ黒（自然釉） 断 :10YR7/1 灰白	密	○	－	－	－	－	－	良好堅緻 90%	
52	56	346	須恵器 瓶	1区 南半	016 流路	上層	推 11.0 残 3.3	内 :N6/0 灰 外 :N4/0 灰 断 :5R5/1 赤灰	やや密	○	－	－	－	－	－	良好堅緻 5%以下	断面 小豆色
52		347	須恵器 広口壺	1区 北半	016 流路	上層	推 16.6 残 5.4	内 :N6/0 灰 外・断 :N6/0 灰 ,N5/0 灰	やや粗	○	－	○	－	－	－	良好堅緻 20%	
52		348	須恵器 広口壺	1区 北半	016 流路	上層	推 15.4 残 8.0	内 :N7/0 灰白 外 :N7/0 灰白 ,N6/0 灰 断 :N5/0 灰 ,5R5/1 赤灰	やや密	○	－	○	－	－	－	良好堅緻 40%	断面 小豆色
52		349	須恵器 甕	1区 南半	016 流路	上層	推 19.0 残 4.2	内 :5Y7/1 灰白 外 :N6/0 灰 断 :5Y6/1 灰	やや密	○	○	－	－	－	－	良好堅緻 5%以下	
52		350	須恵器 高杯形器台	1区 北半	016 流路	上層	推 31.0 残 7.6	内・外・断 :N6/1 灰	やや密	○	－	○	－	－	－	良好堅緻 10%	

挿図番号	写真図版No.	遺物番号	器種	地区	遺構名	層位	口径 器高 (cm)	色調	胎土	白色砂粒	灰色砂粒	黒色砂粒	クサリ礫	チャート	その他	焼成 口縁部（底部）等の残存率	備考
52		351	須恵器 甕	1区 南半	016 流路	上層	推 22.3 残 5.2	内・外・断 :N6/0 灰	密	○	－	－	－	－	－	良好堅緻 5%以下	
52		352	須恵器 甕	1区 北半	016 流路	上層	推 22.7 残 8.0	内・外 :5R6/1 赤灰 ,N5/0 灰 断 :5R6/1 赤灰	密	○	－	－	－	－	－	良好堅緻 10%	断面 小豆色
52	56	353	須恵器 甕	1区 北半	016 流路	上層	推 26.0 残 10.0	内 :5R5/1 赤灰 ,N5/0 灰 外 :N5/0 灰 断 :10R4/2 灰赤 ,N4/0 灰	密	○	－	－	－	－	－	良好堅緻 30%	
52	55	354	須恵器 円筒形土製品	1区 北半	016 流路	上層	— 残 23.5	内・断 :5Y8/1 灰白 外 :5Y6/1 灰 ,N7/0 灰白	密	○	－	○	－	－	－	やや不良 不明	瓦質
52	56	355	須恵器 塝	1区 南半	016 流路	上層	推 33.0 残 10.1	内 :2.5Y6/2 灰黄 外 :2.5Y7/2 灰黄 断 :10YR7/3 にぶい黄橙	密	○	－	－	○	－	－	やや良 10%	瓦質
52		356	須恵器 甕	1区 北半	016 流路	上層	— 残 13.2	内 :N6/0 灰 ,N7/0 灰白 外 :N5/0 灰 断 :5R5/1 赤灰	やや 密	○	－	○	－	－	－	良好堅緻 5%以下	断面 小豆色
53		357	土師器 二重口縁壺	1区 南半	016 流路	上層	推 16.9 残 2.7	内・外・断 :10YR8/4 浅黄橙	密	○	－	○	－	－	－	良 10%	
53		358	土師器 二重口縁壺	1区 北半	016 流路	上層	推 22.6 残 3.15	内 :10YR7/2 にぶい黄橙 ,10YR5/2 灰黄褐 外 :10YR7/3 にぶい黄橙 断 :10YR7/2 にぶい黄橙	やや 粗	○	○	－	－	－	－	良 10%	
53	57	359	土師器 二重口縁壺	1区 北半	016 流路	上層	推 16.6 残 4.7	内 :7.5YR5/4 にぶい褐 外 :7.5YR6/4 にぶい橙 断 :7.5YR4/3 褐	やや 粗	○	－	－	○	－	－	良 15%	
53		360	土師器 二重口縁壺	1区 北半	016 流路	上層	— 残 5.8	内 :2.5Y8/1 灰白 ,2.5Y4/1 黄灰 外 :2.5Y4/1 黄灰 ,5YR7/6 橙 断 :2.5Y8/1 灰白	やや 粗	○	○	－	○	－	－	良 5%以下	
53		361	土師器 二重口縁壺	1区 北半	016 流路	上層	— 残 6.5	内 :10YR4/1 褐灰 ,10YR6/3 にぶい黄橙 外 :10YR6/3 にぶい黄橙 断 :10YR4/1 褐灰	粗	○	○	－	－	－	－	良 10%	
53	60	362	土師器 二重口縁壺	1区 南半	016 流路	上層	— 残 6.5	内・断 :7.5YR7/6 橙 外 :7.5YR6/3 にぶい褐 ,5YR7/6 橙	密	○	－	－	－	－	－	良 15%	
53		363	土師器 細頸壺	1区 北半	016 流路	上層	— 残 7.75	内 :2.5Y8/1 灰白 ,7.5YR7/4 にぶい橙 外 :10YR8/2 灰白 ,7.5YR6/6 橙 断 :10YR8/2 灰白	やや 粗	○	○	○	－	○	－	良 30%	
53		364	土師器 直口壺	1区 北半	016 流路	上層	推 13.9 残 4.3	内 :7.5YR7/4 にぶい橙 ,10YR7/2 にぶい黄橙 外 :7.5YR7/4 にぶい橙 ,10YR8/1 灰白 断 :2.5Y5/2 暗灰黄	密	○	○	○	－	－	－	良 12%	
53		365	土師器 直口壺	1区 北半	016 流路	上層	推 12.0 残 5.85	内 :5YR6/4 にぶい橙 外 :5YR6/6 橙 断 :10YR7/4 にぶい黄橙	やや 密	○	－	－	－	－	－	良 10%	
53		366	土師器 直口壺？	1区 北半	016 流路	上層	推 17.0 残 4.6	内 :7.5YR5/4 にぶい褐 ,10YR4/3 にぶい黄褐 外 :7.5YR5/6 明褐 ,2.5YR5/8 明赤褐 断 :7.5YR5/4 にぶい褐	密	○	－	－	○	－	－	良好 12%	
53		367	土師器 直口壺	1区 北半	016 流路	上層	推 13.2 残 7.55	内 :5YR6/6 橙 ,10YR8/3 浅黄橙 外 :5Y8/1 灰白 断 :2.5Y8/1 灰白	密	○	－	－	－	－	－	良 15%	
53		368	土師器 直口壺	1区 北半	016 流路	上層	推 12.8 残 7.8	内 :2.5Y8/2 灰白 ,2.5Y6/1 黄灰 外 :10YR8/2 灰白 断 :2.5Y5/1 黄灰	密	○	○	－	○	－	－	良 20%	
53		369	土師器 直口壺	1区 北半	016 流路	上層	推 16.6 残 7.8	内・外 :2.5Y8/1 灰白 断 :2.5Y7/2 灰黄	やや 粗	○	○	○	○	－	－	良 12%	
53		370	土師器 直口壺？	1区 北半	016 流路	上層	— 残 8.25	内・外 :5YR7/6 橙 ,10YR8/2 灰白 断 :2.5Y6/1 黄灰	やや 粗	○	○	－	○	－	－	良 5%以下	
53		371	土師器 直口壺	1区 北半	016 流路	上層	推 20.0 残 12.0	内 :5YR8/3 淡橙 ,5YR7/4 にぶい橙 外 :7.5YR7/4 にぶい橙 ,10YR8/3 浅黄橙 断 :2.5Y5/1 黄灰	やや 粗	○	－	－	○	－	－	良 10%	
53		372	土師器 壺	1区 北半	016 流路	上層	— 残 5.0	内・断 :10YR8/3 浅黄橙 外 :7.5YR8/4 浅黄橙 ,5YR7/6 橙	密	○	○	－	－	－	－	良 5%以下	
53		373	土師器 壺	1区 北半	016 流路	上層	— 残 6.1	内 :10YR6/1 褐灰 ,10YR8/1 灰白 外 :2.5Y8/1 灰白 断 :7.5YR7/4 にぶい橙	やや 粗	○	○	○	－	○	－	良 5%以下	
53		374	土師器 二重口縁壺	1区 北半	016 流路	上層	推 13.2 残 4.15	内・外・断 :10YR8/2 灰白	やや 粗	○	○	○	○	－	－	良 10%	
53	56	375	土師器 直口壺？	1区 南半	016 流路	上層	— 残 12.8	内 :10YR8/2 灰白 ,10YR5/4 にぶい黄褐 外 :10YR8/2 灰白 ,10YR5/4 にぶい黄褐 ,2.5YR6/6 橙 断 :7.5YR6/6 橙	密	○	－	－	○	－	－	やや不良 100%	
53		376	土師器 短頸壺	1区 北半	016 流路	上層	推 13.1 残 5.35	内 :2.5Y8/1 灰白 外 :10YR7/2 にぶい黄橙 断 :10YR6/2 灰黄褐	やや 密	○	○	－	○	－	－	良 15%	
53	57	377	土師器 二重口縁壺	1区 北半	016 流路	上層	推 14.5 残 10.15	内・断 :5YR6/6 橙 外 :5YR6/6 橙 ,7.5YR6/4 にぶい橙	やや 密	○	－	－	○	－	－	やや良 40%	

出土土器観察表

挿図番号	写真図版No.	遺物番号	器種	地区	遺構名	層位	口径 器高 (cm)	色調	胎土	白色砂粒	灰色砂粒	黒色砂粒	クサリ礫	チャート	その他	焼成 口縁部（底部）等の残存率	備考
53		378	土師器 布留甕	1区 北半	016 流路	上層	推 16.0 残 3.9	内・断 :10YR8/3 浅黄橙 外 :10YR8/4 浅黄橙 ,10YR7/2 にぶい黄橙	やや密	○	○	－	○	－	－	良 15%	
53		379	土師器 布留甕	1区 北半	016 流路	上層	推 14.9 残 4.25	内・外 :7.5YR7/4 にぶい橙 断 :10YR5/4 にぶい黄褐	やや密	○	－	－	－	－	－	良 10%	
53		380	土師器 布留甕	1区 南半	016 流路	上層	推 14.0 残 7.0	内・外・断 :2.5YR7/4 淡赤橙色	密	○	－	－	－	－	－	良 10%	
53	57	381	土師器 布留甕	2区 北半	016 流路	上層	— 残 6.9	内 :2.5Y5/2 暗灰黄 外 :2.5Y6/2 灰黄 断 :2.5Y5/1 黄灰	密	○	－	－	－	－	角閃石	やや良 5%以下	山陰系口縁
53		382	土師器 布留甕	1区 北半	016 流路	上層	推 14.0 残 10.7	内・外・断 :7.5YR7/6 橙色	密	○	－	－	－	－	－	良 20%	
53		383	土師器 布留甕	1区 北半	016 流路	上層	推 15.2 残 5.2	内・外 :10YR8/2 灰白色 断 :10YR6/2 灰黄褐色	密	○	－	－	○	○	－	良 10%	
53		384	土師器 布留甕	1区 北半	016 流路	上層	推 15.0 残 4.45	内 :7.5YR8/2 灰白 ,10YR4/1 褐灰 外 :7.5YR8/4 浅黄橙 断 :10YR8/2 灰白 ,10YR4/1 褐灰	粗	○	○	－	－	－	－	良 20%	
53		385	土師器 布留甕	1区 北半	016 流路	上層	推 14.6 残 4.55	内 :10YR7/3 にぶい黄橙　外 :10YR7/2 にぶい黄橙 ,10YR4/1 褐灰 断 :10YR7/2 にぶい黄橙	密	○	○	－	－	－	－	良 15%	
53		386	土師器 布留甕	1区 北半	016 流路	上層	推 16.0 残 4.3	内・外・断 :7.5YR7/3 にぶい橙色	密	○	－	－	－	－	－	良 15%	
54		387	土師器 布留甕	1区 北半	016 流路	上層	推 13.0 残 4.5	内・外 :10YR8/2 灰白色 断 :5YR7/6 橙色	密	○	－	－	－	－	－	良 20%	
54	57	388	土師器 布留甕	1区 北半	016 流路	上層	推 11.4 残 6.6	内 :2.5Y6/1 黄灰 外・断 :10YR4/2 灰黄褐	やや密	○	－	－	－	－	－	良 35%	
54		389	土師器 布留甕	1区 南半	016 流路	上層	推 14.0 残 8.5	内・外・断 :5YR7/6 橙	密	○	○	－	○	－	－	良 20%	
54	57	390	土師器 布留甕	1区 北半	016 流路	上層	推 16.4 残 5.7	内 :5Y4/1 灰 外 :2.5Y5/1 黄灰 ,10YR7/3 にぶい黄橙 断 :5YR5/4 にぶい赤褐	密	○	－	○	○	－	－	良 15%	
54	57	391	土師器 布留甕	1区 北半	016 流路	上層	推 17.6 残 9.2	内 :2.5Y8/1 灰白 ,5Y5/1 灰 外 :10YR8/3 浅黄橙 ,10YR5/2 灰黄褐 断 :10YR7/2 にぶい黄橙	粗	○	－	－	○	－	－	やや不良 20%	
54		392	土師器 布留甕	1区 北半	016 流路	上層	推 17.0 残 9.7	内・外・断 :10YR8/3 浅黄橙色	密	○	○	－	－	○	－	良 20%	
54		393	土師器 甕	1区 北半	016 流路	上層	推 18.9 残 3.45	内 :5YR6/6 橙 外 :7.5YR6/6 橙 ,7.5YR5/3 にぶい褐 断 :7.5YR6/6 橙	密	○	－	－	○	－	－	良 10%	
54		394	土師器 甕	1区 南半	016 流路	上層	推 20.2 残 5.6	内 :10YR8/2 灰白 外 :7.5YR8/6 浅黄橙 ,10YR5/2 灰黄褐 断 :2.5Y8/1 灰白 ,2.5Y6/1 黄灰	密	○	－	－	○	－	－	良 25%	
54		395	土師器 甕	1区 北半	016 流路	上層	推 13.0 残 5.35	内 :10YR8/2 灰白 外 :10YR8/3 浅黄橙 断 :10YR7/3 にぶい黄橙	やや粗	○	○	－	○	－	－	良 25%	
54	57	396	土師器 甕	2区 北半	016 流路	上層	推 15.6 残 8.5	内・断 :10YR8/2 灰白 外 :10YR7/3 にぶい黄橙 ,N3/0 暗灰	やや粗	○	○	－	○	－	－	やや良 20%	
54	57	397	土師器 宇田型甕	1区 南半	016 流路	上層	推 15.6 残 3.7	内 :7.5YR6/4 にぶい橙 外 :10YR7/3 にぶい黄橙 断 :10YR6/3 にぶい黄橙	粗	○	－	－	－	－	－	やや良 10%	粗い石英・長石含む
54	56	398	土師器 不明土製品	1区 南半	016 流路	上層	— —	内・外 : 表面 -10YR7/4 にぶい黄橙 断 :10YR6/4 にぶい黄橙	密	○	－	－	○	－	－	やや良 不明	
54		399	土師器 甑・鍋	2区 北半	016 流路	上層	— 残 5.25	内 :7.5YR7/3 にぶい橙 ,7.5YR6/4 にぶい橙 外 :7.5YR8/2 灰白 ,2.5YR6/4 にぶい橙 断 :10YR8/2 灰白	やや粗	○	○	○	○	○	－	良 95%	
54		400	土師器 甑・鍋	1区 北半	016 流路	上層	— 残 6.1	内・断 :10YR8/3 浅黄橙 外 :5YR7/6 橙 ,10YR8/2 灰白	やや粗	○	○	－	○	○	－	良 100%	
54		401	土師器 小型丸底土器	1区 北半	016 流路	上層	11.6 6.7	内 :2.5Y8/2 灰白 外 :10YR5/2 灰黄褐 ,2.5Y8/2 灰白 断 :10YR7/2 にぶい黄橙	やや密	○	○	－	○	－	－	良好 80%	
54	57	402	土師器 小型丸底土器	1区 北半	016 流路	上層	— 残 7.7	内 :2.5Y5/1 黄灰 外 :2.5Y5/1 黄灰 ,2.5Y4/1 黄灰 断 :5YR4/4 にぶい赤褐	密	○	－	－	－	－	－	やや良 50%	
54		403	土師器 小型丸底土器	1区 北半	016 流路	上層	推 9.0 残 4.7	内 :10YR3/1 黒褐 ,10YR8/2 灰白 外 :5YR6/8 橙 ,10YR7/3 にぶい黄橙 断 :10YR7/3 にぶい黄橙	密	○	－	－	－	－	－	良 80%	
54		404	土師器 小型丸底土器	1区 北半	016 流路	上層	推 7.0 残 7.0	内 :2.5Y7/1 灰白 外 :2.5Y7/1 灰白 ,10YR7/4 にぶい黄橙 ,10YR4/1 褐灰 断 :10YR6/4 にぶい黄橙	密	○	○	－	○	－	－	良好 80%	
54		405	土師器 小型丸底土器	1区 北半	016 流路	上層	— 残 7.0	内・外 :7.5YR7/6 橙 断 :7.5YR7/4 にぶい橙	密	○	－	－	○	－	－	良好 5%以下	
54		406	土師器 小型丸底土器	1区 北半	016 流路	上層	推 8.6 残 6.75	内 :10YR6/3 にぶい黄橙 ,2.5Y8/2 灰白 ,2.5Y6/1 黄灰 外 :10YR8/3 浅黄橙 ,5YR7/6 橙	やや密	○	○	－	－	－	－	良好 20%	

挿図番号	写真図版No.	遺物番号	器種	地区	遺構名	層位	口径 器高 (cm)	色調	胎土	白色砂粒	灰色砂粒	黒色砂粒	クサリ礫	チャート	その他	焼成 口縁部(底部)等の残存率	備考
54	56	407	土師器 小型丸底土器	1区 南半	016 流路	上層	推 5.1 6.45	内・外・断 :10YR8/3 浅黄橙	やや密	○	－	－	－	－	－	やや良 90%	
54	57	408	土師器 製塩土器？	2区 北半	016 流路	上層	推 14.5 残 12.2	内 :10YR7/3 にぶい黄橙 外 :10YR6/3 にぶい黄橙 ,5Y5/1 灰 断 :10YR6/3 にぶい黄橙	密	○	－	－	○	－	－	やや良 30%	
54		409	土師器 製塩土器	1区 南半	016 流路	上層	— —	内・外 :5YR7/4 にぶい橙 断 :10YR7/1 灰白	やや粗	○	○	－	－	－	－	不良 10%	
54		410	土師器 製塩土器	1区 北半	016 流路	上層	— 残 1.9	内・外 :10YR8/2 灰白 ,5YR7/4 にぶい橙 断 :2.5Y6/1 黄灰	密	○	○	－	－	－	－	良好 10%	
54		411	土師器 製塩土器	1区 北半	016 流路	上層	— 残 2.7	内・外・断 :10YR8/1 灰白	粗	○	○	－	○	－	－	良 100%	
54		412	土師器 製塩土器	1区 北半	016 流路	上層	— 残 2.0	内・外 :2.5YR7/2 淡赤橙 ,5YR8/2 灰白 断 :5YR8/2 灰白	密	○	－	－	○	－	－	良好 10%	
54		413	土師器 製塩土	1区 南半	016 流路	上層	— 残 3.1	内・外 :7.5YR8/1 灰白 ,5YR8/2 灰白 断 :5YR8/2 灰白	密	○	－	－	○	－	－	良好 10%	
54		414	土師器 製塩土器	1区 南半	016 流路	上層	— 残 3.4	内・断 :7.5YR8/1 灰白 外 :2.5YR7/4 淡赤橙 ,7.5YR8/1 灰白	粗	○	－	－	○	－	－	やや良 10%	
54		415	土師器 製塩土器	1区 北半	016 流路	上層	— 残 3.7	内 :10YR8/2 灰白 ,10YR7/6 明黄褐 外 :7.5YR8/2 灰白 ,7.5YR6/4 にぶい橙 断 :10YR8/3 浅黄橙	粗	○	○	－	○	－	－	良 80%	
55		416	土師器 高杯	1区 北半	016 流路	上層	推 15.0 残 5.9	内 :7.5YR7/4 にぶい橙 外 :7.5YR7/4 にぶい橙 ,5YR6/6 橙 断 :7.5YR8/3 浅黄橙	やや粗	○	○	－	－	○	－	やや良 5%以下	
55		417	土師器 高杯	1区 南半	016 流路	上層	推 17.0 残 3.5	内・外・断 :5YR6/8 橙	密	○	○	－	－	－	－	良好 20%	
55		418	土師器 高杯	1区 北半	016 流路	上層	推 17.0 残 4.5	内 :5YR8/4 淡橙 外 :5YR8/4 淡橙 ,5YR7/6 橙 断 :10YR5/1 褐灰	やや密	○	○	－	○	－	－	良好 20%	
55		419	土師器 高杯	1区 北半	016 流路	上層	推 16.0 残 4.3	内 :7.5YR8/4 浅黄橙 外 :7.5YR7/6 橙 断 :7.5YR8/3 浅黄橙	やや粗	○	○	－	○	－	－	良好 10%	
55		420	土師器 高杯	1区 北半	016 流路	上層	推 19.1 残 5.3	内 :10YR7/2 にぶい黄橙 外 :10YR7/3 にぶい黄橙 断 :2.5Y4/1 黄灰	やや粗	○	○	－	○	－	－	やや良 5%以下	
55		421	土師器 高杯	1区 北半	016 流路	上層	推 20.0 残 5.1	内 :10YR8/2 灰白 ,7.5YR7/4 にぶい橙 外 :10YR8/2 灰白 ,5YR6/6 橙 断 :7.5YR7/4 にぶい橙	やや密	○	－	－	○	－	－	良好 13%	
55		422	土師器 高杯	1区 北半	016 流路	上層	推 26.0 残 6.4	内 :5YR6/6 橙 ,2.5Y 黄灰 外 :7.5YR5/4 にぶい褐 ,5YR7/6 橙 断 :2.5Y 黄灰	やや密	○	－	－	－	－	－	良好 13%	
55	57	423	土師器 高杯	1区 北半	016 流路	上層	推 16.2 12.4	内 :10YR8/3 浅黄橙 外 :10YR8/2 灰白 断 :2.5Y7/3 浅黄	粗	○	○	－	○	○	－	やや不良 70%	
55		424	土師器 高杯	1区 北半	016 流路	上層	推 15.6 残 13.0	内 :7.5YR7/4 にぶい橙 ,7.5YR4/1 褐灰 外 :7.5YR7/4 にぶい橙 断 :7.5YR8/3 浅黄橙	やや粗	○	○	－	○	－	－	良 70%	
55		425	土師器 高杯	1区 北半	016 流路	上層	推 17.0 残 12.1	内 :7.5YR7/4 にぶい橙 ,10YR7/2 にぶい黄橙 外 :7.5YR7/4 にぶい橙 ,10YR7/2 にぶい黄橙 ,5YR7/6 橙	やや密	○	－	○	○	－	－	良好 80%	
55		426	土師器 高杯	2区 北半	016 流路	上層	推 17.0 残 10.75	内・断 :10YR8/3 浅黄橙 外 :10YR8/3 浅黄橙 ,10YR7/1 灰白	粗	○	○	－	○	－	－	不良 50%	
55		427	土師器 高杯	1区 北半	016 流路	上層	— 残 7.9	内・外 :7.5YR8/3 浅黄橙 ,7.5YR7/4 にぶい橙 断 :7.5YR6/4 にぶい橙	やや密	○	－	－	○	－	－	良好 5%以下	
55		428	土師器 高杯	1区 北半	016 流路	上層	— 残 6.9	内 :7.5YR7/4 にぶい橙 外 :7.5YR7/4 にぶい橙 ,7.5YR7/6 橙 断 :7.5YR8/3 浅黄橙	粗	○	○	－	○	－	－	良好 5%以下	
55		429	土師器 高杯	1区 北半	016 流路	上層	— 残 6.3	内 :2.5Y3/1 黒褐 ,2.5YR6/6 橙 外 :2.5Y5/8 明赤褐 断 :10YR4/1 褐灰	やや粗	○	○	－	○	－	－	良好 20%	
55		430	土師器 高杯	1区 北半	016 流路	上層	— 残 8.8	内 :10YR8/1 灰白 外 :10YR7/2 にぶい黄橙 ,10YR7/4 にぶい黄橙 断 :2.5Y5/1 黄灰	やや密	○	○	－	○	－	－	良好 60%	
55		431	土師器 高杯	1区 北半	016 流路	上層	— 残 8.0	内 :10YR8/2 灰白 外 :10YR8/2 灰白 ,10YR7/2 にぶい黄橙 断 :10YR5/1 褐灰	密	○	－	－	○	－	－	良好 40%	
55		432	土師器 高杯	1区 北半	016 流路	上層	— 残 7.7	内 :7.5YR7/4 にぶい橙 外 :7.5YR8/2 灰白 ,5YR7/6 橙 断 :7.5YR7/4 にぶい橙 ,5Y6/1 灰	やや密	○	－	－	○	－	－	良 20%	
55		433	土師器 高杯	1区 南半	016 流路	上層	— 残 6.2	内 :10YR8/3 浅黄橙 ,2.5Y5/1 黄灰 外 :10YR8/3 浅黄橙 断 :2.5Y5/1 黄灰	やや密	○	－	－	○	－	－	良好 5%以下	

出土土器観察表

挿図番号	写真図版No.	遺物番号	器種	地区	遺構名	層位	口径 器高 (cm)	色調	胎土	白色砂粒	灰色砂粒	黒色砂粒	クサリ礫	チャート	その他	焼成 口縁部(底部)等の残存率	備考
55		434	土師器 高杯	1区 北半	016 流路	上層	— —	内・断:5YR5/6 明赤褐 外:5YR5/6 明赤褐,10YR7/2 にぶい黄橙	やや密	○	−	−	○	−	−	やや良 80%	
55	57	435	土師器 小型器台	1区 北半	016 流路	上層	9.1 6.8	内:7.5YR7/6 橙 外:10YR7/4 にぶい黄橙 断:10YR6/4 にぶい黄橙	やや粗	○	○	−	○	−	−	やや不良 50%	X字形
55		436	土師器 壺・甕	1区 北半	016 流路	上層	— 残 3.05	内:7.5YR7/6 橙 外:7.5YR7/6 橙,10YR5/2 灰黄褐 断:2.5Y5/1 黄灰	密	○	○	−	−	○	−	良 40%	
55		437	土師器 壺・甕	1区 北半	016 流路	上層	— 残 2.4	内・断:2.5Y5/1 黄灰 外:10YR4/1 褐灰	密	○	−	−	−	−	−	良 25%	
55		438	土師器 壺・甕	1区 北半	016 流路	上層	— 残 2.55	内・外:2.5Y7/2 灰黄,2.5Y7/4 淡赤橙 断:2.5Y7/2 灰黄	密	○	○	○	−	−	−	良 45%	
55		439	土師器 壺・甕	1区 北半	016 流路	上層	— 残 3.25	内:2.5Y6/1 黄灰,2.5Y8/2 灰白 外:2.5Y8/2 灰白,5YR7/6 橙 断:10YR7/1 灰白,5YR7/6 橙	やや粗	○	○	○	○	○	−	良 100%	
55		440	土師器 壺・甕	1区 北半	016 流路	上層	— 残 2.7	内:2.5YR6/3 にぶい橙,2.5YR6/1 赤灰 外:10YR4/1 褐灰,5YR6/4 にぶい橙 断:5YR5/2 灰褐	密	○	−	−	−	−	−	やや良 100%	
55		441	土師器 壺・甕	1区 北半	016 流路	上層	— 残 5.3	内:5Y5/1 灰 外・断:2.5Y8/2 灰白,2.5Y4/1 黄灰	密	○	−	−	−	−	−	良 100%	
55		442	弥生 / 土師 甕	1区 北半	016 流路	上層	— 残 3.0	内・外:5YR6/6 橙,10YR6/2 灰黄褐 断:5YR6/8 橙	やや密	○	○	−	−	−	−	良 25%	
55		443	弥生 / 土師 甕	1区 北半	016 流路	上層	— 残 4.1	内:2.5Y8/2 灰白 外・断:10YR7/2 にぶい黄橙	やや粗	○	○	○	−	○	−	良 50%	
55		444	土師器 高杯	1区 南半	016 流路	上層	— 残 5.6	内:10YR8/2 灰白 外:10YR7/3 にぶい黄橙断:10YR7/3 にぶい黄橙,10YR4/1 褐灰	密	○	○	−	○	−	−	良好 5%以下	
55		445	弥生土器 甕	1区 北半	016 流路	上層	推 15.6 残 10.7	内・外:10YR7/2 にぶい黄橙,5YR6/4 にぶい橙 断:5YR6/4 にぶい橙	粗	○	○	○	−	−	−	やや不良 10%	
55		446	弥生土器 有孔鉢	1区 北半	016 流路	上層	推 15.2 残 10.0	内:7.5YR7/4 にぶい橙 外:7.5YR7/6 橙,10YR8/2 灰白 断:10YR5/4 にぶい黄褐,10YR8/2 灰白	やや粗	○	○	○	−	○	−	良 100%	
56		447	土師器 壺	3区	016 流路	下層	推 19.0 残 6.9	内:5YR6/6 橙,10YR6/3 にぶい黄橙 外:5YR6/6 橙,5YR7/6 橙 断:5YR7/6 橙,10YR6/1 褐灰	やや粗	○	−	−	○	−	−	やや良 30%	
56		448	土師器 壺	1区 南半	016 流路	下層	推 18.0 残 6.6	内:5YR7/6 橙,5YR6/8 橙 外:5YR6/8 橙,5YR7/6 橙 断:5YR8/2 灰白	やや密	○	−	−	○	−	−	やや良 12%	
56		449	土師器 壺	1区 北半	016 流路	下層	推 16.7 残 7.0	内・外:2.5Y7/2 灰黄 断:10YR7/2 にぶい黄橙	やや粗	○	○	−	−	○	−	良好 16%	
56		450	土師器 二重口縁 壺?	1区 北半	016 流路	下層	推 17.0 残 2.6	内:10YR7/3 にぶい黄橙,7.5YR4/1 褐灰 外:5YR6/4 にぶい橙 断:10YR7/3 にぶい黄橙	粗	○	−	−	−	○	−	不良 10%	
56		451	土師器 直口壺	1区 北半	016 流路	下層	— 残 5.4	内:10YR3/1 黒褐,10YR6/2 灰黄褐 外:10YR3/1 黒褐,10YR5/2 灰黄褐 断:2.5Y4/1 黄灰	密	○	−	−	−	−	−	良好 5%以下	
56		452	土師器 直口壺	1区 北半	016 流 路	下層	— 残 5.4	内:10YR7/3 にぶい黄橙 外:10YR7/2 にぶい黄橙 断:10YR5/1 褐灰	密	−	−	−	○	−	−	良好 25%	
56	58	453	土師器 二重口縁壺	1区 北半	016 流路	下層	— 残 5.5	内:10YR7/4 にぶい黄橙 外:5YR6/6 橙 断:7.5YR7/4 にぶい橙	密	○	−	−	○	−	−	やや不良 5%以下	
56	58	454	土師器 二重口縁壺	1区 北半	016 流路	下層	推 20.2 残 6.3	内:10YR6/3 にぶい黄橙 外:7.5YR6/4 にぶい橙,10YR6/3 にぶい黄橙 断:2.5Y7/3 浅黄	やや密	○	−	−	○	−	−	やや不良 15%	
56		455	土師器 広口壺	1区 北半	016 流路	下層	推 14.0 残 4.6	内:7.5YR6/4 にぶい橙,10YR7/3 にぶい黄橙 外:10YR7/2 にぶい黄橙 断:10YR6/1 褐灰,10YR7/3 にぶい黄橙	密	○	−	−	○	−	−	良好 5%以下	
56		456	土師器 直口壺	1区 北半	016 流路	下層	推 15.0 残 5.6	内・外:2.5Y8/1 灰白 断:2.5Y8/1 灰白,2.5Y6/1 黄灰	密	○	○	−	−	−	−	良好 20%	
56		457	土師器 直口壺	1区 南半	016 流路	下層	推 15.5 残 5.7	内:10YR8/4 浅黄橙 外:5YR7/6 橙 断:10YR7/4 にぶい黄橙	密	○	○	−	−	−	−	やや良 35%	
56		458	土師器 直口壺	1区 北半	016 流路	下層	推 18.0 残 6.0	内:5YR6/8 橙 外:2.5YR6/8 橙,10YR6/3 にぶい黄橙 断:5YR7/6 橙	密	○	−	−	−	−	−	やや良 10%	
56		459	土師器 直口壺	1区 北半	016 流路	下層	推 9.0 残 4.9	内:10YR7/2 にぶい黄橙,5YR7/4 にぶい橙 外:7.5YR6/2 灰褐,10YR7/2 にぶい黄橙 断:10YR7/2 にぶい黄橙	密	○	−	−	○	−	−	良好 25%	

挿図番号	写真図版No.	遺物番号	器種	地区	遺構名	層位	口径 器高 (cm)	色調	胎土	白色砂粒	灰色砂粒	黒色砂粒	クサリ礫	チャート	その他	焼成 口縁部(底部)等の残存率	備考
56		460	土師器 直口壺	1区 南半	016 流路	下層	推 19.0 残 5.2	内・外・断 :2.5Y7/2 灰黄	密	○	−	−	−	○	−	良好 15%	
56		461	土師器 直口壺	1区 南半	016 流路	下層	推 11.0 残 5.1	内 :10YR8/2 灰白 外 :5YR6/4 にぶい橙 断 :5YR7/4 にぶい橙	密	○	−	−	−	−	−	良好 10%	
56		462	土師器 壺	1区 南半	016 流路	下層	— 残 7.1	内 :10YR4/1 褐灰 ,10YR6/3 にぶい黄橙 外 :10YR4/2 灰黄褐 ,5YR5/4 にぶい赤褐 断 :2.5YR5/6 明赤褐	粗	○	−	−	−	−	−	やや良 30%	
56		463	弥生 / 土師 壺	1区 北半	016 流路	下層	— 残 2.2	内 :2.5Y8/2 灰白 ,7.5YR7/6 橙 外 :2.5Y3/1 黒褐 断 :2.5Y8/2 灰白 ,2.5Y6/1 黄灰	密	○	−	−	−	−	−	良 80%	
56		464	弥生 / 土師 壺	1区 北半	016 流路	下層	— 残 2.4	内 :7.5YR4/1 褐灰 外 :10YR4/1 褐灰 ,7.5YR4/1 褐灰 断 :5YR5/4 にぶい赤褐	粗	○	−	−	−	○	−	やや良 100%	
56		465	弥生 / 土師 壺	1区 北半	016 流路	下層	— 残 1.8	内 :2.5Y5/1 黄灰 外 :N3/1 暗灰 断 :2.5Y5/1 黄灰 ,N3/1 暗灰	密	○	−	−	−	−	−	良好 100%	
56	58	466	土師器 二重口縁壺	1区 南半	016 流路	下層	— 残 17.1	内 :10YR7/3 にぶい黄橙 ,10YR4/1 褐灰 外 :10YR7/3 にぶい黄橙 断 :2.5Y7/1 灰白	密	○	−	−	−	−	雲母	やや良 60%	
56	58	467	土師器 直口壺	1区 南半	016 流路	下層	推 19.6 36.1	内 :10YR8/1 灰白 外 :10YR8/1 灰白 ,7.5YR8/2 灰白 ,N3/ 暗灰 断 :10YR8/1 灰白 ,N4/ 灰	粗	○	○	−	−	○	−	やや不良 30%	
57		468	土師器 壺	1区 北半	016 流路	下層	— 残 2.3	内 :5YR7/6 橙 ,7.5YR4/2 灰褐 外 :10YR8/2 灰白 ,7.5YR7/4 にぶい橙 断 :10YR5/1 褐灰 ,10YR8/2 灰白	密	○	−	−	○	−	−	やや良 100%	
57		469	土師器 壺	1区 南半	016 流路	下層	— 残 2.9	内 :2.5Y6/1 黄灰 外 :10YR8/2 灰白 ,7.5YR8/6 浅黄橙 断 :2.5Y5/1 黄灰	密	○	−	−	−	−	−	やや良 30%	
57		470	土師器 壺	1区 南半	016 流路	下層	— 残 2.8	内 :5YR6/6 橙 ,10YR8/2 灰白 外 :10YR8/2 灰白 ,10YR5/1 褐灰　断 :10YR4/1 褐灰	やや密	○	−	−	−	○	−	良好 100%	
57		471	土師器 壺	1区 南半	016 流路	下層	— 残 2.6	内 :2.5Y6/1 黄灰 外 :10YR7/2 にぶい黄橙 断 :10YR8/2 灰白 ,2.5Y6/1 黄灰	粗	○	−	−	−	○	−	良好 5%以下	
57		472	土師器 壺	1区 北半	016 流路	下層	— 残 3.0	内 :2.5Y3/1 黒褐 外 :2.5Y3/1 黒褐 ,7.5YR8/2 灰白 ,7.5YR7/3 にぶい橙 断 :10YR5/1 褐灰	密	○	−	−	−	−	−	良好 5%以下	
57		473	土師器 壺	1区 北半	016 流路	下層	— 残 3.1	内 :2.5Y6/3 にぶい黄 外 :5YR6/6 橙 ,N3/ 暗灰 断 :2.5Y5/1 黄灰	密	○	−	−	−	−	−	良好 25%	
57	59	474	土師器 V様式系甕	1区 北半	016 流路	下層	推 12.1 (頸部径) —	内 :10YR5/6 黄褐 外 :2.5Y7/3 浅黄 ,7.5YR5/6 明褐 断 :2.5Y7/2 灰黄	やや密	○	○	−	−	○	−	良 60%	
57		475	弥生 / 土師 V様式系甕	1区 北半	016 流路	下層	— 残 2.4	内 :2.5Y6/2 灰黄 ,5Y4/1 灰 外 :10YR7/1 灰白 断 :2.5Y7/2 灰黄	密	○	○	−	−	○	−	良 5%以下	
57		476	弥生 / 土師 V様式系甕	1区 北半	016 流路	下層	— 残 4.6	内・外 :2.5Y7/2 灰黄 断 :5Y8/2 灰白 ,7.5YR6/4 にぶい橙	密	○	○	−	−	○	−	良 50%	
57		477	弥生 / 土師 V様式系甕	1区 北半	016 流路	下層	— 残 7.2	内 :2.5Y7/3 浅黄 外 :2.5Y5/2 暗灰黄 断 :2.5Y6/1 黄灰	密	○	○	−	−	○	−	良 50%	
57		478	弥生 / 土師 V様式系甕	1区 北半	016 流路	下層	推 16.0 残 4.1	内・断 :2.5Y7/2 灰黄 外 :2.5Y7/2 灰黄 ,2.5Y4/1 黄灰	やや粗	○	○	−	○	−	−	良 15%	
57	58	479	弥生 / 土師 V様式系甕	1区 北半	016 流路	下層	推 16.2 残 6.3	内 :2.5Y7/2 灰黄 外 :10YR7/2 にぶい黄橙 断 :7.5YR6/4 にぶい橙	やや密	○	○	○	−	○	−	やや良 15%	
57		480	弥生 / 土師 V様式系甕	1区 北半	016 流路	下層	— 残 4.8	内・外 :2.5Y7/2 灰黄 断 :10YR7/4 にぶい黄橙	密	○	○	−	○	−	−	良 10%	
57		481	土師器 甕	1区 北半	016 流路	下層	推 13.6 残 5.3	内・外 :2.5Y7/2 灰黄 断 :2.5Y6/1 黄灰	やや粗	○	○	−	○	−	−	良 20%	
57		482	土師器 甕	1区 南半	016 流路	下層	— 残 2.9	内・外 :10YR5/4 にぶい黄褐 断 :5YR6/6 橙	やや粗	○	○	−	○	−	−	やや良 5%以下	
57		483	土師器 甕	1区 北半	016 流路	下層	— 残 3.5	内・外 :7.5Y4/1 灰 断 :7.5Y6/1 灰	やや密	○	○	−	−	−	−	良 5%以下	
57		484	土師器 甕	1区 南半	016 流路	下層	— 残 3.7	内 :10YR5/3 にぶい黄褐 ,5YR7/6 橙 外 :10YR4/2 灰黄褐 ,7.5YR6/4 にぶい橙 断 :10YR6/3 にぶい黄橙	やや密	○	○	−	○	−	−	良 5%以下	
57		485	土師器 甕	1区 北半	016 流路	下層	— 残 3.3	内 :10YR7/2 にぶい黄橙 外 :2.5YR6/4 にぶい橙 断 :5Y7/1 灰白	密	○	○	−	−	○	−	良 5%以下	
57	58	486	土師器 布留甕	1区 北半	016 流路	下層	推 15.0 残 4.4	内・断 :2.5Y7/2 灰黄 外 :2.5Y7/2 灰黄 ,2.5Y5/1 黄灰	密	○	○	−	○	−	−	良好 20%	
57		487	土師器 布留甕	1区 南半	016 流路	下層	推 14.4 残 6.3	内・断 :2.5Y7/2 灰黄 外 :2.5Y7/2 灰黄 ,7.5Y2/1 黒	密	○	○	−	−	−	−	良 16%	

出土土器観察表

挿図番号	写真図版No.	遺物番号	器種	地区	遺構名	層位	口径 器高 (cm)	色調	胎土	白色砂粒	灰色砂粒	黒色砂粒	クサリ礫	チャート	その他	焼成 口縁部（底部）等の残存率	備考
57		488	土師器 布留甕	1区 南半	016 流路	下層	推 14.5 残 8.3	内 :7.5YR7/4 にぶい橙 ,7.5YR5/3 にぶい褐 外 :5YR5/4 にぶい赤褐 ,5Y2/1 黒 断 :10YR8/4 浅黄橙	やや粗	○	○	○	－	－	－	良 30%	
57		489	土師器 布留甕	1区 南半	016 流路	下層	推 16.0 残 7.4	内 :10YR7/3 にぶい黄橙 外 :10YR7/3 にぶい黄橙 ,2.5YR7/4 淡赤橙 ,2.5Y3/1 黒褐 断 :2.5YR7/4 淡赤橙	やや粗	○	－	－	○	－	－	良 15%	
57		490	土師器 布留甕	1区 南半	016 流路	下層	推 15.0 残 4.4	内・外・断 :10YR8/2 灰白 ,7.5YR8/3 浅黄橙	やや密	○	○	－	○	－	－	良 13%	
57	58	491	土師器 布留甕	1区 南半	016 流路	下層	推 13.4 残 6.5	内 :2.5Y7/2 灰黄 外・断 :10YR7/2 にぶい黄橙 ,5YR7/3 にぶい橙	密	○	○	－	－	－	－	良好 35%	
57		492	土師器 布留甕	1区 南半	016 流路	下層	推 12.4 残 7.65	内 :5YR6/6 橙 外 :2.5YR7/6 橙 ,7.5YR8/4 浅黄橙 断 :5YR7/6 橙	密	○	－	－	○	－	－	やや不良 25%	
57		493	土師器 布留甕	1区 北半	016 流路	下層	推 18.4 残 5.0	内 :2.5Y5/1 黄灰 外 :7.5YR7/4 にぶい橙 断 :5YR6/4 にぶい橙	密	○	－	－	－	－	－	やや良 13%	
57		494	土師器 布留甕	1区 北半	016 流路	下層	— 残 3.3	内 :5Y6/1 灰 外 :10YR6/2 褐灰 断 :7.5YR6/4 にぶい橙	やや粗	○	○	－	○	－	－	やや良 5%以下	
57		495	土師器 布留甕	1区 南半	016 流路	下層	— 残 3.2	内 :5Y7/1 灰白 外 :5Y7/1 灰白 ,N4/1 灰 断 :N6/0 灰	やや密	○	○	－	○	－	－	良 5%以下	
57		496	土師器 布留甕	1区 南半	016 流路	下層	推 18.6 残 4.3	内 :2.5Y6/2 灰黄 外 :2.5Y6/2 灰黄 ,2.5Y2/1 黒 断 :2.5Y7/2 灰黄	密	○	○	－	－	－	－	良 5%以下	
57		497	土師器 布留甕	1区 南半	016 流路	下層	推 16.6 残 4.55	内・断 :10YR6/3 にぶい黄橙 外 :N2/0 黒	密	○	－	－	○	－	－	良 12%	
57		498	土師器 布留甕	1区 南半	016 流路	下層	推 16.0 残 5.6	内 :5Y3/1 オリーブ黒 ,5Y6/1 灰 外 :2.5Y7/2 灰黄 断 :5YR7/6 橙	密	○	－	－	－	－	－	良 25%	
57		499	土師器 布留甕	1区 北半	016 流路	下層	推 12.7 残 7.0	内 :7.5YR7/4 にぶい橙 外 :7.5YR8/4 浅黄橙 断 :5YR6/6 橙	やや密	○	－	－	○	－	－	やや良 20%	
57		500	土師器 甕	1区 北半	016 流路	下層	— 残 3.3	内 :7.5YR6/1 褐灰 ,7.5YR7/3 にぶい橙 外 :5Y2/1 黒 ,7.5YR7/3 にぶい橙 断 :10YR8/2 灰白	やや密	○	○	－	－	－	－	良 5%以下	
57		501	土師器 甕	1区 南半	016 流路	下層	— 残 2.7	内 :5Y5/1 灰 外 :5Y5/1 灰 ,N3/0 暗灰 断 :5Y6/1 灰	やや粗	○	○	－	－	－	－	良 5%以下	
57		502	土師器 甕	1区 北半	016 流路	下層	推 18.2 残 2.1	内・外 :2.5Y6/1 黄灰 ,2.5Y8/2 灰白断 :10Y5/1 灰	やや密	○	○	－	－	－	－	良 10%	
57		503	土師器 甕	1区 北半	016 流路	下層	推 22.6 残 2.7	内・外・断 :2.5Y7/2 灰黄	密	○	－	－	－	－	－	良 10%	
57		504	土師器 甕	1区 北半	016 流路	下層	推 28.6 残 6.8	内・外 :2.5Y5/2 暗灰黄 断 :2.5Y5/1 黄灰	密	○	○	－	－	－	－	良 10%	山陰系口縁
58	59	505	土師器 高杯	1区 北半	016 流路	下層	推 18.0 —	内 :5YR6/4 にぶい橙 ,5YR7/4 にぶい橙 外 :5YR7/4 にぶい橙 ,2.5YR5/6 明赤褐 断 :5YR7/4 にぶい橙	やや密	○	○	－	○	－	－	良 65%	
58		506	土師器 高杯	1区 南半	016 流路	下層	— 残 6.5	内・外 :10YR7/3 にぶい黄橙 断 :10YR4/1 褐灰	粗	○	○	－	－	－	－	良好 60%	
58		507	土師器 高杯	1区 北半	016 流路	下層	— 残 10.5	内 :2.5YR6/4 にぶい橙 外 :2.5YR6/6 橙 断 :10YR7/3 にぶい黄橙	やや粗	○	○	－	○	－	－	良 50%	
58		508	土師器 高杯	1区 南半	016 流路	下層	— 残 4.5	内・断 :10YR8/4 浅黄橙 外 :5YR7/6 橙	密	○	○	－	○	－	－	やや良 100%	
58		509	土師器 高杯	1区 南半	016 流路	下層	— 残 2.3	内・外 :7.5YR7/3 にぶい橙 ,5YR7/4 にぶい橙 断 :5YR7/2 明褐灰	やや密	○	○	－	○	－	－	良 5%以下	
58		510	土師器 高杯	1区 北半	016 流路	下層	推 22.0 残 6.7	内・外 :7.5Y8/3 浅黄橙 断 :7.5Y5/1 褐灰	密	○	○	－	－	－	－	良 30%	
58		511	土師器 高杯	1区 南半	016 流路	下層	推 19.0 残 6.6	内・外・断 :7.5YR7/6 橙色	やや密	○	○	－	○	－	－	良 40%	
58		512	土師器 高杯	1区 北半	016 流路	下層	— 残 4.7	内 :10YR7/2 にぶい黄橙 ,10R6/6 赤橙 外 :10YR3/1 黒褐 ,10YR7/2 にぶい黄橙 断 :10YR7/2 にぶい黄橙	密	○	○	－	－	－	－	良好 20%	内面赤色顔料、外面スス付着
58		513	土師器 高杯	1区 北半	016 流路	下層	推 17.5 残 4.8	内・外 :10YR7/3 にぶい黄橙 ,5YR6/4 にぶい橙 断 :5Y5/1 灰	密	○	－	－	○	－	－	良 30%	
58		514	土師器 高杯	1区 南半	016 流路	下層	推 17.5 残 4.0	内 :10YR7/3 にぶい黄橙 外 :5YR6/8 橙 断 :2.5Y5/1 黄灰	密	○	○	－	○	－	－	やや良 10%	

挿図番号	写真図版No.	遺物番号	器種	地区	遺構名	層位	口径 器高 (cm)	色調	胎土	白色砂粒	灰色砂粒	黒色砂粒	クサリ礫	チャート	その他	焼成 口縁部（底部）等の残存率	備考
58		515	土師器 高杯	1区 南半	016 流路	下層	推 14.9 残 5.4	内・外 :2.5Y8/2 灰白 断 :2.5Y7/2 灰黄	密	○	－	－	○	－	－	良好 100%	
58		516	土師器 高杯	1区 北半	016 流路	下層	推 15.8 残 5.4	内・断 :5YR7/6 橙 外 :10YR8/1 灰白	密	○	○	－	○	－	－	良 50%	
58		517	土師器 高杯	1区 北半	016 流路	下層	— 残 9.8	内・外 :10YR7/2 にぶい黄橙 断 : 中心　10YR7/2 黒褐	密	○	○	－	－	－	－	良好 60%	
58		518	土師器 高杯	1区 北半	016 流路	下層	— 残 7.5	内・外 :5YR6/6 橙 断 : 中心　5YR4/1 褐灰	密	○	－	－	－	－	－	良好 60%	
58		519	土師器 高杯	1区 北半	016 流路	下層	— 残 6.8	内 :10YR7/2 にぶい黄橙 外 :10YR7/3 にぶい黄橙 断 :5YR6/6 橙	密	○	－	－	○	－	－	良 20%	
58		520	土師器 高杯	1区 南半	016 流路	下層	— 残 7.2	内・外 :2.5Y7/2 灰黄 断 :2.5YR5/6 明赤褐	密	○	－	－	－	－	－	良 20%	
58		521	土師器 高杯	1区 南半	016 流路	下層	— 残 8.7	内・外・断 :10YR8/4 浅黄橙	密	○	－	－	○	－	－	良 80%	
58		522	土師器 高杯	1区 北半	016 流路	下層	— 残 7.9	内・外 :10YR8/3 浅黄橙 断 : 中心　2.5Y3/1 黒褐	密	○	－	－	○	－	－	良好 80%	
58		523	土師器 高杯	1区 北半	016 流路	下層	— 残 7.6	内 :5YR5/6 明赤褐 外 :5YR6/6 橙 断 :7.5YR7/3 にぶい橙	密	○	－	－	－	－	－	良 30%	
58		524	土師器 高杯	1区 北半	016 流路	下層	— 残 8.4	内・外・断 :7.5YR6/8 橙	密	○	○	－	○	－	－	良好 60%	
58		525	土師器 高杯	1区 南半	016 流路	下層	— 残 8.3	内・断 :5YR6/6 橙 外 :10YR8/3 浅黄橙	密	○	－	－	○	－	－	やや良 20%	
58		526	土師器 高杯	1区 北半	016 流路	下層	— 残 7.0	内・外・断 :5YR7/4 にぶい橙	密	○	－	－	○	－	－	良好 30%	
58		527	土師器 椀形高杯	1区 北半	016 流路	下層	— 残 4.0	内・断 :N3/1 暗灰 外 :5YR7/6 橙 ,2.5Y8/1 灰白	密	○	○	－	－	－	－	良 100%	
58		528	土師器 椀形高杯	1区 北半	016 流路	下層	— 残 4.35	内 :5YR6/8 橙 ,10YR6/2 灰黄褐 外 :5YR7/4 にぶい橙 ,5YR6/6 橙 断 :5YR7/4 にぶい橙	密	○	○	－	－	－	－	良 10%	
58		529	土師器 椀形高杯	1区 南半	016 流路	下層	推 12.0 残 5.3	内・外 :2.5Y7/2 灰黄 断 :10YR7/3 にぶい黄橙	密	○	○	－	－	○	－	良 70%	
58		530	土師器 椀形高杯	1区 北半	016 流路	下層	— 残 4.8	内 :10YR8/2 灰白 ,10YR6/4 にぶい黄橙外・断 :10YR8/2 灰白	密	○	○	－	－	－	－	やや良 15%	
58		531	土師器 椀形高杯	1区 北半	016 流路	下層	— 残 4.5	内・断 :10YR8/2 灰白 外 :10YR8/2 灰白 ,10YR6/2 灰黄褐	密	○	○	－	－	○	－	良 40%	
58		532	土師器 椀形高杯	1区 北半	016 流路	下層	— 残 4.0	内 :7.5YR7/6 橙 外 :7.5YR7/4 にぶい橙 ,10YR8/3 浅黄橙 断 :2.5Y6/1 黄灰	密	○	－	－	○	－	－	やや良 25%	
58		533	土師器 椀形高杯	1区 南半	016 流路	下層	推 11.0 残 2.8	内・外 :10YR7/2 にぶい黄橙 断 :10YR6/1 褐灰	密	○	－	○	－	○	－	良好 25%	
58		534	土師器 椀形高杯	1区 北半	016 流路	下層	— 残 6.6	内・外 :10YR8/3 浅黄橙 断 :2.5Y7/2 灰黄	密	○	－	－	○	－	－	やや良 25%	
58		535	弥生土器 器台	1区 北半	016 流路	下層	— 残 6.6	内 :2.5Y7/3 浅黄 外 :2.5Y7/2 灰黄 断 :2.5Y5/1 黄灰	密	○	○	－	○	－	－	良好 13%	
58	59	536	弥生土器 小型器台	1区 北半	016 流路	下層	— —	内 :10YR6/2 灰黄褐 ,7.5YR6/4 にぶい橙 外 :10YR6/2 灰黄褐 断 :10YR5/1 褐灰	密	○	－	－	○	－	－	やや良 25%	
58		537	土師器 小型器台	1区 北半	016 流路	下層	— 残 3.5	内・外 :2.5Y8/2 灰白 ,7.5YR7/6 橙 断 :7.5Y5/1 灰	密	○	－	－	－	－	－	やや良 10%	椀形
58		538	土師器 小型器台	1区 南半	016 流路	下層	— 残 2.8	内・断 :10YR7/2 にぶい黄橙 外 :10YR7/2 にぶい黄橙 ,10YR5/1 褐灰	やや粗	○	○	－	－	○	－	良好 5%以下	椀形
58	59	539	土師器 小型器台	1区 北半	016 流路	下層	— —	内 :5YR6/4 にぶい橙 外 :5YR7/4 にぶい橙 断 :2.5YR6/4 にぶい橙	やや密	○	○	－	○	－	－	やや良 30%	椀形
58		540	土師器 小型器台	1区 北半	016 流路	下層	— 残 5.8	内 :10YR8/2 灰白 外 :5YR7/6 橙 断 :10YR7/4 にぶい黄橙	密	○	○	－	－	○	－	良 100%	椀形
58	59	541	土師器 小型器台	1区 南半	016 流路	下層	推 11.4 7.5	内 :2.5Y7/3 浅黄 ,2.5Y6/2 灰黄 外 :2.5Y7/3 浅黄 断 :10YR4/4 褐	密	○	－	－	－	－	－	やや良 40%	X字形
58		542	土師器 小型器台	1区 北半	016 流路	下層	— 残 4.3	内 :10YR6/2 灰黄褐 外 :10YR7/2 にぶい黄褐 断 :2.5Y7/2 灰黄	密	○	－	－	○	－	－	良 20%	X字形
58		543	土師器 小型器台	1区 北半	016 流路	下層	— 残 3.0	内 :5YR6/6 橙 外 :7.5YR8/3 浅黄橙 断 :10YR6/4 にぶい黄橙	密	○	－	－	○	－	－	やや良 30%	X字形
58		544	土師器 小型器台	1区 北半	016 流路	下層	— 残 3.3	内 :2.5Y6/1 黄灰 外 :2.5Y7/2 灰黄 断 :10YR5/2 灰黄褐 ,5YR5/4 にぶい赤褐	密	○	－	－	－	－	－	良 5%以下	X字形
59		545	土師器 小型丸底土器	1区 南半	016 流路	下層	推 12.3 残 3.05	内 :10YR8/2 灰白 外 :10YR8/2 灰白 ,5YR6/6 橙断 :10YR6/1 褐灰	密	○	○	－	－	－	－	やや良 10%	

出土土器観察表

挿図番号	写真図版No.	遺物番号	器種	地区	遺構名	層位	口径 器高 (cm)	色調	胎土	白色砂粒	灰色砂粒	黒色砂粒	クサリ礫	チャート	その他	焼成 口縁部(底部)等の残存率	備考
59	59	546	土師器 小型丸底土器	1区 南半	016 流路	下層	8.3 —	内・外:10YR7/3 にぶい黄橙,5YR6/4 にぶい橙 断:5YR6/4 にぶい橙	密	○	−	−	○	−	−	良 30%	
59		547	土師器 小型丸底土器	1区 北半	016 流路	下層	推 10.8 残 4.8	内:2.5Y7/2 灰黄 外:2.5Y6/2 灰黄 断:5YR5/6 明赤褐	密	○	−	−	−	−	−	やや良 15%	
59		548	土師器 小型丸底土器	1区 南半	016 流路	下層	推 12.9 残 4.7	内:7.5YR7/4 にぶい橙,10YR4/2 灰黄褐 外:10YR7/3 にぶい黄橙,10YR4/2 灰黄褐 断:10YR7/3 にぶい黄橙	やや粗	○	○	−	−	−	雲母	やや良 20%	
59		549	土師器 有段口縁鉢	1区 北半	016 流路	下層	— 残 4.0	内:10YR6/3 にぶい黄橙 外・断:5Y5/1 灰	やや密	○	○	−	−	○	−	やや良 5%以下	
59		550	土師器 鉢?	1区 南半	016 流路	下層	— 残 4.5	内・外:10YR7/3 にぶい黄橙 断:7.5YR8/3 浅黄橙	粗	○	○	−	○	○	−	良 5%以下	
59		551	土師器 ?	1区 北半	016 流路	下層	— 残 6.0	内・外:10YR4/1 褐灰,10YR3/1 黒褐 断:2.5Y8/2 灰白,2.5YR7/4 淡赤橙	やや密	○	○	−	○	−	−	良好 50%	
59		552	弥生土器 鉢	1区 北半	016 流路	下層	— 残 4.9	内:10YR7/3 にぶい黄橙 外:10YR7/2 にぶい黄橙,2.5YR7/6 橙 断:10YR7/2 にぶい黄橙	密	○	○	−	○	−	−	良好 100%	
59		553	土師器 鉢?	1区 北半	016 流路	下層	— 残 2.65	内:2.5Y8/2 灰白,2.5Y7/2 灰黄 外:2.5Y7/2 灰黄,2.5Y4/2 暗黄灰 断:5YR6/6 橙,7.5Y4/1 灰	密	○	○	−	○	−	−	良 100%	
59		554	土師器 壺・鉢?	1区 北半	016 流路	下層	— 残 1.1	内:7.5YR4/1 褐灰 外:7.5YR7/3 にぶい橙 断:7.5YR5/1 褐灰	密	○	−	−	○	−	−	良好 25%	
59		555	土師器 鉢?	1区 北半	016 流路	下層	— 残 3.9	内:2.5Y7/2 灰黄 外・断:2.5Y8/2 灰白	粗	○	○	−	○	−	−	良 100%	
59	58	556	土師器 鉢	1区 北半	016 流路	下層	17.0 7.2	内:2.5Y8/2 灰白 外:10YR8/2 灰白 断:10YR7/3 にぶい黄橙	密	○	−	−	−	−	−	やや不良 90%	
59		557	土師器 鉢?	1区 北半	016 流路	下層	推 39.4 残 12.9	内:10YR8/2 灰白,10YR5/2 灰黄褐 外:10YR8/2 灰白 断:2.5Y6/1 黄灰	やや粗	○	○	−	○	−	−	良 10%	
59		558	土師器 製塩土器か	1区 南半	016 流路	下層	推 12.0 残 5.8	内・外・断:2.5Y5/1 黄灰	粗	○	−	−	○	−	−	不良 5%以下	
59		559	土師器 製塩土器か	1区 南半	016 流路	下層	推 13.0 残 8.5	内:N5/ 灰,2.5Y7/1 灰白 外:2.5YR7/6 橙,5YR7/4 にぶい橙 断:N4/ 灰	やや粗	○	−	−	○	−	−	やや良 5%以下	
59		560	土師器 製塩土器	1区 北半	016 流路	下層	— 残 3.3	内・断:10YR7/2 にぶい黄橙 外:10YR7/3 にぶい黄橙,2.5YR7/6 橙	密	○	○	−	○	−	−	良好 10%	
59		561	土師器 製塩土器	1区 北半	016 流路	下層	— 残 3.75	内・断:10YR7/2 にぶい黄橙 外:10YR7/2 にぶい黄橙,2.5YR6/4 にぶい橙	やや密	○	○	−	−	−	−	良好 10%	
59	59	562	土師器 製塩土器	1区 北半	016 流路	下層	— —	内:10YR7/3 にぶい黄褐 外:10YR7/2 にぶい黄褐,2.5YR6/4 にぶい橙 断:10YR7/3 にぶい黄褐	密	○	−	−	○	−	−	やや良 70%	
59		563	土師器 製塩土器	1区 北半	016 流路	下層	— 残 3.5	内:5YR6/3 にぶい橙,7.5YR7/2 明褐灰 外:5YR6/4 にぶい橙 断:7.5YR7/2 明褐灰	密	○	−	−	○	−	−	良好 10%	
59	59	564	土師器 製塩土器	1区 南半	016 流路	下層	— —	内:7.5YR5/1 褐灰 外:7.5YR7/3 にぶい橙 断:10YR7/2 にぶい黄橙	密	○	−	−	○	−	−	良 80%	
59	59	565	土師器 製塩土器	1区 南半	016 流路	下層	— —	内:2.5Y8/3 淡黄,10YR3/2 黒褐 外:7.5YR7/4 にぶい橙,10YR6/4 にぶい黄橙 断:7.5YR7/4 にぶい橙	粗	○	○	−	○	○	−	やや良 100%	
61		568	弥生土器 壺	1区 北半	機械掘 削中		推 20.1 残 3.7	内:2.5Y4/1 黄灰 外:10YR5/3 にぶい黄褐,7.5YR6/6 橙 断:2.5Y7/1 灰白	粗	○	○	−	−	−	−	良 10%	
61		569	須恵器 杯蓋?	1区 北半	機械掘 削中		推 12.2 残 3.0	内・断:N7/ 灰白 外:N7/ 灰白,N6/ 灰	密	○	−	○	−	−	−	良好 10%	
61		570	須恵器 杯蓋	2区 北半	機械掘 削中		推 15.0 残 1.3	内・外・断:7.5YR5/4 にぶい褐,N5/ 灰	密	○	−	−	−	−	−	良好 13%	
61		571	須恵器 鉢	2区 北半	機械掘 削中		推 15.0 残 14.5	内・断:2.5Y7/1 灰白 外:N7/ 灰白	密	○	−	−	−	−	−	良好 25%	
61		572	須恵器 壺	2区 北半	機械掘 削中		— 残 1.8	内:N5/ 灰 外:N6/ 灰 断:N7/ 灰	密	○	−	−	−	○	−	良好 5%以下	
61		573	瓦器 椀	2区 北半	機械掘 削中		— 残 1.0	内・外:N3/ 暗灰 断:5Y7/2 灰白	密	○	−	−	−	−	−	良好 30%	
61		574	瓦器 皿	2区 北半	機械掘 削中		推 8.0 残 1.6	内・外:N3/ 暗灰 断:7.5Y8/1 灰白	密	○	−	−	−	−	−	良好 38%	
62		575	須恵器 杯蓋	2区 北半	撹乱内		13.2 残 3.8	内・断:N7/ 灰白 外:N6/ 灰	密	○	○	○	−	−	−	良好 90%	
62		576	須恵器 杯蓋	2区 北半	撹乱内		13.0 残 3.45	内・外・断:N7/ 灰白	密	○	−	○	−	−	−	良好 50%	

挿図番号	写真図版No.	遺物番号	器種	地区	遺構名	層位	口径 器高 (cm)	色調	胎土	白色砂粒	灰色砂粒	黒色砂粒	クサリ礫	チャート	その他	焼成 口縁部(底部)等の残存率	備考
62		577	須恵器 高杯蓋	2区 北半	撹乱内		推 12.8 残 5.5	内:N7/ 灰白 外:N6/ 灰,5RP5/1 紫灰 断:5R6/1 灰	密	○	−	○	−	−	−	良好 35%	
62	64	578	須恵器 杯身	2区 北半	撹乱内		10.8 4.7	内・外:N6/0 灰 断:N8/0 灰白	密	○	−	○	−	−	−	良好堅緻 100%	
62	64	579	須恵器 無蓋高杯	2区 北半	撹乱内		推 16.7 11.25	内:5Y7/1 灰白,7.5Y6/1 灰 外:7.5Y4/1 灰,7.5Y6/1 灰 断:N4/0 灰,5R4/1 暗赤灰	密	○	−	○	−	−	−	良好堅緻 80%	焼け歪み著しい,断面小豆色
62		580	須恵器 甕	2区 北半	撹乱内		推 21.0 残 7.4	内・外:N6/ 灰 断:N7/ 灰白	密	○	−	○	−	−	−	良好 45%	
62		581	土師器 高杯	2区 北半	撹乱内		— 残 7.1	内・外・断:7.5YR7/6 橙	粗	○	○	−	−	○	−	やや良 60%	
62		582	土師器 高杯	2区 北半	撹乱内		— 残 5.2	内:10YR8/3 浅黄橙 外:10YR8/2 灰白,10YR8/3 浅黄橙 断:10YR8/2 灰白	粗	○	○	−	−	○	−	やや良 30%	
62		583	土師器 高杯	2区 北半	撹乱内		— 残 6.6	内:10YR7/4 にぶい黄橙 外:5YR6/6 橙,7.5YR7/4 にぶい橙 断:7.5YR5/3 にぶい褐	密	○	−	−	○	−	−	良好 60%	
63		584	須恵器 杯蓋	1区 南半	古墳包含層		推 12.1 4.5	内:N8/ 灰白 外・断:N8/ 灰白,N5/ 灰	やや密	○	−	○	−	−	−	不良 30%	
63		585	須恵器 杯蓋	1区 南半	古墳包含層		推 15.5 残 4.65	内:N6/ 灰 外:N5/ 灰 断:N7/ 灰白	やや粗	○	−	−	−	−	−	良好堅緻 10%	
63		586	須恵器 杯身	1区 南半	東壁断面掘削		推 11.2 残 4.6	内・外・断:N6/ 灰	やや粗	○	−	−	−	−	−	良好堅緻 30%	
63		587	須恵器 杯身	1区 南半	古墳包含層		推 10.6 4.2	内・断:7.5YR7/4 にぶい橙 外:7.5YR7/4 にぶい橙,2.5Y8/2 灰白,10YR7/4 にぶい黄橙	やや粗	○	−	−	○	−	−	不良 30%	
63		588	須恵器 杯身	1区 南半	古墳包含層		推 10.5 残 5.0	内・外:N7/ 灰白 断:N8/ 灰白	密	○	−	−	−	−	−	良好堅緻 15%	
63		589	須恵器 杯身	1区 南半	古墳包含層		推 10.0 4.4	内:N7/ 灰白 外:N7/ 灰白,N6/ 灰 断:5YR6/2 灰褐	やや密	○	−	○	−	−	−	良好堅緻 25%	断面小豆色
63	64	590	須恵器 杯身	1区 南半	古墳包含層		10.8 5.4	内:N8/0 灰白 外:N7/0 灰白,5P6/1 紫灰,N6/0 灰 断:N5/0 灰	密	○	−	○	−	−	−	良好堅緻 95%	
63		591	須恵器 高杯蓋	1区 北半	側溝		推 12.0 5.3	内:N8/ 灰白 外:N5/ 灰,5Y7/1 灰白 断:N4/ 灰	密	○	−	−	−	−	−	良好 55%	
63		592	須恵器 有蓋高杯	1区 南半	東壁断面掘削		11.4 残 5.45	内・外:5PB7/1 明青灰 断:2.5YR5/1 赤灰	やや密	○	−	−	−	−	−	やや良 100%	断面小豆色
63		593	須恵器 有蓋高杯	1区 南半	西側側溝掘削		— 残 5.6	内・断:N7/ 灰白 外:N6/ 灰	粗	○	○	−	○	○	−	やや良 60%	大径チャート多く含む
63		594	須恵器 鉢?	1区 南半	西側側溝掘削		推 11.9 残 4.8	内:N4/ 灰,10Y8/1 灰白 外:N4/ 灰 断:2.5YR6/1 赤灰	密	○	−	−	−	−	−	良好堅緻 10%	断面小豆色
63	64	595	須恵器 甕	1区 南半	西側側溝		— 残 12.9	内:N5/0 灰 外・断:N4/0 灰	やや粗	○	−	−	−	−	−	良好 70%	
63		596	須恵器 広口壺	1区 南半	古墳包含層		推 19.0 残 5.45	内・外・断:N6/ 灰	密	○	−	−	−	−	−	良好堅緻 10%	
63		597	須恵器 壺	1区 南半	東壁断面掘削		— 残 9.2	内:N7/ 灰白,N6/ 灰 外:N5/ 灰,N6/ 灰,5Y8/1 灰白 断:N7/ 灰白	やや密	○	○	−	−	−	−	良好堅緻 100%	
63		598	須恵器 把手付椀	1区 北半	側溝		5.4 5.3	内・断:N7/ 灰白 外:N7/ 灰白,N8/ 灰白	密	○	−	−	−	−	−	良好堅緻 100%	
63		599	須恵器 把手付椀	1区 北半	精査中		— 残 2.7	内:N7/ 灰白 外:N8/ 灰白,N5/ 灰 断:2.5Y7/1 灰白	密	○	−	○	−	−	−	良好堅緻 25%	
63	64	600	須恵器 鍋	1区 北半	側溝掘削中		— —	内・外:10Y5/1 灰 断:7.5Y8/1 灰白	密	○	−	−	−	−	−	やや良 100%	瓦質
63		601	土師器 高杯	1区 北半	側溝		— 残 7.2	内・外:10YR8/2 灰白 断:2.5Y6/1 黄灰,10YR8/2 灰白	やや密	○	○	−	−	−	−	良 70%	
63		602	土師器 複合口縁壺	1区 北半	側溝		推 16.0 16.5	内・外・断:10YR8/2 灰白,10YR7/1 灰白	粗	○	○	○	−	−	−	良 40%	
63		603	土師器 二重口縁壺?	1区 北半	側溝		推 23.0 残 3.8	内:7.5YR7/6 橙,2.5YR6/8 橙 外:5YR6/6 橙,7.5YR8/4 浅黄橙 断:5YR6/6 橙	密	○	○	−	−	−	−	良 20%	
63		604	土師器 甑・鍋	1区 南半	西側側溝掘削		— 残 5.3	内・外・断:7.5YR7/4 にぶい橙	粗	○	○	○	○	−	−	良 100%	
63		605	須恵器 甑・鍋	1区 南半	西側側溝掘削		— 残 5.5	内・外:2.5Y7/1 灰白 断:7.5YR8/4 浅黄橙	やや密	○	−	−	−	−	−	良 80%	瓦質
63		606	瓦器 三足	1区 南半	西側側溝掘削		— 残 7.3	内・外:10YR8/3 浅黄橙,10YR5/1 褐灰 断:5YR7/2 明褐灰,10YR5/1 褐灰	やや密	○	○	−	○	−	−	良 5%以下	
64		607	土師器 広口壺	2区 北半	包含層	下層	推 17.4 残 5.4	内・外・断:7.5YR6/4 にぶい橙	粗	○	○	−	−	−	雲母	良 20%	
64		608	土師器 高杯	2区 北半	179 溝C	下層	— 残 5.1	内:10YR8/4 浅黄橙,10YR6/6 明黄褐 外・断:10YR8/4 浅黄橙	粗	○	○	−	○	−	−	良 5%以下	
64		609	土師器 高杯	2区 北半	179 溝B	下層	— 残 5.4	内:7.5YR6/4 にぶい橙 外:5YR7/4 にぶい橙 断:7.5YR5/4 にぶい褐	やや粗	○	○	−	−	−	−	やや良 30%	

出土土器観察表

挿図番号	写真図版No.	遺物番号	器種	地区	遺構名	層位	口径 器高 (cm)	色調	胎土	白色砂粒	灰色砂粒	黒色砂粒	クサリ礫	チャート	その他	焼成 口縁部（底部）等の残存率	備考
64		610	土師器 壺	2区 北半	179 溝C	下層	— 残3.0	内・外・断:5YR5/6 明褐灰	粗	○	○	−	−	○	−	良 90%	
64		611	弥生/土師 壺	2区 北半	179 溝D	下層	— 残4.5	内:10YR5/3 にぶい黄橙,10YR5/2 灰黄褐 外:10YR5/3 にぶい黄橙 断:10YR5/2 灰黄褐	粗	○	○	−	−	−	角閃石	やや不良 50%	
64		612	土師器 製塩土器	2区 北半	179 溝H	下層	— 残2.7	内:7.5YR8/4 浅黄橙,10YR8/2 灰白 外・断:7.5YR8/4 浅黄橙	密	○	○	−	−	−	−	良 30%	
64		613	土師器 壺	2区 北半	包含層	下層	— 残4.7	内:5Y6/1 灰,5Y7/1 灰白 外:2.5Y7/3 浅黄 断:2.5Y4/1 黄灰	粗	○	○	−	−	−	−	やや良 100%	
64		614	弥生／土師 壺	2区 北半	包含層	下層	— 残4.0	内:10YR4/1 褐灰 外:10YR5/4 にぶい黄褐 断:10YR6/4 にぶい黄橙	粗	○	○	−	−	−	角閃石	やや不良 20%	
64		615	土師器 製塩土器	2区 北半	西側 側溝		— 残4.7	内:5Y7/6 橙 外:10YR8/3 浅黄橙,5YR7/4 にぶい橙 断:5YR7/6 橙	密	○	○	−	−	−	−	やや良 80%	
64		616	土師器 皿	2区 北半	西側 側溝		推10.0 残2.5	内:2.5Y8/3 淡黄,N4/ 灰 外:2.5Y7/4 淡黄 断:N3/ 暗灰	密	○	−	−	−	○	−	良好 30%	
64		617	弥生土器 広口壺	2区 北半	空測前 清掃中		推15.5 残4.6	内・断:10YR8/3 浅黄橙　外:10YR7/4 にぶい黄橙,7.5YR7/6 橙	粗	○	○	−	−	○	−	やや良 10%	
65		618	須恵器 器台	3区	精査中		— 残4.25	内:7.5Y4/1 灰 外:7.5Y7/1 灰白 断:5RP6/1 紫灰	密	○	−	−	−	−	−	良好堅緻 10%	断面 小豆色
65		619	弥生土器 広口壺				推19.0 残5.9	内・外:5YR7/6 橙 断:7.5YR8/3 浅黄橙	やや粗	○	○	−	○	−	−	やや良 25%	
65		620	土師器 V様式系 甕？				推16.6 残2.7	内:5YR7/6 橙,2.5Y7/2 灰黄 外:5YR6/6 橙,5YR7/4 にぶい橙 断:2.5Y7/2 灰黄	粗	○	○	−	○	−	−	やや良 20%	
77		803	弥生/土師 直口壺	2区 北半	414 流路		推12.4 残4.6	内:7.5YR6/3 にぶい褐,5Y5/1 灰 外:7.5YR7/6 橙 断:7.5YR7/6 橙,5Y5/1 灰	粗	○	○	−	○	−	−	やや不良 10%	
77		804	弥生/土師 直口壺	3区	414 流路		推14.4 残8.7	内:10YR7/4 にぶい黄橙,5YR7/4 にぶい黄橙 外:7.5YR6/6 橙 断:10YR6/1 褐灰	密	○	−	−	○	−	−	良好 5%以下	
77		805	弥生/土師 広口壺	2区 北半	414 流路		推15.8 残5.2	内:2.5Y8/2 灰白 外:10YR8/2 灰白,7.5YR4/2 灰褐 断:7.5YR6/4 にぶい褐,2.5Y5/2 暗灰黄	やや粗	○	−	−	○	−	−	やや良 5%以下	
77		806	弥生/土師 広口壺	2区 北半	414 流路		推17.2 残7.9	内:10YR8/2 灰白,7.5YR7/4 にぶい橙 外:7.5YR7/6 橙,7.5YR7/4 にぶい橙 断:7.5YR7/4 にぶい橙	粗	○	○	−	○	−	−	やや良 25%	
77		807	弥生/土師 広口壺	2区 北半	414 流路		— 残6.2	内:10YR8/2 灰白 外:10YR8/3 浅黄橙 断:10YR5/1 褐灰	やや密	○	−	−	○	○	−	良好 30%	
77		808	弥生/土師 広口壺	2区 北半	414 流路		推14.2 残4.2	内:2.5Y8/2 灰白 外:10YR8/2 灰白 断:2.5Y3/1 黒褐	密	○	−	−	○	−	−	良好 25%	
77		809	弥生/土師 広口壺	3区	414 流路		推14.8 残4.6	内:2.5Y7/2 灰黄,7.5YR7/4 にぶい橙 外:2.5Y7/2 灰黄 断:2.5Y6/2 灰黄	やや粗	○	○	−	○	−	−	やや良 20%	
77		810	弥生/土師 広口壺	2区 北半	414 流路		推16.0 残3.0	内:7.5YR6/4 にぶい橙,10YR7/3 にぶい黄橙,10YR3/1 黒褐 外:10YR4/1 褐灰,7.5YR7/4 にぶい橙 断:10YR4/1 褐灰	やや粗	○	−	−	○	○	−	やや良 13%	
77		811	弥生/土師 広口壺	2区 北半	414 流路		推13.1 残11.6	内:7.5YR8/4 浅黄橙 外:5YR6/6 橙,7.5YR7/4 にぶい橙 断:7.5YR6/4 にぶい橙	密	○	−	−	○	−	−	良好 5%以下	
77	60	812	弥生/土師 二重口縁壺	3区	414 流路		推35.6 —	内:2.5YR6/6 橙,10YR6/4 にぶい黄橙 外:10YR5/4 にぶい黄褐 断:10YR6/4 にぶい黄橙	やや粗	○	−	−	−	−	角閃石	良 5%以下	
77	60	813	弥生/土師 二重口縁壺	2区 北半	414 流路		推18.4 —	内・外:2.5Y7/3 浅黄,7.5YR6/6 橙 断:7.5YR6/4 にぶい橙	やや粗	○	−	−	−	−	−	良 40%	
77		814	弥生土器 長頸壺	2区 北半	414 流路		— 残12.9	内:5YR6/6 橙,5YR6/8 橙,10YR8/3 浅黄橙,10YR5/1 褐灰 外:5YR5/6 明赤褐 断:10YR6/1 褐灰,10YR8/3 浅黄橙	やや粗	○	−	−	○	−	−	やや良 30%	
77		815	弥生/土師 短頸壺？	2区 北半	414 流路		推8.8 残7.5	内・外・断:10YR7/3 にぶい黄橙	やや粗	○	−	−	−	−	−	良 25%	
77		816	弥生/土師 細頸壺	2区 北半	414 流路		— 残6.9	内:5YR6/6 橙,10YR7/3 にぶい黄橙,2.5Y5/1 黄灰 外:5YR6/6 橙 断:5YR6/6 橙,10YR7/3 にぶい黄橙	密	○	−	−	○	−	−	良好 5%以下	
77		817	弥生/土師 壺	3区	414 流路		— 残4.1	内:10YR7/3 にぶい黄橙,10YR6/1 褐灰 外:7.5YR7/3 にぶい橙 断:7.5YR6/4 にぶい橙	やや粗	○	○	○	○	−	−	良 100%	

挿図番号	写真図版No.	遺物番号	器種	地区	遺構名	層位	口径 器高 (cm)	色調	胎土	白色砂粒	灰色砂粒	黒色砂粒	クサリ礫	チャート	その他	焼成 口縁部(底部)等の残存率	備考
77		818	弥生 / 土師 壺	2 区 北半	414 流路		— 残 2.7	内 :10YR7/3 にぶい黄橙 ,10YR6/1 褐灰 外 :10YR7/2 にぶい黄橙 ,10YR6/1 褐灰 断 :10YR7/2 にぶい黄橙	粗	○	○	○	-	-	-	良好 100%	
77		819	弥生 / 土師 壺	3 区	414 流路		— 残 3.3	内 :5YR6/6 橙 外 :5YR6/6 橙 ,2.5Y3/1 黒褐 断 :2.5Y6/1 黄灰	やや粗	○	○	○	-	-	-	やや不良 45%	
77	61	820	弥生 / 土師 V様式系甕	2 区 北半	414 流路		推 10.8 残 8.8	内 :10YR8/2 灰白 外 :10YR8/2 灰白 ,10YR5/1 褐灰 ,10YR3/1 黒褐 断 :10YR8/2 灰白 ,10YR4/1 褐灰	やや密	○	○	-	-	○	-	やや不良 85%	
77	61	821	弥生 / 土師 V様式系甕	2 区 北半	414 流路		推 12.0 残 11.2	内 :7.5YR7/4 にぶい橙 外 :7.5YR7/6 橙 ,2.5YR6/4 にぶい橙 断 :7.5YR7/3 にぶい橙	粗	○	-	-	-	-	-	やや不良 70%	
77	60	822	弥生 / 土師 V様式系甕	2 区 北半	414 流路		推 14.8 —	内 :10YR7/2 にぶい黄橙 外 :10YR5/2 灰黄褐 ,5YR6/4 にぶい橙 断 :10YR5/4 にぶい黄褐	やや密	○	○	-	○	-	-	やや良 15%	
77		823	弥生 / 土師 V様式系甕	2 区 北半	414 流路		推 13.5 推 12.5	内 :10YR6/3 にぶい黄橙 ,10YR4/1 褐灰 ,N2/ 黒 外 :10YR6/3 にぶい黄橙 ,10YR4/1 褐灰 断 :7.5YR6/4 にぶい橙	粗	○	○	-	-	-	-	良 60%	
77		824	弥生 / 土師 V様式系甕	2 区 北半	414 流路		推 14.8 残 3.6	内・外・断 :7.5YR7/4 にぶい橙	粗	○	○	-	-	-	-	良 20%	
77	60	825	弥生 / 土師 V様式系甕	2 区 北半	414 流路		推 14.8 —	内 :10YR7/4 にぶい黄橙 外 :10YR7/3 にぶい黄橙 断 :10YR5/3 にぶい黄褐	粗	○	○	-	-	○	-	やや良 20%	
77		826	弥生 / 土師 V様式系甕	2 区 北半	414 流路		推 15.2 残 7.9	内 :10YR7/3 にぶい黄橙 外 :7.5YR4/2 灰褐 断 :5YR6/4 にぶい橙 ,7.5YR4/1 褐灰	粗	○	○	-	-	-	-	やや不良 45%	
77		827	弥生 / 土師 V様式系甕	2 区 北半	414 流路		推 16.4 残 6.1	内・外・断 :5YR7/4 にぶい橙	やや密	○	○	-	○	-	-	やや不良 10%	
77		828	弥生 / 土師 V様式系甕	2 区 北半	414 流路		推 18.0 残 14.5	内 :10YR7/3 にぶい黄橙 外 :10YR7/3 にぶい黄橙 ,10YR4/2 灰黄褐 断 :5YR6/6 橙	粗	○	○	○	-	○	-	良 10%	
77		829	弥生 / 土師 V様式系甕	3 区	414 流路		推 18.8 残 3.9	内・外 :7.5YR6/6 橙 ,10YR8/3 浅黄橙 ,10YR3/1 黒褐 断 :10YR8/3 浅黄橙	粗	○	○	○	○	-	-	やや不良 20%	
77		830	弥生 / 土師 V様式系甕	2 区 北半	414 流路		推 17.6 残 3.7	内・断 :10YR7/3 にぶい黄橙 外 :10YR7/3 にぶい黄橙 ,10YR3/1 黒褐	やや粗	○	○	○	○	-	-	良 25%	
77		831	弥生 / 土師 V様式系甕	2 区 北半	414 流路		推 17.6 —	内 :7.5YR7/4 にぶい橙 ,10YR5/1 褐灰 外・断 :7.5YR7/4 にぶい橙	粗	○	○	○	-	-	-	良 25%	
77	60	832	弥生 / 土師 V様式系甕	2 区 北半	414 流路		推 17.8 —	内 :5YR6/6 橙 外 :5YR5/6 明赤褐 ,10YR4/1 褐灰 断 :10YR4/2 灰黄褐	やや粗	○	○	-	○	-	-	やや良 15%	
77		833	弥生 / 土師 V様式系甕？	2 区 北半	414 流路		— 残 15.1	内 :10YR8/1 灰白 ,10YR4/1 褐灰 外 :10YR6/2 灰黄褐 ,10YR2/1 黒 断 :7.5YR6/4 にぶい橙	粗	○	○	○	-	○	-	やや不良 60%	
78		834	弥生 / 土師 V様式系甕	3 区	414 流路		推 16.8 残 7.4	内・外 :10YR8/3 浅黄橙 ,10YR4/1 褐灰 断 :7.5YR7/3 にぶい橙	やや粗	○	○	-	○	-	-	良 20%	
78	60	835	弥生 / 土師 V様式系甕	2 区 北半	414 流路		推 19.2 —	内・断 :5YR7/6 橙 外 :5YR6/6 橙	粗	○	○	-	○	-	-	やや良 25%	
78	60	836	弥生 / 土師 V様式系甕	3 区	414 流路		推 16.8 —	内 :5YR7/6 橙 外 :5YR6/6 橙 ,7.5YR5/6 明褐 断 :10YR6/4 にぶい黄褐	やや密	○	○	-	-	○	-	良 15%	
78	60	837	弥生 / 土師 V様式系甕	2 区 北半	414 流路		推 17.2 —	内 :2.5Y8/2 灰白 外 :10YR7/3 にぶい黄橙 断 :10YR6/4 にぶい黄橙	粗	○	○	-	○	-	-	良 10%	
78		838	弥生 / 土師 V様式系甕	3 区	414 流路		推 21.8 残 4.8	内 :5YR6/6 橙 ,5YR8/1 灰白 ,10YR4/1 褐灰 外 :5YR6/6 橙 ,5YR8/1 灰白 断 :5YR8/1 灰白 ,10YR4/1 褐灰	やや粗	○	○	○	○	-	-	やや不良 20%	
78		839	弥生 / 土師 V様式系甕	3 区	414 流路		推 22.2 残 5.6	内・外・断 :7.5YR7/6 橙	粗	○	○	-	○	-	-	不良 25%	
78		840	弥生 / 土師 V様式系甕	3 区	414 流路		— 残 2.4	内 :7.5YR4/3 褐 外 :7.5YR6/6 橙 ,10YR7/4 にぶい黄橙 断 :7.5YR7/4 にぶい橙	密	○	○	-	-	-	-	良 100%	
78		841	弥生 / 土師 V様式系甕	3 区	414 流路		— 残 2.3	内 :10YR7/1 灰白 ,10YR3/1 黒褐 外 :10YR7/2 にぶい黄橙 ,10YR8/1 灰白 断 :10YR7/1 灰白	やや密	○	-	-	-	-	-	良 45%	
78		842	弥生 / 土師 V様式系甕	3 区	414 流路		— 残 2.5	内 :5YR6/4 にぶい橙 外 :5YR6/6 橙 断 :7.5YR7/4 にぶい橙	やや粗	○	-	○	-	-	-	良 100%	
78		843	弥生 / 土師 V様式系甕	3 区	414 流路		— 残 5.6	内・外・断 :5YR7/6 橙	やや粗	○	○	○	○	-	-	不良 100%	

出土土器観察表

挿図番号	写真図版No.	遺物番号	器種	地区	遺構名	層位	口径 器高 (cm)	色調	胎土	白色砂粒	灰色砂粒	黒色砂粒	クサリ礫	チャート	その他	焼成 口縁部（底部）等の残存率	備考
78		844	弥生 / 土師 V様式系甕	3 区	414 流路		— 残 5.0	内・外 :5YR6/6 橙 ,N3/ 暗灰 ,10YR7/3 にぶい黄橙 断 :5YR6/6 橙	やや 密	○	○	－	○	－	－	良 25%	
78		845	弥生 / 土師 V様式系甕	2 区 北半	414 流路		— 残 9.9	内 :10YR8/2 灰白 ,5YR6/6 橙 ,10YR3/1 黒褐 外 :10YR8/2 灰白 断 :5YR6/6 橙	やや 粗	○	○	○	－	○	－	良 100%	
78		846	弥生 / 土師 V様式系甕	2 区 北半	414 流路		— 残 4.3	内 :10YR7/2 にぶい黄橙 外 :7.5YR3/2 黒褐 断 :7.5YR7/4 にぶい橙	やや 密	○	－	－	－	－	－	良 100%	
78		847	弥生 / 土師 V様式系甕	2 区 北半	414 流路		— 残 11.5	内 :10YR7/4 にぶい黄橙 ,N4/ 灰 外 :10YR7/3 にぶい黄橙 ,N4/ 灰 ,2.5Y6/4 にぶい橙 断 :10YR7/3 にぶい黄橙	粗	○	○	－	－	－	－	やや不良 100%	
78		848	弥生 / 土師 V様式系甕	2 区 北半	414 流路		— 残 3.75	内 :10YR7/2 にぶい黄橙　外 :10YR7/2 にぶい黄橙 ,5YR7/4 にぶい橙 断 :10YR7/2 にぶい黄橙 ,10YR4/1 褐 灰	やや 密	○	－	○	○	○	－	やや不良 45%	
78		849	弥生 / 土師 V様式系甕	2 区 北半	414 流路		— 残 4.0	内 :10YR8/3 浅黄橙 外 :10YR8/3 浅黄橙 ,2.5Y5/1 黄灰 断 :10YR8/3 浅黄橙	粗	○	○	－	－	○	－	良 100%	
78		850	弥生 / 土師 V様式系甕	2 区 北半	414 流 路		— 残 5.8	内 :2.5YR6/6 橙 ,7.5YR8/3 浅黄橙 外 :10YR4/1 褐灰 ,7.5YR8/3 浅黄橙 断 :7.5YR8/3 浅黄橙	やや 粗	○	○	○	－	○	－	やや不良 100%	
79		851	弥生 / 土師 高杯	3 区	414 流路		推 18.0 残 4.2	内・断 :7.5YR6/6 橙 外 :10YR8/3 浅黄橙 ,7.5YR7/4 にぶい 橙	密	○	○	－	○	－	－	良好 8%	
79		852	弥生 / 土師 高杯	2 区 北半	414 流路		推 18.7 残 3.8	内 :2.5Y7/2 灰黄 外 :10YR7/3 にぶい黄橙 断 :10YR8/3 浅黄橙	密	○	○	－	○	－	－	良好 5%以下	
79		853	弥生 / 土師 高杯	3 区	414 流路		— 残 4.5	内 :10YR7/2 にぶい黄橙 ,5YR7/6 橙 外 :10YR7/2 にぶい黄橙 ,5YR7/6 橙 ,10YR4/1 褐灰 断 :10YR7/2 にぶい黄橙	やや 密	○	－	－	○	－	－	やや良 5%以下	
79	60	854	弥生 / 土師 高杯	2 区 北半	414 流路		推 18.6 —	内・外・断 :2.5Y8/2 灰白	密	○	○	－	－	○	－	良 25%	
79		855	弥生 / 土師 高杯	2 区 北半	414 流路		推 19.6 残 4.9	内 :10YR8/2 灰白 外 :10YR8/2 灰白 ,10YR3/1 黒褐 断 :10YR6/4 にぶい黄橙	密	○	○	－	－	－	－	良好 13%	
79		856	弥生 / 土師 高杯	3 区	414 流路		推 21.2 残 5.3	内 :7.5YR7/4 にぶい橙 外 :10YR8/3 浅黄橙 ,5YR7/4 にぶい橙 断 :10YR8/3 浅黄橙	密	○	－	－	○	－	－	良好 10%	
79		857	弥生 / 土師 高杯	3 区	414 流路		推 21.0 残 4.3	内・断 :7.5YR6/6 橙 外 :7.5YR7/4 にぶい橙 ,10YR8/2 灰白	やや 粗	○	－	－	○	－	－	良好 10%	
79		858	弥生 / 土師 高杯	3 区	414 流路		推 18.7 残 6.3	内 :7.5YR7/4 にぶい橙 外 :7.5YR7/4 にぶい橙 ,10YR7/3 にぶ い黄橙 断 :10YR7/3 にぶい黄橙	密	○	○	－	○	－	－	良好 25%	
79		859	弥生 / 土師 高	2 区 北半	414 流路		— 残 4.4	内・外 :7.5YR6/4 にぶい橙 ,7.5YR7/3 にぶい橙 断 :7.5YR3/1 黒褐	密	○	－	－	○	－	－	良好 50%	
79		860	弥生 / 土師 高杯	2 区 北半	414 流路		— 残 4.3	内・外 :5YR6/6 橙 断 :7.5YR5/4 にぶい褐	やや 密	○	－	－	○	－	－	良好 30%	
79	60	861	弥生 / 土師 高杯	2 区 北半	414 流路		— —	内 :5YR7/6 橙 外 :7.5YR8/4 浅黄橙 断 :10YR8/4 浅黄橙	粗	○	－	－	○	○	－	良 60%	
79		862	弥生 / 土師 高杯	2 区 北半	414 流路		— 残 3.3	内 :10YR7/3 にぶい黄橙 外 :10YR7/2 にぶい黄橙 ,10YR6/3 に ぶい黄橙 断 :10YR7/2 にぶい黄橙	やや 密	○	－	○	－	－	－	良好 5%以下	
79		863	弥生 / 土師 高杯	2 区 北半	414 流路		— 残 3.4	内 :10YR7/3 にぶい黄橙 外 :10YR7/3 にぶい黄橙 ,7.5YR6/4 に ぶい橙 断 :10YR6/2 灰黄褐	やや 粗	○	－	－	○	－	－	やや不良 5%以下	
79		864	弥生 / 土師 高杯	2 区 北半	414 流路		— 残 4.9	内 :10YR7/3 にぶい黄橙 ,5YR7/6 橙 外 :5YR7/6 橙 ,7.5YR7/4 にぶい橙 断 :10YR7/3 にぶい黄橙	やや 密	○	－	－	○	－	－	良好 20%	
79		865	弥生 / 土師 高杯	3 区	414 流路		— 残 5.4	内 :5YR7/4 にぶい橙 ,5YR7/6 橙 外 :5YR7/6 橙 ,5YR8/3 橙 断 :10YR5/1 褐灰	やや 粗	○	○	－	○	－	－	やや良 50%	
79		866	弥生 / 土師 高杯	2 区 北半	414 流路		— 残 5.0	内・外 :5YR6/6 橙 ,10YR7/2 にぶい黄 橙 断 :5YR6/6 橙	やや 密	○	○	－	○	－	－	良好 50%	
79		867	弥生 / 土師 高杯	2 区 北半	414 流路		— 残 6.7	内・外 :10YR7/2 にぶい橙	やや 密	○	○	－	○	－	－	良好 40%	
79		868	弥生 / 土師 高杯	2 区 北半	414 流路		— 残 6.75	内・外 :10YR6/3 にぶい黄橙 断 :10YR5/1 褐灰	密	○	－	－	－	－	－	良好 20%	
79		869	弥生 / 土師 高杯	2 区 北半	414 流路		— 残 6.9	内・外 :5YR6/6 橙 断 :2.5Y5/2 暗灰黄	密	○	－	－	－	－	－	良好 30%	

挿図番号	写真図版No.	遺物番号	器種	地区	遺構名	層位	口径 器高 (cm)	色調	胎土	白色砂粒	灰色砂粒	黒色砂粒	クサリ礫	チャート	その他	焼成 口縁部（底部）等の残存率	備考
79		870	弥生 / 土師 高杯	2 区 北半	414 流路		— 残 6.55	内 :10YR7/4 にぶい黄橙 外 :10YR7/3 にぶい黄橙 断 :10YR5/3 にぶい黄橙	やや 粗	○	－	－	○	－	－	良好 5%以下	
79		871	弥生 / 土師 高杯	3 区	414 流路		— 残 7.5	内 :2.5YR5/6 明赤褐 ,5YR7/6 橙 外 :5YR6/8 橙 断 :2.5Y5/1 黄灰	やや 粗	○	○	－	－	○	－	不良 30%	
79		872	土師器 高杯	2 区 北半	414 流路		— 残 8.1	内・外 :10YR7/2 にぶい黄橙 ,5YR7/6 橙 断 :5YR6/6 橙	密	○	－	－	○	－	－	良好 50%	
79		873	土師器 高杯	2 区 北半	414 流路		— 残 8.4	内・断 :2.5Y8/1 灰白 外 :10YR7/2 にぶい黄橙	密	○	－	○	○	－	－	良好 60%	
79		874	土師器 高杯	3 区	414 流路		— 残 3.1	内 :10YR7/3 にぶい黄橙 外 :10YR7/2 にぶい黄橙 断 :5YR6/6 橙	密	○	○	－	－	○	－	良好 52%	
79	60	875	弥生土器 器台	2 区 北半	414 流路		— —	内 :5YR6/6 橙 外 :5YR6/6 橙 ,7.5YR7/6 橙 断 :5Y5/1 灰	密	○	－	－	○	－	－	やや不良 15%	
79	61	876	弥生 / 土師 鉢	2 区 北半	414 流路		推 13.4 7.0	内 :5YR7/6 橙 外 :7.5YR7/4 にぶい橙 断 :5YR6/6 橙	やや 密	○	－	－	○	－	－	良 30%	
79		877	弥生土器 鉢	3 区	414 流路		推 19.8 残 5.95	内 :5YR6/4 にぶい橙 外 :10YR7/4 にぶい黄橙 断 :10YR4/1 褐灰	密	○	○	－	－	－	－	やや不良 10%	
79		878	弥生土器 鉢	3 区	414 流路		推 12.2 残 11.1	内・外 :7.5YR7/3 にぶい橙 断 :10YR8/1 灰白	やや 粗	○	○	－	○	－	－	良 25%	
79		879	土師器 製塩土器？	2 区 北半	414 流路		推 12.4 残 7.8	内 :2.5YR6/6 橙 ,7.5YR5/3 にぶい褐 外・断 :2.5YR6/6 橙	やや 粗	○	○	○	－	－	－	やや不良 25%	
79		880	土師器 製塩土器	2 区 北半	414 流路		— 残 3.6	内 :5YR8/4 淡橙 外 :2.5YR7/6 橙 ,2.5YR6/6 橙 断 :7.5YR8/2 灰白	密	○	－	－	－	－	－	良好 20%	
79		881	土師器 製塩土器	2 区 北半	414 流路		— 残 2.8	内 :2.5YR7/4 淡赤橙 ,5YR8/2 灰白 外 :7.5YR8/2 灰白 ,2.5YR7/4 淡赤橙 断 :7.5YR7/1 明褐灰	やや 密	○	○	－	○	－	－	やや良 50%	
80		882	弥生土器 有孔鉢	1 区 北半	017 流路		推 16.2 9.2	内 :10YR6/3 にぶい黄橙 外 :10YR7/2 にぶい黄橙 断 :5YR6/4 にぶい橙	密	○	－	－	○	－	－	良 12%	
80	61	883	弥生 / 土師 広口壺	2 区 北半	529 流路		推 15.4 残 5.4	内・外 :10YR8/2 灰白 ,5/YR8/3 淡橙 断 :2.5YR5/1 黄灰	粗	○	－	－	－	－	－	不良 20%	
80		884	弥生 / 土師 V様式系甕	2 区 北半	529 流路		推 12.0 残 7.8	内 :7.5Y6/4 にぶい橙 外 :5YR6/3 にぶい橙 断 :2.5YR6/6 橙	密	○	－	－	－	－	－	良 20%	
80	61	885	弥生 / 土師 V様式系甕	2 区 北半	529 流路		推 11.6 12.0	内 :10YR6/2 灰黄褐 ,10YR4/1 褐灰 外 :10YR4/1 褐灰 ,2.5YR5/4 にぶい赤褐 断 :10R6/6 赤橙	やや 粗	○	○	－	○	－	－	良 60%	
80		886	弥生 / 土師 高杯	2 区 北半	529 流路		— 残 8.1	内 :2.5Y7/3 浅黄 ,10YR6/6 明黄褐 外 :2.5Y7/2 灰黄 ,10YR5/4 にぶい黄褐 断 :7.5YR5/4 にぶい褐	やや 密	○	○	－	－	○	－	良 30%	
80	62	887	土師器 広口壺？	2 区 北半	533 流路		推 11.4 18.5	内 :5YR5/4 にぶい赤褐 外 :5YR5/6 明赤褐 ,10YR8/3 浅黄橙 断 :10YR8/3 浅黄橙	密	○	○	－	○	－	－	良好 85%	
80	61	888	弥生土器 広口壺	2 区 北半	536 流路		13.6 残 4.6	内・外 :5YR5/4 にぶい赤褐 断 :5YR5/3 にぶい赤褐	密	○	－	－	○	－	－	良 70%	
80	61	889	弥生土器 広口壺	2 区 北半	536 流路		推 22.8 残 11.3	内 :10YR7/2 にぶい黄橙 外 :10YR7/3 にぶい黄橙 断 :7.5YR6/4 にぶい橙 ,10YR6/1 褐灰	密	○	－	－	－	－	－	やや不良 25%	
81	62	890	須恵器 ？	2 区 北半	包含層	3 層 下半	— 残 3.85	内・外・断 :N8/0 灰白	密	○	－	○	－	－	－	良好 100%	
81	62	891	須恵器 杯	2 区 北半	包含層	3 層 下半	— 残 3.45	内・断 :5RP5/1 紫灰 外 :5PB6/1 青灰	密	○	－	－	－	－	－	良好堅緻 13%	
81	62	892	須恵器 杯	2 区 北半	包含層	3 層 下半	— 残 1.9	内・外・断 :N6/0 灰	密	○	－	－	－	－	－	良好 5%以下	
81	62	893	須恵器 杯	2 区 北半	包含層	3 層 下半	— 残 3.3	内・外・断 :N6/0 灰	密	○	－	○	－	－	－	良好 5%以下	
81	62	894	須恵器 杯蓋	2 区 北半	包含層	3 層 下半	13.5 残 4.7	内・外 :N6/0 灰 断 :7.5YR4/1 褐灰	密	○	－	－	－	－	－	良好堅緻 95%	断面 小豆色
81		895	須恵器 杯蓋	2 区 北半	包含層	3 層 下半	推 12.1 残 4.35	内・断 :N7/ 灰白 外 :N6/ 灰	密	○	－	○	－	－	－	良好 50%	
81		896	土師器 杯身	2 区 北半	包含層	3 層 下半	推 10.4 残 5.0	内・断 :N8/ 灰白 外 :N8/ 灰白 ,N6/ 灰	密	○	ー	○	－	－	－	良好 20%	
81		897	須恵器 杯蓋	2 区 北半	包含層	3 層 下半	推 10.6 残 4.5	内・外・断 :N8/ 灰白	密	○	－	－	－	－	－	良好 30%	
81		898	須恵器 甕・壺	2 区 北半	包含層	3 層 下半	推 12.0 残 4.9	内 :N7/ 灰白 ,N5/ 灰 外 :N4/ 灰 断 :N3/ 暗灰 ,N7/ 灰白 ,N6/ 灰	密	○	－	－	－	－	－	良好 30%	
81		899	須恵器 把手付椀	2 区 北半	包含層	3 層 下半	推 7.0 残 5.25	内 :N6/ 灰 外 :N7/ 灰白 ,N6/ 灰 断 :N7/ 灰	密	○	－	－	－	－	－	良好 50%	

出土土器観察表

挿図番号	写真図版No.	遺物番号	器種	地区	遺構名	層位	口径 器高 (cm)	色調	胎土	白色砂粒	灰色砂粒	黒色砂粒	クサリ礫	チャート	その他	焼成 口縁部(底部)等の残存率	備考
81		900	須恵器 把手付椀	2区 北半	包含層	3層 下半	推 7.0 残 4.5	内 :2.5Y7/2 灰黄 ,N5/ 灰 外 :5Y8/2 灰白 ,N7/ 灰白 断 :N6/ 灰	密	○	−	○	−	−	−	やや不良 100%	
81	62	901	須恵器 高杯	2区 北半	包含層	3層 下半	— 残 5.9	内 :7.5Y8/1 灰白 ,7.5Y6/1 灰 外・断 :N7/0 灰白	密	○	−	○	−	−	−	やや良 70%	
81		902	土師器 すり鉢	2区 北半	包含層	3層 下半	— 残 3.8	内 :N6/ 灰 外 :N6/ 灰 ,N7/ 灰白 断 :N7/ 灰白	密	○	−	○	−	−	−	良好 25%	
81	62	903	須恵器 鉢	2区 北半	包含層	3層 下半	推 12.0 残 9.1	内・外 :5PB6/1 青灰 断 :5R6/1 赤灰	密	○	−	−	−	−	−	良好堅緻 15%	断面 小豆色
81		904	須恵器 器台	2区 北半	包含層	3層 下半	— 残 7.6	内 :N6/ 灰 外 :N7/ 灰 ,N4/ 灰 断 :N7/ 灰白	密	○	−	○	−	−	−	良好 5%以下	
81		905	土師器 高杯	2区 北半	包含層	3層 下半	— 残 3.0	内 :7.5YR7/4 にぶい橙 外 :10YR8/2 灰白 断 :10YR7/3 にぶい橙 ,5Y5/1 灰	密	○	−	−	○	○	−	良 5%以下	
81		906	須恵器 甑	2区 北半	包含層	3層 下半	— —	内 :2.5Y8/3 淡黄 ,2.5Y7/4 浅黄 外 :5Y6/1 灰 断 :2.5Y8/3 浅黄	密	○	−	−	−	○	−	良好 5%以下	瓦質 , 大径チャート少量含む
81		907	土師器 甑・鍋	2区 北半	包含層	3層 下半	— —	内 :10YR6/3 にぶい黄橙 ,7.5YR5/4 にぶい褐 外 :5YR6/6 橙 断 :10YR6/3 にぶい黄橙	粗	○	−	−	○	○	−	良好 90%	
82	63	908	土師器 二重口縁壺	2区 北半	包含層	3層 下半	推 22.2 残 3.2	内 :2.5Y5/3 黄褐 ,5Y4/1 灰 ,2.5Y8/2 灰白 外 :2.5Y8/2 灰白 断 :5Y4/1 灰 ,2.5Y8/2 灰白	密	○	−	−	−	−	−	良 15%	
82		909	土師器 直口壺	2区 北半	包含層	3層 下半	推 15.6 残 7.9	内 :2.5Y7/2 灰黄 外 :10YR6/1 褐灰 ,10YR7/2 にぶい黄橙 断 :2.5Y8/2 灰黄 ,7.5YR7/4 にぶい橙	やや密	○	○	−	○	−	−	良 30%	
82		910	土師器 細頸壺	2区 北半	包含層	3層 下半	10.0 残 7.7	内・外 :5YR6/6 橙 ,7.5YR7/6 橙 断 :10YR6/1 灰 ,10YR7/4 にぶい黄橙	密	○	−	−	○	−	−	良 100%	
82	63	911	土師器 壺	2区 北半	包含層	3層 下半	— 残 7.4	内 :5YR6/6 橙 外 :2.5Y8/2 灰白 ,5YR6/6 橙 断 :5YR5/6 明赤褐	やや密	○	○	−	○	−	−	良 40%	
82	63	912	土師器 広口壺	2区 北半	包含層	3層 下半	推 15.8 24.7	内 :10YR4/2 灰黄褐 ,7.5YR6/6 橙 ,5YR6/6 橙 外 :2.5Y7/3 浅黄 ,5YR6/6 橙 断 :7.5YR5/4 にぶい褐	やや密	○	○	−	−	○	−	やや良 65%	
82		913	土師器 甕	2区 北半	包含層	3層 下半	推 16.2 残 4.1	内・外・断 :5Y5/1 灰	粗	○	○	−	−	−	−	不良 15%	
82		914	土師器 甕	2区 北半	包含層	3層 下半	推 18.7 残 4.9	内・外 :7.5YR7/6 橙 断 :2.5Y7/2 灰黄	やや粗	○	○	−	○	−	−	良 10%	
82	63	915	土師器 甕	2区 北半	包含層	3層 下半	— 残 2.7	内・断 :5Y4/1 灰 外 :2.5Y7/2 灰黄	やや密	○	○	−	○	−	−	良 100%	
82		916	土師器 甕	2区 北半	包含層	3層 下半	— 残 4.4	内 :5YR7/6 橙 外 :10YR7/3 にぶい黄橙 ,10YR8/3 浅黄橙 断 :10YR5/3 にぶい黄褐	密	○	−	−	○	○	−	良 100%	
82		917	土師器 甕	2区 北半	包含層	3層 下半	推 10.6 残 10.0	内 :5YR7/6 橙 外 :10YR8/3 浅黄橙 断 :10YR7/3 にぶい黄橙	やや密	○	○	−	−	○	−	良 75%	
82		918	土師器 鉢	2区 北半	包含層	3層 下半	— 残 3.9	内・断 :7.5YR7/4 にぶい橙 外 :10YR8/3 浅黄橙	やや密	○	○	−	○	−	−	良 95%	
82		919	土師器 鉢？	2区 北半	包含層	3層 下半	— 残 4.7	内 :5Y8/1 灰白 外 :2.5Y8/2 灰白 断 :2.5Y8/2 灰白 ,2.5Y6/1 黄灰	やや密	○	○	−	−	○	−	良 100%	
82	63	920	土師器 手焙	2区 北半	包含層	3層 下半	— 残 4.8	内 :7.5YR7/3 にぶい橙 ,7.5YR5/4 にぶい橙 外 :10YR7/4 にぶい黄橙 ,7.5YR6/4 にぶい橙 断 :10YR7/3 にぶい黄橙	密	○	○	−	○	−	−	やや良 12%	
82	63	921	弥生土器 鉢	2区 北半	包含層	3層 下半	— 残 8.25	内 :5YR6/8 橙 ,5Y5/2 灰オリーブ 外 :7.5YR5/4 にぶい褐 ,5YR5/6 明赤褐 断 :5YR5/6 明赤褐	やや粗	○	○	−	−	−	−	やや良 50%	
82	64	922	土師器 鉢	2区 北半	包含層	3層 下半	11.8 7.9	内 :5YR6/6 橙 外 :7.5YR にぶい橙 断 :5YR6/6 橙	粗	○	○	−	○	−	−	やや不良 100%	
82	64	923	弥生 / 土師 鉢	2区 北半	包含層	3層 下半	推 18.7 9.5	内 :5R7/4 にぶい橙 外 :7.5YR8/3 浅黄橙 ,10YR8/1 灰白 断 :N5/0 灰	粗	○	○	−	○	−	−	やや良 80%	
82		924	土師器 有段口縁鉢	2区 北半	包含層	3層 下半	推 17.0 残 2.8	内 :5YR7/6 橙 ,10YR7/2 にぶい黄橙 外 :5YR6/6 橙 ,10YR7/3 にぶい黄橙断 :7.5YR5/4 にぶい褐	密	○	−	−	○	−	−	良 12%	
82	63	925	土師器 小型丸底土器	2区 北半	包含層	3層 下半	推 11.2 6.35	内 :10YR8/2 灰白 ,2.5Y3/1 黒褐 外 :10YR8/2 灰白 断 :10YR6/4 にぶい黄褐	密	○	−	−	−	−	−	良 25%	

挿図番号	写真図版No.	遺物番号	器種	地区	遺構名	層位	口径 器高 (cm)	色調	胎土	白色砂粒	灰色砂粒	黒色砂粒	クサリ礫	チャート	その他	焼成 口縁部（底部）等の残存率	備考
82		926	弥生土器 高杯	2区 北半	包含層	3層 下半	— 残4.5	内・外・断:2.5Y7/2灰黄,N2/黒	やや密	○	○	−	−	○	−	良 5%以下	
82		927	土師器 高杯	2区 北半	包含層	3層 下半	— 残6.55	内:10YR8/3浅黄橙 外:7.5YR7/4にぶい橙 断:5Y5/1灰,7.5Y4/1灰	やや密	○	○	−	−	○	−	良 40%	
82		928	土師器 高杯	2区 北半	包含層	3層 下半	— 残4.55	内:5YR6/6橙 外:2.5YR6/6橙,10YR7/2にぶい黄橙 断:10YR5/4にぶい黄褐	密	○	○	−	○	−	−	良 60%	
82		929	土師器 高杯	2区 北半	包含層	3層 下半	— 残6.0	内・外:2.5Y8/2灰白,7.5YR7/6橙 断:2.5Y6/2灰黄,7.5YR6/4にぶい橙	やや粗	○	○	−	−	○	−	良 95%	
82	63	930	土師器 高杯	2区 北半	包含層	3層 下半	推10.3 9.8	内・外:5YR7/6橙,7.5YR7/6橙 断:7.5YR7/6橙	粗	○	○	−	−	−	−	やや良 70%	
82		931	土師器 椀形高杯	2区 北半	包含層	3層 下半	推12.2 残4.4	内:5YR7/6橙 外:7.5YR7/6橙,10YR8/2灰白 断:10YR7/4にぶい黄橙	密	○	−	−	○	−	−	良 70%	
82	63	932	土師器 椀形高杯	2区 北半	包含層	3層 下半	推14.45 11.9	内:2.5YR6/6橙,2.5Y7/3浅黄 外:10YR8/2灰白,10YR6/2灰黄褐,N4/0灰 断:2.5Y7/3浅黄	粗	○	○	○	○	○	−	やや良 70%	
82		933	土師器 製塩土器	2区 北半	包含層	3層 下半	— —	内:7.5YR7/2明褐灰,2.5YR6/6橙 外:2.5Y6/4にぶい橙 断:2.5YR7/6橙,7.5YR6/2灰褐	やや粗	○	−	−	−	−	−	良 25%	
82		934	土師器 製塩土器	2区 北半	包含層	3層 下半	— 残2.6	内・外:2.5YR7/4淡赤橙 断:10YR7/3にぶい黄橙	やや粗	○	○	−	○	−	−	良 100%	
82		935	土師器 製塩土器	2区 北半	包含層	3層 下半	— 残3.6	内:5YR7/4にぶい橙 外:5YR7/6橙 断:5YR7/6橙,10YR7/2にぶい黄橙	やや粗	○	○	−	−	−	−	良 95%	
82		936	土師器 製塩土器	2区 北半	包含層	3層 下半	— 残3.3	内・外:7.5YR7/6橙 断:7.5YR7/6橙,2.5Y6/3にぶい黄	密	○	−	−	−	○	−	良 85%	
82		937	土師器 壺	3区	包含層	3層 下半	17.1 残7.2	内:2.5Y7/2灰黄,N6/0灰 外:10YR8/3浅黄橙 断:10YR7/4にぶい黄橙	密	○	○	−	○	−	−	良 60%	
82		938	土師器 甕	3区	包含層	3層 下半	推17.0 残7.75	内:10YR7/4にぶい黄橙 外:5YR6/6橙 断:7.5YR7/6橙	やや粗	○	○	−	−	○	−	良 15%	
82	63	939	弥生土器 器台	3区	包含層	3層 下半	— 残11.9	内・外:2.5Y6/3にぶい黄,7.5YR6/6橙 断:2.5Y4/1黄灰	密	○	−	−	○	−	−	良 60%	
82		940	弥生／土師 高杯	3区	包含層	3層 下半	— 残7.5	内:5YR6/6橙,2.5Y6/4にぶい黄 外:2.5Y8/3淡黄 断:2.5Y5/3黄褐	やや密	○	○	−	−	○	−	良 30%	
82		941	弥生／土師 高杯	3区	包含層	3層 下半	— 残5.65	内・外:5YR6/6橙 断:7.5YR6/6橙	やや密	○	○	−	−	○	−	良 30%	
82		942	弥生土器 高杯	3区	包含層	3層 下半	推29.0 残5.6	内:10YR6/3にぶい黄橙,7.5YR7/6橙 外:10YR6/3にぶい黄橙,7.5YR6/6橙 断:10YR5/4にぶい黄褐	やや密	○	○	−	−	−	−	良 10%	
119		943	須恵器 筒形土製品	第1次調査	1282		推13.8 残6.9	内:5Y8/1灰白,10YR6/4にぶい黄橙 外:2.5Y8/1灰白,7.5YR8/4浅黄橙 断:7.5YR8/4浅黄橙	やや密	○	−	−	−	○	−	やや良 18%	瓦質 細粒チャート含む
119		944	須恵器 筒形土製品	第1次調査	1694 河川		— 残8.3	内・断:N7/灰白 外:N6/灰	密	○	−	−	−	○	−	不良 5%以下	瓦質 細粒チャート含む
119		945	須恵器 甑	第1次調査	1500 河川		— 残5.5	内:5Y8/1灰白 外:5Y7/1灰白 断:5Y8/1灰白,5Y7/1灰白	密	○	−	○	−	○	−	不良 5%以下	瓦質 細粒チャート含む
119		946	須恵器 甕	第1次調査	1500 河川		— 残3.45	内・外:N6/灰 断:N7/灰白	密	○	−	−	−	−	−	良好 5%以下	
119		947	須恵器 甕	第1次調査	1500 河川		— 残5.6	内:2.5Y8/1灰白,2.5Y7/4浅黄 外・断:2.5Y8/1灰白	密	○	−	−	−	○	−	不良 5%以下	瓦質 細粒チャート含む
119		948	須恵器 甕	第1次調査	1500 河川	東側 側溝	— 残長10.5	内・外・断:N7/灰白	密	○	−	○	−	−	−	良好 5%以下	
119		949	須恵器 鍋	第1次調査	1694 河川		— —	内:N6/灰 外・断:N7/灰白	密	○	−	−	−	○	−	やや不良 5%以下	瓦質 わずかに灰色チャート含む
	48	950	須恵器 杯蓋	2区 北半	145竪穴建物		— —		密	−	−	−	−	−	−	不良 5%以下	二次焼成をうける
	50	951	焼土塊	2区 北半	131ピット（538掘立柱建物）		— —		密	○	○	−	○	−	−	−	被熱が認められる
	57	952	須恵器 壺・甕	1区 北半	016 流路	上層	— —		密	○	−	−	−	−	−	不良 5%以下	土師質

表 20　寺田遺跡出土土器（古墳時代中期）集計表

遺構名	計		須恵器		土師器		韓式系		個体数	
	重量(g)	破片数	重量(g)	破片数	重量(g)	破片数	重量(g)	破片数	須恵器	土師器
047 竪穴建物	1062.4	205	308.7	36	740.8	168	12.9	1	5	4
145 竪穴建物	1545.5	168	1014.9	46	530.6	122	0	0	13	1
147 竪穴建物	88.7	6	88.7	6	0	0	0	0	3	0
148 竪穴建物	28.9	10	8.8	5	20.1	5	0	0	1	0
177 竪穴建物	2211.5	163	1492.7	94	718.8	69	0	0	30	2
194 竪穴建物	93.5	15	13.7	2	79.8	13	0	0	2	0
418 竪穴建物	154.9	6	0	0	154.9	6	0	0	0	1
018 溝	6706.7	269	4595	63	2111.7	206	0	0	28	10
090 溝	232.5	23	176.6	12	55.9	11	0	0	3	0
100 溝	12.1	3	0	0	12.1	3	0	0	0	0
125 溝	4.7	2	0	0	4.7	2	0	0	0	0
171 溝	2453.4	149	1376.5	38	1076.9	111	0	0	12	5
179 溝	3619.6	295	1774.4	53	1845.2	242	0	0	27	20
180 溝	379.9	63	44.6	10	335.3	53	0	0	0	1
192 溝	91.3	14	15.4	1	75.9	13	0	0	0	2
193 溝	335.9	31	93.6	1	242.3	30	0	0	1	2
300 溝	115.6	13	62.1	6	53.5	7	0	0	2	0
348 溝	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
460 溝	3.1	2	0	0	3.1	2	0	0	0	0
467 溝	7.9	3	7.9	3	0	0	0	0	0	0
468-C 溝	8.2	4	0	0	8.2	4	0	0	0	0
470-①溝	128.1	16	44.7	1	83.4	15	0	0	1	1
471 溝	41.2	7	0	0	41.2	7	0	0	0	0
149 溝	342.5	15	301.5	6	41	9	0	0	5	1
482 溝	394.9	3	0	0	394.9	3	0	0	0	1
487 溝	7.5	1	0	0	7.5	1	0	0	0	0
181 井戸	1627.7	82	971.5	17	656.2	65	0	0	9	2
410 井戸	6768.6	430	275.3	5	5833.2	405	660.1	20	3	19
039 土坑	267.5	40	180.6	25	86.9	15	0	0	2	0
042 土坑	54.5	11	0	0	54.5	11	0	0	0	1
054 土坑	161	9	68.1	2	92.9	7	0	0	1	2
068 土坑	15.9	1	15.9	1	0	0	0	0	0	0
098 土坑	20.7	5	0	0	20.7	5	0	0	0	0
101 土坑	2.1	1	0	0	2.1	1	0	0	0	0
138 土坑	48.4	2	0	0	48.4	2	0	0	0	0
140 土坑	106.1	4	92	2	14.1	2	0	0	0	0
142 土坑	11.9	6	0	0	11.9	6	0	0	0	0
171 土坑	130.2	8	0	0	130.2	8	0	0	0	0
187 土坑	4.5	1	0	0	4.5	1	0	0	0	0
295 土坑	893.6	76	514.6	16	379	60	0	0	2	0
299 土坑	30.5	2	30.5	2	0	0	0	0	0	0
305 土坑	6.9	2	0	0	6.9	2	0	0	0	0
339 土坑	24.8	7	0	0	24.8	7	0	0	0	0
371 土坑	65.8	11	35.6	6	30.2	5	0	0	0	0
409 土坑	8.2	2	0	0	8.2	2	0	0	0	0
410 土坑	153.8	11	0	0	0	0	153.8	11	0	0
445 土坑	4.2	1	0	0	4.2	1	0	0	0	0
065 落ち込み	5.4	1	0	0	5.4	1	0	0	0	0
080 落ち込み	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
088 落ち込み	266.8	7	135.7	4	131.1	3	0	0	3	0
089 落ち込み	1470.7	59	1209.5	30	261.2	29	0	0	21	0
093 落ち込み	38.7	2	34.4	1	4.3	1	0	0	1	0
134 落ち込み	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
146 落ち込み	15982.1	862	8903.6	167	7078.5	695	0	0	100	32
349 落ち込み	1012.7	125	32.8	3	979.9	122	0	0	2	5
429 落ち込み	13.5	1	0	0	13.5	1	0	0	0	1
464 落ち込み	14	4	0	0	14	4	0	0	0	0
465 落ち込み	110.9	26	0	0	110.9	26	0	0	0	1
466 落ち込み	51.3	8	0	0	51.3	8	0	0	0	0
475 落ち込み	180.2	31	167.4	24	12.8	7	0	0	1	0
480 落ち込み	412.7	39	287.2	14	125.5	25	0	0	8	2
506 落ち込み	14.7	6	0	0	14.7	6	0	0	0	0
507 落ち込み	73.6	3	69.3	1	4.3	2	0	0	1	0
508 落ち込み	7	4	0	0	7	4	0	0	0	0
016 流路上層	69596.8	4705	28992.2	494	39776.8	4207	827.8	4	127	148
合　計	119729	8081	53436	1197	64637.9	6848	1654.6	36	414	267
百分比			45%	15%	54%	85%			61%	39%

図　　版

第２調査区北半古墳時代遺構面（北側）

第２調査区北半古墳時代遺構面（南側）

第２調査区南半古墳時代遺構面

第３調査区古墳時代遺構面

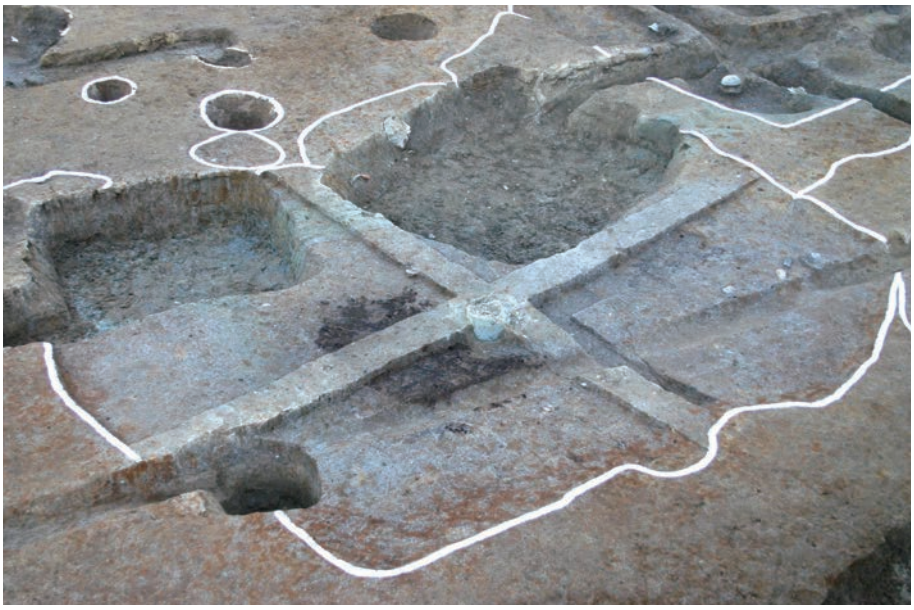
第２調査区北半弥生時代遺構面

第３調査区弥生時代遺構面（南から）

第２調査区北半 538 掘立柱建物（東から）

第３調査区 547 掘立柱建物（東から）

177 竪穴建物
床面検出状況
（南西から）



135 ピット
断面
（南から）

181 井戸底面
遺物出土状況
（南から）

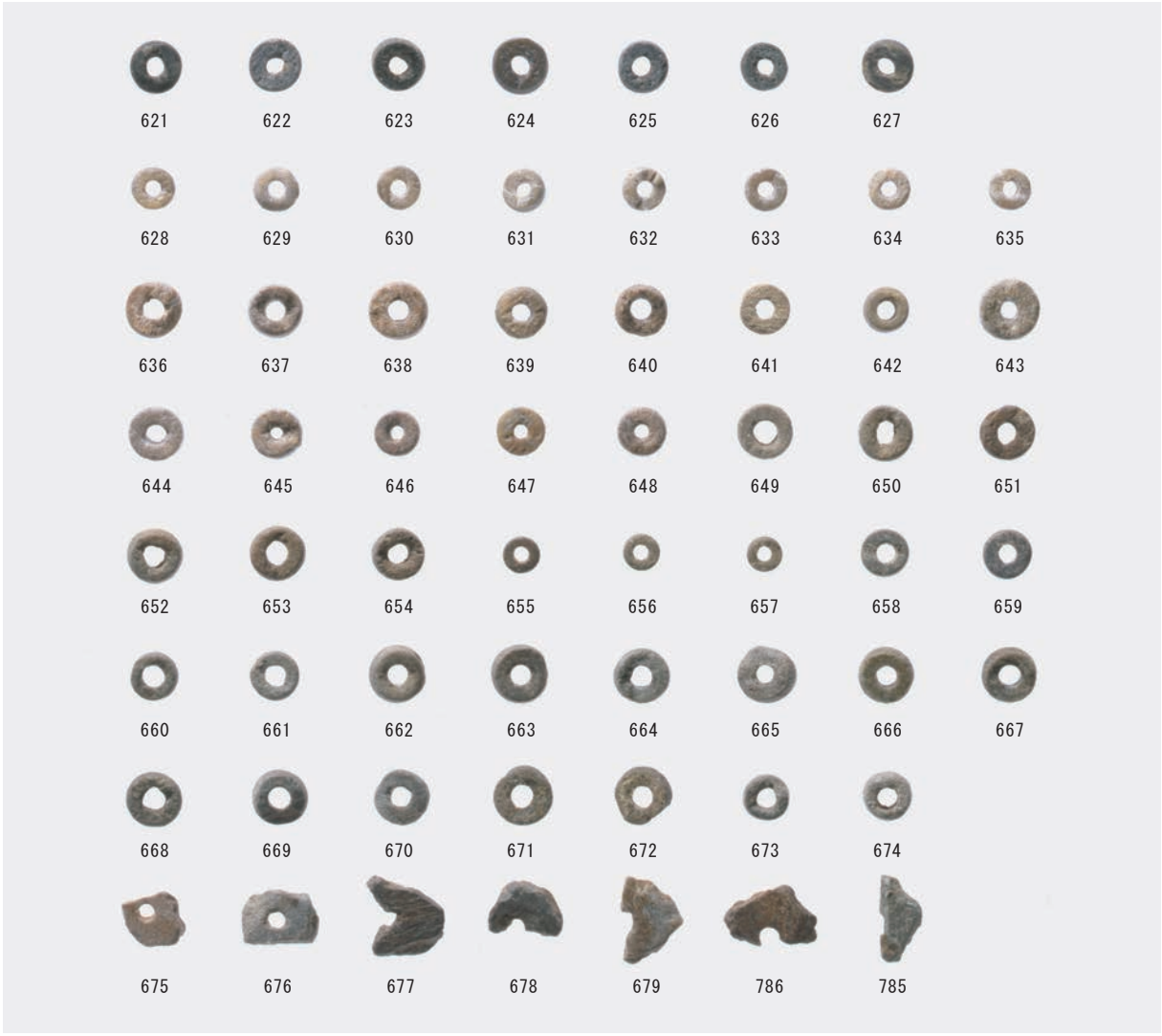
414 流路の堆積によって
形成された微高地（南西から）

414 流路断面（第 3 調査区：南から）

414 流路、534 流路
および 533 流路断面
（第 2 調査区断割り 3 ：
南東から）

414 流路および
536 流路断面
（第 2 調査区断割り 5 ：
北西から）

414 流路断面
（第 2 調査区断割り 2 ：
西から）



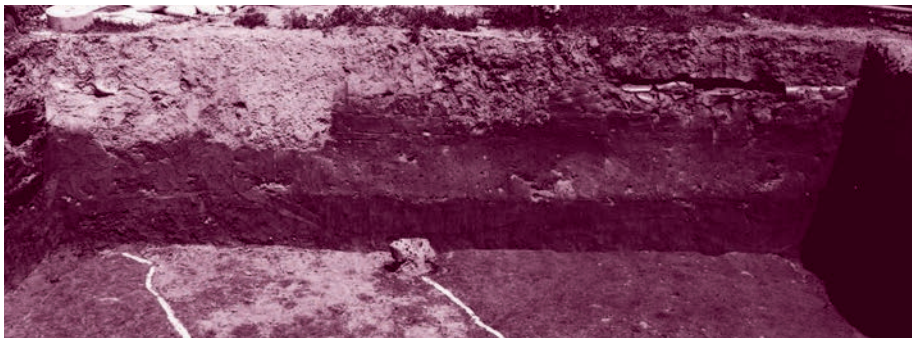
滑石製臼玉および未成品

滑石製管玉、双孔円盤、ガラス小玉および砥石

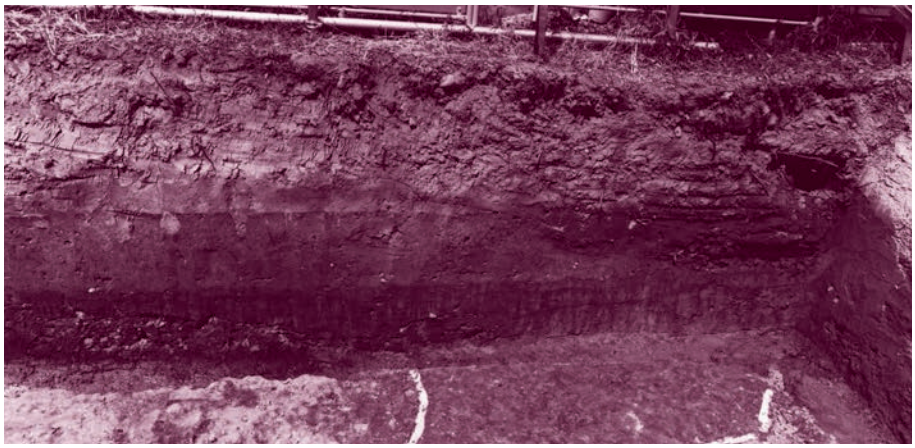
緑泥石片岩板材

図版一　調査区断面（一）

第１調査区北半
北壁断面
（南から）



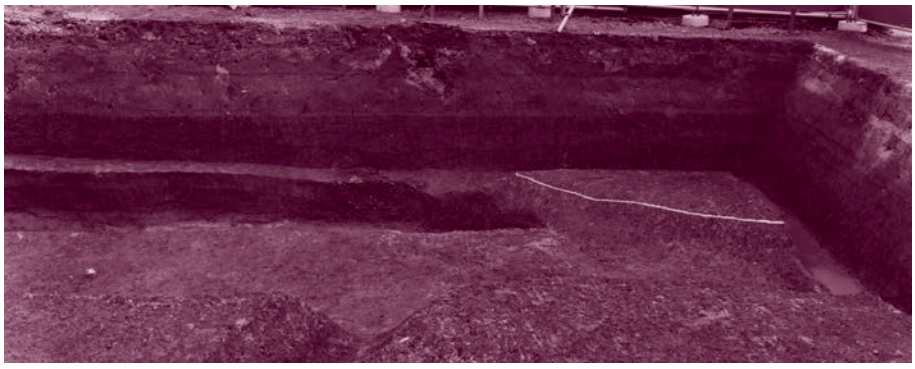
第１調査区北半
西壁断面
（東から）



第１調査区北半
西壁断面
（東から）

第１調査区南半
西壁断面
（東から）

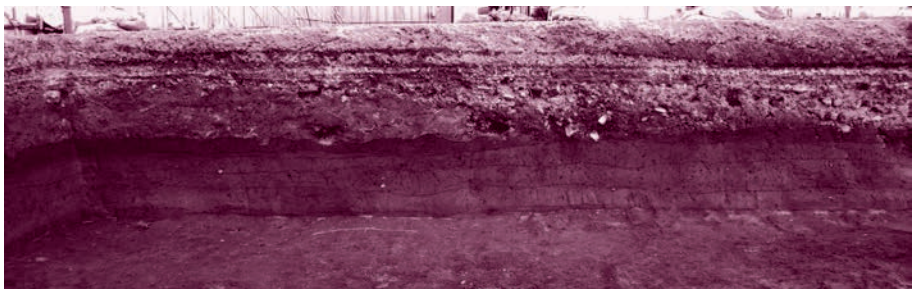
第１調査区南半
東壁断面
（西から）



図版二　調査区断面（二）

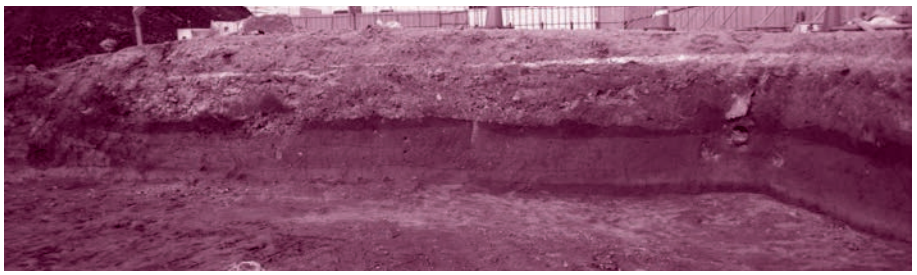
第２調査区北半
南壁断面
（北から）

第２調査区南半
西壁断面
（東から）



第２調査区南半
南壁断面
（北から）

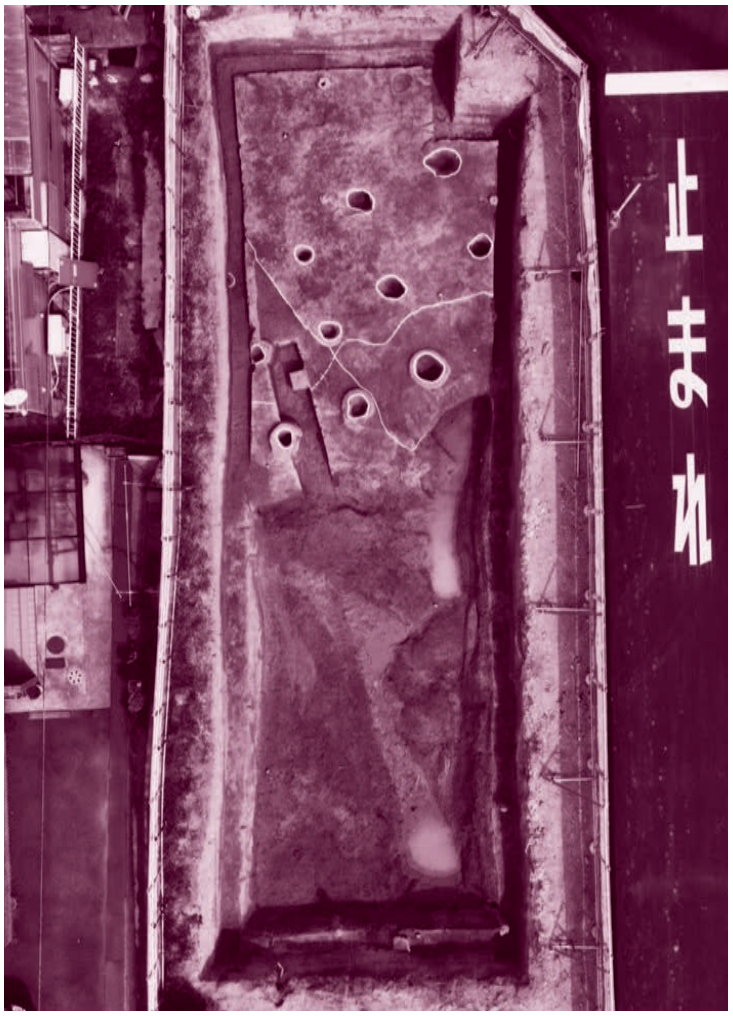
第２調査区南半
東壁断面
（西から）



第３調査区
南壁断面
（北から）

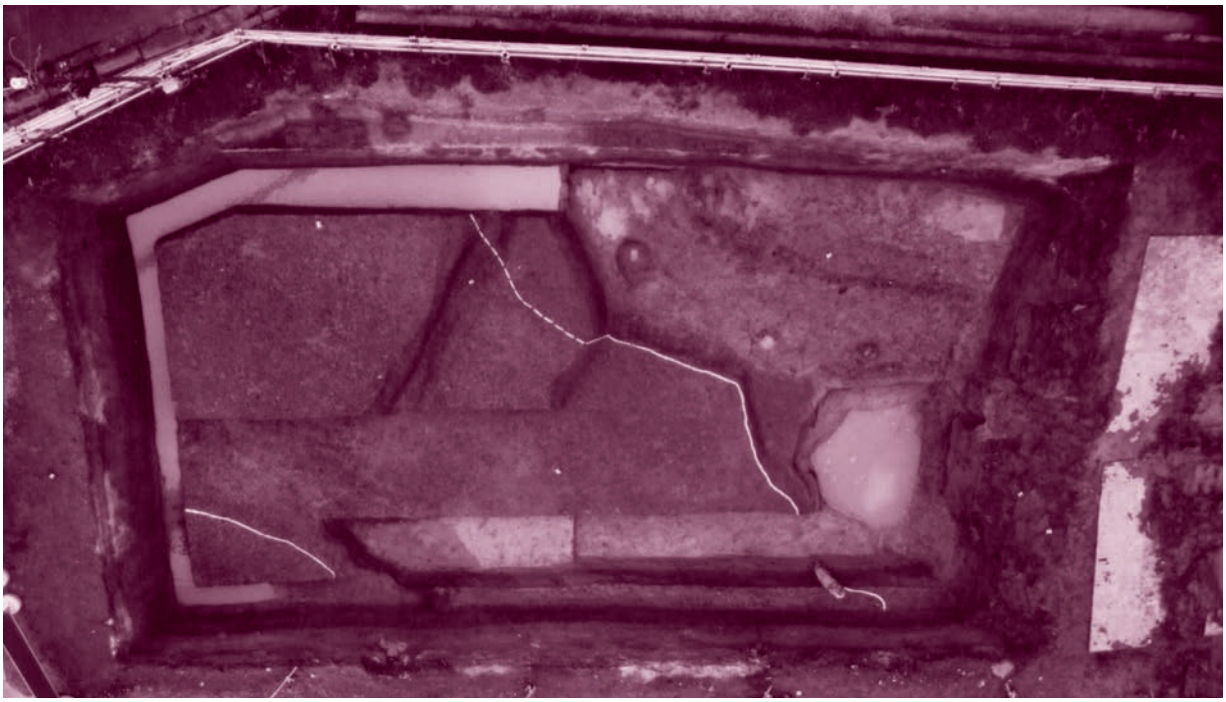
第３調査区
北壁断面
（北から）

第１調査区北半

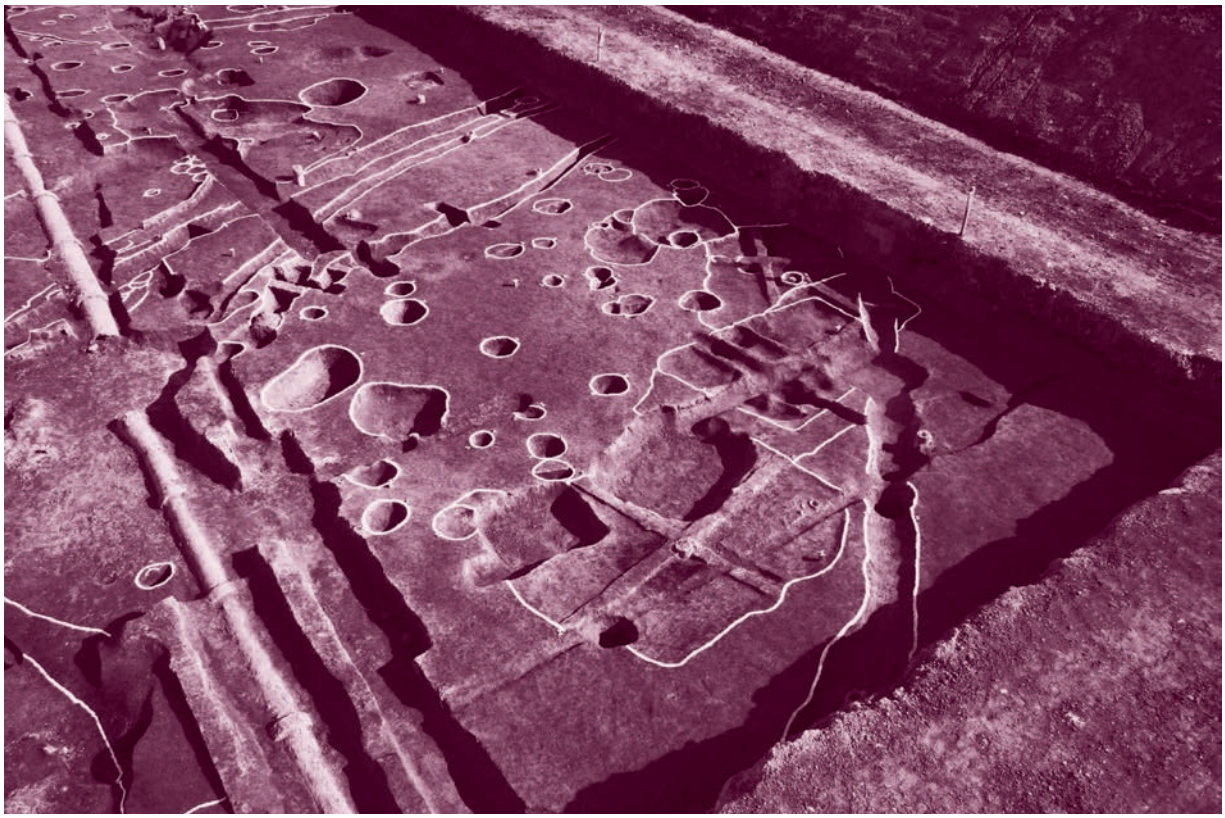


第１調査区北半（南から）

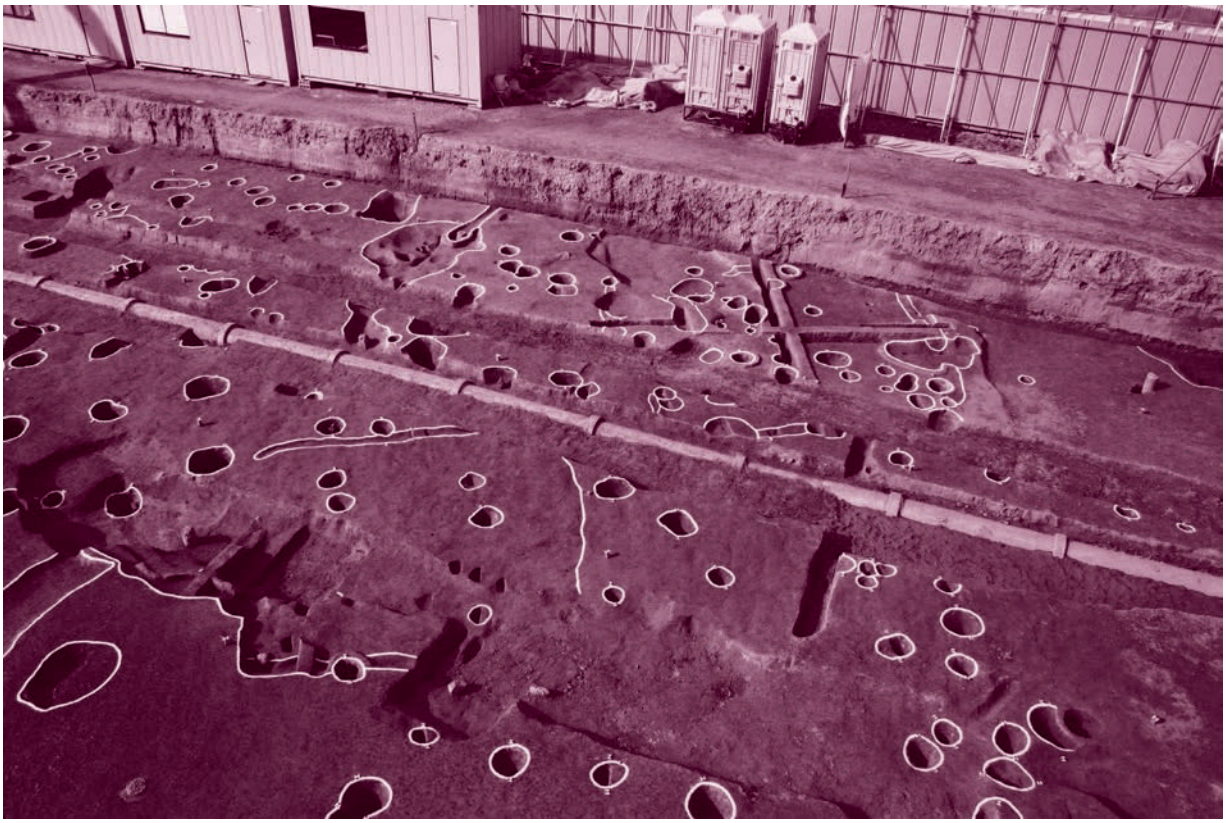
第１調査区北半（北から）



第１調査区南半

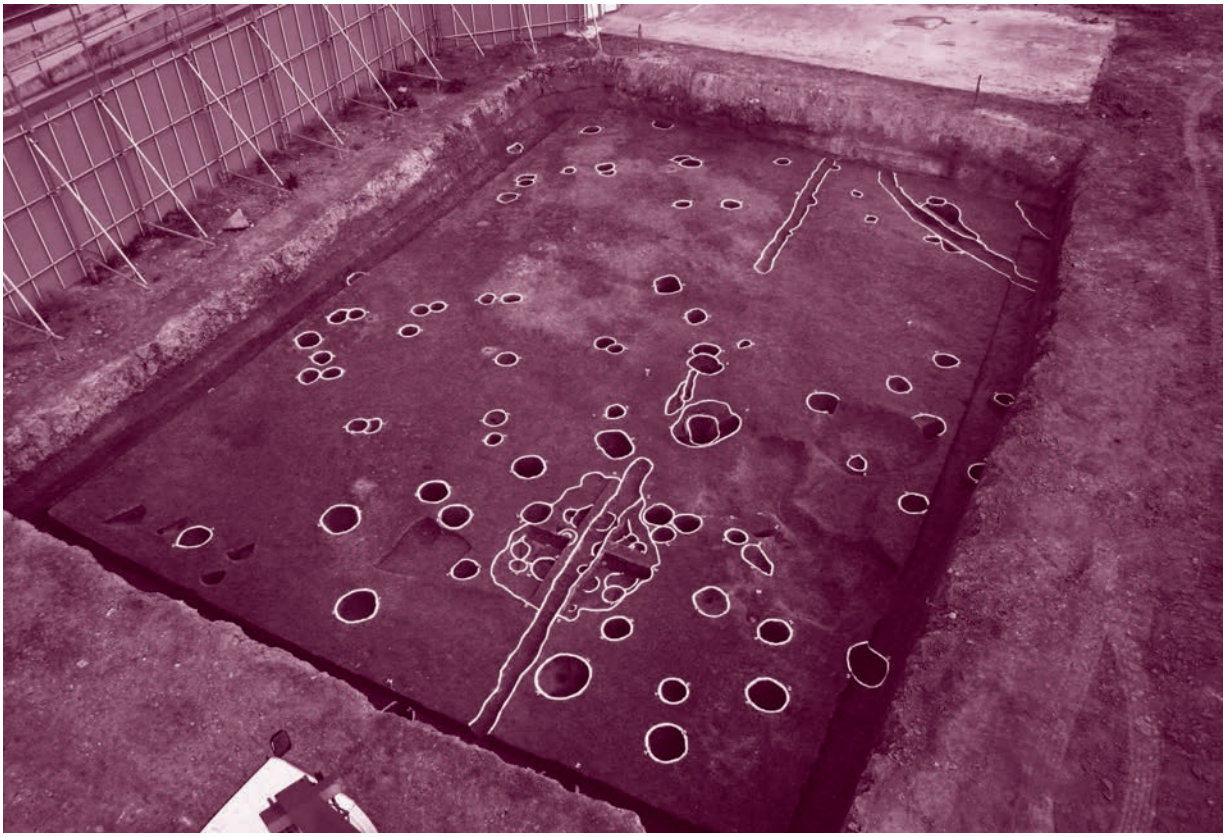


第２調査区北半（南から）

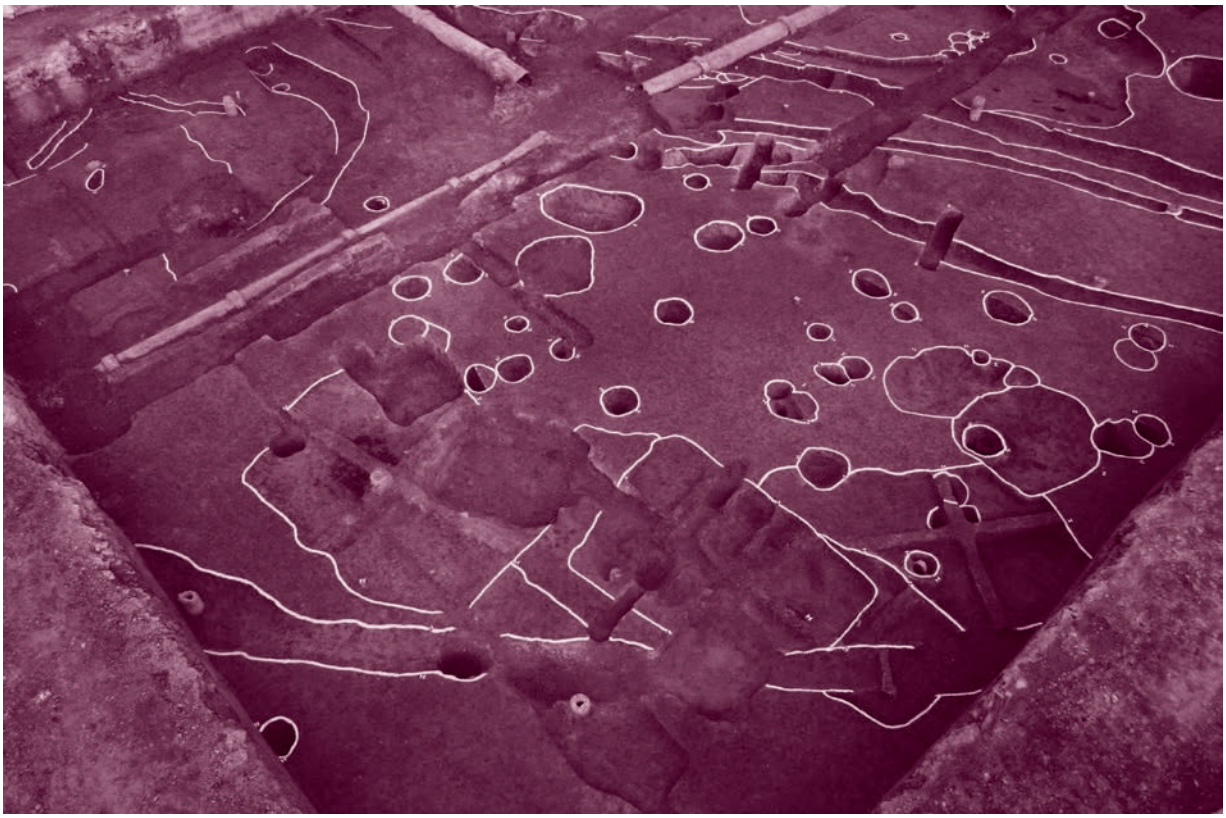


第２調査区北半（東から）

第２調査区南半（東から）



第３調査区（西から）



177・147・145 竪穴建物床面検出状況（南東から）

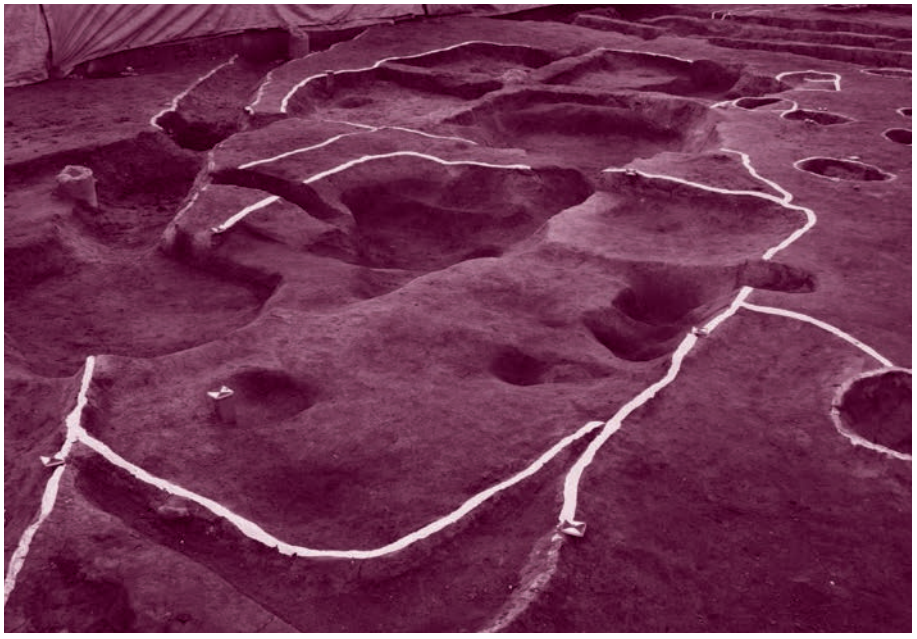
177・147・145 竪穴建物底面検出状況（東から）

図版八　古墳時代の遺構　竪穴建物（二）

145 竪穴建物
東西断面
（南から）

145 竪穴建物
遺物出土状況
（北から）

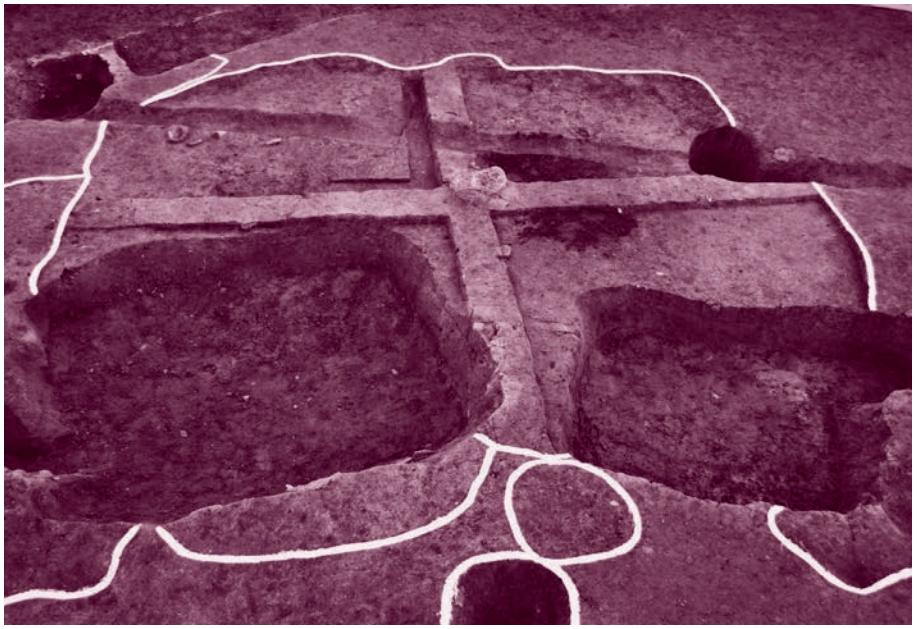
145 竪穴建物
完掘状況
（東から）



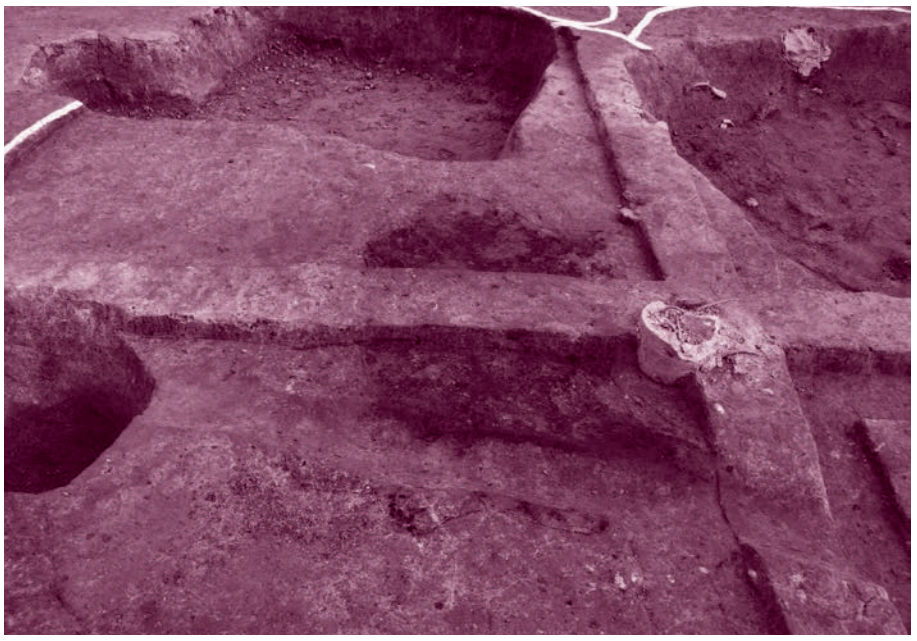
図版九　古墳時代の遺構　竪穴建物（三）

177 竪穴建物
床面検出状況
（南西から）

177 竪穴建物
断面
（北から）

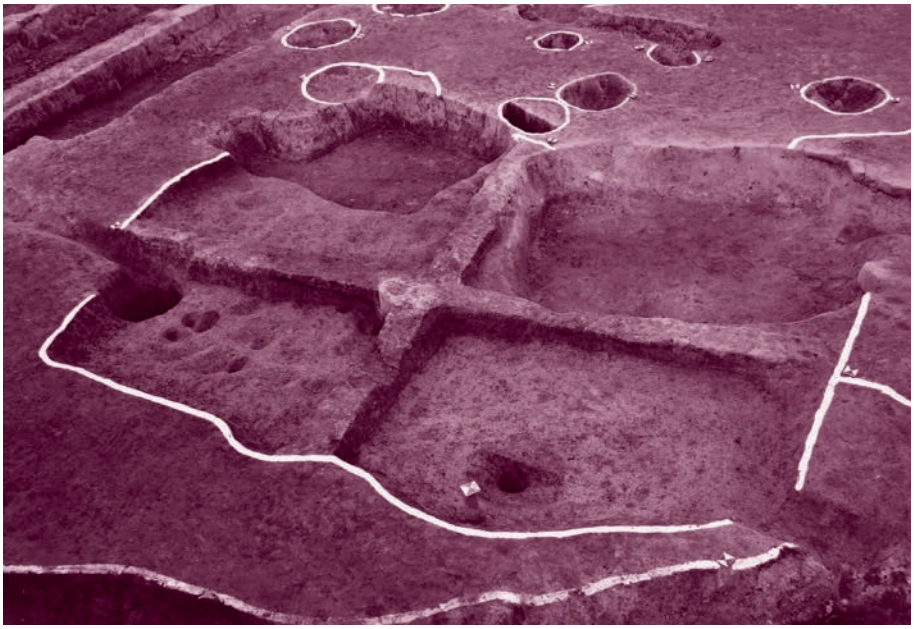


177 竪穴建物
炭検出状況
（南から）

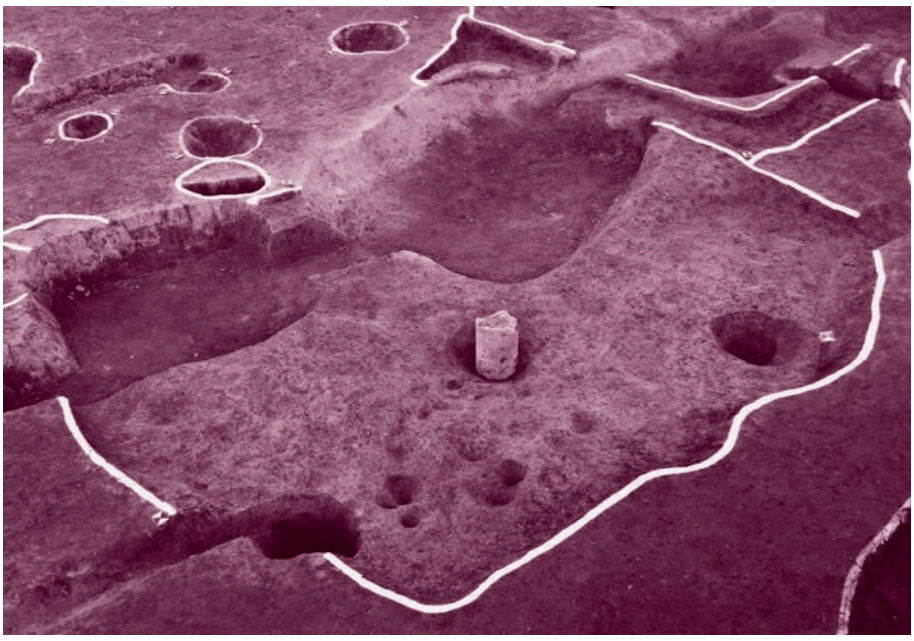


177 竪穴建物
床面土器出土状況
（北から）

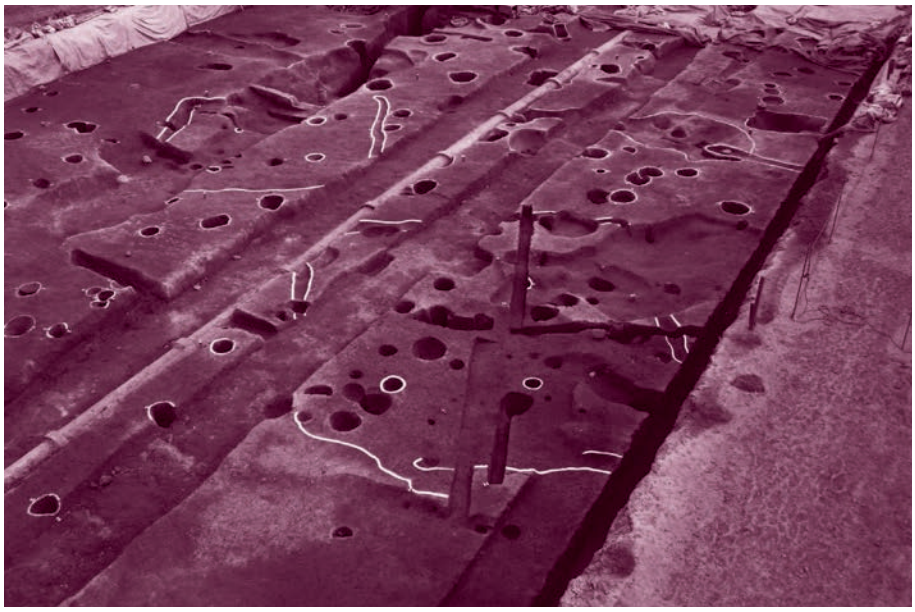
177 竪穴建物
床面除去状況
（南から）



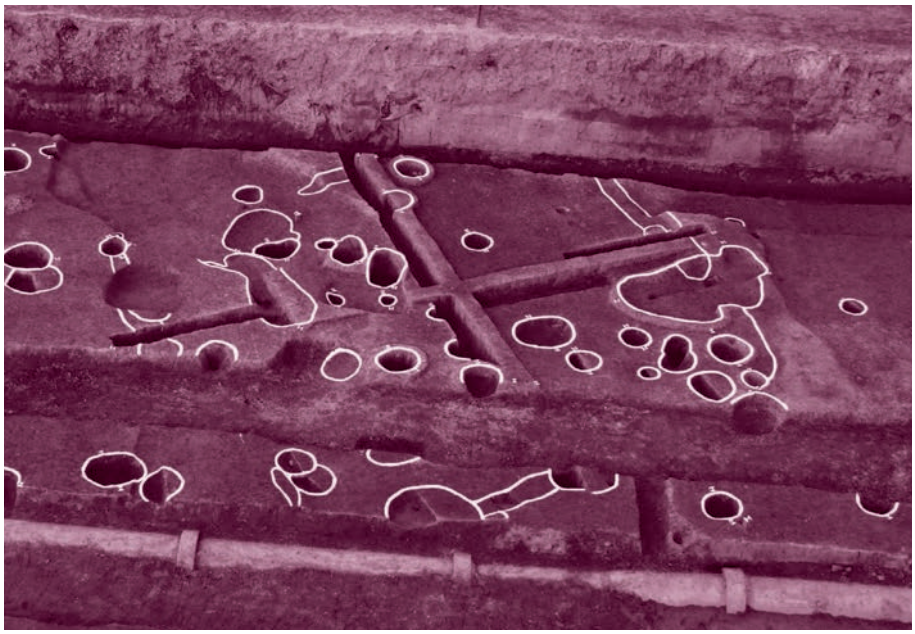
177 竪穴建物
完掘状況
（南西から）



047・418 竪穴建物
全景
（北から）



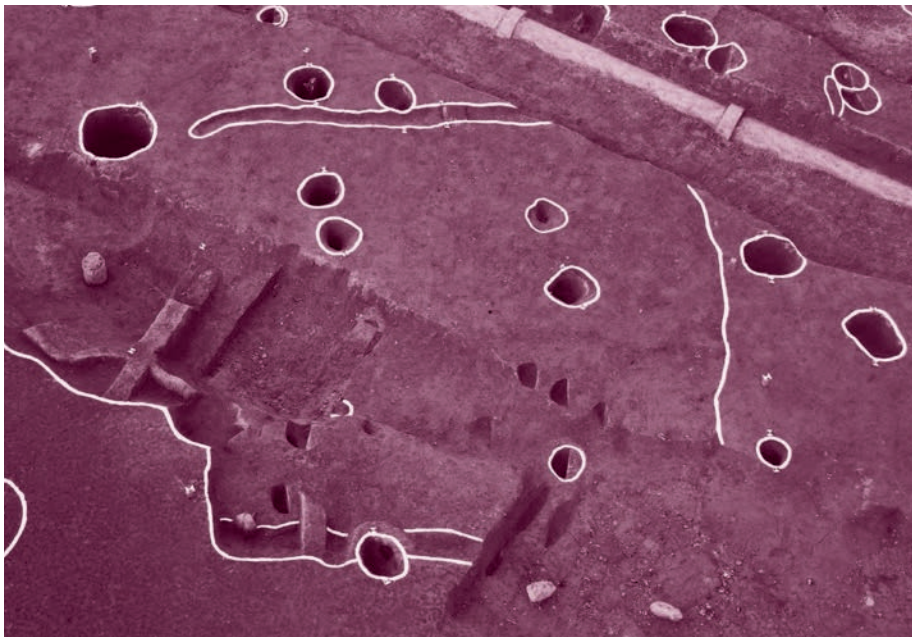
047 竪穴建物
検出状況
（東南から）



047 竪穴建物
周壁溝検出状況
（南から）

図版一二　古墳時代の遺構　竪穴建物（六）

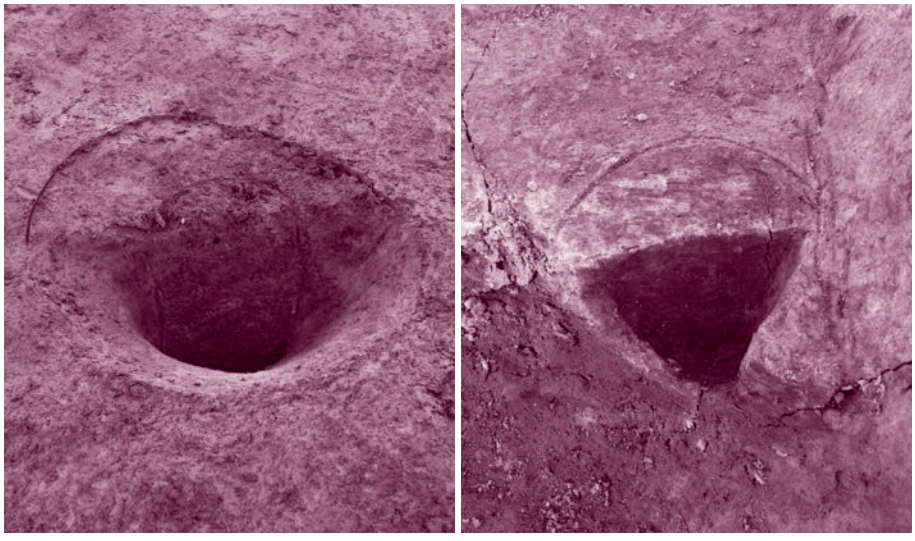
418 竪穴建物
全景



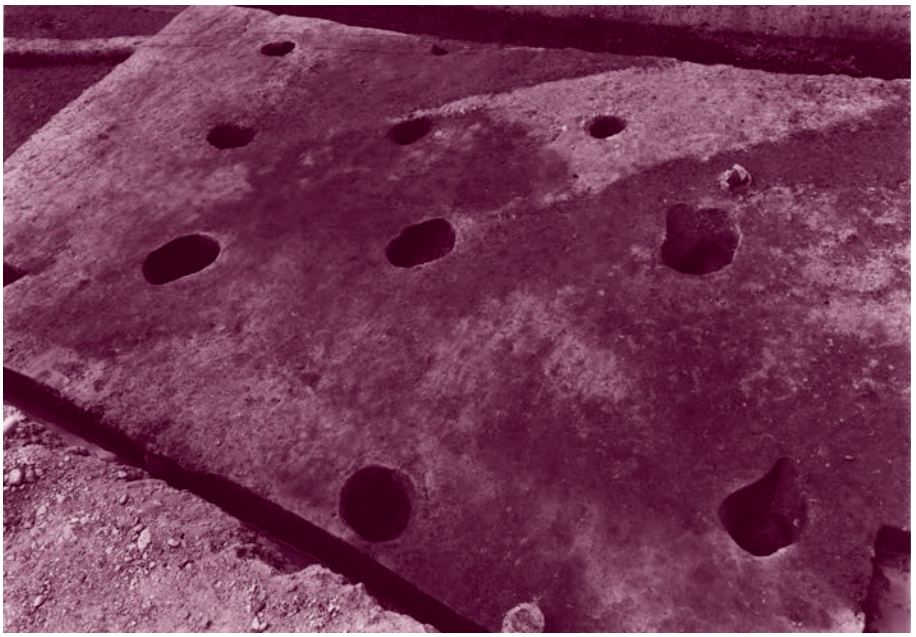
418 竪穴建物
遺物出土状況
（東から）

左：123 ピット
断面
（南から）

右：424 ピット
断面
（南から）

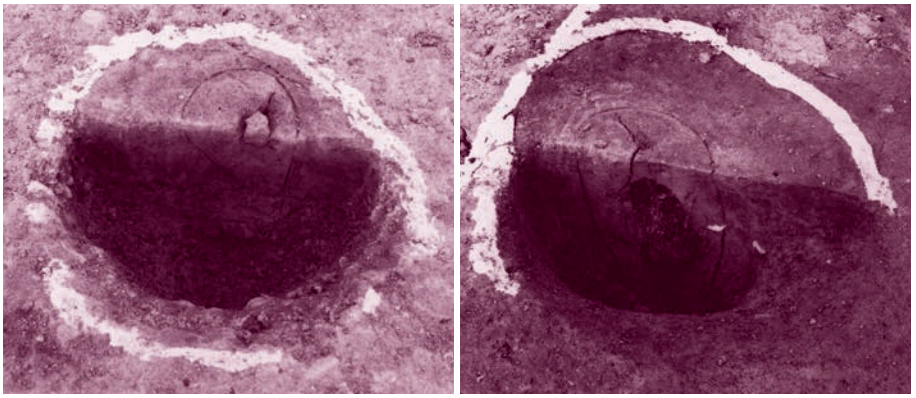


545・546 掘立柱建物
全景
（東から）



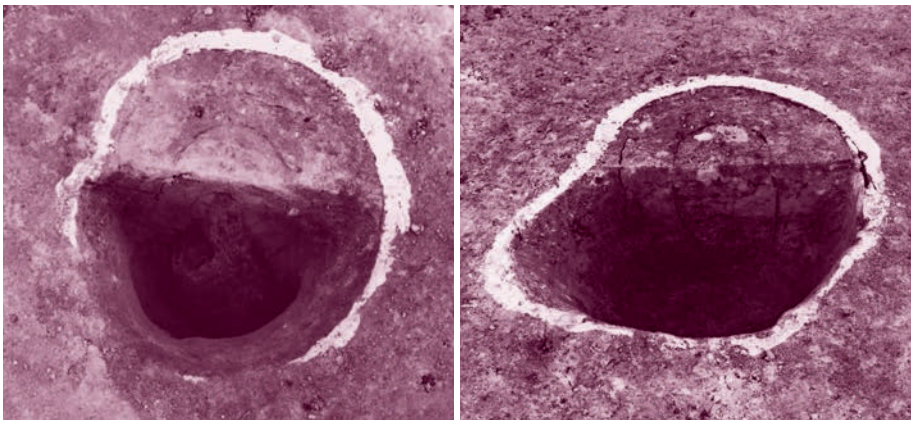
左：003 ピット
断面
（南から）

右：008 ピット
断面
（南から）



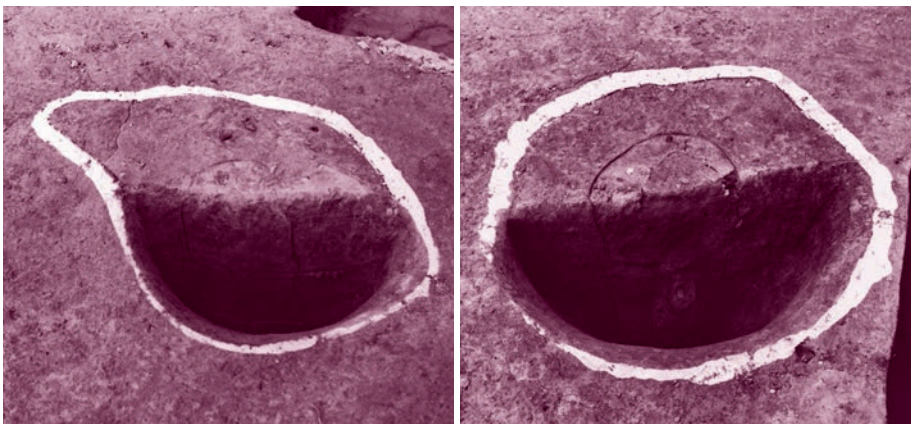
左：012 ピット
断面
（南から）

右：013 ピット
断面
（南から）



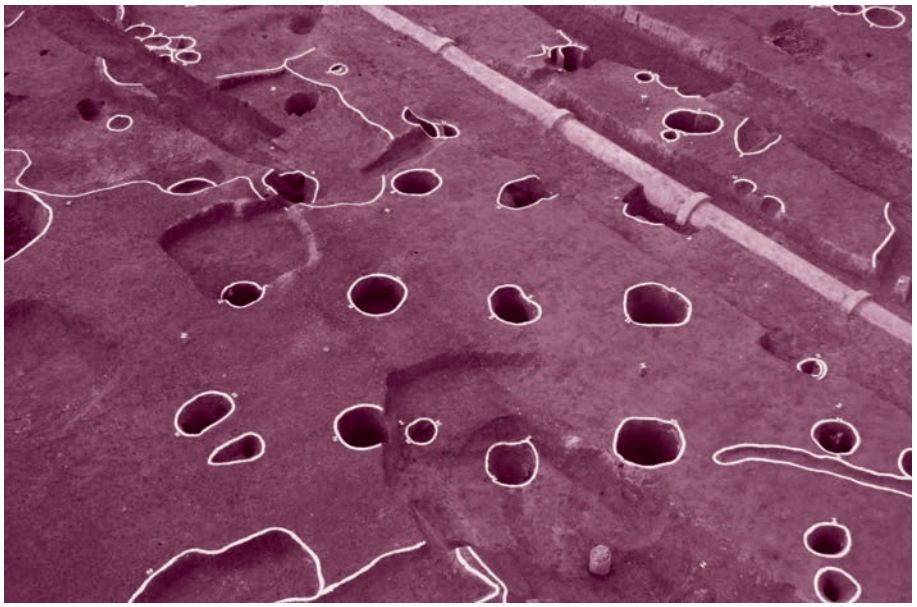
左：005 ピット
断面
（南から）

右：010 ピット
断面
（南から）



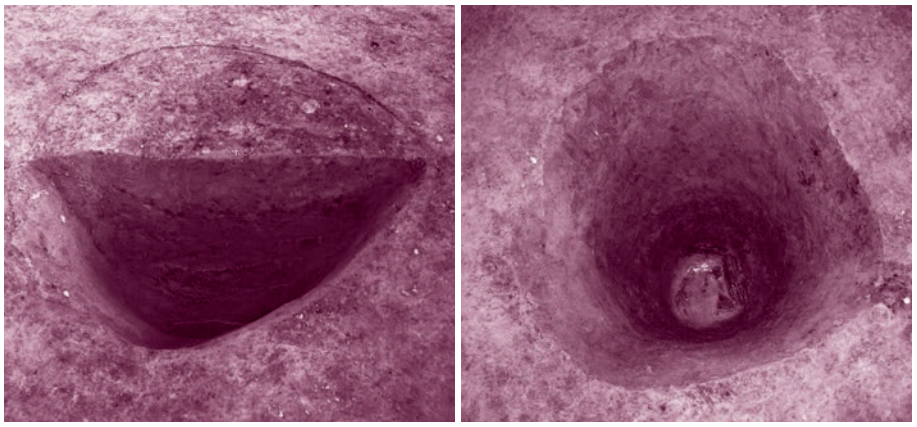
図版一四　古墳時代の遺構　掘立柱建物（二）

538 掘立柱建物
全景
（東から）



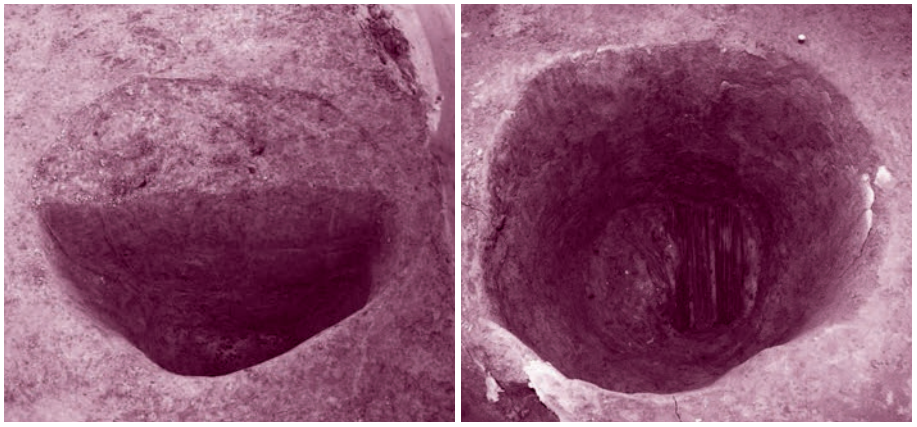
左：131 ピット
断面
（南から）

右：131 ピット
礎板検出状況
（南西から）



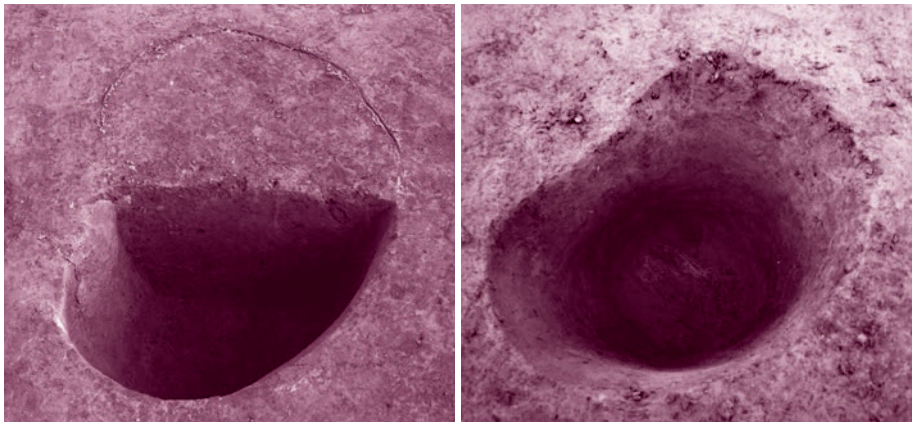
左：128 ピット
断面
（南から）

右：128 ピット
礎板検出状況
（東から）



左：132 ピット
断面
（南から）

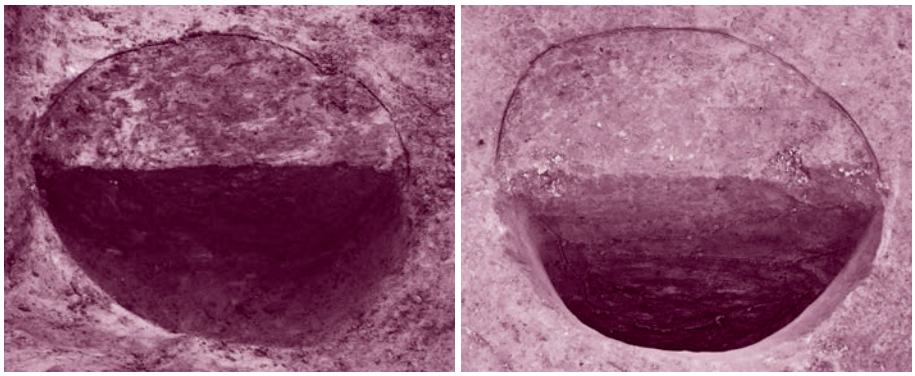
右：132 ピット
礎板検出状況
（東から）



図版一五　古墳時代の遺構　掘立柱建物（三）

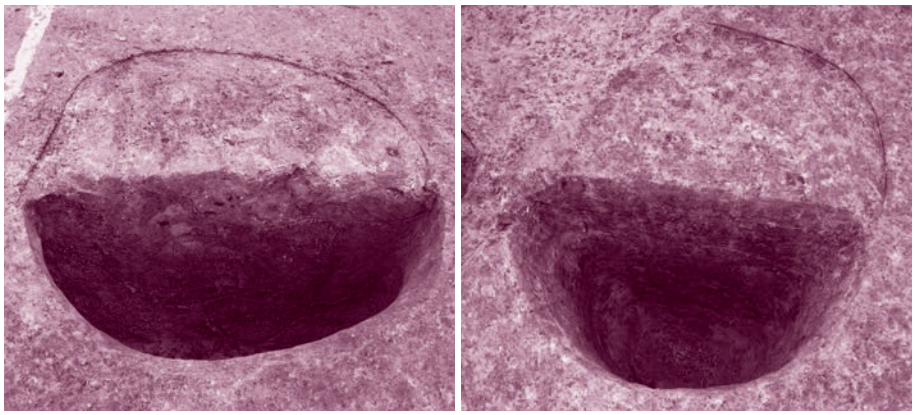
左：230 ピット
断面
（南から）

右：233 ピット
断面
（南から）



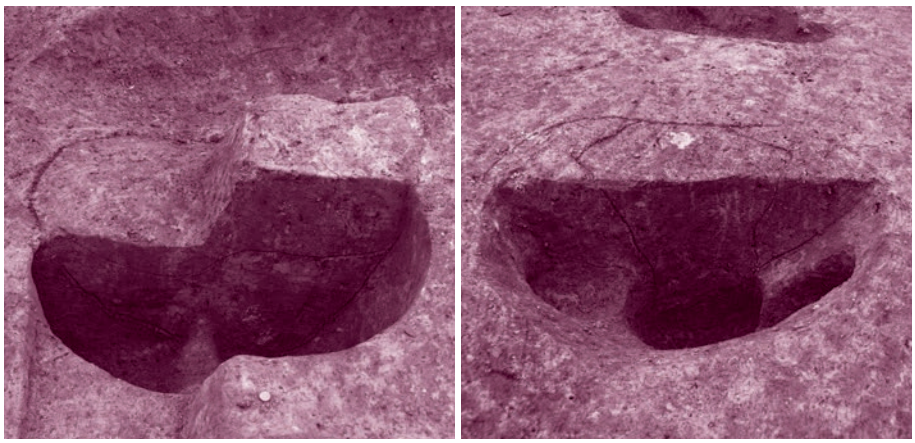
左：232 ピット
断面
（南から）

右：231 ピット
断面
（東から）



左：234 ピット
断面
（南から）

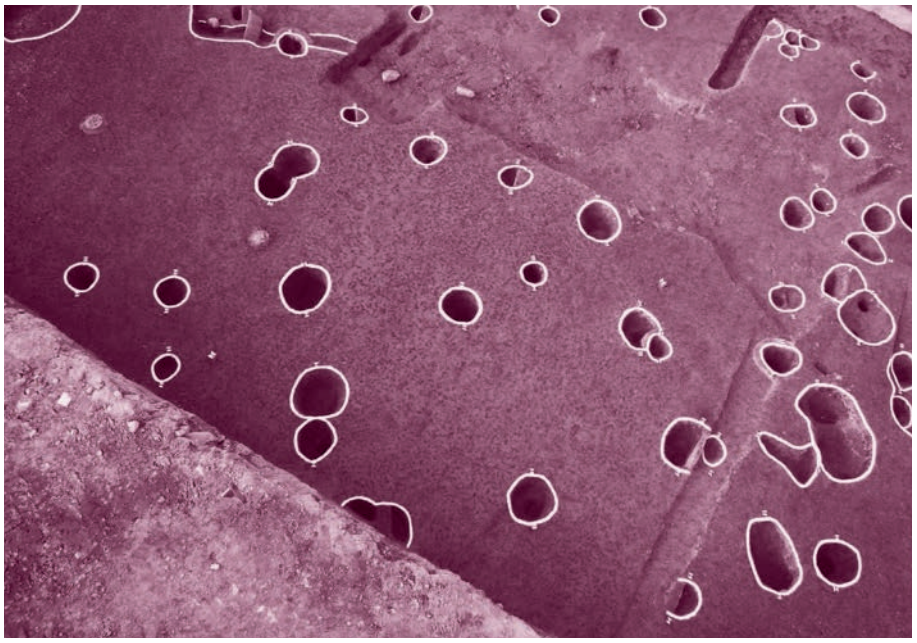
右：136 ピット
断面
（南から）



135 ピット
断面
（南から）

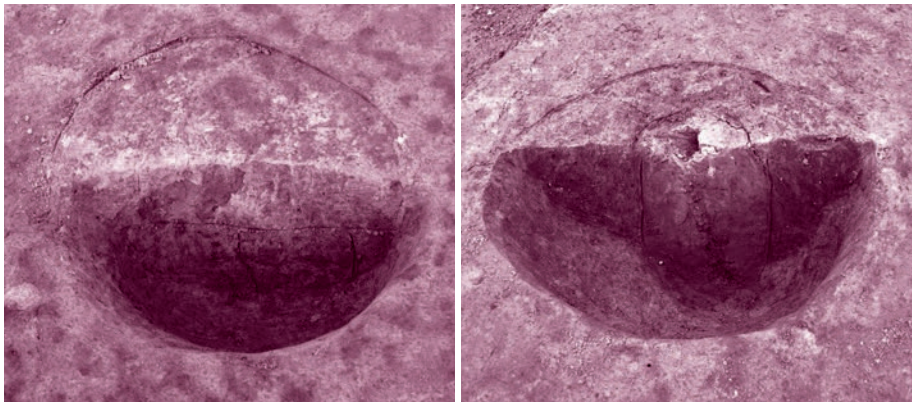
図版一六　古墳時代の遺構　掘立柱建物（四）

539 掘立柱建物
全景
（東から）



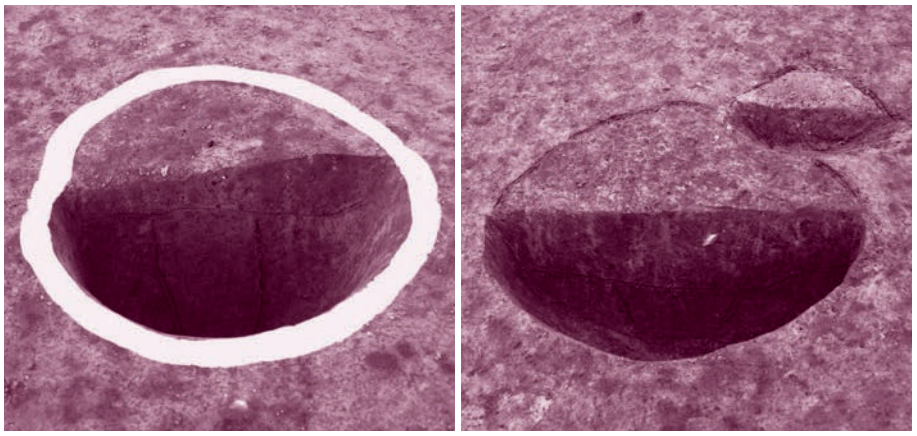
左：117 ピット
断面
（南から）

右：108 ピット
断面
（南から）



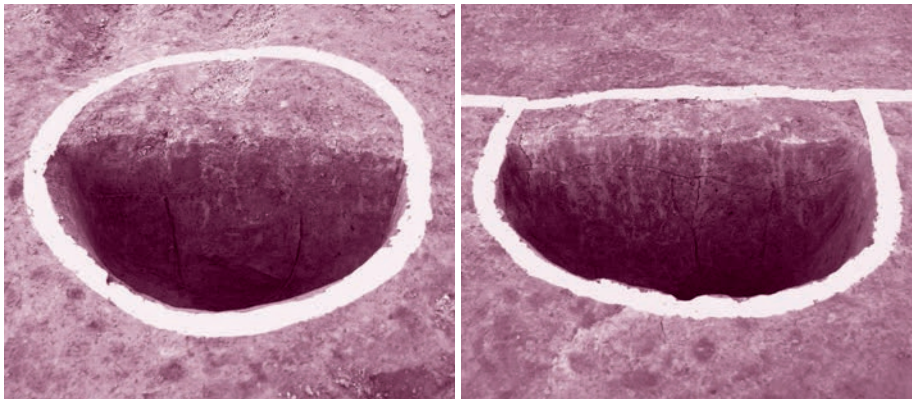
左：110 ピット
断面
（南から）

右：107 ピット
断面
（南から）



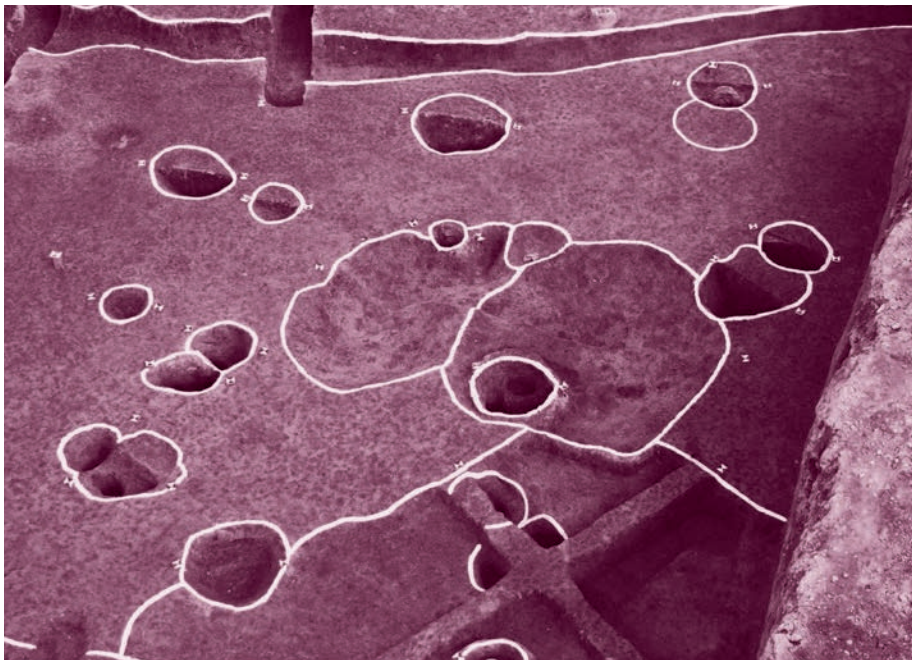
左：105 ピット
断面
（南から）

右：104 ピット
断面
（東から）

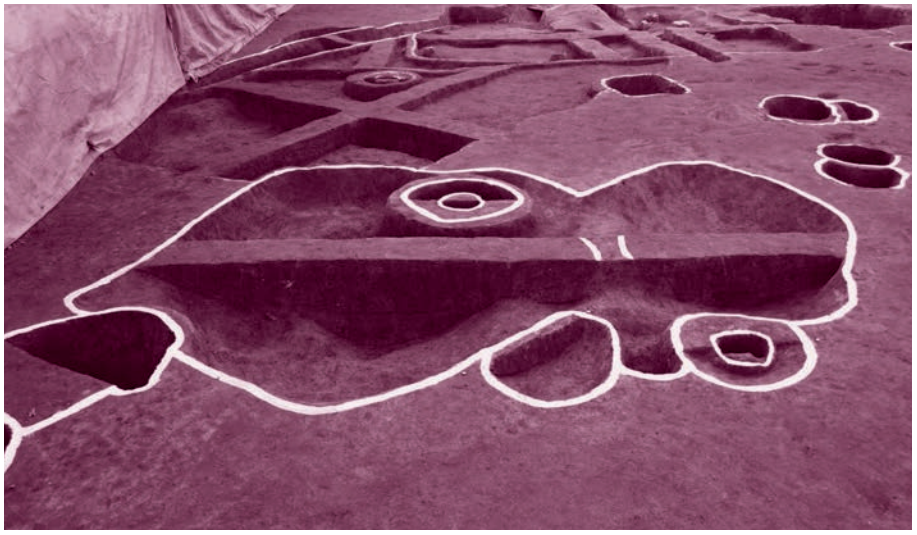


図版一七　古墳時代の遺構　掘立柱建物（五）

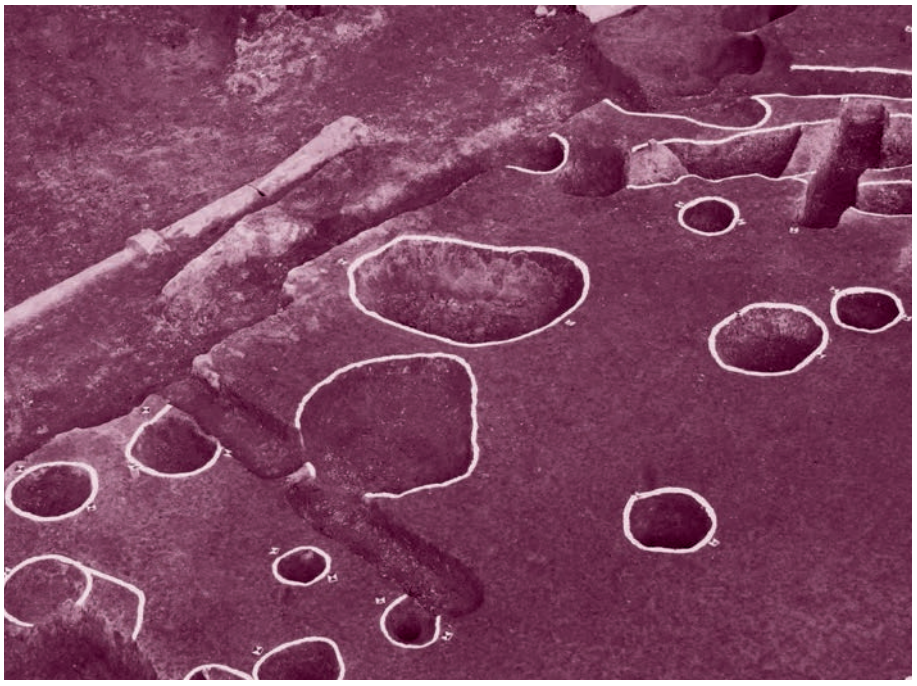
542 掘立柱建物
全景
（南から）



171・172 土坑
断面
（北から）

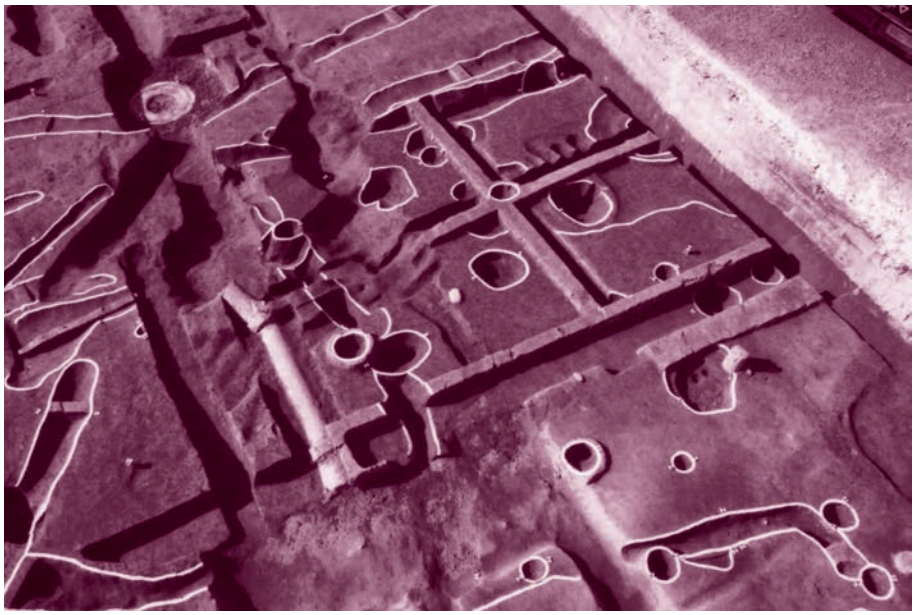


543 掘立柱建物
全景
（南東から）



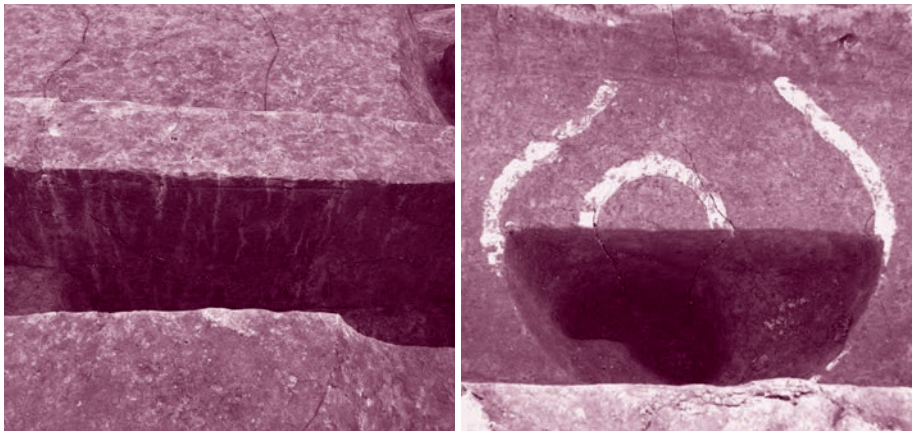
図版一八　古墳時代の遺構　掘立柱建物（六）

548 掘立柱建物
全景
（東から）



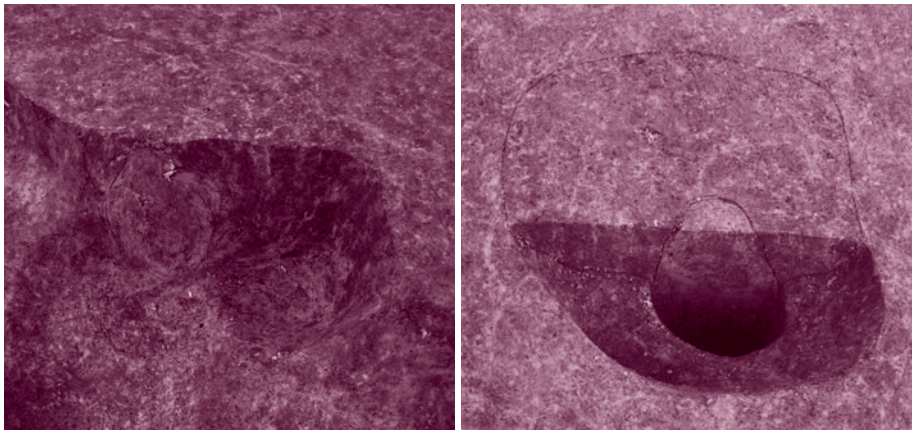
左：504 ピット
断面
（西から）

右：501 ピット
断面
（南から）



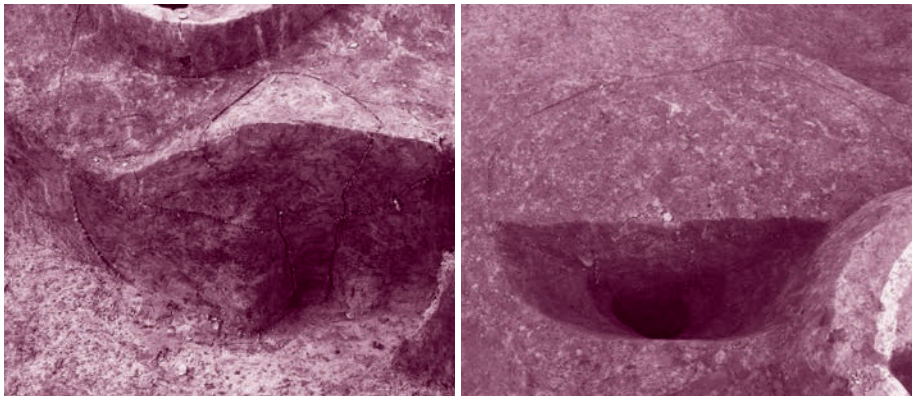
左：496 ピット
断面
（東から）

右：499 ピット
断面
（南から）



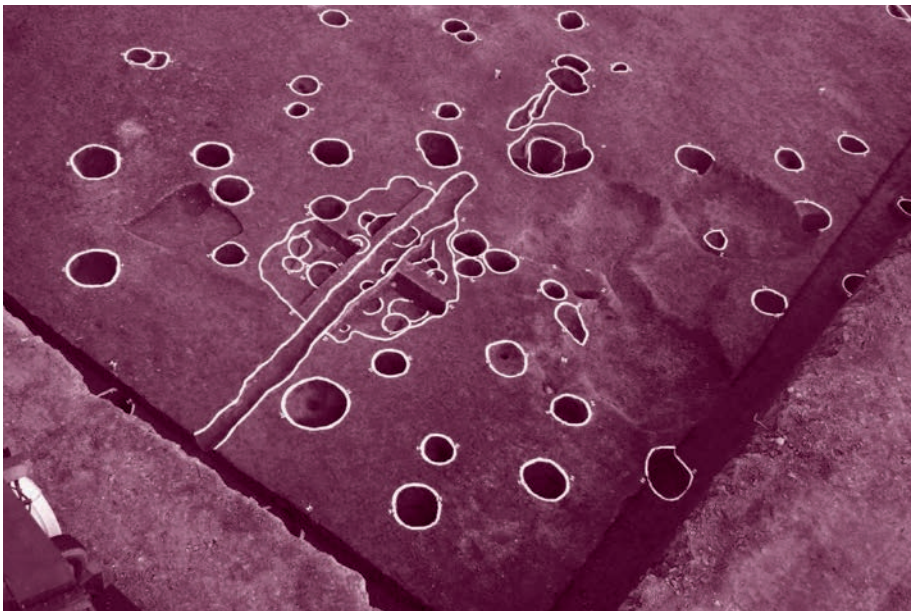
左：494 ピット
断面
（南から）

右：493 ピット
断面
（東から）



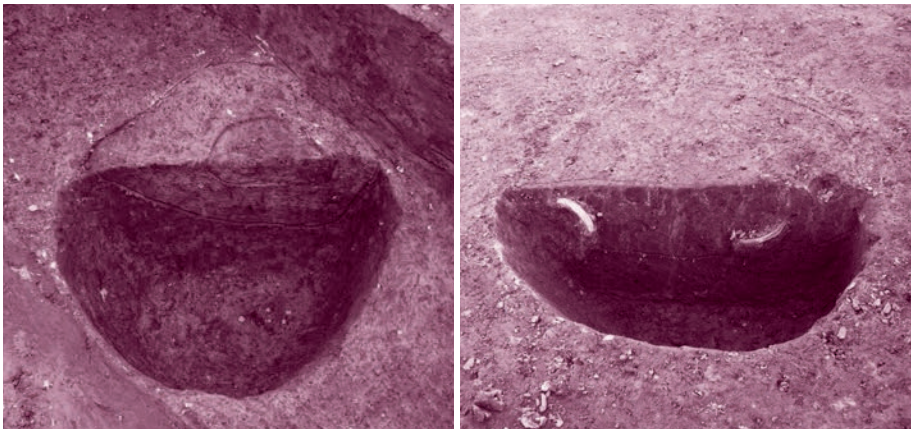
図版一九　古墳時代の遺構　掘立柱建物（七）

547 掘立柱建物
全景
（南西から）



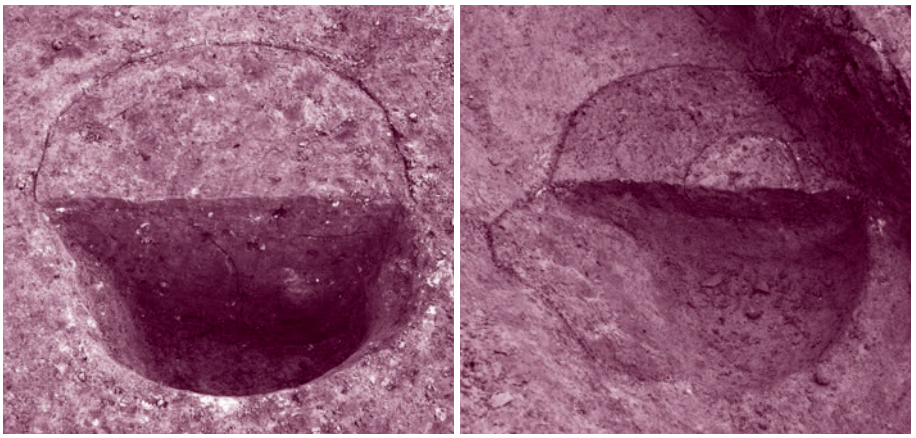
左：277 ピット
断面
（東南から）

右：276 ピット
断面
（南から）



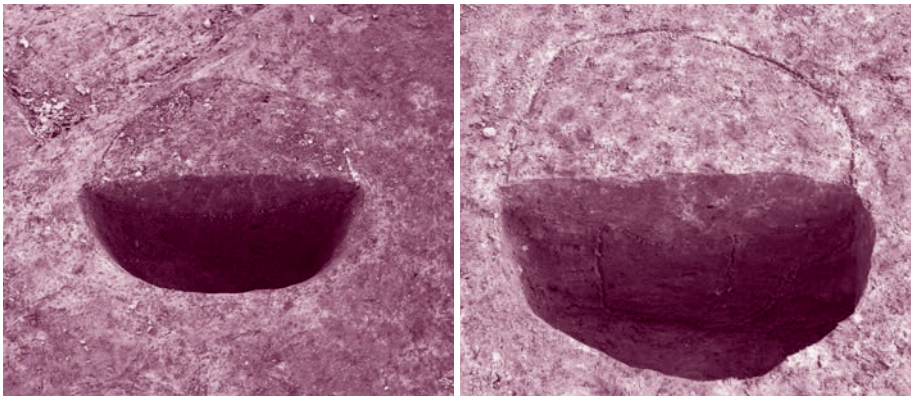
左：272 ピット
断面
（南から）

右：278 ピット
断面
（南から）



左：284 ピット
断面
（南から）

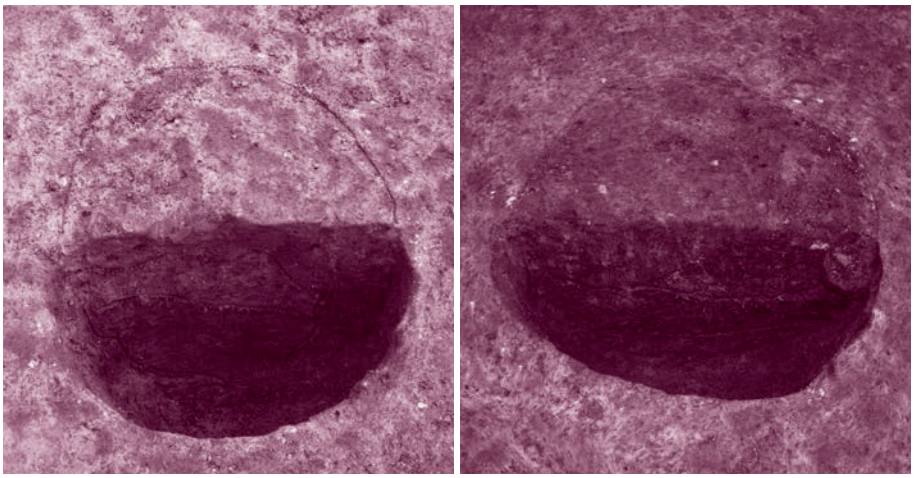
右：273 ピット
断面
（南から）



図版二〇　古墳時代の遺構　掘立柱建物（八）

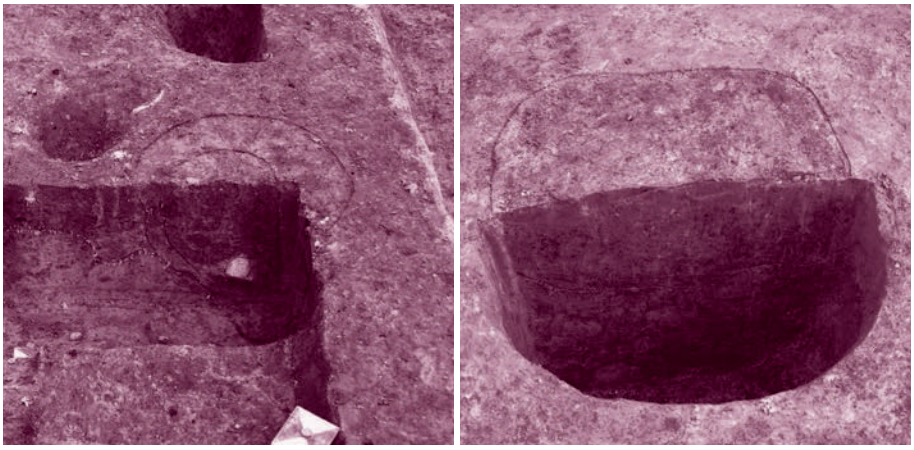
左：279 ピット
断面
（南から）

右：286 ピット
断面
（南から）



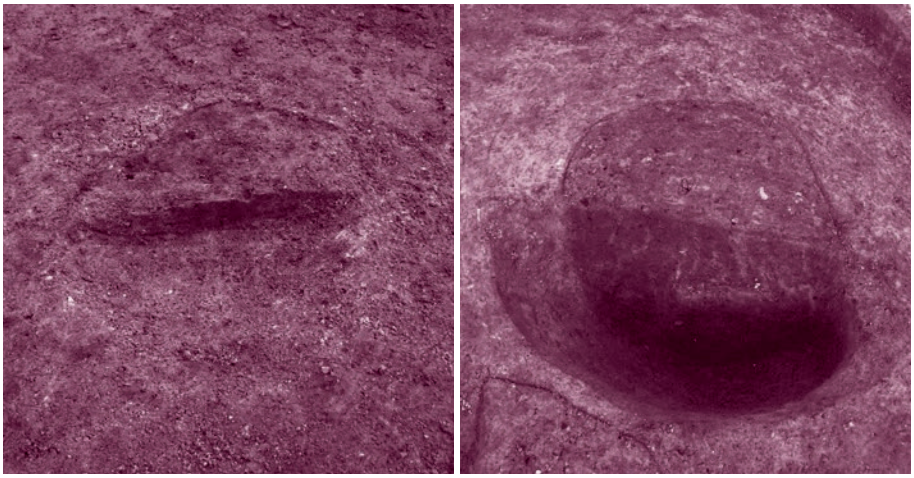
左：425 ピット
断面
（南から）

右：274 ピット
断面
（南から）



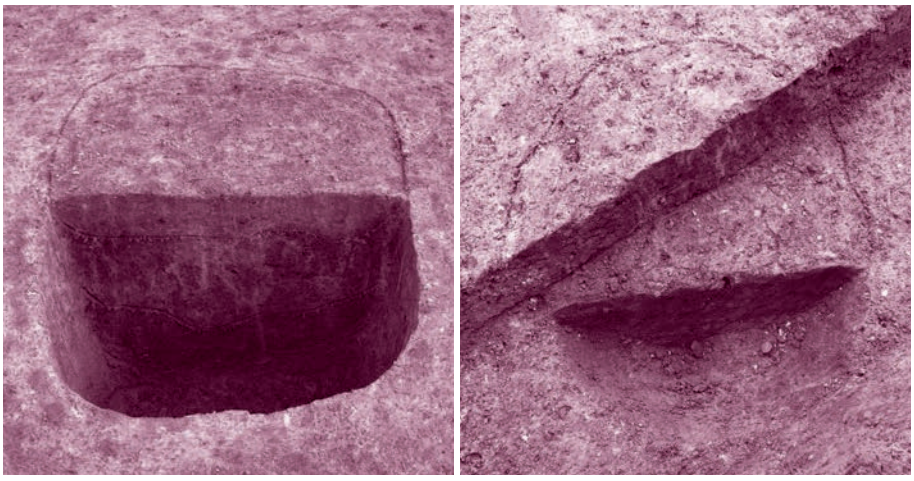
左：281 ピット
断面
（南から）

右：282 ピット
断面
（南から）



左：275 ピット
断面
（南から）

右：365 ピット
断面
（南から）



018 溝
（西北から）

018 溝
（東南から）

018 溝
検出状況
（北から）

018 溝
遺物出土状況
（北西から）

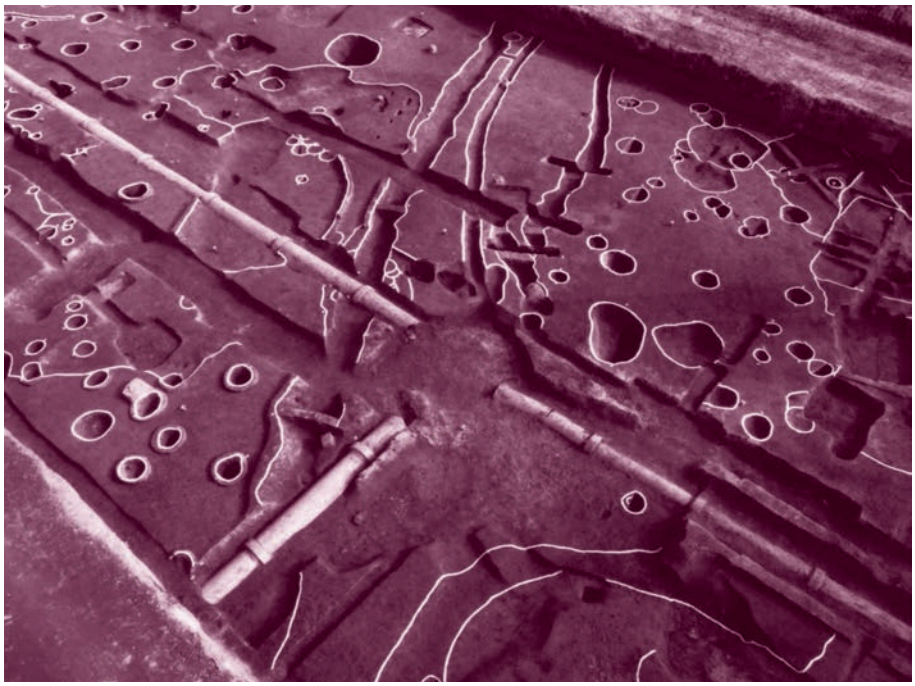
018 溝
遺物出土状況
（北東から）

図版二三　古墳時代の遺構　溝（三）

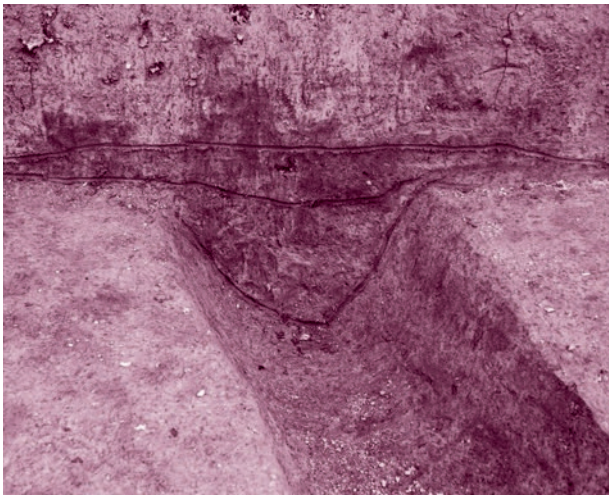
018 溝
断面
（東から）

018 溝
完掘状況
（北西から）

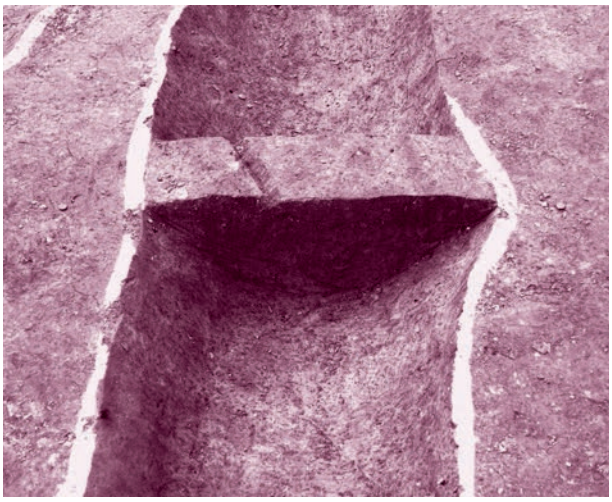
179・180・193 溝
全景
（西から）



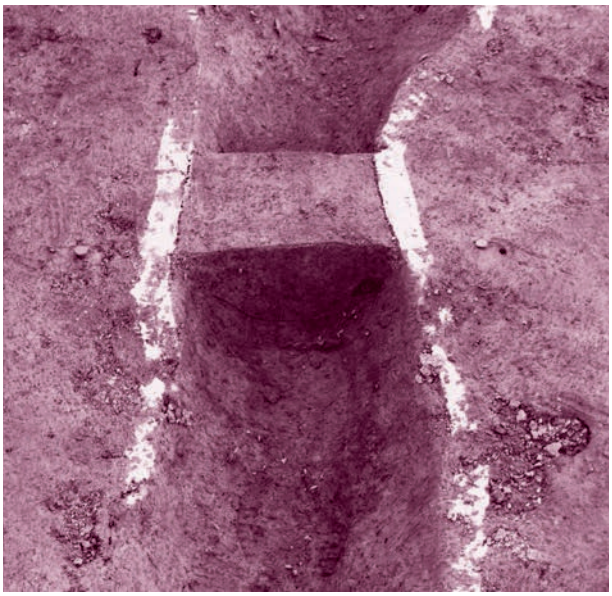
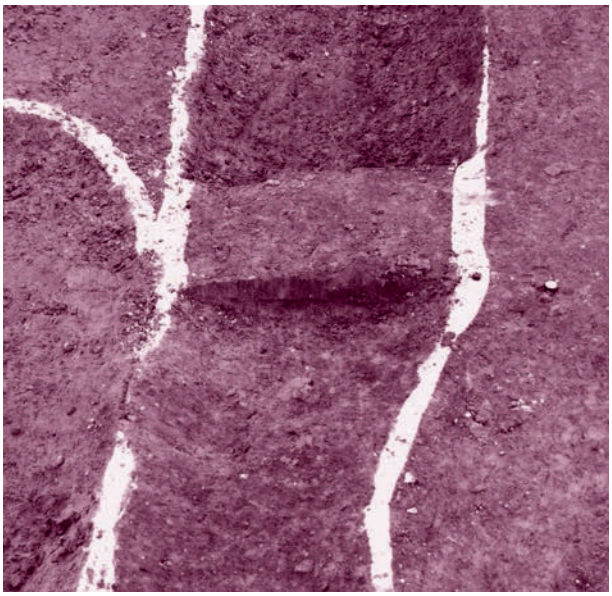
179 溝
断面
（西から）



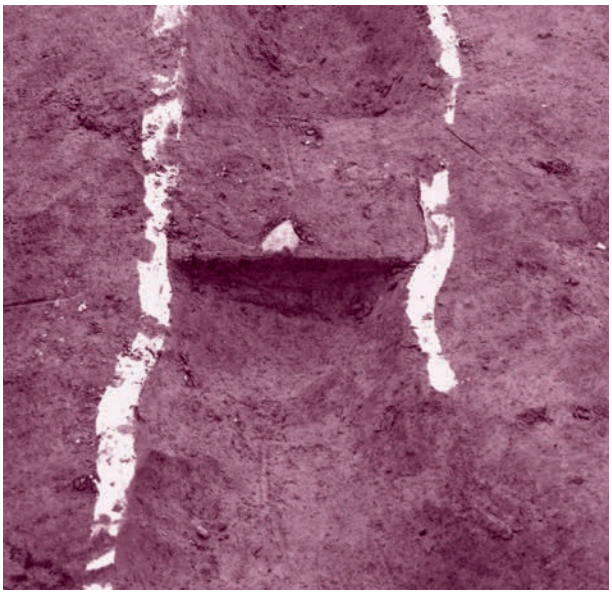
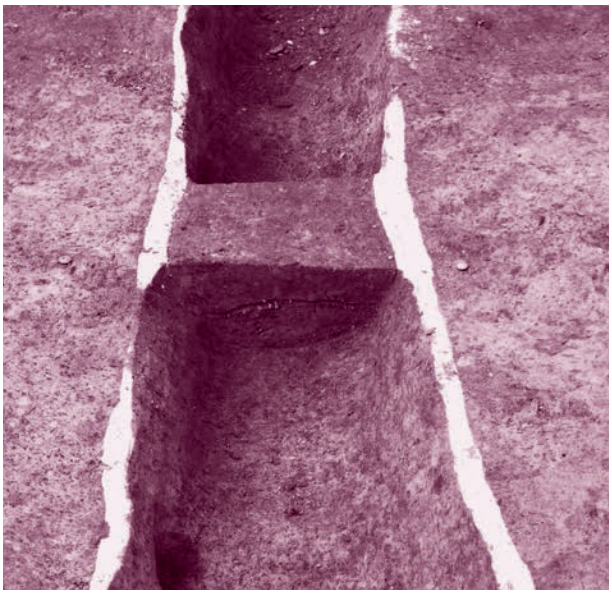
左：180 溝断面（調査区東壁）（西から）　右：193 溝断面（調査区東壁）（西から）



左：149 溝断面（第２調査区北半）（南東から）　右：同左（第２調査区南半）（東から）

左：460 溝断面（東から）　右：468 溝断面（東から）

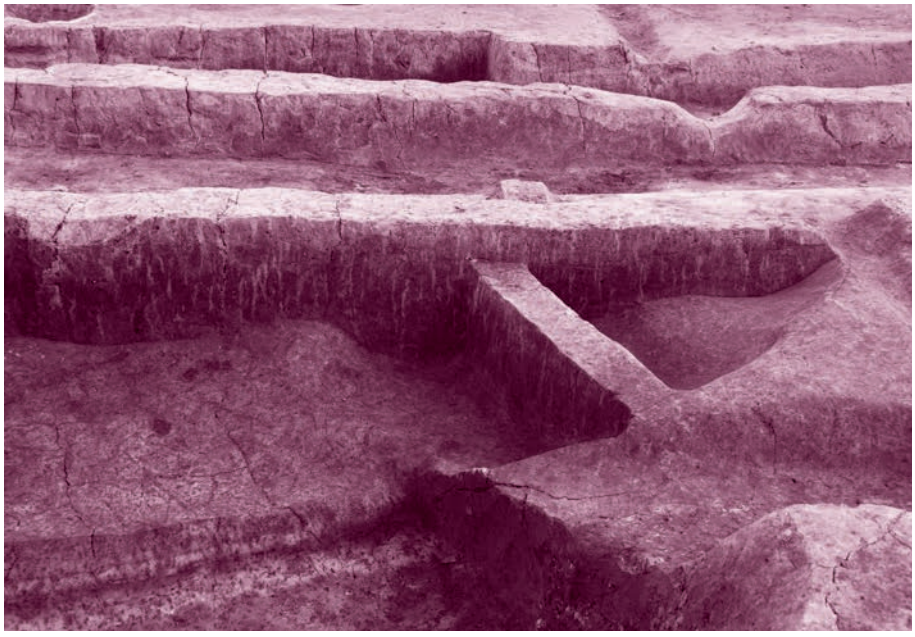



左：469 溝断面（東から）　右：470 溝断面（東から）

482 溝
全景
（北東から）

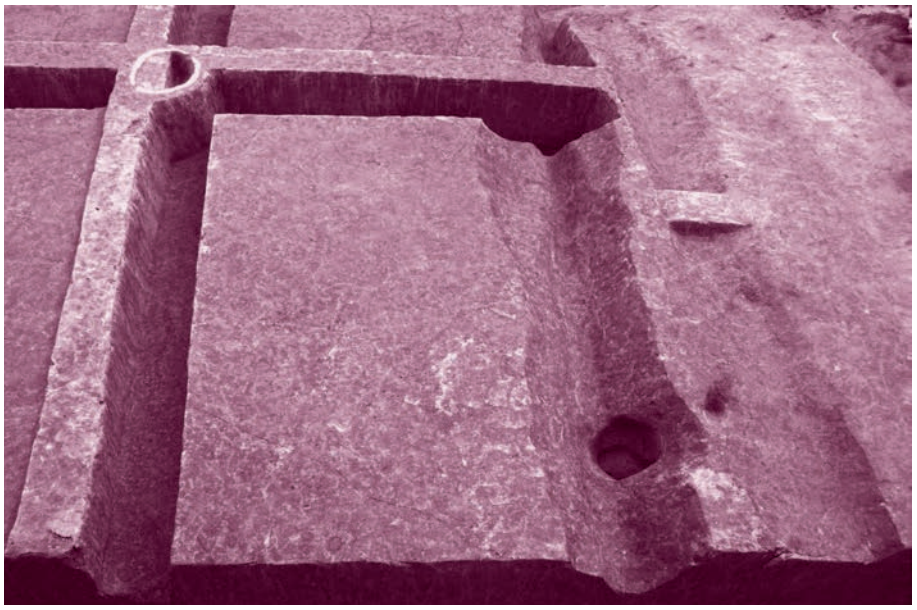
482 溝
東西断面
（北から）

482 溝
南北断面
（西から）



図版二七　古墳時代の遺構　溝（七）

491 溝
全景
（西から）

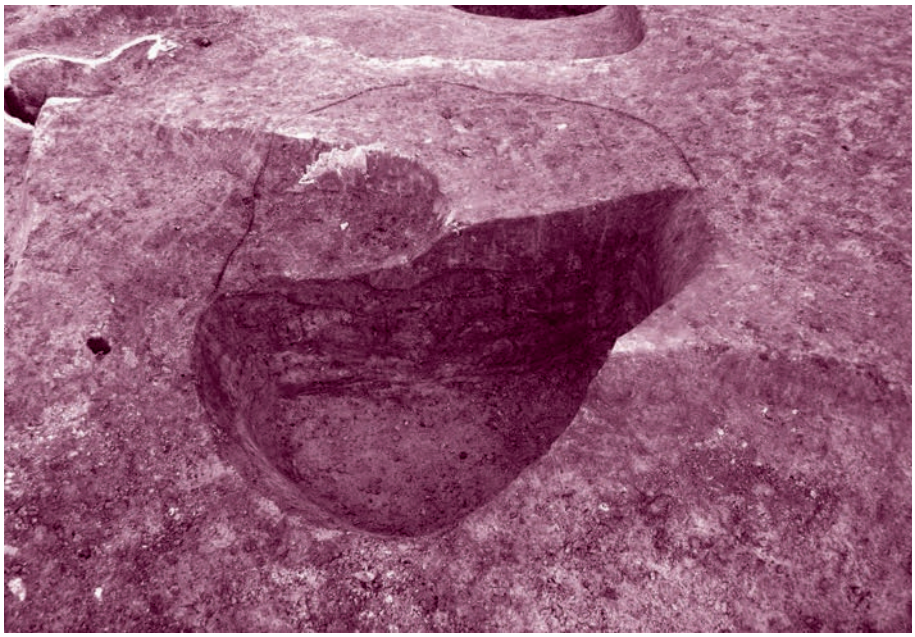


491 溝
断面
（西から）

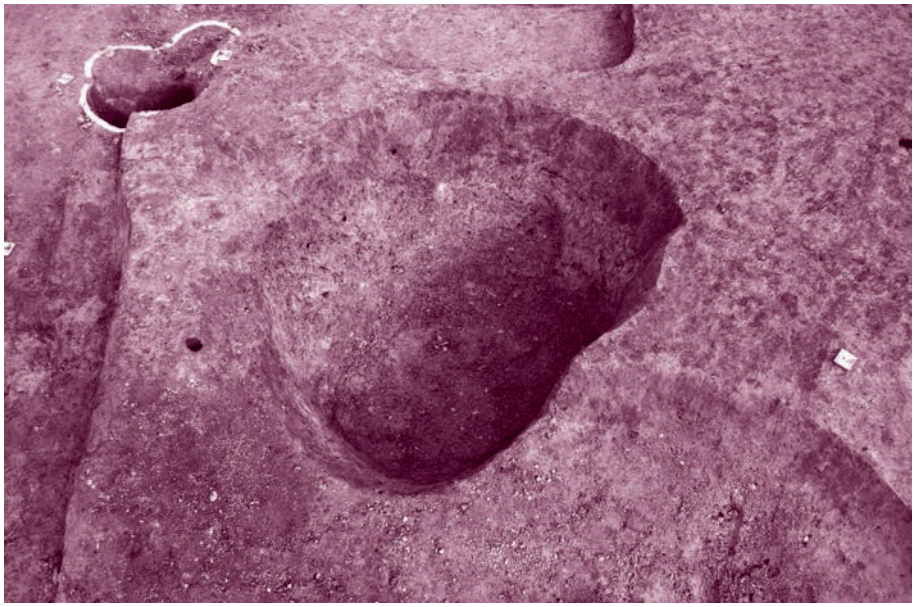
492 溝
断面
（南から）

図版二八　古墳時代の遺構　井戸（一）

399 井戸
断面
（南から）



399 井戸
完掘状況
（南から）

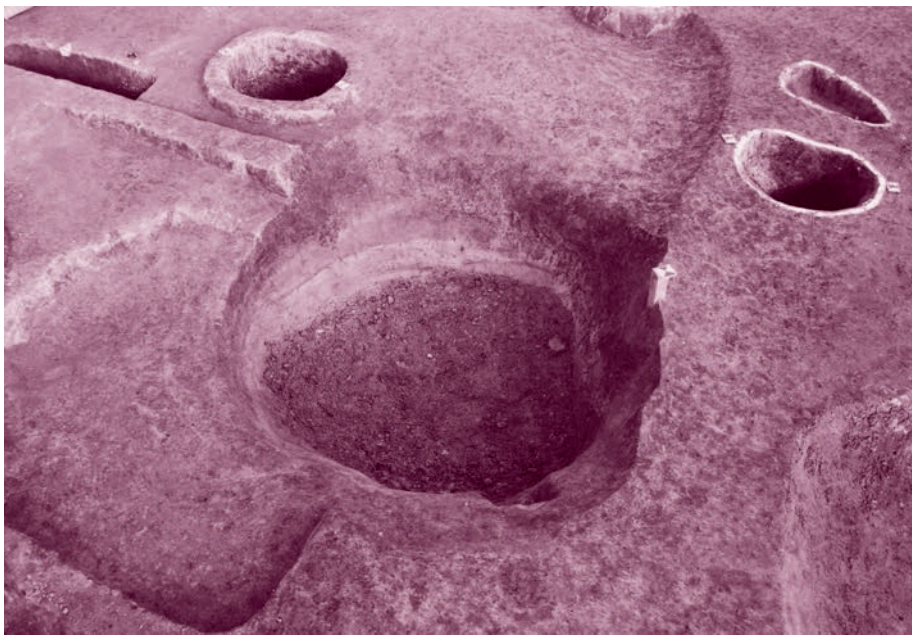


410 井戸
断面
（南から）

410 井戸
遺物出土状況
（南から）

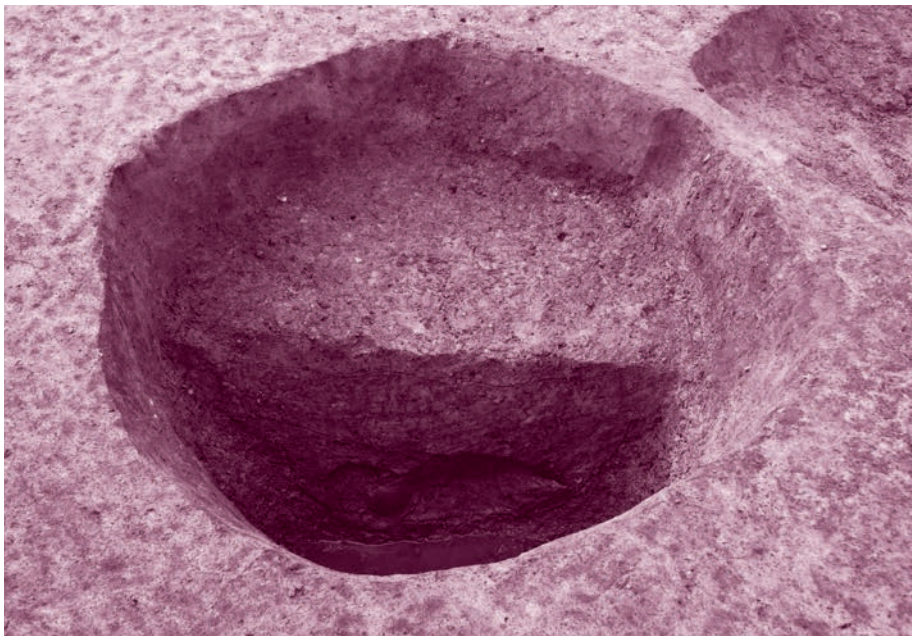
同 上
（南から）

410 井戸
完掘状況
（南から）



図版三〇　古墳時代の遺構　井戸（三）

181 井戸
断面
（北から）



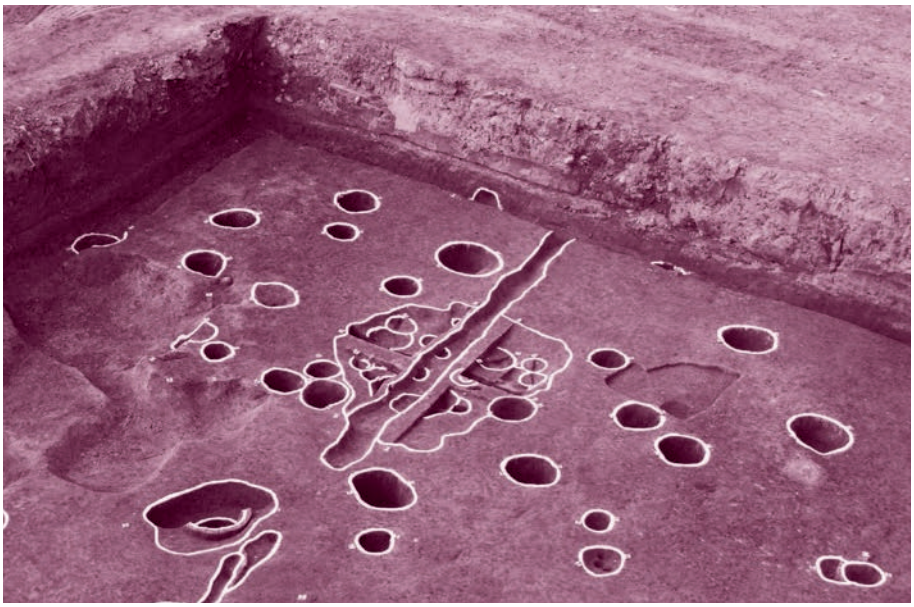
181 井戸
遺物出土状況
（北から）

181 井戸
完掘状況
（南から）

図版三一　古墳時代の遺構　土坑（一）

295 土坑
検出状況
（西から）

295 土坑
全景
（東から）

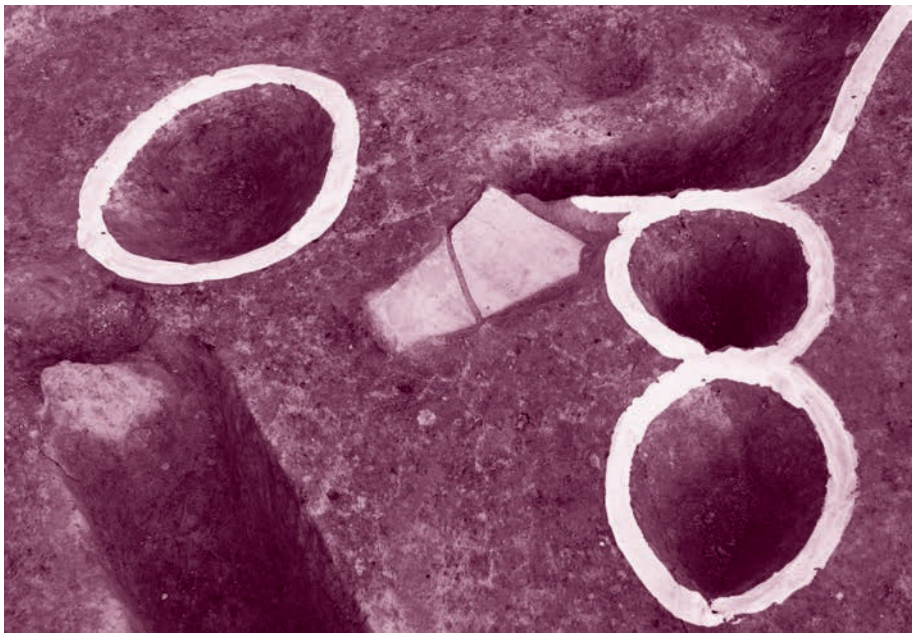


295 土坑
南北断面
（西から）

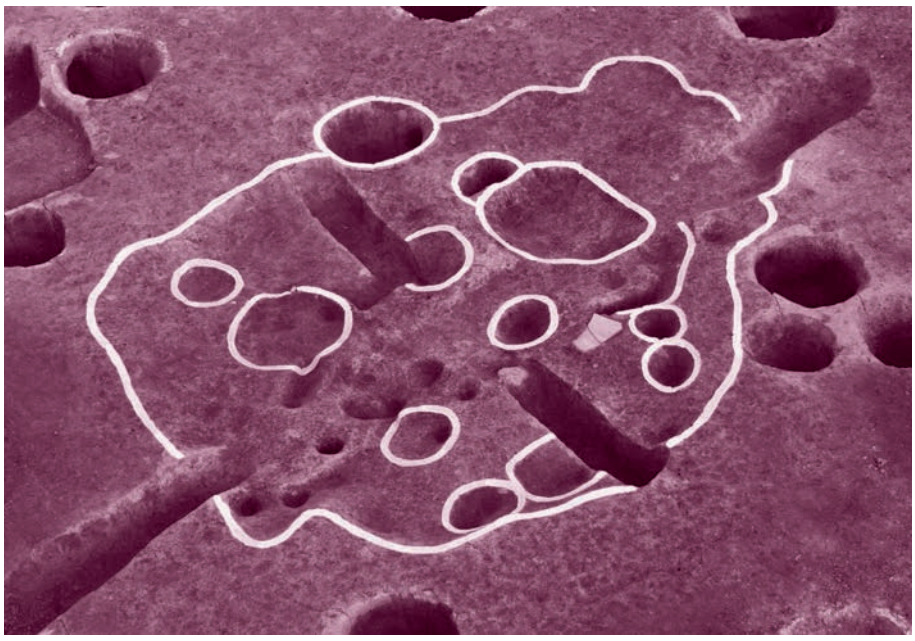
図版三二　古墳時代の遺構　土坑（二）

295 土坑
東西断面
（南から）

295 土坑
遺物出土状況
（南西から）



295 土坑
完掘状況
（南西から）



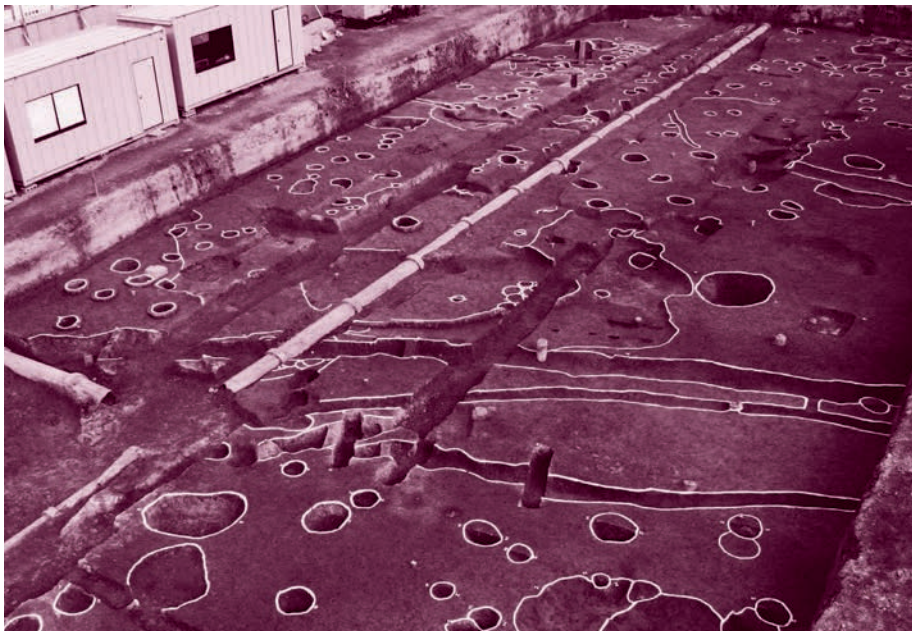
054 土坑
断面
（南から）

054 土坑
完掘状況
（南から）

057 土坑
断面
（南から）

図版三四　古墳時代の遺構　落ち込み（一）

146 落ち込み
全景
（南から）

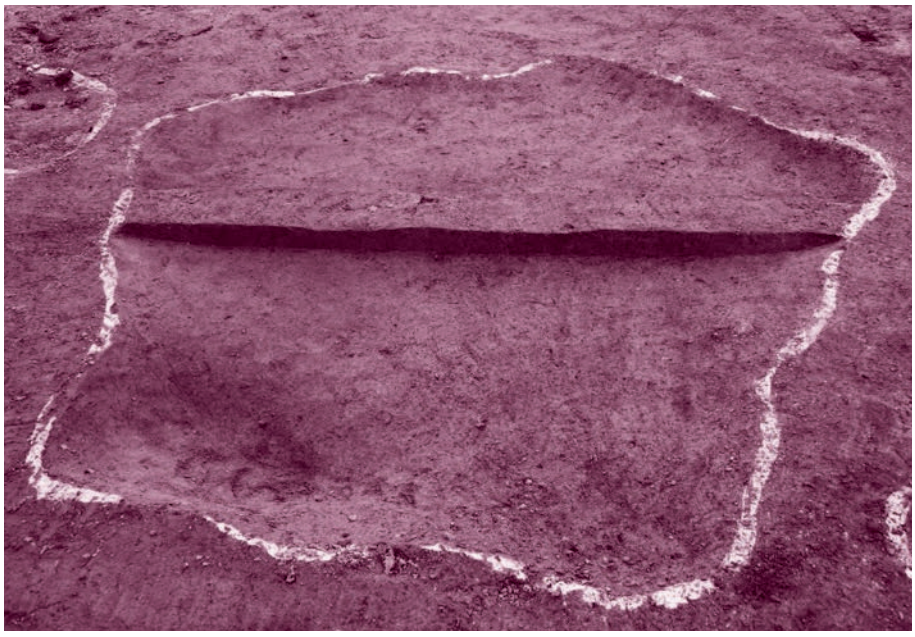


146 落ち込み
土器出土状況
（西から）

146 落ち込み
断面
（東から）

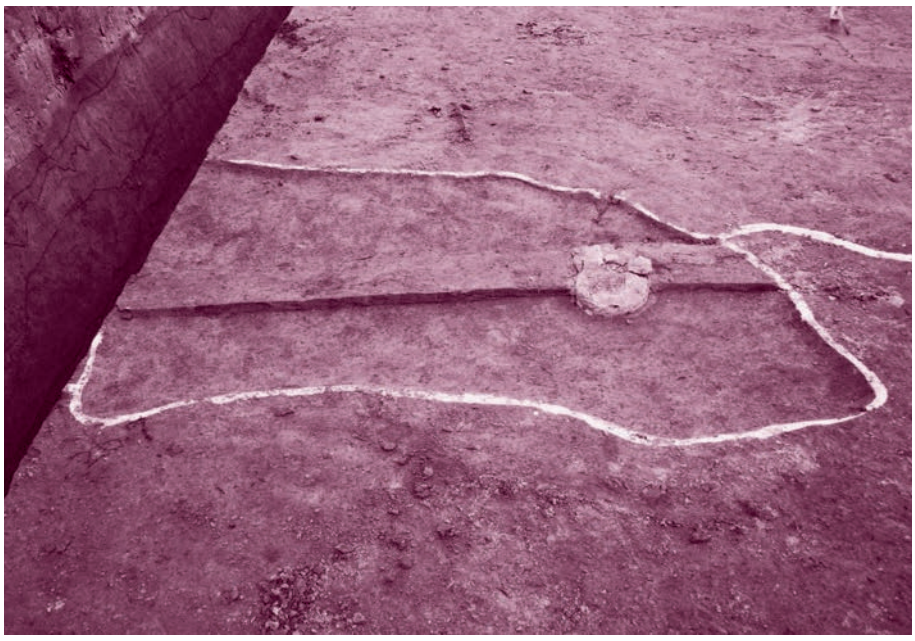
図版三五　古墳時代の遺構　落ち込み（二）

453 落ち込み
断面
（南から）



465 落ち込み
断面
（西から）

466 落ち込み
断面
（南から）



図版三六　古墳時代の遺構　流路（一）

016 流路断面
第 1 調査区北半
調査区西壁
（東から）

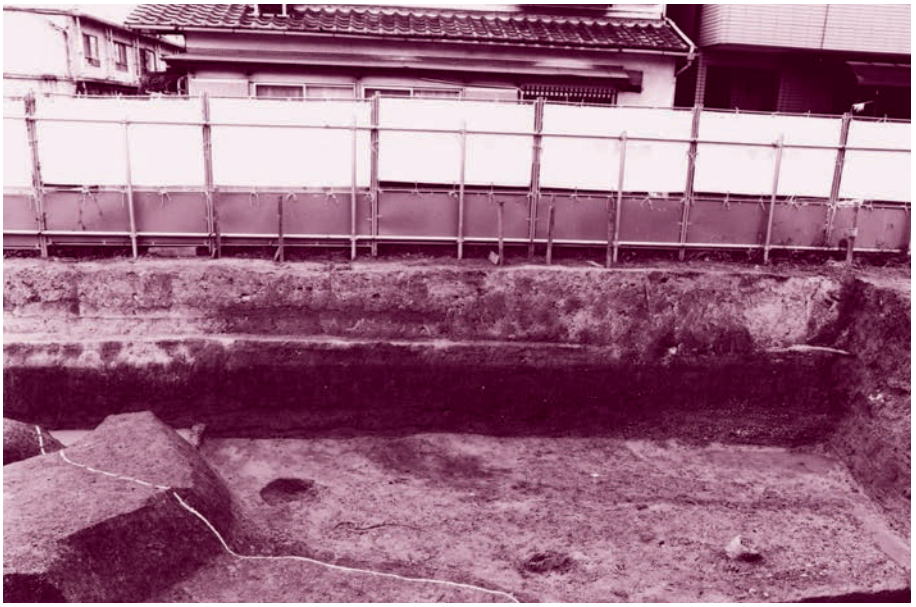
016 流路断面
第 1 調査区北半
中央南北断割
（東から）

016 流路断面
第 1 調査区北半
調査区南壁
（北から）

図版三七　古墳時代の遺構　流路（二）

016 流路断面
第 1 調査区北半
調査区東壁
（西から）

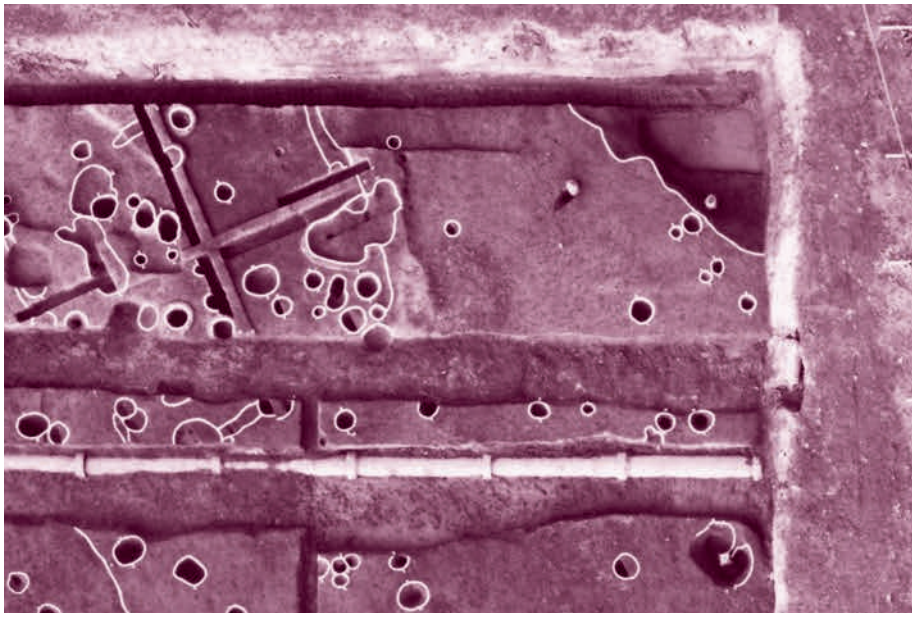
016 流路断面
第 1 調査区南半
調査区西壁
（東から）



016 流路断面
第 1 調査区南半
調査区東壁
（西から）

016 流路
遺物出土状況
第１調査区南半
（西から）

016 流路
第２調査区北半



016 流路
第２調査区北半
（東から）

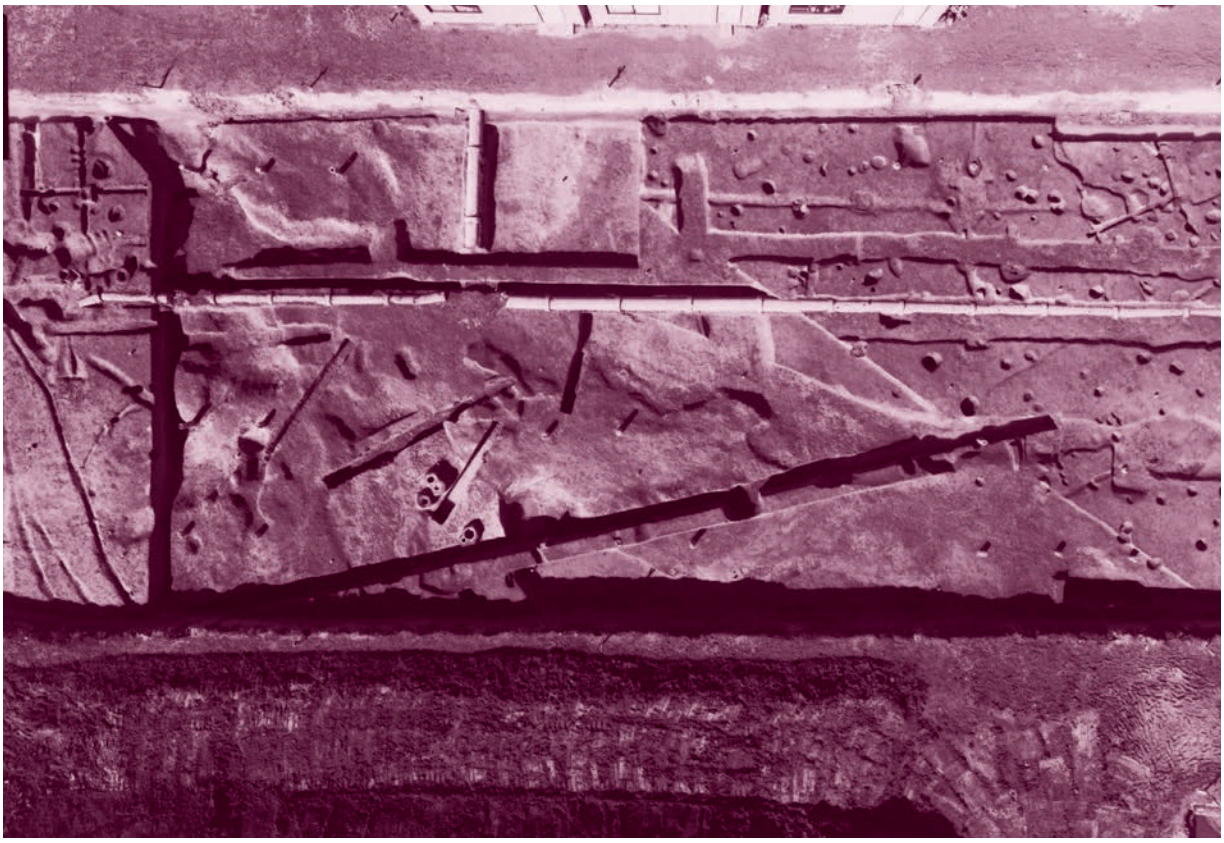
図版三九　古墳時代の遺構　流路（四）

017 流路
全景
（南東から）

017 流路
断面１
（南から）

017 流路
断面２
（東から）

第２面（弥生時代遺構面）全景（西から）



第２面（弥生時代遺構面）全景（垂直写真）

図版四一　弥生時代の遺構　流路（一）

414 流路第３調査区全景（南から）

414 流路第３調査区全景（北東から）

図版四二　弥生時代の遺構　流路（二）

523・414 流路
第３調査区
北壁断面
（南から）

414 流路
第３調査区
北壁断面
（南から）

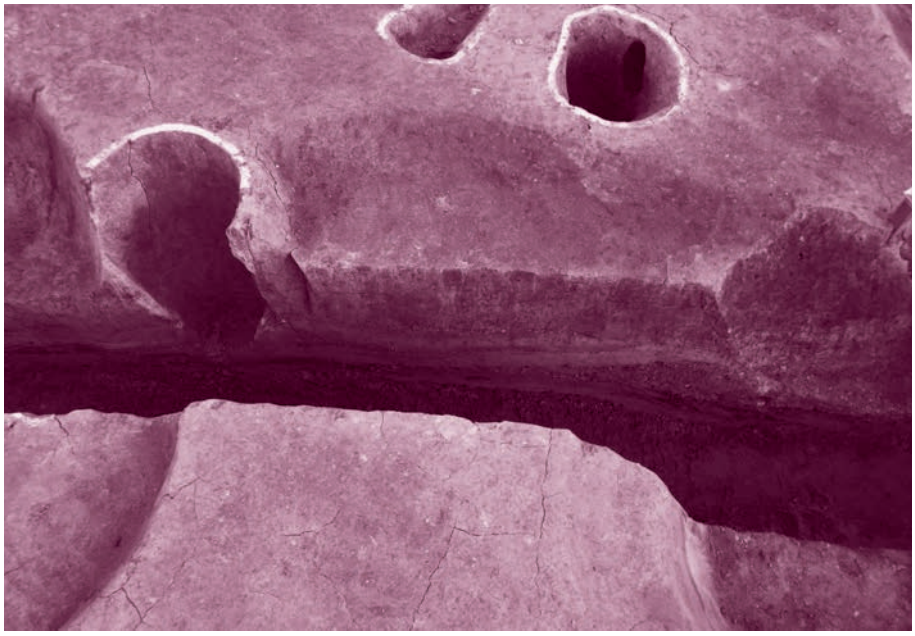
523 流路
第３調査区
西壁断面
（南から）

414 流路
第２調査区北半
断割り２断面１
（北西から）

414 流路第２調査区北半断割り２断面２（西から）

414 流路
第２調査区北半
断割り２断面３
（北西から）

414 流路
第２調査区北半
断割り２断面４
（西から）



414 流路
第２調査区北半
断割り２断面５
（西から）

414 流路
第２調査区北半
断割り６断面１
（北から）

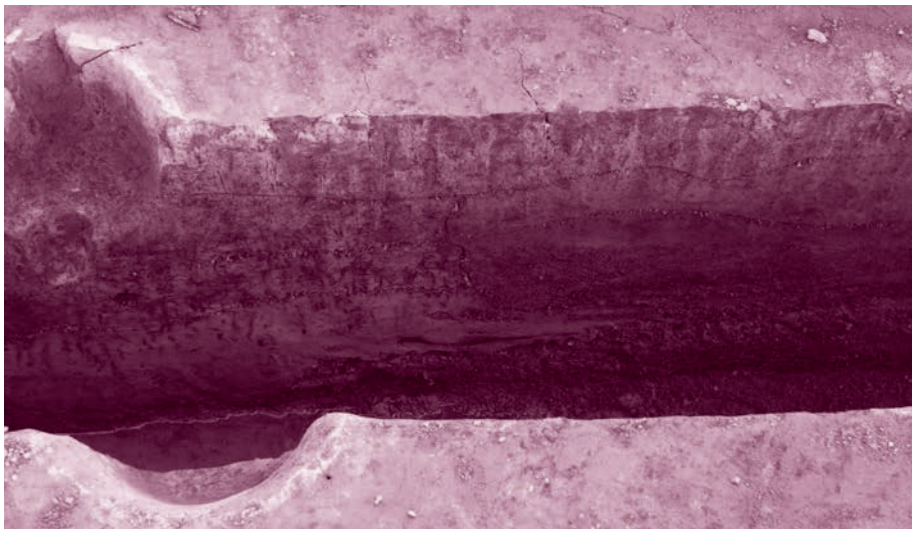
414 流路
第２調査区北半
断割り６断面２
（北から）

414 流路
第２調査区北半
断割り６断面３
（北から）

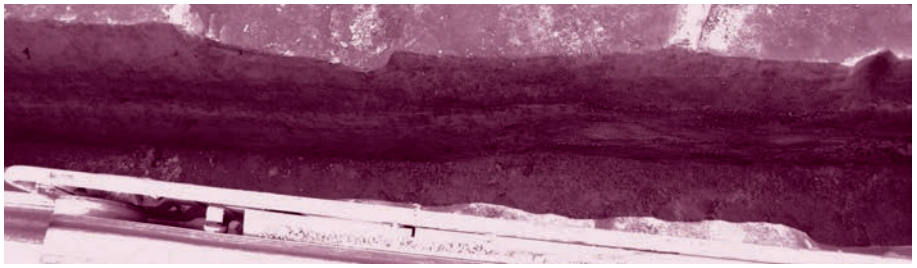
図版四六　弥生時代の遺構　流路（六）

414 流路
第２調査区北半
断割り３断面
（東南から）

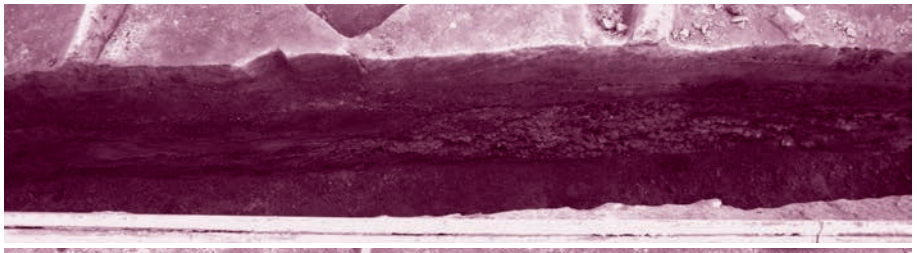
529 流路
第２調査区北半
断割り１断面
（西から）



533 流路
第２調査区北半
断割り２断面１
（西から）



533 流路
第２調査区北半
断割り２断面２
（西から）

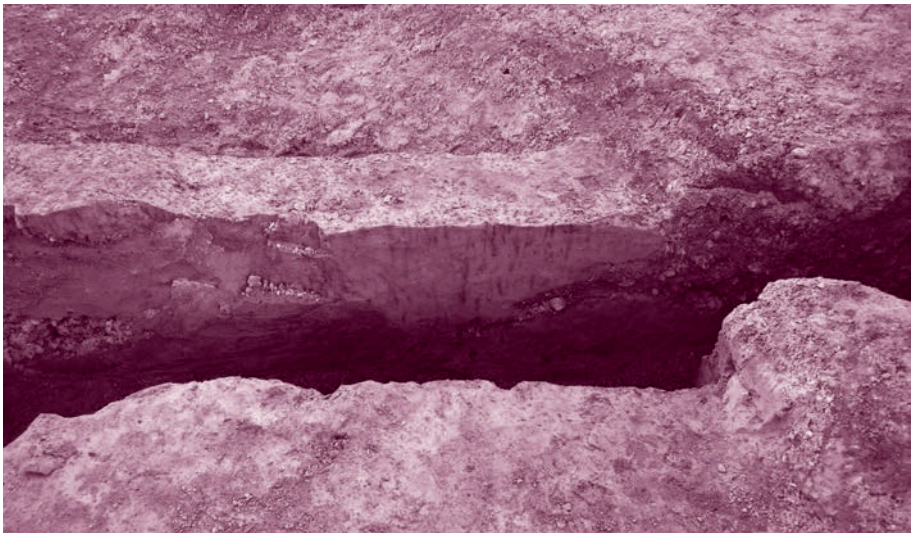


533 流路
第２調査区北半
断割り２断面３
（西から）

図版四七　弥生時代の遺構　流路（七）

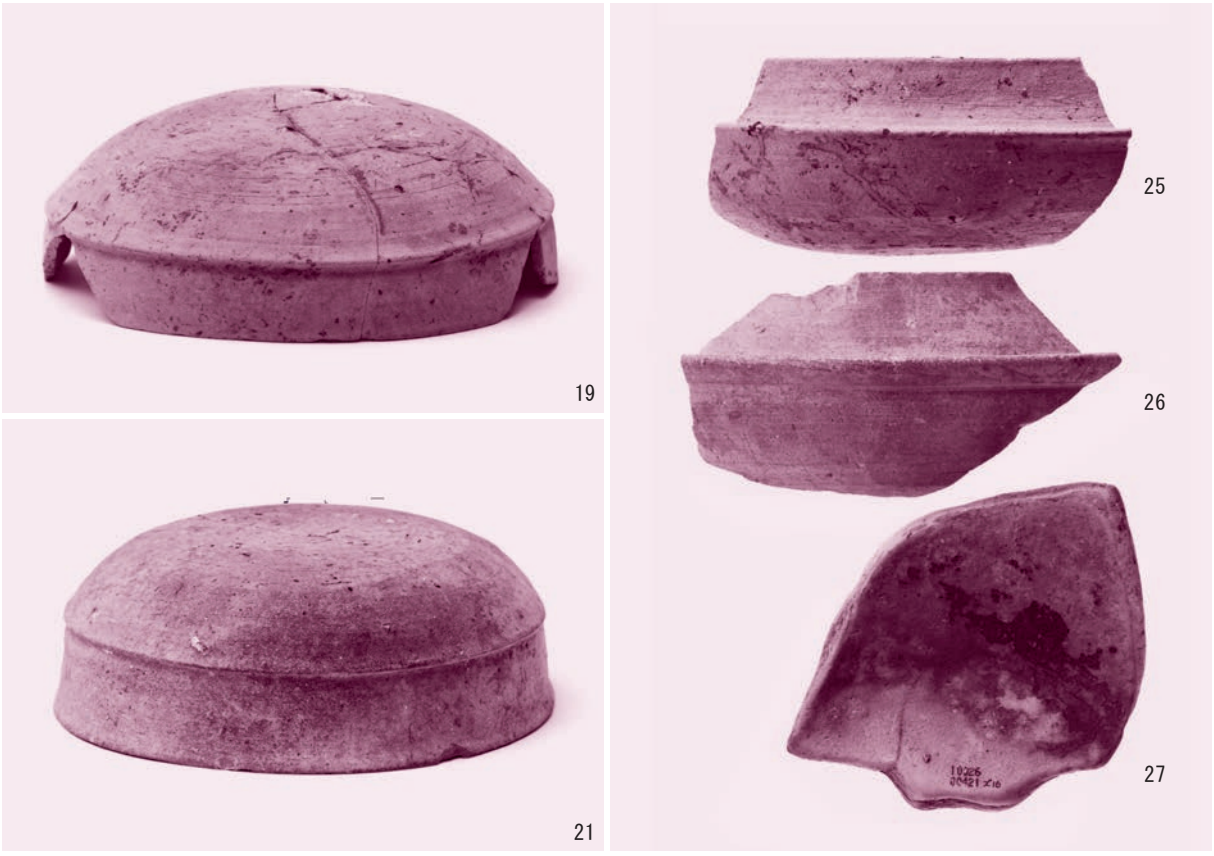
536 流路
検出状況
（西から）

536 流路
第２調査区北半
断割り３断面
（東から）



寺田遺跡から望む
岸和田市摩湯山古墳
（北西から）

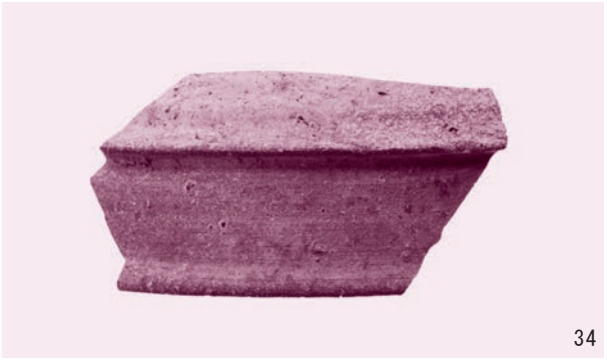
145 竪穴建物出土土器



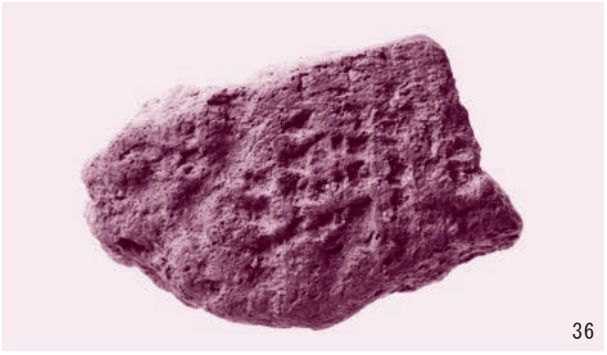
177 竪穴建物出土土器

33

047 竪穴建物（045 ピット）出土土器


34

047 竪穴建物（037 ピット）出土土器


36

047 竪穴建物（440 ピット）出土土器

158

39

417 ピット出土土器

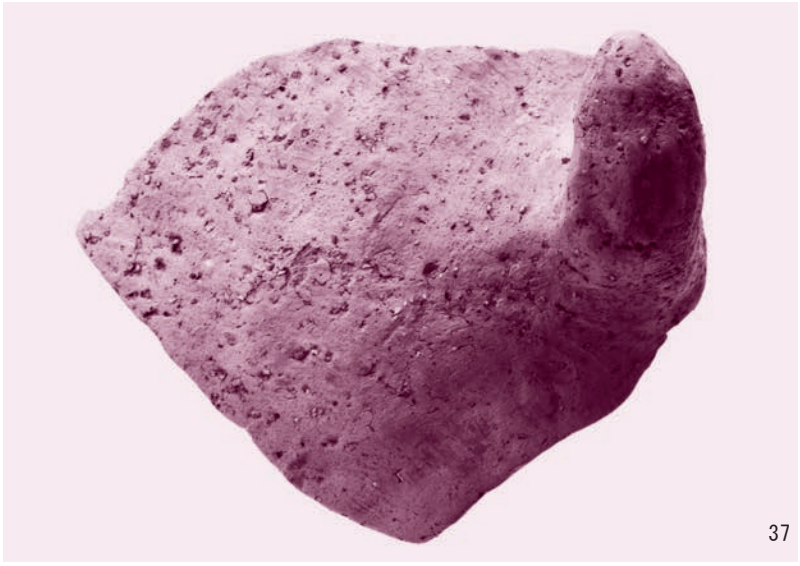
32

418 竪穴建物出土土器

159

295 土坑出土土器

951


37

538 掘立柱建物（131 ピット） 出土土器類

149

147

152

181 井戸出土土器

130

137

133

143

141

136

135

410 井戸出土土器

51

53

52

58

66

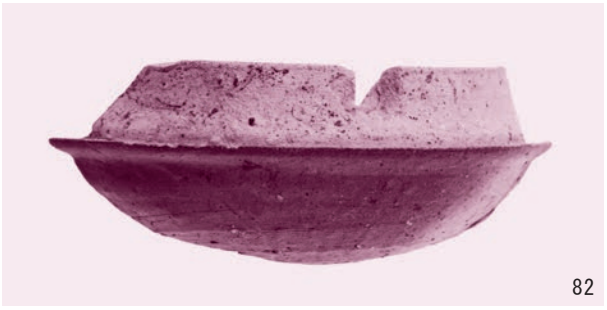
61

75

018 溝出土土器

81

88

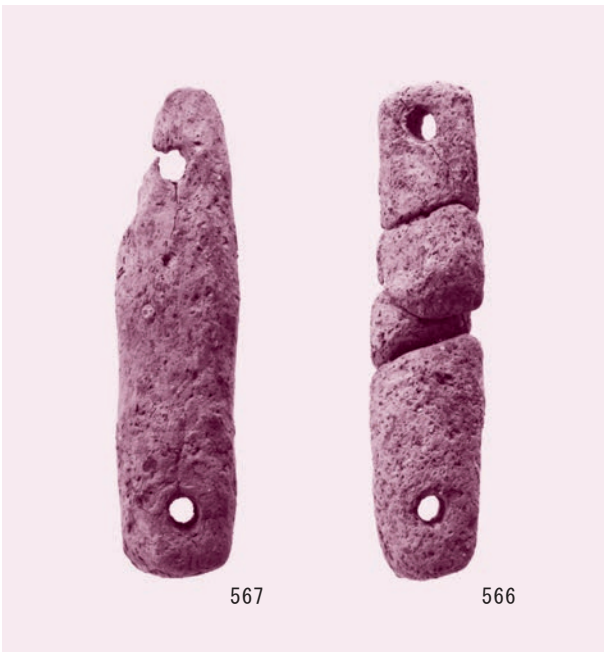

82

91

97

92

96


567　566

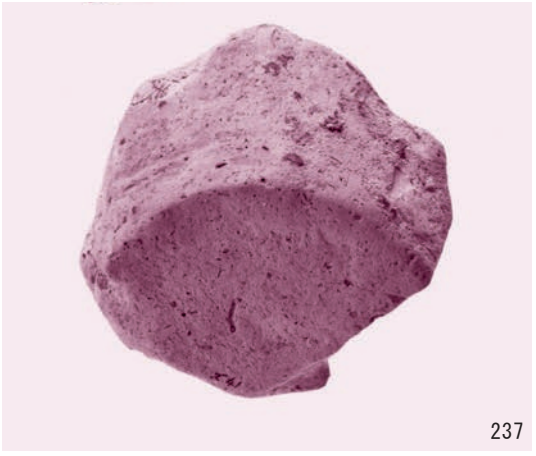
179 溝出土土器

181

186

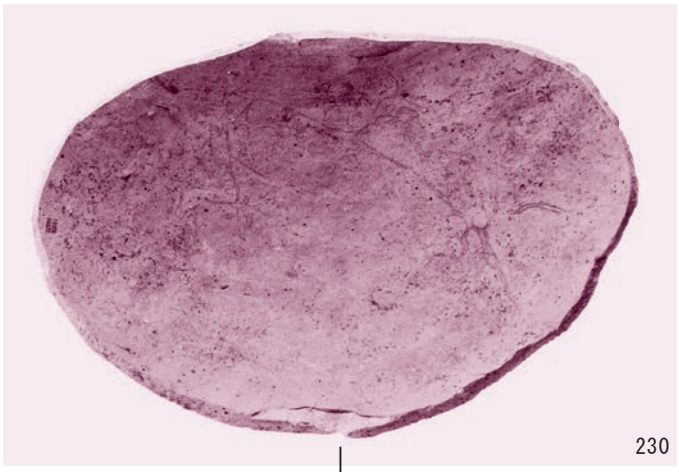
189

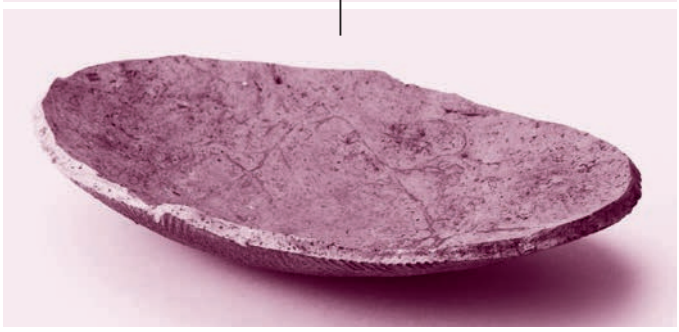
236


237

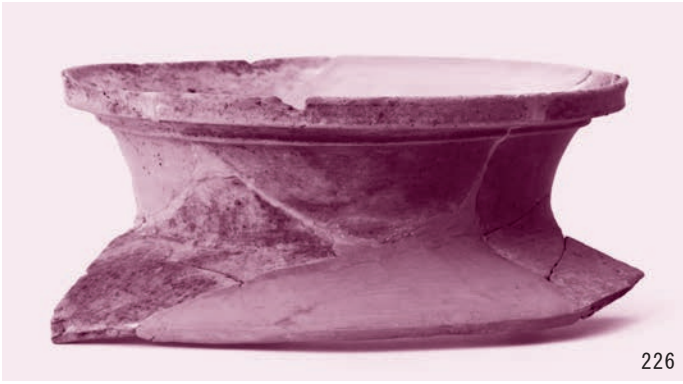
208

219


230



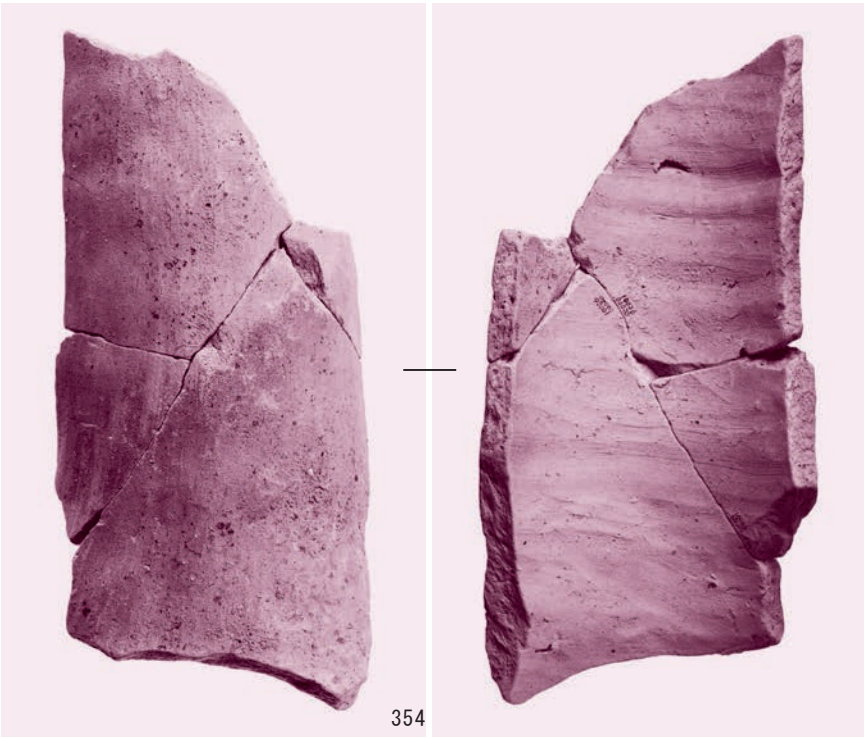
146 落ち込み出土土器



146 落ち込み出土土器

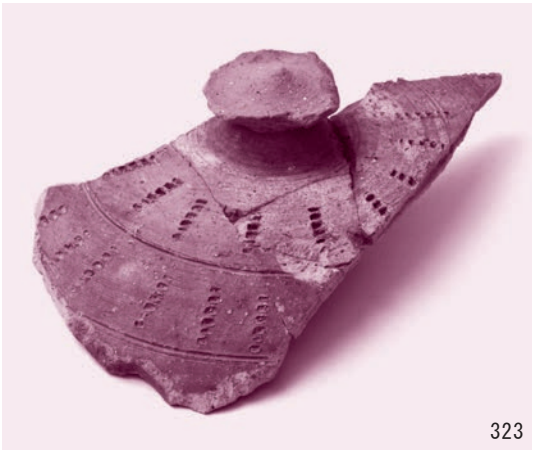
089 落ち込み出土土器

130 落ち込み出土土器

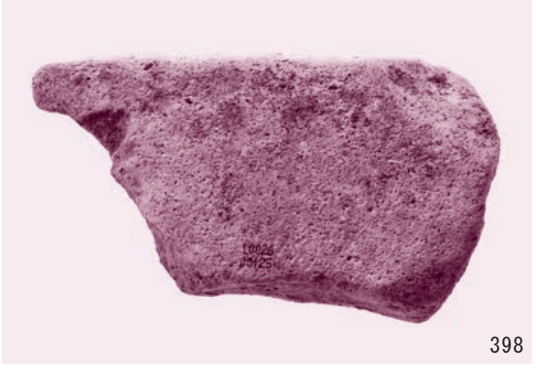


016 流路上層出土土器

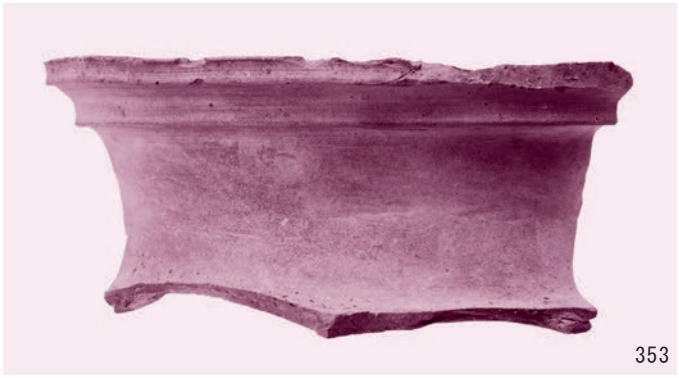
345


323

407


398

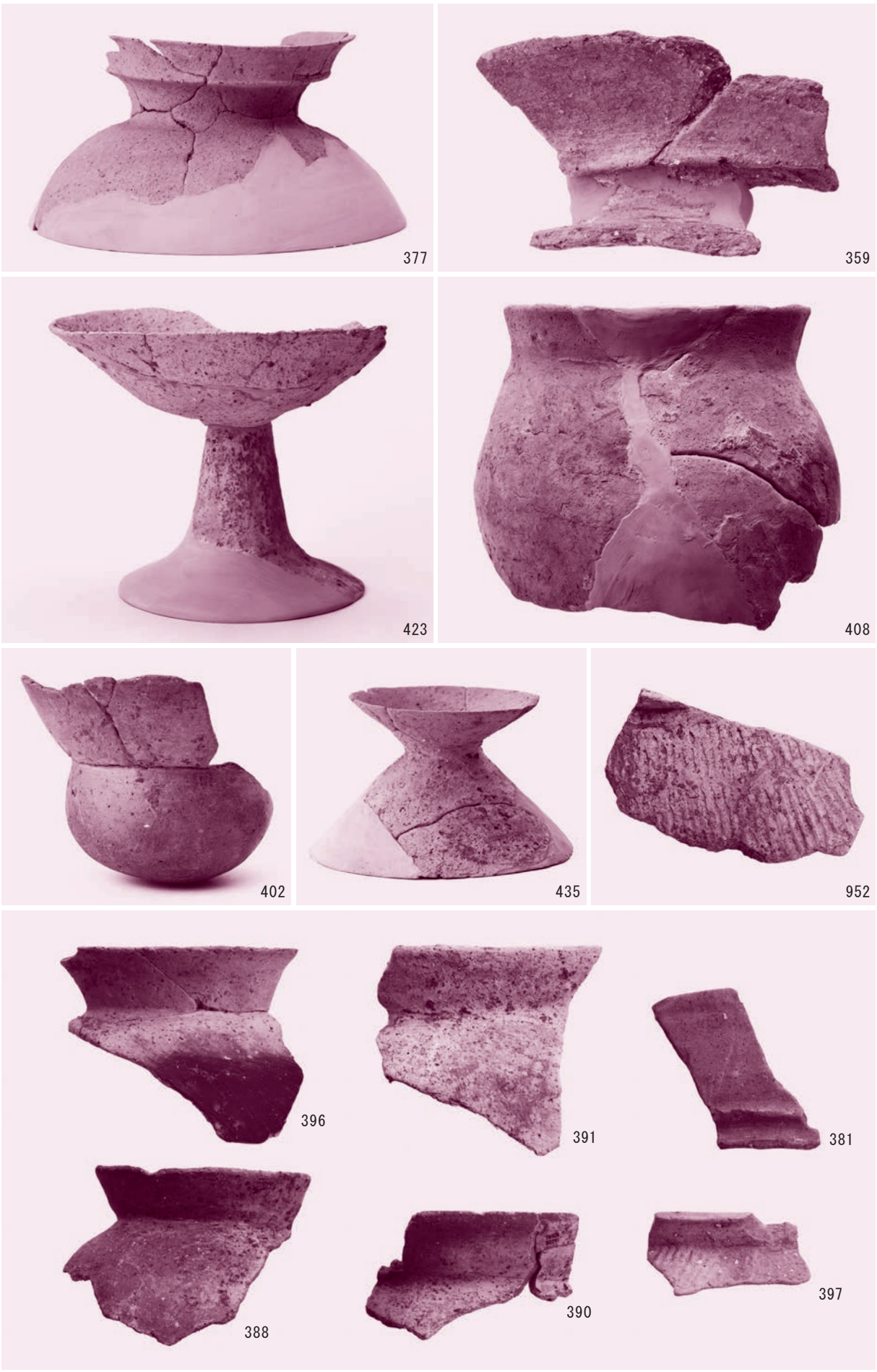
338


353

355

375

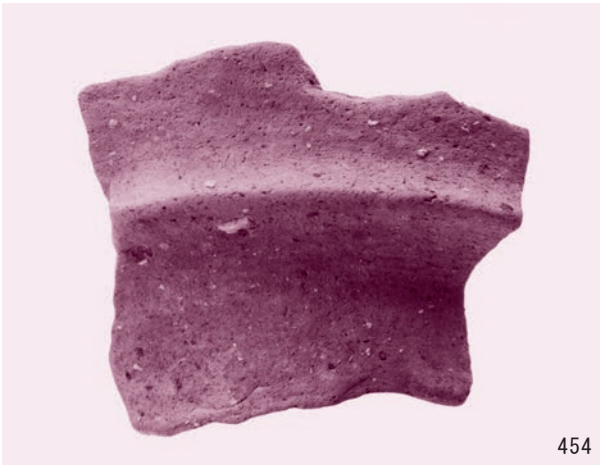
016 流路上層出土土器

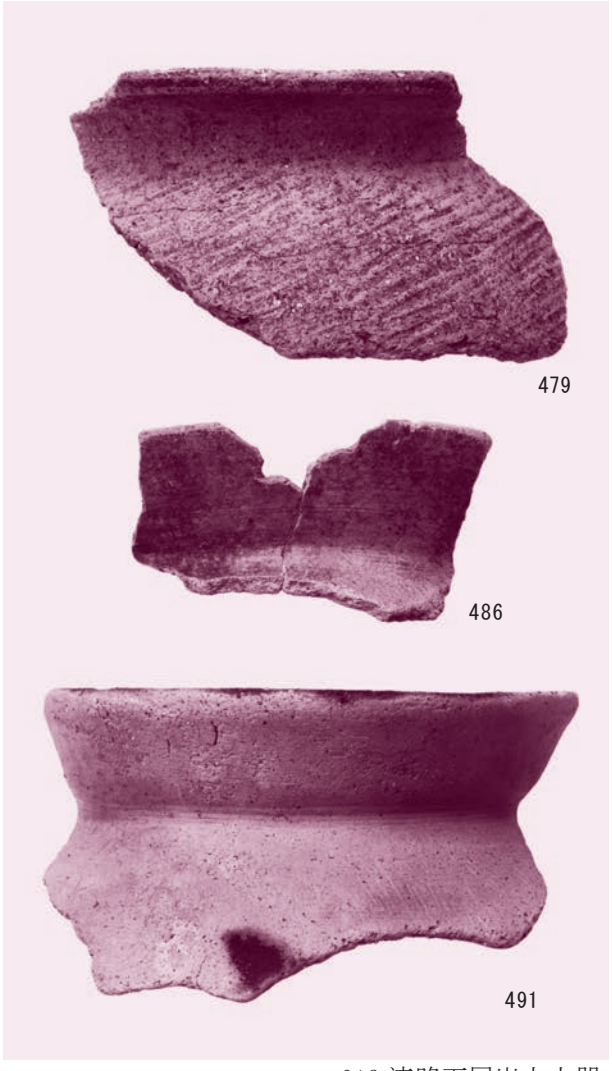


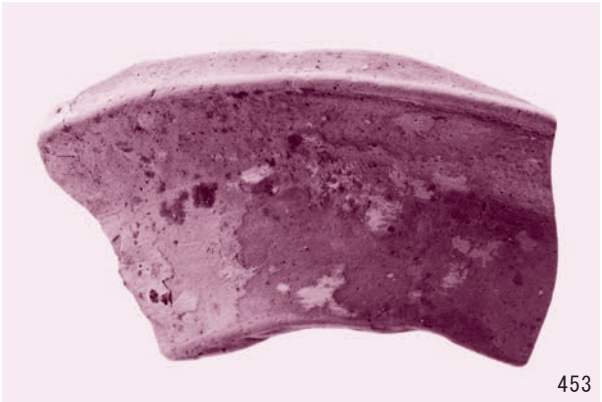
016 流路上層出土土器

466

467


454


479
486
491


453

556

016 流路下層出土土器

474

505

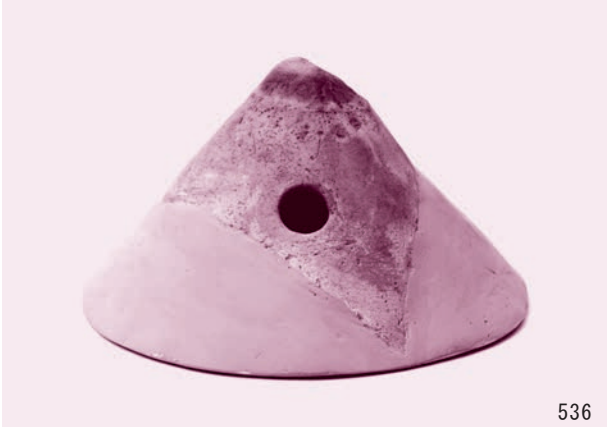
562

564

565

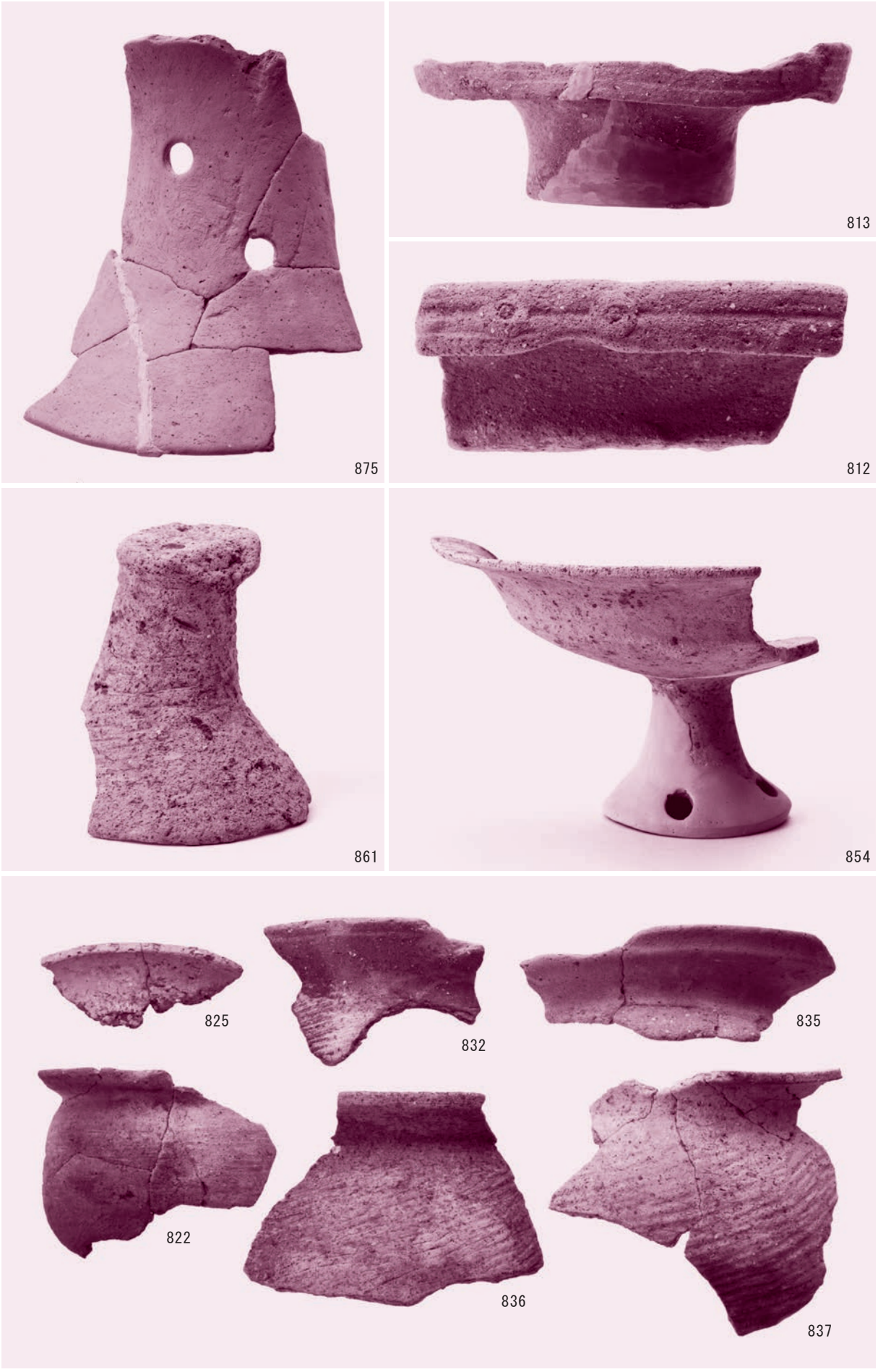
546

541


536

539

016 流路下層出土土器



414 流路出土土器

821

820

876

414 流路出土土器

883

885

529 流路出土土器

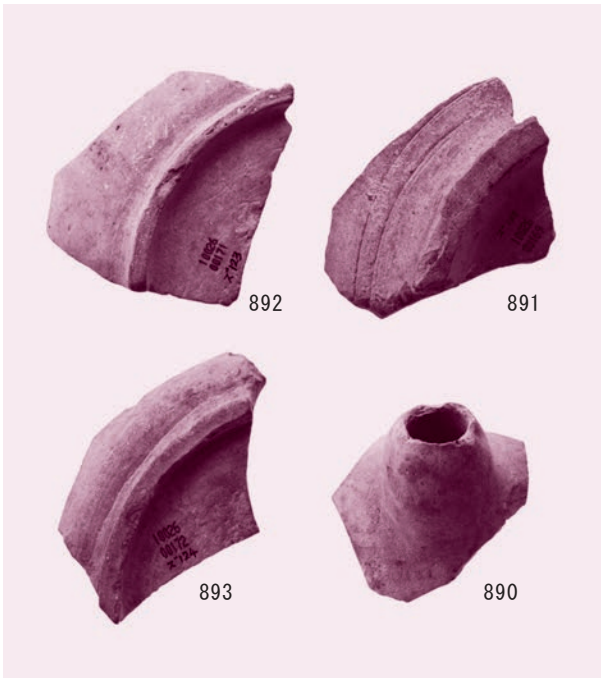
888

889

536 流路出土土器

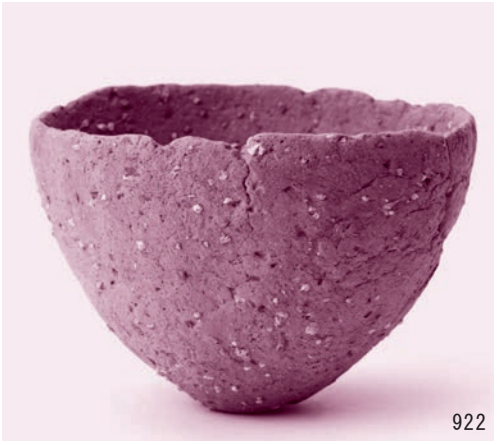
図版六二　流路出土土器（八）・包含層等出土土器（一）

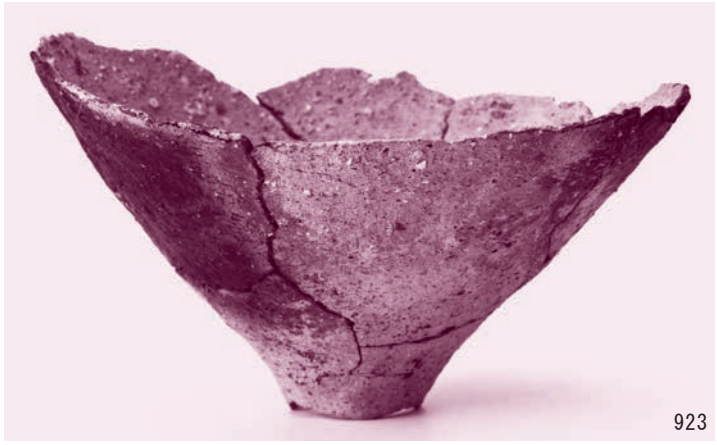
533 流路出土土器



第3層下半出土土器

包含層出土土器

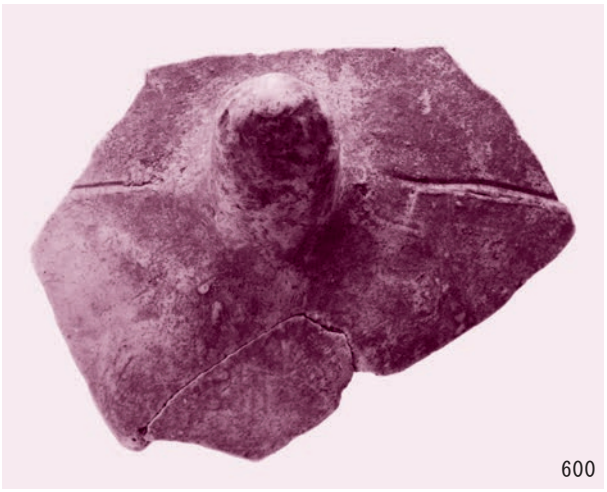

922


923

包含層出土土器

590

578


600

579

595

撹乱排水溝出土土器

報 告 書 抄 録

ふ り が な	てらだいせき3
書　　名	寺田遺跡Ⅲ
副　　題	府営和泉寺田住宅第3期建て替えに伴う発掘調査
シリーズ名	大阪府埋蔵文化財調査報告
シリーズ番号	2012-2
編 著 者 名	三好玄・パリノサーヴェイ株式会社・大澤正己・藁科哲男
編 集 機 関	大阪府教育委員会
所　在　地	〒540-8571 大阪府大阪市中央区大手前2丁目　TEL　06-6941-0351（代表）
発行年月日	平成25（2012）年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
てらだいせき 寺田遺跡	おおさかふ 大阪府 いずみし 和泉市 てらだちょう 寺田町	27219	131	34° 47′	135° 43′	平成22年8月24日 ～ 平成23年2月26日	1607 ㎡	記録保存調査

所収遺跡名	種　別	主な時代	主な遺構	主な遺物
寺田遺跡	集落跡 その他	弥生時代	流路	弥生土器
		古墳時代	竪穴建物・掘立柱建物・土坑・溝・落ち込み・流路ほか	土師器・須恵器・滑石製玉類・土錘　ほか

要　約	寺田遺跡は、平成14年度に発見された遺跡である。今回の調査区は、古墳時代集落の中心から縁辺にかけての地域を対象としており、調査の結果、多量の遺物が出土したことに加え、その集落構造が概ね明らかとなった。さらに下層の調査により、弥生時代後期以降の河川活動がこれらの景観を左右していることが判明した。

大阪府埋蔵文化財調査報告 2012-2

寺 田 遺 跡 Ⅲ

―府営和泉寺田住宅第３期建て替えに伴う発掘調査―

編集・発行　大阪府教育委員会

〒 540-8571　大阪府大阪市中央区大手前２丁目

TEL　06-6941-0351（代表）

発　行　日　平成 25（2013）年 3 月 31 日

印刷・製本　株式会社 中島弘文堂印刷所

〒 537-0002　大阪市東成区深江南 2 丁目 6 番 8 号